判所を云ふ

主簿（レジストラル）とに英倫、蘇爾土に於ては結合資本會社（ジョイントストックコンパニー）の簿冊を管掌する役員を云ひ愛爾土に於ては結合資本會社の主簿助役是なり

第二條　英國に於て此條例制定後に設立せし各會社或は將さに設立せんとする各會社は此條例制定後に於て人命保險事務の取扱を英國内に始むべきものにして二萬磅の抵當を上等裁判所の會計頭に納むることを要すべし以て裁判所の管轄に置れたる資本の元入として裁判所に依つて常に諸せられたる安全の一として會計頭より免許を得る爲めにす此の保險會社は格別の安全を擧らび其中より利金を受くべし而して主簿たるものは此抵當を領するに非らされば決して結社の認可狀を附與せざるべし會計頭は一たび抵當を徵すと雖とも若し會社の保險資本金能く保險料に依り增加して四萬磅に至る時は遽かに其抵當を會社に還附すべし

第四條　此條例の制定以後に設立せられたる會社にして人命保險外の事務を取扱ふ時に於て分離賬目は會社の人命保險及ひ年俸の契約に關したる收單は之を有すべし而して右の收單は該會社の人命保險資本に繰入れ其分離資本と稱すべきものを成すべし而して此資本の人命保險證書及ひ其年俸所有者に充分なる安全を與ふべきこと猶ほ此資本が人命保險外の事務を取扱はさる會社に屬するが如くなるべし而して會社の契約即ち會社の事務は唯人命保險のみたる時に於て會社に向つて責任無き所の會社の契約に於て責任有らさるべし總て現今成立する所の會社に於て其保險證書所有者に對する義務外の義務に對して人命保險資本を免除することは該會社の法則に依つて此の如き免除既に成立るに非すんは此法制定以後に屬する契約にのみ限りて關係を有せしなるべし勿論當に此條は總て現今成立する會社に依て成されたる契約に適當せさるべし何となれば此等の會社は其規程條目に依り總て其の事務より生する全益は之を其人命保險證書所有者に專ら拂はるるものにして且つ其の契約面に於て被保險者の責任を判然明記するを以なり

第五條　此條例制定以後に於て各會社は其の會計年度の末に於て其年の歲入計算簿を備ふへし而して此條例の第一第二表目中に各附する雛形に依て此年の末に出納平均簿を備ふへきなり

第六條　各會社は協議して人命保險證書或は年俸を附與し他種の保險事務を取扱ふ然る時會社は前に辯論せし如く會計年度の末に於て其年の會社の歲入計算簿を備へ且つ此法の第三第四の表目に附する雛形に從ひ其年の末に於て出納平均簿を備ふへし

第七條　各會社は其設立若し此條例の制定以後に在れは五年毎に一回もし其設立此條例の制定以前にあらは十年毎に一回、もし又會社を組織する所の規則に依り此より短き年限に於て一回宛書吏（レジストラル）をして會計條規を檢査せしめ且つ此條例の第五表目に揭出したる雛形に從ひ書吏の上申の要略を作らしむへし

第八條　各會社は一千八百七十二年十二月三十一日或は其前會社の會計條規に前言せし如き各檢査の期限後九ケ月以内に於て此條例の第六表目に附する雛形に隨ひ人命保險及年俸事務の簿冊を備ふへし即ち右の檢査の期限に於て仕上らる可き簿冊は此條例の制定前後に之を備ふへきなり

（甲）或會社に於て此條例の制定後久きの會計檢査一千八百七十三年間に卒るときは會社の右簿冊は一千八百七十二年十二月三十一日或は其前に之を仕上けすして檢査の期限後九ケ月以内に用意すへし

（乙）若し此の如き檢査は會社に依つて年々之を成すとき會社は簿冊を備ふへきこと猶ほ少くとも毎三年に一回之を備へ得へきか如し此條に於各檢査期限と稱する語の義は各會社の計算を各檢査の爲め仕上けらるへき期限を云ふ

第九條　商務局（ボールトフトレード）は會社の請願もしくは其の同意に因り會社の事情に適用し或は此條例の目的をして善く行はれしめんが爲めに此條例の表目に含包する所の雛形を改良することを得べし

第十條　此より前に編成を要求せらるゝ各簿冊要略は會社の社長二名の理事者人命保險事務を掌る重立たる役員及ひ會社に於て事務取掛人あるときは其取掛人に依つて調印せられ而して後之を出版せらるべし而して此の如くに調印せられたる原稿は三枚の印刷したる寫と共に之を商務局に交付すること原稿の用意せらる可き期限として前以て記載せられたる日限より九ケ月以内に於てすべし而して次の檢査後に斯の如く交付せられたる各年簿冊は第七條に因つて編成すべく請求せらるゝ要略の出版したる寫と共に交付せらるべし

第十一條　右の如く交付せられたる簿冊要略もしくは此條例に因て出版を要求する他の揭物寫は會社の各株式所有者保險證書の所有者へ望みに任せ會社より之を郵送すべし

第十二條　一千八百六十二年制定の會社條例に謄錄せられす又一千八百四十五年制定の會社條例議決法の第十條なる會社の記中に入らさりし所の各會社は此の條の條目に準し株主姓名簿を保有すべし而して會社の各株式所有者及ひ保險證書所有者へ其望に任かせ此の簿書の寫を附與すべし但し其寫字料は百字每に六邊士を拂ふべきものとす

第十三條　一千八百六十二年制定の會社條例に謄記せられさる各會社は出版すべき會社の簿書の寫は充分の部數を作り而して會社の各株式所有者及ひ保險證書所有者に望次第之を附與すべし但し二志六邊より多からさる筆寫料を申受くべし

第十四條　二個以上の會社を合併せんことを企てもしくは甲會社の人命保險事務を乙會社に遷さんと謀る時會社の理事者は其申出たる次第の准許を願書にて裁判所に請求することを得べし又之を新聞紙に公告することを得へし而して理事者及ひ其佗願書を閱届けらるゝ可しと看做す者を聞きし後裁判所は此次第に異議無きこと結聚ならは之を確定することを得べし

此の如き請求の裁判所に成さるゝ前に於て會社の合併事務遷調の性質の簿冊は之を仕遂け可き契約にする實事を含む所の要略及び此の如き契約の基く實事其他上申の寫と共に合併の時に於ては兩會社の各保險證書所有者に之を寄送せらるべし遷調の時に於ては遷調したる會社の各保險證書所有者に之を寄送すべし而して之を寄送するに於ては自ら用立つべく要求せられざる告白の株主に傳送するに一千八百四十五年の會社條例決議法（コンパニークラウスコンソリディレションアクト）の百三十六款に載せられたる仕方に因るべし而して此の如き合併遷調の遂けらるへき契約は保險證書所有者及び株主の監察の爲めに開陳せらるべし且つ又其中に載せたる要略の發行後十五日間に會社の一局もしくは數局に於てせらる可きなり

裁判所は合併遷調を許さゞる場合あり卽ち合併を申出したる會社に於て若くは事務の遷調を申出したる會社に於て若くは事務の遷調を申出す所の會社に於て保險金高十分一或は十分一以上を顯はす保險證書所有者此の如き合併遷調に異議あること裁判所に發露する時是なり

一の會社もし此款に從つて裁判所より此の如き合併遷調を確定せらるゝに非すんば他會社と合併せざるべし又其の事務を他會社に遷調せさる可し則はち此款が或場合に適せさる時に限り此の如くなるべし或場合とは合併遷調せらるへく求むる所の會社の事務は人命保險の事務を含まさる時を云ふ

第十五條　合併が會社と會社との間に起る時もしくは甲の會社の事務が乙の會社に遷調せらる時に於て合併せられたる會社もしくは買ふ所の會社は合併遷調の滿成の時より十日以内に商務局に依つて此の如き合併遷調に關したる會社の出入計算帳の確實なる寫を交付すべし而して之と共に此の如き合併遷調の性質もしくは約束、而して此の如き合併遷調が遂らるべき契約の確實なる寫、而して此の如き契約か基く所の實際もしくは其他上申の確實なる寫を以てす可し合併遷調の簿冊契約書は各會社の社長事務取掛の重役に依つて通知せらるへし而して合併遷調の場合に於て或人に成され或は成さるへき拂は各充分に之を盡す可し

此の拂より外の拂は遷調合併の仲間に依て金錢保險證書契約、貴重なる抵當及其佗財產に於ては之を爲されしこと無く又之を爲さるへきこと無きものなり

第十六條　商務（ボールトフトレード）局は此條例に依て要せらるゝ出版したる書付もしくは其他の書付等確實なる寫を協同（カウトストラクコンパニー）委本會社の主簿其他商務局の役員に保存の事を指揮するを得べし而して或人は商務局の指揮し得る如く此の如き金子の拂に於て其局に同し物を監督するを得へく且つ又其寫を得べし

第十七條　此條例に從ひ商務局協同委本會社の主簿に依て交付せられたる各簿冊要略其他書付は爭ふへからさるものとして請取らるゝ可し而して各書付は此の如く交付されたる書付なる可き爲めに商務局の書記官副書記官も

しくは右の主簿に依つて確定することを要す且つ此の如く交付せられたる書付の寫たるべく且一に確定することを欲するものにして商務局主簿の監察より成出する時は前言せし如く交付せられたる書付もしくは其寫たるべく思惟せらるへく而して書付の寫と原稿との間に於て變異なければ此寫を受取ること原稿に於けるか如く確實なるものなる可し

第十八條　此條例に對し過失を爲す各會社は其過失の繼續する間毎日五十磅より多からさる罰金を科せらる可し而して若し過失は商務局によつて過失の告知即ち商務局の命する一二の新聞紙上に於て公告せらるへき過失の告知後三ケ月繼續せば裁判所は一名以上の保險證書所有者若しくは株主請求に於て一千八百六十二年の會社條例に從ひ會社の營業停止を命することを得べし

第十九條　此條例に因り請求せられたる簿冊要略其他書付は之れに調印したる者故意を以て失錯する時は裁判所に於て證跡發覺の上罰金と禁獄とを申付られもしくは簡易なる處刑法に依て五十磅より多からさる罰金を科せらるべし

第二十條　此の條例に因て課せられたる罰金は各一千八百六十二年會社條例に因て課せられたる罰金と同樣なる方法を以て處分せらる可し

第二十一條　裁判所は會社の倒行（ハラヒノデキヌコト）を充分に認たる時一名以上の保險證券所有者もしくは株主の請求に於て一千八百六十二年の會社條例に從つて會社の營業停止を命することを得べし裁判所は會社の倒行と不倒行を確定せん爲めに會社の保險證書年俸其他の契約に於て其の責任を盡し得べきや否を詮議すべし然りと雖とも裁判所は裁判官の至當と看做すへき金高の安全を與られ裁判官が一應之を見て條理ありとするに至る迄は會社の請願を聽届けさる可し而して苟も會社が計算せる負債の金高に均しき實際に元入したる資產を成す可く會社に依て受取らるべき將來の保險料と明言せられさる資本の充分なる金高を有する株式所有（プロプライトレイ）會社（コンパニー）の場合に於て裁判所は明言せられざる資本もしくは其充分なる部分を適用すへき至當の時限中は款願を聽届けさるべし而して此の營業停止は裁判所の意見に從ひ其時日を伸縮することあるべし苟も此營業停止の終に於て負債に均しき金高は既に元入したる資產と呼做すに因り確實なるものとせられさるときは則はち裁判所の命令は會社か恰も其倒行を證せしか如きの振合を以て其款願を處分すべし

第二十二條　裁判所は會社の倒行を證明せし場合に於て至當と考へたらんには會社の營業停止の命を下す時に當り裁判所の至當と思惟するか如き約條に會社の契約高を減少し且つ然る可き約束に從はしむることを得べし

第二十三條　此條例に依て保險證書所有者に送附すべき報告は通常之を送る可き人に名當して寄送するを得べし而して此の如く名當して寄せられたる報告は保險證書の所有者の之を熟知す可きものとす

第二十四條　商務局は年々此條例に從ひ交付せられたる前一年間の簿冊及要略を議院に進呈す可きなり

第二十五條　此條例は第四世ジョージ王の二十四章第十條、第四世維廉（ウイルリヤム）王の十四章第三及四條ヴイクトリヤ皇の四十五章第十六及十七條ヴイクトリヤ皇の四十三章第二十七及二十八條に照して各々授與せられたる權を以て事務を執行する國債減却委員及び驛遞長に關せざるべし

### 第一表

何年何月より何月に至る收入計算

一何磅、何志、何邊・　歲首の資本高
一、、　、、　、、　保險料
一、、　、、　、、　拂出したる年俸の價額
一、、　、、　、、　利益及配當金
一、、　、、　、、　他の收入金
合計、、　、、　、、
一何磅、何志、何邊、　保險證書に於ての要求
一、、　、、　、、　交付金（ワタシ）
一、、　、、　、、　年俸
一、、　、、　、、　報酬金
一、、　、、　、、　取扱入費
一、、　、、　、、　株主に配當金及利息



一、、　、、　、、　他の拂金
一、、　、、　、、　第二表に付き歲末に於ての資本金高
合計、、　、、　、、

備考　第一保險會社は別途記載に於て年報事務の特別なるものを報せん爲め年俸に付別に計算有り

備考　第二此表及び第三第四の表に於ての箇條は再度の保險に關して請け拂ひしたる金高を引去りたる後の精算たる可し

### 第二表

負債の部

一何磅、何志、何邊　拂濟の株主資本金
一、、　、、　、、　保險の資本
一、、　、、　、、　年俸の資本
一、、　、、　、、　詳記せらるへき他の資本
一、、　、、　、、　第一及に付資本金
一、、　、、　、、　要求を許容して未た拂はさる金高
一、、　、、　、、　會社の負擔に屬する他の金高
合計、、　、、　、、

資產の部

一何磅、何志、何邊、　英國内に在る財產の抵當書入
一、、　、、　、、　英國外に在る財產の抵當書入
一、、　、、　、、　會社の保險證書に於て借金
一、、　、、　、、　元入卽ち
　英國政府の抵當
　印土及殖民政府の抵當
　外國政府の抵當
　鐵道其他の借用證文及借用證文の資本
　鐵道の株式
　家財
　他の元入
　動產に於ての借物
　拂はさる保險料
　同利息
現有金　抵當に於て手元及融通の計算
他の資金
合計、、　、、　、、

備考　此等の條款は第一表に符合する條款中に包含す

### 第三表

何年何月より何月に至る收入計算

（第一）人命保險の計算

一何磅、何志、何邊　歲首に於ての人命保險の資本金高
一、、　、、　、、　再度の保險料を減少したる後の保險料
一、、　、、　、、　拂出したる年俸の價額
一、、　、、　、、　利益及配分金
一、、　、、　、、　他の收入
合計、、　、、　、、
一何磅、何志、何邊、　再度保險したる金高を減少したる後人命保險證書に於ての要求
一、、　、、　、、　交付金（ワタシ）
一、、　、、　、、　年俸
一、、　、、　、、　報酬金
一、、　、、　、、　事務取扱入費
一、、　、、　、、　他の拂金
一、、　、、　、、　第四表に付歲末に於て人命保險資本の金高
合計、、　、、　、、

備考　保險會社は別途の記載に於て年俸事務の特別なるものを報せん爲め年俸に付別に計算書有り

### 第三表の（續き）

何年何月より何月に至る收入の計算

（第二）火災保險の計算

一何磅、何志、何邊、　歲首に於て火災保險資本の金高

| | | |
|---|---|---|
| 一、、、、、、 | 再度の保険料を減少したる後受取りたる保険料 | |
| 一、、、、、、 | 詳記すへき他の収入 | |
| 合計　、、、、 | | |
| 一何磅、何志、何逸、 | 再度の保険料を減少したる後火災保険に由て損失 | |
| 一、、、、、、 | 事務取扱入費 | |
| 一、、、、、、 | 報酬金 | |
| 一、、、、、、 | 詳記すへき他の拂金 | |
| 一、、、、、、 | 第四表に付き歳末に於て火災保険資本の金高 | |
| 合計　、、、、 | | |
| 備考　海上もしくは他種の事務を取扱ふときは兵収入及入費を別途計算に於て同一の方法に記載す | | |

第三表の（續き）

何年何月より何月に至る収入計算

（第三）利益及損失の計算

| | | |
|---|---|---|
| 一何磅、何志、何逸、 | 前年計算の繰越高 | |
| 一、、、、、、 | 他の計算中に算計せさる利益及配分金 | |
| 一、、、、、、 | 確實なる利益 | |
| 一、、、、、、 | 他の収入 | |
| 合計　、、、、 | | |
| 一何磅、何志、何逸、 | 株主に配當金及利息 | |
| 一、、、、、、 | 他の計算中に計算せさる入費 | |
| 一、、、、、、 | 確實なる損失 | |
| 一、、、、、、 | 他の拂金 | |
| 一、、、、、、 | 第四表に付出入差引 | |
| 合計　、、、、 | | |
| 備考　此計算は若し此條款か此表外の計算中に混和したりしときは不用 | | |

第四表

出入差引

負債の部

| | |
|---|---|
| 一何磅、何志、何逸、 | 株主の資本 |
| 一、、、、、、 | 一般の貯蓄資本 |
| 一、、、、、、 | 人命保険の資本 |
| 一、、、、、、 | 年俸の資本 |
| 一、、、、、、 | 火災保険の資本 |
| 一、、、、、、 | 海上保険の資本 |
| 一、、、、、、 | 利益及損失 |
| 一、、、、、、 | 許容して未た拂はさる人命保険證書に於ての要求 |
| 一、、、、、、 | 拂はさる火災保険の損失 |
| 一、、、、、、 | 拂はさる海上保険の損失 |
| 一、、、、、、 | 保険會社の負擔すへき他の資本 |
| 合計　、、、、 | |

資産の部

| | |
|---|---|
| 一何磅、何志、何逸 | 英國内に在る財産の抵當書入 |
| 一、、、、、、 | 英國外に在る財産同上 |
| 一、、、、、、 | 會社の保険證書に於て借金 |
| 一、、、、、、 | 元入即ち |
| | 英國政府の抵當 |
| | 印土及殖民政府の抵當 |
| | 外國政府の抵當 |
| | 鐵道及借用證文及借用證文の資本 |
| | 鐵道株式 |
| | 家財 |
| | 他の元入 |
| | 動産に於ての借物 |
| | 拂はさる利息 |



| | | |
|---|---|---|
| 一、、、、、、 | 現有金 | 抵當に於て手元及融通の計算 |
| 合計　、、、 | 他の資産 | |

備考　人命保険の資本もし此法の四歳と符合するときは人命保険證書の所有者の安全に向つて確實なる別途資本又た人命保険の部に向つて別途計算差引は第四表に包括したる式様に於て知ることを得る可し両して他の關係に於て保険會社は右の式様を注意すへきものとす

## （四十九）人命保険會社條例（一千八百七十年）の改正

一千八百七十年の人命保険會社條例を改正すへき條例

一千八百七十年の人命保険會社條例の第三歳に據れは時宜に依つて若干の金高を條例中に揭出する方法を以て上等裁判所の會計頭に抵當として元入し而して之を還附せらるゝことを要す此の如き金高の抵當元入及ひ還附に關しては更に遠慮ある箇條を作爲するを以て便利且つ至當なりとす此條例は女王陛下の聖旨と上院下院の協議一致と及ひ其の權威とに由つて制定を冀望すへきものにして其の條目左の如し

第一條　一千八百七十年の人命保険會社條例に依つて上等裁判所の會計頭に抵當として納む可き各金高は之を上等裁判所に拂ふ可し而して裁判所へ此の如き金高を拂込及ひ裁判所より之を拂出と其の元入及ひ還附と其の配當金に係る順序は裁判所に此の如き金高の拂込と其の拂出と其金圓の元入及ひ配當金利益金の處分に關する順序と同一なる權威と同一なる方法とに依つて時々之を作爲し之を變革し又之を廢止することを得へし

第二條　一千八百七十年の人命保険會社條例の第二十五款は恰も二十四章なる詞の上に記載したる如く條例制定の時より第四十一章の場所に於て其中に揭められしか如く組立てらる可し而して女王陛下の出板人は此の條例の制定後出板せらる可き所の人命保険會社條例の謄寫に於て一千八百七十年に頒布せられたる右の人命保険會社條例の第二十五歳に於ける四十一章なる詞の場所に二十四章なる詞を嵌入したるものなる可し

第三條　此條例は一千八百七十年の人命保険會社條例と同一なるものとして組立らる可し而して彼の條例と此の條例とは一千八百七十年及ひ一千八百七十一年の人命保険會社條例として共に引證せらる可し且又此の條例は只一千八百七十一年の人命保険會社條例として引證せらるゝことを得へし

## （五十）人命保険會社條例の改正

一千八百七十年及ひ一千八百七十二年の人命保険會社條例を改正すへき條例

此の條例は女王陛下の聖旨と上院下院の協議一致と其の權威とに依つて其の設立を冀望すへきものにして其條目左の如し

第一條　一千八百七十年及ひ一千八百七十一年の人命保険會社の條例に據れば人命保険會社は抵當の方法を以て上等裁判所に若干の金高を納むへきものとす而して苟も此の如き抵當を爲すに非らすんば此の會社の入社證書は裁判所より敢て之を發行せさる可し而して此の如き抵當は會社の人命保険資本が能く條例中に記載したる金高に登る時は則はち速かに之を會社に還附す可し

右の抵當は會社に還附せらるゝ迄は會社の人命保険資本の部分を爲すものと見做す可し故に右の抵當は又た一千八百七十年の人命保険會社條例の四歳の箇條に屬す可し

商務局は右抵當の拂及ひ拂戻抵當の元入資本の抵當及ひ利息の拂卽はち此の如き元入資本に因つて時々出す可き配當金の拂等に關係したる諸規則は總て之を作爲、廢止、變更、及ひ增加することを得へし○此の歳に從つて作爲したる諸規則は此の條例に因つて取設けたると同一の效ある可し而して此の規則は議院の開院中に於ては此の規則の作爲後三週間以内之を議院に呈送すへし然れとも議院の閉會なるに於ては次會の起りたる後三週間以

内に之を議院に呈出す可きなり

第二條　一千八百七十年の人命保險會社條例の四款に據れは則ち此の條例制定以後に設立したる會社にして人命保險外の事務を取扱ふことあり此の如きの場合に於て該社の人命保險及ひ年俸の約束に關係したる諸般の收入は別途計算と爲す可し而して右の諸收入は會社の別途資本に組み入れ以て其人命保險の資本と稱す可きなり此の如き資本は其の人命保險證書及ひ其の年俸の所有者に充分なる安全を與へ可きこと猶ほ人命保險の事務のみを取扱ふ會社に於けるか如し而して此の資本は苟も人命保險の事務に關渉せさる會社の其他約束に向つては敢て毫厘も其の責任あらさる可し而して右に陳述したる款中の一部分を現存する所の會社に適用することに關し同款に因つて更らに多數の箇條を作爲せらる而して右箇條の設立に就き少しく疑團を生することを免かれす此の疑團を釋然氷解せしむるは宜しく理勢の然るべき所なりとす、故に上章に論出したる一千八百七十年の人命保險會社條例の四款の部は彼の條例の制定以前に於て設立したる各會社に適用すへきことを冀望せんとす但し右の如くなるときは一千八百七十年の人命保險會社條例及ひ此の條例は一千八百七十年の人命保險會社條例の制定以前に取結ひたる保險會社の約束に對し人命保險資本の責任を減殺せさるものとす可し

第三條　一千八百七十年の人命保險會社條例の十款に據れは豫かしめ約定す可きことあり即はち次きの吟味後に委托したる年々の記簿は七款に因つて爲す可きものと定めたる要略を印刷したる寫本と共にす可し是故に次きの吟味なる文字は右條例の制定以後に於て初度の吟味と云ふ意義たる可く之を設立せられんことを冀望す可し

商務局は會社より委托せらるゝ上申の記簿要略及ひ一千八百七十年の人命保險會社條例に從つて做すべき要件を議事院に呈す可きなり

商務局は假令ひ此の記簿要略は其の條例に由つて預かしめ備らる可く要する記簿要略には非らすとの意見あるにもせよ敢て此等の事に干渉すへき理由無きものたる可し

第四條　右條例制定の前後を問はす人命保險會社の事務もしくは其の一部分は之を或整頓に於て他の會社に遷調せられたり而して此の整頓に就き支社（此の條例に於て支社と稱するもの）或は其の債主は此の如き事務の遷調を取扱ひたる本社（此の條例に於て本社と稱するもの）に對して之れを要求するものとす然らは則ち此條例制定の日に於て或は其後に於て此の如き本社はもし裁判所の監察に由つて貸借淸算を施行せらるゝ時裁判所は支社に命して本社と連合し貸借淸算を做さしむ可し而して此の命令に依るか或は其後の命令に依つて同一なる人に命し兩社の還債者たらしむることを得へし而して兩社は恰も一社たりしが如く貸借淸算する所の會社に就て裁判所に必用と見ゆへき他の事件に向つて用意することを得へし而して本社の貸借淸算の始めは則ち支社の貸借淸算の始めたる可し然らすして裁判所に依つて命せらるゝ時は之を取除きとす然りと雖とも裁判所は數個の會社の社員の權利責任を齊整することに於て此の如き會社の法規と右會社の間に入りたる排整に注意せしなるへし其の方法は猶ほ裁判所が單一なる會社の貸借淸算の場合に於て分配の異種の權利責任に注意するものと同一なり

支社は其扶助する所の本社と同時に於て其貸借淸算を做さゝる時裁判所はもし支社の貸借淸算するに對して急迫せらるゝ諸般の異說を聽きし後に於て裁判所は此の如き支社は本社に扶助せられ而して本社と連合して此の如き貸借淸算は公平無私たるを認むるに非らすんは支社を指揮して其の貸借淸算を做せしめす

支社及本社は裁判所の支廳に依つて貸借淸算を命せらるゝ時此の如き支廳より議言を出訴する裁判所は此の如き會社の貸借淸算の遂けらるへく支廳に於て指應する所の命令を做す可し而して緊要なる方法は成效に此の如き命令を遂ることに向つて做さる可し

請求の事は此の如き本社或は支社の債主に依り或は該社に關する人に依て本社と連合して支社の貸借淸算を做すことに關して做さるゝことを得へし

會社か一社に本社の關係に立ち及ひ他の會社に支社の關係に立つ時もしくは一の本社に支社の關係に立つ數個の支社ある時に於て裁判所は此の款に定められたる旨義に於て尤も便利と思惟するか如く共に此の如き會社の某數を取扱ふことを得へし



第五條　裁判所に依るか其の鑒察に從ふか又は隨意にて人命保險會社の貸借淸算せらるゝ時此の如き貸借淸算に於て價を定む可き各人命保險の年俸及ひ其證書の價は此の條例に屬する第一附錄に備へたる方法を以て計算す可し然れとも此の款は此の條例の制定前に貸借淸算の始まりし所の會社に適合せさる可し但し裁判所は之を以て此の如き會社の貸借淸算に利する者の款項に於て之を然る可しと裁判所の思惟する時は之れを作す可きことを命令すべく裁判所が貸借淸算を承認すること無きに非らすんは前の如くなる可からさるものとす

第六條　此の條例に隨する第一附錄及ひ第二附錄中に在る規則は一千八百六十二年の會社條例の第百七十款及ひ第百七十三款に因つて作爲せられたる規則たるか如き同一の權力を有し右款に因つて備へられたる方法に從つて變更せらるべし而して此の規則は會社の貸借淸算に關係して此の款を決行する目的を以て右款に依り作爲せらるゝことを得べし

第七條　會社は此條例制定の前後を問はす其の事務を他の會社に遷調するか或は他の會社と合併せし時に於て保險證書に附添ひたる保險料を本社に拂ふ可き所の支社に於ての保險證書所有者は此の條例の制定後に做されたる此の如き拂ひの譯に依るか或は此條例の制定に成されたる他の條例の譯に依て要求を拋棄せしことと思惟せられさるへし此の要求は即ち保險證書所有者か此の如き會社の保險料の適當なる拂に於て支社に對して之を有せんことを欲し或は其の代りに本社の責任を承認せんことを欲するものとす而して苟も如此の拋棄承認は其の保險證書所有者か或は其の代理人にして法律上に於て權を有する者に依つて記されたる書面を以て證したるに非らすんは亦た此の如くなることを得さるへし

第八條　此の條例は一千八百七十年及ひ一千八百七十一年の人命保險會社條例と同一なるものとして制定す可し而して彼の條例と此の條例とは一千八百七十年より一千八百七十一年迄の人命保險會社條例と共に引用せらるゝことを得へく而して此條例は獨り又た一千八百七十二年の人命保險會社條例として之を引用することを得へきものなり

## 第一記

### 年俸の價額を定むる規則

年俸は之を許す時に於て其約束を認可したる會社に依つて慣用せられたる諸表に從ひ以て其價額を定むへし而して此の諸表は裁判所の認可を得ること能はさるか若しくは之れに合すること能はさる時は則ち政府の年俸實驗表として熟知せられたる表に從ひ以て價額を定む可し然る時は年利四分の割合にて之を計算すへきものとす

### 保險證書の價額を定むる規則

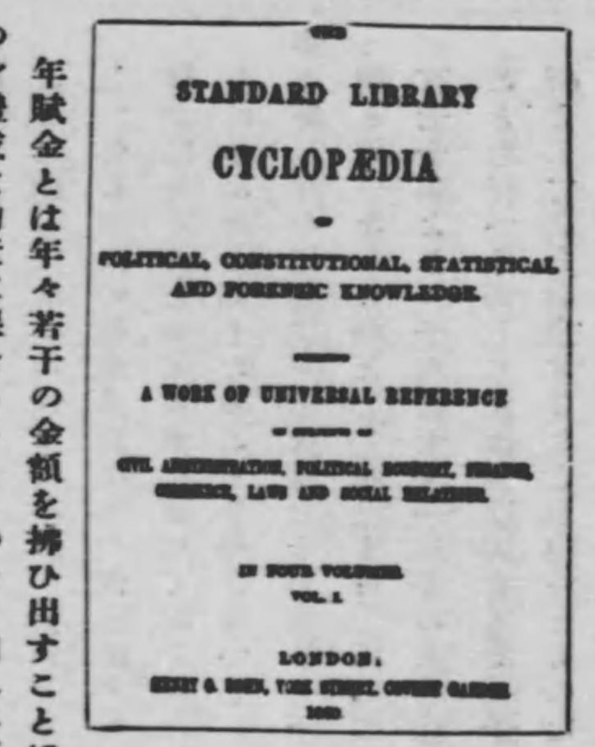
保險證書の價は會社の貸借淸算の初めに先ちたる配當利益金を除き死亡の時に向つて保險せられたる若干の金高に拂戻さる可き財產に屬する權利の現價と向後年々拂ふへき保險料の現價との間の差たるへし

此の如き現價を計算するに利息の割合は乃ち年利四分たるへし而して死者に繋る割合は則ち十七社實驗表として世に熟知せられたる表の割合たる可し

○計算す可き保險料は右利息の割合に準したる保險料たるへし死者に繋る割合は保險證書を發行する局に依つて其の危難を豫防するに於て充分なりとす但し會社の費用等異常の增加ある時は別格の事たる可し

## 第二記

裁判所に依りもしくは其の鑑察に從ひ保險會社の貸借淸算を施行する時に當り評價役員は保險會社の簿書に依つて人命保險賜金年俸其他拂金を會社より與ふ可しと約したる保險證書に權利を有する者と明記せられたる諸人の爲めに其の保險證書の價額を定め然して後之を報告すへし而して此の報告を領したる者もし其の價額に不服の箇條あるも裁判所の規則又は其の命令に依つて示されたる方法は其の時限内に申出すこと無くんは則はち敢て苦情を後日に申出つること無く唯評價役員の定むる價額に順從すへきものとす


THE
STANDARD LIBRARY
CYCLOPÆDIA
OF
POLITICAL, CONSTITUTIONAL, STATISTICAL AND FORENSIC KNOWLEDGE.
A WORK OF UNIVERSAL REFERENCE
CIVIL ADMINISTRATION, POLITICAL ECONOMY, FINANCE, COMMERCE, LAWS AND SOCIAL RELATIONS.
IN FOUR VOLUMES.
VOL. I.
LONDON:
HENRY G. BOHN, YORK STREET, COVENT GARDEN.

# 年賦金

ANNUITY（アンニユーイチー）

（明治十五年十二月刊 東京經濟雜誌社編 泰西政事類典分冊第三巻より抄出）

年賦金とは年々若干の金額を拂ひ出すことにして此金額は之を拂ふへき人の身體或は動産に課せらるゝものなり倘し其不動産に之を課するときは年賦金に非すして地代（レント）たるなり（地代の項下を參觀すへし）又時を期せすして折節拂ふへき金額も同しく年賦金に非す年賦金なるものは某の定期に必す拂はさる可らさる者なり然れとも此等の期限は必すしも一年間に在るを要するに非す（或は毎季拂或は一般に行はるゝか如く）毎半季拂等と爲すを得へく加之毎二年或は毎三年或は毎二十年等に一回拂ふへき者と爲すを得へし

往昔羅馬人の中には遺物として年賦金を人に與ふるの慣例ありて此拂は相續人又は共同相續人の負擔する處なりき、されば或る良人か其妻の存命中毎年十金を之に拂ふへしと其相續人に命したる事尚ほ書史に傳はれり然るに其妻其良人に後れて死せしこと唯僅五年四箇月なりしか故に第六年目の年賦金は悉皆拂ふへき者なる乎或は四ケ月分のみを拂ふて可なる乎の疑問作れり此時モデスチナス氏は其年賦金は悉皆拂ふへき者たりとの意見を陳して終に之を拂はしめたりと云ふ又爰に或る相續人か毎年若干坪の地面を某人に使せしむるの義務を負ふたることあり然れとも是れ英國法律の所謂年賦金と毫も類似せるものにあらす英法の年賦金とは上文に記載するか如く時を定めて金を拂ふものなり中世に於ては一種の傭料として訟師、醫師等に往々年賦金を與ふることありしが輓近に在りては又金を借るの手段として頗る此方法に依顧せり而して其金を拂ふことを約する時は此人を稱して「グラントル」即ち年賦金仕拂人と云ひ其金を貸す處の人は此約束に由て其拂を受くるの權利あるを以て之を稱して「グランチー」即ち年賦金の受取人と云へり蓋此慣例は既に金を借るの便利を覺ふるも利息を收むるの一事は尚ほ法律を以て嚴禁したる時世に當り商業の復興と共に歐洲大陸に傳はりたりと見ゆ、其後第十五世紀に至り羅馬法王（ポープ）の決斷を以て此種の契約を一切合法の者と確定し且佛國に於ても貸付金より利子を收むるは尚ほ渾て高利を貪ぼるものと看做されたるに拘はらす亦同しく此を以て合法の者と承認したり其他伊太利の商業諸州は夙に此方法に藉て金を募收し爾來他國に於ても亦之れに傚ふて其國債を募りたり（國債の項下を參觀せよ）

年賦金には年限を定めたるものあり、或は終身の者あり、或は永世の者あり、而して其永世の場合に於ては縱令抵當物と爲すときは他の年賦金と同しく單に動産たるに過きすと雖とも尚ほ不動産と同しく之を子孫に傳ふるを得るか故に此の如き年賦金は無形の遺産中に算入せらるゝ者とす

貸附金を返辨せんか爲に與へられたる永世年賦金と利息と異なる處は他なし此年賦金の受取人は其貸附けたる元金を要求するの權理なく唯支拂人にして此年賦金の拂を繼續せんとするの間之を領受するを以て滿足せさるへからさるに在り」然れとも其性質よりして之を云ふときは此年賦金は仕拂人の意に隨て贖ふを得へきものなるか故に仕拂人は何時にても己れが借入れたる金額を償却して爾後年賦金の拂を免かるゝの權ある者とす然れとも（大抵此種の年賦金より成る所の我英國の國債を起すに當りて一般に契約せられたるか如く）此返償（レデムプション）若干年間興行せさるへしとの約束を仕拂人と受取人との間に結ふことを得へし佛國の現行律に於ては永世年賦金をして返償を得さらしむる年數を十箇年に制限せり（民法第千九百十一條）

終身若くは年限を定めたる年賦金は之と同一ならず其返償の期限は全く此年賦金の約條を取結びたる双方の承諾に基くなり或は後日に至り双方の承諾を以て之を反償すへきものと爲すことあり或は約條に詐僞あるか若くは約束の不當なるか如き渾て公正の處分を要するの場合に於ては情理裁判所（コールト、オフ、エクイチー）より之か返償を命することあり」抑々此類の年賦金を以て貸付金を返濟するに於ては其年々の仕拂は即ち二種の部分より成るものと認むるを得へし即ち



一は利息の性質を帶ふる者一は該年賦金の終るに及んて元金の全額悉皆拂濟となるか如く初より計算したる元金中の一部是なり」蓋し財產不裕の人は一時に其元金を返償すへからさるを以て終身若くは年限を定めたる年賦金に因りて其負債を返償することあり而して此便利の外に終身年賦金は危險の之に伴ふの故を以て利息制限法の支配を受けさるか故に此法律を規避するの目的を以て屢々之を行ふものあり是に於て立法官は止むことを得す苟も終身年賦を設るに於ては必す某の法式を守るへしと要するに至れりジョーヂ三世即位五十三年第百四十一號條例を以て「終身年賦金を契約する各種の證書は其爲約の後三十日以內に其約束の日附、爲替双方及ひ證據人の姓名、幷に契約の箇條を載せたる書面を「ハイ、コールト、オフ、チャンセリー」（國會議院に次く最高等の裁判所）に於て登錄せらるゝに非されは渾て無効たるへく、且又債主は其實、貸附金の金額を與へさるか（詳に之を言へは其內の一部は既に返濟せられたるか、或は後日詐僞手段を以て消印されたる處の手形を以て貸附たるか、或は後日仕拂（年賦の仕拂を云ふ）を受くるに及て之を渡すへしとの虛託を構へて初めより貸附けさるか）若くは通貨にて貸附くへしと明言しながら其實、貨物にて之を貸附けたるときは其年賦金を仕拂ふ人即ち負債者は之が仕拂に關し何等の訴訟を受くるとも若し該裁判所に控訴せは其約束書の取消を得へきものとす」と制定せられ、加ふるに幼屬（二十一歲以下を云ふ）と取結ひたる年賦金賣買の契約の無効たるは勿論、縱令其幼屬の丁年に至るに及んて此契約を確定せんと企るの際に至るも尚續て無効たるへしと制定せられたり然れとも此條例の條款は一切の年賦金に適用するに非す唯貸金を返償せんか爲め年賦金を許與したるの場合にのみ限るものなり」其他年賦金は遺言を以て設くるを得へき者にして往々此類の年賦金あり然り而して此の如き遺物は法律に於て一般の遺物（譬へは遺言者か某人に與ふるに一の金剛石の指環を以てし而して別に彼此と指示せさるの類を云ふ）と看做すか故に萬一遺言者の家產に不足あるときは此遺物の金高は他の遺物と共に割合に應して減少せらるへきなり」又時により特別の資產を以て年賦金の仕掛を約することあり（此場合に於ては其資金消滅すれは年賦も亦消滅す）或は仕拂人の總ての動產を以て之を約することあり此契約は通例證書若くは委任狀を以て執行せらるゝものなり倘し年賦金の仕拂を諾したる人一朝不幸にして破產人となるときは其年賦金は破產處分委員の面前に於て一の負債として證明せらるゝを得へく其價格は破產條例（ジョージ四世即位六年第十六號條例第五十四條）の條欵に從て算定せらるゝを得へし而して斯く算定せられたる價格は破產人の家產に對する負債なるか故に破產人幷其保證人は一切後來の支拂（年賦の支拂を云ふ）を免るゝなり

若し又終身年賦金の受取人甲乙兩支拂日の間に死亡するときは其前受取りたる日以來己れの死亡するに至るまて縱令幾許の時日を經過したりとも決して此日數に應したるの金額を支拂人に向て要求するの權なし但し受取人の給養扶持の爲に與へられたる年賦金は此限に非さるなり且又雙方即ち仕拂人と受取人に於て明白の約束を結ひ、受取人は年賦金の最後の仕拂を受けてより其死亡するに至るの間に經過したる時日に對し割合ふたる金額を受取るへしと豫め約するを得へし」其他政府より支拂ふ處の年賦金に於ては其年賦受取人の遺言執行者來りて之が死亡を證明せは其年賦の四分の一を此執行者に仕拂ふものとす

## 年賦金

ANNUITY（アンニユーイチー）

此語は一年の義ある羅甸の「アンナス」より出てゝ其普通の意味に於ては一年一回若くは數回に時を定めて仕拂ふへき一定の金額を指稱するものなり、例へは一年五十磅の割合にて十七年貸渡すへき借家の證書（リース、オフ、エ、ハウス）は其家の持主に取りて十七年間五十磅の年賦たるか如し、然れとも平常此語を使用するときは畢生間年々人に拂ふへき若干の金額を指稱す、而して甲の場合に於ては科語上之を「アンニュイチー、セルテイン」即ち定期年賦金と云ひ、乙の場合に於ては「ライフ、アンニュイチー」即ち終身年賦金と稱す

却說永遠に繼續するか若くは若干時の終に至りて止息すへき各種の利益、例之は所有地、貸地、其他年賦にて償却せらるへき貸金等は渾て「アンニュイチー、セルテイン」即ち定期年賦金の項下に屬し、一名若くは數個人の生命と終りを共にする各種の利益、即ち法律に所謂「ライフ、エステート」（終身の財產）と稱するもの、及ひ諸般の俸給、幷に終身年賦金の名を以て通常

知らるゝ所の者は渾て乙種の各目に屬するものなり」又夫の「コピーホルド」(其條下を看よ)詳に之を云へは一地の占領期間を若干代と定むと雖とも尙ほ讓渡免許料を出すときは他人をして先人に代らしむるの權ある地及ひ「レゲェルション」卽ち相續權詳に之を言へは現所有主の死後、次の所有主が土地等より獲るの利益、幷に生命保險は皆本題の此部分と親しく連結して離れさる者なり」然り而して生命保險の場合に於ては甲者の死するに及んて乙者より其遺言執行人に若干金を拂渡すへきか爲めに甲者の存命中幾何の年賦金を乙者に拂はさる可らさる乎是れを此趣意に關する問題とす

若し夫れ利息を收めて金を貸付け之か增殖を謀らされは定期年賦金の價格は單に其繼續すへき年數を以て乘したる一箇年の金額に過きさるへし、例へは一年一百磅の價値ある三年の借家證文(リース、オフ、エ、ハウス)は年々其借料を收めて買ふを得へし然らされは一回二三百磅を拂ふて以て買ふを得へきなり

是故に終身年賦金は其受取人と同齡の人々か通例生存する平均の年數丈け繼續する定期年賦金の價値を以て相當とすべし」然りと雖とも此類の實際取引に於て常に行はるゝか如く倘し重利を收めて金を貸附け之を增殖し得へしと假定せは前に述へたる借家の持主は家賃として每年百磅を引去り其餘を利息を取りて貸付けたる時に三年終に至て總體三百磅を受取る丈けの金額を受取らさる可らす」今之を例證せんか爲め假りに百分四卽ち四分の利息を收めて金を貸附くるを得へしと想像せよ、左に揭くる第一表の第四段(卽ち四分の段)に於て吾人は第一段(卽ち年數の段)の三と相對して二、七七五を發見すへし而して此二、七七五とは三年繼續すへき年賦金一磅の現價は二磅七七五卽ち二磅千分の七百七十五なりとの義なるか故に之と同一の有樣にて年賦金一百磅の現價は勿論二百七十七磅、五卽ち二百七十七磅十「シルリング」たるや明かなり

是卽ち一年一百磅の家賃に當る三年間の借家證文の價格なり」今貸家の持主此金額を受取り而して四分の利息にて之を貸附くるときは一年の終に至りて二百八十八磅十二「シルリング」を得へし此内より其年の家賃として一百磅を引去り殘り一百八十八磅十二「シルリング」を再ひ四分の利息にて貸出すときは二年の終に至り增して一百九十六磅二「シルリング」十「ペンス」四分の三となるへし亦此内より家賃として一百磅を引去り其殘額九十六磅二「シルリング」十「ペンス」四分の三を更に再ひ四分の利息にて貸出すときは三年の終に至りて九十九磅十九「シルリング」九「ペンス」卽ち第三年目の家賃(一百磅)に三「ペンス」の不足あるものを受領すへきなり、但し此些少の差違卽ち三「ペンス」は實際決して之あるには非す此表の小數僅に三位に過きさるか故に全く表の不完全なるより生したるのみ

**第一　一磅の年賦金の現價表**

| 年數 | 三分 | 三分半 | 四分 | 五分 |
|---|---|---|---|---|
| 一 | 〇・九七一 | 〇・九六六 | 〇・九六二 | 〇・九五二 |
| 二 | 一・九一三 | 一・九〇〇 | 一・八八六 | 一・八五九 |
| 三 | 二・八二九 | 二・八〇二 | 二・七七五 | 二・七二三 |
| 四 | 三・七一七 | 三・六七三 | 三・六三〇 | 三・五四六 |
| 五 | 四・五八〇 | 四・五一五 | 四・四五二 | 四・三二九 |
| 六 | 五・四一七 | 五・三二九 | 五・二四二 | 五・〇七六 |
| 七 | 六・二三〇 | 六・一一五 | 六・〇〇二 | 五・七八六 |
| 八 | 七・〇二〇 | 六・八七四 | 六・七三三 | 六・四六三 |
| 九 | 七・七八六 | 七・六〇八 | 七・四三五 | 七・一〇八 |
| 一〇 | 八・五三〇 | 八・三一七 | 八・一一一 | 七・七二二 |
| 一五 | 一一・九三八 | 一一・五一七 | 一一・一一八 | 一〇・三八〇 |
| 二〇 | 一四・八七七 | 一四・二一二 | 一三・五九〇 | 一二・四六二 |
| 二五 | 一七・四一三 | 一六・四八二 | 一五・六二二 | 一四・〇九四 |
| 三〇 | 一九・六〇〇 | 一八・三九二 | 一七・二九二 | 一五・三七二 |
| 四〇 | 二三・一一五 | 二一・三五五 | 一九・七九三 | 一七・一五九 |
| 五〇 | 二五・七三〇 | 二三・四五六 | 二一・四八二 | 一八・二五六 |
| 六〇 | 二七・六七六 | 二四・九四五 | 二二・六二三 | 一八・九二九 |
| 七〇 | 二九・一二三 | 二六・〇〇〇 | 二三・三九五 | 一九・三四三 |
| 永世 | 三三・三三三 | 二八・五七一 | 二五・〇〇〇 | 二〇・〇〇〇 |

五分の利息にて十箇年間繼續すへき一磅の年賦金の現價を看出さんとするには上表に揭けたる下段(卽ち五分の段)を見るへし玆に第一段の十と相對して七、七二二卽ち七磅十四「シルリング」六「ペンス」半の價格を發見すへし通例之を稱して其年賦の七、七二二年の買受と云ふ」又磅の小數(デシマル)を「シルリング」及ひ「ペンス」に改め或は「シルリング」及ひ「ペンス」を磅の小數に變するには左の二表を以て之を爲すを得へし



**第二　磅の小數を「シルリング」及ひ「ペンス」に改むるに用ふる表**

| 小數 | シルリング | 小數 | シルリング | ペンス | 小數 | ペンス |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 〇・一 | 二 | 〇・〇一 | 〇 | 二½ | 〇・〇〇一 | 〇¼ |
| 〇・二 | 四 | 〇・〇二 | 〇 | 五 | 〇・〇〇二 | 〇½ |
| 〇・三 | 六 | 〇・〇三 | 〇 | 七¼ | 〇・〇〇三 | 〇¾ |
| 〇・四 | 八 | 〇・〇四 | 〇 | 九¾ | 〇・〇〇四 | 一 |
| 〇・五 | 一〇 | 〇・〇五 | 〇 | 〇 | 〇・〇〇五 | 一¼ |
| 〇・六 | 一二 | 〇・〇六 | 一 | 二½ | 〇・〇〇六 | 一½ |
| 〇・七 | 一四 | 〇・〇七 | 一 | 五 | 〇・〇〇七 | 一¾ |
| 〇・八 | 一六 | 〇・〇八 | 一 | 七¼ | 〇・〇〇八 | 二 |
| 〇・九 | 一八 | 〇・〇九 | 一 | 九¾ | 〇・〇〇九 | 二¼ |

比如(タトヘ)は〇磅六六五を「シルリング」及ひ「ペンス」に改むれは幾何

| | | 磅 | シルリング | ペンス |
|---|---|---|---|---|
| 〇、六 | は即ち | 〇 | 一二 | 〇 |
| 〇、〇六 | は即ち | | 一 | 二⅖ |
| 〇、〇〇五 | は即ち | | | 一⅕ |
| 〇、六六五 | | 〇 | 一三 | 三⅗ |

**第三　「シルリング」及ひ「ペンス」を磅の小數に變するに用ふる表**

| シルリング | 小數 | ペンス | 小數 | ファージング | 小數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 〇・〇五 | 一 | 〇・〇〇四 | ¼ | 〇・〇〇一 |
| 二 | 〇・一 | 二 | 〇・〇〇八 | ½ | 〇・〇〇二 |
| 三 | 〇・一五 | 三 | 〇・〇一三 | ¾ | 〇・〇〇三 |
| 四 | 〇・二 | 四 | 〇・〇一七 | | |
| 五 | 〇・二五 | 五 | 〇・〇二一 | | |
| 六 | 〇・三 | 六 | 〇・〇二五 | | |
| 七 | 〇・三五 | 七 | 〇・〇二九 | | |
| 八 | 〇・四 | 八 | 〇・〇三三 | | |
| 九 | 〇・四五 | 九 | 〇・〇三七 | | |
| 一〇 | 〇・五 | 一〇 | 〇・〇四二 | | |
| | | 一一 | 〇・〇四六 | | |

比如(タトヘ)は十七「シルリング」十「ペンス」四分の三を磅の小數に改むれは幾何

| 磅 | シルリング | ペンス | | |
|---|---|---|---|---|
| 〇 | 一〇 | 〇 | は即ち | 〇、五 |
| | 七 | 〇 | は即ち | 〇、三五 |
| | | 一〇 | は即ち | 〇、〇四三 |
| | | ¾ | は即ち | 〇、〇〇三 |
| 〇 | 一七 | 一〇¾ | | 〇、八九五 |

此等の改變は僅に三位の小數(デシマル)を以て計算せらるゝか故に十分の精密を盡す能はすと雖も尙其差價は決して一「ファージング」の上に出てす

又年賦金の年數、第一表の上段に揭けたる二つの年數の間に在れは此表を用ふるには須らく其二つの年數に屬する年賦の中數を取るを要す、然る時は其結果決して大差なかるへし例へは四分の利息にて十二年間繼續すへき一磅の年賦の價格を求むと假定せんに吾人は第一表の第四段に於て左の數を發見すへし

十年　八、一一一　十五年　一一、一一八　比較差　三、〇〇七

今五箇年にして此年賦の價格を增すこと三、〇〇七なるか故に一箇年なれは此高の大約五分の一卽ち〇、六〇一を增すへく二箇年なれは凡一、二〇二を增加すへし是故二十年の價格八、一一一に二箇年の數一、二〇二を加ふれは卽ち十二年間繼續すへき一磅の年賦の價格九、三一三を得へきや必せり」蓋し實際の價格は頗る九、三八五に近きを以て我表の差錯(アヤマリ)は九、三一三の內に就て僅かに〇、〇七なり卽ち全額の大約一百三十三分の一に過きす而して此略表を以てすら其差の少なきこと既に此の如くなるか故に表をして愈々精密ならしめは此差價愈々減少すへきなり

又第一表に揭けたる最後の一行は永世繼續する一磅の年賦の價格を示すものなり、例之は五分の利息にて永世一磅の價格(或は之を一磅の永世價格(ナガクタヘヌコト)「ペルペチュイチー」とも云ふ)は卽ち二十磅にして此高たる五分の利息にて元金を減することなく其利息のみにて一年一磅を生する所のものなり」又長き年限を繼續する年賦金は永世の者は現價に於て大差なきを見る

例之は四分の利息にて七十年繼續する一磅は二十三磅三九五の價値あるに同一の割合にて永世の者は唯た二十五磅なるか如し是故に七十年を經過せされは仕拂を始めすして其後は永遠に繼續すへき年賦の現價は四分の利息にて一、六〇五なりとす何となれは七十年間利息を收めて此金額を貸附る時は其後永世此年賦を拂ふに必要なる二十五磅を生すへきか故なり

**第四　一磅の年賦金の統計表**

| 年數 | 三分 | 三分 | 四分半 | 五分 |
|---|---|---|---|---|
| 一 | 一・〇〇〇 | 一・〇〇〇 | 一・〇〇〇 | 一・〇〇〇 |
| 二 | 二・〇三〇 | 二・〇三五 | 二・〇四〇 | 二・〇五〇 |
| 三 | 三・〇九一 | 三・一〇六 | 三・一二二 | 三・一五三 |
| 四 | 四・一八四 | 四・二一五 | 四・二四六 | 四・三一〇 |
| 五 | 五・三〇九 | 五・三六二 | 五・四一六 | 五・五二六 |
| 六 | 六・四六八 | 六・五五〇 | 六・六三三 | 六・八〇二 |
| 七 | 七・六六二 | 七・七七九 | 七・八九八 | 八・一四二 |
| 八 | 八・八九二 | 九・〇五二 | 九・二一四 | 九・五四九 |
| 九 | 一〇・一五九 | 一〇・三六八 | 一〇・五八三 | 一一・〇二七 |
| 一〇 | 一一・四六四 | 一一・七三一 | 一二・〇〇六 | 一二・五七八 |
| 一五 | 一八・五九九 | 一九・二九六 | 二〇・〇二四 | 二一・五七九 |
| 二〇 | 二六・八七〇 | 二八・二八〇 | 二九・七七八 | 三三・〇六八 |
| 二五 | 三六・四五九 | 三八・九五〇 | 四一・六四六 | 四七・七二七 |
| 三〇 | 四七・五七五 | 五一・六二三 | 五六・〇八五 | 六六・四三九 |
| 四〇 | 七五・四〇一 | 八四・五五〇 | 九五・〇二六 | 一二〇・八〇〇 |
| 五〇 | 一一二・七九七 | 一三〇・九九八 | 一五二・六六七 | 二〇九・三四八 |
| 六〇 | 一六三・〇五三 | 一九六・五一七 | 二三七・九九一 | 三五三・五八四 |
| 七〇 | 二三〇・五九四 | 二八八・九三八 | 三六四・二九〇 | 五八八・五二九 |

上表に於ては年賦の受取人か其每年の年賦金を受取るや否や直ちに利附にて貸出すとせは其期限の終に至りて幾許の金額を得へきやを示す」例之は五分の利息にて一磅の年賦四十箇年は總計一百二十磅八となる、何となれは每年の終に受取りたる金額の合計は即ち四十磅となるへく而して第一年目の年賦金は三十九年間利息を生し第二年目の年賦金は三十八年間利息を生し總て第四十年目即ち末年の年賦金を領收するに至るまて各年の年賦金より重利八十磅、八を生するか故なり」然りと雖とも若し年賦の仕拂期限にして或は半年なるか若くは每季なる時は其現價、前表に揭けたる者よりも稍大なり、何となれは年賦受取人は一年拂の場合より更に早く其年賦金の若干分を領收するを以て餘分の利息を收むるか故なり

夫れ一年四分の利息は半年二分に當り又半年の數は一年に二倍し每季の數は之に四倍するか故に四分の利息にて十箇年繼續すへき半年拂の百磅年賦金は二分の利息にて二十箇年繼續すへき一年拂の五十磅年賦と其現價相同し又四分の利息にて十箇年繼續すへき每季拂の百磅年賦は一分の利息にて四十箇年繼續すへき一年拂の二十五磅年賦と同價なるや明なり」

蓋し終身年賦金の計算の基つく所の原則は生命保險（ライフ、インシューランス）と死亡人名表（ビルフ、オフ、モルタリチー）の條下に至りて詳に說明すへし」今爰に同齡の人一百名ありて同所に於て一の終身年賦を購求すと假想せよ、又世間此年齡の人を看るに百人中每年死亡する割合は平均十人なりと假想せよ、此場合に於て右一百人は大抵世人同樣に死亡するか或は少くとも斯る多數に在ては甲者の長命乙者の短命と相乘除すとせは、其各人に贈與せらるへき終身年賦金の價格を計算する當然の方法は左の如し」今此問題を更に詳明せんか爲め、假りに千八百四十四年一月一日に此賣買約定を締ひ是に因て每年一月一日を以て年賦の仕拂期日と爲し加之每年の年賦金には各別の約定を取結ひたりとせん、さて第一の問題とする處は若し幸にして千八百四十五年に生存したる時、一磅の年賦金を受取らんとするには其百人は各々幾多の金を拂ふへきやに在り」今死亡の通則に據れは此百人中十人は其間に死るを以て畢竟生存して要請すへき人員は唯々九十人にして其內に受取るへき總額も亦九十磅なるへし」是故に千八百四十五年の要請に應するには（假りに）四分の利息にて貸付けたるときに其年の一月一日に合計九十磅となるへき丈けの金額を其前年（即ち千八百四十四年）の一月一日に全百人中にて仕拂ふて足れり、而して此金額は八十六磅、六五四にして其百分の一は即ち零磅、八六六五四なるか故に、是れ其各人か千八百四十五年に年賦を受取るの權を得んか爲め豫め仕拂ふへき所の者なり」

次に千八百四十六年には請要すへき人員唯た八十人なるへきか故に、二年間四分の利息にて貸附けたるときに合計八十磅となるへき丈けの金額を全百人中にて仕拂はさる可らす而して此金額は七十三磅、九六八にして其百分一は即ち零磅、七三九六八なるか故に若し幸にして千八百四十六年に生存し以



て其年の年賦金を受取らんとするには此金額や則ち各人の須く拂ふへき者なり、其餘の諸年も亦之と同し、然り而して各人各年の年分總計は即ち其人の終身年賦金の現價なり」蓋し年賦金の價格（ワリー、オフ、アン、アンニュイチー）と云ふときは勿論代價仕拂の後一年の終に在りて初めて第一年賦の仕拂期限となることを常に言外に包含すと知るへし

是に由て之を觀れは終身年賦金の價格なる者は畢竟其買主と同一の年齡にある多數の人か陸續相踵て死亡し去るへしと假定せらるゝ割合に屬する者なり」從來諸種の人類は死亡に關して所謂人命死亡（デクレメンツ、オフ、ライフ）を明示せる種々の表を編製せしか、甲は乙より死亡の割合を多くし丙は丁より其割合を少うして其間に多少異同ありき、然り而して死亡の割合を多くしたる者は其割合を少なくせる者より年賦の價格を立ること勿論なり、是故に年賦の買主は死亡の割合を多くせる表に從て價格を定められんことを欲し、之か賣主たる者は其割合を少なうせる表に示せる代價を受取らんことを望むや必せり」然るに生命保險は之に反す、何となれは被保人の生存すへしと假想せらるゝ時限愈々短なるや保險會社は其死後其遺言執行人に拂ふへき者を豫め貯へ置んか爲め其被保人をして愈々多く拂はしむるか故なり」今余は第五表に於て最も有名なる三種の表に從ひ年賦の價格を示さんとす

**第五　終身年賦金の現價即代價表**

| 年齡 | ノルサムプトン表 三分 | ノルサムプトン表 四分 | ノルサムプトン表 五分 | カーライル表 三分 | カーライル表 四分 | カーライル表 五分 | 政府表の男 四分 | 政府表の女 四分 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 〇 | 一三・三 | 一〇・三 | 八・九 | 一七・三 | 一四・三 | 一二・一 | 一九・三 | 二〇・〇 |
| 五 | 二〇・五 | 一七・二 | 一四・八 | 二三・七 | 一九・六 | 一六・六 | 一八・八 | 一九・七 |
| 一〇 | 二〇・七 | 一七・五 | 一五・一 | 二三・五 | 一九・六 | 一六・七 | 一八・〇 | 一九・一 |
| 一五 | 一九・七 | 一六・八 | 一四・六 | 二三・六 | 一九・〇 | 一六・二 | 一七・三 | 一八・六 |
| 二〇 | 一八・六 | 一六・〇 | 一四・〇 | 二一・七 | 一八・四 | 一五・八 | 一六・九 | 一八・一 |
| 二五 | 一七・八 | 一五・四 | 一三・六 | 二〇・七 | 一七・六 | 一五・三 | | |
| 三〇 | 一六・九 | 一四・八 | 一三・一 | 一九・六 | 一六・九 | 一四・一 | 一六・四 | 一七・五 |
| 三五 | 一五・九 | 一四・〇 | 一二・五 | 一八・四 | 一六・〇 | 一三・四 | 一五・七 | 一六・九 |
| 四〇 | 一四・八 | 一三・二 | 一一・八 | 一七・一 | 一五・一 | 一二・六 | 一四・九 | 一六・二 |
| 四五 | 一三・七 | 一三・三 | 一一・一 | 一五・九 | 一四・一 | 一一・七 | 一三・八 | 一五・三 |
| 五〇 | 一三・四 | 一一・三 | 一〇・三 | 一四・三 | 一三・九 | 一〇・三 | 一三・四 | 一四・二 |
| 五五 | 一一・二 | 一〇・二 | 九・四 | 一三・四 | 一一・三 | 一〇・三 | 一一・〇 | 一三・八 |
| 六〇 | 九・八 | 九・〇 | 八・四 | 一〇・五 | 九・七 | 八・九 | 九・七 | 一一・三 |
| 六五 | 八・三 | 七・八 | 七・三 | 八・九 | 八・三 | 七・八 | 八・二 | 九・六 |
| 七〇 | 六・七 | 六・四 | 六・〇 | 七・一 | 六・七 | 六・三 | 六・八 | 七・九 |
| 七五 | 五・二 | 五・〇 | 四・七 | 五・五 | 五・二 | 五・〇 | 五・四 | 六・三 |
| 八〇 | 三・八 | 三・六 | 三・五 | 四・四 | 四・二 | 四・三 | 三・八 | 四・九 |
| 八五 | 二・六 | 二・五 | 二・五 | 三・二 | 三・一 | 三・〇 | 二・三 | 三・八 |
| 九〇 | 一・八 | 一・八 | 一・七 | 二・五 | 二・四 | 二・三 | 一・三 | 二・一 |
| 九五 | 〇・二 | 〇・二 | 〇・二 | 二・八 | 二・七 | 二・六 | 〇・六 | 一・〇 |

以上三種の第一はノルサムプトン（英國の都邑）に於て葬禮の數を觀察し學士プライス氏の編製したるノルサムプトン表より計算せるものなり、此表は他表に比するに少年と中年との死亡の割合を現はすこと頗る多きに過るか故に從て年賦の價格を立つること亦た甚た低きに過く」第二はカーライル（英國の都府）に於て爲されたる觀察よるミルネ氏の編製したるカーライル表より出づ此表は、前者と反して死亡の割合を示すこと他表より少なきか故に其年賦の價格を顯はすこと亦從て高し、然れとも其觀察の由て起りたる風土の性質を考ふれは今世紀の中等人種の生命の現狀を表はすの精細なること大に想像の外に出るものあり」第三はフヒンライソン氏の編製したる者にして政府の「トンチーン」（生存者に從ある終身年賦金を云ふ、例之は數名の人は其股分は生存者の所有となるものなり）と國債償却の爲めに政府より許與したる年賦金の所持人とに就て爲せる死亡の觀察より之を得たり而して其男女を區別する處は前二者と異なれり」蓋し從來世に公にせられたる大抵の觀察は平均女を以て男より長命なりと證明すること恰も符節を合はすか如くなりきされは今日政府の與ふる處の年賦金に於ても常に之か區別をなせり、今政府表に提けたる男女の年賦の價格の中數は若し利息の割合相同けれはカーライル表と幾んと善く符合せり

抑說第五表を用ひんとするには利息の割合四分にして年齡三十五歲の人に在て一箇年百磅の終身年賦の價格を求むと假定せよ、今上段の三五と各表の四分の段とを對照するにノルサムプトン表に於ては一四・〇、カーライル表に於ては一六・〇、政府の表に於ては男女に從て或は一五・七、或は一六・九を發見すへし而して此等の數は原來一磅の年賦を買ふに必要なる磅の數なる

か故に此の問題に應して之を百倍するときは其割合左の如し

ノルサムプトン表　一四〇〇磅
カーライル表　一六〇〇磅
政府表（男）　一五七〇磅
政府表（女）　一六九〇磅

然り價格に差異ありと雖とも吾人は決してカーライル表に揭けたる者より更に少なき價を以て年賦を購買し得へしと假定するを得す

若し又人ありて其年齢第五表に揭けたる二つの年齢の間に在れは之か終身年賦の價格を見出さんとするには曩に定期年賦金を論するの際、詳に說明したる處の方法に據らさる可らす」又二人合同生存上（ジョイント・ライフス）の年賦金とは此年賦を買入れたる兩人共に生存せる間のみ仕拂ふへき者を云ふ

カーライル　利息四分

| 年齢 | 〇 | 一〇 | 二〇 | 三〇 | 四〇 | 五〇 | 六〇 | 七〇 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 〇 | 八・九 | 一二・三 | 一一・七 | 一〇・九 | 九・九 | 八・六 | 六・六 | 四・七 |
| 五 | 一六・八 | 一六・五 | 一五・六 | 一四・四 | 一二・九 | 一〇・五 | 七・八 | 五・〇 |
| 一〇 | 一七・〇 | 一六・三 | 一五・二 | 一三・八 | 一二・〇 | 九・二 | 六・五 | 四・一 |
| 一五 | 一六・三 | 一五・五 | 一四・三 | 一二・九 | 一〇・五 | 七・九 | 五・一 | 三・〇 |
| 二〇 | 一五・六 | 一四・七 | 一三・六 | 一一・八 | 九・〇 | 六・四 | 四・一 | 二・四 |
| 二五 | 一四・八 | 一三・八 | 一三・五 | 一〇・三 | 七・八 | 五・〇 | 三・〇 | 二・六 |
| 三〇 | 一三・九 | 一二・九 | 一一・四 | 八・八 | 六・三 | 四・〇 | 二・三 | 一・六 |
| 四〇 | 一二・一 | 一〇・九 | 八・六 | 六・二 | 三・九 | 二・三 | 一・六 | |
| 五〇 | 一〇・一 | 八・一 | 六・〇 | 三・九 | 二・三 | 一・六 | | |
| 六〇 | 七・九 | 五・三 | 三・六 | 二・一 | 一・五 | | | |
| 七〇 | 四・四 | 三・一 | 一・九 | 一・五 | | | | |
| 八〇 | 二・四 | 一・六 | 一・三 | | | | | |

上表及次表は利息の割合四分にして此種の年賦金の價格上にカーライル表とノルサムプトン表の結果如何を示す者なり而して其第一段は少者。（ヤンゲル）の年齢を示し其第一行は長者の年齢に非す。して其年齢の少者に超えたる較數を示す例之は二十五歳と五十五歳の二人合同生存上の年賦の價格を知らんとするには其年齢の較數三十年なるを以て卽ち較數の三〇と少者。の二五とを對照すへし然る時はカーライル表に於て一〇・三、ノルサムプトン表に於て八・八を發見すへし是故に若し其求むる處にして百磅の年賦の價格ならんには甲表は一千〇三十磅乙表は八百八十磅を與ふるなり

ノルサムプトン　利息四分

| 年齢 | 〇 | 一〇 | 二〇 | 三〇 | 四〇 | 五〇 | 六〇 | 七〇 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 八・三 | 一〇・八 | 一〇・一 | 九・四 | 八・六 | 七・五 | 六・一 | 四・四 |
| 五 | 一三・七 | 一三・五 | 一二・六 | 一一・七 | 一〇・五 | 八・九 | 七・〇 | 四・六 |
| 一〇 | 一四・三 | 一三・四 | 一二・六 | 一一・五 | 一〇・一 | 八・三 | 六・〇 | 三・五 |
| 一五 | 一三・四 | 一二・六 | 一一・八 | 一〇・一 | 九・一 | 七・一 | 四・七 | 二・五 |
| 二〇 | 一二・五 | 一一・九 | 一〇・九 | 九・六 | 八・〇 | 五・八 | 三・四 | 一・七 |
| 二五 | 一一・九 | 一一・二 | 一〇・二 | 八・八 | 六・九 | 四・六 | 二・四 | 〇・三 |
| 三〇 | 一一・三 | 一〇・五 | 九・三 | 七・八 | 五・七 | 三・四 | 一・七 | |
| 四〇 | 九・八 | 八・八 | 七・五 | 五・六 | 三・三 | 一・七 | | |
| 五〇 | 八・一 | 七・〇 | 五・三 | 三・二 | 一・七 | | | |
| 六〇 | 六・二 | 四・九 | 三・一 | 一・六 | | | | |
| 七〇 | 四・一 | 二・八 | 一・五 | | | | | |
| 八〇 | 二・一 | 一・三 | | | | | | |

又二人の内最も長命なる者への年賦詳に之を言へは二人の内執れにても生存せる間は之に仕拂ふへき年賦に在ては各自に二人の終身年賦の價格を見出して共に之を加へ而して合同生存上（ジョイント・ライフス）の年賦金の價格を之より減すれは卽ち其價格を發見するを得へし何となれは此種の年賦金は宛も別々に兩人へ年賦一を贈り而して兩人共に生存せる間は（詳に之を云へは其合同生存（ジョイント・ライフス）の間は）其一を年賦贈與局に返還すへしとの約束を取結ひたると同一の地位に年賦贈與局及ひ兩人を立たしむるか故なり例之は年齢をして前例と同しく二十五歳と五十五歳たらしめ而して利息の割合を四分としてカーライル表を採るときは其結果左の如し

第五表　五十五歳の年賦金　一一・三
　　　　二十五歳の年賦金　一七・六
　　　　合計　二八・九
第六表　五十五歳と二十五歳の合同生存年賦金　一〇・三



較差　一八・六

是故に生存者への年一磅の年賦金の價格は卽ち十八磅・六なりとす又二人の内執れか死するまては仕拂ふことなく而して其一人既に死したる後は生存者の生涯贈與すへき年賦に在ては合同生存年賦金の價格二。倍を減すれは前例と同しく其價格を見出すを得へし何となれは此場合の前者と異なる處は唯々其兩人の生存中（詳に之を言へは其兩人生存の間）其年賦を仕拂はさるに在るを以て此場合の價格は合同生存の年賦金の價格丈け前者より少なきか故なり

又甲乙二人の內乙者の先きに死亡するや尋て甲者に仕拂ふへき年賦金の價格は甲乙生存中の年賦金の價格を控除したる甲の終身年賦の價格たり何となれは此地位たる宛も甲者に年賦を贈り而して甲乙共に生存する間は之を返還せしむると毫も異ならさるか故なり今年齢と表は前例と同しく而して生存者の年齢は二十五歳なりとせは其結果左の如し

第五表　二十五歳の年賦金　一七・六
第六表　二十五歳と五十五歳の合同生存年賦金　一〇・三
較差　七・三

是故に爰に要する一磅の年賦の價格は卽ち七磅・三なりとす

左の表は四分利息のノルサムプトン表より推究せるモルガン氏の保險論に就て其大要を摘錄したるものにして何人にても其貯蓄を始むる時より重利法を以て之を增殖せは其一生の終に至りて總計幾何となるへきやを示すものとす

**第七**　年々貯蓄して終身增殖を謀りたる一磅の總計表

| 年齢 | 總計 | 年齢 | 總計 | 年齢 | 總計 | 年齢 | 總計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 〇 | 一三七・八 | 二五 | 七九・二 | 五〇 | 二九・五 | 七五 | 七・二 |
| 五 | 一五九・二 | 三〇 | 六六・〇 | 五五 | 二三・六 | 八〇 | 四・八 |
| 一〇 | 一三七・九 | 三五 | 五四・六 | 六〇 | 一八・五 | 八五 | 三・二 |
| 一五 | 一一四・一 | 四〇 | 四四・九 | 六五 | 一四・一 | 九〇 | 二・〇 |
| 二〇 | 九四・五 | 四五 | 三六・六 | 七〇 | 一〇・三 | | |

詳に之を云へはノルサルプトンの表に據るに若し人ありて二十六歳（卽二十五歳の後の一年）より年百磅を重利にて貯蓄し始めたらんには其生涯の終に至りて其總計七千九百二十磅卽ち每年の貯蓄高一磅に付七十九磅、二となるを見るへし」更に詳に之を云へは若し一百人ありて之を爲し而して其死に至りて貯蓄高を計算せは平均一人に付七千九百二十磅となるを見るへし」然れとも曩に既に述へたるか如くノルサムプトン表の死亡の割合は元來事實より遙に大なるか故に勿論平均の蓄積高は前表に揭けたる者より稍々大なるへく又少なき年齢の者に在ては殊に著く大なるへし

抑々前に述へたる如く終身年賦の價格計算法の正否は畢竟買主の平均の死亡を知る處の假定にのみ倚頼するものにして又此平均は多數の人命を取るに非されは決して誤りなきを保し難きか故に苟も商業上の投機として單なる年賦或は二三の年賦を贈與するは縱令何程高き代價を請求すとも尙ほ之に命するに賭博の名を以てせさるを得さるなり

爰に此條を終るに臨んて尙ほ一言の讀者に告けさるを得さるものあり何そや前七種の表に於て吾人の目的とする處は單に二三の最も簡易なる場合に向つて較々眞に近き決定を爲すの手段を供ふるに過きさること卽是なり是故に何人にても各表編成の原理を十分を理會するに非されは決して其職業の者或は其他の教を俟たすして妄りに其事務を試む可らさるなり是れ他なし最も簡單なる表を用ふるとも尙ほ此趣意に貫通せさらんには極めて誤謬に陷り易けれはなり況や實際に發する事體には大抵特殊の情況ありて此情況たる一般の規則に於ては豫め之か備を爲さゝりしのみならす亦之を爲すを得さるものあるに於てをや

# 生命保險幷豫約銀

LIFE（ライフ） INSURANCE（インシユーランス） OR（オア） REVERSION（レウアレシヨン）

廣濶の意義に由れは「レウアルション」即ち豫期享用とは一定し若くは偶然の事に屬する將來の或る時より其の享用を始めて永久又は一定し若くは偶然の事に屬する期限の間繼續すへき財産の享用權を指稱するなり故に事實に就て之を云へば財産の價格を論ずる書に於ては何等の事物を問はす將さに占有すべく又は將來占有せらるへきものは都て一の「レウアルション」なりとす然れとも此語の法律上の意義に至つては更に制限せらるゝなり

例へば百磅の生命保險詳に言へは某人死去の際に百磅を仕拂ふべき契約は其人の遺言執行人に取ては百磅の豫約銀（レウアルション）なりとす而て余か本項に於て目的となす所は此最も普通の種類の豫期的契約（レウアルショナリーコントラクト）即ち生命保險の事を論するに在り

抑々豫約銀の價格は甚た簡易なる理に於て同額の年賦金の價格に由て定まるものなり詳に言へは某の出來事の到來したる時に請取るへき若干金額（例へは百磅）の價格は其出來事の到來するときまで每年請取る可き百磅の價格に由て定まるものなり例へは利息を五分とし三百八十丁年賦金の項下に說明したる計算法に由り一の終身年賦金を十四年買の價格ありと假定せよ詳に言へは今年契約を結ひたりとせは翌年には百磅の支拂を受け翌々年にも亦百磅の支拂を受け斯の如くにして終身間年々續いて百磅の支拂を受くることは現に千四百磅の價格あるなり因て今ま死亡の起りたる年の末に支拂はるへき百磅の金の現價を尋ねんには左の如く之を推究せさる可からす即ち今ま玆に甲者か終身間享受し其死後其遺物受贈者か享受すへき一ケ年百磅の永世の年賦金ありと假定せよ又假設に由り甲者の受くへき股分は今ま現に千四百磅の價格あり而して金利を五分とすれは此永世年賦金は二十年買の價格即ち二千磅の價格ありとす故に此遺物受贈者の股分は今ま現に二千磅の中より甲者の千四百磅を減したるもの即ち六百磅の價格あるなり然れども甲者か死去する年の末に至り此遺物受贈者は甲者に代て百磅の例年仕拂を受け加ふるに二千磅の價格ある一の永世年賦金を受くるに至るべし何となれは一の永世年賦金の殘額は又一の永世年賦金なれはなりされは此時に至り遺物受贈者の股分は二千百磅の價格あるに至るべし吾人は玆に知る死亡の年末に於て支拂はるゝ二千百磅の金は今ま現に六百磅の價格あることを然らは則ち比例の算則に由り其他幾何金額の現價をも知ることを得へし即ち死亡の發する年末に於て支拂はるへき百磅は今ま現に二十一分の六百磅即ち廿八磅十一志五片四分の一（六〇〇磅÷二一＝二八磅一一志五¼片）の價格ありとす故に吾人は今ま簡易なる左の定則を得たり

定則　某の豫約銀の價格を知らんと欲せば永世年賦金の價格より其豫約銀と同類の終身年賦金の價格を減じ其差を永世年賦金の購買年數に一を加へたるものにて除するか否らざれば永世年賦金の購買年數の終身年賦金の年數に超過する數に豫約銀の額を乘じて其得數を前の如く除すへし」次に此豫約銀に對して幾何の保險料（プレミユーム）を支拂ふ可きかを看出すべし蓋し保險料の年賦金と異なる所は即時に若干金を支拂ひ且又每年の末に於て之を支拂ふにあるなり故に保險料の價格は年賦金の價格に比すれは更に多く一年買を値ひするなり偖て前の問題に於て終身年賦金は十四年買の價格ありし故に其保險料は十五年買の現價あるべし然れとも保險料の惣額の現價は則ち亦此豫約銀の現價即ち二十八磅十一志五片四分の一に等しきものなれは此豫約銀を十五分したるもの即ち一磅十八志一片は即ち其保險料の金高なるべし故に保險料を看出さんには終身年賦金の購買年數に一を加へたるものにて豫約銀の現價を除すべし然れとも最も常に然るが如く若し豫約銀の現價分明ならすして保險料の金額を要せらるゝ時は左の定則に準據するを以て簡易なりとす

定則　永世年賦金の購買年數に一を加へたるものと終身年賦金の購買年數に一を加へたるものとを以て各自に豫約銀を除すべし其得數の差は則ち求むる所の保險料なり例へは吾人若し前例に於て二十年に一年を加へたる者（即ち永世年賦金の購買年數に一を加へたる者）とを以て別々に百磅（即ち豫約銀）を除するときは吾人前者に於ては四磅十五志三片、後者に於ては六磅十三志四片の得數を見る可し而して此に得數の差は一磅十八志一片にして前記の保險料と同額なるべし



さて吾人が終身年賦金を五分の利息にて十四年買の價格ありと說くに當り吾人が默考し來りたる生命は凡そ年齡三十六歲の者に係れり而して讀者か第一に想起すべき感覺は必らす其保險料の極めて微小なるに在るべし今ま假りに之を二磅に昇らしめよ倘ほ其保險料が百磅の金高に達するまでには五十年を要すべしされは此主旨に通せさるものは甚た之を奇異とするならん夫の一千七百六十年に於て王の法官か「エクイテーブル」保險會社に特許狀を許與することを拒絕したるも亦全く此感覺に出つるに外ならさるなり即ち當時該會社が年齡三十六歲の人に凡そ四磅の保險料を課せんとしたりければ法官等は之を以て甚た些少に過くるの保險料と思惟せしなり然れとも吾人は宜しく保險料を受領する者は直に五分の利息を收めて之を放下し且つ其放銀より生ずる利息をも放下し以て重利を收むることを記憶せさるべからす而して卅六歲の人々は互に倘ほ凡そ三十年を生存するものなれは此時限は互に前記の保險料と其利息とを合せて百磅を得るに十分なりとす

今ま吾人は簡單なる計算法を以て其の目的に應するに足るの場合を設示すへし而して其場合をして簡單ならしめんか爲めに假りに年齡各々三十歲に達する五千六百四十二名の被保者を有する保險會社を設立したりとせん且つ此人々の間に發する死亡の數はカーライル表に據るとせん又其契約は所謂二十年の短期保險にして其保險金額を千磅と假定すべし詳に言へは二十年以內に死去する各被保者の遺言執行人は死去の年末に於て千磅を請取るものと假定すべし又金利を一ケ年三分となす可し然るときは該表に由れは連年五十七、五十六等の死亡人あり而して適當なる保險料を人每に十一磅十二志三片半詳に言へは千人に付一萬千六百十四磅十六志と計算すれは其結果は左の如くなるべし假りに毫も管理費を要せすとすれは該會社は創業の初めに於て被保人五千六百四十二名より六萬五千五百三十磅を請取るなるべし而して直ちに三分の利息を收めて此金高を放下すれば同年の末には千九百六十六磅の利息を生し即ち合計六萬七千四百九十六磅の金額となるへし然れとも該年末に於て同年間に死去したる五十七人の遺言執行人は五萬七千磅の支拂を要求するか故に該會社の蓄積金は爲めに一萬〇四百九十六磅に減少すべし然れとも殘る所の被保者五千五百八十五名は今や第二回の保險料六萬四千八百六十九磅を拂ひ込むべし而して此金額は直に放下せらるゝを以て該會社は第二年間に七萬五千三百六十五磅の金額に對し利息を收むべし而して此金額は更に二千二百六十一磅の利息を生して其年末には七萬七千六百二十六磅の蓄積金あるに至るへし此際該年間に死去したる五十七名の遺言執行人は五萬七千磅を要求するか故に其蓄積金は爲めに二萬〇六百二十六磅に減すへし然れとも此金額は前年の同時限に於て殘存せるものよりも稍多額なるへし去れは該會社は斯の如き方法を以て漸次に其蓄積を進め爲めに此主旨に通せさる人をして保險料の割合過大なることを憶斷せしむるに至るへし即ち實に十年間の蓄積高は九萬千八百〇九磅に達するなり然りと雖も今や事情漸く一變し出銀者の數は次第に減少し其請求高は却て益々增加するを以て竟に每年入る所のもの以て出つる所を償ふに足らさるに至るなり是に於て乎漸く蓄積金を以て出入の差高を補塡せさるへからすして竟に殘餘の出銀者都て年齡五十歲となり而して五十歲に於て死去したる六十一名の請求高を支拂ひたる後には九萬八百〇九磅の蓄積金中僅かに八磅を剩すに過きさるへし且此八磅と雖も眞の剩餘にあらすして計算上「シルリング」等を捨てたるより生じたる違算たるに過きさるなり

凡そ生命保險會社は其出銀者の間に成れる互相の約諾（今直ちに設示せんとする）に由て立つ處の貯蓄銀行なりとす今此問題を辯明せんか爲めに吾人をして甲者金若干を借り貸主の安全の爲めに其金額に向て自己の生命に保險を付したりと假定せしめよ然らは則ち甲者は之れに對して保險料を仕拂はさるべからす而して人の生命にして若し確定ならんには保險會社の職務は此保險料を收めて之を他に放下するにあるべし蓋し此保險料は之れより生する利息を合せて返濟期限に至り此貸金を仕拂ふに十分なる金額に達する如くに計算して定めらるへし而して此期限の盡くるに及ひ貸主（貸主は此時まて其貸金に對し甲より利金を受くるなり）は會社に請求を爲し其會社より請取り

たる金を以て其負債を辨償すへきことを甲に要求するならんされは人の生命確實にして若し斯る會社の世に存するあらは貸主は甲者か年々の仕拂金（利息なると賦拂金なるとに拘はらす）を爲すの資力あり且つ之れを甘んすることを稍〻善く信用するとも甲者に任かせて自から每年の賦拂金を積み立て之を殖利せしむることをなさすして第三の人卽ち賦拂金の其負債を仕拂ふに十分なる金額に達するときまで請求に應して之を返還せざるへきことを約する者に年々其賦拂金を拂込むべきことを甲者に求むるを以て至當の所置なりとす然れとも各箇人の生命、不定なるの故を以て斯る會社の往時決して成立すること能はさりしや明かなり然れとも忽ちにして各箇人大衆の平均命數を稍〻精密に算定し得ることを知るに至りたるを以て今や各箇人の命數の不定なるを稍〻救醫するを得るなり卽ち今ま試みに甲者と同樣の地位に立つ大數の負債者をして互に保證人たらんことを一致せしめよ詳に言へば各負債者をして其生存する間は自己の賦拂金を支拂ふのみならす死亡者の不足高を補ふに足るべき付加の金高を支拂はんことを一致せしめよ斯の如くにして成立したる貯蓄銀行は則ち一の生命保險會社となるべし勿論此等の負債者か各自の賦拂金を己等の間に定めたる一箇人に支拂ふと斯る事務を處辨する一會社に往て之を預くるとは毫も其間に異なる所なきなり且其賦拂金は負債償却の爲めにすると寡婦嬰兒養育の爲めに貯蓄すると亦毫も差別をなさゝるなり而して余か特に貸債者の場合を取りたる所以のものは斯る場合に於て凡そ保險會社は其出銀者か其家族の利益の爲めに出銀する時よりも一層單に賠償會社に過きさるもの丶如くに見ゆるを以てなり然れとも前者の場合（負債者の場合）に於て其保險料は一部は負債の賦拂金にして又一部は死亡者の終身賦拂金の不足を補はんか爲めにする金高たること明白なりとす

今ま吾人をして單に生命保險の目的を以て組織せる一會社ありと假定せしめよ然るとき其會社の事務は保險を托したる人々の保險料を取り集めて之を放下するに在り而して其收入金は全く例年の保險料と前保險料の放下より生したる利金より成り其經費は措辨費、請求仕拂金、自己の保險證書の買入金及ひ（恐らくは）過錯放銀より生する損失卽ち是なり

共任會社（ミユーチアル、コンパニー）は社員相互に義務を負ひ自ら一社を組成するものなり斯の如き會社に於ては概して言へは創業入費に要する小額の錢銀の外は一切創立の際に資本を募集せさるものとす然れとも必すしも此事を以て共任會社の眞相となさゝるなり何となれは若し其の社員にして險保會社と等しく亦自ら放銀會社を組織せんことを望まは其共任（ミユーチアル）の性質を失はすして各保險人に亦一の株主たらんことを要求し得ればなり凡そ共任會社に於ては其利益は勿論之れを被保者の中に分配するなり

又持主會社（プロプライアタリー、コンパニー）は持主の一體か資本を醵集して保險料の不足せる時に要求金の仕拂に供する會社なり而して持主は其抵當物（卽ち資金）に對して資本の利息の外に保險事務より生する利益をも受くるものとす蓋し保險料の適當なる計表を用ひ且つ創業の際相當の保險事務を有するときは此の資本金の無用の抵當物たることは既に久く證明せられたる處なり而して今日尙ほ斯る會社を願はんとするの理由は唯一に其保險料の廉價なるに在るのみ蓋し被保人は苟も其保險金の仕拂はるゝ間は其如何なる方法を以て仕拂はるゝとも勿論更に介意すべき所にあらすして卽ち會社の資本は或は減少することあるべしと雖も被保人は其支拂を受くべき順番の來らさる前に其資本の全く竭盡することを除くの外毫も顧慮する所なきなり然り而て夫の保險料の廉價なる故を以て純粹の持主會社に誘致せらるゝ人の如きは其意唯全く此れに出るに外ならさるなり夫れ虚稱資本は毫も必要あるものにあらすして會社の鞏固なると否とは其付托せらるゝ保險高の多きと寡きとにあるなり然れとも之を概言するに余は是迄持主會社か自ら大に危險を冒かすことなかりしと信するなり

又混合會社（ミツキスト、オツフイス）は持主一切の利益を取らすして其中若干部分を受け其餘の利益を被保者の中に分配する持主會社なり而して斯の如き會社に於ける被保者の狀態に對して資本より生する良結果は唯左の數事あるのみ卽ち其管理者は定資本と保險料とを有するを以て正當に放銀の途を搜索するを得へし是れ其任會社の避けさる可からさる處なり又全く商業上の損失を補ふへき資本を有するを以て管理者は恐らくは稍〻高額の利息を得んことを企て得べく從て勿論一層大なる損失の危險を冒かすことを得へし又保險料よりする利益との區別せられさるを以て全利益の分配を受る處の被保者は資本の餘分の利益の分配に與ることを得べし然れとも斯る會社は一切の要求の仕拂に應するに十分な



る金額（將來の保險料と共に）を尤も安全なる證書類（其社會の狀況に應して求むるを得へき）に放下したる後に非すんば決して稍〻大利を得んか爲めに下等の證書類を購買するが如き計畫を爲すへからざるなり」

保險會社に於て保險料の額を定めんとするに左の重要なる三事を斟酌して之を定めさるべからす卽ち保險料を放下して收入すべき所の利息の割合被保者の死亡の割合幷に管理費を措辨し且つ保險人の利益を得んか爲めに要する付加額是なり而して一二の場合を除くの外斯る算定の基礎として三分の割合を採用せり是れ多年の取引に於て良好なる證書に對して收入し得べき者に最も近き割合なるを以てなり又一般に用ひらるゝ所の死亡表は夫のカーライル表なりとす然れとも今や此計表は計算者協會（アクチユーアリー）に由て輯集せられ一千八百六十九年五月を以て發刊せられたる諸生命保險會社の死亡經驗表に由て代置せらるゝ所となれり此死亡經驗表は英國に於て生命保險の事に用ふべき最も正確なる標準なりとす

左に揭くる所のものは計算者協會の計表を基本として算定したる純。保險料（管理費と保險人の利益を加へすして算定したる保險料なり）なり

死亡の際保險會社より百磅の金を受領せんか爲めに一回限り支拂ふべき保險料幷に終身間年々支拂ふへき保險料但し保險會社か保險料を放下して收入し得へき利息の割合を三分とす

| 被保人の年齡 | 一回限りの保險料 | 年々の保險料 | 被保人の年齡 | 一回限りの保險料 | 年々の保險料 |
|---|---|---|---|---|---|
| 二十歲 | 磅三二 志一七 片九 | 磅一 志八 片七 | 四十五歲 | 磅五一 志一三 片五 | 磅三 志二 片三 |
| 二十五歲 | 三五 一六 三 | 一 一三 六 | 五十歲 | 五六 一三 三 | 三 一六 〇 |
| 三十歲 | 三九 四 五 | 一 一七 七 | 五十五歲 | 六一 一七 三 | 四 一四 六 |
| 三十五歲 | 四三 一九 〇 | 二 三 一〇 | 六十歲 | 六七 五 六 | 五 一九 九 |
| 四十歲 | 四七 一 二 | 二 二 九 | | | |

比較の爲め左にカーライル表に由て算出せる同樣の保險料を示す

死亡の際、金百磅を得んか爲め一回限り支拂ふべき保險料幷に終身間年々支拂ふべき保險料但し利息を三分とす

| 被保人の年齡 | 一回限りの保險料 | 年々の保險料 | 被保人の年齡 | 一回限りの保險料 | 年々の保險料 |
|---|---|---|---|---|---|
| 二十歲 | 磅三三 志一七 片一一¼ | 磅一 志九 片一〇½ | 四十五歲 | 磅五〇 志一七 片八¼ | 磅三 志〇 片四¼ |
| 二十五歲 | 三六 一七 一〇¾ | 一 一四 〇¾ | 五十歲 | 五五 八 七¼ | 三 二 五¼ |
| 三十歲 | 四〇 二 六 | 一 一九 〇¼ | 五十五歲 | 六〇 一八 一一 | 四 一〇 一〇¾ |
| 三十五歲 | 四三 七 一一¼ | 二 四 八 | 六十歲 | 六六 一〇 七¼ | 五 一五 九½ |
| 四十歲 | 四七 三 二 | 二 二 一一¾ | | | |

# 貿易備考（鈔）

（明治十八年十月大藏省刊行）

## ホケン 保險

英 Insurance or Assurance

佛 Assurance

ホケンは歐米各國に行はるゝ險難受合の約束法にして人命の保險あり家屋物件の保險あり各々其方法を異にすと雖も之を要するに亦等しく會社法なりとす近時本邦に於て生命保險海上保險の二會社を設立するものあり今諸書に據り外國各種保險の要旨を左に摘錄す○人命保險は最も緊要なるものにして其要旨は他日鰥寡孤獨のものゝ爲に扶助を約するものなり卽ち相當の收入金を有する人或は一定の俸給を以て衣食する者は會社と結約し若干の保險料を會社に納むれは何時死亡するも會社に於て其家族に約束の金額を支付するか故に會社の保險を受るものは死後の慮りなきことを得へきなり今夫れ一家の勞働者たるもの己れ若し死亡せし時の爲に遺族の扶助金を貯蓄せんとするには必す許多の歲月を經過せさる可らす然とも此人命保險法に依れは一旦會社と結約し一回若くは數回にても保險料を支付せし後は其人直に死亡するも約束せし會社の義務は依然として消滅せす故に死者の遺族は條約に從ひ其扶助

金を會社より收受するを得へし夫れ人命保險法の有用にして闕く可らざるや此の如し火災保險法も亦緊要にして設けさる可らすと雖も家屋財產の保險を約して火災の憂を救ふは人命保險を約して其遑く可らさる死亡の憂に備ふるの急なるに如かす世間の事千態萬狀因より殫め期し難し故に今日其妻子の爲に衣食住の計を爲すのみを以て義務と爲す可らす一旦疾病死亡等に依て妻子眷屬を養ふ能はさる時の豫備を爲すも亦以て義務と爲すへきなり而して人命保險法は亦幾分か人命の長短を平均するの一法とも稱すへし何となれは此法に依れは健康にして長壽なる者は薄弱にして短命なる者を扶助するか故なり又此法に依れは短命にて死せし人の遺族は長生する人の餘禴を被るを得長生する者は長生の益を得たる上に又保險の利を得へし抑々人命保險法の由來する主旨は近今纔に之を發明せるものなり凡そ物の定期す可らさるもの人命に如くはなし然とも若し數萬の人員を總括して之を計るときは某年齡の人若干數あるの內其幾人は第三年に及て死すと爲し其他此に准して豫め死亡すへき數を精算し其平均を得て同年齡の各人に因て生命期限と名くるものを知る之を概言すれは人の壽夭は固より定む可らすと雖も人員の總計と其額て生活する景況とに因て之を測れは以て生命の期限を算し得へし例へは其國に居住せる人衆中二十五歳未滿の者十萬人ありとせは其明年中に死すへき者一千五百人なるへし即ち一百人にして一人半の比例なり今此十萬の人員協力同心して一社を結ひ其一年間に死する一千五百人の寡婦或は其嫡子に各々一百磅の私有金を得せしめんとせは其合計十五萬磅の協同資本を充備すへきの金額を出さしめさる可らす即ち一千五百人に一百倍するの金額にして各人當に一磅一志五片を出すへし故に其本年中に死する人は其出せる元資を除して九十八磅一十八志七片の利益を得へきこと明かなり然とも生者に在て毫も損失あるにあらす蓋し此人等も若し死すれは亦其利益を得るに由るのみ下に揭くる所は人命保險法の極めて簡易なるものにして又人命保險の要旨を了知するに足るへし△夫れ人命保險は數年の後を期して之を辨了するものとす蓋し世人の多く欲する所は其在世の日に當り若干金額を幾年に配賦して之を定償し以て他日長逝の時に至り必す若干の金額を保有せんとするにあり其被保人の年齡固より同しからす幼者は老者よりも少衆なるを以て至當となす則ち各個の年齡に應して元資の金額を定むへきなり其漸次資財を出すは乃ち數年の後に及て其將に得んとする所の金額を今日よりして之を償ふの理なり故に其之を管掌するの局は現に巨萬の資本を蓄積するを要す而して保險利害の係る所は專ら資本を利通して其息を得るに在るのみ其息貰けれは資本速に增加するを以て被保人より出す保險料も亦更に減少するを得へし△人命保險會社に協同會社あり持主會社あり混合會社あり協同會社は被保人も亦社中の一員にして若干額の保險資を出す者は其事務に與かるの權あり故に社中商議して其長を立つ此社の方たる他人の命は已れ之を保し已れは則ち他人に保せらる是れ彼我の同志せる會社なり故に其餘贏の金額は社の有に非すして被保人の有に屬し齊く其社中に配分すへきの金なり又此社は每年定額の保險資を出さしむるの外に若干の分賦を課す是れ不慮の損失に充るか爲めの豫備金たり故に不慮の事故なくして會社の事務共に擧るを得れは此豫備金は到底其本人に還付し以て其人の保險年期を多くするの資本に當つ蓋し此法に依れは被保人は皆儼然たる一個の財主たり故に每歳の首に當りて若干額の養金を出すへきを約定し而して其物故する時は牟來出せし金額と其利金とを合て之を受くへきの例なり持主會社は一體の持主か資本を醵集して保險料の不足せる時に要求金の支付に供する會社なり而して持主は其資本の利息の外に保險より生する利益をも受るものとす故に適當なる計表を用て保險料を收め且創業の始より相當の被保人有るときは此資本金の無用に屬することは明なり而して今日尙斯る會社を顧はんとする理由は唯一に其保險料の廉價なるに在るのみ蓋し被保人に在ては會社の如何なる方法を以て保險金を支付するも豪も介意せさる所にして卽ち會社の資本は或は減少することあるも被保人は已れの支付を受る能はさることを除くの外毫も顧慮する所なきなり而して保險料の廉なる故を以て純粹の持主會社に誘致せらるゝ人の如きは其意唯仝く此に出るに外ならす夫れ虛稱資本は毫も必要のものに非すして會社の鞏固なると否とは其付託せらるゝ保險數の多寡にあるなり混合會社は其法制持主協同兩局の旨意を折中して設けたる會社にして其事務は專ら財主の管理する所なり然とも會社の利益は遍く之を其社中に分配し被保人も亦之を受るの權義あり但事務管理の諸費を除却し其餘



を五分し其四分を分配するは諸局の通例なり△人命保險の精粗は專ら能く既知數（既に知る所の分量を以て未た知らさるの分量を知るへきの法なり）を知ると知らさるとに關するものなり往時の保險局は既知數の知識猶淺薄なれは其課する所の保險金も大に差等ありたれとも方今は善く死亡の既知數を了解す故に某死せは某の家族得へき所の金額若干圓は今年より之を出さしむるに每歳若干圓を課して至當なるや其計算頗る精密を得るに至り由て以て保險金の比例を精細に計算し得へし然とも資本金の利子の計算も亦其中に合算すへし蓋し利子は屢々低昻ありて常に一定し難きものとす故に保險の事たる頗る粗雜に屬すと雖も其方法は方今稍や準繩に適するの理を究明せりと云ふ△金利の比例は每歳の保險金を增殖せんことを冀望するものなり蓋し此一事は人命保險の事務中他の事項の如く判然確定すへきものに非す諸家の意見も亦大に相異なり一千八百二十九年ヒンレソン氏の議案に曰く利息の比例は數十年間百般の昇降を經て然る後平均四分の割合の金額を蓄積するに至らんことを期して俟つへきなり蓋し實地上に在て從來蓄積せる金額は一千八百三年（我享和三年）以降或は一千七百八十三年（我天明三年）以降を計算するに一毫も其數の異なる所あるを見すして其比例必す四分五厘に富れりと又デモルガン氏は近年の最高と爲せる三分の等位に着眼して三分五厘以上を以て計算し難しと云へり△人命保險計算の例は英制のノルスアンプトン表（有名なるドクトル、ブルス氏一千七百三十五年より一千七百八十年に至るまて凡そ四十六年間ノルスアンプトン城邑の某寺區（パリシ）に於て其區內の死亡せる人員を記載せしものに原きて作れる表なり）に從へは元員一萬一千六百五十人にして九十の年齡に瞵る人員は四十六名に過きすと爲す蓋し此表は人の命期に符合せさる所あれとも今人命保險計算の例を示さんか爲め假に此表に由れは現員四十六人にして其十二人は初年に死し其十人は第二年に死し其八人は第三年に其七人は第四年に其五人は第五年に其三人は第六年に死し最終の一人は第七年に及て死するものとす乃ち試に此四十六人中九十の年齡に達して終に死者をして各々一百磅の金額を保有せしめんか爲に一社を設くるものとせは人命保險計算の的例を示すに最も便利の法あり卽ち社中要する所の金額は法を設て其全數を初年に產殖し之を整頓處分して凡そ臨時の需用に應用し資本をして毫も缺減するの憂なからしむるなり此計算に由れは資金の增殖は三分の割合卽ち以て其利子と定めたり以上の法は會社設立の始に在て保險金の全額を出すものなり乃ち亦下に揭けたる如く四十六名の社員初年に死する者には一千二百磅を償ひ第二年に死する者には一千磅を償ひ第三年に死する者には幾百磅を以てし漸次に其社中に值却せんと欲せは各人目下出すへきの資本金額は幾何にして至當なるやを定ることを得へし

右の金額を四十六人に課する時は會社設立の時に當て出すへきの金額每人

年々順次に死亡するものに償却する爲めに準備すへき金額表

| 年々順次に死亡するものに償却する爲めに準備すへき金額表 | 年數に應し其金額に三分の利子を乘して之を引去りたる殘りの金額表 |
|---|---|
| 初年の季 一千二百磅 | 一年間一千一百六十五磅一志 |
| 第二年の季 一千磅 | 二年間九百四十二磅一十二志 |
| 第三年の季 八百磅 | 三年間七百三十二磅二志 |
| 第四年の季 七百磅 | 四年間六百二十一磅一十八志七片 |
| 第五年の季 五百磅 | 五年間四百三十一磅六志 |
| 第六年の季 三百磅 | 六年間二百五十一磅五志 |
| 第七年の季に至り殘る所の一百磅を值却すへき金より七年間の利子を引去りたる金額 八十一磅六志二片 | |
| 總計金額四千二百二十五磅一十志九片なり | |

九十一磅一十七志二片なり（卽ち保險料と名くるものなり）而して此九十一磅一十七志二片の金額は卽ちノルスアンプトン表に基き且又之に三分の利子を乘し九十の年齡に至て一百磅の資金を得んか爲に殖する所の金額なり此の如き會社を設立し其社中四十六名より出すへき金額四千二百二十五磅一十志九片なる時は乃ち七年の後に社中悉く死亡して其會計を消却するに至るまて其事務を管理すること當に如何すへきや其方法も亦難め之を算せさるへからす

四千二百二十五磅一十志九片の資金に三分の利子を乗すれは毎年の額即ち左の如し

| | |
|---|---|
| 初年の季 | |
| 此内初年死亡する十二人の受くへき金額 | 四千三百五十二磅五志二片 |
| 第二年の初に社に殘る資本金 | 一千二百磅 |
| 此資本に一ケ年の利子を加へたる總額 | 三十一百五十二磅五志二片 |
| 此内本年死亡する十人の受くへき金額 | 三千二百四十六磅一十六志八片 |
| 第三年の初に社に殘る資本金 | 一千磅 |
| 此資本に一ケ年の利子を加へたる總額 | 二千二百四十六磅一十六志八片 |
| 此内本年死亡する八人の受くへき金額 | 二千三百一十四磅八志二片 |
| 第四年の初に社に殘る資本金 | 八百磅 |
| 此資本に一ケ年の利子を加へたる總額 | 一千五百一十四磅八志二片 |
| 此内本年死亡する七人の受くへき金額 | 一千五百五十九磅一十六志八片 |
| 第五年の初に社に殘る資本金 | 七百磅 |
| 此資本に一ケ年の利子を加へたる總額 | 八百五十九磅一十六志八片 |
| 此内本年死亡する五人の受くへき金額 | 八百八十五磅一十志五片 |
| 第六年の初に社に殘る資本金 | 五百磅 |
| 此資本に一ケ年の利子を加へたる總額 | 三百八十五磅一十志五片 |
| 此内本年死亡する三人の受くへき金額 | 三百九十七磅一十志八片 |
| 第七年の初に社に殘る資本金 | 三百磅 |
| 此資本に一ケ年の利子を加へたる總額 | 九十七磅一十志八片 |
| | 一百磅 |

此内本年死亡する一人の受くへき金額　一百磅

蓋し人命保險の實地上に在ては九十年等の高年を保することなく通常六十以下の年齢に限れり被保人は概ね二十七年より四十年の間にあり是れ則ち人人初て家族を保養する責任を了知するの年期なり然とも上に歴載する所の方法に據れは各種の年齢の計算も亦爲し得へし蓋し保險會社にては某年齢の人々は合同して互に其命を相保する所の特殊の一群と看做せり例へは齢三十年の一群人初年には若干員死亡し第二年には若干員死亡するや順次其比例を計算す抑々又會社にては利上利の蓄貨（コンポーンド・インタルエスト）を合せて當に此一群中の各自に償却すへき保命金額の元資を各人に賦課するに當り設立の際一時に之を出さしむると或は年々に之を出さしむるとの二方あり此二方の間會社一般の得失に於ては毫も異なることなし然とも衆人は年々之を出すを以て便宜となせり（以下火災保險及び海上保險の設明を爰には省略）○變難保險法は不慮の災難ある時に當て人人要する所の費用を容易に得せしめ被保者をして直に其産業を恢復するの便を得せしむるものなり故に變難保險法に由れは人々少許の保險料を保險會社に納れは一朝不慮の災難に罹るも父母妻子眷族をして一切衣食住の憂なからしむへし是れ即ち變難保險の主旨なり而して此法を實行せんとするには其保險證書を被保者に與へ其證書に記載せる不慮の災難に依て死する者あらは速に約定の金額を支付すへく而して被保者死に至らされとも多少屢疾と爲るの間は本人の納致せし年々の保險料の多寡に從て毎一周に其扶助料を約すへし但保險料は被保者の身位職業に因て變するものとす○海上變難の保險は航客の海上變難に罹り死亡する時の保險を約するものにして一回の航海中を限るものとす○鐵道變難の保險は片道若くは往返を約し或は一箇月より十二箇月までの間を約し或は五年若くは十年又は終身を約するものあり（以下明治生命、東京海上、二社の記事省略）

# 保險の要旨（鈔）

東京經濟雜誌所載
明治十七年九月二十七日發行
第二百三十三號以下續載

保險の隆否は大に國家の利弊に關係するや復た言を俟たざるなり今や我邦幸に既に生命保險、海上保險の開設せるありて而して火災保險の開設を見るも蓋し亦遠きに非らざるべし故に三保險の鼎立して盛に行はるゝに至らんこと又敢て遠きに非ざるべし然らば即ち今の時に方りて豫め歐米に行はるゝ保險の仕組を溝究し以て他日の資に供せんこと尤も緊要なるべし因て英人マックロック氏著はす所の商業辭書并に其他二三の書に就き保險に關するの要旨を纂譯し以て大方の參考に供すと云ふ

## 保險の要旨

保險とは英語之を「インシューランス」と云ひ損害を償ふの契約にして一方の者が約定の金額を得て他の一方の者の爲めに其冒かす所の危險を擔保するものなり而して自から此危險を擔保する人を名けて「インシューラー」（保險人の義）「アッシューラー」（生命保險人の義）若くは「アンダーライター」（亦保險人の義）と云ひ保險せらるゝ人を名けて「インシューアド」（被保人の義）若くは「アッシューアド」（生命被保人の義）と云ふ又保險を得んが爲めに支拂ふ金額を「プレミューム」即ち保險料と云ひ保險の契約書を名けて「ポリシー」即ち保險記書と云ふ

余嚮今左の四項に分ちて保險の主意を略說すべし即ち第一保險の一般原理第二海上保險、第三火災保險及び第四生命保險是也

抑々損失なるものは心らずしも偶然の事情よりして發生するものにあらず個々人の罪惡過失によりて惹起せらるゝこと屢々之れあり而して本源より生ずる損失を豫防せんとするには緊密なる警察法を設け被害社をして成るべく手數と費用とを要せずして回護を得せしめ且成るべく罪人の刑罰を確保するが如くに法律を施行するに如くはなし然れども政府が戯意して人民の保護に務むるに拘はらず又各個人の汲々として注意を怠るなきに拘はらず火災、破船其他不慮の禍難と千百の變故よりして財産に損害を來すこと曾て止むときあらざるなり是れ則ち斯る避け難き損失の生じたる時如何にせば其害をして最も少なからしむるを得べきやを考察するの緊要を生ずる所以なり

蓋し船舶を亡失するが如き槍摩機を燒盡するが如きは頗る重大なる災害にして豪富の人と雖も尙ほ大ひに痛苦を感ずる所ならん然れども若し此損害を以て數人の間に配分せんか各々之を感ずること稍々少なかるべし而して損益の配分を受くるもの其數頗る夥しき時は則ち誰れありて殆んど苦痛を感ずるものなきに至るべし是れ則ち不慮に財産の破壞せらるゝより生ずるの損失を減少せんが爲め人々結合するの利益ある所にして而して保險の業に從事する者の務とする所は廣濶なる範圍に損失の危險を分散し且つ其危險を估價するに在るなり

夫れ不慮の變故を惹起する事情の如きは假令ひ能く追究すべきにあらずと雖も尙ほ其變故の某の定則に遵依して發生するを見るなり例へば出生、結婚、死亡の數の如き男子と女子の割合及び正出兒と私生兒との割合の如き破船燒屋の數の如き其他數多の不慮の變故の如きと雖も尙ほ充分廣濶なる區域に亘りて經驗に徵するときは則ち時限相ひ同じければ其數亦殆んど相同きを見るなり故に之に就きてなされたる觀察よりして一個人が已れの財産に保險を得又は其死後に至り相續人に若干金を得せしめんが爲めに支拂ふべき金高を算定するは敢て難しとなさゞるなり

然れども斯の如き變故の概算たる頗る廣濶なる基礎によりて爲されたるものにあれば容易く之れを信用すべからず是れ宜しく注意すべきなり例へば一千の家數ある一府に於て本年間一家の不慮に燒盡するありと假定せよ是れ該府に於て火災偶發の數は平均一千軒に付き一軒の割合なりと推斷するの基礎となすに足らざるべし何となれば則ち前十ケ年間に一家だも燒盡したるを見ざることなしとすべからず又十ケ年間年々十家の類燒したるを見しことなしとすべからざればなり然れども十ケ年間を平均して年々一家の燒失したるを確知せられたりと假定せば火災偶發の割合は千軒に付き一軒なりとの推斷も

頗る其眞に近きものならん又若し二三十年間を平均して然るを見る時は則ち此割合たる凡て實際上の目的に取りては詳密に火災偶發の度を表示するものと看做して不可なることなかるべし

且夫れ凡そ變故の偶發を量り知るべき眞成の尺度を得んとせば稍長久の時限に亙りて同類の變故を觀察するの必要あるのみならず又其變故は夥多にして屢々發生するものたるを必要とす今まし若し全國の人口中に就き一百萬人の間に發生する出生死亡の數を觀察するに人間の壽命は平均四十歳なるを見たりと假定せんに之れを以て其中十人二十人乃至五十人の場合に於ても其命數の平均此割合に居らんことを決定するの根據となすこと能はざるべし斯の如く人員の甚た寡少なるときは其間に平均法（ローオフアヴレッヂ）と名くるもの、作用を許さゞるなり蓋し多勢の生命に就て之を見る時は平均の命數に超ゆるものは之れに下るものによりて償はるゝと雖も人員の寡少なるときは則ち對價の原則（プリンシプルオフコンペンセーション）（平均に超ゆるものと平均に下るものと互に相償ふの原則を云ふ）をして其作用を現はさしむること能はざるなり故に其結果は決して信依すをこと能はざるなり

人口調査の能く行き屆きたる各國の經驗に據るに出生する男兒と女兒との割合は殆んど二十二と二十一との割合なるを見るなり然れども甚だ廣大なる區域に就きて觀察するにあらざれば決して此結果を得ること能はざるべし試みに某々の家族を見よ或は兒子の全く男子より成るものあり又或は全く女兒より成る者あり故に某一家の男兒と女兒と必らず二十二と二十一との割合なることは實際決して見ること能はざる所なり然れども吾人若し某々の家族將た一小區に其觀察を限らずして五萬の人口を包括するが如き廣濶なる區域に其觀察を及ぼすあらば決して斯の如き區々なる事なく掃地必らず女子に比して男子の數の少しく超過するを見ざるはなし

保險の業務は則ち斯く簡單に設述したる原則に基きて起りたるものなり今まし若し堅牢の度尋當にして某の航業に使用せらるゝ船舶四十艘の中年々破壞するもの一艘あること確知せられたりと假定せよ然らば則ち損失の偶發は明かに四十分の一に等しかるべし故に若し人此航業に從事する船舶若くは之れに積載せる貨物を保險せんことを欲せば其保險せらるゝ金額と外に保險人に其煩勞を償ひ且相當の利益を與ふるに足るの金額に等しき保險料を支拂はざるべからざるなり若し保險料の此金額に超過するあらば保險人過分の支拂を受くべく若し其の之れに下るあらば彼れ不足の支拂を受くるなり

保險の業は或は會社之を營むあり或は個々人之を營むありと雖も孰れの場合に於ても損失の危險を以て夥多の人員間に配布せざるはなし蓋し保險の業を營まんが爲に設立せる諸會社は概して巨大の呼額資を有せり卽ち何時にても困難なくして損失を辨償するに要せらるゝ幾何金高をも募集し得るが如き數多の株主を有するなり故に此種類の會社は些少の金高に其保險を限らずして屢々一の船舶家屋若くは生命等に對して巨大の金高を保險することを辭せざるなり而して其資本の巨大なるものは重大の損失を蒙むるも容易に之れを支辨するを得べし又其保險料は危險の度に準じて之を定むるが故に其利益は平均の上にて個々大損失あるが爲めに影響せらるゝの恐れなき也然れども各個人に至りては甚だ巨大の資本を有するに非ざれば決して斯の如き方法に於て働くこと能はざるや明かなりとす且れ巨大の危險を引受くるときは此業をして甚だ危險なるものたらしむるが故に之に從事せんと欲するもの必ず甚だ少なかるべし故を以て凡そ一個の保險人は一船に對して二萬磅の如き大金を保險することを爲さず尋常の場合に於ては必しも二百磅若くは五百磅に超ゆるの危險は引受けざるならん是故に假令其引受けたる保險金額を合算すれば二萬磅の多きに至るべしと雖も此金高たる四艘乃至百艘の船舶間に分りたるべくして而して其中一二艘の亡失するありと假定するも其損失は資本を傷くるに至らず唯其利益を減ずるに過ぎざるべし會社の保險を營むと各個人の之を營むとは其方法を異にすること斯の如しされば一會社に就て一船の保險を得んとすれば唯一個の取引にて辨ずべきに「ロイド」保險社中若くは各個人に就て同一の事を爲さんとせば十個若くは二十個の取引を爲さゞるを得ざるべし然れども斯く用心深き方法に於て處辨するあらば保險の業たる其安全なること各個人の能く營み得べきこと他の投機營業に異ならざるなり

蓋し被保人より得る所の保險料をして保險人の胃かす危險と幷に其の被むる諸入費（利益金より此の中に在り）とを十分に償ふを得せしめんとせば上に設示するが如く稍々廣大なる區域に亙りて危險を配分することの經歷あら



んを要するなり然れども通常の場合に於ては保險人若くは被保人の孰れにても保險の題目となさゝるゝ變故を生ずるの事情を穿鑿するが如きは卷も必要の事にあらざるなり斯の如き事を穿鑿するは實に唯費するのみにして更に其効果なかるべし吾人は現に全く此等變故の原因を知るものにあらず且將來と雖も必らず續いて然らざるを得ざる也

スコレスピーの著はせる北海見聞書と題する有益なる書中に記載せる所に據るに一千八百十七年を以て終る四年間北海に出でゝ鯨漁を營まん爲め大英國の諸港より出帆したる漁船五百八十六艘中亡失せしもの八艘ありて漁船七十三艘毎に凡そ一艘の割合に當れり今まこれを以て平均の損失と假定せば斯る損失の保險を得んが爲めに要するの保險料は保險金額百磅に就き一磅七志四片なることを知るべし尤も是れ既に設述したるが如くに保險人の費用と利益とを算入せざるものなり而して斯の如き相當なる原則に基きて取引を爲すあらば保險人被保險人共に必らず利益するならん蓋し保險人の行務にして頗る手廣く而して其冒險にして夥多の船舶に擴がるあらば其利益は不定にして變故の爲に左右せらるゝものにあらず其確定不動にして能く殫屈するを得んこと製造人若くは商賣の利益に異るなかるべし又他の一方に於て其財産に保險を附したる各個人も一切損失の危險を之れに免かれしむるを得て恰も之れを泰山の安きに置くが如し

以上簡單に設述する所に就きて之を見れば海上保險の慣例よりして航海上及び貿易上に生ずる利便の廣大無邊なるを知ること寔に容易なりとす蓋し海上保險法の與ふる幇助なかりせば其財産を賭して險難なる長途航海の危險を冒かさんとする人を見ること甚だ少なかるべしと雖も此方便の存するあるが爲めに不安全を變じて安全となし各洋海に其船舶を浮べて海上に發する凡ての危險に當らしむる商人の資本の安全なるは猶ほ農業者の資本の安全なるに同じきなり故に彼等の事を企て計を立つるや恰も最早變故に遭遇するの恐なきが如くに之を爲すを得て破舟其他不慮の變故に由りて損失を生ずる危險の如きは一切其計算中に入るを要せざるなり卽ち彼は斯の如き禍難より生ずる損失を避くるの保狀を購得し而して安全の惑學あるにあらざれば得て有すべからざるの信用と氣力とを以て自から其業務を進興することに從事するなり

自然の原因の作用によりて惹起せらるゝ變故よりして生ずる海上の危險幷に損失を保險するの外に敵國、海賊、窃盜の所爲は勿論船長の詐術卽ち科語上所謂「バルラトリー」と名くるものをも保險するは通例の事也とす然共此等の禍因より生ずるの危險たる極て浮沈不定にして苟も詳密に之を算定するが如き容易の事にあらずして而して大抵の場合に於ては唯大略の平均を得んことを期し得るに過ぎざるのみ且夫れ戰時に於ては保險料の浮沈殊更甚しとす例へば敵國の一艦隊若くは唯一巡邏船ありて某港に往復せる船舶の通例經過する海路を巡邏するの風聞あるや忽ち一齊に保險料の割合を騰貴せざるはなきなり而して戰時商船を保護せんが爲め護送軍艦の命ぜらるゝあれば搜援を受くるの危險を感ずるを以て必らず保險料の割合を減少するの傾向なくんばあらずと雖も而も尙ほ戰時に於けるの危險は大抵甚だ大なるものにして且つ突然變狀を來たすの恐れあるが故に保險人に在りては大に滅意せずんばあるべからざるなり

火災より生ずる損失の如き其他陸上に在る財産の遭遇する凡ての禍難の如きも大抵保險の方便に由りて亦之れに備ふるを得るなり

保險の社會に鴻益あること右設述する所の如し然れ共海陸に生ずる損失を保險するの慣例よりして得らるゝ所の便益たる全く弊害を混ぜざるものにあらざることは決して爭ふこと能はざるなり蓋し保險の人に安全を得せしむるや其亡失を恐れて發起すべき所の財産保護の注意を解弛せしむるの傾向なきを得ざるなり然れども是れ保險より生ずる弊害の最も甚しきものにあらず英國諸裁判所の記錄を閲するも又手廣く保險の業を營む凡ての人々の經驗に據るも保險人を欺かんが爲めに屢々故らに船舶を覆沒せしめ家屋を燒燬せしものあるを證明すること甚だ明かり是れ其弊害の最も大なるものとす然れ共斯くして注意を怠らしめ又詐欺を行はしむるの誘因となるに拘はらず一個の人の上より見るも公衆の上より見るも保險の斷じて利益あること決して疑を容れざるなり蓋し個々詐術を行ふものあるや爲に幾分か保險料の割合を鑒査せしめざるにもあらずと雖も尙ほ其割合たる極めて低少なりとす且つ就中火災の大害を醸す所なり大都會の保險會社に於て採用する豫防法の如きは人をして一層注意を欠き惡事を行はしむるの傾向あるよりして生ずる火災增發の危

險を信ふて尚ほ餘りあるや決して疑を容れざるなり

從來生命保險の盛なる英國を以て其最とす而して英國亦最も其便益を蒙れり蓋し生命保險に數種あり云ふ左に之を略說せん夫れ身倘るべきの親戚なくして唯些少の資產を有するに過ぎざる人々の如きは其位地の然らしむる所勢ひ或は年々其資本に喰ひ込まざるを得ざるなり然り而して若し斯の如き人にして等當の命數に超えて生存することあらば貯財漸く竭きて老後卒に全く餘命を繼くの資金なきに至らんこと必せり因りて斯の如き不幸に遭遇するを豫防せん爲め彼れ其資本の全部若くは一部を保險會社に支拂ひ約するに其生活する間該會社より年々己れに若干の年賦金を支拂はんことを以てするなり而して此年賦金の高たる一は其拂ひたる金高に比準し又一は其の年賦金を約する時の年齡に比準して多少あること因よりなり之れを名けて終身年賦金と云ふ夫れ斯の如し故に此種類の生命保險たる個々人に利益あること因より言を俟たずと雖も公共の上より見れば果して眞に社會に利益ありや否や是れ聊か疑なきを得ざるなり夫れ生命保險の設あるや其影響する所人をして蓄積の念を弱からしめ而して其子孫の衰枯を慮らず己の生界悉く其資財を消磨せしむるに至るの傾向なきことを得ざるや明かなりとす若し斯の如き風習の一般社會に行はるゝに至ることあらん乎是れ極めて有害の結果を生ぜざるを得ざるべし勿論世人大約其家族朋友の幸福を思はざるはなし故に此人情や以て稍々能く斯くの如き風習の一般に擴布して有害の結果を生ずるを防ぐに足らん然も尚大英政府が終身年賦金を賣ること又一層非難すべき事たり

「トンチ」（生存者に益ある終身年賦金にして數人にて年賦金を聯ひ其中死する者あれば其股分は生存者の有となるもの）を賣りて以て公債を募るが如き不要の方便を以てするあれば此利己の風習を益舞するに至らんこと殆んど疑ふべからざるなり此種の生命保險たる非難を免かれざること斯の如し然れども政府此類の干涉を施し外部より斯の如き風習に奬勵を與ふるあるなくんば個々人或は諸會社が年賦金を賣るを見て大に蓄積の念を弱からしめんことを恐るゝが如きは殆んど杞憂に屬するが如し

且夫れ幸にして前述種類の保險の如きは蓄積を目的とするものに比すれば殆んど九牛の一毛に過ぎざるなり凡そ專門の業に從事する人若くは俸給々料に倚りて生活する人例へば代言人醫師陸海軍人幷に諸官衙會社の書記等の如きは其得る所因より其生命と共に盡きざるを得ず又許多の人々の如きは妻本を有せざるか將た之を有するも己れの隨意を以て之を處分すること能はざるものあり故に以上諸人の如きは人情の然らしむる所己れの死後に至りて其家族に快樂の治計を遂げしめんが爲め其力の及ぶ丈能く豫め之れに備へんことを願はざるを得ざるなり而して玆に醫師若くは代言人あり更に資產を有せざるも其業に因りて能く一歲一千磅乃至二千磅を儲くると假定し又其妻子眷族を有すると假定せんに若し此人にして人間平均の年數に至るまで生存せんには己れの死後に至りて豐かに其家族を養ふに足るの資產を蓄積せんこと敢て難しとなさゝるべし然共誰れか能く果して斯の如くなるべしと云ふを得ん乎焉くぞ知らん彼れ亦許多の人の如く通則に外づるゝの一人にあらざることを然り而して彼れ常命を保たず天早く世を終ふかと假定せよ其家族は必らず窮乏に沈まざるを得ざるなり乃ち生命保險の主として計畫する所のものは則ち斯の如き瞞縫を豫防せんとするにあるなり蓋し其命と共に盡くるの歲入を有する人は年々保險會社に若干の金額を拂はんことを期し而して會社は又之れに代へて其死後其家族に若干金を拂はんことを甘諾するなり此若干金は則ち此被保人が常命を保つ者と假定して此年々の拂込金の利倍して重加したるもの（保險人の措辦費と利益とを差引き）に等しきなり而して假令彼れ保險の約束完結するの後ち其日直ちに死去することあるも其家族の爲めに豐かなる準備の存するは恰も彼れ能く常命を保ちて其間蓄積に勉めたるに異たらざるなり蓋し何れの場合に於ても被保人平均の命數を保たずして死するときは其利すること因より言を俟たざるなり而して假令彼れ常命に超えて其生を保つの場合に於ても尚ほ且つ決して損失をなさゞるなり此場合に於ては彼れ久しき間續いて年々保險會社に支拂をなさゞるべからずと雖も此支拂をなすや然らざれば其養きに得ること能はざりし所の安全を得たるが爲めのみ卽ち保險の約束の成りたる時より人間平均の命數に達するまでの全時間彼れは家族に充分の準備を遺さずして死するの危險を免かるゝ者にして而して此平均の年數を過ぎたる後其支拂ふ所の金高は其養きに受けたる安全に對する相當の報償たるに外ならざるなり今夫れ家屋に火災の保險を附す人々を見るに現に損



失を受けたるの際を以て賠償を要求する者あるは千百人中僅かに一二人に過ぎざるなり然も尚ほ一朝不慮の災に罹るも損失を生ぜざるの安全を得るは凡そ用心深き人をして其家屋に保險を附せしむるの充分なる誘因となるなり然り而して生命保險の場合に於ても亦何れの點より見るも決して之に異ならざるなり若し其の適當なる基礎に據りて確立せらるゝを得ば平均の年數に超えて生活する人が拂ふ所の金高の如きは唯其養きに受けたる安全の價たるに外ならざるなり

蓋し被保人より支拂ふ所のものをして多きに過ぎず又少きに失せざらしむるが如くに保險の約束を調理せんと欲せば成るべく詳密に其生命の豫望を確知せんこと最も緊要なり

然り而して此豫望を確知せんが爲古今各國に於て種々の觀察を盡し某國若くは某地に出生せる若干人の中にて全數の悉く死滅するに至るまで其後毎年生を全うするもの幾何又其命を終る者幾何なるやを表示せり斯の如き觀察の結果を蒐集して計表の體に整へたるものを名けて死亡計表（ビルチフツセルタリー）と云ふ之れに信用を置くの多少は觀察せられたる生命の數、種類と觀察を行ひたる時期幷に觀察に用ゐたる注意の度等に準すべきものなるや勿論なりとす然れども此等の計表にして充分の詳密を得たるものと假定すれば之れに就きて某齡の人の生命の豫望卽ち其年齡後其生命の平均繼續の年數を知ること寔に容易なかるべし從て又某齡の生命に對する一の年賦金若くは保險金の價格を知ること甚だ易しとす例へばカーライル死亡計算表は「サン、ライフ」保險會社のミルネ氏の編製する所にして英國に於ける平均死亡の定則を表明すること頗る詳密を得ると信用せらるる者なるが此計表に據れば出生せる人一萬人中にて五十六歲の年齡を全うする者四千人なることを示し又此年齡を保つ人々の中六十六歲の年齡に至りて死する者百二十四人なることを見るなりされば今ま五十六歲の年齡を有する人が其後十年を全うして死するの豫望は四千分の百二十四なるべし今ま年利を四分と見積れば今後十年目に至りて受取るべき金百磅の現價は六十七磅五五六なることを知る故に若し百磅の金を受取ると否らざるとは今ま五十六歲の年齡を有する人が六十六歲の年齡を全うして死すると否らざるとに據るとせば此百磅の現價は減じて $\frac{124 \times 97.556}{4,000} = 12.094$ 卽ち二

磅一志十片半となるべし各年齡に對する保險料の割合等を計算せんが爲には實際一層怪漉なる手續に倚ると雖も上に說述する所は以て充分に其由て立つ所の原則を說明するに足れり而して實際に於ては生命保險の約束を結ぶに一回に保險料の金額を支拂ふこと極めて稀にして大抵保險の始まる際第一回の入金を爲し其後年々の保險料を入金するを常とす（但此等保險料の割合を計算するの方法は載せて本社出版泰西政治類典年賦金の項下に詳なり讀者宜しく就て見るべし）蓋し保險人の採用せる死亡計算表にして若し被保人の間に行はるゝ死亡の定則を至當に示すものならんには被保人若し其死亡計算表に定むる平均の年齡に達せずして死去する者あらば保險人彼が爲に損失すべし良しや損失せざるも其收むる利益は尋常の利益より少なかるべし之に反し被保人若し此平均の命數に超えて生存するあらば保險人の利益は之れに準じて增加せんこと理の最も覩易き所とす然れ共若し保險人の業務にして頗る手廣に亘り平均の定法をして充分の活用を爲さしむるが如き者なる時は卽ち被保人中に夭死する者あるが爲に失ふ所のものは其中平均の命數に超えて生存する者より受領する所のものを以て能く之を償ひ得べきなり故に其會社の利益は毫も變故の爲に增減するの患なかるべし

抑々生命保險の行はるゝや人をして無慮苦心を免かれしむるを以て自から被保人に長命を保たしむるに資助すること甚だ少しとせず且之れと同時に被保人に倚額する人々の幸福快樂を大に增進するなり加旃蓄積の習慣を鞏固ならしむるの傾向あるや明かなりとす蓋し其生命に保險を附したるの人にして若し續いて規則正しく年々の入金を爲さゞることあれば悉く其保險より得るの便益を沒收せらるべし故に其平生費やす所を省きて年々の入金を爲すに足るの金高を餘すことは全く彼の隨意に出づるにあらずして重き罰則あるが爲に勢ひ然く爲さゞるを得ざるなり斯くの如くにして彼れは或る度に至るまで貯約の習慣を養成するに至るを以て此習慣の益々勢力を得て卒に彼れをして更に若干額の保險金を聯はしむるか將た私かに蓄積をなさしむるに至らんことを殆んど疑ふべからざるなり

海上保險の事たる火災保險生命保險に先ちて久しく世に行はれたるものゝ如し是海上に於ける財產の非常の危險に因るや疑なきなり蓋し吾人は海上保

險の始めて世に行はれたるは何れの時代に係るや得て之を詳かにすること能はずと雖も其の第十四世紀の末若くは第十五世紀の始よりして行はれたることならんと思はるゝなり然れ共ロクセニアス及其他の記者は主張して曰く海上保險の由來たる一層古代にありて「パニック」戰爭（羅馬とカルセージ人との間に起りたる三大戰役あり之を名けて「パニック」戰爭と云ふ）の歷史中に於て其形跡を搜索するを得んと蓋しリヴイーは記載して曰く此戰爭の第二役間に糧食軍備を輸送せん爲め羅馬人の使用せる受負人等は羅馬政府と約するに航海中敵國若くは風波の爲めに惹起せられたるの損害を已等に賠償せられんことを以てせりと而てマリネスはシユートニナスの書中に載する一章に基きて說を爲し曰く海上保險の初めて世に行はれたるは羅馬皇帝クラウヂアスの時にあり卽ち同帝は羅馬に於て貯穀の欠乏を告げたる時穀物の輸入を奬勵せんが爲航海中激浪風波の爲め穀船に生じたる凡ての損失を自から代て辨償したりと然るに此約束たる今代に於て屢々目擊する所のものに等しき詐欺の行爲を發せしむるに至りたるを見るは亦奇と云ふべし卽ち實際決して破船の發せざるに破船ありと揚言し又腐壞せる古船に些小の物品を載せて故らに之を覆沒せしめ水夫は小舟にて難を避け然る後其損の報償として巨額の金圓を要求せしこと間ま之あり後ち數年を經て此詐術は漸く發覺する所となり受負人中或は爲に告訴せられて罰せられたる者あり然れ共リウイー、シユートニナス等の記載する所と雖も又はシセロの書翰中に記載する右に類するの事と雖もロクセニナスリネス及び其他の諸氏が之に基きて立てたる論定を證するの資となすに足らざるなり夫れ保險の事たる二個人の間に成るの契約にして其中一人は若干の保險料を收めて以て他一人の財產に生ずる凡ての損失を辨償せんことを約するものなり然り而して海上の危險に其財產を暴露するものが自から之れに生ずるの危險を免かれんことを欲したるは古代の人と雖も今代の人に讓る所なきは固より言を俟たざる所ならん然れ共右に記する場合に於けるが如きは假令ひ運送人等は此危險を免かれたりと雖も其の之れを免れたるは保險の契約あるが爲めにあらずして其傭主等自身に其危險に任じたるに由るなり而して傭主等が此事を爲せしは其意保險人の如く夥多の危險を擔保し以て其間に利する所あらんとするにあらずして唯全く人を誘奬し以て火急の公用を盡さんことを甘諾せしむるに在るや甚だ明白なりとす

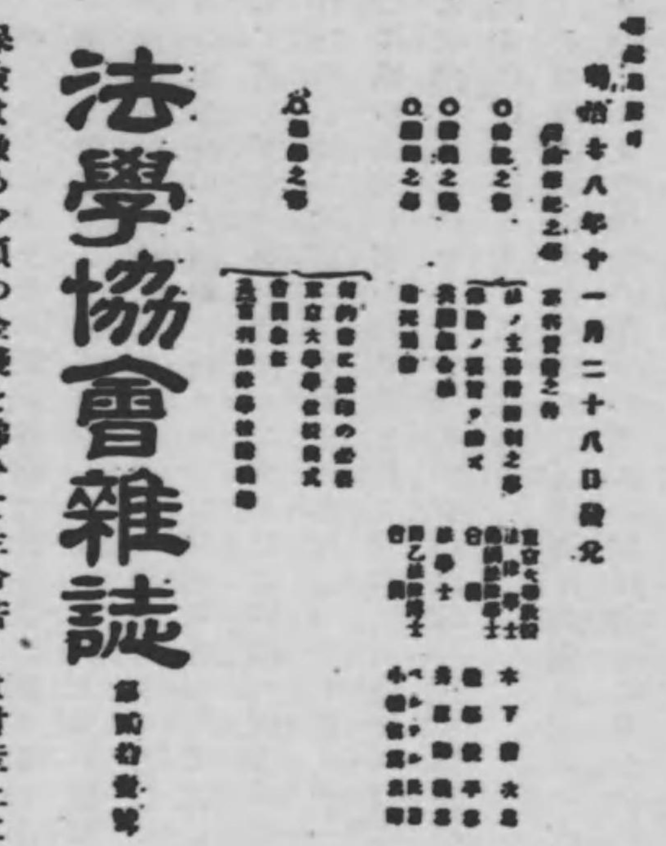
然れ共右に記載する場合を除けば聊かたりとも保險の契約に類するの事を記せる者は吾人較々近代に至るまで之を見ざるなり蓋し吾若し博識なるバーデツサスが其近著に引用せるフランダース年代記者の一人の言ふ所に信用を置くを得ばブルージエス（白耳義の一府にして西フランダースの首府なり）に於ては十三世紀の末に當り早く既に保險の行はれたることを見るべし何となれば此年代記者の云ふ所に據れば一千三百十一年に於てフランダース伯（伯爵の君）は住民の請願を容れブルージエスに保險局を設置することを允許したるを以てなり然れ共此記者の言を引用せるバーデツサス氏は此記載を以て事實謬なきものと思惟せざるなり蓋し此年代記者が此事を記載するの狀を見るに此年代記者たる當時の人に非ざること明白にして而してブルージエスの官立書庫に藏むる書中に於ても又は其他信憑すべき書中に於ても決して之に類するの事を搜索すること能はざるを以てなり而して保險の主意に關するフランダースの法律にして方今世に存する最古のものは一千五百三十七年の日附あるもの是れなりとす其他北歐諸海國の古法典中には此緊要なる主意に關する文字あるを見ざるなりベツクマン氏は以爲らく保險の慣例たる第十五世紀の末若くは第十六世紀の始めに當りて伊太利に濫觴せしものなりと然れども鴻博なる西班牙の考古學者ドン、オートニオ、ド、カプマニー氏はバーセロナ（西班牙の一府なり）の沿革、商業に關する有益なり著述中に一千四百卅五年該府の行政官より發せし保險の事に關する一布令を揭げたり然るに伊太利の法律中此主意に關する最古のものと雖も其後殆んど百年を經て出てたる者にして卽ち一千五百二十三年の日附あるものに止まれり若し保險の業にしてカタロニア（西班牙の州領にしてバーセロナ府其內に在り）に於けるが如く夙に伊太利に行はれたりとせば伊太利に於ては法律を設けて之を規制すること斯くカタロニアの後にあらんとは實に信じ難き所なり且つベツクマン氏に先づ伊太利の記者中曾て之れを記するものなきを見れば此事益々信じ難きなり故に吾人は或る信憑すべき證據によりて反對なる事實の證明せらるゝまでは全くカプマニー氏の說に同意を表し保險の理を海上貨物に適用したるの濫觴を以てバーセロナ府に歸せざるを得ざるなり



抑々保險の原理實務に關するの知識は夙に英國に輸入する所となれりマリネス氏の說に據るに英國に於て初めて此業を營みたるは上代よりして倫敦に永住したる夫のロムバード人なりと云ふ蓋し此事や第十六世紀の初年の頃に英國に輸入せられたるや疑なし何となればエリザベス卽位四十三年第十二號條例中に詳かに保險の實用を說明し且英國の商人と外國の商賣とを問はず凡そ廣大なる海外交易を企つるときは其之に使用する船舶若くは貨物に保險を得ることは記憶に止まらざる時よりの慣例なる旨を記するを見ればなり之れに由て考ふるに保險の英國に行はれたるはエリサベスの條例に先つこと少くとも百年前に在りと推想するは敢て其理由なきにあらざるなり又曰條例に據れば保險の事に關して起りたる凡ての爭論は素と倫敦府知事の撰定せる端正聰明の商人に附して裁決せしむること普通の慣例なりしを見るなり然れども此慣例は弊害を生ずるに至りたるを以て同條例に由り大法官に與ふるに保險に關するの訴件を審理せしめんが爲め委員を任命するの權力を以てせり而してチヤーレス二世の時に至り更に此委員の權力を擴充せり然れども委員の裁判所は其後幾何ならずして廢與に歸し且其裁判所に於て行ひ訴訟の事に記錄の一も今日に存する者あるなきは是れ實に奇なりと謂ふべし

前世記の中葉後に至るまでは保險の事に關してウエストミンスタルに在る諸上等裁判所に訴件の提出せられたるもの甚だ少なし而してロルド、マンスフヰールドの與へたる判決は實に此主意に關するの法律を一定し且つ大に之を構成したる者と云ふて可ならん氏の判決たるや狹隘なる見解に局促し又は英國諸市府の制規に拘泥せず普通の經驗によりて旣に已に認定嘉納せられたる公正便益の大原理に基きたるものなり蓋し氏は最も怜悧なる諸商人に交接して廣く實際の事を諮問し又有名なる外國の法律家の書を通閱し又前古未曾有なりし最も欽賞すべき海上法典なる一千六百八十一年の佛國布告（フレンチオルヂナンス）を研討して深奧の法理を究めたり是を以て其判決の概括卓越にして各國の尊信を得たるは固より其所なりとす而して保險法律は氏の爲めに英國法律の他の諸科に比すれば一層進步するに至れり

火災保險幷に生命保險の二者は海上保險に比すれば其起原遙かに後世に在り然れ共火災保險の幾分か英人の間に知られ且つ行れてより今や少くとも大約百五十年間を經たり又「アミケーブル」保險社は生命保險を行はかんが爲め一千七百〇六年女王アーンの特許狀を得て創立する所なり「ローヤル、エキスチエンチ」（館名にして從來保險人等の相集りて海上保險を營む所なり）及び倫敦諸保險會社はジヨージ一世の時に至りて生命保險を營むことを創始せり而して「エクイテーブル」保險會社は一千七百六十二年を以て創立せられたり然れ共生命保險の便益と其事務を經記するの原理とは兩なから當時未だ十分に理解せられずして「エクイテーブル」保險會社がプライス氏の抄案を採用し一千七百七十五年の頃より其盛榮なる進路を始むるに至りし迄け生命保險の英國に行はるゝこと甚だ微々たるに過ぎず然り而して其後英國に於て生命保險の大に其功を奏したるにも拘はらず歐洲大陸に十一年の布告を以て明かに之を禁止し又アムステルダムに於ては一千六百十二年に發したる保險に關するの制規によりて之を禁止せり而して假令方今に至りては生命保險の廣く佛國に行はるゝを見ると雖も其商法第三百三十四條に抵觸するなきや否やは疑を免かれざる所なり然れども吾人は歐洲大陸に於て生命保險の進步微々たるは其原因、法律上の制限あるに因ること少なくして確實安全を欠くに職由するもの多しと思惟するなり而して英國人民の莫大なる公債を負ふや爲に如何なる不便利を生ずるやは姑く措きて論ぜず公債が放銀を爲すに與ふるの便利を政府が約束に違はず嚴密に公債の利息等を支拂ふことは英國に於て生命保險は勿論火災保險すらも非常に廣く行はるゝに至りたるの主因なりとす（以下省略）




# 保險の要旨を論ず

（法學協會雜誌第二十一號 明治拾八年十二月二十八日發兌）

植邨俊平說

保險は豫め少額の金錢を拂ひて生命若くは財產上に不慮の事故を發生し又は發生せざるに因て多額の金錢を拂はしむるの方法なり其豫め拂ふ可きものを保險料と稱し或は一度に之を拂ふあり或は定期每に拂ふありと雖も要するに拂人即ち被保人をして重荷を感ぜしめざるに在り又事故發生し或は發生せざるに因て拂ふものを被保金と謂ひ等く一回若くは定期每に拂ふとも其領收者に多少の資產を與ふるを主とす而て之を拂ふ者を保險人又は記名人と稱す

保險の主用は生命若くは財產上に發生したる不慮の事故より來るべき損失困難を防ぎ又は其發生せざるに因り更に便宜を與ふる爲めに金錢を拂ふに在り例へば火災の爲めに招きたる家屋所有者の損失又は夫死去したるが爲めに妻兒の蒙るべき困難を防ぐが如きは事故發生より來る損難を減少す又若干年齡に達したるときに養老金を拂ふが如きは即ち定期前に其人の死去あらざるに因て更に資產を加へて便宜を與ふ但し今日最も廣く行はれて最も鴻益を生じたる保險は第一種に屬す即ち事故發生の爲めに起りたる又は起るべき損失困難を防ぐに在るなり故に余は本篇に於て專ら此種の保險を論ずべし抑損失を防ぎ困難を救ふは全く之を補修して餘蘊なきに至らしむるに非ず又之を未發に防禦するに非ず若し充分に之を防禦し又は補修するを得ば實に人生の大幸なりと雖ども是れ人力の及ぶ所にあらず何となれば良政府の下に在りて秩序整ひ警備怠らざるの社會と雖ども未だ火災の恐なき能はず醫術の進歩著大なりと雖ども未だ疾病死亡の憂を去る能はず既に蕩盡したる財產は永く消滅して復た其形を見ず一たび死亡したる者は復た蘇生せず然れば保險の用は損失困難を防禦若くは補修するに非ずして唯之を多數の人に配賦し同種の損難を受くるの恐ある衆人をして分擔せしむるに在り則ち其損難を除去するにあらずして唯被損の當人をして痛く之を感ぜしめざるに在るなり是故に保險の益は損失分擔に在りと云ふ

實に保險の效用は全く損失分擔にありとは世人の稱道する所にして更に疑ふ可らず然れども其損失分擔とは果して如何なる意なりやは保險を論ずる者往々明言せざるが如し就中英國保險法を論じたる著書中には此點を明言せざるもの多し又適々明言するも皮相の見解を下して甚しき謬見に陷りたるものあり故に余は冗言を厭はずして玆に一辯せんとす元來保險は家屋所有者が結社して其社員中の火災損害を分擔するが如き交互保險法に從ふも或は一國若くは一地方の政府が人民より保險料を徵收して其家屋の火災を保險するが如き政府保險法に從ふも或は一己人又は一會社が保險料を收めて他人の船舶を保險するが如き營業保險法に依るも其原理は全く異なることなし則ち同一の保險人と保險契約を結びたる被保人全數にて其間に起りたる損失を償ひ又は困難を救ふの方法なり故に保險の結果は其被保人全數をして平等に損難の全額を分擔せしむるを期するに在るを知るべし彼の營業保險と稱する方法に從ふときは損難全部の額に從ふて被保人各自の負擔すべき額を定むるに非ずして其保險人たる一己人若は會社が損難全部を負擔するが如き觀ありと雖ども其實は決して然るに非ず如何なる方法に從ふも損難分擔は被保人各自の責にして其他の人に損失を及す可らず是れ保險の本質なり保險は固より慈善救助に非ず故に保險人は決して他人の損失困難を分擔す可き理なし必ずや保險を托する者のみ他被保人が蒙りたる損難を分擔せざる可らず則ち被保人は常に保險人の地位に立つものなり然れども營業保險法に依れば一定の保險料を拂ひ被保人は損難全額の多寡を顧ずして自己の損難に對する金額を領收するの方法なれば其外形を一見すれば保險營業者が自ら被保人の損難を負擔するかを疑はしむ又時に營業の機運に異變ありて營業者の抵當資金中より保險金を支出することあるを見れば實に營業者は少額の保險料を得て被保人の損難全部を自ら負擔す可き危險を冒すが如き思あらしむと雖ども實に營業者が冒す所は唯自ら定めたる保料險全額は被保金支拂營業雜費及び抵當資金の利子を拂ふに足るや否の危險に對しては保險料は要する所の諸費を償ふて尙剩餘あるの希望を存す而して保險料不足の危險は甚だ輕少にして諸般の營業中にて保險事業の如く鞏固なるは莫しと謂ふに至れり是故に何種の保險と雖ども被保人の損難を分擔するは營業者に非して他の被保人全體たるを知るべきなり

前述の如く英國の法律を論ずる者は損難分擔の理を詳論する者少し蓋し以爲く如斯は法律學者の論ずるを要せざる所なりと是れ或は然らん歟故に余は深く其詳論せざるを咎めざるべし然れども英國海上保險法の著者アーノルド氏は其卷端に保險の用を一言して明かに誤謬に陷りたるあり實に氏の著書は海上保險法に關して最上の憑據にして版を累ねて梓行し廣く世に用ゐられ最も信憑す可きものなり但し其謬見を載せたるは第二版以前に係る第三版以後なる英人マクラクラン氏の出版したる續刻書中には「アーノルド」の原文を刪正增補する所多くして余が所謂誤謬の說は全く刪除して其痕を見ず今米人バルキン氏の增補續刻したる第二版中に存する原文を左に譯載すべし固より余は他人の誤謬を追究して飽くまで之を責むるの意に非れども苟も其書の存して後學の目に觸るゝときは「アーノルド」氏の名は以て其謬見の謬たるを隱さんことを恐るゝ深ければなり其文に曰く

海上保險に依て達す可き目的は一己人の痛く惱める損失を多數の人をして分擔せしむるに在り之を分擔す可き人とは保險料を領收し其報償として海上にて或は發生す可き事故の爲めに彼の一己人が蒙るべき損失を辨償せんことを約したる者なり

即ち一船又は載貨の消失は若し所有者一人のみの負擔となるときは其人は甚だ富豪なりと雖ども財產を傷くること大なるべし然れども若し之を三十人又は四十人の記名人或は巨額の合本資金を有する會社をして負擔せしめば之を拂ふ者は殆ど痛痒を感ずること無くして難破船主又は貨主は充分に辨償を得之を資本として他の營業を企つるを得べし能く如斯なるを得るは全く保險の恩澤なり云々

右の一節は明かに失言にして保險の本質を誤解したるものなり「アーノルド」氏の文も其前後を通讀するに保險料は結約したる被保金を償つて餘あるべきの計算なるを知ると雖ども損失分擔を以て記名人又は保險會社に歸すると云ふは不可なり玆に十萬圓の資本金を有する保險會社あり若干の保險料を收めて一船を保險せんに其被保金を五萬圓以內となし其船は一千萬圓の資本金を有せる一大汽船會社に屬すると假定せよ若し其船全く難破して所定の被保金を拂ひたらんには保險會社の損失を感ずるは汽船會社の感ずる所よりも遙かに大なるべきが如し故に「アーノルド」氏は此例に於ては保險して却て害ありと云ふ可きか決して然らざるべし又如斯實例あるは疑ふ可らざるなり必竟するに其船の損失を分擔するとは保險會社にあらずして該社に保險を托したる諸船舶及び載貨等の所有者全體にて分擔するの謂なれば其財產全部を通算すれば幾千萬の巨額に上るも知る可らず故に彼の大汽船會社の損失を分擔するを得るは當然なり此例にて明かに見ゆるが如く保險會社は全く被保人の爲めに損失分擔の割合を定め其出納を司るの事務者にして其割合を定むるの際に甚しき違算あるの危險を冒すものなれば其危險に對して抵當資金を備ふるに過ぎざるなり然るに交互保險法又は政府保險法に從へば其違算あるに過へば直に被保人全體より不足を徵收するの方法となす是を前後二者の異なる要點となす

尙ほ玆に二三の著書より引證して讀者の參考に供すべし

パルッソン氏は其海上保險法中に保險の益を論じて曰く

今日の通商世界には保險の普く行はるゝが爲めに商人間に一大團結の有樣を生じて各自に幾分か他人の損失を保證し相互に保護することゝなれり云云」是れ保險を以て各商人は同業者の損失を分擔するの意なり

又マッカンドリッシュ氏は火災保險の性質を論じて曰く

火災より生ずる一切の損失は到底公衆（火災被保人を指す）の負擔に歸す可きは疑ふ可らずと雖ども世人往々之を悟らざるのみ故に保險會社は此等の損失を分配するの機關たるに過ぎず云々

又教授イ・ジェー・ジェームス氏は交互保險法と營業保險法と相對置して保險を分類するの非なるを論じて曰く

保險とは皆交互相救ふものなり此理を外にして保險の基礎とす可きものあらず所謂交互保險と營業保險と僅に異なる所は他なし一は其社に加入する者

は被保人たると同時に保險人なれば交互相救ふの性質は直接に外面に顯るべし然れども其一は第三者たる保險營業者ありて保險料を拂へる被保人全體に對して保險人の地位に立つなり（中略）必竟二者の別は實に營業の精神を含むと含まざるとの差違あるのみ故に一を營業保險と稱し他を非營業保險と稱す可し云々

又我明治生命保險會社規則の緒言中に曰く

生命保險は長生の幸福を得る者相共に些少の金を損て短命の不幸に遭ふ者を助くるの法なり云々」此文は簡にして盡すと云ふべし即ち短命者を助くるの會社にあらずして長生の被保者なり

又其規則本文の首に曰く

生命保險會社は被保人より受取りたる掛金を積み置て被保人中に死者あるとき若くは被保人契約の年齢に達したるときは契約の金高を渡すを業とするものなれば取も直さず被保人相共に積み金して互に災厄を救ふの契約を結び會社は其中間に立て事務の取扱ひを爲すのみなり云々

以上述べたる如く保險は悉く交互保證の性質ありて被保人は常に保險人の性質を帶びたるは明白なりと雖ども或は皮相の見解を下し或は輕忽に辭を立てゝ其質を疑はしむる者あるは亦怪むに足らざるものあり蓋し皆保險契約の外形を見て直ちに其本質と混同し從て損失分擔の歸する所を誤解するに至れり凡て營業保險の契約にては皆保險人自ら被保金を拂ふの義務を負ふ故に其本質も又從て異なるが如く想はしめたるなり特に英國に於て海上保險を營業するものは概して會社にあらずして數多の記名人相合して一船若くは其載貨を保險するの習慣なれば即ち其記名人こそ損失分擔の當人なれと思はしむ可し然れども其外形異なりと雖ども必ずしも其本質を異にするを要せざるは論勿きなり今日我邦に行はるゝ間接税を見よ其外形を以てせば煙草税は煙草商之を納め酒税は酒商之を納むるが如しと雖ども眞に煙草税及び酒税を拂ふ者は煙草酒商に非るは辨を待ざる可し故に「ロッシェル」氏が經濟書中に保險を論ずるに當り之を交互、營業の二種に別ち其營業保險の定義を下して保險人が被保人と契約し保險料に對して其損失を負擔するの義務を負ふものなりと云ひしも亦外形の契約に從ひたる定義にして決して本質に依りたるものに非るなり

凡そ保險は被保人全體をして保險したる損失困難を分擔するものなれば概して保險の方法を適用し得可き事件は左の數條件を備ふるを要するは明瞭なるべし

第一、事故の發生すると否ざるとは全く偶然にして保險人若くは被保人の意思を以て之に干與するを得ざるを要す

第二、其事故の或は發生せんとする危險を冒せる者は衆多なるを要す

第三、其危險を冒せる衆多人中にて實際に事故發生に遭遇する者は必ず少數なるべきを要す

第四、其事故が實際に發生す可き危險は概算數の法を以て稍ゝ精確なる算定を爲し得るを要す

第五、事故の發生したる爲めに起るべき損失困難は著大にして被害者は豫め其備を爲すに足るべきを要す

第六、其豫備を爲さんが爲めに費す所は僅少にして之を實行するに妨なきを要す

此等の條件を缺くときは保險を爲すも或は社會に實益なきか或は概數の算定を亂り從て正當なる保險を行ふ能はざるべし今日世間に普く行はるゝ海上保險火災保險及び生命保險に屬する數種は皆能く右の條件に適合す其他尙ほ諸種の事件にして等しく適合し或は適合せしむるを得るものあるべし是れ皆保險の原理を適用して實益あるや疑なし現に收穫保險汽車旅行保險風害保險等を實行して能く良結果を得たるの例あり唯其行はるゝ區域未だ廣からざるのみ

元來保險の基礎は偶成事故の發生すべき概算數にして其算定は統計表の進歩に隨て益々精確なり而して充分精確なる概算數を得たる以上は之に基きたる保險は最も鞏固なり何となれば保險の區域を廣くして多年間永續せしめ且其理事整頓せば業務の結果は正しく自然の理法に依て概算數の定めたる結果と符合するの傾向を顯はすべきは必然なり或說に曰く諸般の營業中にて保險の如く鞏固なるものはある可らずと理固より然るべきなり何となれば普通の商工業の如きは市價の高下を豫測す可き概算數を得ることなし商品を賣買して果して利潤あるや否は全く豫測す可らざる市價高下に因るのみ故に普通の營業は保險營業に比すれば投機の性質を含むこと更に多きを知るべきなり然れば前段に列擧したる條件を有する保險は純理上にて悉く行はるべく又行ふて益ある可きなり然れども實際には保險の原理を知らざる者多ければ之れを濫用して全く賭博の具に供することあり故に諸國共に保險方法に制限を設けて濫用の弊を防げり然れども是皆法律の政略にして保險の性質上に存する殊別に非るなり設令ば英米諸國にて生命保險には被保人と保險の主格たる人との間に保險す可き利益を存するを要し又火災保險には被保金は損失の實額に超ゆるを許さゞるが如し總て此類の制限は保險濫用の弊を防ぐ爲めに外ならざれば犯罪詐僞濫用等の弊なければ其制限の大に寬なることあり即ち保險す可き利益を定むるに廣狹あり又時に或は家屋の實價に超えたる被保金を拂はしむることあるが如し

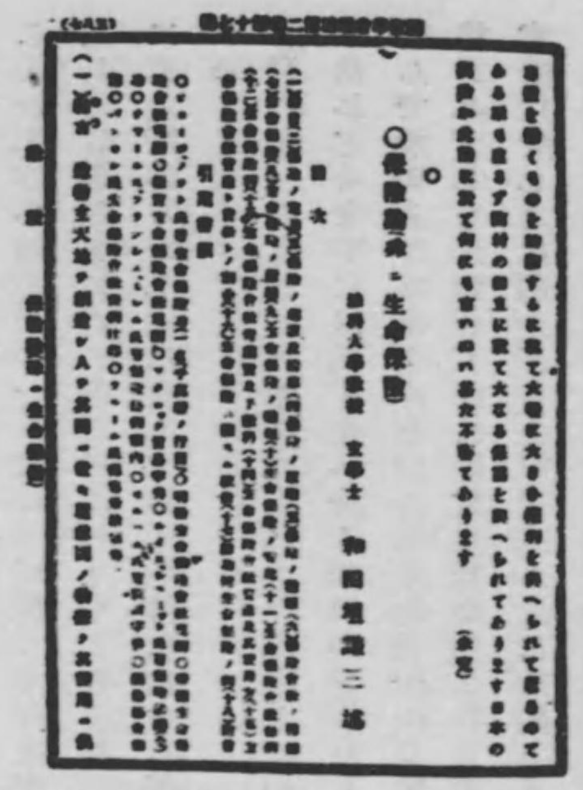
英米國の保險法に從へば生命保險は一種特別にして火災若くは海上の保險と全く其性質を異にすとなせり即ち火災及び海上の保險は全く損害賠償の契約なれども生命保險は賠償の性質なし故に兩者は互に其本質を異にせるを論ぜり今此差異あるを確定せし「ダルビー」對印度及倫動生命保險會社と稱する訴訟事件を判決したる判事バルク氏の論を鈔出せんに

世俗に生命保險と稱する契約の本質を考究するに或人が其生存中に年金を拂ひ置けば之に對して其死亡のときに若干金を拂ふべしとの契約に外ならず而して其年金の額に其人の餘生年數の概算數に依て初めに定め爾後變更することなし即ち結約者の一方は終始同額の年金を拂ふ可く其對手は始めより一定したる金額を死亡の後に拂ふ可きものなり故に此類の保險は毫も賠償契約に似る所あるなし之に反して海上危險に對する保險は正しく賠償の契約なり云々

實に此一論は以て英米法律上に生命保險と他の保險とを全く分別せしめたり然れども余竊に以爲く是れ全く無用の區別なり必竟するに判事バルク氏が苦んで辯明したるは生命を失ふたる時若干金を拂ふに當り其金額は生命の價格と必ずしも比例せず故に賠償の實なし然れども火災又は海上保險には損害實價に對し之に超えざる金額を拂ふ故に純然たる賠償契約なりと云ふに在り

然れども既に反覆陳辯したるが如く保險は或事故の發生す可き危險の概算數に基くものなれば生命保險も他の保險と其本質を異にすることなし火災及び海上保險に被保金を損害實額内に限りたるは必竟法律の政略にして之に因て投機の惡弊を防ぎ又故意に損害を起すの恐なからしめたるのみ然れども此制限あるが爲めに保險の本質を變じて投機の元素を除去したるにあらず而して一人の死亡より來るべき困難を評價するは甚だ困難なるを以て此制限を設けざるなり又生命保險には被保人と保險主格人との間に法定の緣故あるを要す是れ亦等しく法律の政略にして投機の惡弊を防ぎたるのみ然れば英國古法にて此制限なかりしは寧ろ純理に協合すと云ふべし何となれば生命保險を許したる以上は其被保人と主格人との間に法定の關係あるや否を問ふを要せず現に其特定の關係も各國の法律に從ふて同じからざるが如し且投機の弊あるも必竟は保險の本質を明かにせずして全く僥倖を基礎とするものと誤認せるに因るなるべし既に保險を托したる以上は被保人間に發生すべき事故の結果を分擔せざる可らず而して少數の被保人を取て觀察せば其事故の發生するや否は不確定なれども大數の全體を視るときは必ず多少の事故を發生すべし即ち其結果は到底被保人の分擔なり決して正當に保險營業を爲せる會社若くは記名人は自ら其分擔に加はるものにあらざるなり若し此理に會通せば徒に己れと利害の關せざる生命を保險するものなかるべし又此理に會通したる上にて尙他人の生命を保險せんとする者あらば其間に多少の損失あるも更に大なる便益を謀らんとする者なれば設令法定の關係なきも之を許す可きものならん玆に注意す可きは余は被保人は必ず損失を分擔すと雖ども人々個々に就て見るときは金を出す額よりも得る額の多きものあらん然れども多額の金を得るには危險を附着せる故に正當なる計算法を知る者と必ず此危險を算入す可きなり例へば富籤をなす者あり圖の總數を三千本となし其當圖を三本となし掛金を拾錢となし當金を七拾圓と假定せよ即ち拾錢を損して七拾圓を得ば甚だ幸なれども其當圖を得るの概算數は千分一にして七拾圓に乘ずれば七錢となるべし或は得んとする所の金額に危險を算入せば出入相償はざるを知るべし故に果して危險を算入するときは必ず幾分の損失あるを知るべし唯々其損失少きを以て各被保人の資產を痛く損傷せざるのみ

【百三十三頁下段ニ續ク】



明治二十一年七八月
國家學會雜誌第十七八號所載

# 保險論

## (殊に生命保險)

法科大學教授 文學士 和田垣謙三述

目次

(一)緒言(二)保險の定義(三)保險の起源及沿革(四)保險の原理(五)保險の種類(六)保險會社の種類(七)生命保險(八)生命保險の原理(九)生命保險の種類(十)生命保險の安危(十一)生命保險會社條例(十二)生命保險料(十三)生命保險會社營業費及手數料(十四)生命保險會社資產及其使用方(十五)生命保險會社資產と責任との割合(十六)生命保險に關する統計(十七)結論附生命保險の利(十八)附言

引用書類

○ジョージ、ノット氏著生命保險論(一名「千萬磅の行衞」)○明治生命保險會社規則○帝國生命保險會社規則○經育生命保險會社規則○マクロック貿易字典○ルイス、シュミット氏著保險法總(全)論○チャールス、フランシス、モレル氏著保險條例案內○モルハル氏著統計字典○獨逸協會雜誌○ベンヨン氏生命保險會社條例注釋○ラルール氏編纂政治類典

**【一】緒言** 造物主天地を創造し人を其間に置き覆載間の物盡く其需用に供せり然れとも得あらは失あり利ある者害なき能はず社會人時の外物外力の災を爲すことあるは亦吾人々類の免る能はざる所なり例へは水火の如し夫れ水と火とは人生一日も欠くべからさるものなり然れともその溢るゝや洪水怒濤となりその激するや烈火猛焰となる蓋僕として之を役せんか天下の廣き豈水火に勝れるの良僕あらんや主として之に事へん乎天下の大なる豈水火に比すべきの暴主あらんやそれ然り故に若し一歩を誤りて主僕其地を易ふることあらん乎吾人は斯る暴主の下に屈從せさるを得ざるなり嗚呼法律の完全以て社會の秩序を維持すべく警察の機密以て人民の安寧を保護すべし然るに不幸にして一旦這般の暴主が其威を逞しくし其權を弄するに當りてや法律の完全頼むに足らず警察の機密恃むに足らす然らは則ち吾人々類は假令此暴主を社會三千里外に放逐するの保安條例を設くる能はざるも此暴君の威力權勢を減殺するの「マグナカルタ」を設くる能はざるも亦奈何にかしてせめては渠の暴行より生ずる悲劇慘狀を減少するを得べからざるものなるや是實に人生の一大問題なり而して所謂保險なるものは卽ち此問題に對する答案なり

**【二】保險の定義** 「保險とは被保人をして若干の掛金を拂込ませ置き其者不幸にして損失に遇ふ時保險者之を賠償せんとの契約なり」とは從來一般に行はれたる保險の定義にして保險を以て單に賠償の契約と視做すものなるが夫の火災若くは海上保險等に就きて言ふ時は不足なき定義なれども保險の中にて至重至大なる生命保險には適用すべからざるを奈何せん故に左の定義を以て穩當なりとす曰く

「保險とは被保人をして(一時若くは定期に於て)若干の金額を拂込ませ置き不時に萬一の事ありたる時契約の保險金を被保人に仕拂はんとの契約也」

世上には或は財產に就きては之を保險(インシュレンス)と云ひ生命に就ては之を保全(アッシュレンス)と云ひ以て此二者を區別すべしとの說を主張するの論者あり然れども保險保全の二語は到底異稱同實たるを免れざれは寧ろ保險の字を廣く解釋し以て各種の保險を包含するの勝れるに若かず

**【三】保險の起源及沿革** 「世の中を渡りくらべて今ぞ知る阿波の鳴門に浪風はなし」とは人生の行路難を嘆じたる名吟なり嗚呼世海の航路固より難し矣而して商海の危險より險なるはなし夫の潮流急に暗礁横はり忽にして電光一閃暴雨盆を潑し忽にして狂風一陣怒濤山を爲し陰晴常なく風雨定りなきはこれ商海の常態にして所謂世海中「親知らず子知らず」の險所なり由是觀之保險事業の起る固より偶然に非ずして其商業上の必要より生したるは實に自然の勢と謂ふべきなり(千二百五十年乃至千二百六十年の頃海上保險伊太利に起り次て西班牙荷蘭に行はる)而して此自然の勢は愈〻進て愈〻盛に今日に



至ては財產にまれ生命にまれ凡そ人の貴重する所のものにして苟も損失滅亡の恐あるものは一として保險てふ羽翼の下に其庇蔭を求めざるものなく而して美麗燦爛たる羽翼は益〻其光彩を放ちて遂にまた遭難保險(アクシデント)(千八百五十六年英國に起る)なるものあるを致せり嗚呼寸前暗夜の浮世に處する者豈保險を爲さずして可ならんや

**【四】保險の原理** 統計學者は天地百般の事物に付きて啻に通常人の一見して覺り得べき規律の存するのみならず世人か不規則なり例外なりとする所のものも其間亦自ら整然犯すべからざる一定規律の存するものあることを歎示せり規則の規則正しきは勿論なりと雖も所謂不規則の中亦一種の規則(所謂大數の定律ラウ、オフ、ラージ、ナムバルス)あるはこれ近時の發見に係る一大新眞理なり是れ數學に所謂推測算なるものある所以にして亦自助共濟的保險業の基く所なり例へば多年の經驗に依り五十艘の船舶中海上の難に遇ふもの年に一艘ありとせんか各船水難の「プロベビリチー」(多分さ)は五十分の一なり故に各船主若し保險料として其船價の五十分の一を拂はゞ必ずや之を保險する者あらん(但し今假に保險手數料及營業利益を除く)此場合に於て保險料若し五十分の一以上なれば其超過額は則ち被保人の損にして保險者の得となり又若し五十分の一以下なれば其不足額は保險者の損にして被保人の得となる但是れ卽ち保險の原理にして誠に單一且明白なりと云ふべし

**【五】保險の種類** 保險を爲すと爲さゞるとを箇々人々の隨意に任すと一國の法律を以て必ず之を爲さしむるとを以て分つ時は

自由保險 強迫保險(ワウシング) の別あり

保險は危險の種類に依て之を分つ時は其種類頗る多し今其重なる者を擧ぐれば

火災 家屋 家財

運搬 海上 河上 陸上
十九世紀の他の世紀と異なる點太た多き中にも海漕運搬の便はその力最も著るなるものなり而して今時商業の隆盛之に職由す而して運搬の業をして今日の盛大に至らしめたるの功は之を運搬保險に歸せさるを得す運搬保險の始業は「コムパス」の發明に比すべし

農業 穀 洪水 牝畜

商店 姿見及硝子

商業 信用 抵當物(モルゲージ)

生命(セジラーケン、クランケンガッセー)

遭難(アクシデント)

病患(ヘルス、インシユレンス)

再保險(リ、インシユレンス) 「變則なき規則なし」所謂數學的定則に基きて其業を營む保險者と雖亦多くの危險(變則の爲に生する)を犯す者とす是に於てか保險者を保險する者あり再保險是也

等とす

**【六】保險會社の種類** 保險業を營む者の政府(中央政府又は地方官廳)なると人民なるとに依り

公立保險會社 私立保險會社 の別あり

國民未だ保險の利益を覺らず一方に於ては進みて保險者となる遠大の氣象未だ振興せず又一方に於ては退きて被保人となる實着の精神未だ發達せさる場合に於ては一國の政府たるもの率先自ら保險會社を創立し以て迷癡の人民を誘導敎育するの勞を取り以て此美事の一日も早く國內に行はれんことを計るは政府たる者の正當且つ必要なる業務なりとす是れ歐洲大陸諸國に於て曾て公立保險會社の盛に起り今日に至ても尙ほ依然存在するものあるを見る所以なり

保險會社は其目的及仕組に依て之を分つ時は左の三種となすを得べし曰く

一 共濟(ミユチユアル)保險會社(一名相互保險會社又非射利(ノンスペキユレチーブ)的保險會社)

一 射利的(スペキユレチーブ)保險會社(一名有株保險會社又合本(ジヨイントストック)保險會社又營業(インダストリアル)的保險會社)

一 雜(ミキスド)保險會社

共濟保險會社とは數多の人結社して以て損害を分擔するの法にして各會員は一人にして被保人と保險者とを兼帶するものなり其目的は進て利を取るより寧ろ退きて自ら衞り以て豫め不時の(故に非射利的保險會社と稱するを適當とす何となれは所謂射利的保險會社と雖もその實共濟の主義に基くものな

れはなり）變に備ふるに在り故に幸にして禍災意外に寡き年は掛金餘りて割戻をなすことあり又不幸にして禍災意外に多き時は掛金に不足を告げ爲に追拂をなさゞるべからず（紐育生命保險會社の如し）射利的保險會社は幾多の株主ありて株金を募り一の會社を創立し保險を以て其營業とするものにして被保人より保險料を得、之と保險契約を取結び保險金と營業費とを控除し尚餘す所あらば利益を得、餘す所なくして却て株金の中より償はざるを得ざる時は損するもの也（帝國生命保險會社の如し）雜保險會社は前の二種を混合せるものにして被保人の願望に從ひ相當の保險掛金を拂込むものには契約保險金の外に會社營業利益の幾分を配當するもの也（明治生命保險會社の如し）

右三種の會社各ゝ一長一短あり故に其內狀（保險料保險積立金等）奈何を問はずして單に其外形何れの種類に屬するか）のみに依り遽に其優劣を斷定すべからず

**【七】生命保險**　同しく是れ保險なり然り而して所謂生命保險（通常保險）なる者は大に他の保險と異るものあり火災水難等より人の意表に出て豫め人力を以て奈何ともすべからざるものあり然れとも這般の災厄は必すしも各人の遭遇せざるべからざるものに非ず一年數回の厄難に罹る不幸者あり一生曾て一回の禍災だも逢はざる僥倖者あり故に愚者は天を怨み痴者は人を嫉む特り生命の事に至ては則ち然らず生者必滅會者定離玉の如き小年も何時か白頭ならざらんや花の如き美人も何時か白骨ならざらんや不死の仙藥は空く小說の談柄となり不老の仙丹は徒に詩人の材料に入る其之を求めて得ざるもの豈獨り始皇のみならんや且又火災の如き全燒半燒等損害に多少の別あり水難等亦然り然れども玉の緒の一たび斷ゆるや此丸死なり其間決して多少の別なきなり（俗語の半死半生は論理に合はざるの語と知るべし）此の生命保險は大に他の保險と異なる所以にしてまた論者或は保險の字を生命に適用し難しとする所以なり

**【八】生命保險の原理**　不老の術既に其法を得ず不死の藥又求むべからず人生は恰も是れ艸上の朝露風前の燈火に異ならず之を奈何ぞ保險するを得んや夫れ然り豈それ然らんや一個人の命數は固より期す可からずと雖も今試にその大數に付きて之が死亡表を作るときは其統計上幾ど一定不變の命數の存するものあるを發見確知するを得べし生命保險なるものは卽ち此學理的定數を基本として爲すべき營業にして決して夫の一轉瞬間漫に輸贏を爭ふ投機者流と日を同くして語るべからず今左に保險料を割出すべき數學方式を示さん

「カルライル」死亡表は英國人一萬人の同年者に付きての調査なるが其中四千人は五十六歲の齡に達し又此中にて百二十四人は六十六歲に至て死去せりされば現に五十六歲の者が十年後に至て死するや否やの「プロバビリチー」（多分さ）は四千分の百二十四とす又金利を四分と見るときは十年後に至り受取るべき百圓の現價は六十七圓五十五錢六厘なり故に現に五十六歲の人其六十六歲に至て死せんとの推測算に依り之と保險金百圓の契約を結ばんか其百圓の現價は

$$\frac{124\times 67{,}556}{4000}=2{,}094=\text{二圓九錢四厘なり}$$

**【九】生命保險の種類**

一尋常修身保險

一定期間掛金終身保險（有限掛金終身保險、又定期終身保險の稱あり）

一定期保險（一名短期保險）　一年金保險（アンニュイチーインシュレンス）　一養老保險

尋常終身保險とは被保人每年一定の保險料を拂込置かば（或は一時に所定の保險料を拂はゞ）其者沒死する時遺族に契約の金額を渡すものなり

定期間掛金終身保險とは被保人五年十年十五年等一定の年期を限り保險料を拂込み置かば（或は一時拂）死後遺族に契約の金額を渡し又被保人年期中に死する時も同しく契約の金額を渡すものなり

定期保險は豫め一年或は數年の期限を定め其期限中に被保人死去するときは契約の金額を遺族に渡すものなり若し期限中幸にして無事なれは掛金は被保人の損毛保險會社の利益たるべし

年金保險は被保人五年十年十五年等の年期を限り保險金を拂込み（或は一時拂）期に至れば（卽ち五十歲六十歲等の年齡に達すれば）契約の金額を受取り老後殘年を完くするの資となすの法なり

養老保險は前の年金保險と少しく異るものにして其異なる所は被保人若し滿期に至らずして死去する時は保險金を其遺族に渡すことなり要するに養老保險は尋常終身保險と年金保險とを調合せるものにして被保人に取りては一擧兩得の策なり　此他また子女豫備保險（チルドレンス、プロビデンス、フアンド）あり子女の教育又は婚姻等の費用に供する積金にして豫定の年齡に至り契約の金高を渡すものなり若し中途にして子女死去するか又は掛金の拂ひ續きを爲すこと能はざれは拂込みたる元金を戻すへし（利子は會社の利得契約者の損となるなり）

又二人の生命を保險することあり（殘存保險（サルヴイヴアルシツプ））二名の契約被保人の中その第一の者第二の者死して後まで生き殘りたるとき契約の金額を受くるものなり又他人の生命を保險する事あり但し其人被保人と親戚又は商業取引等の關係ある場合に限る又數多の人相合して一社を結び社員の中生き殘りたるもの年金保險を受くるの法あり「トンチン」是なり一六五三年以太利人ローラン、トンチン之を創む其他生命保險の種類多少行はるゝ者四十餘以上ありと

**【十】生命保險の安危**　炎熱石を鑠すの夏日旅人は疲れ果て山路に横はる大木に踞り暫く深林の涼風を掬せんと欲せしに豈計らんや其大木とのみ思ひしは巨蟒にして乍ち其口を張り開き無慘にも其人を一呑にすと此はこれ小說物語等に見ゆる想像畫なりと雖も世の所謂保險會社にして世間の信用に辜負すること或は之に似たることあるは往々吾人の耳にする珍事にして君子をして却て危に近かしむること夫の有名なる英國のアルビヨン會社の如きことなしとせず夫れ生前の利を捨てゝ死後の利を計るは之を深慮と云ひ一身の利を後にして家族の利を先にす之を慈愛と云ふ深慮と慈愛とは人生の美德なり然らは則ち保險の事たる啻に直接の利益ある而已ならず又間接に莫大なる利益を與ふるものなり此れ保險業の尤も獎勵すべくして一國の政府たるものは尤も之を重じ必要なる干涉は斷然之を行ひ以て被保人を保護し以て社會人衆の福利を增進せんことを計るべき所以なり生命保險會社條例の設ある亦宜なる哉

**【十一】生命保險會社條例**　生命保險會社條例に就き歐洲大陸と英國とは恰も反對運動を爲したるの奇觀あり卽ち彼は初め嚴密なる規則を設け漸く之を緩くし之は初め幾ど何の制限を設けす漸く之を嚴にするの傾向あり要するに過ぎたるは猶ほ及ばざるが如しの格言は此事に於ても吾人の宜く服膺すべきことなり今玆に英國の例に就きて一言せん英國に於て一千八百七十年以前は生命保險會社を設立するに幾ど何の制限もあらざりしかば同會社の四方に興起すること恰も竹林の筍の如く一朝商海の空合惡しく一陣の暴風吹き來るときは乍らにして破壞滅裂するもの續々相踵き被保人を傷害すること尠少ならず遂に一千八百六十九年に至りて夫のアルビヨン會社の倒產あるに當りてや世間の驚惶一方ならず輿論は遂に議院をして一の嚴正なる干涉策を執らしむるに至れり一千八百七十年の生命保險會社條例卽ち是なり爾後一八七一年及二年の改正增補あり此條例に依れば苟も英國に於て生命保險會社を設立し若しくは外國の生命保險會社を英國に移すには次の條々を遵奉せざるべからず

一保險掛金の中より四萬磅の積金を蓄へ得る迄は二萬磅をチヤンセリー（衡平裁判所）に預け置くべき事

一同一の會社にして生命保險業の外に他の事業を兼ぬることあるときは其保險部の收入と他の業務の收入とは全く其會計を別にし兼業に關する契約履行の爲に保險掛金を轉用すべからざること

一各會社は每年度の收入支出の決算書を公にすべきこと

一該條例發布後の設立に係る會社は五年每に、其發布前の設立に係る者は十年每に、鑑定人をして貸方借方その資產及ひ責任の比較書を製し會社の果して能く其責任を果し得るや否やを調査せしむべき事

此他尙他少の規定ありと雖も其要領は右に擧けたる所を以て之を盡せり

**純保險料表**
保險金百磅

| 年齡 | 純保險料 磅 | 志 | 片 | 奇零 |
|---|---|---|---|---|
| 二〇 | 一 | 〇九 | 一〇 | 五〇 |
| 二五 | 一 | 一四 | 〇〇 | 七五 |
| 三〇 | 一 | 一九 | 〇〇 | 二五 |
| 三五 | 二 | 〇四 | 〇八 | 〇〇 |
| 四〇 | 二 | 一一 | 一一 | 七五 |
| 四五 | 三 | 〇〇 | 〇四 | 二五 |
| 五〇 | 三 | 一三 | 〇五 | 二五 |
| 五五 | 四 | 一〇 | 一〇 | 七五 |
| 六〇 | 五 | 一五 | 〇九 | 五〇 |

當時該條例の發布せらるゝや世上の論評紛々として涌くが如く就中保險營業者は之がため直接に影響を受くる者なるか故に甲論乙議恰も一場の討論會を開きたるか如き有樣なりしが今其論議の岐るゝ所以を察するに其營業專ら公明正大着實正確を旨とし其の基礎の鞏固動かすべからざるものは該條例に依り愈ゝ其眞相を天下に明にすることを得るに至りたれば素より悅ひて之を贊襄せしと雖も同業者中其營業の曖昧にして其基礎の薄弱なるものは力を極めて

表較比料險保命生邦本及國英

| 種別 | 名稱 | 年齢 | 英國生命保険会社 | 米國生命保険会社 | 帝國生命保険会社 | 明治生命保険会社 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 被保人年齢二十五歳保険金百磅（又は千弗） | 保険料 | | 一磅（又は千弗）に対する年払保険料 | | | |
| | ブロウデンシャル | 二十五 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 |
| | ウイリアム | 三十五 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 |
| | グレン | 四十五 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 |
| | ブロウデント | 五十五 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 |
| | 命保険会社 | | 英國生命保険会社 | 米國生命保険会社 | 帝國生命保険会社 | 明治生命保険会社 |
| | 保険種類 | | 終身保険 | 終身保険 | 終身保険 | 終身保険 |
| | 保険料 | | 一磅（又は千弗）に対する年払保険料 | | | |
| | ブロウデント | 二十五 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 |
| | ウイリアム | 三十五 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 |
| | グレン | 四十五 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 |
| | ブロウデント | 五十五 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 |

（文責）保険業株に生命保険

英國生命保険會社　米國生命保険會社　帝國生命保険會社　明治生命保険會社

ブロウデント、グレン、ウイリアム、ブロウデンシャル

年齢　保険料

二十五　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇

三十五　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇

四十五　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇

五十五　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇

（文責）保険業株に生命保険

英國生命保険會社　米國生命保険會社　帝國生命保険會社　明治生命保険會社

ブロウデント、グレン、ウイリアム、ブロウデンシャル

年齢　保険料

二十五　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇

三十五　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇

四十五　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇

五十五　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇

表較比料險保命生邦本及國英

| 年齢 | 英國生命保険會社 | 米國生命保険會社 | 帝國生命保険會社 | 明治生命保険會社 |
|---|---|---|---|---|
| | 一磅（又は千弗）に対する年払保険料 | | | |
| 二十五 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 |
| 三十五 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 |
| 四十五 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 |
| 五十五 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 |

（文責）保険業株に生命保険

英國生命保険會社　米國生命保険會社　帝國生命保険會社　明治生命保険會社

ブロウデント、グレン、ウイリアム、ブロウデンシャル

年齢　保険料

二十五　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇

三十五　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇

四十五　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇

五十五　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇

表較比料險保命生邦本及國英

| 年齢 | 英國生命保険會社 | 米國生命保険會社 | 帝國生命保険會社 | 明治生命保険會社 |
|---|---|---|---|---|
| | 一磅（又は千弗）に対する年払保険料 | | | |
| 二十五 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 | 二〇・〇〇 |
| 三十五 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 | 二四・〇〇 |
| 四十五 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 | 三〇・〇〇 |
| 五十五 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 | 四〇・〇〇 |

（文責）保険業株に生命保険

英國生命保険會社　米國生命保険會社　帝國生命保険會社　明治生命保険會社

ブロウデント、グレン、ウイリアム、ブロウデンシャル

年齢　保険料

二十五　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇

三十五　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇

四十五　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇

五十五　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇

（文責）保険業株に生命保険

英國生命保険會社　米國生命保険會社　帝國生命保険會社　明治生命保険會社

ブロウデント、グレン、ウイリアム、ブロウデンシャル

年齢　保険料

二十五　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇

三十五　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇

四十五　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇

五十五　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇

（文責）保険業株に生命保険

英國生命保険會社　米國生命保険會社　帝國生命保険會社　明治生命保険會社

ブロウデント、グレン、ウイリアム、ブロウデンシャル

年齢　保険料

二十五　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇

三十五　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇

四十五　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇

五十五　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇

（文責）保険業株に生命保険

英國生命保険會社　米國生命保険會社　帝國生命保険會社　明治生命保険會社

ブロウデント、グレン、ウイリアム、ブロウデンシャル

年齢　保険料

二十五　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇　二〇・〇〇

三十五　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇　二四・〇〇

四十五　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇　三〇・〇〇

五十五　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇　四〇・〇〇

行ふに非されば「モルガン」教授の指示せる制限を守ること甚た難しとす輓近英國に於て倒産せる會社中其營業費の保險掛金の二十一割三分、十一割四分、十割一分、九割六分、七割一分、六割、五割一分、四割二分、三割八分、三割一分を占むるものあり是實に驚くべき濫費と云ふべし

又競爭の盛なる今日に於ては諸會社切に取次店を設け之に少からざる手數料を付與し以て保險加者の一人も多からんことを謀り以て絲毛の利を爭ふものあり此事たる素より一概に擯斥すべからずと雖も此如き誘利の手段を以て唯被保人の多からんことのみ謀るときはそれだけの手數料を消費するは勿論勢虚病なる人を保險するの恐あり是特に注意すべき點なりとす

過年英國に於て保險會社取調委員の同國商務局長に差出したる申報書に左の文字を見る曰く

その手に入る一磅の爲に僅に其中の一志を費すものあり二志六片を費すもの五志を費すもの十志を費すもの又其全額即ち一磅を費すものあり其尤も甚しきものに至りては他日被保人より拂込むものを以て之を辨償し得るものと妄信し一磅以上を費し以て却て自ら負債を起すに至るものあり

と又曰く

或る場合に於ては會社の年々消費する營業費格外に多くかゝる會社は夢にも決して被保人の利益の爲に存在せるものとすべからざるものなり

と事實果して此の如くんば世の保險業を營むもの豈猛省せざるべけんや殊に手數料を節するの途は手數を減するに在りと云ふ單純明白なる道理を忘却すべからず右に英國及本邦の重なる保險會社營業費比較表を掲ぐ

英國及本邦保險會社營業費比較表

| 社名 | 割分 |
|---|---|
| プルーデンシャル | 五三 |
| グレシヤム | 一七 |
| スタール | 一五 |
| スタンダルド | 一三 |
| スコツチシユ、イクイテーブル | 一三 |
| ライフアツソシエーション、オフスコツトランド | 一三 |
| ユナイテツト、キングダム、テンペレンス、エンド、ジエネラル、プロヴイデント | 一三 |
| ノース、ブリチツシユ、エンド、メルカンタイル | 一二 |
| スコツチシユ、プロヴイデント | 一一 |
| イーグル | 一〇 |
| リヴアプール、ロンドン、エンド、グローブ | 一〇 |
| スコツチシユ、ウキドウス | 一〇 |
| エコノミツク | 九 |
| ナショナルプロヴイデント | 九 |
| ロイヤル | 九 |
| ロウ | 八 |
| ロンドン | 三 |
| 明治生命 | 一四 |

**〔十四〕資産及其使用方**　生命保險會社の利益の多少は被保人の選擇と資産の運用如何に依るものなれば此の題目も亦充分の考案を要するものなり目今多く行はれる死亡表（ノルザムプトン死亡表、エングリツシユ死亡表、カルライル死亡表等）は各種人の死亡平均數にして幼より遺傳の病に罹る者も多病蔵子も無病息災一生曾て藥石を用ゐたることなき者も盡く網羅してこの平均數中に包含せらるゝ者なれば若し會社にして通常の死亡表に據りて保險料を徴收し而して被保人の選擇を精しくするときは利益を收獲するに充分の餘地を有するものと云ふべし而して其の尤も愼むべきは資産の用途其宜しきを得るに在りさて資産使用方に於て目的とすべきは利益の尤も大にして危險の尤も小なる用途を見出すに在り今會社がその資産を重もに如何なる用途に充つるやと尋ぬるに

抵當貸　公債　家屋　無抵當貸　鐵道會社株劵　土地

等とす

會社不時の需要に應することを得る爲に速に現金に直し得るものに使用し置くことを緊要とす即ち可成政府公債銀行當座預等に使用するは安全なり家屋土地の如き損亡なしに立ろに賣却すべからざるものは可成少きを得策とす保險證書を抵當として貸與をなすものありこれは害なし然れとも無抵當の貸金は甚だ危險なり

**〔十五〕會社資産と責任の割合**　此事たる會社の基礎緊固なるや否やをトするに尤も大切なり而して此割合に付きては會社各々多少の不同ありて未だ一定不變各社の遵奉せざるべからさるものと認められたるものあらすと雖も多年の經驗に據りて之を察するに會社資産若し僅に其責任の二割乃至二割五分以下なるときは假令倒産の患なしとするも其責任を果すに於て非常の困難を感するものなり（但し創立初年は此限りに非ず）と斷言することを得べし此事たる保險事業の第一要點とも言ふべきものなるが特に怪しむべきは此點に就きて保險營業者中に非常の異見行はるゝことなり試に左に掲ぐる資産の責任に對する割合を見よ



英國及本邦保險會社資産責任割合表

| | 社名 | 割分 |
|---|---|---|
| 一 | ロウイ | 五六 |
| 二 | ロンドン | 二八 |
| 三 | イーグル | 二四 |
| 四 | スコチツシユ、イクイテーブル | 二四 |
| 五 | スタンダルド | 二四 |
| 六 | エコノミツク | 二三 |
| 七 | スコツチシユ、ウキドウス | 二三 |
| 八 | ナショナル、プロヴイデンドー | 二〇 |
| 九 | リヴアプール、ロンドン、エンド、グローブ | 一八 |
| 一〇 | ユナイテツドキングダム、テムペレンス | 一八 |
| 一一 | ノースブリチツシユ、エンドメンカンタイル | 一四 |
| 一二 | スコチツシユ、プロヴイデント | 一三 |
| 一三 | ロイヤル | 一三 |
| 一四 | スタール | 一三 |
| 一五 | グレシヤム | 一〇 |
| 一六 | ライフアツソシエーション、オフ、スコツトランド | 一九 |
| 一七 | プルデンシヤル | 一 |
| 一八 | 明治生命 | 一三 |

**〔十六〕生命保險に關する統計**　下表を一覽すれば歐米諸國に於ける保險金額は隨分大なるも保險單の數（被保人の數）存外に小なるに驚かざるを得ず

歐米強國生命保險統計表（本表はモルハル氏統計字典に據る）

| 國別 | 保險單（一千ヲ位トス） 千八百七十年 | 保險單（一千ヲ位トス） 千八百八十年 | 保險金高（百萬磅） 千八百七十年 | 保險金高（百萬磅） 千八百八十年 | 保險金平均高（一磅） 千八百七十年 | 保險金平均高（一磅） 千八百八十年 | 人口一人ニ付保ヌ金高（一磅） 千八百七十年 | 人口一人ニ付保ヌ金高（一磅） 千八百八十年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英 | 六八八 | 八七九 | 三三八 | 四三三 | 五〇五 | 四六〇 | 一〇、五 | 一三、一 |
| 佛 | 一三九 | 二〇八 | 五一 | 八七 | 三九五 | 四一八 | 一、四 | 二、四 |
| 獨 | 四五六 | 七九四 | 六四 | 一三七 | 一四二 | 一五九 | 一、七 | 二、九 |
| 墺 | 九〇 | 一七〇 | 二〇 | 四〇 | 二三〇 | 二三〇 | 、七 | 一、二 |
| 米 | 七四八 | 七二五 | 四〇五 | 三一二 | 五四〇 | 四三〇 | 一〇、二 | 六、一 |
| 加奈太 | 四〇 | 四八 | 一四 | 一七 | 三五〇 | 三四八 | 三、八 | 四、〇 |
| 合計 | 二、一五一 | 二、八二七 | 八九二 | 一、〇〇五 | 四一四 | 三五五 | 六、〇 | 五、〇 |

**〔十七〕結論附生命保險の利**　四百四病の病より貧ほどつらきものはなしとは能く人生貧困の苦味を評したるの語に非ずや衣食足而知禮節倉廩充而知榮辱とは能く貧困の世道に害あるを摘示したる語に非ずやそれ然り而して眼を開きて十九世紀の天地を觀察するに葡萄美酒夜光杯と朗らかなる吟聲の後邊には妻臥病床兒泣饑と忍音に咽ふものあり玉堂に上歎談笑語の歡聲は茅屋の裏哀別離苦の哭聲と相和するあり文明の中心たる巴黎の殘月に無罪可憐の嬰兒を棄つるものあり開化の泰斗たる龍動の曉風に半病半饑の怪物を現すあり嗚呼此十九世紀の所謂文明國に於て文明の字に疑を生せしむるものは貧困の一事なり而して今其由て來る所を討ぬれば如何試に左表を一覽せよ

獨國貧困統計表

| 原因 | 人員 | 總人員ニ對スル割合 | 人口千ニ付キテノ割合 |
|---|---|---|---|
| 疾病 | 四八二、一三七 | 三〇、三 | 一〇、二九 |
| 戸主ノ死亡 | 二八八、八五二 | 一八、一 | 六、一七 |
| 老衰 | 二三四、九五二 | 一四、八 | 五、〇一 |
| 不具 | 一九七、〇九二 | 一二、四 | 四、二〇 |
| 無業 | 九五、四六八 | 六、〇 | 二、〇四 |
| 飲酒及懶惰 | 五四、九五二 | 三、四 | 一、一七 |
| 爾餘ノ原因 | 二三八、九三三 | 一五、〇 | 五、一〇 |
| 合計 | 一、五九二、三八六 | 一〇〇、〇 | 三三、九八 |

（右掲係の原因とある內、兒子の數多なること賃銀の不充分なること及び戶主より放棄せられたること等は其重なるものなり）（北獨逸普通新聞より獨逸協會雜誌に譯出せるものに依る）

右は是れ一千八百八十五年獨國に於て貧民か公費の救助を仰がざるを得ざるに至りたる種々の原因を調査したるものにして該表の指定する所によれば疾病は貧困の一大主因にして貧民の三割强は之に基由し戶主の死亡は之に次きて一割八分强老衰は一割四分强不具は一割二分强を占む而して此四大重因を合すれは之か爲に貧困に陷る者實に貧民總數の過半即ち七割五分强なりとす好しや疾病死亡等の不幸は到底免るべからずとするも此等の不幸より生ずる所の不幸は終に能く之を免るゝを得べからざるか疾病は疾病保險に依り老衰は養老保險に依り死亡及び不具は尋常終身保險遺廢保險に依り皆豫め其害毒を避くるを得べからざるか生命保險なるものこそ此の尤も恐るべき尤も憎むべき貧乏神を退治驅逐するの堅甲利兵なるべけれ嗚呼會社の害毒を除却し物界の災厄を減殺するは是れ實に保險の賜なり而して保險の益たる猶ほ玆に止まらす生命保險なるものは素と節儉貯蓄心の結果なりと雖も又翻りて之か原因となるものなり所謂因緣相纏ふて之か子たり又母たるものなり夫の貯蓄銀行なるものは塵積りて山を成すの理に基くものにしてその利益たる固より大なれども貯蓄の事たる今の欲を捨てゝ後の快を取り近き利を捨てゝ遠き樂を期するものなれば能く己に克つの勇に富むものに非されば之を爲すこと易からす一年之を爲す或は難からす數年亦難からず十數年も亦難からさらん然れとも一生之を爲して嘗て怠ることなきはこれ甚た難しとする所なり況んや五十の人生必すしも人々皆之を期すべからざるに於てをやそれ然り而して一たび生命の保險を委托せる者は中途にして之を廢すれは十年十數年の辛抱苦心は一朝にして空く水泡に歸するものなれば（會社より掛金の幾分を償還するものあれども）貯蓄心のさほど强からざる者と雖も不知不識己に克つの勇氣を養成するに至るや必然なり況や不幸にして一旦溘然墓上の土と化するも幸にして其契約の保險金額は遺族之を領し得るに於てをや然らは則ち生命保險は人々をして大に貯蓄の心を起さしめ依て以て一國の資力を增殖するの力あるものなり誠に國家經濟上の一大利益なり然れとも保險の益たる猶玆に盡きす苟くも一度其生命を保險する者は不幸にして中年死沒するも又老衰爲す無きに至るも其子孫をして路頭に迷はしむるの虞なし凡そ世の父母たる者の樂は其子孫に在り而して憂も亦玆に在り然り而して保險こそ父母に安心を與へ依て以て幸福と滿足と平和とを一家門に充たしむるものなれ所謂「死ぬる此身は厭はねど後に殘れる妻や子」の後事を念ふ心配の暗雲を排除して此心をして自助自由不羈獨立の精神の日光に浴せしむるものなれ偶々不意の災厄に遭遇すれは忽ち親戚朋友又は政府の救助を仰かざるを得ざるか如き所謂運命の奴隷者流に存する卑屈的依賴心を一掃するものなれ嗚呼苟も民に平等の精神と獨立の氣象なからんか何を以てか道德世界に於て又政治世界に於て剛毅不屈公明正大有爲活潑の働を爲すを得んや而して吾人に此二つの重寶を與ふるものは何ぞやこれ豈保險の力に非すや而して保險の益たる更に止らす凡そ前に擧げたる所は皆その利の近く視易きものゝみその悠遠に存する資益に至りては尙ほ之より大なるものあり夫の火災保險の起るや爲に家屋建築及ひ消防器械の改良を致し又海上保險の起るや爲に船舶構造及ひ難破船救助の器具の發明を來し又家畜保險の起るや爲に下等動物の取扱ひ方及獸醫學の進步を生したる如く生命保險の起るや醫の仁術之か爲に愈ゝ益ゝ改良進步の功を奏せるは實に疑ふべからざる事實なりとす嗚呼これ實に保險の賜に非すや抑ゝ保險なるものは實に文明の賜なり生命保險の事たる近世の一大美擧にして亦人生の一大好案なりと斷言するも敢て過言に非ず其一時も早く萬國に行はれんことは世界の爲に、其一日も速に本邦に盛ならんとは我國の爲に尤も希望せざるべからざる所也夫の「兒孫自有兒孫計不與兒孫爲馬牛」などゝ氣樂千萬なる大平樂を唱ふるものは實に社會の罪人也實に文明社會の罪人也

法華經は截鬱も唱ふなり保險業をば唱へ世の人

【十八】附言　論者或は曰はん歐米諸國は一個人を以て社會を組織す故に生命保險の要あり我邦は家族を以て社會を組織す故に生命保險の要なしと此言一理なきにしもあらずと雖も予は實に我國の卑屈依賴的家族主義を捨てゝ歐米の不羈獨立的一箇人主義を取らんことを希ふものなり此論固より本題と密接なる關係を有するものなれども亦自ら別問題たるを以て予は只玆に豫め予が意見の在る所を指示するに止め其詳說細論は之を他日に讓らんと欲す

（完）



THE MAINICHI SHIMBUN 毎日新聞

カットは左記講談掲載の毎日新聞の標題にして、毎日新聞は横濱毎日新聞の後身にして、東京毎日新聞の前身である

## 大學通俗講談 生命保險論（要領）

「明治二十一年十一月六、七日毎日新聞所報」

大學教授　藤澤利喜太郎談

本文は記者の任意の省略あり、また時に誤傳もあるべく、恐らくは藤澤氏にとり不滿足の筆記であらうけれど、大學通俗講演として生命保險を講ぜる最初のものなるべきが故に爰に錄した。

生命保險は他の保險に比すれば少しく趣の異なりたる所あり先づ生命保險の何たる事を述べむ生命保險とは其保せらるゝ人をして一時若くは定時に若干の金額を拂込ましめ豫定の時期に一定の金額を拂渡す契約なり故に生命保險は契約にして損害の辨償に非ざることに注意せざる可らざるなり生命保險の種類は之を二個に區別するを以て便利とす第一種は生命保險の本色にして第二種は他の保險に似たるものなり即ち第一種の生命保險は被保人何れの時か必ず一たび保險料を受領するものにして第二種の生命保險は被保人或は全く損失して保險料を領收せざることあり第一種の生命保險を細別して四とす終身保險、養老保險、合生命保險、最長命保險是れなり終身保險に二種あり一は死亡するに至る迄掛金を爲すもの一は定期に掛金を爲すもの（例へば五十歲に至る迄掛金を爲し其後は之を爲さゞるの類）是なり養老保險とは豫定の期限ありて其期限を經過すれば假令ひ生存せるも尙ほ保險料を取るものなり合生命保險とは夫婦二人合同して保險するものにして例へば夫若し婦に先つて死去すれば婦は生計の爲めに困難するが故に夫婦相共に保險して夫死去すれば其年より婦の死亡するに至る迄年々婦に金錢を與ふるの類なり最長命保險とは數人相集まりて保險するものにして例へば第一第二の人死去して最終の人保險料を受取るが如し又第二種に屬する生命保險の重なるものは定期保險、生殘保險にして定期保險は別に解釋を須ゐずして明かなり生存保險とは甲乙の二人ありて乙生殘れば保險金を受ることを得と雖も乙若し甲に先ちて死すれば被保人の損失となるものなり即ち生命保險に非ずして他の保險に似たるもの是れを第二種となす日本に之れあるものは終身、養老、定期の三保險に止まるものゝ如し余は是より生命保險の利益を陳べん今試に生命保險會社に入りたる者に向つて足下は何が故に生命保險會社に入りたるやと問はゞ其人必ず答へて曰はん人生の恃み難きこと實に朝露の如し故に余は一朝易簀の不幸に遭遇したるの時に當り金圓を得るの方策を設け以て不虞に供せんとするのみと是れ因より生命保險の利益にして何人の思想にも浮ぶ處のものなれども尙ほ他の利益あることを忘却すべからず即ち利倍增加の事是なり加之ならず生命保險會社にては能く金錢を融通するの道を開くことを得べし例へば被保人死去して保險料を拂はざる可らざるに會社に準備金なしとせんに此に掛金を爲す者あれば則ち之を以て拂ふことを得べし是れ實に大なる利益なり且つ夫れ生命の保險あれば各々安堵して其業に就くことを得べきや明かなりとす或は生命保險の仕組は平均より長命なる人が平均より短命なる人に惠與を爲すに在りと云ひし人あり成程長命なる人は從て多く掛金を拂はざる可からざるも是れ實に其間安心したる代價に外ならざるなり」生命保險は此くの如く大なる利益あると同時に又危險の之に伴ふを免かる能はざるものなれば頗る注意せざる可らざるなり若し夫れ生命保險會社は大なる利益を占むるものなるを知らば物眞似流行の我國なるを以て必ずや生命保險會社の陸續踵を接して起るを目擊すべし其結果たる互に競爭を爲して保險掛金料に差異を生ずるに至るべし果して此の如くならんには被保者は掛金の少額なる方に向ふや必然なり是れ掛金の高低を鑒定するの標準は甚だ困難なるものなれば一意に掛金の少額なるものを以て低價と認むるは普通の感情なればなり是れ甚だ危險の事に屬す又生命保險に付きては聞も恐ろしき危險あり輓近其跡を絕ちたりと雖も今より五六十年以前英國に在ては被保人を殺して保險料を取りたること往々之れありといへり又二十三年間に生命保險會社の破產若くは合併したるもの其數百十個に上れり合件したるは敢て憂ふるに足らざる如くなるも元來合件の事たる會社を維持すること能ばざる時に至りて起るものに

して其害却て一生命保險會社の破產したる時より甚しといふ此忌む可く恐る可き合併及び破產して一年に三たび現出するは豈に危險の太しきものに非ずや夫のアルビルト生命保險會社の破產したる時に方りて世人に大なる影響を及ぼしたるを以て其害の一斑を窺ひ知ることを得べし又生命保險に付て無責任の著書現出したることあり是れ生命保險の事を知らざる者世間を煽動せんが爲めに著したるものにして一方に在りては被保人を懲はしめ又一方に在りては生命保險會社に損害を與へたること勿しとせず夫れ然り生命保險の利益大なると同時に又危險あるを免れざるが故に生命保險の道理を明かにすること必要なり殊に我邦に於て生命保險事業の日に盛なるに於ては將來萬一の危險を豫防すること最も忽にすべからざる所なり因て余は更に進んで生命保險の原理を說かん」

加藤清正は朝鮮にて虎を手捕せり、明智光秀は本能寺に於て織田信長を殺したり、此二者共に歷史上の事實なれども若し余に向ひて孰れが確かなるやを問ふ者あらば余は將さに光秀の信長を殺したる事實を採擇せんとす又明智光秀は本能寺に於て織田信長を殺したる事と火の燃る事と孰れが確かなるや余は火の燃るといへる方に手を擧げざるを得ざるなり又例へば一人の小兒が五十歲にて死すとの豫言と二人の小兒が五十歲にて死すとの豫言との間には「確カラシサ」に差異あり若し千人の小兒が悉く五十歲にて死すと云へば殆んど確かならざるなり「確カラシサ」に階級あること夫れ此の如し今此「確カラシサ」を數にて表はすは如何と云ふに或る出來事中の一個が必らず出來ざるべからざる時其出來事の相互の間に關係ある場合には種々の出來事中一あるならんといふ「確カラシサ」は此一を包含せる種々の「確カラシサ」より成立す例へば四十八本の籤を抽くに方り「い」の字を抽くの「確カラシサ」は「ろ」の字「は」の字「に」の字を抽くの「確カラシサ」より成立するものなり尙ほ之を詳言すれば四十八本の籤中一本の當り籤ありて其價四十八圓なり然るに一人にて其四十八本の籤を買ひ占めたりと假定せんに一本の代價若し一圓以下なれば利益ありと雖も一圓以上なれば損失をも蒙り一圓なれば損失をも蒙らず又利益をも得ざるべし故に若し其一本を買ふに際し代價一圓を拂ふたるときは何人も之を以て高價なりとも云はざるべく低價なりとも云はざるべし是れ元より高價若くは低價に買ふの道理なければなり是を以て「確カラシサ」を數にて表はすことを得之を買ふに當りて幾何の價を拂ふて可なるや宜く其「確カラシサ」に比例せざるべからず是れ生命保險の原理を當て嵌むる所の點なり而して此「確カラシサ」を計算するは其だ困難なりとする

余は是より死亡表の事を述べむに死亡表とは人の死したる統計表を集めたるものなり今人の生存に定則あるや否やといふに之れなしと云ふは太しき謬なり其故は百歲以上の人は頗る稀にして日本にても百六歲の婦人僅々六人に過ぎず米國には百八十歲の人ありしと云ふと雖も人は二百歲以上に達することを得ざるは明なり然らば則ち是れ人の生存を支配する所の定則なりと謂ふことを得べし而して死亡表は人の生活年齡の統計なるを以て之に種類あるの理なしと雖も死亡表を製する方法には三ケの別あり曰く毎年生き殘る人の數を與ふるもの曰く毎年死亡する人の數を與ふるもの曰く平均壽命を與ふるもの是なり今日本にて死亡表を作るには如何なる方法を採らば可なるや余は試に明治十九年十二月三十一日の各年齡に付きての人員の調査と明治二十年十二月三十一日の各年齡に付きての人員の調査とに依りて死亡表を出さんと欲し明治十九年十二月三十一日に二十九歲なりし人と明治二十年十二月三十一日に三十歲なりし人とを把りて其差を見んが爲め之を計算したるに實に奇怪なる結果を得たり因て余は右の調査は或は明治十九年十二月に二十九歲の所に記載したる人を明治二十年十二月に至りて尙ほ二十九歲の所に記載するが如き疎漏ありしに非ざるかを疑はざるを得ざるなり故に余の考ふる所に據れば寺院の過去帳に依りて死去せる人の出生年月と死亡年月とを調査し若くは全國の生命保險會社に就き其被保人の出生年月と死亡年月とを調査すれば或は適當なる死亡表を得るならん」と述べ夫より生命年金計算法と保險掛金計算法とを說き更らに體格檢査の事に移りて曰く體格檢査の結果は如何是れ甚だ緊要なる事に屬す卽ち生命保險會社に入りてより凡そ五年間は體格檢査の影響明かにして其間は生命保險會社に入りたる人と世間普通の人とは其死亡の割合に差異ありと雖も五年を經たる後は毫も此差異なきに至るなり」

生命保險會社の資本金に就ていへば生命保險會社は世間の信用を繫ぎ併せて不測の慮に供せん爲め株金を募集することあり然れども生命保險會社には



素と資本金を要せず蓋し資本金は全く の準備なるが故に苟も會社をして確實なるものならしめば之れなきを善とす何となれば其資本金に對する利息は被保人より出さゞる可らざればなり是れ卽ち生命保險會社の他の尋常一樣の會社と異なる所なり儻て是より生命保險會社責任準高計算法を述べむ是れ實に此講談の骨子なりとす或は生命保險會社の拂ふ可き保險料と營業費とを引去りて之を純益となして株主に分配せざる可らずとの考を有する者あり或は之に反して悉く準備金に加へざる可らずとの考を有する者あり此二者孰れも極端に奔りたる者と云はざるを得ず蓋し保險料と營業費とを引去り直ちに之を純益として株主に分配するは大早計たるを免れず然れども悉く之を準備金に加ふるは甚だ不可なり何となれば其利益は被保人より出さゞる可らざるを以て被保人に損失を蒙むらしむればなり此故に被保人の爲したる掛金を拂ふ契約は幾何の價あるやを計算せざる可らず之を計算するには例へば三十歲の人と契約し其契約は終身保險掛金を爲し死去の時千圓受取るに在りと假定し契約後五年を經過したる後其契約は幾何の價格あるやと云ふに死去の時拂ふ可き千圓を計算する現時の價に直し其れより死去の時までに拂込む金額を計算して得たる差を契約の價格とはなすなり此の如くにして總ての契約に價格を付し之を合したる高を會社の準備金及び其他の過剩金に對照して若し餘剩あれば其餘剩は則ち純益と見て可なり然れども往々死亡表に謬謬あるを以て其一部分は計算外の萬一に備ふる爲め之を貯蓄し他の一部分は之を分配して可なり純益金を株主に分配するは困難ならずと雖も之を被保人に分配するは困難なり蓋し純益の生じたるは被保人の拂込みありしを以てなり故に此純益を作り出すに勉めたる功勞に相應して分配せざる可らざるなり」

我邦に適する生命保險會社の組織如何といふに凡そ生命保險會社には共濟生命保險會社株式生命保險會社（或は射利的生命保險會社とも云ふ）混合生命保險會社（利益あれば株主と被保人とに分配するもの）の三種あり此三種の生命保險會社中孰れが最も日本に適當なるやを研究せざる可らず余の見る所を以てすれば生命保險會社の學理的調査は頗る疎漏なるを以て愼重に愼重を加へざる可らず故に初めは實際要するより多く保險掛金を取り若し過剩を生ずれば之を返すを可とす之を詳言すれば人の信用を繫ぐに足る丈け株金を有し少しく保險掛金を高くし之を計算して過剩あれば純益となし相當の方法を以て被保人に分配するを策の得たるものと信ずるなり」

余は頃日保險料拂渡の新案を發明せり蓋し被保人死去すれば一時に保險料を拂はざる可らず故に傳染病流行の時の如きは會社は大に困難を感ずべし而して若し之に堪ゆる能はざる時は會社は倒產せざるを得ず、故に例へば二千圓の保險金を拂ふの契約なりとすれば其人死去の當時千圓を交付し殘千圓は年金にて其子孫に拂渡すこと爲さば可ならん是れ之を受取る者には損得なくして會社の經濟には大なる便益を與ふればなり然れども這は固より被保人の隨意に任せざる可からざるなり生命保險會社の決算報告は成るべく綿密ならんことを希望せざる可らず卽ち之を見る者をして其會社の確實なるや否やを判斷するの材料を與ふるを可とするなり」

終に臨んで一言す可きは本邦人にして外國の生命保險會社に入るの意見是なり例へば外國の生命保險會社が日本に代理店を設けて將さに日本人と保險契約を結ばんとすと假定せん若し此時日本に生命保險會社なきときは日本人の之に入社するは已むを得ざる所なりと雖も日本人の設立せる確實なる生命保險會社あるときは何れに入社す可きや余は道理上日本人の設立せる生命保險會社に入るを可となすなり或る宴會の席にて外國の生命保險會社は資本金も亙多なれば宜しく之れに入るべしと云へる人ありしが旣に論逸したる如く生命保險會社には資本金を要せざるものなり且つ外國より我邦に代理店を設くるときは從ひて多くの營業費を要するや明なり加之ならず死亡表に就きても同一の氣候同一の人種中には自から定則あるべきも氣候の異なり人種の同じからざる外國と我邦との間には死亡表に差異を生ずること又多言を待たざるなり米國にては英國の死亡表を用ふる會社ありと雖も英と米とは人種同一なるが故に之を以て英國の死亡表を萬國に通じ用ひて可なりとの證左となすことを得ざるなり且つ余之を聞く米國人の死亡と我邦人の死亡とを對照するに米國人の死亡は少なく我邦人の死亡は多し故に我邦人にして米國の死亡表に依りて外國の生命保險會社に入れば利益は則ち利益なりと雖も會社は爲めに損失を招くべし是れ實に見易きの道理なり已に此の如く會社に危險ある以上は從ひて之に入るの不可なること又多言を待たずして明なり云々。（完）

大學教授藤澤利喜太郎著

# 生命保險論

東京　文海堂發行

## 緒言

生命保險の事を論ずる、必しも高尚の學理を要せず、平算にて事足れり故に小學一通りの課程を踐みたる人は、本書を讀みて其解し難きに苦むことなかるべし。然れども尚此等數學に習熟せざる人は本論中數理に渉る條項を省き其餘を讀むも、全篇の旨趣要領を失するの憾なかるべし。

歐史小說の類はいざ知らず、少しにても眞面目の書物は、通例綿密に全編を通讀せらるゝ人は其寡きものなり。然れども本書の編纂は、余が曾て歐洲に在るの日、歐洲諸國に於て虚無社會等の破壞主義が暴威を逞うする現況を目擊し、後來此主義の我國に入るを豫防する一良策は、本邦に於て生命保險事業を普及せしむるにあることを確信し、重き國恩の萬分一に報いんとする微衷に出でしものにして、爾來多年刻苦研究せし結果なれば、余は讀者が幸ひに文字の節略を尤めず全編を通讀し、特に結論と題する章に逃ぶる論旨に付きては、敎示を垂られんこと實に切望に堪へざるなり。

玆に緒言を終るに臨み、和田垣謙三氏が直接間接に余が此書の著述を賛助せられし厚誼を鳴謝す。

明治二十二年二月

東京に於て　藤澤利喜太郎識す

## 目次

緒言……一
保險總論……一
生命保險……八
生命保險ノ効用……八
生命保險ノ危險……八
生命保險ノ原理……九
死亡生殘表……九
本邦死亡生殘表……九
利息算特ニ年金幷ニ公債證書實價計算法……一〇
生命保險料計算法……一二
純保險掛金ト保險會社保險掛金ノ別……一九
本邦生命保險掛金……一二
生命保險會社……一二
體格檢查……一二
生命保險會社資本金……一二
生命保險會社營業費……一二
生命保險會社責任金高計算法……一二
生命保險會社純益金計算法同分配法……一二
生命ヲ保險セントスル人ノ心得……一二
外國ニテ生命保險ニ關スル政府ノ干涉……一二
生命保險金拂渡ノ方法ニ付キ新考按……一三
本邦人ニシテ外國生命保險會社ニ加入スルニ付キ意見……一三
結論……一三



# 生命保險論

藤澤利喜太郎著

## 保險總論

凡そ人の世に處する其間、天變地異、水火の難、震雷の災、吾人に危害を加ふるもの其數枚擧に遑あらず。然れども人智の漸く發達するに從がひ、往古蒙昧野蠻の時代にありては、人力の奈何ともすること能はざるところとせし災難にして、或は之を避くる避雷針の發明に遇ふて、雷王は最早其暴威を逞しうすることを得ざるが如き、或はヨシ全く之を避ること能はざるも、幾分か其害毒を減殺することを得る、觀磁は怒りを發するも燻瓦の家屋は守を失はざるが如き、或は豫じめ天災の來るを測知し、之を防禦するの策を講ずることを得る、吾人が暴風豫報に遭ふて自警誡するを得るが如き、皆是實に近世理學進歩の賜なり。然れども元人智には限ありて、天災事變には極りなし。限りあるの力を以て、極りなきの事變に應ずる能はず。然らば吾人が天災事變に對する方策は如何、是實に人生の一大問題なり。而して、諸人の幸不幸を相互ひに共同負擔する方法は、卽此問題に對する答案にして、則保險の因て起る所以なり。

保險とは、火災水難より生ずる財産の損失、或は疾病短命の爲め向後生計の途を失ふ等、人類の免るゝ能はざる災難より生ずる損失を賠償する方法なり。世間保險を妄信するの極、何事も之に依て以て防禦することを得る如く思ふものあれど、保險と云ふことは唯其損害を償ふに止つて、決して之を妨げ或は之を免れしむるものにあらざるなり。要するに人の天災事變に對する方策は、第一着に人智人力の及ぶ限りは飽く迄も其害毒を避け、若しくは之を減殺することを力め、然る後百計玆に盡きて尙且免るゝ能はざる不幸、殘厄より生ずる損害を共同負擔するにあり。故に海上保險あればとて、船舶の構造に意を用ゐざるも可なりと云ふにあらず。船舶の構造を從々堅牢にし、航海術の精を窮はめ、而して後初めて海上保險の起るを見るを得べし。又一國にありては、衞生の方法其宜しきを得、一身にあつては、攝生養生怠るところなく、而して後初めて生命保險の功能著大なるを知ることを得べし。

人類を圍繞する危險は數限りなし、危險ある處に損失の之を伴はざるはなし。而して保險なるものは此損失を共同負擔する方法なれば、何處にても適當の方法をさへ用ゆれば、曾て保險の行はれざるものなし、故に實際歐米諸國にて行はるゝ保險の種類頗る多し。今其重もなる者を擧ぐれば、

火　災（家屋、家具）
運　搬（海上、陸上）
農　業（蠶、洪水、牧畜）
硝子製物（委見、硝子）
商　業（信用、抵當物）
生　命
遭　難（鐵道遭難）
疾　病
健　康
二重保險

此中最面白きは二重保險にして、二重保險とは各種の保險會社が萬一破産するの危險に備ふる保險を云ふ。

保險事業の成功を期するには、保險會社内の支配宜しきを得ることは勿論なれど、其他必要の要件を擧ぐれば、被保人保險會社雙方共左右すること能はざる眞實損失の危險あること、同樣の危險を冒す人の多人數なること、危險を冒す人の多人數なるに比して實際出來事に遇ふ人の割合に少なきこと、出來事の起る「確カラシサ」（生命保險の原理と題する章を參考すべし）を豫じめ知ることを得ること、實際損失の大にして之に備ふるの價値あること、保險金額の損失より少きこと、損失に備ふる價卽保險料の、損失の大なるに比して割合に少額なること等なり。

歐米諸國にて保險の盛んに行はるゝ實況は、或は本邦人の意想外にあるべ

し。今一例を挙げんに、千八百四十九年龍動にて鐵道遭難保険會社を創立し、鐵道旅行一回に付き、上等客は三片、中等客は二片、下等客は一片の保険料に對し、會社は被保人が鐵道遭難の爲めに死去したる場合に、上等千磅、中等五百磅、下等二百磅の保険金を拂ひ渡す方法を設けしに、其後千八百五十六年此方法を各種の遭難に布き及ぼし、遂に各種の職業或は生活の有樣に附着する凡被遭難の危険に對し、年々一定の掛金を爲し、遭難の爲めに死去したる場合に、保険金を拂ひ渡す方法を實施せり。現に千八百八十一年の調査に據るに、英國のみにて遭難保険會社の數十一、保険金千萬磅一箇年會社の收入四十乃至五十萬磅あり。遭難保険にして尚且斯くの如し、推して以て火災、海上、生命等他の保険事業の盛なるを知るべきなり。

歐米諸國保険事業にして今日の隆盛を致せるものは、保険方法の多年の失敗經驗に依りて漸次完備したるが故なり。今や此方法を我國に移し來らんとするに、甚だ困難なるは、例へば火災保険の如き、我國と歐米諸國とは家屋の構造を異にし、又他の保険に於ても、之に類似したる事情あるを如何せん。而して各種の保険中、歐米の方法に些少の修正を加へ、以て直に我國に適用することを得るは、唯だ生命保険あるのみ。又我國今日の事情及び今後の成行きに付きて考ふるに、後來盛に行はるゝならんと思はるゝは生命保険なり。勿論前にも言へる如く、適當の方法さへ用ゆるときは、保険なるものは何處にても皆て行はれざるところなく、唯之を實施する方法を案出するの難易あるのみ。余は我國に於て生命保険に次ぎて最必要なるは、火災保険ならんことを信じ、我國に於て火災保険實施の方法を研窮せり。他日考按の熟するを待ちて、之を世に公にすることを忘らざるべし。

## 生命保険

生命保険とは、被保人をして、一時若しくは各定期に、若干の金額を拂ひ込ませ、被保人の死去したるとき、或は豫定の年限を經過したるとき、契約の保険金を拂ひ渡す契約なり。

同じく是保険なり、然れども生命保険は大いに他の保険と異なるところあり。通常の保険は、豫しめ定めたる期限中、萬一に生ずる災難の爲めに被むる損失を賠償する契約なれば、若し幸にして豫定の期限内に災難の起ることなきときは、實際保険金を拂渡さずして契約は消滅するものなれば、保険料も至少なれども、生命保険の場合に於ては、生者必滅、年に前後の差異こそあれ、一度は保険金の拂渡しを要するものなるが故に、保険料は高價ならざるを得ず。勿論生命保険中、定期生命保険なるものは却て他の保険に似たるところあれど、定期生命保険は、生命保険の各種類中、太だ肝要なるものにあらず。

又通常の保険は賠償契約なれど、生命保険は單純なる支拂契約なり。然れども同じく是保険と云ふを以て、生命保険の道理未だ世に明かならざりし時代には、往々生命保険と他の保険と契約の種類に異なるところあるを知らずして、生命保険も又賠償契約なりと妄信せしことは、夙に記する此世紀の始めに英國にてありし判決例に照して明かなり。

甲なる者乙なる者より若干の金額を借り入れ、甲は萬一負債を返濟せずして死去し、乙に迷惑を掛けんことを慮り、生命保険會社に加入したりしが、果して負債を返濟せずして死去したり。然るに甲の死去したるとき、甲の友人相共に醵金して、甲の爲めに乙に對し負債を償却したりければ、生命保険會社は甲の遺族の請求を拒みて保険金を拂渡さず、曰く、甲の生命を保険せし理由は、若し萬一死去するも乙に對し負債償却の義務を果さんが爲めなれば、保険契約は、乙の負債を償却せずして死したるときに、乙が被むる損失を賠償するの契約にして、實際甲は死去したれど、乙が爲めに被むる損失は、甲の友人にして負債を償却したるが爲めに消滅したるものなれば、保険金を拂ふべき義務なしと。遂に甲の遺族は保険會社を相手取り訴訟を起せしに、最初は奇怪なることに被告の勝となりければ、原告は此裁判に服せず、再應之を法庭に訴ふるに及び遂に前裁判を破毀し原告の勝となりて、生命保険は賠償契約にあらず、單に支拂契約なることを明示せり。

生命保険の種類は、之を二個に區別するを以て便利なりとす。第一種は生命保険の本色にして、第二種は他の保険に似たるものなり。卽第一種の生命保険は、年に前後の差異こそあれ、一度は保険金の拂ひ渡しを要するものにして、第二種の生命保険は、場合によりて保険金の拂渡を爲さず、保険掛金は被保人の損耗となるものなり。

第一種の生命保険を左の五種類に細別す。

尋常終身保険、被保人、其存生中、保険料トシテ毎年一定ノ掛金ヲ拂ヒ、被保人死去シタル時ニ、遺族ニ契約ノ金額ヲ渡スモノナリ。

有限掛金終身保険　尋常終身保険ハ、被保人存生中ハ、幾年ニテモ掛金ヲ爲ス方法ナレト、此保険ハ、三年五年十年等ノ年期ヲ限リ、其年期ヲ過レハ掛金ヲ爲スニ及ハス（或ハ一時拂）。而シテ死後、遺族ニ契約ノ金高ヲ渡スハ尋常終身保険ト異ナルナシ。

養老保険　被保人、五年十年二十年等年期ヲ限リテ掛金ヲ拂ヒ、期ニ至レハ、契約ノ金高ヲ受取リテ、老後幾年ヲ送ルノ資ト爲シ、若シ滿期ニ至ラスシテ被保人死去スル場合ニハ、更ニ尋常終身ト異ナルナク、遺族ニ契約ノ金額ヲ渡スモノナリ。

合生命保険　二人以上ノ者合同シテ保険スルモノニシテ、其中ノ一人死去シタルトキハ、契約ノ保険金ヲ渡スモノナリ。

最長命保険　數人相合同シテ保険スルモノニシテ、一人死シ二人死シ、最後ニ殘レル者ニ契約ノ保険金ヲ渡スモノナリ。

第二種に屬する生命保険の重もなるものは、

定期生命保険　一年或ハ數年ヲ限リ、其期限中ニ被保人死去スルトキハ、被保人カ一時若シクハ數回ニ拂ヒ込ミタル掛金ニ對シ、會社ハ契約ノ金額ヲ遺族ニ渡スモノナリ。若シ期限中幸ニシテ無事ナレハ、掛金ハ被保人ノ損耗タルヘシ。

生殘保険　甲乙二人ニ關スル保険ニシテ、甲死シテ乙生殘レハ、契約ノ保険金ヲ渡セト、乙若シ甲ニ先タチテ死スレハ、掛金ハ被保人ノ損失トナル。例ヘハ、夫若シ婦ニ先タチテ死去スレハ、婦ハ生計ノ爲メ困難スルカ故ニ、夫婦相共ニ保険シテ、夫ノ死去シテ婦ノ生殘レル場合ニ限リ、契約ノ保険金ヲ渡スモノナリ。

## 生命保険ノ効用

政體の變革、一揆徒黨等内訌の禍害は、職として社會中財産の大小分有にあり、而して人に智愚の差ある以上は、世の漸く進歩するに從ひ、社會中財産分有上に於て不平均を生じ、富者は彌々富み貧者は益々貧に陷りて、或は國民の負擔すべき租稅の怠納者となり、或は同盟罷工となり、其極は一變して財産平等論となり、再變して破壞主義の暴行となるは、蓋し數の然らしむるところ、又之を如何ともすべからずと雖も、一時の災難に因て貧困に陷る鰥寡孤獨にして、罪惡を犯し汚辱の行を爲すが如きは、務めて之を豫防し、以て社會の秩序安寧を保たざるべからず。而して生命保険は、此等の害毒を豫防する最良策なり。

富者は必しも賢ならず、貧者は必しも愚ならず。蓋し一國中、智識上に於て上流の位置を占め、其國、國運の進歩に與かりて最も力あり、他國に對しては、其國の智識精神を代表するものは、財産分有上、中等以下の位置にある主人一人の才智藝能に依り、一家數口の生計を營む、俗に所謂月給取なり。今此の一家の命脈を繋ぐ主人公にして不幸にも死去するとき、一家の困難は如何許りならん。特に子供の如き、經濟富貴と云ふにはあらねど亦物に事を缺かぬ中に生育しけるに、一朝父の死に遇ふて貧困を極むることなれば、其辛苦は貧民子弟の辛苦に增さるべく、又幸に父兄の健全なる他の子弟を見たるときは、子供心に嫉妬の念を起し、淺潤の効すところ、長じて不平を社會に訴ふるに至る、情實識に憫むべきものあらん。三千世界に子を持つた一つ心の親心に、眞實子供が可愛きものならば、生命を保険して、萬一の不幸に遇ふも、子供にかゝる憂目を見せぬこと肝要なり。而して生命保険の益たる更に之に止まらず、一度生命を保険したるときは、「死ぬる此身は厭はねど、後に殘りし妻や子」の後事を念ふ心配の暗雲を排除し、剛毅不屈、有爲活潑の働を爲し、以て一層社會を益することを得べし。

夫は外に出て業を營み、婦は内に在て家を治め、老人は子供を學校に伴ひ、一家數口の生計は、主人一個の才能技藝に依る場合に於て、生命保険の必要缺くべからざる亦多言を要せざるべし。然れど富者にあつては、生命を保険するの必要なきか、否生命保険は富者の爲めに最利益あるものなり。其故を如何といふに、社會中、貧困の極は騒亂となるに際し、直に其害毒を被むるは富者なれば、生命保険を普及せしめ、以て國民の貧困に陷るを豫防することは

は、富者の特に盡力すべきことなり。而して生命保險事業を擴張するには、被保人の數、一人も多からんことを要す。故に富者か生命を保險するときは、直接の損得なくして間接に莫大の利益を受くるものにして、則是富者も亦生命を保險せさるべからさる所以なり。

生命保險は、長生幸福を得る者相共に若干の金を損て、短命の不幸に遭ふ者を助くる法なれは、宛も健康の人は緣もなき病人の爲めに金を損する如くなれど、左にあらす、既に生命保險を托して長生するときは、其間死後の心配を知らすして月日を送ることなれは、不幸短命の人に惠みたる金額は、此年月間安堵して業に就くことを得たる安心料と看做すべきものなり。

生命保險は又最良の貯蓄法なり。夫の貯蓄銀行なるものは、塵積りて山を成すの理に基つくものにして、其利益たる固より大なれとも、貯蓄の事たる今の慾を捨てゝ後の快を取り、近き利を捨てゝ遠き樂を期するものなれは、能く己に克つの勇に富むものに非されは之を爲すこと易からす。一年之を爲す或は難からす。數年亦難からす、十數年も亦難からざらん。然れとも一生之れを爲して、嘗て怠ることなきは、これ甚難しとす、況んや五十の人生、必しも人々皆之を期すべからさるに於てをや。夫然り、而して一たび生命を保險したる者は、中途にして之を廢すれば、十年十數年の辛抱苦心は、一朝にして空しく消えて散するものなれば、貯蓄心のさほど強からさる者も、知らす、知らす、已に克つの勇氣を養生するに至るや必然なり、況んや不幸にして一旦易簀の變あるも、遺族之を領し得るに於てをや。然らは則生命保險は、人々をして大に貯蓄心を起さしめ、依て以て一國の資力を增殖するの効あるものなり。

以上陳述するところは、生命保險の効能中最著明なるものにして、何人の思想にも浮ふところのものならん。其證據に、今試に生命保險會社に入りたる者に向つて、足下は何が故に生命保險會社に入りたるやと問はゞ、其人必ず答へて曰はん、人生の恃み難き、今日あるを知つて明日あるを知るべからず、一朝易簀の不幸に遭遇したる時に當り、金圓を得るの方策を講し、遺族をして糊口に窮することなからんことを圖すと。是固より生命保險の効能なり、然れども此等の効能を外にして、尙他の利益あることを忘るべからず、利倍增加のこと是なり。勿論一個人にても、利倍增加の法に依り貯蓄することを得ると雖も、生命保險會社にては、多額の金額を運轉することなれば、利倍增加の割合に於て最高きものを制することを得、加之ならす、保險會社にて能く金錢を融通することを得べし。例へば被保人死去して、會社は積立金中よりして保險金を拂渡さゞるべからさるに當り、丁度掛金拂込の收入あるときは、會社は實際積立金に手附すして、此掛金を以て保險金支拂に振り向け、掛金は會社に拂ひ込みたる瞬間に於て、既に利を生む譯になるなり。

## 生命保險ノ危險

炎熱石を鑠すの夏日、旅行に疲れ果て、山路に横はる大木に踞り、少時く深林の凉風を掬せんと欲せしに、豈計らんや、其大木と思ひしは巨蟒にして、忽ち其口を張り開き無慘にも其人を一呑にすとは、余か畏友和田垣氏が、世の所謂保險會社にして卆に世間の信用に辜負する非態を描寫したる相像畫にあらすや。夫れ生前の利を捨てゝ死後の利を計るは之を深慮と云ひ、一身の利を後にし家族の利を先にする之を慈愛と云ふ、深慮と慈愛は人生の美德なり。然るに生命保險會社が、萬一此深慮と慈愛を奇貨として私慾を逞うすることあらは、其結果の殘酷なる、實に言ふに忍ひさるものあらん。

吾人か此言をなす、必しも空中に樓閣を畫くものにあらす。夫の有名なる英國の「アルビョン」會社「アルベルト」會社「イゥロピアン」會社の破產の如き、其英國社會に害毒を流せる殘忍も亦酷たし、現に十八百五十五年より千八百八十一年に至る僅々五十年未滿の年數間に、英國のみにて生命保險會社の破產、若しくは他の會社に合併したるもの百十、遂に放任主義の英政府をして、已むを得ず生命保險事業に干涉するの必要あることを効せり。

一ツの生命保險會社が他の生命保險會社に合併したりとて、更に譏すべきことなき如くなれど、實際保險會社が他の會社に合併するは、通例其內幕に不如意なるところあればなり。故に合併の結果は所謂共倒となり、其社會に害毒を流す、破產に優るところあるも劣るなき、英國の實例に照して昭かなり。此、吾人か生命保險の危險を論するに當り、保險會社の破產と合併を同一視する所以なり。



生命保險會社積立金は、會社創立後數年を出ですして、資本金に超過するものなり。然るに會社が積立金を株主に分配することは、固より正當のことにあらざれど、特別の制限あらさる限りは法律の問ふところにあらされば、「跡ハ野トナレ山トナレ」といふ覺悟にて、實際積立金を悉皆株主に對して分配したりとせば、會社の破產する、日を期して待つべきなり。現に先年英國にて破產せし某生命保險會社の如き、僅々數年間に、資本金の三倍餘に當る金額を株主に配當し、然る後、自放自棄、破產に遇ふて却て喜へる色ありしこと其のち世に知られしといふ。

以上陳述するところは、保險會社にある人々の不良心より起る危險にして、其害毒は實に恐るべしと雖も、保險金受取人の不良心より起る危險には、尙一層恐るべきものあり。輓近は其跡を絕ちたれど、今より五六十年以前、英國に在りて、被保人を撲殺して保險金を貪りたることありしと云ふ。然れども此等の危險、其恐るべきは實に恐るべしと雖も、前者の如き、政府の干涉に賴りて之を防遏することを得へく、又後者の如きは刑法の問ふところ、況んや今日の開明社會には、最早其跡を絕ちたりと看做すことを得べきなり。

生命保險に關する危險中、吾人の最も之を防禦するの策に苦むものは、數多の生命保險會社が互ひに相競爭するの極、保險掛金を格外に低落せしむること是なり。若夫、生命保險會社は大いなる利益を占むるものなるを知らは、物眞似流行の國柄にて、生命保險會社の陸續踵を接して起ること自然の勢なり。其結果は互に競爭して、結局保險掛金を低くし、被保人は掛金の低きを是撰み、會社の破產に遇ふて初めて、「安物買ひの錢失ひ」たりしことを後悔することあらん。總て物品の賣買に賣手多人數なるときは、相競ふて物品の價を低廉にし、價の低廉なるに從ひ、物品の粗惡になるは自然の勢なれど、買手の方にても物品を吟味し、其價に對照して果して已に得ありと考ふるにあらされは、之を買取らざるなり。生命保險の場合にても、掛金を低くすれば低くするほど、會社の安全に傷つくるところある恐れあり。故に被保人にして、掛金の成るべく低きを好むは勿論なれど、さりとて掛金の低きに失して、會社の破產を來すを忌むなるべし。又掛金にして格外に高かければ、會社の確實なりと云ふ點に於て缺くるところなかるべけれど、被保人は、五里霧中に、會社の爲めに非常の利益を貪らるゝ恐れなり。唯此掛金の高低を鑒定する、物品の粗惡を吟味する如く容易ならすして、此際被保人は宛も暗夜に路を行くか如き危險を冐すを如何せん。

生命保險に付きては、往々人の意想外に出つる事情あり。例へは先頃のことにてありける、或被保人か僅に一度の掛金を拂ひたる後、直に死去しければ、保險會社は契約の金額を渡したり。是は勿論生命保險の本色にして更に間然するところなけれと、玆に奇怪なることは、生命保險會社は、遺族をして何某僅に一回の掛金を爲したる後に死去したれど、保險會社は契約の金額を拂ひ渡したる旨を、新聞紙上に廣告せしめたり。蓋し生命保險會社にあつては、此一例を推して生命保險を世間に慫慂勸薦するの意に外ならさるべけれど、熟此事柄を吟味するに、被保人の僅に一回の拂を爲して直に死亡したることは、生命保險會社に於て體格檢査上落度なきにあらざるか。尤も今日健全の者も、明日は黃泉の客となるを知るべからされば、體格檢査上過失なかりしとするも、若しかくの如き事度々あるときは、會社は到底立ち行きかたかるべければ、今會社の爲めを謀るにかくの如き事柄は寧ろ之を隱蔽すへき筈なるに、却て之を世間に公布して揚々得色あるか如き、生命保險會社當局の人にして、尙且生命保險の道理に暗きを證するに足るべし。

又生命保險に付きて、無責任の著書世に現はるゝことあり。余は嘗て英人某の著せる生命保險論、一名は千萬磅の行衛と題する書を閱せしか、此書の既に第三版なるより推測するときは、現に英國の社會に流布する書物なるべけれと、書中記するところは、生命保險の事を知らさるもの、徒に世間を煽動し、保險會社を非難するに過きず。此種の著書は、一方に在りては被保人を惑はしめ、又一方に在りては生命保險會社に損害を與ふること尠からさるべし。

夫れ然り、生命保險の効用利益の大なると同時、其危險も亦一にして足らす、吾人は宜しく生命保險の眞理を講し、特に生命保險掛金の低きに失せさるや否を判斷するの材料を索め、又彼の無責任著書の爲めに惑はせられさらんことを力むべきなり。我國生命保險の事業は尙幼稚にして、吾人は僅に其效能を知り、掛金の稍高きに失することを外にしては、未た其弊害を見す。

然れと治に居て亂を忘れす、無事の日に於て豫しめ不慮に備ふるは保險の眞面目なれば、吾人が生命保險の道理を明かにし、以て後來に起らんとする弊害を其未發芽せさるに早く既に撲滅し去らしむること、實に目下の急務なるべし。

## 生命保險ノ原理

加藤清正は朝鮮にて虎を搦りたり、明智光秀は京都本能寺に於て織田信長を殺したり、此二者共に歷史上の事實なれど、今若し孰れか確かなるやと問ふに、明智光秀が織田信長を京都本能寺に於て殺せしと云ふことは、加藤清正が朝鮮にて虎を搦りたりといふことよりは、確かに聞ゆるならん。又明智光秀は京都本能寺に於て織田信長を殺せしと云ふことゝ、火は燃ゆると云ふことを比較するときは、明智光秀の織田信長を京都本能寺に於て殺せしことに間違ひもなからんけれど、吾人は、吾人が火の燃ゆることを確信する如くには、信せさるべし。されは同しく人間の確實なりと信する事柄の内にも、其確實なりと云ふ點に付きては、種々の差異あることを知り得べく、況してや人の此世に處する事實の未判然せす、又は未來に生する事柄には臆斷何れとも斷定し難く、所謂信疑の間に彷徨ふ場合は甚多く、「確カナリ」といふ觀念より「確カニサウデナイ」といふ觀念に移る間には、「多分サウデアロウ」「確カラシイ」「多分サウデアルマイ」など種々の階級あり。英語にては此場合に適用する「プロバビリチー」(probability)と云ふ都合宜き辭あれと、日本語には之に相當する譯字なく、學者先生達の考案に係る二三の新譯もなきにあらねと、何れも面白からさる其中に、只「プロバビリチー」を「確カラシサ」と譯するは稍當を得たるが如し。

愛に一人の小兒ありとし、此小兒が年齡五十にして死すると云ふことを吟味するに、此小兒が丁度五十歲になりて死する特別の理由もなければ、餘の年齡にて死するやも知れす、又穴勝チに丁度五十歲に達して死なぬとも限らす、到底人智の能く測り知るところにあらざるなり。又愛に二人の小兒か生れたりとし、二人の内チ一人が年齡五十にして死すると云ふことは、前の事柄と同し性質の事柄にして、同しく豫しめ測り知り難きことなれど、後の豫言の、前の豫言よりは確からしくあることは、誰も許すところなるべし。偖て形容詞を比較的に使用することを得るとき、則よりの下に形容詞の來る場合には、通例其形容詞の表はす性質に就き、幾許と問ふことを得る。例へは富士山は淺間山より高い、幾許高い、親父は倅より年が上、幾個年が上、と問ふことを得るが如し。故に後の豫言は前の豫言より確からしいと云ふことを得るからには、幾許確からしいと問ひ又答ふることは、必しも難きことにはあらさるべし。

偖て彌々數を以て「確カラシサ」の多少を表はし、例へは此「確カラシサ」は幾許、彼の「確カラシサ」は幾個と云ふときは、如何にも耳新しく聞え不思議の思をする人もあるべけれど、深く「確カラシサ」と云ふことを玩味せば、必しも左程不思議のことにはあらさるべし。往古蒙昧の時代には、湯は水より温なることは誰しも知りたることなるべけれど、幾許温なりと云ふことは當時の人の意想外にありしならん。其後理學の進歩して、總て物體は熱によりて膨脹（或は收縮）すると云ふ定理を發見し、此定理を利用して寒暖計てふものを作り、始めて温度を計ることか出來る樣になりたるなり。然し人間の未た寒暖計の使用に慣れさりし時代には、湯の温度は幾許なと云ふことが可笑しく聞えしなるべけれど、今の世には石油の發火點は百十五度、風呂の湯は八十度を越すべからすなと、言ふも一向に怪しむ人なし。勿論寒暖は人の感覺に訴へて「確カラシサ」と云ふことは人の考にあることなれば、穴勝チ一樣に論することは出來ぬ譯なれど、「確カラシサ」を數ふることも、習ひ慣れるに從かひ、當然のことに思はれるものなり。

次に記する二箇の公理は「確カラシサ」を測り數ふる方法の基礎を爲すものなり。

公理第一　「確カラシサ」と云ふ觀念に多少の階級あること。

公理第二　愛に、相互の間に關係なき定數の出來事中、其一ツが必起るとし、定數の出來事中、幾數個の其一ツが起る「確カラシサ」は、此幾數個出來事の個々の「確カラシサ」より成立す。

例へは、イロハ四十八本の籤を一本抽くに、イ、ロ、ハ、三本の中、其一ツを抽く「確カラシサ」は、イを抽く「確カラシサ」、ロを抽く「確カラシサ」、



ハを抽く「確カラシサ」より成立す。

故に今イロハは四十八文字の中、其一ツ例へはイを抽く「確カラシサ」を一とするときは、ロを抽く「確カラシサ」も同しく一なり、又ハを抽く「確カラシサ」も一なれば、イロハ三字の中此一ツを抽く「確カラシサ」ハ、一に一を加へ又一を加へたるものも即三なり。同し理にて、イロハ四十八文字中の中何れか一ツを抽く「確カラシサ」は四十八なり。然るにイロハ四十八文字の中、何れか一ツ當ることは確かなることなれば、此場合に於ては「確カナリ」と云ふことを四十八を以て表はす。

賽の目に一、二、三、四、五、六の六種あり。今賽を投げ出し一、二、三、四、五、六の中一ツ例へば一が出る「確カラシサ」を一とするときは、一、二、三、四、五、六の中何れか一ツ出る「確カラシサ」は六なり。故に此場合に於ては、六を以て「確カナリ」と云ふことを表はす。

同しく、「確カナリ」と云ふことを、イロハ四十八文字の籤の場合に於ては、四十八を以て表はし、賽の目の場合に於ては、六を以て表はすが如く、同一の事實を表はす數に差異あるは、宛モ長サを測るに、通當の尺を用ゆると米突尺を用ゆるとによつて、長サを表はす數の相異なるが如く「確カラシサ」を測る單位にして相異なればなり。

總て物を測るに單位の一定せさるは、其不便尠からす。故に「確カラシサ」を數ふるにも、又「確カラシサ」の單位を定むるを要す。「確カラシサ」を測る最も適當なる單位は、「確カナリ」と云ふことなるべし。即一を以て、「確カナリ」と云ふことを表はす。然るときは四十八本の籤の場合に於て、イの字を抽く「確カラシサ」は四十八分の一賽の場合にて一を投け出す「確カラシサ」は六分の一、又一或は二を投け出す「確カラシサ」、六分の二即三分の一となる。

實際「確カナリ」と云ふことを單位とし、或る出來事か起る「確カラシサ」を測るには、有ると有らゆる場合の數を以て、此出來事の生する場合の數を割りて得。

例へは、三類の白玉、四類の黑玉を容れたる甕中より、玉一顆を引き出すに、引きだしたる玉の白なる「確カラシサ」は、有るとあらゆる場合の數七を以て、出來事の生す即白玉の出る場合の數三を割りて、七分の三を得。以上掲くるところの例にては、豫しめ有るとあらゆる場合の數、並に出來事の生する場合の數を知りて、而して未來に起る出來事の「確カラシサ」、斟を換へて言ふときは、爰に既知の源因より生する種々の結果中、某結果の起る「確カラシサ」を算出するものにして、其計算の方法は甚容易なれど、通例逆「確カラシサ」(Inverse Probability)と稱する、結果よりして源因に推及する、即實際既に起りたる出來事を知り、此出來事の源因を知らさる場合に於て、或る源因こそ此出來事の源因ならめと云ふ「確カラシサ」を算出する方法は、多少數學を學びたる人にあらされは之を瞭解すること能はさるべし。

逆「確カラシサ」の最簡單なる一例を擧げんに、爰に五十錢銀貨と二錢の銅貨を容れたる財布あり。此財布の中には、五十錢銀貨と二錢銅貨の外なきことは知れをれど、果して幾個の五十錢銀貨幾個の二錢銅貨あるや分りをらざるに、今試みに財布の中より七個を取り出したるに、其中二個は五十錢銅貨、五個は二錢銅貨なり。扨此實際取り出せし七個中、二個は五十錢銀貨、五個は二錢銅貨なりしと云ふことよりして、次に新に取り出す一個の五十錢銀貨なるべしと云ふ「確カラシサ」は、逆「確カラシサ」なり。

「確カラシサ」論中最も實用多きは、逆「確カラシサ」なり。人の此世に處する、總て從來の經驗に徵して後來の方向を定むることなれば、人間萬事逆「確カラシサ」と言ふも敢て誣言にあらず。世に先見の士とてもてはやさるる人も亦、是逆「確カラシサ」に明かなる人に外ならざるなり。

生命保險の如き、また逆「確カラシサ」の一應用に過ぎず。則生命保險を施行するには、既往の統計事實に據り、人の各年齡に於て死する逆「確カラシサ」を算出せざるべからずして、所謂死亡表なるものは、此統計事實を一表に縮集したるものにして、吾人は死亡表に據りて生命保險に要する逆「確カラシサ」を算出するものなり。

「確カラシサ」論の原理は、前に揭げたる二個の公理に過ぎずして甚簡單なるものなれど、實際混雜したる場合に於て、「確カラシサ」、特に逆「確カラシサ」を算出することは頗る困難にして、到底數學者を煩はさゞるを得ず。亦合生命保險とて、二人以上の生命に關する保險（例へば、夫婦にて保險し、

夫の歸に先だちて死したる場合に限りて、保險金を受取るが如し。）を論ずるには、到底「確カラシサ」論の蘊奥に立ち入らざるべからざれど、本書の眼目たる、現今我國にて行はるゝ、一個人の保險に關する保險の事を論ずるには、殊更に死亡表よりして遡「確カラシサ」を算出するを要せず、死亡表に掲げたる數を其儘用ゆることを得れば、余は混雜したる場合に於て「確カラシサ」を算出する方法を詳說せざれど、兎に角に人間萬事何事にても適當の方法に依るときは、計算の難易は姑く措き、未來に生ずる出來事の「確カラシサ」を數を以て表はすことを得るものと知るべし。

「確カラシサ」を金錢上に適用するには、次に記する原則を理會するを要す。

未定ノ事ニ管セシムル拂金ニ對スル掛金ハ、拂金ニ其未定ノ事ノ「確カラシサ」ヲ乘シタルモノニシテ、辭ヲ換ヘテ言フトキハ、掛金ハ「確カラシサ」ニ比例セザルベカラズ。

此原則を說明せんが爲め、再び前に擧げたる「イロハ」四十八本籤の例を採り、此「イロハ」四十八本中一本の當り籤ありて、其價四十八圓なりと假定せんに、今一人にて四十八本を悉皆買ひ占むるに、一本の代價若し一圓以下なれば利益あること疑なしと雖も、一圓以上なれば損失を蒙ることも亦必定にして、一圓なれば損得なし。故に籤一本に付き、一圓こそ正當の代價なり。勿論、此は一人にて悉皆の籤を買ひ占めたりとして勘定したる價なれど、實際多人數にて各若干本を買ふたりとするも、尙一本一圓を以て正當の代價とす。何となれば一本の價一圓以下なるべき道理なければなり。

此例に於て未定の事は當り籤にして、拂金額は四十八圓、某籤の當る「確カラシサ」は既に前に算出したる如く四十八分の一なれば、四十八圓に四十八分の一を乘し、掛金高卽籤一本の價一圓を得。又拂金額、卽當り籤を百圓とするときは、百圓に四十八分の一を乘じ、籤一本の價二圓八錢三厘强を得。イロハ四十八本の籤中、一本の當り籤四十八圓とし、四十八人にて各一本づゝ一圓にて買ふたりとせんに、抽籤に當りたる人は僅に一圓を出して四十八圓を得ることなれば、差引き四十七圓の利益を得、餘の四十七人は各一圓の損失を蒙ることになれば、正に是純然たる博奕にして、博奕は國法の禁ずるところ、且ツ良民の爲すことを潔しとせざるところなれど、今もし籤を抽く前に、籤の所有者四十八人一同にて協議を遂げ、全體四十八本中僅に一本の當り籤なれば、實際籤に當ること覺束なく、萬一籤に當りたるとする、所謂勞するところなくして得たる金は身につかず、夫とて損失を蒙むることは一圓にても好ましからざれば、四十八人中誰れに當るを問はず、當り籤の四十八圓を一同に分配せんことを契約したりとせば、此四十八人は差引損得をせざるを以て、籤を抽くことは博奕に相違なけれど、此博奕より生ずる惡しき結果を救濟することを得べし。

前上の場合に於て、四十八人中一人は四十八圓を得ることなれど、今四十八人中一人は是非とも四十八圓の損失を蒙らざるべからざるものとするも、理屈に於て異なるところなし。然るに四十八人中誰しも四十八圓の損失を蒙ることを好まざるべく、さりとて一人は此損失を蒙ることを到底免るゝことを得ざれば、玆に四十八人一同協議の上、各一圓を出金して四十八人中、損失の實際誰彼に墮落するを問はず、融しめ之を償ふの資に備ふるときは、四十八人總體にて各些少の損失する代りに、一人にて多額の損失を被むる不幸を見ざるべし。

多年の經驗に依り、五十艘の船舶中海上の難に遇ふもの年に一艘ありとせんか。此等船舶の所有主は、其何人たるを問はず、自家所有船の難破して非常の損失を蒙むることを好まざれば、船舶所有主は一同にて醵金し、以て融しめ破船の損失に備ふる、辭を換へて言ふときは、一艘の船の難船より生ずる損失を、五十艘の船主一統に負擔する、是則海上保險なり。偖各船主出金高の比例を定むるには、五十艘の船舶を一樣に堅牢なるものとするも、尙且ツ其中には狂風を凌き怒濤を衝くあれば、內海鏡面を駛馳するあり、實際航海の線路によりて同すところの危險に多少の別あれば、出金の割合にも多少の差異あるべきこと理の當然なり、卽出金は難船する「確カラシサ」に比例せざるべからず、是則海上保險の原理なり。

人に短命長壽の幸不幸あるは、天の授せる博奕にして警察の力能く之を制壓するを得ず、吾人は此博奕場裡に棲息するものなれば、其危險言ふべからず。故に吾人は無事の日に於て共同醵金し、以て豫じめ不慮に備ふる、是生命保險なり。

人に年齡の老少身體の强弱あれば、今生命を保險せんが爲めに共同醵金する金高の割合にも、多少の差異あるべきこと勿論なり。卽出金は死す「確カラシサ」に比例せざるべからず。則是生命保險の原理にして、實際、生命保險會社に於て體格檢査を施行して被保人身體の强弱を區別し、又年齡の多少により、保險掛金に高下の別ある所以なり。



## 死亡生殘表

生者必滅、彼の雲に駕し空を馭ける仙人にあらざるよりは、生きとし生けるもの死なぬといふことなし。人生は恰も是草上の朝露、風前の燈火に異ならず。果敢なくも亦危險なるものなれど、今試に人間の壽命に定則ありや否やと問ふに、之なしと答ふるは太しき誤謬なり。

浦島太郎の三千年を外にしては、三浦の大助百六ツくらひのところが人間壽命の最も長きものならん。現に去明治二十年十二月三十一日の調査によるに、我國同胞四千萬人中、百歲以上は僅に九拾六人に過ぎずして、其內最高齡の者百六歲二人あるのみ。故に人間は通例百歲以下にて死去し、稀に百歲を越ゆることあるも、兎に角に二百歲に達せざることは、經驗上動かすべからざる事實にして、此の人間は二百歲以下にて死すると云ふことは、則是人間の壽命を支配するところの天則の一にあらずして何ぞや。

今一個人に就きていふとき、其人はイツ何時幾許の年齡にて死するや豫じめ測るべからず、一個人の壽命は誠に不規則なるものなれど、人種、飮食、氣候、其他百般の事物を同うする多數人間の集合體に就き、統計事實に據り其の壽命を吟味するときは、所謂不規則中尙ほ規則正しく、自ら整然犯すべからざる一定規律の存する、恰も人間の命數に限りあるが如くなるを發見すべし。

理想上完全なる死亡表は、此の人種、飮食、氣候、其他百般の事物を同うする多數人間集合體の壽命を支配する一定不變の規律を表はすものなるを以て、之に種類あるの理なし、止だ死亡表を編製する方法に於て三箇の別あり。

（一）尋常死亡生殘表は、同年齡者若干名が年々死亡し、終に死絕ゆるに至りて了はる、各年齡に於ける生殘死亡數を示す統計表なり。例へば、次章第七表死亡生殘表（第一〇五ページを見るべし）。年齡十年の生殘數に千とあるは、余が此表を作るに、初起に年齡十年の者千人を採りたればなり。又年齡十年の死亡數に六とあるは、此千人中十一歲の年齡に達せずして死するもの六人なることを示すものなり。故に千より六を引き、年齡十一年の生殘數九百九拾四人を得、卽年齡十一年の死亡數六とあるは、此の年齡十一年の者九百九拾四人中、滿十二歲に達せずして死する者六人なることを示し、九百九拾より六を引き十二歲の生殘數九百八十八人を以下之に準じ、最後年齡九十のところに十とある、最初の十年の年齡者千人中、九十の年齡に達するもの僅に十人なることを示すものなり。

（二）死亡割合表とは、各年齡者同數に付、一ケ年間死亡數を示すものなり。例へば次章第五表（第一〇〇ページを見るべし）。各年齡者千人に付、一ケ年死亡數と題する行に、年齡十のところに四とあるは、年齡十年の者若干名中、十一歲に達せずして死する人數は千の四に於ける比例、又年齡二十のところに八とあるは、年齡二十の者若干名中、二十一歲に達せずして死する人數は、千の八に於ける比例なることを示すものなり。

（三）平均壽命表とは、各年齡に於ける平均の壽命を示すものなり。例へば年齡七十歲のもの若干ありとし、此の內には七十一歲に達せずして死するものあれば、又八十歲以上に達する人もあるべし。今各人の實際生き延びたる年數の合計を、總體の人數にて割りたるものは、年齡七十に於ける平均壽命なり。（次章の終りに揭げたる本邦平均壽命表を參考すべし）。

以上三箇の表は、共に同一の事實を示すものにして、たゞ此の同一の事實を示す方法に於て差異あるのみなれば、勿論三箇の內其一を知るときは、他の二者を推算調製することを得るなり。

實地調査上、完全なる死亡生殘數を得ることは、蓋し人力の能く及ぶところにあらざるべし。其故は、第一に人種、氣候、飮食等百般の事物を同うする同年同月同日に生れたる多數の人を撰出することは極めて至難なるが上に此の人々が一人も殘らず死絕ゆる迄、各人の履歷を取り調ふることは困難な

| | | | |
|---|---|---|---|
| カーラキル表（ミルン氏） | ノルサンプトン表（ライス氏） | 一七五八 | |
| ワルゲンチン氏ノ表 | 瑞典 | 一 | 一七七六 |
| バウマンヒ氏ノ表 | 獨逸 | 一 | 一七七五 |
| セシモールト氏ノ表 | 巴里 | 一 | 一七七六 |
| ジエアレツト氏ノ表 | 佛蘭西 | 一 | 一七七六 |
| デバルシユー氏ノ表 | 佛蘭西 | 一 | 一七七六 |
| ケルスボーム氏ノ表 | 和蘭 | 一 | 一七七三 |
| スマルト氏ノ表 | 龍動 | 一 | 一七七四 |
| ジエツスミルヒ氏ノ表 | フランデンブルヒ（獨逸） | 一 | 一七七四 |
| ヘレー氏ノ表 | フレスラウ（獨逸） | 一 | 一七九三 |
| 死亡表 | 地名 | | 出版年紀 |

亡表あり。今其主なるものを左に列擧す。

或る生命保險會社の調べたるところに據れば、世界中にては大凡千餘種の死亡表あり。今より十三年前、佛國死亡生殘表は、有名なるヘレー氏の[フレスラウ]死亡表、[デバルシユ]氏の[ケルスボーム]氏ノ表、[スマルト]氏ノ表、[ジエツスミルヒ]氏ノ表、[ジエアレツト]氏ノ表、[セシモールト]氏ノ表、[バウマンヒ]氏ノ表、[ワルゲンチン]氏ノ表、[ノルサンプトン]表（ライス氏）、[カーラキル]表（ミルン氏）等を初めとし、其多きことは數百種に過ぎず。

佛國死亡生殘表は、有名なるヘレー氏の[フレスラウ]死亡表、[デバルシユ]氏の[ケルスボーム]氏ノ表、[スマルト]氏ノ表、[ジエツスミルヒ]氏ノ表、[ジエアレツト]氏ノ表、[セシモールト]氏ノ表、[バウマンヒ]氏ノ表、[ワルゲンチン]氏ノ表、[ノルサンプトン]表（ライス氏）、[カーラキル]表（ミルン氏）等を初めとし、其多きことは數百種に過ぎず。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ヘレー氏ノ表 | フレスラウ（獨逸） | 一 | 一六九三 |
| ジエツスミルヒ氏ノ表 | フランデンブルヒ（獨逸） | 一 | 一七四〇 |
| スマルト氏ノ表 | 龍動 | 一 | 一七四二 |
| ケルスボーム氏ノ表 | 和蘭 | 一 | 一七四三 |
| デバルシユー氏ノ表 | 佛蘭西 | 一 | 一七四六 |
| ジエアレツト二氏ノ表 | 巴里 | 一 | 一七四七 |
| セシモールト二氏ノ表 | 巴里 | 一 | 一七四七 |
| バウマンヒ二氏ノ表 | 獨逸 | 一 | 一七七五 |
| ワルゲンチン氏ノ表 | 瑞典 | 一 | 一七七六 |
| ノルサンプトン表（ライス氏） | ノルサンプトン府 | 一 | 一七七六 |
| カーラキル表（ミルン氏） | カーラキル府 | 一 | 一七八三 |
| 死亡表 | 地名 | | 出版年紀 |

亡表あり。今其主なるものを左に列擧す。

或る生命保險會社の調べたるところに據れば、世界中にては大凡千餘種の死亡表あり。今より十三年前、佛國死亡生殘表は、有名なるヘレー氏の[フレスラウ]死亡表、[デバルシユ]氏の[ケルスボーム]氏ノ表、[スマルト]氏ノ表、[ジエツスミルヒ]氏ノ表、[ジエアレツト]氏ノ表、[セシモールト]氏ノ表、[バウマンヒ]氏ノ表、[ワルゲンチン]氏ノ表、[ノルサンプトン]表（ライス氏）、[カーラキル]表（ミルン氏）等を初めとし、其多きことは數百種に過ぎず。

佛國死亡生殘表は、有名なるヘレー氏の[フレスラウ]死亡表、[デバルシユ]氏の[ケルスボーム]氏ノ表、[スマルト]氏ノ表、[ジエツスミルヒ]氏ノ表、[ジエアレツト]氏ノ表、[セシモールト]氏ノ表、[バウマンヒ]氏ノ表、[ワルゲンチン]氏ノ表、[ノルサンプトン]表（ライス氏）、[カーラキル]表（ミルン氏）等を初めとし、其多きことは數百種に過ぎず。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 英國二十會社表 | 英吉利 | 一 | 一八四三 |
| 英國十七會社表 | 英吉利 | 一 | 一八三八 |
| 英國第一（ドクトル、フエルル氏） | 英吉利 | 一 | 一八四四 |
| 英國第二 | 同 | 一 | 一八四六 |
| 英國第三 | 同 | 一 | 一八四七 |
| 佛國中央統計局表第一 | 佛蘭西 | 一 | 一八四八 |
| 佛國會社表第二 | 佛蘭西 | 一 | 一八四九 |
| 佛國會社表第三 | 佛蘭西 | 一 | 一八五〇 |
| ドクトル、ベルマン氏ノ表 | 獨逸 | 一 | 一八五一 |
| ドクトル、ベツケル氏ノ表 | 獨逸 | 一 | 一八五一 |
| ドクトル、ベルク氏ノ表 | 瑞典 | 一 | 一八五一 |
| ドクトル、キエル氏ノ表 | 那威 | 一 | 一八五一 |
| ドクトル、ベルチヨン氏ノ表 | 佛蘭西 | 一 | 一八五一 |

斯くの如く數多き死亡表を一々に吟味し、其詳細に立ち入ることは、一到底出來ぬ事なり。勿論來國に於て、最初は英國保險會社の死亡表に基づきて保險料を算出し、年月を經るの後、漸く自國の經驗に據て別に死亡表を作りたるに、頗る英國と來國とは人種も同しく、其他衣食住凡般の事物を同うするを以て、兩國死亡表の相似たるはさもあるべき事なり。

ドクトル、フエルル氏（Dr. Farr）は英國戶籍調査に據りて死亡表を作れり。世に英表と稱するものは是なり、英表に三種あり。

第一は、千八百四十一年の人口調査と、同年間の死亡記錄より算出したるものなり。

第二は、同年の人口調査と、千八百五十一年より千八百六十年に至る、四十年間に亘るノルサンプトン府（Northampton）某區の死亡記錄より調製したる、千七百八十三年出版のノルサンプトン死亡表なり。

第三は、千八百四十一年及千八百五十一年兩度の人口調査と、千八百五十四年に至る、十七年間の死亡記錄より算出したるものなり。

千八百六十三年十二月三十一日迄に記錄したる、保險契約の總數十六萬四百二十六

| 保險死亡現在 | 內譯 | |
|---|---|---|
| 解約 | | 四萬七千三百七十六 |
| 消 | | 二萬六千七百二十一 |

千八百六十二年、英國生命保險協會は、千八百三十八年、十七會社の完全なる死亡表を作ることを發議せしに、大に世の賛助を得、遂に英國生命保險會社十、合計二十の生命保險會社にて、調製從來當時に至る迄、二十四年間に集りたる最も確なる材料を利用して、一千八百六十二年に至る、十八年間の死亡記錄より算出したるものなり。

第三は、千八百四十一年及千八百五十一年に至る、十一年間の死亡記錄より算出したるものなり。

此二十會社死亡表は、英國死亡表中最も完全なるものなることは疑なしと雖も、きれば之を他國に通用して完全なるものなりと爲すときは、如何に完全なる死亡表にも完全あるべき筈はなし。

一國にとつては如何に完全なる死亡表も、之を他國に適用することは出來ぬなり。勿論來國に於て、最初は英國保險會社の死亡表に基づきて保險料を算出し、年月を經るの後、漸く自國の經驗に據て別に死亡表を作りたるに、頗る英國と來國とは人種も同しく、其他衣食住凡般の事物を同うするを以て、兩國死亡表の相似たるはさもあるべき事なり。

ドクトル、フエルル氏（Dr. Farr）は英國戶籍調査に據りて死亡表を作れり。世に英表と稱するものは是なり、英表に三種あり。

第一は、千八百四十一年の人口調査と、同年間の死亡記錄より算出したるものなり。

第二は、同年の人口調査と、千八百五十一年より千八百六十年に至る、四十年間に亘るノルサンプトン府（Northampton）某區の死亡記錄より調製したる、千七百八十三年出版のノルサンプトン死亡表なり。

第三は、千八百四十一年及千八百五十一年兩度の人口調査と、千八百五十四年に至る、十七年間の死亡記錄より算出したるものなり。

千八百六十二年、英國生命保險協會は、千八百三十八年、十七會社の完全なる死亡表を作ることを發議せしに、大に世の賛助を得、遂に英國生命保險會社十、合計二十の生命保險會社にて、調製從來當時に至る迄、二十四年間に集りたる最も確なる材料を利用して、一千八百六十二年に至る、十八年間の死亡記錄より算出したるものなり。

第三は、千八百四十一年及千八百五十一年兩度の人口調査と、千八百五十四年に至る、十七年間の死亡記錄より算出したるものなり。

千八百六十三年十二月三十一日迄に記錄したる、保險契約の總數十六萬四百二十六

| 保險死亡現在 | 內譯 | |
|---|---|---|
| 解約 | | 四萬七千三百七十六 |
| 消 | | 二萬六千七百二十一 |

千八百六十二年、英國生命保險協會は、千八百三十八年、十七會社の完全なる死亡表を作ることを發議せしに、大に世の賛助を得、遂に英國生命保險會社十、合計二十の生命保險會社にて、調製從來當時に至る迄、二十四年間に集りたる最も確なる材料を利用して、一千八百六十二年に至る、十八年間の死亡記錄より算出したるものなり。

第三は、千八百四十一年及千八百五十一年兩度の人口調査と、千八百五十四年に至る、十七年間の死亡記錄より算出したるものなり。

此二十會社死亡表は、英國死亡表中最も完全なるものなることは疑なしと雖も、きれば之を他國に通用して完全なるものなりと爲すときは、如何に完全なる死亡表にも完全あるべき筈はなし。

一國にとつては如何に完全なる死亡表も、之を他國に適用することは出來ぬなり。勿論來國に於て、最初は英國保險會社の死亡表に基づきて保險料を算出し、年月を經るの後、漸く自國の經驗に據て別に死亡表を作りたるに、頗る英國と來國とは人種も同しく、其他衣食住凡般の事物を同うするを以て、兩國死亡表の相似たるはさもあるべき事なり。

ドクトル、フエルル氏（Dr. Farr）は英國戶籍調査に據りて死亡表を作れり。世に英表と稱するものは是なり、英表に三種あり。

第一は、千八百四十一年の人口調査と、同年間の死亡記錄より算出したるものなり。

第二は、同年の人口調査と、千八百五十一年より千八百六十年に至る、四十年間に亘るノルサンプトン府（Northampton）某區の死亡記錄より調製したる、千七百八十三年出版のノルサンプトン死亡表なり。

第三は、千八百四十一年及千八百五十一年兩度の人口調査と、千八百五十四年に至る、十七年間の死亡記錄より算出したるものなり。

千八百六十三年十二月三十一日迄に記錄したる、保險契約の總數十六萬四百二十六

| 保險死亡現在 | 內譯 | |
|---|---|---|
| 解約 | | 四萬七千三百七十六 |
| 消 | | 二萬六千七百二十一 |

千八百六十二年、英國生命保險協會は、千八百三十八年、十七會社の完全なる死亡表を作ることを發議せしに、大に世の賛助を得、遂に英國生命保險會社十、合計二十の生命保險會社にて、調製從來當時に至る迄、二十四年間に集りたる最も確なる材料を利用して、一千八百六十二年に至る、十八年間の死亡記錄より算出したるものなり。

第三は、千八百四十一年及千八百五十一年兩度の人口調査と、千八百五十四年に至る、十七年間の死亡記錄より算出したるものなり。

此二十會社死亡表は、英國死亡表中最も完全なるものなることは疑なしと雖も、きれば之を他國に通用して完全なるものなりと爲すときは、如何に完全なる死亡表にも完全あるべき筈はなし。

一國にとつては如何に完全なる死亡表も、之を他國に適用することは出來ぬなり。勿論來國に於て、最初は英國保險會社の死亡表に基づきて保險料を算出し、年月を經るの後、漸く自國の經驗に據て別に死亡表を作りたるに、頗る英國と來國とは人種も同しく、其他衣食住凡般の事物を同うするを以て、兩國死亡表の相似たるはさもあるべき事なり。

ドクトル、フエルル氏（Dr. Farr）は英國戶籍調査に據りて死亡表を作れり。世に英表と稱するものは是なり、英表に三種あり。

第一は、千八百四十一年の人口調査と、同年間の死亡記錄より算出したるものなり。

第二は、同年の人口調査と、千八百五十一年より千八百六十年に至る、四十年間に亘るノルサンプトン府（Northampton）某區の死亡記錄より調製したる、千七百八十三年出版のノルサンプトン死亡表なり。

第三は、千八百四十一年及千八百五十一年兩度の人口調査と、千八百五十四年に至る、十七年間の死亡記錄より算出したるものなり。

千八百六十三年十二月三十一日迄に記錄したる、保險契約の總數十六萬四百二十六

| 保險死亡現在 | 內譯 | |
|---|---|---|
| 解約 | | 四萬七千三百七十六 |
| 消 | | 二萬六千七百二十一 |

千八百六十二年、英國生命保險協會は、千八百三十八年、十七會社の完全なる死亡表を作ることを發議せしに、大に世の賛助を得、遂に英國生命保險會社十、合計二十の生命保險會社にて、調製從來當時に至る迄、二十四年間に集りたる最も確なる材料を利用して、一千八百六十二年に至る、十八年間の死亡記錄より算出したるものなり。

第三は、千八百四十一年及千八百五十一年兩度の人口調査と、千八百五十四年に至る、十七年間の死亡記錄より算出したるものなり。

此二十會社死亡表は、英國死亡表中最も完全なるものなることは疑なしと雖も、きれば之を他國に通用して完全なるものなりと爲すときは、如何に完全なる死亡表にも完全あるべき筈はなし。

一國にとつては如何に完全なる死亡表も、之を他國に適用することは出來ぬなり。勿論來國に於て、最初は英國保險會社の死亡表に基づきて保險料を算出し、年月を經るの後、漸く自國の經驗に據て別に死亡表を作りたるに、頗る英國と來國とは人種も同しく、其他衣食住凡般の事物を同うするを以て、兩國死亡表の相似たるはさもあるべき事なり。

ドクトル、フエルル氏（Dr. Farr）は英國戶籍調査に據りて死亡表を作れり。世に英表と稱するものは是なり、英表に三種あり。

第一は、千八百四十一年の人口調査と、同年間の死亡記錄より算出したるものなり。

第二は、同年の人口調査と、千八百五十一年より千八百六十年に至る、四十年間に亘るノルサンプトン府（Northampton）某區の死亡記錄より調製したる、千七百八十三年出版のノルサンプトン死亡表なり。

第三は、千八百四十一年及千八百五十一年兩度の人口調査と、千八百五十四年に至る、十七年間の死亡記錄より算出したるものなり。

トマス、プライス（Dr. Thomas Price）氏が、千七百八十年に至るノルサンプトン府（Northampton）某區の死亡記錄より調製したる、千七百八十三年出版のノルサンプトン死亡表は、最早保險會社に屬し、現今にては此死亡表を用ゐる保險會社なしと雖も、今より二十年許り前までは、英國にて此死亡表を基礎として保險料を勘定したる會社少からざりしといふ。

親愛生命保險會社死亡表（Amicable Society's Table）は千七百五年創立の同會社の經驗に基づき、フインライソン氏（Finlaison）として有名なる生命保險事業者の調製したるものなれど、如何なる故にや近年に至りては世に此死亡表あるを知る人さへ甚稀なり。

出版年紀の順序により次ぎに記すべきは、英國生命保險協會社間に最も廣く行はれたるカーライル（Carlisle）死亡表なり。此の表は、シヨシエア、ミルンの[イルフ]府内の死亡に付き、ドクトル、ヘイシヤム氏（Dr Heysham）が調査したる事實を材料として作りたるものなり。

ジヨシユア、ミルン氏（Joshua Milne）が千七百七十九年より千七百八十七年に至る間、カーライル

トマス、プライス（Dr. Thomas Price）氏が、千七百八十年に至るノルサンプトン府（Northampton）某區の死亡記錄より調製したる、千七百八十三年出版のノルサンプトン死亡表は、最早保險會社に屬し、現今にては此死亡表を用ゐる保險會社なしと雖も、今より二十年許り前までは、英國にて此死亡表を基礎として保險料を勘定したる會社少からざりしといふ。

親愛生命保險協會社死亡表（Amicable Society's Table）は千七百五年創立の同會社の經驗に基づき、フインライソン氏（Finlaison）として有名なる生命保險事業者の調製したるものなれど、如何なる故にや近年に至りては世に此死亡表あるを知る人さへ甚稀なり。

出版年紀の順序により次ぎに記すべきは、英國生命保險協會社間に最も廣く行はれたるカーライル（Carlisle）死亡表なり。此の表は、シヨシエア、ミルンの[イルフ]府内の死亡に付き、ドクトル、ヘイシヤム氏（Dr Heysham）が調査したる事實を材料として作りたるものなり。

ジヨシユア、ミルン氏（Joshua Milne）が千七百七十九年より千七百八十七年に至る間、カーライル

トマス、プライス（Dr. Thomas Price）氏が、千七百八十年に至るノルサンプトン府（Northampton）某區の死亡記錄より調製したる、千七百八十三年出版のノルサンプトン死亡表は、最早保險會社に屬し、現今にては此死亡表を用ゐる保險會社なしと雖も、今より二十年許り前までは、英國にて此死亡表を基礎として保險料を勘定したる會社少からざりしといふ。

親愛生命保險協會社死亡表（Amicable Society's Table）は千七百五年創立の同會社の經驗に基づき、フインライソン氏（Finlaison）として有名なる生命保險事業者の調製したるものなれど、如何なる故にや近年に至りては世に此死亡表あるを知る人さへ甚稀なり。

出版年紀の順序により次ぎに記すべきは、英國生命保險協會社間に最も廣く行はれたるカーライル（Carlisle）死亡表なり。此の表は、シヨシエア、ミルンの[イルフ]府内の死亡に付き、ドクトル、ヘイシヤム氏（Dr Heysham）が調査したる事實を材料として作りたるものなり。

夫ぎに記すべきは衡平生命保險會社（Equitable Assurance Society）の經驗に基づき調製したる二個の死亡表なり。其一はグリフヒス、ダビス氏（Griffith Davies）の作りたるものにして、千八百二十五年の出版に係り、又一は、同會社の數理支配人モルガン氏（Morgan）の作りたるものにして、千八百三十四年に出版したるものなり。

千八百三十八年、十七の英國生命保險會社が相共に協力して、各會社の記錄より蒐集したる保險契約の總數八萬三千九百五の內、當時尙存在するもの四萬七千八百四十七、解約したるもの二萬三千七百四十一、此の材料を以て作りたる死亡表を十七會社の死亡表と稱す。

夫ぎに記すべきは衡平生命保險會社（Equitable Assurance Society）の經驗に基づき調製したる二個の死亡表なり。其一はグリフヒス、ダビス氏（Griffith Davies）の作りたるものにして、千八百二十五年の出版に係り、又一は、同會社の數理支配人モルガン氏（Morgan）の作りたるものにして、千八百三十四年に出版したるものなり。

千八百三十八年、十七の英國生命保險協會社が相共に協力して、各會社の記錄より蒐集したる保險契約の總數八萬三千九百五の內、當時尙存在するもの四萬七千八百四十七、解約したるもの二萬三千七百四十一、此の材料を以て作りたる死亡表を十七會社の死亡表と稱す。

べきことにして、米國に目下發表の死亡表の他國に通用して差支なき證據にあらす。米國と米國は人種も同しく、又多くの事物を同ふするを以て、死亡表にも大ひなる差異なきことを示すに過ぎさるなり。

特に我國の如き、米國とは百般の事物を異にする國柄にて米國の死亡表を用ゆるに付ては、余は頗る躊躇するところなき能はさるなり。

## 本邦死亡生殘表

死亡表は特り生命保險に必要なるのみならず、一國の統計事實中共重要なるものなれは、余は本邦死亡表を作るに必要なる材料を捜索せり。其際參考せし諸種の統計書類中重もなるものは、

日本帝國統計年鑑（第七回ニ至リ）　內閣統計局編纂
明治十四年至十二月　日本帝國民籍戶口表　內務省總務局戶籍課編纂
明治十四年大日本帝國內務省第一回統計報告　內務省總務局報告課編纂
明治十三年同　第二回　同
大正十一年統計摘要第八拾貳號　統計協會
大正十一年官報第千六百壹號　內閣官報局
Mittheilungen der Deutschen Gesellschaft für Naturund Völkerkunde Ostasiens in Tokio　第三拾六冊
日本人口の統計 (Japanische Bevölkerungs-Statistik von P. Mayet)　同第三拾七冊　明治十四年中
獨逸人ラートゲン氏著日本人口統計調査の結果 (Ergebnisse der Amtlichen Bevölkerungsstatistik in Japan, von Dr. Rathgen)

なり。

明治十一年以後は、毎年全國死亡人年齡別の調査あり。然れとも明治十一年より同十三年に至る三箇年間は、唯年の調査にあらすして各會計年度の調査の數より算出せしものにして實地調査の數にあらさるへけれは深くも信を置もなるものは、

表一　生殘表　1000

男
統計年鑑には、死亡表を作らんが爲め、特に獨逸國プレスラウ府 (Breslau) を撰びし所以は、當時此の府內に於て死亡の數殆んど出産の數に均しく、且來往々たる土地にて、人口に甚しき增減なしと感定したるが故なり、故に其差異も甚た僅少なきものなり。又人口の部に載せたる府縣及北海道別死亡數の合計六拾壹萬三千二百七十七に加ふるときは、其差は僅に六千四百九十四にして、之を人口の部に載せたる同年死亡總數七十萬五千二百三十二を得。之を人口の部に載せたる同年死亡總數七十萬六千六百三十二と對照するに、其差は僅に六千四百九十四にして、之れを獨生の部に載せたる府縣及北海道別死亡數の合計八萬五千三百五十五を、獨生の部に載せたる同年死亡總數八拾七萬四千六百九十に比するときは、大ひに實際と符合する結果を得ること知るへし。

明治十四年より明治十八年に至る五ケ年間の全國男女合計年齡別死亡總數より算出したる死亡表を第一表に掲ぐ。

全國年齡別死亡總計（獨生）

| 年齡 | 同十四年 | 同十五年 | 同十六年 | 同十七年 | 同十八年 | 平均 | 生殘表 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一年未滿 | 七〇五、一二六 | 六七六、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 一、〇〇〇 |
| 一年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 八五四 |
| 二年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 八〇三 |
| 三年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 七六四 |
| 四年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 七三六 |
| 五年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 七一九 |
| 十年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 七一四 |
| 十五年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 七〇八 |
| 二十年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 六九九 |
| 三十年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 六八四 |
| 四十年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 六六五 |
| 五十年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 六三九 |
| 六十年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 五九二 |
| 七十年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 五一二 |
| 八十年以上 | 六六三、二七九 | 六六八、三四二 | 六六八、〇六四 | 六六三、二八八 | 六六二、四四二 | 六六六、八一九 | 四一二 |

例へは、

全國死亡數に付き尙注意すへきことは、統計年鑑に此の全國死亡數を一ツの部に一ツは、衛生の部に、二重に掲げたることなり。

尙全國死亡數に付き記憶すべきことは、人口の部に載せたるものと、衛生の部に載せたるものと、調査の方法に於て異なるところあること之なり。戸籍調に係る數は、本籍地の届書に據るが故に、無籍のもの幷に行倒れの數は數に入らさるのみならず、届の後れたるか爲めに洩るゝあり。前々年より届の延滯したる分、一時に數に入ることあり。衛生上の調査に係るものは埋葬證に據るを以て無籍のものも數に入り、前者に比すれは大に信憑すへく、實に死亡數を取り調ぶる最確實なる方法なれと、實際尙兵士及囚徒の脫漏することあり。

明治十九年には、一月一日並に十二月三十一日兩度の年齡別人口調あり。其一月一日調に係るものは前年の式に異なるところなく、則毎五年の年齡級に區別するに過きされと、其十二月三十一日調に係るものは、各生年別現在人員の數を掲く。又此年よりして死亡調査の方式に改良するところあり。前年までは死亡を年齡に從て區別し、例へは一年未滿の死亡何人、一年以上二年以下の死亡何人と云ふが如く、且五年以上二十年以下は毎五年、二十年以上は毎十年の、年齡級に區別するに過きざりしに、此年より死亡を死亡者の生年に從ひ區別し、例へは寛政元年生れの者何人、享和二年生れの者何人と云ふが如くなりたり、此の死亡調査新區別式は、從來のものに比すれば誤を生するの恐なく、勿論未新式に慣れさる、明治十九年の調に就きては何とも斷言し難けれと、後來死亡調の漸く確實ならんことは、余の信して疑はさるところにして、余は深く此の改正ありしを喜ぶものなり。

偖明治十九年の統計事實に據り、死亡表を作らんとするに、内務省總務局第二回統計報告衛生の部（第百二拾四ページより第百三十ページに至る）に載せたる、明治十九年死亡者生年別表の終りに、生年不詳者

壹千四百三人

又茨城・群馬・山梨・宮城・青森の五縣は全年舊式にて、岡山・宮城の二縣は前半年舊式にて、申報したるに付き、本表には除くとあり。今假りに同報告戸口の部（第六拾八ページより第七拾ページに至る）に載せたる死亡府縣別表に據るに、明治十九年間、茨城・群馬・山梨・宮城・青森五縣の死亡數合計は

七萬四千五百六十壹人

又同年、半年分、岡山・宮崎・二縣の死亡數合計は

壹萬六千二百六十三人

結局、明治十九年間死亡者の内、生年不詳者の總數は、右に記する三數の合計卽

九萬二千二百二十七人

にして、之に生年の分りたる死亡合計

八拾五萬九千百五拾九人

を加ふるときは、

九拾九萬一千三百八十六人

を得。此則明治十九年間、全國死亡總計と看做すべきものなり。然るに同報告戸口の部に載せたる府縣別死亡の合計

九拾三萬八千二百二十三人

に比すれは、

壹萬三千壹百六拾四人

卽死亡總數の千分の拾四に當る差あり。

全國死亡總數は平均七拾萬乃至八拾萬なるに、明治十九年に限り九拾萬以上の死亡を見たるは、主として同年中虎列剌病の爲め、拾萬八千餘人の死亡者ありしに據る。勿論前年にも虎列剌病患者の死亡若干あれど、明治十五年より同十九年に至る、五年間に於ける傳染病患者の死亡は、平均一ケ年五萬二百三十五人なるに、明治十九年の同死亡は拾五萬七百六十九人、卽平均より多きこと拾五萬五百三十四人、兎に角に明治十九年には、例年より大凡拾萬卽死亡總數の九分の一に當る人數が餘計に死したりと看做すも大なる誤なかるべし。故に今死亡表を算出せんとするに際し、明治十九年死亡中、生年の詳かなるもの八十五萬九千百五拾八人を以て、同年間全國死亡總數と假定するこそ、却て至當なるべけれど、又斯の如く流行病盛にて死亡の多かりし年の統計に基き作りたる死亡表も、參考の爲め多小有益ならんと考へたれは同年死亡者の内、生年不詳者九萬貳千二百二十七人を、同年死亡者中生年の詳かなる者の生年別死亡數に割り合ひ、各生年に分配して同年間各生年別死亡者の總數を算出せり。以下諸種の表に明治十九年の生年別死亡數に甲乙の



第二表

| 生年 | 明治19年1月1日 | 明治19年1月1日現在人員 | 明治19年死亡 甲 | 明治19年死亡 乙 | 阿生年二付キ19年平 甲 | 阿生年二付キ19年平 乙 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治19年 | | | 99,799 | 110,512 | | |
| 同 18年 | 1年未滿 | 941,040 | 42,462 | 47,020 | 45 | 50 |
| 同 17年 | 1年以上 | 905,426 | 28,907 | 32,010 | 32 | 35 |
| 同 16年 | 2年以上 | 921,425 | 21,638 | 23,961 | 24 | 26 |
| 同 15年 | 3年以上 | 896,770 | 15,525 | 17,192 | 17 | 19 |
| 同 14年 | 4年以上 | 895,418 | 11,533 | 12,768 | 13 | 14 |
| 同 13年 | 5年以上 | 867,002 | 8,839 | 9,788 | 10 | 11 |
| 同 12年 | 6年以上 | 876,292 | 7,476 | 8,279 | 9 | 10 |
| 同 11年 | 7年以上 | 863,033 | 6,338 | 7,018 | 7 | 8 |
| 同 10年 | 8年以上 | 839,113 | 5,430 | 6,013 | 7 | 8 |
| 同 9年 | 9年以上 | 875,510 | 5,141 | 5,693 | 6 | 7 |
| 同 8年 | 10年以上 | 811,188 | 4,743 | 5,252 | 6 | 7 |
| 同 7年 | 11年以上 | 792,292 | 4,338 | 4,804 | 5 | 6 |
| 同 6年 | 12年以上 | 786,067 | 4,348 | 4,815 | 6 | 6 |
| 同 5年 | 13年以上 | 701,072 | 4,051 | 4,480 | 6 | 6 |
| 同 4年 | 14年以上 | 642,871 | 4,158 | 4,604 | 6 | 7 |
| 同 3年 | 15年以上 | 630,049 | 4,522 | 5,007 | 7 | 8 |
| 同 2年 | 16年以上 | 639,432 | 4,901 | 5,427 | 8 | 8 |
| 同 元年 | 17年以上 | 727,983 | 5,826 | 6,451 | 8 | 9 |
| 慶應 3年 | 18年以上 | 670,778 | 6,080 | 6,733 | 9 | 10 |
| 同 2年 | 19年以上 | 654,017 | 6,085 | 6,738 | 9 | 10 |
| 同 元年 | 20年以上 | 704,926 | 6,741 | 7,465 | 9 | 10 |
| 元治元年 | 21年以上 | 678,202 | 6,606 | 7,315 | 10 | 11 |
| 文久 3年 | 22年以上 | 582,644 | 6,070 | 6,722 | 10 | 11 |
| 同 2年 | 23年以上 | 545,509 | 5,549 | 6,145 | 10 | 11 |
| 同 元年 | 24年以上 | 509,981 | 5,508 | 6,099 | 11 | 12 |
| 萬延元年 | 25年以上 | 571,294 | 6,044 | 6,693 | 11 | 12 |
| 安政 6年 | 26年以上 | 575,799 | 6,317 | 6,995 | 11 | 12 |
| 同 5年 | 27年以上 | 612,487 | 6,767 | 7,493 | 11 | 12 |
| 同 4年 | 28年以上 | 611,789 | 6,812 | 7,543 | 11 | 12 |
| 同 3年 | 29年以上 | 595,007 | 7,263 | 8,043 | 12 | 13 |
| 同 2年 | 30年以上 | 588,178 | 7,023 | 7,777 | 12 | 13 |
| 同 元年 | 31年以上 | 597,899 | 7,035 | 7,790 | 12 | 13 |
| 嘉永 6年 | 32年以上 | 585,790 | 7,279 | 8,060 | 12 | 13 |
| 同 5年 | 33年以上 | 592,025 | 7,314 | 8,099 | 13 | 14 |
| 同 3年 | 34年以上 | 515,266 | 6,993 | 7,744 | 13 | 14 |
| 同 4年 | 35年以上 | 537,382 | 7,523 | 8,331 | 14 | 15 |
| 同 2年 | 36年以上 | 576,809 | 8,073 | 8,940 | 14 | 16 |
| 同 元年 | 37年以上 | 547,998 | 7,888 | 8,735 | 14 | 16 |
| 弘化 4年 | 38年以上 | 530,442 | 8,079 | 8,946 | 15 | 17 |
| 同 3年 | 39年以上 | 465,549 | 7,641 | 8,461 | 16 | 18 |
| 同 2年 | 40年以上 | 514,152 | 7,964 | 8,819 | 15 | 17 |
| 同 元年 | 41年以上 | 478,953 | 7,970 | 8,826 | 16 | 18 |
| 天保14年 | 42年以上 | 488,195 | 8,226 | 9,109 | 17 | 19 |
| 同 13年 | 43年以上 | 430,042 | 7,569 | 8,382 | 17 | 19 |
| 同 12年 | 44年以上 | 436,894 | 7,738 | 8,569 | 18 | 20 |
| 同 11年 | 45年以上 | 417,000 | 7,367 | 8,158 | 18 | 20 |
| 同 10年 | 46年以上 | 386,385 | 7,373 | 8,054 | 19 | 21 |
| 同 9年 | 47年以上 | 358,792 | 6,846 | 7,581 | 19 | 21 |
| 同 8年 | 48年以上 | 308,116 | 6,844 | 7,579 | 22 | 24 |
| 同 7年 | 49年以上 | 358,816 | 7,625 | 8,443 | 21 | 24 |
| 同 6年 | 50年以上 | 364,280 | 8,248 | 9,133 | 23 | 25 |

| 生年 | 明治19年1月1日 | 明治19年1月1日現在人員 | 明治19年死亡 甲 | 明治19年死亡 乙 | 阿生年二付キ19年平 甲 | 阿生年二付キ19年平 乙 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 天保 5年 | 51年以上 | 338,620 | 8,280 | 9,169 | 24 | 27 |
| 同 4年 | 52年以上 | 339,363 | 8,304 | 9,295 | 25 | 27 |
| 同 3年 | 53年以上 | 364,407 | 9,256 | 10,250 | 25 | 28 |
| 同 2年 | 54年以上 | 331,581 | 9,165 | 10,049 | 27 | 30 |
| 同 1年 | 55年以上 | 356,072 | 10,379 | 11,493 | 29 | 32 |
| 文政12年 | 56年以上 | 313,450 | 10,099 | 11,183 | 32 | 35 |
| 同 11年 | 57年以上 | 319,248 | 10,260 | 11,361 | 32 | 36 |
| 同 10年 | 58年以上 | 306,225 | 10,418 | 11,536 | 34 | 38 |
| 同 9年 | 59年以上 | 279,834 | 10,515 | 11,644 | 38 | 41 |
| 同 8年 | 60年以上 | 287,030 | 11,214 | 12,418 | 39 | 43 |
| 同 7年 | 61年以上 | 272,961 | 11,070 | 12,258 | 41 | 45 |
| 同 6年 | 62年以上 | 251,991 | 11,021 | 12,204 | 44 | 48 |
| 同 5年 | 63年以上 | 255,313 | 11,808 | 13,076 | 46 | 51 |
| 同 4年 | 64年以上 | 217,919 | 11,162 | 12,360 | 51 | 57 |
| 同 3年 | 65年以上 | 215,129 | 11,469 | 12,700 | 53 | 60 |
| 同 2年 | 66年以上 | 210,993 | 12,031 | 13,322 | 57 | 63 |
| 同 1年 | 67年以上 | 184,295 | 11,237 | 12,443 | 60 | 67 |
| 文化14年 | 68年以上 | 164,932 | 11,076 | 12,265 | 67 | 74 |
| 同 13年 | 69年以上 | 162,988 | 11,716 | 12,973 | 72 | 80 |
| 同 12年 | 70年以上 | 144,248 | 11,229 | 12,434 | 78 | 86 |
| 同 11年 | 71年以上 | 133,879 | 10,954 | 12,130 | 82 | 91 |
| 同 10年 | 72年以上 | 130,396 | 11,403 | 12,627 | 88 | 96 |
| 同 9年 | 73年以上 | 112,577 | 10,688 | 11,835 | 95 | 105 |
| 同 8年 | 74年以上 | 109,543 | 10,883 | 12,051 | 99 | 110 |
| 同 7年 | 75年以上 | 89,861 | 9,670 | 10,708 | 108 | 120 |
| 同 6年 | 76年以上 | 79,061 | 9,115 | 10,033 | 115 | 128 |
| 同 5年 | 77年以上 | 75,308 | 8,919 | 9,876 | 118 | 131 |
| 同 4年 | 78年以上 | 64,534 | 8,146 | 9,070 | 126 | 140 |
| 同 3年 | 79年以上 | 54,734 | 7,496 | 8,135 | 137 | 149 |
| 同 2年 | 80年以上 | 50,212 | 7,378 | 8,170 | 147 | 163 |
| 同 1年 | 81年以上 | 40,011 | 6,030 | 6,677 | 151 | 167 |
| 享和 3年 | 82年以上 | 25,613 | 4,663 | 5,164 | 182 | 202 |
| 同 2年 | 83年以上 | 19,325 | 3,670 | 4,064 | 189 | 210 |
| 同 1年 | 84年以上 | 15,724 | 3,083 | 3,414 | 196 | 217 |
| 寛政12年 | 85年以上 | 12,536 | 2,636 | 2,919 | 210 | 233 |
| 同 11年 | 86年以上 | 9,150 | 2,024 | 2,241 | 221 | 245 |
| 同 10年 | 87年以上 | 6,769 | 1,580 | 1,749 | 233 | 258 |
| 同 9年 | 88年以上 | 5,340 | 1,285 | 1,423 | 241 | 266 |
| 同 8年 | 89年以上 | 3,780 | 1,069 | 1,183 | 283 | 313 |
| 同 7年 | 90年以上 | 2,612 | 768 | 850 | 294 | 326 |
| 同 6年 | 91年以上 | 1,910 | 570 | 631 | 299 | 330 |
| 同 5年 | 92年以上 | 1,315 | 385 | 426 | 293 | 324 |
| 同 4年 | 93年以上 | 961 | 272 | 301 | 283 | 313 |
| 同 3年 | 94年以上 | 702 | 189 | 209 | 269 | 298 |
| 同 2年 | 95年以上 | 493 | 151 | 167 | | |
| 同 1年 | 96年以上 | 330 | 93 | 103 | | |
| 明治 8年 | 97年以上 | 97 | 30 | 33 | | |
| 天明 7年 | 98年以上 | 46 | 20 | 22 | | |
| 同 6年 | 99年以上 | 34 | 12 | 13 | | |
| | 100年以上 | 76 | 17 | 18 | | |

二樣あるは、甲は實地調査の數、乙は此の實地調査の數に遺漏あるを余が計算上補充したるものと知るべし。

借余が最完全ならんと信する方法に從ひ死亡表を算出するには、全國生年別死亡數の外に、尙其年一月一日現在の生年別人口數を要す。然るに既に前に述へたる如く、明治十九年一月一日の調には、人口を毎五年の年齡級に區別したるが故に、計算の用に供することを得す。故に余は已を得す、同年十二月卅一日の生年別人員と、同年間生年死亡數とに據り、同年一月一日現在の生年別人員を算出せり。

第二表に、明治十九年一月一日現在生年別人員、并に同年間生年別死亡數及明治十九年一月一日現在の同生年者千人に付き同年間死亡平均數を掲く。

表中一年以上とあるは、滿一年以上滿二年以下、二年以上とあるは、滿二年以上滿三年以下のものを云ふ、以下何年以上とあるは皆同し。

同し年に生れたりとて、其の年一月一日に生れたる人もあれば、十二月卅一日に生れたる人もあらん。されは精密に論するときは、同年齡者は必しも同年齡者にあらす。然れとも今本表の數に據り死亡表を作るには、同生年者卽同月同日に生れたりと見做さゝるべからず。

借同生年者を幾許年齡の者と看做して至當なるや、例へは明治元年生の者は、明治十九年一月一日には、皆滿十七年以上、滿十八年以下には相違なけれとも、今此の人々を同年齡者と看做すに當り、十七年何ケ月として宜しきや、此の事は各生産月別の表に照し判定するより外に良策なかるべし。

明治十四年以降の各年生産月別の表を覧るに、累年生産月の割合に大ひなる差違なく、通例一月生産の數は、殆ど十二月生産の數に同しく、二月分は十一月分と大なる差なく、三月は十月、四月は九月、五月は八月、六月は七月と相匹敵するが故に、今同生年者を其生年の六月卅日に生れたりと看做し其平均年齡を某年六ケ月とするも大なる誤なかるべし。勿論明治五年に改暦のありしこと、又其前年に遡りて閏月のありしことを忘るべからすと雖も、其死亡數に影響するところは切り捨て數以下にあるを以て、本表中某年以上とあるを、總て某年六ケ月と看做し、數學に補間法（Interpolation）と稱する方法に據り、各同年齡者千人に付、一年間の死亡數を計算し、此數より割出したる死亡生殘表を第三表に掲く。

明治十九年死亡の殊に多かりしは、同年中傳染病の大ひに流行して、傳染病患者の死亡、累年の平均より多きこと拾萬餘人なりしに因ること前に述る如しといへど、此の傳染病患者の死亡增加拾萬人を、死亡合計九拾五萬人より引去り、八拾五萬人の死亡數を得。然るは累年死亡の平均は、一ケ年大凡七拾五萬なれは、明治十九年は傳染病患者の死亡を度外視するも、尙死亡の例年より多かりし年なり。故に余は讀者が本表に載せたる死亡生殘表を吟味せらるゝに當り、此の死亡生殘表は甲乙共に死亡の例年より多かりし年の統計事實に據り、算出したるものなることを記臆せられんことを希望するものなり

明治二十年は傳染病患者の死亡甚多からず、全國死亡の總數は、七拾五萬三千八百十一人にして死亡上の平年なり。其詳細は第四表に就きて見るべし

第四表の統計事實に基き、明治十九年の統計事實に適用したるものと同樣の方法に依り、算出したる死亡生殘表を第五表に掲く。

余は前に列叙したる四箇の死亡生殘表に付き評を下すに先だち、此等死亡生殘表の因りて基くところの統計に付、一言せざるべからさるものあり。余は最初に明治十九年十二月三十一日の全國生年別人員の調査と、明治二十年十二月三十一日の全國生年別人員の調査とに據りて死亡表を作らんと欲し各同生年者に就き、明治十九年十二月三十一日現在の人員より、明治二十年十二月三十一日現在の人員を引き去り、明治十九年間の生年別死亡數を索めしに、啻に實際調査の數と符合せざるのみならす、頗る奇怪なる結果を得たり。勿論調査の實際には遺漏もあり、無籍者の新に入籍したるものもあり、其他種々の事故より生する誤謬は到底免るゝことを得ざれば、前に述たる計算上得たる數と實際調査の數と全く符合することは、始めより期するところにあらざれと、若し統計調査の方法にして完全なるものならしめは二數は相距る甚違からざるべきに、余が計算上得たるところに據れば、明治十九年間の死亡數に、年齡一年より十九年迄は悉皆負數を生せり。今若し此の統計事實を信するときは、年齡一年より十九年迄の壯者數萬人か忽然明治十九年間に生れたりとせざるを得ず。或は明治十九年間就籍者の多かりしに因ると云ふ説もあるべけれと、然らは各年齡に付き死亡に負數を生すべき筈なるに、實



## 第三表

| 年齡 | 各年齡者千人ニ付キ一ケ年間死亡數 | | 十年ノ者千人ノ各年齡死亡數 | | 十年ノ者千人ノ各年齡生殘數 | | 年齡 | 各年齡者千人ニ付キ一ケ年間死亡數 | | 十年ノ者千人ノ各年齡死亡數 | | 十年ノ者千人ノ各年齡生殘數 | | 年齡 | 各年齡者千人ニ付キ一ケ年間死亡數 | | 十年ノ者千人ノ各年齡死亡數 | | 十年ノ者千人ノ各年齡生殘數 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 |
| 10年 | 6 | 7 | 6 | 7 | 1000 | 1000 | 39年 | 15 | 17 | 11 | 12 | 746 | 722 | 68年 | 64 | 71 | 20 | 19 | 315 | 274 |
| 11年 | 5 | 6 | 5 | 6 | 994 | 993 | 40年 | 15 | 17 | 11 | 12 | 735 | 710 | 69年 | 69 | 77 | 20 | 20 | 295 | 255 |
| 12年 | 6 | 6 | 6 | 6 | 989 | 987 | 41年 | 15 | 17 | 11 | 12 | 724 | 698 | 70年 | 74 | 82 | 20 | 19 | 275 | 235 |
| 13年 | 6 | 6 | 6 | 6 | 983 | 981 | 42年 | 16 | 18 | 11 | 12 | 713 | 686 | 71年 | 79 | 87 | 20 | 19 | 255 | 216 |
| 14年 | 6 | 7 | 6 | 7 | 977 | 975 | 43年 | 16 | 18 | 11 | 12 | 702 | 674 | 72年 | 84 | 93 | 20 | 18 | 235 | 197 |
| 15年 | 7 | 8 | 7 | 8 | 971 | 968 | 44年 | 17 | 19 | 12 | 13 | 691 | 662 | 73年 | 91 | 99 | 20 | 18 | 215 | 179 |
| 16年 | 7 | 8 | 7 | 8 | 964 | 960 | 45年 | 18 | 20 | 12 | 13 | 679 | 649 | 74年 | 96 | 106 | 19 | 17 | 195 | 161 |
| 17年 | 8 | 8 | 8 | 8 | 957 | 952 | 46年 | 18 | 20 | 12 | 13 | 667 | 636 | 75年 | 103 | 114 | 18 | 16 | 176 | 144 |
| 18年 | 8 | 9 | 8 | 9 | 949 | 944 | 47年 | 19 | 21 | 12 | 13 | 655 | 623 | 76年 | 109 | 121 | 17 | 15 | 158 | 128 |
| 19年 | 9 | 10 | 8 | 9 | 941 | 935 | 48年 | 20 | 22 | 13 | 15 | 643 | 610 | 77年 | 116 | 129 | 16 | 15 | 141 | 113 |
| 20年 | 9 | 10 | 8 | 9 | 933 | 926 | 49年 | 21 | 24 | 13 | 15 | 630 | 595 | 78年 | 120 | 133 | 15 | 13 | 125 | 98 |
| 21年 | 9 | 10 | 8 | 9 | 925 | 917 | 50年 | 22 | 25 | 14 | 15 | 617 | 580 | 79年 | 133 | 147 | 15 | 12 | 110 | 85 |
| 22年 | 10 | 11 | 9 | 10 | 916 | 907 | 51年 | 23 | 26 | 14 | 15 | 603 | 565 | 80年 | 141 | 156 | 13 | 11 | 95 | 73 |
| 23年 | 10 | 11 | 9 | 10 | 907 | 897 | 52年 | 24 | 27 | 14 | 15 | 589 | 550 | 81年 | 151 | 167 | 11 | 10 | 72 | 62 |
| 24年 | 10 | 11 | 9 | 10 | 898 | 887 | 53年 | 25 | 28 | 14 | 15 | 575 | 535 | 82年 | 166 | 184 | 10 | 9 | 61 | 51 |
| 25年 | 11 | 12 | 10 | 11 | 889 | 877 | 54年 | 26 | 29 | 15 | 15 | 561 | 520 | 83年 | 180 | 200 | 9 | 8 | 51 | 42 |
| 26年 | 11 | 12 | 10 | 11 | 879 | 866 | 55年 | 28 | 31 | 15 | 16 | 546 | 505 | 84年 | 191 | 212 | 8 | 7 | 42 | 34 |
| 27年 | 11 | 12 | 10 | 11 | 869 | 855 | 56年 | 30 | 33 | 16 | 16 | 531 | 489 | 85年 | 203 | 224 | 7 | 6 | 34 | 27 |
| 28年 | 11 | 12 | 10 | 11 | 859 | 844 | 57年 | 32 | 35 | 16 | 17 | 515 | 473 | 96年 | 215 | 238 | 6 | 5 | 27 | 21 |
| 29年 | 12 | 13 | 10 | 11 | 849 | 833 | 58年 | 33 | 37 | 16 | 17 | 499 | 456 | 87年 | 229 | 254 | 5 | 4 | 21 | 16 |
| 30年 | 12 | 13 | 10 | 11 | 839 | 822 | 59年 | 36 | 40 | 17 | 18 | 483 | 439 | 88年 | 247 | 272 | 4 | 3 | 16 | 12 |
| 31年 | 12 | 13 | 10 | 11 | 829 | 811 | 60年 | 38 | 42 | 18 | 18 | 466 | 421 | 89年 | 269 | 297 | 3 | 3 | 12 | 9 |
| 32年 | 12 | 13 | 10 | 11 | 819 | 800 | 61年 | 40 | 44 | 18 | 18 | 448 | 403 | 90年 | 285 | 315 | 3 | 2 | 9 | 6 |
| 33年 | 12 | 13 | 10 | 10 | 809 | 789 | 62年 | 42 | 46 | 18 | 18 | 430 | 385 | 91年 | 297 | 328 | 2 | 1 | 6 | 4 |
| 34年 | 13 | 14 | 10 | 11 | 799 | 779 | 63年 | 45 | 50 | 19 | 18 | 412 | 367 | 92年 | 296 | 327 | 1 | 1 | 4 | 3 |
| 35年 | 13 | 14 | 10 | 11 | 789 | 768 | 64年 | 48 | 53 | 19 | 18 | 393 | 349 | 93年 | 288 | 318 | 1 | 1 | 3 | 2 |
| 36年 | 14 | 15 | 11 | 11 | 779 | 757 | 65年 | 51 | 57 | 19 | 19 | 374 | 331 | 94年 | 280 | 310 | 1 | | 2 | 1 |
| 37年 | 14 | 16 | 11 | 12 | 768 | 746 | 66年 | 55 | 62 | 20 | 19 | 355 | 312 | 95年 | 290 | 321 | | | 1 | |
| 38年 | 15 | 17 | 11 | 12 | 757 | 734 | 67年 | 59 | 65 | 20 | 19 | 335 | 293 | | | | | | | |

## 第四表

| 生年 | 明治20年1月1日 | 明治20年1月1日現在人員 | 明治20年死亡 | 同生年者千人ニ付キ明治20年平均死亡 |
|---|---|---|---|---|
| 明治20年 | | 1,057,536 | 111,715 | 111 |
| 同 19年 | 1 年未滿 | 970,303 | 47,413 | 49 |
| 同 18年 | 1 年以上 | 894,020 | 25,034 | 28 |
| 同 17年 | 2 年以上 | 873,416 | 18,408 | 21 |
| 同 16年 | 3 年以上 | 897,464 | 12,649 | 14 |
| 同 15年 | 4 年以上 | 879,578 | 8,742 | 10 |
| 同 14年 | 5 年以上 | 882,650 | 6,826 | 8 |
| 同 13年 | 6 年以上 | 857,214 | 5,296 | 6 |
| 同 12年 | 7 年以上 | 868,013 | 4,519 | 5 |
| 同 11年 | 8 年以上 | 856,015 | 4,002 | 5 |
| 同 10年 | 9 年以上 | 833,100 | 3,674 | 4 |
| 同 9年 | 10年以上 | 869,817 | 3,593 | 4 |
| 同 8年 | 11年以上 | 905,936 | 3,187 | 4 |
| 同 7年 | 12年以上 | 787,488 | 3,206 | 4 |
| 同 6年 | 13年以上 | 781,252 | 3,488 | 5 |
| 同 5年 | 14年以上 | 696,592 | 3,359 | 5 |
| 同 4年 | 15年以上 | 638,267 | 3,564 | 6 |
| 同 3年 | 16年以上 | 625,042 | 4,058 | 6 |
| 同 2年 | 17年以上 | 634,005 | 4,540 | 7 |
| 同 1年 | 18年以上 | 721,532 | 5,629 | 8 |
| 慶應 3年 | 19年以上 | 664,045 | 5,286 | 8 |
| 同 2年 | 20年以上 | 647,279 | 5,224 | 8 |
| 同 1年 | 21年以上 | 697,461 | 5,560 | 8 |
| 元治 1年 | 22年以上 | 670,887 | 5,397 | 8 |
| 文久 3年 | 23年以上 | 575,922 | 4,763 | 8 |
| 同 2年 | 24年以上 | 539,364 | 4,278 | 8 |
| 同 1年 | 25年以上 | 503,882 | 4,081 | 8 |
| 萬延 1年 | 26年以上 | 564,601 | 4.699 | 8 |
| 安政 6年 | 27年以上 | 568,804 | 4,744 | 8 |
| 同 5年 | 28年以上 | 604,994 | 5,084 | 8 |
| 同 4年 | 29年以上 | 604,246 | 5,220 | 9 |
| 同 3年 | 30年以上 | 586,964 | 5,207 | 9 |
| 同 2年 | 31年以上 | 580,401 | 5,003 | 9 |
| 同 1年 | 32年以上 | 590,109 | 5,322 | 9 |
| 嘉永 6年 | 33年以上 | 577,730 | 5,446 | 9 |
| 同 5年 | 34年以上 | 583,926 | 5,518 | 9 |
| 同 4年 | 35年以上 | 507,522 | 5,008 | 10 |
| 同 3年 | 36年以上 | 529,051 | 5,406 | 10 |
| 同 2年 | 37年以上 | 567,869 | 5,908 | 11 |
| 同 1年 | 38年以上 | 539,263 | 5,791 | 11 |
| 弘化 4年 | 39年以上 | 521,496 | 5,864 | 12 |
| 同 3年 | 40年以上 | 457,088 | 5,330 | 12 |
| 同 2年 | 41年以上 | 505,333 | 6,051 | 12 |
| 同 1年 | 42年以上 | 470,127 | 5,449 | 12 |
| 天保14年 | 43年以上 | 479,036 | 5,970 | 13 |
| 同 13年 | 44年以上 | 421.660 | 5,334 | 13 |
| 同 12年 | 45年以上 | 428,325 | 5,604 | 13 |
| 同 11年 | 46年以上 | 408,842 | 5,581 | 14 |
| 同 10年 | 47年以上 | 378,331 | 5,371 | 14 |
| 同 9年 | 48年以上 | 351,211 | 5,336 | 15 |
| 同 8年 | 49年以上 | 300,537 | 5,069 | 17 |
| 同 7年 | 50年以上 | 350,373 | 5,839 | 17 |

| 生年 | 明治20年1月1日 | 明治20年1月1日現在人員 | 明治20年死亡 | 同生年者千人ニ付キ明治20年平均死亡 |
|---|---|---|---|---|
| 天保 6年 | 51年以上 | 355,147 | 6,473 | 18 |
| 同 5年 | 52年以上 | 329,451 | 6,444 | 20 |
| 同 4年 | 53年以上 | 330,068 | 6,799 | 21 |
| 同 3年 | 54年以上 | 354,157 | 7,839 | 22 |
| 同 2年 | 55年以上 | 321,532 | 7,478 | 23 |
| 同 1年 | 56年以上 | 344,579 | 8,302 | 24 |
| 文政12年 | 57年以上 | 302,267 | 8,327 | 28 |
| 同 11年 | 58年以上 | 307,887 | 8,953 | 29 |
| 同 10年 | 59年以上 | 294,689 | 8,900 | 30 |
| 同 9年 | 60年以上 | 268,190 | 8,580 | 32 |
| 同 8年 | 61年以上 | 274,612 | 9,533 | 35 |
| 同 7年 | 62年以上 | 260,703 | 9,831 | 38 |
| 同 6年 | 63年以上 | 239,787 | 9,853 | 41 |
| 同 5年 | 64年以上 | 242,237 | 10,614 | 44 |
| 同 4年 | 65年以上 | 205,859 | 9,708 | 47 |
| 同 3年 | 66年以上 | 202,429 | 10,435 | 52 |
| 同 2年 | 67年以上 | 197,671 | 11,014 | 56 |
| 同 元年 | 68年以上 | 171,852 | 10,076 | 59 |
| 文化14年 | 69年以上 | 152,667 | 10,233 | 67 |
| 同 13年 | 70年以上 | 150,015 | 10,712 | 71 |
| 同 12年 | 71年以上 | 131,814 | 10,145 | 76 |
| 同 11年 | 72年以上 | 121,949 | 9,986 | 82 |
| 同 10年 | 73年以上 | 117,769 | 10,348 | 88 |
| 同 9年 | 74年以上 | 100,742 | 9,635 | 96 |
| 同 8年 | 75年以上 | 97,492 | 10,099 | 104 |
| 同 7年 | 76年以上 | 79,153 | 8,790 | 111 |
| 同 6年 | 77年以上 | 68,968 | 8,395 | 122 |
| 同 5年 | 78年以上 | 65,432 | 8,399 | 128 |
| 同 4年 | 79年以上 | 55,514 | 7,406 | 133 |
| 同 3年 | 80年以上 | 46,599 | 6,735 | 145 |
| 同 2年 | 81年以上 | 42,042 | 6,640 | 158 |
| 同 1年 | 82年以上 | 33,334 | 5,428 | 166 |
| 享和 3年 | 83年以上 | 20,449 | 3,992 | 195 |
| 同 2年 | 84年以上 | 15,261 | 2,985 | 196 |
| 同 1年 | 85年以上 | 12,310 | 2,583 | 210 |
| 寛政12年 | 86年以上 | 9,617 | 2,144 | 223 |
| 同 11年 | 87年以上 | 6,909 | 1,570 | 227 |
| 同 10年 | 88年以上 | 5,020 | 1,237 | 245 |
| 同 9年 | 89年以上 | 3,917 | 961 | 243 |
| 同 8年 | 90年以上 | 2,603 | 703 | 270 |
| 同 7年 | 91年以上 | 1,762 | 486 | |
| 同 6年 | 92年以上 | 1,279 | 366 | |
| 同 5年 | 93年以上 | 889 | 256 | |
| 同 4年 | 94年以上 | 660 | 211 | |
| 同 3年 | 95年以上 | 493 | 104 | |
| 同 2年 | 96年以上 | 326 | 98 | |
| 同 1年 | 97年以上 | 227 | 75 | |
| 天明 8年 | 98年以上 | 64 | 18 | |
| 同 7年 | 99年以上 | 24 | 6 | |





## 第五表

| 年齢 | 各年齢者千人ニ付キ一ケ年間死亡數 | 十年ノ者千人ノ各年齢死亡數 | 十年ノ者千人ノ各年齢生殘數 | 年齢 | 各年齢者千人ニ付キ一ケ年間死亡數 | 十年ノ者千人ノ各年齢死亡數 | 十年ノ者千人ノ各年齢生殘數 | 年齢 | 各年齢者千人ニ付キ一ケ年間死亡數 | 十年ノ者千人ノ各年齢死亡數 | 十年ノ者千人ノ各年齢生殘數 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10年 | 4 | 4 | 1000 | 38年 | 11 | 9 | 805 | 66年 | 49 | 21 | 432 |
| 11年 | 4 | 4 | 996 | 39年 | 12 | 9 | 796 | 67年 | 54 | 22 | 411 |
| 12年 | 4 | 4 | 992 | 40年 | 12 | 9 | 787 | 68年 | 58 | 23 | 389 |
| 13年 | 5 | 5 | 988 | 41年 | 12 | 10 | 778 | 69年 | 63 | 23 | 366 |
| 14年 | 5 | 5 | 983 | 42年 | 12 | 10 | 768 | 70年 | 69 | 24 | 343 |
| 15年 | 6 | 6 | 978 | 43年 | 13 | 10 | 758 | 71年 | 74 | 24 | 319 |
| 16年 | 6 | 6 | 972 | 44年 | 13 | 10 | 748 | 72年 | 79 | 24 | 295 |
| 17年 | 7 | 7 | 966 | 45年 | 13 | 10 | 738 | 73年 | 85 | 23 | 271 |
| 18年 | 8 | 8 | 959 | 46年 | 14 | 10 | 728 | 74年 | 93 | 23 | 248 |
| 19年 | 8 | 8 | 951 | 47年 | 14 | 10 | 718 | 75年 | 100 | 23 | 225 |
| 20年 | 8 | 8 | 943 | 48年 | 15 | 11 | 708 | 76年 | 108 | 22 | 202 |
| 21年 | 8 | 8 | 935 | 49年 | 16 | 12 | 697 | 77年 | 115 | 21 | 180 |
| 22年 | 8 | 7 | 927 | 50年 | 17 | 12 | 685 | 78年 | 123 | 20 | 159 |
| 23年 | 8 | 7 | 920 | 51年 | 18 | 12 | 673 | 79年 | 131 | 18 | 139 |
| 24年 | 8 | 7 | 913 | 52年 | 19 | 12 | 661 | 80年 | 140 | 17 | 121 |
| 25年 | 8 | 7 | 906 | 53年 | 20 | 13 | 649 | 81年 | 150 | 16 | 104 |
| 26年 | 8 | 7 | 899 | 54年 | 21 | 13 | 636 | 82年 | 163 | 14 | 88 |
| 27年 | 8 | 7 | 892 | 55年 | 22 | 14 | 623 | 83年 | 176 | 13 | 74 |
| 28年 | 8 | 7 | 885 | 56年 | 24 | 15 | 609 | 84年 | 189 | 12 | 61 |
| 29年 | 9 | 8 | 878 | 57年 | 26 | 16 | 594 | 85年 | 200 | 10 | 49 |
| 30年 | 9 | 8 | 870 | 58年 | 28 | 16 | 578 | 86年 | 211 | 8 | 39 |
| 31年 | 9 | 8 | 862 | 59年 | 30 | 17 | 562 | 87年 | 223 | 7 | 31 |
| 32年 | 9 | 8 | 854 | 60年 | 32 | 18 | 545 | 88年 | 235 | 6 | 24 |
| 33年 | 9 | 8 | 846 | 61年 | 34 | 18 | 527 | 89年 | 247 | 5 | 18 |
| 34年 | 9 | 8 | 838 | 62年 | 36 | 18 | 509 | 90年 | 262 | 3 | 13 |
| 35年 | 10 | 8 | 830 | 63年 | 39 | 19 | 491 | 91年 | | | 10 |
| 36年 | 10 | 8 | 822 | 64年 | 42 | 20 | 472 | | | | |
| 37年 | 11 | 9 | 814 | 65年 | 45 | 20 | 452 | | | | |

第六表

| 年齢 | ノルサムプトン 1780年 | カーライル 1851年 | 衡平會社 1825年 | 衡平會社 1834年 | 十七會社 1843年 | 英表（男） 1864年 | Hm表 1869年 | 明治14年ヨリ同18年ニ至ル | 明治19年 乙 | 明治19年 甲 | 明治20年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10年 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 |
| 20年 | 904 | 943 | 951 | 928 | 933 | 945 | 962 | 926 | 926 | 933 | 943 |
| 30年 | 773 | 873 | 879 | 861 | 863 | 863 | 899 | 827 | 822 | 839 | 870 |
| 40年 | 641 | 786 | 786 | 784 | 787 | 771 | 823 | 717 | 710 | 735 | 787 |
| 50年 | 503 | 681 | 681 | 692 | 695 | 661 | 727 | 609 | 580 | 617 | 685 |
| 60年 | 359 | 564 | 536 | 559 | 560 | 517 | 589 | 460 | 421 | 466 | 545 |
| 70年 | 217 | 372 | 361 | 360 | 358 | 324 | 381 | 264 | 235 | 275 | 343 |
| 80年 | 83 | 148 | 169 | 140 | 133 | 116 | 139 | 77 | 73 | 95 | 121 |
| 90年 | 8 | 22 | 23 | 13 | 13 | 14 | 15 | | 6 | 9 | 13 |

際年齢十九年以上にありては、常に正數の死亡を得るを如何せん。故に此の計算上得たる數にして奇怪の觀を呈するは、主として、統計調査の方法其宜しきを得さるに歸せさるを得す。夫然り、今若し此一例より全體に推論することを得は、我國統計調査の方法は、之を改良する充分の餘地を存するものといはさるを得す。

數は語らす、表は言はす。數ほど確實なるものなく、又數ほど不確實なるものなし。蓋し統計上實際と寸分違はさる、確かなる數を得ることは、到底人力の能く及ふところにあらさる、此等經驗のある人は誰しも知りつることなれは吾人は唯成るべく、確かなる數を得ることに盡力せざるべからず。夫大ひなる數を取扱ふこと、例へば實際調査の結果を吟味して、其調査方法の缺點は那邊にあるやを鑑定するが如き、數學に所謂最小二乘法と稱するものに類似の方法に依らざるべからずして、實に至難なる一科の專門學なり。則統計家に成るには、此の數を取り扱ふに必要なる、學問智識を備へざるべからざれど、素人考には何人にても加減乘除さへ爲し得るものは、統計家に成ることを得るが如く思はれ、現に西洋にても統計家は必しもケテレー(Quetelet)ならす、此種の人にして自から統計家を以て任するもの隨分多しと聞く。若し夫彼の徒に數字を塡充するに止らは、亦何の益か之あらんと慷慨する、世の所謂統計學者其人にして、此の數を取り扱ふに必要なる學問智識を備ふるなくば、其遂に自から數字を湊泊せしむるに止まるを免れさるべし。

余か特に統計の事を研究する人に向つて希望することは、研究の材料は如何にして調査されしや、又實際調査の數より他の數を算出若くは改算したるときは、其計算の式等委細記述せられんこと是なり。凡て精密の研究に經驗ある人は誰も知りたることながら、研究の結果を世に公にするに、只に其結果を記載するのみならず、試驗の方法順序より其結果を得んが爲めに施したる、諸種の計算を委細遺漏なく記するを習慣とす。之は一ッには結果の確實なることを證明するものにして、又二ッには萬一改算の途中に於て誤のありたる場合に於て、イッ何時何人にても之を改算することを得る萬全の方法なり。余は世の統計家が之に倣はれんことを希望す。

口善惡なき西洋の戯に、何事にても統計にて證明せられさるものはなしと。統計ほど確實なるものなく、又統計ほど人を瞞着するものなし。故に統計事實に基き立論するもの、大に自戒めさるべからさるなり。

余は我國統計調査の結果に、充分の信用を置くを得ず。故に余か此の結果に基き、算出したる死亡生殘表も又充分信用を置くの價値なきものなり。然れども今試に之を英國死亡生殘表と對照するは必しも無益にあらさるべし(第六表を參觀すべし)。

爰に掲くる英國生殘表の過半は同國生命保險會社にて其會社の經驗に據りて作りたるものにして、所謂撰拔生命の生殘表なり。此の撰拔生命の死亡と、一般人民の死亡との關係に付きては、世間往々妄想を抱懷するものあり、生命保險會社にては一般人民の死亡表は生命保險用に適せすと言ひ、統計家は生命保險會社の經驗に據り算出したる死亡表は、撰拔生命の死亡表なれは一國の統計事實として價なきものなりと論すれども、余が考ふる二者共に早まりたる說たるを免れず。生命保險會社にては虚弱の者を拒絕すれと、一國



人民の内には、夢にだも生命保險など云ふことを知らさる社會に健康長壽の者あるを忘るべからず。又生命被保人の生命は撰拔生命なりと云へど、其撰拔は僅に一生涯一回に過きされは、撰拔の影響は果して幾數年の後に迄及ふや豫め測るべからず。余は此の一般人民の死亡と被保人の死亡との關係に關し、統計事實に基きたる論說は、唯一の蘇格蘭土の生命保險者スプレーグ(Sprague)氏の著述に係るものあるを知る。氏の說に、生命保險會社撰拔の影響は撰拔の期より五年を經て全く消へ失せ、其後は被保人の死亡と普通一般人民の死亡と異なるところなしと。現に前に掲けたる英表と稱するものは、英國普通一般の死亡表なれど、頗る同國生命保險會社の死亡表に似たり。

余は以上掲くるところの四箇の本邦死亡生殘表に基き、余が最も至當ならんと考ふる一種の折衷平均法を用ひ、本邦現在統計事實の許す限りに余か最精密ならんと考ふる本邦死亡生殘表を調製せり、則第七表に掲く。

此の死亡生殘表は、本邦現在統計事實の許す限り、余か最精密なるものと考ふるに過きすして、未充分の信用を置くに足らざれど、全體生命保險會社にては、生命保險料の計算を委細帳簿に登記し、勿論之を公にすることを要せされと、被保人より特に請求したる場合には、更に曖昧隱蔽するところなく、其觀覽に供するこそ生命保險の眞面目なれは、余は別に據るところなく、只漠然と勝手に英國の表を斟酌して、保險料を定むるよりは、此の死亡表に基き保險料を割り出すの優れるを信するものなり。將夕死亡表の不完全なるより萬一起る危險は、純保險掛金と保險會社保險掛金との別と題する章に於て、詳說するところの安全割り掛けと稱する方法に依り、充分救濟することを得るなり。只割り掛をしたる場合に於ては、更に言語文章を以て修飾するところなく、果して幾割の割り掛をしたるかを明かにせんこと、余か切に希望に堪へさるところにして、余は又後來本邦に於て生命保險事業の盛大且着實ならんこと、一ッに此の總ての計算を明細潔白にするにあることを確信するものなり。

余は第七表の數より、各年齢本邦人の平均壽命を計算せり。其結果を第八表に掲く。

先頃誤りにて殺されし人の遺族が訴訟を起し、人生五十、殺されし者の年

第七表

| 年齢 | 死亡 | 生殘 | 年齢 | 死亡 | 生殘 | 年齢 | 死亡 | 生殘 | 年齢 | 死亡 | 生殘 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10年 | 6 | 1000 | 30年 | 10 | 846 | 50年 | 13 | 632 | 70年 | 23 | 296 |
| 11年 | 6 | 994 | 31年 | 10 | 836 | 51年 | 13 | 619 | 71年 | 23 | 273 |
| 12年 | 6 | 988 | 32年 | 10 | 826 | 52年 | 14 | 606 | 72年 | 22 | 250 |
| 13年 | 6 | 982 | 33年 | 10 | 816 | 53年 | 14 | 592 | 73年 | 21 | 228 |
| 14年 | 6 | 976 | 34年 | 10 | 806 | 54年 | 14 | 578 | 74年 | 20 | 207 |
| 15年 | 7 | 970 | 35年 | 10 | 796 | 55年 | 15 | 564 | 75年 | 19 | 187 |
| 16年 | 7 | 963 | 36年 | 10 | 786 | 56年 | 15 | 549 | 76年 | 18 | 168 |
| 17年 | 7 | 956 | 37年 | 10 | 776 | 57年 | 15 | 534 | 77年 | 17 | 150 |
| 18年 | 7 | 949 | 38年 | 10 | 766 | 58年 | 16 | 519 | 78年 | 16 | 133 |
| 19年 | 8 | 942 | 39年 | 10 | 756 | 59年 | 16 | 503 | 79年 | 15 | 117 |
| 20年 | 8 | 934 | 40年 | 10 | 746 | 60年 | 16 | 487 | 80年 | 14 | 102 |
| 21年 | 8 | 926 | 41年 | 11 | 736 | 61年 | 17 | 471 | 81年 | 13 | 88 |
| 22年 | 8 | 918 | 42年 | 11 | 725 | 62年 | 17 | 454 | 82年 | 12 | 75 |
| 23年 | 8 | 910 | 43年 | 11 | 714 | 63年 | 18 | 437 | 83年 | 11 | 63 |
| 24年 | 9 | 901 | 44年 | 11 | 703 | 64年 | 18 | 419 | 84年 | 10 | 52 |
| 25年 | 9 | 892 | 45年 | 11 | 692 | 65年 | 19 | 401 | 85年 | 9 | 42 |
| 26年 | 9 | 883 | 46年 | 12 | 681 | 66年 | 20 | 382 | 86年 | 8 | 33 |
| 27年 | 9 | 874 | 47年 | 12 | 669 | 67年 | 21 | 362 | 87年 | 6 | 25 |
| 28年 | 9 | 865 | 48年 | 12 | 557 | 68年 | 22 | 341 | 88年 | 5 | 19 |
| 29年 | 10 | 856 | 49年 | 13 | 645 | 69年 | 23 | 319 | 89年 | 4 | 14 |
| | | | | | | | | | 90年 | | 10 |

### 本邦各年齡壽命平均表

| 年齡 | 平均壽命 | 年齡 | 平均壽命 | 年齡 | 平均壽命 | 年齡 | 平均壽命 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 年 | 45.46 | 30 年 | 31.75 | 50 年 | 18.98 | 70 年 | 8.12 |
| 11 年 | 44.74 | 31 年 | 31.13 | 51 年 | 18.36 | 71 年 | 7.76 |
| 12 年 | 44.01 | 32 年 | 30.50 | 52 年 | 17.75 | 72 年 | 7.42 |
| 13 年 | 43.27 | 33 年 | 29.87 | 53 年 | 17.15 | 73 年 | 7.09 |
| 14 年 | 42.53 | 34 年 | 29.27 | 54 年 | 16.56 | 74 年 | 6.76 |
| 15 年 | 41.79 | 35 年 | 28.59 | 55 年 | 15.96 | 75 年 | 6.43 |
| 16 年 | 41.09 | 36 年 | 27.95 | 56 年 | 15.38 | 76 年 | 6.10 |
| 17 年 | 40.39 | 37 年 | 27.30 | 57 年 | 14.79 | 77 年 | 5.79 |
| 18 年 | 39.69 | 38 年 | 26.65 | 58 年 | 14.21 | 78 年 | 5.46 |
| 19 年 | 38.98 | 39 年 | 26.00 | 59 年 | 13.67 | 79 年 | 5.14 |
| 20 年 | 38.31 | 40 年 | 25.34 | 60 年 | 13.10 | 80 年 | 4.82 |
| 21 年 | 37.63 | 41 年 | 24.68 | 61 年 | 12.53 | 81 年 | 4.51 |
| 22 年 | 36.91 | 42 年 | 24.04 | 62 年 | 11.98 | 82 年 | 4.21 |
| 23 年 | 36.28 | 43 年 | 23.41 | 63 年 | 11.42 | 83 年 | 3.91 |
| 24 年 | 35.63 | 44 年 | 22.76 | 64 年 | 10.89 | 84 年 | 3.63 |
| 25 年 | 34.99 | 45 年 | 22.12 | 65 年 | 10.36 | 85 年 | 3.38 |
| 26 年 | 34.34 | 46 年 | 21.47 | 66 年 | 9.85 | 86 年 | 3.17 |
| 27 年 | 33.69 | 47 年 | 20.84 | 67 年 | 9.37 | 87 年 | 3.02 |
| 28 年 | 33.04 | 48 年 | 20.22 | 68 年 | 8.91 | 88 年 | 2.81 |
| 29 年 | 32.38 | 49 年 | 19.58 | 69 年 | 8.49 | 89 年 | 2.64 |

齡か四十なれは、差引き十年間の養育料を殺したる人に請求せしに殺したる方にては、人間の平均壽命は三十三年許なれは養育料を出すべき理屈なしと言ひ張りし由なるが、此は尋常一般の平均壽命と既に若干の年齡に達したる人の平均壽命との別を知らさる話にて、今本表に據るに既に四十の年齡に達したる日本人の平均壽命は二十五年四ケ月なり。

### 本邦に於て生命保險用死亡生殘表を調製するに付考按

本邦に於て精密なる生命保險用死亡生殘表を調製する、如何なる方法に依賴すべきや。本邦保險會社の經驗を待んか、本邦保險會社の最舊きものにして、尙僅に八年以前の創立に係るに過きす。然るに前章既に陳へたる如く、被保人の生命は保險契約を結ひたる後、大凡五年間は體格檢査の影響を被りて、未以て規矩と爲すに足らされは、今若し本邦生命保險會社の經驗に據り死亡生殘表を作らんには、尙十數年の後を期せさるべからず。然らは生命保險會社の經驗を外にして、別に完全なる死亡生殘表を作るの方按なきか、請ふ愚按を述べん。

寺院の過去帳又は墓碑には、通例生年月幷に享年月を記するを以て、今天王寺及青山墓地に就き、五六千の生命記錄を得ることは、必しも難きことにはあらさるべし。英國のカーライル死亡表の材料は、僅に二千未滿の死亡登記に過ぎす。ジョシウハ・ミルン氏が巧に此の材料を採用したる結果は、永く英國生命保險料計算の基礎を爲せり。故に今本邦五六千の材料もジョシウハ・ミルン其人をして之を料理せしめは、必すや生命保險用に充分精密なる死亡生殘表を作ることを得べし。

或は現時本邦被保人の總數は大凡五千人、此人々に白紙を送附して、各被保人一家中、明治元年以降死去したる人の生死年月を請求せは、必しも大ひなる費用を要せすして、五六千の死亡記錄を得べし。今此の死亡記錄に基き計算するときは、現時の被害人に最接近したる生命の死亡生殘表を作ることを得べし。

### 利息算特ニ年金并ニ公債證書實價計算法

金が利息を生まぬものならば、生命保險料の勘定は甚容易なるべけれど、又從つて生命保險の效能も甚薄かるべし。利息に簡單なるものあり、複雜なるものあり。年一割といへば、一箇年百圓に十圓、千圓に百圓、之は誰にも解ることとなれど、利息を其儘元金に繰り込み、其翌年よりは之に對して利息を附し毎年此の如くするときは、元金は通常の場合の如く不易なるものにならす、年を逐ふて増加し、則利をして利を生ましむるときの計算は随分面當なるものにして、此の利倍増加のことに付きては、猿智悪の親玉太閤様でさへ曾呂利新左衛門に一本遣り込められし例あり。借利息算のことを解き明かすに、年金計算法より始むるを捷徑とす。

年金とは契約の期限間・一人若しくは數人の畢生間、各年(若くは豫め定めたる各定期、例へは毎半季)に拂ふ一定の金額を總括したるものを云ふ。此は通例世に行はるゝ年金の定義なれど、余が考ふるに、年金とは契約の期限間、一人若しくは數人の畢生間、各年(若くは豫め定めたる各定期、例へは毎半季)に一定の金額を受取る株なり。と解するも實際不都合なかるべし。

各年拂ふ金高を年金額と名づく。

年金は通例其創設の日より、滿一箇年毎に支拂ふものとす。例へば明治二十二年一月一日創設五箇年間の年金は、明治二十三年一月一日、明治二十四年一月一日、明治二十五年一月一日、明治二十六年一月一日、明治二十七年一月一日の五回に拂ふものとす。

創設と同時に第一回の拂ひを爲す年金を、拂附年金或は拂期迫りの年金と名つく。則前例の年金は、明治二十三年一月一日には四箇年間の拂附年金と成るなり。

年金の其創設の日より若干年を經過したる後、初めて第一回の拂ひを爲し、其後は引き續き滿一箇年毎に拂ふものを据置年金と名つく。例へは明治二十二年一月一日創設、二年間据置、三箇年間の年金は、明治二十五年一月一日、明治二十六年一月一日、明治二十七年一月一日の三回に拂ふものなり。

通例世に行はるゝ年金を確實年金、生命年金の二種類に區別す。確實年金とは、契約の期限間如何なる事故の生するあるも更に關係するところなきものを云ひ、生命年金とは、契約の期限中たりとも年金を有する人の死去するときは、其以後年金を拂ふ義務、之を受取る權利の消滅するものを云ふ。

### 確實年金

確實年金を尙左の四種類に細別す。

永續年金(一名無終年金)　据置永續年金　定期年金(有期年金へ又定限年金の稱あり)　据置定限年金

永續年金とは、年金の永續するものを云ふ。毎年若しくは毎半季に一定の利益金配當を爲す會社の株券は永續年金の一例なり。永續年金の現價即會社株券の場合に於ては、其券面額にあらすして、其賣買上の實價は、毎年若しくは毎定期に、年金額の利子を生む元金に等しければ、永續年金の現價は、利息の歩合を以て年金額を割りて得るなり。即年金額を一とし、利息の歩合を$i$とするときは年金の現價は $\frac{1}{i}$ なり。左に利息の各歩合に對する、一箇年一圓永續年金の現價を揭く。

| 利息の歩合 | 一箇年一圓永續年金の現價 |
|---|---|
| 一箇年百分の二 | 五十圓 |
| 同　二半 | 四十圓 |
| 同　三 | 三十三圓三十三錢 |
| 同　三半 | 二十八圓五十七錢 |
| 同　四 | 二十五圓 |
| 同　四半 | 二十二圓二十二錢 |
| 同　五 | 二十圓 |
| 同　六 | 十六圓六十七錢 |
| 同　七 | 十四圓二十九錢 |
| 同　八 | 十二圓五十錢 |
| 同　九 | 十一圓十一錢 |
| 同　十 | 十圓 |
| 同　十五 | 六圓六十七錢 |
| 同　二十 | 五圓 |

此表中年金の現價は錢位に止め、錢以下は四捨五入したり。又拂附きの場合に於ては、前記の金額に尙一箇年の年金高を加ふ。例へは金利を年百分の五とするときは、一箇年一圓永續年金の價は前表に揭げたる如く二十圓なれど、拂附きの場合に於ては、尙一圓を加へて二十一圓となる。

据置永續年金とは、豫しめ定めたる若干の年數を經過したる後に始まる永續年金にして、其据置年間を經過したる後の價は、尋常永續年金の價と異なることなし。故に据置永續年金の現價を計算するには、先づ若干年を經過したる後に受取る一圓の現價を求めざるべからす。

| 年＼利 | 2 | $2\frac{1}{2}$ | 3 | $3\frac{1}{2}$ | 4 | $4\frac{1}{2}$ | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 利／年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 980 | 976 | 971 | 966 | 962 | 957 | 952 | 943 | 935 | 926 | 917 | 909 | 1 |
| 2 | 961 | 952 | 943 | 934 | 925 | 916 | 907 | 890 | 873 | 857 | 842 | 826 | 2 |
| 3 | 942 | 929 | 915 | 902 | 889 | 876 | 864 | 840 | 816 | 794 | 772 | 751 | 3 |
| 4 | 924 | 906 | 888 | 871 | 855 | 839 | 823 | 792 | 763 | 735 | 703 | 683 | 4 |
| 5 | 906 | 884 | 863 | 842 | 822 | 802 | 784 | 747 | 713 | 681 | 650 | 621 | 5 |
| 6 | 888 | 862 | 837 | 814 | 790 | 768 | 746 | 705 | 666 | 630 | 596 | 564 | 6 |
| 7 | 871 | 841 | 813 | 786 | 760 | 735 | 711 | 665 | 623 | 583 | 547 | 513 | 7 |
| 8 | 853 | 821 | 789 | 759 | 731 | 703 | 677 | 627 | 582 | 540 | 502 | 467 | 8 |
| 9 | 837 | 801 | 766 | 734 | 703 | 673 | 645 | 592 | 544 | 500 | 400 | 424 | 9 |
| 10 | 820 | 781 | 744 | 709 | 676 | 644 | 614 | 558 | 508 | 463 | 422 | 386 | 10 |
| 11 | 804 | 762 | 722 | 685 | 650 | 616 | 585 | 527 | 475 | 429 | 388 | 350 | 11 |
| 12 | 788 | 744 | 701 | 662 | 625 | 590 | 557 | 497 | 444 | 397 | 356 | 319 | 12 |
| 13 | 773 | 725 | 681 | 639 | 601 | 564 | 530 | 469 | 415 | 368 | 326 | 290 | 13 |
| 14 | 758 | 708 | 661 | 618 | 577 | 540 | 505 | 442 | 388 | 340 | 299 | 263 | 14 |
| 15 | 743 | 690 | 642 | 597 | 555 | 517 | 481 | 417 | 362 | 315 | 275 | 239 | 15 |
| 16 | 728 | 674 | 623 | 577 | 534 | 494 | 458 | 394 | 339 | 292 | 252 | 218 | 16 |
| 17 | 714 | 657 | 605 | 557 | 513 | 473 | 436 | 371 | 317 | 270 | 231 | 198 | 17 |
| 18 | 700 | 641 | 587 | 538 | 494 | 453 | 416 | 350 | 296 | 250 | 212 | 180 | 18 |
| 19 | 686 | 626 | 570 | 520 | 475 | 433 | 396 | 331 | 277 | 232 | 194 | 164 | 19 |
| 20 | 673 | 610 | 554 | 503 | 456 | 415 | 377 | 312 | 258 | 215 | 178 | 149 | 20 |
| 21 | 660 | 595 | 538 | 486 | 439 | 397 | 359 | 294 | 242 | 199 | 164 | 135 | 21 |
| 22 | 647 | 581 | 522 | 469 | 422 | 380 | 342 | 278 | 226 | 184 | 150 | 123 | 22 |
| 23 | 634 | 567 | 507 | 453 | 406 | 363 | 326 | 262 | 211 | 170 | 138 | 112 | 23 |
| 24 | 622 | 553 | 492 | 438 | 390 | 348 | 310 | 247 | 197 | 158 | 126 | 102 | 24 |
| 25 | 610 | 539 | 478 | 423 | 375 | 333 | 295 | 233 | 184 | 146 | 116 | 092 | 25 |
| 26 | 598 | 526 | 464 | 409 | 361 | 318 | 281 | 220 | 172 | 135 | 106 | 084 | 26 |
| 27 | 586 | 513 | 450 | 395 | 347 | 305 | 268 | 207 | 161 | 125 | 098 | 076 | 27 |
| 28 | 574 | 501 | 437 | 382 | 333 | 292 | 255 | 196 | 150 | 116 | 090 | 069 | 28 |
| 29 | 563 | 489 | 424 | 369 | 321 | 279 | 243 | 185 | 141 | 107 | 082 | 063 | 29 |
| 30 | 552 | 477 | 412 | 356 | 308 | 267 | 231 | 174 | 131 | 099 | 075 | 057 | 30 |
| 35 | 500 | 421 | 355 | 300 | 253 | 214 | 181 | 130 | 094 | 068 | 049 | 036 | 35 |
| 40 | 453 | 372 | 307 | 253 | 208 | 172 | 142 | 097 | 067 | 046 | 032 | 022 | 40 |
| 45 | 410 | 329 | 264 | 213 | 171 | 138 | 111 | 073 | 048 | 031 | 021 | 014 | 45 |
| 50 | 372 | 291 | 228 | 179 | 141 | 111 | 087 | 054 | 034 | 021 | 013 | 009 | 50 |
| 55 | 337 | 257 | 197 | 151 | 116 | 089 | 068 | 041 | 024 | 015 | 009 | 005 | 55 |
| 60 | 305 | 227 | 170 | 127 | 095 | 071 | 054 | 030 | 017 | 010 | 006 | 003 | 60 |
| 65 | 276 | 201 | 146 | 107 | 078 | 057 | 042 | 023 | 012 | 007 | 004 | 002 | 65 |
| 70 | 250 | 178 | 126 | 090 | 064 | 046 | 033 | 017 | 009 | 005 | 002 | 001 | 70 |
| 75 | 226 | 157 | 109 | 076 | 053 | 037 | 026 | 013 | 006 | 003 | 002 | 001 | 75 |
| 80 | 205 | 139 | 094 | 064 | 043 | 030 | 020 | 009 | 004 | 002 | 001 | 000 | 80 |
| 85 | 186 | 123 | 081 | 054 | 036 | 024 | 016 | 007 | 003 | 001 | 001 | 000 | 85 |
| 90 | 168 | 108 | 070 | 045 | 029 | 019 | 012 | 005 | 002 | 001 | 000 | 000 | 90 |
| 95 | 152 | 096 | 060 | 038 | 024 | 015 | 010 | 004 | 002 | 001 | 000 | 000 | 95 |
| 100 | 138 | 085 | 052 | 032 | 020 | 012 | 008 | 003 | 001 | 000 | 000 | 000 | 100 |

今元金を一とし、利息の歩合を一箇年iとするときは、一年を經過したる後の元利合計は$1+i$なり。辭を變へて言はんに、一年を經過したる後に受取る$1+i$の現價は一なり。故に一年をへたる後に受取る一の現價は、一を$1+i$にて割りたるものなり。例へは利息の歩合を年一割とするときは、元金壹圓の一年を經過したる後の元利合計は壹圓拾錢にして、即一年を經過したる後に受取る壹圓拾錢の現價は壹圓なれは、一年を經たる後に受取る壹圓の現價は九拾錢九厘なり。

又元金を一とし、二年を經たる後の元利合計は$(1+i)^2$なれは、二年を經たる後に受取る一の現價は、一を$(1+i)^2$にて割りたるものなり。同じ理にて、三年を經たる後に受取る一の現價は、一を$(1+i)^3$にて割りたるものなり、餘は之に準ず。

尙此類の計算に習熟せざる人の爲めに、上に金利の各歩合に對する、若干年を經過したる後に受取る千圓の現價表を掲く。

此の表の第一列に掲けたる數は、一箇年百分の一を單位としたる利息の歩合にして、左右兩端の行の數は經過年數なり。例へは年數二十五金利五のところに、二百九十五とあるは、金利を年百分の五とし、今より二十五年を經たる後に受取る千圓の現價は、二百九十五圓なることを示すものなり。



此の表の數は總て圓位に止め、圓以下は四捨五入したるものなれば、表中〇〇とあるは皆無と云ふことにてはなく、五十錢以下の金額なることを示すものなり。例へは金利十、年數八十のところに、〇〇〇とあるは、金利を年一割とし、今より八十年後に受取る千圓の現價は、五十錢以内なり。少し辭を變へて言ふときは、金利を年一割とし、利倍增加の法に依り、五拾錢の元金をして八十年間利に利を生ましむるときは千圓以上になることを示すものなり。

利息の歩合を一箇年百分の五とし、十年間据置、一箇年一圓の永續年金の現價幾何と問ふに、其十年を經過したる後の價は二十五圓なり。然るに前の表に據るときは十年後に受取る千圓の現價は六百十四圓なれは、十年後に受取る二十五圓の現價は（1000:614＝25:x）十五圓二十八錢即此の年金の現價なり。同し理屈にて、利息の歩合をiとし、年金額を一とするときはn年間据置永續年金の現價は$\frac{1}{i(1+i)^n}$なり。

定期年金とは、年數に限りある年金を云ふ。定期年金の現價を案めんに、若干年間の定期年金と、此の定限の年數間据置きの、永續年金とを合したるものは、尋常の永續年金に等しけれは、定期年金の現價は、尋常永續年金の現價より、定期の年數間据置きの永續年金の現價を引きたるものなり。即永續年金の現價は$\frac{1}{i}$、又n年間据置永續年金の現價は$\frac{1}{i(1+i)^n}$なれは年間の定期年金の現價は$\frac{1}{i}-\frac{1}{i(1+i)^n}=\frac{1}{i}\left(1-\frac{1}{(1+i)^n}\right)$なり。

定期年金には二種の價あり。一ッは現價にして其計算の方法は前に述る如し。又一ッは其定期の年數を經たる時の價にして、即ち定期の年間一年每に年金額を積み、每年利子決算を立て、利を以て元金に加へ、利をして利を生ましむるとし、定期年間の經過したる曉の元利合計金高なり。此の金高を勘定するには左の如く考ふるを便利なりとす。

今、年利をiとし、元金一をn年間利倍增加の法に依り、積み置くときはn年間を過きたる曉には$(1+i)^n$となる。之れより元金一を引くときは、$(1+i)^n-1$を得、此卽年々元金より生ずる利を其利より利を生し、又其利より利を生し、n年間常に斯くの如くして蓄積したる合計金高なり。

今此の元金より生ずる利を、年金額iのn年間の定期年金と看做すことを得べければ、年金額をiとしn年間定期年金のn年間を經たる曉の價は、$(1+i)^n-1$なり、此より比例にて年金額を一としたる、n年定期年金の、n年間を經たる曉の價$\frac{(1+i)^n-1}{i}$を得。

又$\frac{(1+i)^n-1}{i}$を現價に引直し、即$\frac{1}{(1+i)^n}$を以て乘する時は、$\frac{1}{i}\left(1-\frac{1}{(1+i)^n}\right)$を得。此卽年金額を一としたる、n年間定期年金の現價にして、既に前に掲げたるものと符合す。

定期年金の適例は舊公債なり。此の公債は弘化元年より慶應三年まで、舊諸藩の逋債を政府にて引受られし折りに發行せられたる無利息公債にして、其償還法は明治五年より五十ケ年賦に拂戻し、明治五十四年に悉皆拂濟みとなるものにして、其年賦金拂下けは每年十二月一日より同十五日までとす。

舊公債に、劵面高五百圓、三百圓、百圓、五十圓、二十五圓の五種類あり今其內より、定期年金の一例として百圓のものを採らんに、其劵面高は百圓なれと、實際は明治五年に始まり明治五十四年に終る五十年間、每年十二月一日より同十五日迄に金貳圓を受取る年金株なり。故に今金利を年五分とするとき、明治四年十二月に於ける舊劵公債劵面高百圓の價は、

$$2\frac{100}{5}\left\{1-\frac{1}{(1.05)^{50}}\right\}=40\{1-0.08724\}$$

三十六圓五十錢餘なり。

又此の舊公債證書は、明治二十二年十二月十六日より向三十二年間、每年十二月に金貳圓を受取る年金株となる。故に其價は、

$$2\frac{100}{5}\left\{1-\frac{1}{(1.05)^{32}}\right\}=40(1-0.2098)$$

三十一圓六十錢なり。さりなから拂附きの場合、即明治二十二年十一月卅日に於ける價は、三十一圓六十錢に尙翌日受取る金貳圓を加へ、三十三圓六十錢となる。

又金利を年六分と見るときは、每年二圓の三十二年間の定期年金の現價は

$$2\frac{100}{6}\left\{1-\frac{1}{(1.06)^{32}}\right\}=\frac{100}{3}\left\{1-.15496\right\}$$

金二十八圓十六錢なり。然るに明治二十二年一月同公債現取引相場は、金二十七圓五十錢許りにて、此の價より推すとき、同年十二月年賦金落舊公債額面百圓の價は、金二十七圓位なれば、今舊公債の現取引相場より割り出すとき、我國現時利息歩合の標準は大凡一箇年百分の六強なり。

今若し公債證書に依り年五分以上の利を得んと欲せは、舊公債を購求するに若くはなし。例へは明治二十二年十二月に於て、此の年の年賦金落舊公債額面金壹萬圓を、金貳千八百圓にて購求したりとするときは、其後三十二箇年間は、毎年十二月に金貳百圓を得。此の內より年五分の利にて、毎年三十八圓を積み置ときは、明治五十四年即舊公債滿期の年には貳千八百六十一圓餘に成る故に、貳百圓より三十八圓を引き去り、殘金百五十二圓は全くの純益にして、即年五分四厘の割合に當る。

据置定期年金とは、豫しめ定めたる据置年數を經たる後に始まる定期年金を云ふ。今r年間据置き、n年間定期年金の現價を求めんに、r年間据置きn年間の定期年金と、r+n年間据置永續年金とを合せたるものは、r年間据置永續年金に等しければ、r年間据置n年間の定期年金の現價は、r年間据置永續年金の現價より、r+n年間据置永續年金の現價を引きたるもの、即

$$\frac{1}{i}\left\{\frac{1}{(1+i)^r}-\frac{1}{(1+i)^{r+n}}\right\}$$
$$=\frac{1}{i(1+i)^r}\left\{1-\frac{1}{(1+i)^n}\right\}$$

なり。

公債證書

公債證書は純粹の年金にあらされども、其性質は頗る年金に類似したるものにして、且生命保險會社にて、通例其準備金を公債證書に引き換へ置くを以て、生命保險會社の資産金高を知るには、公債證書の實價を計算せざるへからす。故に今生命年金計算法に移る前に、公債證書の實價を計算する方法を述ぶべし。

公債證書券面上、利息の歩合と世間普通の利息の歩合と相同しきときは、公債證書の實價即現取引上の價は其券面額に同しきこと、理の甚諳易きものなれど、公債證書券面上、利息の歩合と世間普通の利息の歩合と相異れるもの、例へは、今日普通の利息の歩合は整理公債を標準とし、即大凡年五分位なるに、中山鐵道公債は年利七分、起業公債の年利六分なるが如き場合に於て、公債證書の實價を計算するには相當の範式に據らさるへからす。

公債證書は、其元金償還の方法によりて其價を異にするが故に、公債證書の現價を計算するには、之を元金償還の方法に從ひ區別せざるへからず。

公債證書元金償還の方法に、定期償還・抽籤償還の二種類あり。定期償還とは、公債證書發行の年より豫しめ定めたる若干の年數を經たる後、其元金を償還するを云ひ、抽籤償還とは、公債證書發行高の幾分を年々抽籤の方法により償還し、終に其全額を償還し盡すを云ふ。

定期償還公債證書の現價を計算する方法を、一例を掲けて說明せん。例へは公債證書の額面高を百圓とし、其利息の歩合を一箇年百分の七、又世間普通の利息の歩合を一箇年百分の五、償還期限を三十ケ年としたるものゝ現價を求めんに、此公債證書所有主が實際受取る金員は、三十ケ年間毎年七圓ツヽ、及ひ現時より三十年の後に受取る百圓なれば、其現價は即三十ケ年間毎年七圓ツヽ、の定期年金の現價に、現時より三十年後に受取る百圓の現價を加へたるものに等しく、三十ケ年間毎年七圓ツヽ、の定期年金の現價は前きに掲けたる範式に據り、

$$7\frac{1}{.05}\left\{1-\frac{1}{(1.05)^{30}}\right\}$$

即百七圓六十六錢にして、三十年後に受取る百圓の現價は貳拾三圓拾錢なれは、此公債證書の現價は百七圓六十六錢と、貳拾三圓拾錢の合計即百四拾圓七拾六錢なり。

抽籤償還公債證書の現價計算法を述へんに、均しく抽籤償還なるも、其抽籤償還の方法に種々雜多の種類あり。例へは公債證書發行の年より若干年間据置、其翌年より若干年を限り毎年抽籤、或は發行の年より毎隔年に抽籤等の種類ありて一々枚擧するに遑あらす。從つて其現價計算の方法も一樣ならす。元金償還法の差異に應し、臨機應變の計算法を用ゐざるべからされど、今其模範を示さんが爲め、想像的の一例を採り、其現價計算の方法を說明すへし。

政府は某費途に充つる爲め壹千萬圓の公債を發行し、此公債の利子は一箇年百分の七、此公債の元金は證書發行の年より五箇年据置、其翌年より向十



箇年間毎年發行高の十分の一、即額面一百萬圓ツヽ、抽籤を以て償還すると假定し、又世間普通利息の歩合を年五分と看做し、此公債證書額面百圓の現價を索むるに最簡便なる計算法は、先つ第一着に政府が此公債證書を發行したる爲めに負擔するところの責任金高の現價を索むるにあり。

据置年限並に其翌年即最初の六年間は、政府に於て毎年壹千萬圓の百分の七、即七十萬圓を拂出し、第七年目には九百萬圓の百分の七即六拾三萬圓、第八年目には八百萬圓の百分の七即五拾六萬圓、斯くの如く第十五年迄、毎年若干の利子を拂ふものとす、其詳細は次に掲くる如し。

| 拂渡の期 | 利子 | 此現價 |
|---|---|---|
| 第一年 | 七〇〇、〇〇〇 | 六六六、六六六 |
| 第二年 | 七〇〇、〇〇〇 | 六三四、九二一 |
| 第三年 | 七〇〇、〇〇〇 | 六〇四、六八六 |
| 第四年 | 七〇〇、〇〇〇 | 五七五、八九二 |
| 第五年 | 七〇〇、〇〇〇 | 五四八、四六八 |
| 第六年 | 七〇〇、〇〇〇 | 五二二、三五一 |
| 第七年 | 六三〇、〇〇〇 | 四四七、七二九 |
| 第八年 | 五六〇、〇〇〇 | 三七九、〇三〇 |
| 第九年 | 四九〇、〇〇〇 | 三一五、八五八 |
| 第十年 | 四二〇、〇〇〇 | 二五七、八四四 |
| 第十一年 | 三五〇、〇〇〇 | 二〇四、六三八 |
| 第十二年 | 二八〇、〇〇〇 | 一五五、九一四 |
| 第十三年 | 二一〇、〇〇〇 | 一一一、三六七 |
| 第十四年 | 一四〇、〇〇〇 | 七〇、七一〇 |
| 第十五年 | 七〇、〇〇〇 | 三三、六七〇 |
| 合計 | | 五、五二九、七四四 |

此利子現價の合計、五百五拾貳萬九千七百四拾四圓なり。

又五年間据置、其翌年より十箇年間毎年發行高の十分の一ツヽ、抽籤の方法より拂戻す元金は、之を五年間据置、毎年壹百萬圓ツヽ、の十年間定期年金と看做すことを得れは、其現價は据置定期年金の範式に據り、

$$100.000\frac{1}{.05}\cdot\frac{1}{(1.05)^5}\left\{1-\frac{1}{(1.05)^{10}}\right\}$$

即六百五萬貳百圓となる。之に利子現價の合計五百五拾貳萬九千七百四拾四圓を加へて得る壹千壹百五拾七萬九千九百四拾四圓は、政府が此公債を發行したるが爲めに負擔する責任金高にして、即此公債證書額面壹千萬圓の現價なり。故に公債證書額面百圓の現價は百拾五圓七拾九錢なり。

生命年金

一國の政府か或る事業を經營する爲め、一時に多額の金を要するに當り、通例は公債證書を發行すれと、又時に生命年金を創設することあり。

生命年金を拂ふ義務、之を受取る權利は、一個人の生死によつて消長す。此人を生命年金名義人と稱す、生命年金名義人と、生命年金受取人とは必しも同人たるを要せす、別人にても差支なし。故に生命年金は、確實年金、公債證書の如く之を賣買することを得。

生命年金の價額を計算する方法を說明するには、生命年金を左の四種類に區別するを便利なりとす。

終身年金　据置終身年金　定期生命年金　据置定期生命年金

終身年金とは、一個人の一生涯繼續し、其人死去するときに始めて斷絕する年金を云ふ。明治十年の役に戰功ありし軍人に給はりたる年金、舊幕時代の一代扶持の如きは、終身年金の好適例なり。

終身年金の現價を得る方法に二樣あり。一は終身年金を拂ふ政府若しくは會社が、年金を創設したるが爲めに負擔するところの責任金高を計算するにあり。

本邦死亡生殘表の第七表に據るに、年齡三十年の生殘者八百四十六人の內三十一年の年齡に達せずして死するもの十人、三十一年の年齡に達するもの八百三十六人。故に今政府若しくは會社か年齡三十年の人八百四十六人に、各人の終身間毎年一圓を拂ふことを契約するときは、八百四十六人の內十人は契約の時より一年を經ざるうち死去することなれは、政府若しくは會社は此十人の人々には更に一回の拂ひを爲すを要せされば、第一年には年齡三十一年の生殘者八百三十六人に各一圓ツヽ、合計八百三十六圓を支拂ひ、此八百三十六人の內又次年齡に達せすして死亡するもの十人、故に第二年には、

年齡三十二年の生殘者八百二十六人に各一圓ツヽ、合計八百二十六圓を支拂ひ斯の如く生殘者の數が年々減少するに從ひ、政府若しくは會社が支拂ふ金額は減少し、終に最初の三十の年齡者八百四十六人が死絶ゆるに至りて、政府若しくは會社は年金を拂ふ義務を了ふるものなれば、斯くの如くして死亡生殘表に據り政府若しくは會社が年々拂ふところの金額を得。此年々拂ふところの金額を各現價に引き直して合計したるものは、政府若しくは會社か三十の年齡者八百四十六人に、各人の終身間、每年一圓を拂ふことを契約したるが爲めに、負擔するところの責任金高なり。今之を年金受領者の人數八百四十六を以て割るときは、政府若しくは會社が年金を拂ふ契約と引換へに、三十の年齡者八百四十六人各人より受取るべき金高、即三十の年齡者が所有する終身年金壹圓の現價を得。

英國生命保險學會（Institute of Actuaries）に於て議決したる記號を用ゐ年齡を $x$、死亡生殘表に示すところの $x$ 年齡の生殘數を $l_x$、又死亡生殘表に揭けたる最高年齡を $x+z$、利息の步合を $i$、現時より一年を經て受取る壹圓の現價即 $1 \div (1+i)$ を $v$ とするときは、政府若しくは會社が、$x$ 年齡者 $l_x$ 人に、各人の終身間、每年壹圓を拂ふことを契約したるが爲めに、負擔するところの責任金高は

$$v l_{x+1} + v^2 l_{x-2} + v^3 l_{x+3} + \cdots\cdots + v^2 l_{x+z}$$

なれば、之を $l_x$ を以て割るときは、$x$ 年齡者所有の終身年金壹圓の現價を得。故に今 $x$ 年齡者の終身年金壹圓の現價を $a_x$ とするときは、

$$a_x = \frac{v l_{x+1} + v^2 l_{x+2} \cdots\cdots + v^2 l_{x+z}}{l_x}$$

終身年金の價を計算する第二の方法は、前章に述べたる總べて未定の事に皆せしむる掛金拂金は、其「確カラシサ」に比例すと云ふ定則を適用するにあり。現て $x$ 年齡の人が $(x+1)$ の年齡に達する「確カラシサ」は、$(x+1)$ 年齡の生殘數を $x$ 年齡の生殘數にて割りたるもの、即 $l_{x+1} \div l_x$ なれば、$x$ 年齡の人が一年間生延ひたる曉に受取る壹圓の價は、一年後に受取る壹圓の現價 $v$ に、尙一年間生延びることの「確カラシサ」$l_{x+1} \div l_x$ を乘したるもの、即

$$v \frac{l_{x+1}}{l_x}$$

なり。又 $x$ 年齡の人が $(x+2)$ の年齡に達する「確カラシサ」は、$(x+2)$ 年齡の生殘數 $l_{x+2}$ を $x$ 年齡の生殘數にて割りたるもの即 $l_{x+2} \div l_x$ なれは、$x$ 年齡の人が尙二年間生延びたる曉に受取る壹圓の價は、二年後に受取る壹圓の現價 $v^2$ に $l_{x+2} \div l_x$ を乘したるもの、即

$$v^2 \frac{l_{x+2}}{l_x}$$

なり。斯くの如く、$x$ 年齡の人が死亡表の示すところに據るときは、必ず死すると云ふ年齡に達する迄の間、各年受取るところの壹圓の價を計算し、之を合計したるもの、即

$$\frac{v l_{x+1} + v^2 l_{x+2} + \cdots\cdots + v^2 l_{x+z}}{l_x}$$

は、此の終身年金の價にして、最初の方法によりて得るものと相符合す。

据置終身年金とは、豫しめ定めたる若干の年數間、据置きたる後に、初まる終身年金を云ふ。學士會院の會員、年齡六十に達すときは、年俸三百圓を受くるを得る制規なれば、今爰に年齡五十の學士會院會員ありとするときは此人は十年間据置、一箇年三百圓の終身年金を所有するものなり。

$r$ 年間据置、一箇年壹圓終身年金の價を ${}_r a_x$ とするときは、通常の終身年金の場合に於て述へたるものと同し理屈にて

$${}_r a_x = \frac{v^r l_{x+r} + v^{r+1} l_{x+r+1} + \cdots\cdots + v^z l_{x+z}}{l_x}$$

となる。

定期生命年金とは、若干の年數を限り、其期限中年金名義人の生存する間每年受取るところの年金を云ふ。故に年金名義人不幸にして期限中に死去するときは其死去したるときに消滅し、又年金名義人幸にして期限を過きて尙生存するときは、期限中每年年金額を受取るものなり。例へは非職給の如き、三年間の定期生命年金なり。

$n$ 年の定期生命年金と、$n$ 年間据置終身年金とを合せたるものは通常の終身年金に等しけれは、$n$ 年間定期生命年金の價を $a_{x+n}$ とするときは、

$$a_{x+n} = a_x - {}_r a_x = \frac{v l_{x+1} + v^2 l_{x+2} + \cdots\cdots + v r l_{x+r}}{l_x}$$

なり。



据置定期生命年金とは、若干年間据置きたる後に初まる定期生命年金を云ふ。

$r$ 年間の定期生命年金と、$r$ 年間据置 $n$ 年間の定期生命年金を合せたるものは、$(r+n)$ 年間の定期生命年金に等しけれは、$r$ 年間据置、$n$ 年間定期生命年金の價を ${}_r a_{x+n}$ とするときは、

$$a_{x+n} = a_{x+r+n} - a_{x+r}$$

なり。

以上記するところは、生命年金の價を計算する方法の數理を示すに過きす實際生命年金の價を計算するには、通例次に記することくす。

前きに揭けたる終身年金の價

$$\frac{v l_{x+1} + v^2 l_{x+2} + \cdots\cdots + v^z l_{x+z}}{l_x}$$

の分母に $v^x$ を掛け、又分子に $v^x$ を掛くるときは、

$$\frac{v^{x+1} l_{x+1} + v^{x+2} l_{x+2} + \cdots\cdots + v^{x+z} l_{x+z}}{v^x l_x}$$

を得。同し譯にて、$r$ 年間据置、終身年金の價を左の如く記するを得。

$$\frac{v^{x+r+1} l_{x+r+1} + v^{x+r+2} l_{x+r+2} + \cdots\cdots + v^{x+z} l_{x+z}}{v^x l_x}$$

故に今、$v^x l_x = D_x$;

$$v^{x+1} l_{x+1} + v^{x+2} l_{x+2} + \cdots\cdots + v^{x+z} l_{x+z} = N_x$$

とするときは、

終身年金の價は　$N_x \div D_x$

$r$ 年間据置終身年金の價は　$N_{x+r} \div D_x$

$r$ 年間定期生命年金の價は　$(N_x - N_{x+r}) \div D_x$

$r$ 年間据置定期生命年金の價は　$(N_{x+r} - N_{x+r+n}) \div D_x$

となる。

故に生命年金の價を計算するには、第一着に $D_x$ と $N_x$ を計算するを便利なりとす。

借て前章の第七表に揭けたる本邦死亡生殘表に基つき $D_x$ 及ひ $N_x$ の表を作らんとするに、利息の步合 $i$ を幾何と見積りて適當なるや。本邦現時の有樣にては、整理公債の相場に據り、一箇年百分の五を標準利息の步合と看做すも差支なかるべけれと、年金算に要するところの利息の步合は、現時の利息の步合にあらずして、現時より二十年乃至三十年間平均の利息の步合なれは、之を見積ることは本邦經濟上の一難問なり。

前年來、我國にて利息の步合は漸々下落し、近頃整理公債の發行に遇ふて、大凡壹箇年百分の五くらいのところに落付きたるごとくなれど、此先き尙下落するものなるや、又若し下落するものとするときは幾許下落するものなるや、此問題に付きては他日詳論することあるべし。今假りに利息の步合を一箇年百分の四とし、表を調製せり（此表は次章の終りに載す）。

此表の用法を示さんが爲め、年金に關する一二の例題を解すべし。

爰に年齡五十の人あり、政府は此人か多年國家の爲めに盡力したる功勞に報いんが爲め、此人の終身間每年七百五十圓を給與す。今此終身年金の價幾許と問ふに、此表によるときは、年齡五十、終身年金壹圓の價即 $a_{50}$ は拾壹圓八十八錢八厘なれは、之に七百五十を掛け、此終身年金の價八千九百拾六圓を得。

爰に年齡四十五の學者、學士會院の會員に推撰せられたりとし、此學者か學士會院の會員に推撰せられたることは幾許の價あるやと問ふに、學士會院會員は年齡六十に達するときは、望みにより年金三百圓を受ることを得れは此の年齡四十五の十五年間据置終身年金三百圓を受くることを得る株を得たるに等し。然るに、年齡四十五、十五年間据置終身年金壹圓の價は、$N_{60}$ 即四百十八圓貳拾八錢を、$D_{45}$ 即百拾、四拾七にて割りたるもの、即三圓五拾三錢壹厘なれは、之に三百を掛け、此年齡四十五の學者か學士會院會員に推撰せられたる價壹千五拾九圓を得。

## 生命保險料計算法

生命保險料には、生命保險の種類に從かひ差異あれど、其計算法の原理に至つては、何つれの種類にても更に異なるところなけれは次に終身生命保險料を計算する方法を詳述し、以て他の種類の生命保險料を計算する方法の模範とすべし。

終、養老、生命、保險料を計算するには、先づ或る年齢の人が死したる年の末に拂込むべき一圓の現價を求むるを要す。

此或る年齢の人が死したる年の末に受取る一圓の現價を計算するには、生命保險會社が或る年齢の人若干人に、其人々の死主したる年の末に各々一圓之を被保人の人數にて割るを被慥とす。

死亡生殘表に載せたる、x年齢の生殘數を$l_x$とし、x年齢の死亡數を$d_x$とすると、x年齢者$l_x$人中、第一年目には$d_x$人、第二年目には$d_{x+1}$人、第三年目には$d_{x+2}$人、斯くの如く年々死亡して終に死絶ゆる迄の年數を$n$とすると、最後の年に死する數は$d_{x+n}$なり。故に生命保險會社にて、x年齢者$l_x$人に、此人々の死主したる年の末に、各壹圓を遺漏に拂渡すことを契約したるが爲めに負擔すべき責任金高は左の如し。

第一年には$d_x$人死亡すれば、第一年の終りに、生命保險會社が拂出すべき金額を$d_x$圓とす。今、前章の記號を用ゐ、一年後に受取る金圓の現價、即$1\div(1+i)$を$v$とするときは、此現價$vd_x$圓なり。

第二年目には$d_{x+1}$人死去すれば、第二年の終りに、生命保險會社が拂出すべき金額を$d_{x+1}$圓とす、此現價$v^2d_{x+1}$なり。

斯くの如くして、年々生命保險會社にて拂渡す金額の現價を計算するものとす。同最後の年に拂出す金額は$d_{x+n}$圓にして、此現價$v^{x+n}d_{x+n}$なり。

此合計を被保人の總數にて割りたるもの、即

$$\frac{vd_x + v^2 d_{x+1} + \cdots\cdots + v^{x+1}d_{x+n}}{l_x}$$

は、終身生命保險料にして、x年齢の被保人各人が、壹圓の終身保險を生命保險會社と契約するときに、一時に會社に拂ひ込むべき拂高なり。

勿論生命保險料は、通例保險を契約するときに一時に拂ふものにてはなく、年々に拂込むものなれど、今生命保險料の計算法を說明するに當り、先づ第一に此一時拂の保險料を計算し、然る後終身間若しくは定期間、年々に拂込むべき保險料を計算するを便利なりとす。

今此一時拂の保險料を$A_x$とし、

$$A_x = \frac{vd_x + v^2 d_{x+1} + \cdots\cdots + v^{x+1}d_{x+n}}{l_x}$$

の分子、分母に$v^x$を乘ずるときは、

$$A_x = \frac{v^{x+1}d_x + v^{x+2}d_{x+1} + \cdots\cdots + v^{x+n}d_{x+n}}{v^x l_x}$$

を得。

$v^{x+1}$を$C_x$とし、又$v^x l_x$の代りに、既に前章に使用したる記號$D_x$を用ゐるときは、

$$A_x = \frac{C_x + C_{x+1} + \cdots\cdots + C_{x+n}}{D_x}$$

となる。故に

$$M_x = C_x + C_{x+1} + \cdots\cdots + C_{x+n}$$

とするときは、

$$A_x = \frac{M_x}{D_x}$$

なり。

同し理屈にて、n年間據置、終身、保險料、即契約を結びたる時より、m年間中に被保人死亡するも、會社は保險したる金額を拂はず。然れども此m年間を經過したる後は、イツ何時死するも、會社は其死したる年の末に契約の保險金高を支拂ふ場合に於ける保險料は、

$$M_{x+m} \div D_x$$

なり。

同し、故に、養老、終身保險料より、m年間據置、終身保險料を引き去り、m、年、間、定、期、生、命、保、險、料、即契約の時よりm年間は被保人死去すれば、會社は保險金を拂はざる場合に於ける保險料、

$$(M_x - M_{x+m}) \div D_x$$

を得。

據、置、定、期、生、命、保、險、とは、契約の時より數定の據置年間に、被保人死するも、會社は保險金を拂はず。據置年間を過ぎたる後、數定の定期年間に死去すれば、會社は保險金を拂ひ、此定期年間の經過とともに、保險契約の消滅して若干の據置年間を經過したる後に拂ふ拂金の現價は、據置年間を經過したる後、實際拂ふべき金高と據置年間に對する割引との差に等し。

終身生命保險金も又此種の拂金にして、人の畢生間據置き、此據置年間を經過したる後、即此人の死したる年の末に拂ふものなり。故に今、人の畢生間に對する割引を知ることを得ば、保險金高より割引金高を引き去りて、保險金の現價、即保險料を得べし。

今金利を$i$とするときは、壹圓に對する一年間の割引は、

$$\frac{i}{1+i} = 1 - v$$

なり。

又終身年金壹圓の現價を$a_x$とするときは、當生拂附終身年金の現價は$(1+a_x)$にして、人の畢生間に對する割引は、實際之を年金額$(1-v)$の當生拂附終身年金と看做すことを得れば、其現價は$(1-v)(1+a_x)$なり。故に保險金高壹圓より、此壹圓に對する割引金高を引去りて、保險料

$1-(1-v)(1+a_x)$を得。

今得たるところの終身保險料と前きに算出したる終身保險料と實際同一なることは、次の式に於て明かなり。

$$\frac{vd_x + v^2 d_{x+1} + \cdots\cdots + v^{x+1}d_{x+n}}{l_x}$$

$$= \frac{v(l_x - l_{x+1}) + v^2(l_{x+1} - l_{x+2}) + \cdots\cdots + v^{x+1}(l_{x+n} - 0)}{l_x}$$

$$= \frac{vl_x + v^2 l_{x+1} + \cdots\cdots + v^{x+1}l_{x+n}}{l_x}$$

$$- \frac{vl_{x+1} + v^2 l_{x+2} + \cdots\cdots + v^n l_{x+n}}{l_x}$$

$$= v(1+a_x) - a_x$$

又終身年金と終身年金の終りたる年、即年金名義人の死去したる年の末より初まる永續年金を合せたるものは、現時より初まる永續年金と異なることなし。故に永續年金の價$\frac{1}{i}$より終身年金の價$a_x$を引き去りたるものは、年金名義人の死主したる年に始まる永續年金の現價なり。扨て此の

年金名義人の死したる年に始まる永續年金の其の當時に於ける價は$\left(1+\frac{1}{i}\right)$なれば、x年齢の一個人が死したる年に拂ふ$\left(1+\frac{1}{i}\right)$の現價は$\left(\frac{1}{i}-a_x\right)$にして、此人の死したる年に拂ふ壹圓の現價、即終身保險料は、

$$\left(\frac{1}{i}-a_x\right)\div\left(1+\frac{1}{i}\right)=v-(1-v)a_x=v(1+a_x)-a_x$$

となり、既に前に算出したるものと符合す。

以上記するところの保險料は、保險契約を結ぶ當坐に一時に拂ふものとして算出したるものなれど、實際生命保險料は、保險契約を結びたる當坐に悉皆拂ふものにてはなく、人の終身間若しくは若干の年數を限りて年々に拂ふものなり。勿論一時に拂ふも、年々幾數回に拂ふも均しく生命を、保險せんが爲めに拂ふ生命保險料にして、只之を拂ひ込む方法に差あるのみ。然れども尙萬一の混雜を防かんか爲め、以下一時に拂ふものを保險料、年々幾數回に拂ふものを保險掛金と稱すべし。

生命保險掛金は、被保人か會社に拂ひ込む年金にして、此年金の現價は即生命保險料なれば、今生命保險料を既知のものとするときは、之よりして保險掛金を算出することは甚容易なり。

生命保險掛金は、通例保險契約の當坐に第一回の拂ひを爲すものなれば、今保險掛金をP、年金をa、保險料をAとするときは、$P(1+a)=A$にして、

$$P=\frac{A}{1+a}$$

なり。

等常終身保險掛金、即被保人其存生中、毎年一定の掛金を拂ふ場合に於ける掛金は、

$$\frac{1-(1-v)(1+a_x)}{1+a_x}=\frac{1}{1+a_x}-(1-v)$$

或は

$$\frac{v(1+a_x)-a_x}{1+a_x}=v-\frac{a_x}{1+a_x}$$

或は

$$\frac{M_x}{D_x}+\frac{N_{x-1}}{D_x}=\frac{M_x}{N_{x-1}}$$

なり。

有限掛金終身保險掛金、即若干の年數を限り、其年數間毎年一定の掛金を爲し、其の年數を過ぐれば、掛金を爲すに及ばさる場合に於ける掛金は、

$$\frac{A_x}{1+a_{x+m-1}}=\frac{M_x}{N_{x-1}-N_{x+m-1}}$$

なり。此式中、mは掛金を爲す年數、$a_{n-1}$は$(M-1)$年間の定期生命年金の價なり。

定期（m年間）保險掛金は、前に算出したる定期保險料、

$$\frac{M_x-M_{x+m}}{D_x}$$

を、當坐拂附（m−1）年間の定期生命年金の價、

$$1+a_{x+m-1}=\frac{N_{x-1}-N_{x+m-1}}{D_x}$$

にて割りたるもの、

$$\frac{M_x-M_{x+m}}{N_{x-1}-N_{x+m}}$$

なり。

養老保險（m年間）掛金は、前に算出したる養老保險料、

$$\frac{M_x-M_{x+m}+D_{x+m}}{D_x}$$

を當坐拂附（m−1）年間の定期生命年金の價、

$$\frac{N_{x-1}-N_{x-m-1}}{D_x}$$

にて割りたる、

$$\frac{M_x-M_{x+m}+D_{x+m}}{N_{x-1}-N_{x+m-1}}=\frac{M_x-M_{x+m}}{N_{x-1}-N_{x+m-1}}+\frac{D_{x-m}}{N_{x-1}-N_{x+m-1}}$$

即m年間定期保險掛金に、

$$\frac{D_{x+m}}{N_{x-1}-N_{x+m-1}}$$

を加へたるものなり。

次に金利iを一箇年百分の四と見積り、（前章の終りを參觀すべし）算出



## D—N—C—M表（1）

| x | $l_x$ | $d_x$ | $v_x$ (i=0.04) | $D_x$ | $N_x$ | $a_x$ | $C_x$ | $M_x$ | $\frac{M_x}{N_{x-1}}$ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 1000 | 6 | .67556 | 675.56 | 12803.43 | 18.952 | 3.8976 | 156.7344 | |
| 11 | 994 | 6 | .64960 | 645.68 | 12157.75 | 18.829 | 3.7476 | 152.8368 | .01189 |
| 12 | 988 | 6 | .62460 | 617.10 | 11540.65 | 18.701 | 3.6034 | 149.0892 | .01235 |
| 13 | 982 | 6 | .60057 | 589.76 | 10950.89 | 18.568 | 3.4649 | 145.4858 | .01261 |
| 14 | 976 | 6 | .57748 | 563.62 | 10387.27 | 18.387 | 3.3316 | 142.0209 | .01297 |
| 15 | 970 | 7 | .55527 | 538.61 | 9848.66 | 18.285 | 3.7374 | 138.6893 | .01335 |
| 16 | 963 | 7 | .53391 | 514.15 | 9334.51 | 18.155 | 3.5936 | 134.9519 | .01370 |
| 17 | 956 | 7 | .51337 | 490.79 | 8843.72 | 18.019 | 3.4554 | 131.3583 | .01407 |
| 18 | 949 | 7 | .49363 | 468.45 | 8375.27 | 17.879 | 3.3225 | 127.9029 | .01446 |
| 19 | 942 | 8 | .47464 | 447.11 | 7928.16 | 17.732 | 3.6511 | 124.5804 | .01487 |
| 20 | 934 | 8 | .45639 | 426.27 | 7501.89 | 17.599 | 3.5106 | 120.9293 | .01525 |
| 21 | 926 | 8 | .43883 | 406.36 | 7095.53 | 17.461 | 3.3757 | 117.4187 | .01565 |
| 22 | 918 | 8 | .42196 | 387.26 | 6708.27 | 17.322 | 3.2458 | 114.0430 | .01607 |
| 23 | 910 | 8 | .40573 | 369.21 | 6339.06 | 17.169 | 3.1210 | 110.7972 | .01652 |
| 24 | 901 | 9 | .39012 | 351.50 | 5987.56 | 17.034 | 3.3761 | 107.6762 | .01698 |
| 25 | 892 | 9 | .37512 | 334.62 | 5652.94 | 16.933 | 3.2462 | 104.3001 | .01742 |
| 26 | 883 | 9 | .36069 | 318.49 | 5334.45 | 16.749 | 3.1214 | 101.0539 | .01788 |
| 27 | 874 | 9 | .34682 | 303.12 | 5031.33 | 16.598 | 3.0013 | 97.9325 | .01836 |
| 28 | 865 | 9 | .33348 | 288.46 | 4742.87 | 16.442 | 2.8859 | 94.9312 | .01887 |
| 29 | 856 | 10 | .32065 | 274.48 | 4468.39 | 16.280 | 3.0832 | 92.0453 | .01941 |
| 30 | 846 | 10 | .30832 | 260.84 | 4207.55 | 16.131 | 2.9646 | 88.9621 | .01991 |
| 31 | 836 | 10 | .29646 | 247.84 | 3959.71 | 15.977 | 2.8506 | 85.9975 | .02044 |
| 32 | 826 | 10 | .28506 | 235.46 | 3724.25 | 15.817 | 2.7409 | 83.1469 | .02099 |
| 33 | 816 | 10 | .27409 | 223.66 | 3500.59 | 15.651 | 2.6355 | 80.4060 | .02159 |
| 34 | 806 | 10 | .26355 | 212.42 | 3288.17 | 15.479 | 2.5342 | 77.7705 | .0222 |
| 35 | 796 | 10 | .25342 | 201.72 | 3086.45 | 15.301 | 2.4367 | 75.2363 | .02288 |
| 36 | 786 | 10 | .24367 | 191.52 | 2894.93 | 15.115 | 2.3430 | 72.7996 | .02359 |
| 37 | 776 | 10 | .23430 | 181.81 | 2713.12 | 14.922 | 2.2529 | 70.4566 | .02434 |
| 38 | 766 | 10 | .22529 | 172.57 | 2540.55 | 14.722 | 2.1662 | 68.2037 | .02514 |
| 39 | 756 | 10 | .21662 | 163.77 | 2376.78 | 14.513 | 2.0829 | 66.0375 | .02599 |
| 40 | 746 | 10 | .20829 | 155.38 | 2221.40 | 14.296 | 2.0028 | 63.9546 | .02695 |
| 41 | 736 | 11 | .20028 | 147.41 | 2073.99 | 14.070 | 2.1184 | 61.9518 | .02789 |
| 42 | 725 | 11 | .19258 | 139.62 | 1934.37 | 13.855 | 2.0369 | 59.8334 | .02889 |
| 43 | 714 | 11 | .18517 | 132.21 | 1802.16 | 13.631 | 1.9586 | 57.7965 | .02988 |
| 44 | 703 | 11 | .17805 | 125.17 | 1676.99 | 13.382 | 1.8832 | 55.8379 | .03098 |
| 45 | 692 | 11 | .17120 | 118.47 | 1558.52 | 13.155 | 1.8107 | 53.9547 | .03217 |
| 46 | 681 | 12 | .16461 | 112.10 | 1446.42 | 12.902 | 1.8994 | 52.1440 | .03282 |
| 47 | 669 | 12 | .15828 | 105.89 | 1340.53 | 12.659 | 1.8264 | 50.2446 | .03474 |
| 48 | 657 | 12 | .15220 | 99.99 | 1240.54 | 12.406 | 1.7561 | 48.4182 | .03612 |
| 49 | 645 | 13 | .14634 | 94.39 | 1146.15 | 12.143 | 1.8292 | 46.6621 | .03761 |

D=N—C—M 表（2）

| x | $l_x$ | $d_x$ | $v^x$ (i=0.04) | $D_x$ | $N_x$ | $a_x$ | $C_x$ | $M_x$ | $\frac{M_x}{N_{x-1}}$ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 50 | 632 | 13 | .14071 | 88.93 | 1057.22 | 11.888 | 1.7589 | 44.8329 | .03912 |
| 51 | 619 | 13 | .13530 | 83.75 | 973.47 | 11.623 | 1.6913 | 43.0740 | .04074 |
| 52 | 606 | 14 | .13010 | 78.84 | 894.63 | 11.348 | 1.7513 | 41.3827 | .04251 |
| 53 | 592 | 14 | .12509 | 74.06 | 820.57 | 11.080 | 1.6839 | 39.6314 | .04429 |
| 54 | 578 | 14 | .12028 | 69.52 | 751.05 | 10.803 | 1.6192 | 37.9475 | .04625 |
| 55 | 564 | 15 | .11566 | 65.23 | 685.82 | 10.514 | 1.6682 | 36.3283 | .04837 |
| 56 | 549 | 15 | .11121 | 61.05 | 624.77 | 10.233 | 1.6040 | 34.6601 | .05054 |
| 57 | 534 | 15 | .10693 | 57.10 | 567.67 | 9.942 | 1.5123 | 33.0561 | .05291 |
| 58 | 519 | 16 | .10282 | 53.36 | 514.31 | 9.638 | 1.5818 | 31.5138 | .05551 |
| 59 | 503 | 16 | .09886 | 49.73 | 464.58 | 9.342 | 1.5210 | 29.9320 | .05820 |
| 60 | 487 | 16 | .09506 | 46.30 | 418.28 | 9.035 | 1.4624 | 28.4110 | .06115 |
| 61 | 471 | 17 | .09140 | 43.05 | 375.23 | 8.716 | 1.4941 | 26.9486 | .06443 |
| 62 | 454 | 17 | .08789 | 39.90 | 335.33 | 8.404 | 1.4366 | 25.4545 | .06784 |
| 63 | 437 | 18 | .08451 | 36.93 | 298.40 | 8.080 | 1.4630 | 24.0179 | .07163 |
| 64 | 419 | 18 | .08128 | 34.05 | 264.35 | 7.764 | 1.4063 | 22.5549 | .07559 |
| 65 | 401 | 19 | .07813 | 31.33 | 233.02 | 7.437 | 1.4275 | 21.1486 | .08002 |
| 66 | 382 | 20 | .07813 | 28.70 | 204.32 | 7.119 | 1.4448 | 19.7211 | .08463 |
| 67 | 362 | 21 | .07224 | 26.15 | 178.17 | 6.813 | 1.4587 | 18.2763 | .08945 |
| 68 | 341 | 22 | .06946 | 23.69 | 154.48 | 6.522 | 1.4694 | 16.8176 | .09439 |
| 69 | 319 | 23 | .06679 | 21.31 | 133.17 | 6.250 | 1.4771 | 15.3482 | .09935 |
| 70 | 296 | 23 | .06422 | 19.01 | 114.16 | 6.006 | 1.4200 | 13.8711 | .10416 |
| 71 | 273 | 23 | .06174 | 16.86 | 97.30 | 5.772 | 1.3655 | 12.4511 | .10907 |
| 72 | 250 | 22 | .05937 | 14.84 | 82.46 | 5.555 | 1.2560 | 11.0856 | |
| 73 | 228 | 21 | .05709 | 13.02 | 69.44 | 5.335 | 1.1529 | 9.8296 | |
| 74 | 207 | 20 | .05490 | 11.36 | 58.08 | 5.123 | 1.0582 | 8.6767 | |
| 75 | 187 | 19 | .05291 | 9.87 | 48.21 | 4.884 | .9648 | 7.6185 | |
| 76 | 168 | 18 | .05078 | 8.54 | 39.67 | 4.652 | .8784 | 6.6537 | |
| 77 | 150 | 17 | .04880 | 7.32 | 32.35 | 4.419 | .7976 | 5.7753 | |
| 78 | 133 | 16 | .04692 | 6.24 | 26.11 | 4.184 | .7219 | 4.9777 | |
| 79 | 117 | 15 | .04512 | 5.28 | 20.83 | 3.946 | .6507 | 4.2558 | |
| 80 | 102 | 14 | .04338 | 4.43 | 16.40 | 3.715 | .5841 | 3.6051 | |
| 81 | 88 | 13 | .04172 | 3.67 | 12.73 | | .5243 | 3.0210 | |
| 82 | 75 | 12 | .04011 | 3.01 | 9.72 | | .4628 | 2.4967 | |
| 83 | 63 | 11 | .03857 | 2.43 | 7.29 | | .4080 | 2.0339 | |
| 84 | 52 | 10 | .03709 | 1.93 | 5.36 | | .3566 | 1.6259 | |
| 85 | 42 | 9 | .03566 | 1.50 | 3.86 | | .3086 | 1.2693 | |
| 86 | 33 | 8 | .03429 | 1.13 | 2.73 | | .2638 | .9607 | |
| 87 | 25 | 6 | .03297 | 0.82 | 1.91 | | .1902 | .6969 | |
| 88 | 19 | 5 | .03170 | 0.60 | 1.31 | | .1524 | .5067 | |
| 89 | 14 | 4 | .03048 | 0.43 | 0.88 | | .1172 | .3543 | |





したる $D_x$, $N_x$, $a_x$, $C_x$, $M_x$, 及び、毎常終身保険掛金 $M_x+N_{x-1}$ の表を掲け此章を終結す。

## 純保険掛金ト保険會社掛金ノ別

前章の保険掛金は、單に死亡生殘に基つき、一定の利息の歩合を見積りて算出せしものにして、之を純保険掛金と稱す。

數限ある被保人の生命は必しも死亡生殘表に示す如く消長せず、利息の歩合も又時に昂低浮沈を免れさるべし。故に此死亡生殘表上の生命と被保人の生命との間に差異を生し、又は利息歩合の時々昂低するより起る危険を豫防せんか爲め、純保険掛金に若干の割掛をする、之を安全割り掛と稱す。

死亡生殘表上の生命と、被保人の生命との間に多少の差異あることは、到底免るゝこと能はされと、被保人の數四五千以上なるとき、死亡生殘表上の生命と、被保人の生命との間に大ひなる差異を顯はすことは其の罕にあることなれば、此源因より起る危険は極めて僅少なれり。之に反し、利息歩合には追々非常の昂低を生することあり。現に我國にても、明治十四五年頃迄は金を一割に運轉することは左程六ヅかしきことにてはなかりしに、僅に七八年の星霜を經たる今日に、五朱利附きの整理公債證書が券面高以上の市價を有する、以て利息歩合浮沈の常なきを證するに足るべし。

我國にて、利息の歩合は整理公債の發行に遇ふて頓に下落せし如くなれと、余が考ふるに、此利息歩合の下落せしことは、全く先年來百般の制度緒に就き、世間信用の漸く增加せしに歸因するものにして、勿論整理公債の發行は大ひに利息歩合の下落を急にせしには相違なけれと、全體利息歩合の早晩下落すること自然の勢にてありしならん。

我國にて利息歩合の下落する、宛も水の低きに就くが如く、整理公債の發行は、此水を堰き止めありし水門を開きたるが如き形跡ありしものとするとき、利息の歩合は最早落ち付きたるものならん。況んや、左程資本に饒かならさる我國にて、此先き尙ほ利息歩合の大ひに下落することはなかるべし。

最初に純保険掛金を計算し、然る後に安全割り掛けをするも、純保険掛金を算出するに當り、利息の歩合を世間普通のものより低きものを採るも、其利息歩合の浮沈より生する危険に備ふる効能は實際同一なること理の其睹易きものなり。

我國にて、利息の歩合を年四分以上と見積るも不都合なるべきに、余は假りに利息の歩合を年四分として計算を施したるを以て、前章に揭げたる純保険料は既に安全割り掛を含藏するものにして、余は特更に安全割り掛けをするの必用を見さるなり。

然れとも此の安全割り掛けを外にして、尙ほ純保険掛金に幾許かの增額をせさるべからす。何となれば、保険會社の營業費並に保険會社資本金利子の一部分は、被保人の正に負擔すべきものなれど、實際は被保人より別に金員を徵收せす。保険掛金の一部分を以て此等の失費に充つるを以て、保険會社の保険掛金は、純保険掛金に此等の失費に充てんが爲め、被保人より徵收すべき金額を合せたるものにして、則此保険掛金に純保険掛金と保険會社保険掛金の別ある所以なり。

又保険會社保険掛金と純保険掛金との差は、被保人より手數料として會社に拂ひ込む金額と看做すことを得べし。

純保険掛金に增加すべき金額を定むること、辭を換へて言ふときは、被保人全體にて負擔すべき出金を、年齡に老若の差ある被保人中に分配する方法に關しては、世に確乎たる定設なし。

一設に最も適當なる分配法は、各年齡の純保険掛金に、一定の割り掛け、例へは一割或は二割を增すにありと。然かするときは、實際被保人全體にて負擔すべき金を被保人中に種々年齡の差異あるに係はらす、頭割りに分配することになるなり。

生命保険學者中には此分配法を非難する人あり。其說に曰く、被保人中には壯年のものあり、老年のものあり。老年のものは、會社に手數を掛くることと壯年の者より寡なけれは、同額の手數料を拂ふへき理由なし。故に各年齡の純保険掛金に、年齡に關せさる一定の金額を附加すべしと。辭を換へて言ふときは、分配高は保険掛金に比例せずして保険金額に比例すべきものなりと。

此二說共に一理なきにあらねとも、余輩の考ふるところにして幸に誤りなからしめは二說を折衷し、增加金額の一部分は純保険掛金に割り掛け、一部分は一定の附加にするこそ。蓋し最も公平なる被保人負擔金額の分配法ならん。

## 本邦純保險掛金表

（保險金百圓に付）

| 年齢 | 尋常終身 | 有限掛金終身保險 五年拂済 | 有限掛金終身保險 十年拂済 | 有限掛金終身保險 廿年拂済 | 定期保險 一年 | 定期保險 三年 | 定期保險 七年 | 養老保險 十年満期 | 養老保險 廿年満期 | 養老保險 卅年満期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二一 | 一、五七 | 六、三三 | 三、五六 | 二、二三 | 、八三 | 、八四 | 、九一 | …… | …… | …… |
| 二二 | 一、六一 | 六、四八 | 三、六四 | 二、二七 | 、八四 | 、八八 | 、九四 | …… | …… | …… |
| 二三 | 一、六五 | 六、六一 | 三、七一 | 二、三三 | 、八五 | 、九二 | 、九七 | …… | …… | …… |
| 二四 | 一、七〇 | 六、七五 | 三、八〇 | 二、三七 | 、九六 | 、九七 | 一、〇二 | …… | …… | …… |
| 二五 | 一、七四 | 六、八七 | 三、八六 | 二、四二 | 、九七 | 、九八 | 一、〇四 | …… | …… | …… |
| 二六 | 一、七九 | 六、九二 | 三、九三 | 二、四七 | 、九八 | 、九九 | 一、〇七 | …… | …… | 二、五七 |
| 二七 | 一、八四 | 七、一二 | 四、〇一 | 二、五二 | 、九九 | 一、〇四 | 一、一〇 | …… | …… | 二、五九 |
| 二八 | 一、八九 | 七、二六 | 四、一〇 | 二、五七 | 一、一〇 | 一、〇八 | 一、一三 | …… | …… | 二、六二 |
| 二九 | 一、九四 | 七、四一 | 四、一八 | 二、六三 | 一、一二 | 一、一三 | 一、一六 | …… | …… | 二、六四 |
| 三〇 | 一、九九 | 七、五六 | 四、二五 | 二、六八 | 一、一四 | 一、一五 | 一、一八 | …… | …… | 二、六七 |
| 三一 | 二、〇四 | 七、六七 | 四、三三 | 二、七三 | 一、一五 | 一、一六 | 一、一九 | …… | 四、〇二 | 二、七〇 |
| 三二 | 二、一〇 | 七、八一 | 四、四一 | 二、七八 | 一、一七 | 一、一八 | 一、二一 | …… | 四、〇四 | 二、七二 |
| 三三 | 二、一六 | 七、九五 | 四、四九 | 二、八四 | 一、一八 | 一、一九 | 一、二三 | …… | 四、〇六 | 二、七五 |
| 三四 | 二、二二 | 八、一〇 | 四、五八 | 二、九〇 | 一、一九 | 一、二一 | 一、二四 | …… | 四、〇八 | 二、七九 |
| 三五 | 二、二八 | 八、二五 | 四、六七 | 二、九七 | 一、二一 | 一、二三 | 一、二七 | …… | 四、一〇 | 二、八三 |
| 三六 | 二、三六 | 八、四二 | 四、七六 | 三、〇三 | 一、二二 | 一、二五 | 一、三〇 | …… | 四、一三 | 二、八七 |
| 三七 | 二、四三 | 八、五八 | 四、八六 | 三、一〇 | 一、二三 | 一、二六 | 一、三四 | …… | 四、一六 | 二、九一 |
| 三八 | 二、五一 | 八、七六 | 四、九七 | 三、一八 | 一、二五 | 一、二七 | 一、三七 | …… | 四、二〇 | 二、九六 |
| 三九 | 二、六〇 | 八、九四 | 五、〇八 | 三、二一 | 一、二七 | 一、三三 | 一、四二 | …… | 四、二四 | 三、〇二 |
| 四〇 | 二、七〇 | 九、一八 | 五、二〇 | 三、三四 | 一、二九 | 一、三九 | 一、四七 | …… | 四、二八 | 三、〇八 |
| 四一 | 二、七九 | 九、三五 | 五、三二 | 三、四四 | 一、四三 | 一、四六 | 一、五四 | 八、八二 | 四、三三 | …… |
| 四二 | 二、八九 | 九、五三 | 五、四四 | 三、五二 | 一、四六 | 一、四八 | 一、五八 | 八、八四 | 四、三七 | …… |
| 四三 | 二、九九 | 九、七三 | 五、五六 | 三、六一 | 一、四八 | 一、五〇 | 一、六四 | 八、八七 | 四、四二 | …… |
| 四四 | 三、一〇 | 九、九四 | 五、六九 | 三、七一 | 一、五〇 | 一、五七 | 一、七一 | 八、九〇 | 四、四八 | …… |
| 四五 | 三、二三 | 一〇、一六 | 五、八三 | 三、八二 | 一、五三 | 一、六五 | 一、七九 | 八、九五 | 四、五四 | …… |
| 四六 | 三、三八 | 一〇、四〇 | 五、九八 | 三、九三 | 一、六九 | 一、七二 | 一、八八 | 九、〇〇 | 四、六一 | …… |
| 四七 | 三、四七 | 一〇、六二 | 六、一二 | 四、〇五 | 一、七二 | 一、八〇 | 一、九六 | 九、〇四 | 四、六八 | …… |
| 四八 | 三、六一 | 一〇、八六 | 六、二六 | 四、一七 | 一、七五 | 一、八三 | 二、〇五 | 九、〇九 | 四、七六 | …… |
| 四九 | 三、七六 | 一一、一一 | 六、四三 | 四、二九 | 一、九四 | 一、九一 | 二、一六 | 九、一五 | 四、八四 | …… |
| 五〇 | 三、九一 | 一一、三五 | 六、五八 | 四、四四 | 一、九八 | 二、〇七 | 二、二六 | 九、二〇 | 四、九五 | …… |
| 五一 | 四、〇七 | 一一、六〇 | 六、七四 | 四、五七 | 二、〇三 | 二、一七 | 二、三六 | 九、二六 | …… | …… |
| 五二 | 四、二五 | 一一、八七 | 六、九二 | 四、七二 | 二、二三 | 二、二七 | 二、四九 | 九、三三 | …… | …… |
| 五三 | 四、四三 | 一二、一二 | 七、〇九 | 四、八八 | 二、三七 | 二、三八 | 二、六一 | 九、三九 | …… | …… |
| 五四 | 四、六三 | 一二、三九 | 七、二六 | 五、〇五 | 二、四一 | 二、五〇 | 二、七三 | 九、四七 | …… | …… |
| 五五 | 四、八[illegible] | 一二、六八 | 七、四六 | 五、二四 | 二、五六 | 二、六三 | 二、八九 | 九、五六 | …… | …… |
| 五六 | 五、〇五 | 一二、九六 | 七、六五 | 五、四四 | 二、六二 | 二、七六 | 三、〇四 | 九、六四 | …… | …… |
| 五七 | 五、二九 | 一三、二五 | 七、八六 | 五、六五 | 二、七〇 | 二、九〇 | 三、二三 | 九、七三 | …… | …… |
| 五八 | 五、五五 | 一三、五六 | 八、〇九 | 五、八九 | 二、九六 | 三、〇六 | 三、四二 | 九、八七 | …… | …… |
| 五九 | 五、八二 | 一三、八六 | 八、三二 | 六、一三 | 三、〇六 | 三、二三 | 三、六三 | 一〇、〇三 | …… | …… |
| 六〇 | 六、一二 | 一四、一九 | 八、五七 | 六、五五 | 三、一六 | 三、四〇 | 三、八九 | 一〇、一二 | …… | …… |



純保險掛金は保險會社保險掛金を算出せんか爲めに勘定するものにして、實際に入用なるは保險會社掛金なれと、純保險掛金は又最低保險掛金、即これより以下の掛金にては會社は到底立ち行かず、早晩倒産せさるへからずと云ふ限界掛金と看做すことを得れは、純保險掛金表も又多少參考の爲め裨益するところなきにしもあらさるへし。

數多の保險會社か被保人の多きを爭ふの極、競ふて保險掛金を低減し、被保人も又會社の安危を顧みす、惟只掛金の低くきものを選び會社の閉店に遇ふて始めて安物買の錢失ひたりしことを後悔することは、必しも其無きを保すへからす。故に今本邦に於ける最低保險掛金と看做すことを得る純保險掛金の表を掲けて、新に保險會社に入らんとする人の爲めに其保險會社の保險掛金は安直過きはせさるかを判斷するの材料に供す。

### 本邦生命保險掛金

本邦の如き生命保險事業の未幼稚なる國に於ては、保險掛金は寧ろ高きに過くるも、低きに失せざる樣に定め置き、其後實際餘剰を見たるときに、之を被保人に割り戻すを萬全の策とす。

余は前章の終りに掲けたる本邦純生命保險掛金の表に基つき、各年齢の純保險掛金に其一割を割掛けし、尙保險金額の千分の二を附加し、以て余か充分安全にして且衡平なりと信するところの本邦生命保險掛金表を調製せり。

余は讀者中前に掲くる生命保險掛金表を、對照比較せらるゝ人に向つて特に注意を請ふことあり。則前に掲くる掛金表は、所謂利益分配附なれは、他の利益分配附掛金表と比較することを得れと、尋常の掛金表と比較することを得さること是なり。

### 生命保險會社

生命保險會社に公私立の別あり。會社內の經濟上、私立の公立に優るところあるは、特り生命保險會社に限らす、總て營業上の實驗に照して明かなりと雖とも、私立に係るものは、數多の生命保險會社か、互ひに相競爭するに際し、動もすれは、體格檢査を粗漏にし、或ひは掛金を無理格外に引き下け、遂に自ら倒るゝ等の恐れあり。故に二者、各一長一短あり。況んや、實際種々情實場合の斟酌すへきものあれば、未だ遽に其の優劣を斷定すへからさるなり。然れとも今若し本邦に於て生命保險會社を設立する、之を公立にすへきか、將た之を私立にすへきかと云ふことに付き、余か一身一個の意見を述ふれは、中等社會の爲めに設けたる、即保險金額の制限よりして言ふときは、大凡五百圓以上五千圓以下の保險を取扱ふ生命保險會社は之を私立にし、貧民の生命保險は之を公立會社、若しくは中央政府に委任するを可とす、貧民の生命保險に付きて尙結論に於て詳論すへし。

生命保險會社は、其組織に依りて、之を分つときは、左の三種と爲すを得へし。曰く、

共濟生命保險會社　　株式生命保險會社（一名營業的生命保險會社）

混合生命保險會社

共濟生命保險會社、數多の人結社して以て死亡より生する損害を分擔し、即各會員一人にて同時に被保人たり、保險者たるものなり。故に死亡意外に寡き年は、掛金餘りて割戻をなすことあり、又不幸にして死亡意外に多く、通常の掛金のみにて保險金を支拂ふこと能はさるときは、掛金の追拂ひを爲すものなり。

株式生命保險會社とは、其組織より言ふときは、尋常の有限責任營業會社にして、株金を募集し會社を創立し、生命保險を以て其營業とするものにして利益あれは株主に分配し、損失あれは株金の中より償ふ組織なれと、實際損失をせんか爲めに會社の株主となる人なきこと勿論なれは、全く多少の利益を見んか爲めの計畫なり。故に射利的生命保險會社の稱あり。全體、生命保險は共濟的の事業なるに、此共濟的の事業を施行する、其間に於て利を得んとするは生命保險の本色に背くものなれは、西洋にても生命保險の道理未た世に明かならさる時代には此種の生命保險會社ありしが、今は殆んど世に其跡を絕ちたり。

混合生命保險會社は、前の二種を混合したるものにして、萬一の危險を避くる爲め掛金を少しく高くし、株主に對しては相當の利益配當を爲し、尙殘る利益を被保人に割り戻すものにして、我國の如き、生命保險事業の未た幼

## 本邦生命保險掛金表 （保險金百圓に付）

| 年齡 | 尋常終身 | 有限掛金終身保險 五年拂濟 | 有限掛金終身保險 十年拂濟 | 有限掛金終身保險 廿年拂濟 | 定期保險 一年 | 定期保險 三年 | 定期保險 七年 | 養老保險 十年滿期 | 養老保險 廿年滿期 | 養老保險 卅年滿期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二一 | 一、九三 | 七、一六 | 四、一三 | 二、六四 | 一、一一 | 一、一二 | 一、一二 | … | … | … |
| 二二 | 一、九七 | 七、三三 | 四、二〇 | 二、七〇 | 一、一二 | 一、一七 | 一、一七 | … | … | … |
| 二三 | 二、〇二 | 七、四七 | 四、二八 | 二、七五 | 一、一四 | 一、二一 | 一、二一 | … | … | … |
| 二四 | 二、〇七 | 七、六三 | 四、三八 | 二、八一 | 一、二〇 | 一、二七 | 一、二七 | … | … | … |
| 二五 | 二、一一 | 七、七六 | 四、四五 | 二、八六 | 一、二七 | 一、二八 | 一、二八 | … | … | … |
| 二六 | 二、一七 | 七、八一 | 四、五二 | 二、九二 | 一、二八 | 一、三〇 | 一、三〇 | … | … | 三、〇三 |
| 二七 | 二、二三 | 八、〇三 | 四、六一 | 二、九七 | 一、二九 | 一、三四 | 一、三四 | … | … | 三、〇五 |
| 二八 | 二、二八 | 八、一九 | 四、七一 | 三、〇三 | 一、三一 | 一、三九 | 一、三九 | … | … | 三、〇八 |
| 二九 | 二、三三 | 八、三五 | 四、八〇 | 三、〇九 | 一、四二 | 一、四四 | 一、四四 | … | … | 三、一一 |
| 三〇 | 二、三九 | 八、五二 | 四、八九 | 三、一五 | 一、四五 | 一、四七 | 一、四七 | … | … | 三、一四 |
| 三一 | 二、四四 | 八、六四 | △三、二〇 | 三、二〇 | 一、四七 | 一、四八 | 一、五一 | … | 四、六二 | 三、一七 |
| 三二 | 二、五一 | 八、七九 | 三、二六 | 三、二六 | 一、四九 | 一、五〇 | 一、五三 | … | 四、六四 | 三、二〇 |
| 三三 | 二、五八 | 八、九五 | 三、三二 | 三、三二 | 一、五〇 | 一、五一 | 一、五四 | … | 四、六七 | 三、二三 |
| 三四 | 二、六四 | 九、一一 | 三、三九 | 三、三九 | 一、五一 | 一、五二 | 一、五六 | … | 四、六九 | 三、二七 |
| 三五 | 二、七一 | 九、二八 | 三、四七 | 三、四七 | 一、五三 | 一、五四 | 一、六〇 | … | 四、七一 | 三、三一 |
| 三六 | 二、八〇 | 九、四六 | 三、五三 | 三、五三 | 一、五四 | 一、五七 | 一、六三 | … | 四、七四 | 三、三六 |
| 三七 | 二、八七 | 九、六四 | 三、六一 | 三、六一 | 一、五六 | 一、五九 | 一、六七 | … | 四、七八 | 三、四〇 |
| 三八 | 二、九六 | 九、八四 | 三、六九 | 三、六九 | 一、五八 | 一、六〇 | 一、七三 | … | 四、八二 | 三、四六 |
| 三九 | 三、〇六 | 一〇、〇三 | 三、七三 | 三、七三 | 一、六〇 | 一、六六 | 一、七六 | … | 四、八六 | 三、五二 |
| 四〇 | 三、一七 | 一〇、三〇 | 三、八七 | 三、八七 | 一、六三 | 一、七三 | 一、八二 | … | 四、九一 | 三、五九 |
| 四一 | 三、二七 | 一〇、五一 | 六、〇五 | 三、九八 | 一、七七 | 一、八一 | 一、八九 | 九、九〇 | 四、九五 | … |
| 四二 | 三、三八 | 一〇、六八 | 六、一八 | 四、〇七 | 一、八一 | 一、八三 | 一、九四 | 九、九二 | 五、〇一 | … |
| 四三 | 三、四九 | 一〇、九〇 | 六、三二 | 四、一七 | 一、八三 | 一、八五 | 二、〇〇 | 九、九六 | 五、〇六 | … |
| 四四 | 三、六一 | 一一、一三 | 六、四六 | 四、二八 | 一、八五 | 一、九二 | 二、〇八 | 九、九九 | 五、一二 | … |
| 四五 | 三、七四 | 一一、三八 | 六、六一 | 四、四〇 | 一、八九 | 二、〇二 | 二、一七 | 一〇、〇六 | 五、一九 | … |
| 四六 | 三、八一 | 一一、六四 | 六、七八 | 四、五二 | 二、〇五 | 二、〇九 | 二、二七 | 一〇、一〇 | 五、二七 | … |
| 四七 | 四、〇二 | 一一、八八 | 六、九三 | 四、六六 | 二、〇九 | 二、一八 | 二、三六 | 一〇、一四 | 五、三五 | … |
| 四八 | 四、一七 | 一二、一五 | 七、〇九 | ×五、七九 | 二、一四 | 二、二一 | 二、四六 | 一〇、二〇 | 五、四四 | … |
| 四九 | 四、三四 | 一二、四二 | 七、二七 | 四、九二 | 二、三三 | 二、三〇 | 二、五八 | 一〇、二六 | 五、五三 | … |
| 五〇 | 四、五〇 | 一二、六九 | 七、四四 | ×四、〇八 | 二、三九 | 二、四八 | 二、六九 | 一〇、三二 | 五、六三 | … |
| 五一 | 四、六八 | 一二、九六 | 七、六一 | 五、二三 | 二、四二 | 二、五九 | 二、八〇 | 一〇、三九 | … | … |
| 五二 | 四、八八 | 一三、二六 | 七、八一 | 五、三九 | 二、六四 | 二、七〇 | 二、九四 | 一〇、四六 | … | … |
| 五三 | 五、〇七 | 一三、五三 | 八、〇〇 | 五、五七 | 二、七〇 | 二、八二 | 三、〇七 | 一〇、五三 | … | … |
| 五四 | 五、二九 | 一三、八三 | 八、一九 | 五、七六 | 二、八五 | 二、九五 | 三、二〇 | 一〇、六二 | … | … |
| 五五 | 五、五二 | 一四、一五 | 八、四一 | 五、九六 | 三、〇二 | 三、〇九 | 三、三八 | 一〇、七二 | … | … |
| 五六 | 五、七六 | 一四、四六 | 八、六二 | 六、一八 | 三、〇八 | 三、二四 | 三、五四 | 一〇、八〇 | … | … |
| 五七 | 六、〇二 | 一四、七八 | 八、八五 | 六、四二 | 三、一七 | 三、三九 | 三、七四 | 一〇、九〇 | … | … |
| 五八 | 六、三一 | 一五、一二 | 九、一〇 | 六、六八 | 三、四一 | 三、五七 | 三、九六 | 一一、〇六 | … | … |
| 五九 | 六、六一 | 一五、四五 | 九、三五 | 六、九四 | 三、五七 | 三、七四 | 四、一九 | 一一、二三 | … | … |
| 六〇 | 六、九三 | 一五、八一 | 九、六三 | 七、四一 | 三、六八 | 三、九四 | 四、四八 | 一一、三二 | … | … |

【編者註】△印以下十行及×印は誤植と思ふが原本のまゝにしておく。



稚なる國柄には最も適當なる組織なり。

　生命保險會社を設立するには、世人の信用を繫ぐに足る丈けの資本金を備へ、頭取、取締、檢査掛、支配人等、何れの會社にても必要なる役員の外に尚生命保險會社に限りて缺くべからさる診査醫員、計算顧問（Actuary）を撰任し、掛金表を調表し、會社に於て請合ふところの保險の種類、保險金額の制限（例へは百圓より少なからす、五千圓より多からすと云ふが如し）保險契約、掛金申込の手續保險拂込書式等に關する規則を定むるを要す。

### 體格檢査

　生命保險會社が診査醫をして被保人の體格を檢査せしめ、被保人の身體不健康、若くは虛弱なりと認むれは、其入社を拒絕することに付きては、世に忘想を抱懷するものなしとせす。曰く生命保險は長生の幸福を得るもの、相共に些少の金を捐て、短命の不幸に遭ふ者を助くるの共濟法なり。然るに身體虛弱なれはとて、入會を拒絕するか如きは、共濟の主義に戾ることなきかと。此言の誤れること亦說明を要せさるべしと雖も、抑斯くの如き誤解を生するものは全く生命保險の原理に暗きか故なり。則生命保險なるものは死ぬると云ふ出來事に付きては、同一の「確カラシサ」を有する人々の間に行ふべき共濟法にして、勿論既に保險會社に入りたる後にては實際長生の者些少の金を捐て、短命の不幸に遭ふものを助くる理屈になれど、今此慈惠を緣もなき新に入社せんとする、病身虛弱の者に推し及ほすべき理なし。故に今若し生命保險會社にて最初は體格檢査を嚴密にして、後に至りて之を粗漏にするが如きことあるときは、結局會社の損にならすして、最初に入社したる被保人の損失となるものなり。勿論生命保險會社にて、年齡上異なりたる人の生命を保險すれど、此場合に於て、掛金は各年齡に於ける死ぬることの「確カラシサ」に比例するを以て、結局死ぬるといふ出來事に付きては、同一の「確カラシサ」を有する人々の間に行ふ共濟法と看做すことを得るなり。故に今身體の强弱に付きても、豫しめ數を以て强弱の度を表はし、この數に比例して掛金を定むるときは、虛弱の人も亦生命保險の恩澤に沐浴することを得べく、實際、生命保險會社にて、身體不健康、若くは虛弱なりと鑑定したる人にても、其望みに依り幾分か掛金を增して保險の契約を結ふことあれど、今一般に此法を施行するときは、生命保險會社の事務上大ひに混雜を生じ、加之ならず、虛弱の人は非常に高き掛金を拂はさるべからざれは、實際入社することなかるべし。結局害ありて利なきことなれは、寧ろ體格檢査を嚴密にして虛弱の人を拒絕するの優れるに若かす。

　生命保險會社にて、新に入社せんとする者を體格檢査に依りて撰拔したる影響は、此人々が入社したる日より幾數年の後に迄及ふや。辭を換へて言ふときは、體格檢査に依りて撰拔したる生命の死亡と、一般普通平均の死亡と撰拔の當坐に差異あるは勿論のことあれど、此差異は常に之を見ることを得べきか、或は若干の年數を經て消滅するものなるや、此問題に關し、統計事實に基つきたる論說は余か知るところにては、既に本邦死亡表と題する章に於て述へたる如く、唯一の蘇格蘭の生命保險學者スプレーグ氏の著述に係るものあるのみ。氏の說に據れば、生命保險會社撰拔の期より五年を經て全く消え失せ、其後は被保人の死亡と一般普通平均の死亡と異なるところなしと云ふ。

### 生命保險會社資本金

　生命保險會社には素と資本金を要せす、會社をして確實なるものならしめは、寧之なきを善とす。又是れ生命保險會社の他の尋常一般の會社と、大ひに其趣きを異にする所なり。現に歐米諸國には、全く資本金を備へさる生命保險會社なきにあらねど、通例は生命保險會社にて、世間の信用を繫き併せて、保險金の支拂高甚だ多く、掛金のみにて不足なる場合に、一時流用に供せんが爲め些少の資本金を備ふるものなり。

　故に生命保險會社の資本金は、會社の營業上に使用する尋常一般の會社の資本金とは全く其性質を異にし、純粹の準備金なれば、生命保險會社にては、資本金に關する經濟と會社の會計とは之を別にし、又資本金より生する利子は勿論總て株主に分配すべきものとす。

　生命保險會社株主は、此資本金より生する利益配當のみにて滿足せす、更に幾割の割增配當、例へは資本金より生する利益を年百分の五とするときは、年百分の七若くは百分の八に當る利益配當を會社に請求する權利あるも

のとす。其の故を如何といふに、生命保險會社の資本金は、通例公債證書に引き替て貯へ置くものなれば、資本金より生する利益なるものは、公債證書の利子に外ならず。故に今若し株主にして、單に資本金より生する利益のみにて滿足するものならしめば、自ら公債證書を購求して可なり。必しも株金を出して、生命保險會社の資本金に充つる必要なかるへく、實際會社の株主となりたるが爲めに萬一の危險を冒すものなれば、株主は資本金より生する利益の外に、此萬一の危險に對し相當の配當を要求すること理の當然にして、會社も亦此要求に應すべきものとす。然れども生命保險會社は他の營業的會社と異なりて、冐すところの危險は甚だ少なるものなれ、會社か株主に對し、資本金より生する利益の外に拂ふところの配當も亦、僅少なるべきこと理の甚だ易きものなり。

生命保險會社が掛金收入中より株主に對し、資本金より生する利益の外に拂ふところのものは、其の實被保人より拂ふものにして、被保人も亦此失費を負擔すべき義務あるものとす。故に今被保人の爲めに謀るに、生命保險會社の資本金は其成るべく小額なるを可とす。又生命保險會社が、萬一株金に對し株外に大ひなる利益配當を爲すことあるとき、是株主に私し、被保人に不正當の損失を被らしむるものにして、其結果は遂に會社の破產を招くに至るべし。故に一國の政府か生命保險會社條例を設くることあらんに、其の中には會社が株金に對して配當する利益の割合に制限を立つる、例へは會社か株金に對して支拂ふ總計利益配當は資本金より生する利益配當の二倍を超過すべからさると云ふ如き箇條あるを必要なりとす。

西洋のことなるか、我國のことなるか、風の便りに余輩の耳竪に入りたる話にして、不幸にも誤りなからしめは先頃成る生命保險會社役員の一人は、會社にて積立金を脫し、毎年の掛金收入より、其年の營業費・保險金拂渡高を引き去り、殘額は悉皆株主に分配することを主張したりと、勿論此議は會社の役員全體にて否決されしと聞けと、亦以て生命保險會社か株主に拂ふ總計利益配當高に制限を設くるの必要を證するに足るべし。

通例、生命保險會社の規則書には、會社は若干の資本金を備へ、保險金拂渡しの意外に巨額に登り、掛金のみにに不足を生する萬一の場合を慮り、不



リト雖モ、爾後ハ漸次之ヲ節約シ、竟ニ保險掛金收入ノ百分ノ二ニ迄減少セシムベシ。

と。余が考ふるに、此設たる會社の爲めに稍苛刻なるが如し。勿論能動生命保險會社の如き、其營業費は僅に掛金收入の百分の三に過きされど、此は寧ろ例外に少きものと看做して可なり。

余か外國生命保險會社中、其繼續年間の永きより推して以て、最安全確實なるものと鑑定したるもの、經歷に徵して、考按を立てたるところにては、會社創立の初年にありては、保險掛金を盡く營業入費に使用するも差支なしと雖も、營業費の掛金收入に對する割合は、創立より三年の後は二割以下、七年後は一割五分以下、十年後は一割以下に減少することを得べし。

御營業費は會社創立の新故に依り、自ら多少の不同ありと雖も、營業費にして前に述へたる掛金收入に對する正當の割合を超過するときは、會社は太た危險なる地位に立つものあり。勿論或者の設の如く、單に營業費の掛金收入に對する割合のみを以て保險會社の安危を卜すべからずと雖も、亦此の掛金收入と營業との割合は生命保險會社の安危を鑑定するに必要なる材料中第一位に居るものなり。

## 生命保險會社責任金高計算法

生命保險會社にては、萬一の危險を避くる爲め、通例被保人より實際に必要なるものより稍高きに過くる掛金を徵收するを以て、時々會社の責任資產金高を精算し、餘剩あるときは、之を被保人に拂ひ戻すは至當のことにして、亦生命保險の本色なり。此被保人よりして、最初は實際に必要なるものより稍高きに過くる掛金を拂ひ込ませ、後に殘餘を割り戻す方法は會社の安危に傷つくるところなくして、被保人も又餘計の損失をせざる一擧兩全の方法なり。勿論生命保險會社は其組織の種類によりて、例へは射利的生命保險會社の如きは、被保人に對して掛金の割り戻しを爲さすと雖も、兎に角に時々に會社の責任資產金高を精算し、其決算報告を世に公にし、以て其會社の生命保險會社に最も大切なる、確實なりと云ふ點に於て缺くる所なきを示すこと肝要なり。

余は特に我國に於て生命保險事業の未た幼稚なるに際し、生命保險會社か明細なる決算報告を爲し、亦爲さゝるべからざる習慣を養生すること實に切望に堪へす。其故は若し余輩の冀望をして空しからしめず、此習慣にして世間に根據を占むるを得は、確實なる保險會社は言語文章を以て修飾せす、竊正の文字を以て自ら戒め、責任金高、資產金高、營業費等の額數を顯はに記載して、卷末も隱藏するところなく、世人は此決算報告を吟味し、以て會社の果して確實なりと云ふ點に於て缺くるところなきや否を鑑定することを得べし。蓋タ內幕に於て曖昧のところある會社は、充分の決算報告を爲す能はす、從つて世の信用を損し、自然其跡を絕てば、我國の政府は諸外國政府の如く生命保險事業に干涉するの必要を見さるべし。則是吾人か自衛り自護るの方法にあらすして何そや。

生命保險會社に於て時々責任資產金高を精算するの必要なること既に述ふる如しと雖とも、生命保險會社一年、二年の經歷には、傳染病の流行、利息歩合の昂低等より起る浮沈あれは、餘り短き定期例へは每年會社の損益を精算することは勿論必要なれど、利益あればとて、實際被保人に割戻しをするは必しも策の得たるものにあらさるべし。余か考ふるに、精算は每年之を施行し、被保人に掛金の拂過を每四年或は每五年に分配するこそ得策ならん。

生命保險會社資產の重もなるものは積立金にして、積立金は通例公債證書・株式等に引き換へ貯蓄するものなれは、其現價計算法は甚容易にして、既に、利息算、特に年金並に公債證書實價計算法の章に於て詳設する如しと雖も、責任金高の重もなるもの、卽保險契約の現價を算出することは、生命保險に關する諸種の計算中最面當なるものにして、今生命保險の各種類に付き、保險契約の現價計算法を詳設するは、到底一小册子の能するところにあらされは、余は一二の例を以て、生命保險會社責任金高計算法の梗概を示すに止むべし。

生命保險契約の契約を結びたる期より若干年を經たる後の現價とは、被保人が生命保險會社に入りたるより現時に至る迄に、每年拂ひ込みたる掛金に對し、今會社被保人雙方の都合に依り保險を解かんが爲めに理想上會社か被保人に拂ふへき金高なり。而して此金高の被保人か實際會社に拂ひ込みたる

掛金合計より少なき理屈は次の例に於て明かなり。

爰に年齢三十にして、保險金額百圓の尋常終身保險を契約したる人ありとせんに、前に揭げたる掛金表に據れば、此人は自身の死去する年迄、毎年貳圓三拾三錢の掛金を會社に拂込まさるべからず。然るに此人にして尋常終身保險を契約する代りに、一箇年間の同保險額定期生命保險を爲し、斯くの如たる後尙生存すれば更に一箇年間の同保險額定期生命保險を爲し、斯くの如く其死する年迄、年々同保險額の一箇年定期保險をするものとするときは、其死後に至り百圓の保險金を得ることに於ては、尋常終身保險を契約したると異なるところなし。唯此場合に於ては、尋常終身保險の場合の如く、掛金は一定したるものにはなく、最初は割合に些少なれど、年々に增加するものなり。其詳細は次に記するが如し。

| 年齢三十、保險金額百圓に付き尋常終身保險掛金 | 年間定期保險掛金 | 差 |
|---|---|---|
| 三　十 | 二圓三十三錢 | 一圓四十五錢 | 八十八錢（過） |
| 三十一 | 二圓三十三錢 | 一圓四十七錢 | 八十六錢（過） |
| 三十二 | 二圓三十三錢 | 一圓四十九錢 | 八十四錢（過） |
| ……… | ……… | ……… | ……… |
| 四十八 | 二圓三十三錢 | 二圓十四錢 | 十九錢（過） |
| 四十九 | 二圓三十三錢 | 二圓三十三錢 | 〇〇〇 |
| 五　十 | 二圓三十三錢 | 二圓三十九錢 | 六　錢（不足） |
| ……… | ……… | ……… | ……… |
| 五十八 | 二圓三十三錢 | 三圓四十一錢 | 一圓八錢（不足） |
| 五十九 | 二圓三十三錢 | 三圓五十七錢 | 一圓二十四錢（不足） |
| 六　十 | 二圓三十三錢 | 三圓六十八錢 | 一圓三十五錢（不足） |

故に年齢三十の者にして尋常終身保險を爲し、爾後毎年一定不變の掛金を拂ふときは、年齢四十八歳に達する迄は實際必要なるものより餘計なる掛金を拂へども、四十八歳後は實際必要なるものより少なき掛金を拂ふことなれば、前後相償ふて結局損得なき理屈になるなり。又會社の方より見るときは最初の若干年間は掛金の入過き（三十年齢者の尋常終身掛金より各年齢者一年間定期保險掛金を引き去りたる殘額）あれど、其後は入不足（各年齢者一年間定期保險掛金より三十年齢者の尋常終身掛金を引き去りたる殘額）を生することなれば、最初の入過は之を利倍增加の法により貯蓄し、以て後年の入不足を補充すべきものとす。卽此初年の入過を年々利倍增加の方法によりて積み置きたる金額の現在有高は、保險契約の現價なり。

今一層詳細に說明すれば、三十の年齢者が拂ふ第一回の尋常終身掛金二圓三十三錢中、年齢三十者の一年間定期保險掛金一圓四十四錢は此人が三十一歳の年齢に達せずして死する危險に對して、會社に拂込みたるものなれば、實際三十一歳に生延びたる曉には、此危險は旣に消滅したるものにして、一圓四十四錢は被保人の損耗會社の利得（眞實は他の三十年齢保險者中、不幸にも三十一歳に達せずして死したる人の遺族に拂渡する保險金額に充つ）となるものなれど、殘り八十八錢は會社にて一時預り置く性質の金なり。同じ理屈にて、會社は毎年若干の預金を爲すものにして、現時迄の預金元利合計は卽ち保險契約の現價なり。

保險契約の契約を結びたる期より若干年を經たる後の現價は、又會社が此契約の爲めに負擔する義務、卽當該被保人の死したる年に拂ふ保險金の現價より、向後當該被保人より其死去する年迄、年々拂込む掛金卽終身年金の現價を引き去りたるものなり。

## 生命保險會社純益金計算法同分配法

所謂生命保險會社純益金なるものは、尋常一般の營業的會社の純益金とは大ひにその性質を異にす。則尋常一般の營業的會社の純益金は、會社の營業上得たるものなど、所謂生命保險會社純益なるものは勿論其一部分は會社が積立金をして利を生ましむるの方法その宜しきを得たるより生じたるものなれど、重なる部分は被保險人が萬々一の危險を慮り、實際必要なるものより稍高きに過ぐる掛金を拂ひ込みたるが爲めに其剩餘の蓄積したるものなり。

生命保險會社の純益金を算出するには、先づ第一に會社所有の公債證書株式等の現價（券面額にあらず實價なり）を算出し、次に前章の計算法に依り各保險契約の現價を勘定し、而して後、資產金高の合計より、責任金高の合計を引き去るべし。殘餘は則是純益金なり。



保險契約個々の現價を知ること、特り會社純益金算出上のみならず、他に必要なるものなるが故に、保險契約個々の現價を旣知とするときは、前上の會社純益金計算法は最も適宜なるものなれど、今若し保險契約個々の現價を知るを要せずして、單に會社純益金の總計を知らんとする場合に於ては、次に記する算法は前者に比すれば稍簡なりとす。

（甲）會社の權利に屬する向後被保人よりして年々會社に拂込むべき掛金（生命年金）の現價總計

（乙）會社の資產に屬する公債證書株式建物等の現價總計

（丙）會社の義務に屬する會社が各被保人の死したる年末に拂ふべき保險金額の現價總計

（丁）會社が向後年々要する營業費（永續年金）の現價

を算出し、甲乙の和より丙丁の和を引き、殘りたる金高は卽會社純益金なり。

此計算上、甲乙の和にして丙丁の和より小なるときは、會社は負債を有し惡しき位置に立つものなれば、此際一層營業費を節減し、積立金をして利を生ましむる方法を改良することに盡力し、以て一日も早く會社を安全なる位置に回復せしむることを謀らざるべからず。

生命保險會社が正當の計算法に依り算出したる純益金は、正しく相當の方法に依り配當すべき性質の金なれど、今若し愼重を加ふるときは其內の幾割は、積立金中に繰り込み、殘額を以て純益配當金に充つべきものとす。

生命保險會社の純益金は實際會社の組織により、或は株主卽株券に對して分配し、或は株主と被保人との間に分ち、或は又被保人のみに分配するものなれど、全體、生命保險會社の純益金を株主に配當することは、生命保險の道理に背くものなり。如何となれば、生命保險會社の株金は、生命保險會社資本金と題する章に於て說く如く、純粹なる準備金にして、會社は毎年株金に對し世間普通の利價より稍高き利子配當を爲し、旣に已に株金に對する悉皆の義務を了ふるものなればなり。勿論會社が株金に對して年々拂ふところの利子配當にして、世間普通の利價より低く、若しくは世間普通の利價に同じきときは、純益金の一部分を株主に配當する、是亦至當のことなり。

今生命保險會社の純益金を誰に分配するを正當なりとすると問ふに、先づ第一に純益金を生せしめたる源因を吟味せざるべからず。

生命保險會社の純益金を生せしむる源因に三あり。

第一　解約會社、被保人相互の都合に依り解約するときは、會社は被保人に前章に於て說明したる契約の現價を拂はざるべからずして、雙方に損得なし。然れども實際は被保人の都合のみに依り解約するものなれば、通例會社は契約現價の一小部分を被保人に割戻すものなれば、契約の現價と實際被保人に割戻す金高との差は、會社の純益となるものなり。

第二　積立金をして利を生ましむる方法其宜しきを得、又會社內の事務を整頓し、營業費を節減したること、卽會社役員の盡力。

第三　被保人が實際に必要なるより高きに過ぐる掛金を拂込みたること

故に生命保險會社の性質を誤解し、世間普通の營業的會社の例に倣ひ、生命保險會社純益金を此純益を生せしめたることに緣もなき株金に對して分配するは「報酬ハ功勞ニ比例セサルベカラズ」といふ千古の格言に背くものなれば、生命保險會社純益金は、其內に幾割を賞與として會社の役員に給與し、殘額は悉皆被保人に割戻すべきものとす。

生命保險會社純益金中、會社役員の賞與を除きたる殘額を被保人に配當すに際し、玆に困難なるは其分配法にして、生命保險に諸種の種類あり、被保人入社後の年月に長短あり、到底竟しめ一定の分配算法を適用するを得ざるべし。然れども其の原理は甚單純にして、卽各被保人に分配する配當高は、各被保人が入社後年々會社に拂込みたる掛金中、實際に必要なるものより餘計なる部分の元利合計に比例せざるべからず。

## 生命ヲ保險セントスル人ノ心得

余が曾て大學講談會に於て生命保險論を講述せし以來、往々一面識なき人にして余に書を寄せ、生命保險會社、保險の種類等を選ぶに付き、余の意見を問はれたることありけれど、余は早晩此小冊子を世に公にする心組なりければ、一々答書を呈せざりし。余は此等の人に對し、此章を以て余が答案と看做されんことを希望するものなり。

新に生命を保險せんとする人の爲めに最必要なるは、生命保險會社の安危

を區別すること之なり。今若し生命保險會社の報告をして精細確實なるものなからしめば、吾人は既に前章に於て說明したる如く、營業費の掛金收入に對する割合、責任準備高と資產準備高の差よりして、其會社の今後數年間の安危を鑑定することを得べし。然れど生命保險の事たる數十年の後を期することなれば吾人が生命保險會社を選ぶには鄭重に鄭重を加ふることを要す。

生命保險會社永遠の安危を鑑定することは、到底人力の能する所にあらざれど、今生命保險會社を選ぶに際し注意すべき箇條を擧ぐれば、

第一　唯積立金の巨額なるを見て會社の安危を判斷せざること。其故は積立金多ければとて責任準備高も亦多ければ、差引如何なる勘定になるや、明細確實なる會社の決算報告に依るに非ざれば之を知るに由なければなり。

第二　資本金の多きに瞞着せられざること。此は前にも重複を厭はず說明したる如く、生命保險會社は決して多額の資本金を要せず、資本金多ければ多きほど被保人は損をする理屈になればなり。

第三　保險會社が積立金をして利を生ましむる方法の確實なるや否や吟味すること。其の故は、保險會社が積立金をして成るべく多くの利を生ましむる方法を講ずるは勿論會社の正しく盡力すべきことなれど、さればとて其方法にして確實なるものならず、例へば會社が積立金を以て非常の昂低浮沈ある株式を購入し、其しきに至りては投機商賣を試むるが如きことありて、會社は非常の危險を冒すものにして、斯くの如き會社は到底永續せざるものなり。

第四　生命保險會社が掛金表を調製するに用ゐたる利息の歩合を吟味すること。生命保險掛金は、死亡表と利息の歩合とに依り算出したるものなれば、被保人死亡上の浮沈、利息歩合の浮沈共に生命保險會社に影響するところあれど、歐米諸國の經驗に據るに、實際死亡上の浮沈より生ずる危險は誠に些少なるものなり。蓋し人間の死亡は術生醫術の進歩につれて漸く低くなる傾あれば、被保人今後の死亡にして今日迄の經驗よりして算出したる死亡表に示すものより高くなることは萬々あるまじければなり。勿論傳染病流行等のことあれど、傳染病は毎年流行するものにてはなし。且死亡表の材料中には、傳染病流行年の死亡統計をも含むを以て若干の年數を隔て、例へば毎十年に傳染病の流行することは、既に死亡表中に見積りある譯になり、實際傳染病流行の年には會社の支出多きも、通例傳染病のあり年の翌年は死亡少きものなれば、會社の支出も又少なく、前後相償ふて二三年の後は會社經濟上の有樣舊に復するものなればなり。然れども利息歩合の浮沈に至りては、往々輕じめ調るべからざるもあり。實地の經驗に徵し、僅々數年間に利息歩合の其半額に減じたることあれば、會社が掛金表調製上定めたる利息歩合の充分に低くして、世間利息歩合浮沈の範圍外にあるを必要なりとす。

以上は生命保險會社を選ぶに際し、會社の破產せんことを慮りて注意すべきことなり。會社の破產するは固より恐るべしと雖も、亦會社が確實の點に於て缺くるところなきも非常に高き掛金を貪り、純益は豐裁を飾る爲め、其一小部分を被保人に割り戻し、餘は株主に分配する組織なるときは、被保人は知らず大ひなる損失をするものなれば、是又大ひに注意を要する點なり。而して世人が此點を吟味せらるゝに當り、本論中に載せたる本邦生命保險掛金表は參考上多少稗益するところなきにしもあらざるべし。

生命を保險せんとする人の爲めに次に必要なるは生命保險の種類を選ぶことと之れなり。全體、生命保險に諸種の種類あるものは、被保人の都合を謀るが爲めなり。故に今新に生命を保險せんとする人は、自身の都合を考へ、後來解約せざるべからざることに立ち至ることなきや否を自問自答し、始終契約を履行し、掛金を拂ふことを得る種類の保險を託すべきものとす。

一個人の都合により其人の選むべき保險種類の異なることを例を以て說明せんに、一個人が有限掛金終身保險を託せるも、尋常終身保險を託するも、死後遺族が保險金を得ることに於ては、差別なし。只此人が幸に長生したりとせんに、有限掛金なれば期限を過ぎたる後は掛金を爲すに及ばず、其代りに掛金高し。尋常終身なれば掛金低くけれど、此人が八十、九十、百年迄生き延びるも、其生存間は毎年掛金を拂はさるへからされば、或は八、九十にして解約をせさるへからさることに立ち至ることあるべし。

全體、生命保險會社の貯蓄銀行と異なるところは、生命保險會社にては、僅に一回の掛金をしたる後直に死去するも、遺族は保險金額を得、其代り數



十年間掛金を拂ひたる後にても、萬一已を得ず解約するときは、非常の損失となるなり。貯蓄銀行の場合に於て、第一回の拂込を爲して直に死すれば、遺族は僅に此一回の拂込たけの金額を得るに過きず、其代りにイツ何時貯蓄金拂込を中止するも、其時迄拂込たる金高の元利合計を請取ることを得。

生命保險會社か保險契約解約者に掛金の一小部分を割戻し、或る場合には、更に掛金の割戻を爲さゞることについては世に往々此事を許る人あり。此等の人の考には、解約者は實際解約の當時迄生延ひ、會社は此人の會社に入りたるか爲め、掛金徵收手數料の外は毫厘も損失せさることなれは、此人か初よりして會社に入らさりしものと看做すも差支なかるへし。故に今解約に際し、より利息を附せさるも、掛金たけは悉皆解約者に拂戻して至當ならんと。前章に述へたる保險契約の現價計算法の理を會得したる讀者には、この考の虛妄なるを看破すること難からさるへし。則解約者は自身か解約の當時まて生き延ひたる其間に、他の被保人中若干名の死亡ありて、會社か保險金を其遺族に拂ひ渡したることを忘るへからす。故に今若し解約者にして解約者か會社に入りし時より解約の當時に至る其の間に、會社か拂出したる保險金の一部分を負擔せは、會社は解約者か拂込たる掛金を悉皆拂戻すことを拒まさるへけれども、實際解約者の手に入る金額は差引掛金拂込の一小部に過きさるべし。

生命保險會社と生命保險の契約を結ふ手續は、生命保險會社規則書に就きて知ることを得へく、通例甚簡單なるものなれと、唯注意すへきことは、保險申込證書に記したる箇條に誤謬漏脫なきこと之なり。其故は誤謬漏脫は詐僞隱蔽と看做され、契約は無効に歸すればなり。生命保險申込證書に記載したる箇條に、詐僞隱蔽の廉あるは、宛も藥證の多からんことを恐れて醫者に病狀を僞はると一般なり。

## 外國ニテ生命保險ニ關スル政府ノ干涉

生命保險の業たる最も奬勵すべくして、一國の政府たるものは最も之を重じ、必要なる干涉は斷然之を行ひ、以て被保人を保護し、以て社會人衆の福利を增進することを謀るべし。則是歐洲諸國に於て生命保險會社條例の設ある所以なり。

生命保險會社條例に就きては、歐洲大陸と英國とは恰も反對の運動を爲したるの奇觀を呈したり。卽彼は初め緻密なる規則を設け漸く之を緩くし、此は初めは幾んど何の制限も設けす漸く之を緊にしたり。今玆に英國の例を採らんに英國に於て一千八百七十年以前は生命保險會社を設立するに、幾んど何の制限もあらざりしが、生命保險會社は忽起り忽倒れ、會社の破產續々相踵き、被保人を傷害すること尠少ならす、遂に一千八百六十九年に至りて、夫の「アルビヨン」會社の倒產あるに當りてや、世間の驚愕一方ならす、輿論は遂に議院をして一の緊正なる干涉策を執らしむるに至れり。一千八百七十年の生命保險會社條例是なり。爾後一千八百七十一年及ひ二年の改正增補あり。此條例に依れば、苟も英國に於て生命保險會社を設立し、若くは外國の生命保險會社を英國に移すには、次の條々を遵奉せざるべからず。

一、保險掛金ノ中ヨリ四萬磅ノ積立金ヲ蓄ヘ得ル迄ハ、二萬磅ヲ衡平裁判所ニ預ケ置クベキ事。

一、同一ノ會社ニシテ生命保險ノ外ニ他ノ事業ヲ兼ヌルコトアルトキハ、其保險部ノ收入ト他ノ業務ノ收入トハ、全ク其會計ヲ別ニシ、兼業ニ關スル契約履行ノ爲メニ保險掛金ヲ轉用スベカラザル事。

一、各會社ハ每年度ノ收入支出決算ヲ公ニスベキ事。

一、該條例發布後ノ設立ニ係ル會社ハ五年每ニ、其發布前ノ設立ニ係ル者ハ十年每ニ、鑑定人ヲシテ貸方借方ソノ資產及ビ責任ノ比較書ヲ製シ、會社ノ果シテ能ク其責任ヲ果シ得ルヤ否ヤヲ調査セシムベキ事。

此他尙多少の規定ありと雖も、其要領は右に擧げたる所を以て之を盡せり。當時該條例の發布せらるゝや、世上の評論紛々として湧くが如く、就中保險營業者は、之が爲め直接に影響を受くる者なるが故に、甲論乙議、恰も一場の討論會を開きたるが如き有樣なりしが、今其議論の岐るゝ所を察するに、其營業專ら公明正大、着實正確を旨とし、其基礎の鞏固動かすべからざるものは、該條例に依りて愈〻其眞相を天下に明にすることを得るに至りたれば、素より悅びて之を贊賞せしと雖も、同業者中其營業の聲味にして其基礎の薄弱なるものは力を極めて唯〻條例に反對せんことを試みたり。

### 生命保険金拂渡方法ニ付キ新考按

余は歐米諸國に於て既に其例あるや否やを詳にせざれと、兎に角に余が知るところにては新奇なる生命保険金拂渡方法を考按せり。其方法は被保人の望により保険金の幾分、例へば半額は被保人の死したる當座に、殘餘は之を定期年金として若干年間毎年會社より遺族に拂ひ渡すにあり。

生命保険の契約を結ばんとするに際し、通常の保険金拂渡方法即被保人の死したる時に、保険金全額を一時に遺族に拂渡すものと、此新方法と其中何れを選ぶかは固より被保人其人の隨意に任すべきものとす。

此新保険金拂渡方法の會社の爲めに都合好きことは勿論なれど、或る場合に於ては被保人の爲めにも亦益するところなきにしもあらざるべし。

或は此保険金拂渡方法を非難して曰く、一家の主人公たる被保人の死去したる曉には、遺族は保険金を資本として商賣なり其他の營業なりを營み、以て一家の命脈を繋ぐ道を講ぜざるべからざれば、今遺族の爲めを謀るに、保険金は悉皆一時に請取るを便利なりとすと。此言は一理なきにあらざれど、遺族が商賣なり他の營業なりを營むことを得るは遺族にして多少生計の途を知るものと云ふべし。然るに生命保険の最も効能あるは、一家の主人公たる被保人死したるに、其相續人未タ幼稚にして商賣なり其他の營業を爲す能はず、保険金は此相續人が生長する迄の繋ぎに供する場合にして、此場合には新保険金拂渡方法こそ却て遺族の爲めに都合よからん。況んや遺族が一時に保険金全額を請取るときは、或は之を浪費して、主人公が一身の利を捨て家族の利を計られし深慮慈愛を無にするの恐あるに於てをや。

### 本邦人ニシテ外國生命保険會社ニ加入スルニ付意見

外國の生命保険會社が日本に代理店を設けて、將さに日本人と保険契約を結ばんとすと假定せんに、若し此時日本に生命保険會社なきときは、日本人の之に入社するは已むを得ざる所なりと雖ども、日本人の設立せる確實なる生命保険會社あるときは何れに入社すべきや。一箇人一時の利益上より云はば如何あるべきなれども、保険の原理より云ふときは、異なる土地、異なる人民の間に於て、死亡の比較を立つるは殆んど鮮きことにして、殊に一方は海外の事なれば人費の餘計に掛るは當然なれば、日本の生命保険會社に入るこそ至當ならん。或る宴會の席にて外國の某生命保険會社は資本金も巨多なれば、宜しく之に入るべしと云へる人ありしが、既に論述したる如く、生命保険會社は資本金を要せず、資本金の多きは益なくして却て害あり。實に本邦人にして外國生命保険會社に入るは、米人が英國生命保険會社に入るが如くならずして大ひなる危險を冒すものなり。

### 結論

余が目的は最初よりして生命保険の道理を明かにし、生命を保険せんとする人をして、自ら生命保険會社の確實なるや否や、掛金の高きに失せざるや低きに過ぎざるやを鑑定せしむるにあるを以て、余は力めて現に本邦にあるところの生命保険會社のことに論及することを避けたり。然れども今や本論を終結するに際し、我國生命保険會社に付き余が胸中に浮びたることを述べんに、若し余が觀察にして幸に誤なからしめば、現に本邦にある生命保険會社は、本邦生命保険事業の幼稚なるに係らず、其確實なりと云ふ點に於ては頗る完全なる者なれど、唯其の組織の射利的なると掛金の格別に高きは生命保険の本色たる共濟主義に背くものゝ如し。然れども余は勿論新に設立する會社にして、余が算出したる掛金表を採用せられんことを勸奬するに躊躇せざるべしと雖も、總て生命保険會社が其掛金を改正するには極めて愼重に愼重を加ふべきものなれば、既往の設立に係る我國生命保険會社が、一旦定めたる掛金表を改正するが如きは斷じて其の不可なるを唱ふるものなり。夫然り、然らば我國生命保険會社掛金の格外に高きを如何すべき。余が考ふるに我國生命保険會社が從前の射利的組織を脫し、共濟の主義を採り、掛金表は其儘に據置き、此差は利益の附かざりし掛金を利益分配附とし、會社の株金に對しては毎年世間普通の利息歩合より稍高き一定の利子を配當し、毎四年或は毎五年に會社の純益を計算し、之を被保人に割り戻さば、會社の安全に傷つくるところなくして共濟の主義を全ふすることを得べく、株主も又生命



保険事業の性質を理會せば、必しも此改正に異議を挾まざるべし。

我國生命保険の事業は猶幼稚にして其區域は未だ廣からず。其中等社會の爲めにするものは、漸く端緒を開きたれと、貧民の生命保険に至りては之を論ずる人さへ稀なり。然れども、余は生命保険の恩澤を貧民社會まで普及せしむることは前途我國の安寧秩序を保持するに必要缺くべからずして、吾人が我國に於て貧民保険を實施するの方法を講ずるは實に目下の急務なることを信ずるものなり。

回想すれば、今を距る三年以前獨逸政府が獨逸聯邦陸軍費の增額を否決したる故を以て國會を解散し、新に國會議員を徵集せしに、獨逸の首府たる伯林府が八名の議員中三名の社會黨を選出したる當夜のことにてありける。余は當夜の景況を目擊せんと伯林市中を奔走し、痛く疲勞を覺えければ、暫し足を休めんと一麥酒店に入り見れば、室内當日の選擧社會黨勝利の話ならざるはなし。余は椅子に腰打掛けて一盃の麥酒に咽喉を濕ほし居たりけるに、曾つて一面識なき獨逸人某氏は余が側に進み來り、余に一禮して問ふて曰く、「方今宇内ノ形勢ヲ察スルニ、獨逸全土ヲ覆フ社會黨愛悃ノ雲ハ儼然トシテ月暗ク、露國ノ天ヲ望メバ虚無黨虐殺ノ氣ハ愴然トシテ風寒ク、至ルトコロ破壞主義ノアラザルナシ。然レトモ同シク是破壞主義ノ黨派ニシテ各國其黨名ヲ異ニス、亦奇ナリト云フベシ。而シテ貴國破壞主義黨派ノ名ノ何タルヲ害ニセズ、幸ニ敎示ヲ吝ムナカレ」と。余は此問の意外なるに驚きしが、考一考して答へて曰く、幸にして弊邦には破壞主義なし。故に勿論黨名なしと。某氏も又余が答の意外に出たるに驚きたるにやありけん、「サテ〳〵貴國ハ結構ナルオ國柄ナリ」なる言葉を殘して辭し去れり。余は最初は心中竊に此人の東洋の事情に暗きを冷笑せしが、熟考ふれば此人が歐洲諸國何れの國にても破壞主義なきはなきを見て、東洋の隅にも又破壞主義が暴威を逞ふするものならんと思ひたるは必しも無理ならず、況んや又誰か知らん、他日此推想にして事實となるなきを。

モルトケ將軍は近代の軍師なり、前に墺軍を敗り後に佛軍に勝てり。ビスマルク公は蓋世の政治家なり、巴理城下の盟に國恥を報じ、四分五裂の獨逸聯邦を統一せり。此二人の者一たび怒れば歐洲爲めに震動す。然れども獨逸政府は遂に國内の破壞主義を撲滅する能はず、今より八九年前竟に一策を按じ、國家保険の政略を布きたれど時既に晩く、破壞主義は最早其根據を占め、禍來益延蔓するの勢あり。吾人は豈夫此獨逸が内部の破壞主義の爲めに苦めらるゝを見て之を對岸の火災視するを得んや。

文明の進歩と與に社會貧富の差愈〻隔絶し、輕車肥馬に鞭ち、路頭に臨を驚かす富者の背後には、顏色憔悴將に飢餓せんとするものあり。其極は財産均一論となり、激しては破壞主義となること人事の數の免かれ難き所ならんか。夫然り、或は然らん。然れども吾人は破壞主義の發生する、人力の如何ともする能はざるところとなし、之を自然に放棄して可ならんや。否吾人は宜しく破壞主義の發生を豫防し、ヨシ之を避くる能はざるも其害毒を滅殺することに盡力せざるべからず。而して貧民の保険は吾人が此目的を達する最良一手段なり。

開國以來西洋の思想、主義にして我國に輸入し來りたるもの枚擧に遑あらず、遂に古今未曾有の變革を生ぜり。而して余は竊に恐る、今後我國に入るものは破壞主義ならんことを。吾人宜しく破壞主義の未我國に發芽せざるに先ち、早く既に貧民の保険の實施を急ぐべし。況んや方今我國にて諸種の製造所が四方に興起するに際し、貧民保険の一種類なる職工保険の如き、一日も其實施を猶豫すべからざるに於てをや。

本邦に於て貧民保険を實施するに付き余が考按を述ぶれば、會社は之を公立にし、保険掛金の割合は純保険掛金表に據り、手數料、則通常生命保険の場合に於て會社の營業費に當る失費は、國庫よりこれを支給すべし。勿論此は我國にて貧民保険實施法の精神骨子を述べたるに過ぎず。貧民保険の實際には、例へば貧民は今年掛金を拂ふことを得るも、明年は之を爲す能はざる等種々情實の斟酌すべきものあり、中等社會の爲めにする生命保険とは自ら其趣を異にするを以て、充分の實地調査を經たる後にあらざれば、貧民保険の細則を定むること能はざるべし。

余は今や、余に本論を通讀するの榮を惠まれし讀者諸氏に別るゝに際し、謹んで諸氏の好誼を謝し、併せて此書が本邦貧民保険の實施を促すことに於て幾分の効能あらんことを希望すと云爾。

保險ハ賭博ニ非サル乎 法科大學助教授法學士 會員 岡野敬次郎君

# 保險は賭博に非さる乎

(法學協會雜誌 第六十七號 明治二十二年七月)

法科大學助教授法學士 岡野敬次郎說

保險の目的何そや曰く物件の所有者危難の起るを慮り豫め少額の金圓を支拂ひ以て他日損失損害の生したるとき之か賠償を受けんとするに在り夫然り故に保險は危難の起ると起らさるとを以て契約の本體とす危難起らは被保人之か爲に生したる損失損害の賠償を受け危難起らされは保險料を利するなり宜哉保險を以て片利契約の一類と爲すや

今人あり貨物を米國に輸送せんとするに當りて之を保險に付せは誰か其不當なるを唱ふるものあらんや誰か之を無効の契約なりと稱するものあらんや然るに甲乙二人各得に條約改正の成否を抗論し其極甲は改正成らは金百圓を乙に與ふへし成らされは乙は甲に金百圓を與へんと約を結はゝ誰か其適法なるを主張するものあらん誰か之を以て有効契約なりと認むるものあらん一は保險契約にして法律之を補助し一は賭博にして國法之を嚴禁す焉そ法律上二者を區別するの標準なくして可ならんや必す其畛域の照然たるものあらん契約の本質に於て差異あるか否余は純理に於て二者毫末も異なるあるを見ざるなり

通常學者の二者を識別するの標準なりとするを見るに左の二點あるか如し

(一)多分的に損失を計算すると否らさると

論者曰く今日以て明日をトすへからす去月雨多きを以て本月の晴多きを測るへからす往年の晴多きは直ちに今年の雨多きを斷定すへからす然れとも數年を重ね數十年を積み尚進んて數百年を累ぬれは自から其不知の間定則の伏するあるを知るべし故に一隻の船横濱より桑港に航行するとせん誰か其途次能く暴風の興り大浪の起るをト知するを得んや然れとも之を十艘とし百艘と爲さは從來の經驗に徵して凡そ何艘は安着すへし何艘は多少の損失を受くべしと臆定するを得へく愈其數を增さは其臆定の愈確實なるを得るに至るへし人の生命を保險するも家屋を保險するも其多分的に損害を計算するに在りて保險會社の事業の盛衰も亦全く此計算方の其宜を得ると得さるとに在り何そ賭博と異ならすと謂はんや是一を知りて二を知らさるの迂論と謂ふへし今劍山小錦各臂を張りて土豚に蹲まる觀客其贏輸を以て金を賭す豈に漫然之を爲すの愚者あらんや必す其骨格膂力を考へ其技術の巧拙從來勝敗の數を精査せさらんや賭博も亦多分的に損失を計算するものに非すして何そや豈に之を以て保險と區別するの標準と爲すを得んや

(二)保險は補償の契約なり賭博は然らす

コロレッヂ氏曰く賭博は絕對的の價格を支拂ふの契約なりと雖とも保險證書は其本質賠償契約なり何となれは保險證書は必す人或は物の危難を受くへきを保證せさるへからされはなり詳言すれは被保人の危難の起るに因て受くるの結果を賠償するものにして且其保險する危難は被保人の之に利益を有するものなるへからさるなりと(Pterson V. Powell 9 Bing 332)

又マーシャル氏其保險法に曰く保險は賠償の契約なるか故に其目的は利益を享くるに非らすして起らんとする損失を避くるに在りと是皆危險の目的物上に利益を有すると否とを以て區別したるなり船主の船舶を保險し荷主の貨物を保險し人の其生命家屋を保險するは皆其目的物上に有する利益權利の不虞の變に因て蒙むるへき損害を賠償するに在り然れとも明年開設せらるへき國會議員の選擧或は賄賂詐議事件の勝敗を以て金圓の授受を約するは賠償すへき損害あらさるなり故に他人の貨物生命を保險に付するときは保險法に於ても之を賭博保險證書と稱し無効なりとせり以是危難の起ると否らさるとに利害の關係あるときは之を以て約束の目的とするを保險と謂ひ起るも損害を蒙らす起らさるも何の利する所なきときは之を約束の目的とするを賭博と云ふ此標準は概ね二者を甄別するを得るの効果ありと雖とも未た以て正鵠を得たりと謂ふへからす今一人甲地に於て貨物を購買し之を乙地に輸送せは必す



利潤を得へき望あらん此利潤を保險するは各國殆んと其有効なるを許す所なり然るに今甲者一匹の馬を所有し乙者と約するに某日の競馬場に於て某馬に勝を制せは甲者金十圓を與へ敗を取らは乙者金百圓を與ふるを以てせん誰か之を認めて有効の契約なりと謂ふか甲者の馬勝たは大に其價を增すへし又或は大金を以て之を購ふへきを約せるものあるへし貨物の利潤馬の增額何を以て之か區別を爲すへきか貨物なるか故に之を許し馬なるか故に之を許さゝるの理あらんや共に事件の起ると起らさるとを以て利益を受け損害を蒙むるに在り要するに利益の有無を以て二者を區別する能はさるや明かなり

以上二者の標準は以て標準とするに足らすとせば亦他に求むへきの標準あらさるなり保險と謂ひ賭博と謂ふは事件の起ると起らさるとに基つきて互に約束をなし其約束を爲す亦結約者の判斷力を以て其條項を定め以て利益を計算するに在り畢竟保險は法律之を許すか故に有効なり賭博は法律之を禁するか故に無効なるのみ法律の之を許し之を保護するは社會に益する所甚た大なれはなり之を禁し之を補助せさるは社會を害すれはなり

保險は正理を以て柱礎とし公益を以て根基とす其商業を擴張し奬勵し之をして愈其版圖を廣ふせしむる其効頗る著大なり故に往古商業の隆盛なりし國に於て保險の起らさるなきを見さるなり實に此の二者は以て國家の殷富强盛を致すと謂ふ一船颶風の侵す所となりて大賈忽ち其産を傾くへし一人死して妻子饑渴に嘆くへし一家火災に罹り俄かに憐を他人に乞ふに至るへし其之を救ふは保險を措きて將た何に求めんや保險の法ありて始て商業擴張すへし大業企つへし冒險事業興るへし内に顧る所なくして貲財を擧けて一業に委ぬへく遠く外に征りて汲々營利に奔走するを得へし保險の社會に利ある亦多端を須ゐさるなり

モルガン氏嘗て曰く保險法は一箇人の財産事業を以て社會の共有財産共有事業と爲すに在りと簡にして能く保險の要旨を盡くせりと謂ふべし一人の受けたる損害を賠償するには其法律上の責保險會社に在る固より疑ふへからすと雖とも其之を救ふの道を得せしめたるものは他の被保人なり保險會社は唯一方より利益を享け之を他方に頒つの媒介を爲すに過きす而して會社は亦此媒介を營業として以て利益を受く保險は一擧兩得の策と謂ふへきなり

ローンデス氏謂へるあり海上保險は分業の一法と稱すへし何となれは海上の危難市場の危難をして其研究の範圍を異にせしむれはなり保險人は專ら破船變災の統計に注意し航海氣候船體貨物の種類等を以て危難を精査し由是保險料の額を減少し之をして危難に正當の比例を得せしむへく被保人は海上の危難に着目し或は之に應するの資金を準備するの要なきか故に小資本を以て商業を營み精密に利潤の計算を調査し一に營利に意を專らにするを得へけれはなり以是小資本家も大資本家或は會社の跋扈を受くるの恐なく自由に競爭を爲すを得へし而して亦消費者も之か爲に利益を享くへし何となれは保險は市價を低廉ならしめ俄に昂低するの弊を除くに在れはなりと此說以て生命保險火災保險に適用するを得へきなり保險の社會に利ある斯の如し故に各國之を保護せさるなきなり保險は利あるか故に之を保護し賭博は害ありて利なきか故に之を禁す保護するか故に有効なり禁するか故に無効なり是余か二者其本質に於て區別する所なしと謂ふ所以なり

【七十一頁ヨリ】

此れ實に保險の行はるゝ所以なりロッシエル氏が保險の益を論じて曰く損害を多數の人に分配するときは其損を感ずること輕微にして又之を償ふには現在に存する資本を減ずることなくして之より生ずる收入の一部を貯蓄して充つるを常となす故に一國の資本は恒に全きを得と是れ保險に固有せる利益なり然れども今日の世界にて人々如此理論を辨識するものにあらず又之を辨識するも一時の僥倖を喜ぶ者多し故に前陣の如き制限を設くるは固より無用にあらず唯々之あるが爲めに保險の本質を誤解することなきを要するのみ生命保險には保險し得可き利益を以て制限すれば賭博の性質を脱すべしと思ひ火災保險には保險金額を制限せるを以て純然たる賠償契約なるも生命保險には其制限なきを以て然らずと云ふが如きは事物の必然(エッセンシャリア)質と偶然(アクシデンタリア)質とを混じたるものなり故に火災及海上保險を以て賠償契約と謂はゞ生命保險も亦然るのみ生命保險は賠償にあらずして單に事故發生に因て若干金を拂ふ可きの契約なりと謂はゞ他の保險も亦然るのみ

# 非射利主義生命保險會社の設立を望む

矢野恒太

拜啓

近時、我邦生命保險の人生に缺くべからざることを覺れるもの漸く多きを致し斯業物興の氣運に向ひ候事偖邦家誠に大慶の至に御座候得共斯業の始めて進歩せんとするに當つては朝野共に生命保險學者に乏しきは勿論一と通り生命保險の道理に通ぜるものすら少きが故に政府は之が監督を誤り甚しきに至ては之を監督すべき所以を知らざるものさへ有之民間には投機的の會社群立し道理の外に走せて無謀の競爭をなし其極破産となり解散となり合併となり恐慌となり非常なる害毒を天下に流すに及んで政府は始めて之が監督を嚴にせざるべからざる所以を悟り遽に保險條例を設け俄かに罪人を逮捕し人民も亦此に至りて始めて生命保險に伴ふ所の害ある事を知り無暗に生命保險を畏怖し折角進歩し來りし所の生命保險をして再び凋萎衰退見るに堪へざるの境遇に至らしむること世界各國とも殆んど同一轍に出居候は少しく生命保險歷史を研究せられ候諸君の夙に承知せらるゝ所と存候然るに熟本邦現時の狀勢を見るに春來生命保險會社の新設され若くは新設されんとするもの實に雨後の筍不啻今日まで攻者の耳朶に達候分無慮四十に及び中には未熟なる攻者共の目より見る時は或は學理に背馳せずやと被思候ものも有之尙昨今に及びても此種の計畫引きも切らずと永及杞憂に暮居候是豈恐慌時代の前驅即所謂小會社群立にあらざるを知らんや勿論攻者資力の及ぶ限りは新聞雜誌に演說に談話に幾度か政府の無頓着を諫め幾度か人民の惑溺を戒め來り候得共書生の議論攻ね大方の耳朶に入り易からず加ふるに單身獨力一人の之に和するものなきが故に寸効を其間に奏する能はざりし事に御座候就ては諸君の贊助を得て益政府に迫り完全なる保險條例を發布せしめんことも亦甚必要の儀には御座候得共如御承知政府も近來頗る多事の樣子に相見へ候故假令條例發布之必要相認め候共之が實行を見るまでには隨分時日もかゝり可申被存候間今日の所寧ろ誤に安全なる生命保險の惠に霑らんとするものをして一日も早く遷依する所を得せしめ且は他日數多の株式會社が恐慌の風波に漂蕩せらるゝに當ても最安全に最堅固に其地位を保持し滿天下の人をして俯で而して生命保險の眞面目を望ましむるに足る所の一大會社新設仕候こと急務かと被存候如何なれば如此確實なる會社組織せらるべきやとの不審を起され候御方も可有之候得共從來我邦に存在せる生命保險會社は悉く皆射利主義を以て組織せられたる所の會社即所謂株式會社にして株主なるものが利益を得んが爲に世人の生命保險を請負ふものに外ならず從て其保險料は固より毎年實費（保險金責任積立金及營業費）を支拂ふて尙餘裕あるほど徵取致居候なれども萬々一流行病若くは其他の原因の爲に一時收入を以て支出（保險金責任積立金及營業費）を償ふに足らざるときは先づ資本積立金（會社安全の爲に利益のうちより積立置くもの）次で資本金次で責任積立金を以て之を償ひ終に會社の全財産を盡して之を償ふに足らざるときは會社は破産して株主は其責を免かれ生殘りし被保人のみ悉く掛込來りたる保險料を失ふものに御座候然るに今攻者が新設を企望致し候會社は之と全く性質を異にし本邦に於てこそ未だ曾て其設立を見ざれ歐米諸國に於ては盛に行はるゝ所の非射利主義の會社即所謂會員組織又所謂相互會社なるものにして其營業の方法は少しも株式會社に異らずと雖被保人の自治體よりなりて別に株主なるものを存せず從て被保人が株式會社に於けると同一の保險料を支拂ふとすれば毎年彼にありて株主の利益となるべきだけ餘分を生ずるが故に此餘分の一小分は資本積立金として會社へ積立置き其大部分は毎年被保人へ割戻す方法を取る者に御座候而も此割戻金は利益積立金と名けて三年乃至五年間會社に預り置き萬一缺入を以て支出（保險金責任積立金及營業費）を償ふに足らざるときは先づ此利益積立金次で資本積立金を以て之を償ひ尙足らざる時は保險料を追徵して之を補ふ組織なれば其保險料の低廉なるべきは勿論破産の恐れ等殆んど無之所謂恐慌の風波如何に險惡なる時に當ても其地位は殆んど磐石の上にあると同一に御座候之を要するに株式會社の生命保險は請負保險にして相互會社の生命保險は非請負保險に候なり如此事業に就て請負と非請負の利害は諸君の御熟考を經ば强ち喙々を須ずして明了なる事と存候得共一朝相互會社の起るに會はゞ或種





類の會社は非常なる影響を被るが故に牽强附會なる反對論を以て自家を辯護せんとするものをも生ずべく諸般の手段を以て相互會社の設立を妨害せんと試むるものをも生ずべしと想像せるが故に株式會社と相互會社の利害及攻者計畫の大意を擧て別に略論致置候幸に御一覽被下度攻者のこの希望を公に致し候は近日に始りしことには無之候得共此頃朝野の有志諸君より相互會社發起可致旨預御勸告候故偶に此小冊子を發して廣く有志の諸君を求め候されば拳て日本新聞東京經濟雜誌等御愛讀相成居候諸君には重ねて申上候事も不渉特に泰西の事情に通じ居らるゝ諸君に對し新奇可寡の議論には無之候得共御一考を煩はし候はゞ幾何か斯業進歩の一助とも可相成延て國利民福を助長するの一端とも可相成と存じ强て禿筆を弄し候紙短意長因より百中の一二を記するに過ぎず定めて御不審の廉も多々なるべしと存候得ども幷は讓拜晤之上度と存候草々不備

明治廿六年十一月

矢野恒太再拜

潮海各位

## 相互會社と株式會社の利害

### 目錄

第一、生命保險會社の種類

第二、泰西諸國にては現今如何なる種類の生命保險會社が最よく行はれ居るや

第三、相互會社は株式會社に比すれば安全なり

第四、相互會社に於て保險料を追徵するが如きは實に絶無僅有のことにして偶之あるも決して多額に上るべきものにあらず

第五、相互會社の保險料は低廉なり

第六、相互會社と株式會社の利害比較一覽（結論）

第七、生命保險相互會社は他の會員組織の團體の如く瓦解の恐あるものにあらず

### 相互會社と株式會社の利害

#### 第一　生命保險會社の種類

生命保險會社は、主義に從へば射利主義と非射利主義に分つべく、組織に從へば相互（會員）組織と株式（株主）組織に區別すべく、株式組織は、更らに純粹の株式組織と混合組織とに分つ可く、一般の株式會社自ら射利主義の會社にして、一般の相互會社は自ら非射利主義の會社なるが故に、之を圖に畫けば左の如くなるべし

生命保險會社
- 射利主義の會社＝株式會社（純粹なる株式會社／混合會社）
- 非射利主義の會社＝相互會社

因曰玆に所謂保險の實費とは

死亡せる被保人若くは契約滿期に達せる被保人に支拂ふべき保險金、
生存せる被保人の爲に積立てざるべからざる責任積立金、

營業諸入費
役員給料
代理店手數料 } 營業費

を總稱せるものにして、集めたる保險料及諸收入のうちより、之を引去りたる殘餘を、支出殘金又は純益といふ、以下單に保險の實費、營業費、支出殘金、純益等の文字を用ひ、一々之が解釋を下さゞるべし

被保人に返戻さるべきものなり、余が切に新設を希望する所の會社は實に此の種のものにして、從來我邦に存在する信用組合、共濟五百名社、分光社等は此主義を奉ずるものなりと雖、惜哉其組織生命保險學上の原理に背馳せるもの少からず、且其規模狹小にして余輩の希望を充すに足らず

株式會社は、株主なるものが多少の資本金（所謂株金）を投下し、生命保險といふ一種の事業を營み、以て利益を射んが爲に創立したる會社にして、語を換て曰へば、單に世間に向ふて生命保險を賣る所の會社なり、就中純粹なる株式會社は、每年營業の結果、保險の實費を支拂ふたる後、支出殘金を生ずるほど保險料を徵收し置き、株主は每年の支出殘金を悉く自己等の利益とするものにして、會社の主權は固より株主の手にあり、本邦に於て近來群立する所の小會社及四五年以前より存在する所の帝國生命保險株式會社日本生命保險株式會社、大日本生命保險株式會社等皆此種類に入るべきものなり（但日本は掛金高に過ることを發見せば返戻することもあるべしと規定せり）

混合會社は、支出殘金を以て株主に配當するの傍ら、其一部を以て被保人へも返戻するものなり、即純粹なる株式會社と相互會社を混合せるが如きものなり、然ども會社の主權は依然株主の手裡にありて被保人は僅に一部の利益分配に與るといふに過ぎず、シカモ如此會社にありては、利益配當に與らんとする所の被保人をして、特に一般の被保人よりも多額の保險料を支拂はしめ、且純益の幾分を以て株主に配當し幾分を以て被保人に配當すべきかといふ額を定むるも、一に株主の意に出づるを常とするが故に、細に其性質を分析すれば、其半ば相互組織に類したる所ある如きは、眞の外看のみにして所謂保險料の返戻なるものすら、實際保險の返戻にあらずして、却りて所謂利益配當附被保人が一般の保險料よりも餘分に拂込みたる金額に對し、僅に多少の利子を附して之を返戻するに外ならざること多し、本邦に於て此種に入るべきものは唯一の明治生命保險會社あるのみ

第二　泰西諸國には現今如何なる種類の生命保險會社が最よく行はれ居るや

泰西諸國には泰西諸國の風あり、我邦には自ら我邦の風あり、彼に於て最都合よきものが、未だ必しも我に於て最都合よきものたらざるは、明なることなれども、何分我にありては經驗淺き事業にして、彼にありては二百年來の經驗を有せることなれば、參考として其狀態を知ること、亦無益の業にあらざるべし

概言すれば、英米獨佛等の諸國にありて、純粹の株式會社なるものは殆んど其跡を絕ち、相互會社と混合組織の株式會社は會社の數に於ても事業の上に於ても殆んど匹敵するものゝ如し、今一例として、余が最近の報告を有する所の獨逸國の事情に就て、其一斑を示さん

千八百九十一年（明治二十四年）末日に於て、獨逸に存在せる生命保險會社は

| | | |
|---|---|---|
| 內國に起りしもの | | 四〇 |
| 內　相互會社 | 二〇 | 株式會社　二〇 |
| 英國より入込みしもの | 二九 | 合計四九（組織不詳） |
| 亞米利加より入込みしもの | 五 | |
| 佛蘭西より入込みしもの | 五 | |
| 和蘭より入込みしもの | 三 | |
| 瑞西より入込みしもの | 三 | |
| 白耳義より入込みしもの | 二 | |
| 瑞典より入込みしもの | 二 | |
| 總計 | 八九 | |



を算し、就中二十の株式會社は、悉く皆混合組織にして、一も純粹の株式組織をとるものなく、其事業の成績を見れば、極めて大なる會社と極めて小なる會社は、相互會社に多くして、中等の會社は、混合會社に多し、之を左表に證せよ

千八百九十一年末日調査獨逸國生命會社表

| 會社略名 | 設立年號 | 千八百九十一年末日現在契約保險金額 | 千八百九十一年中新保險契約金額 |
|---|---|---|---|
| 相互會社 | | 馬 | 馬 |
| ゴーター | 一八二七 | 六〇七、七三七、八〇〇 | 三九、〇一七、五〇〇 |
| ライプチーゲル | 一八三〇 | 三三五、九七八、五〇〇 | 三〇、四五三、二〇〇 |
| ハンノーベルセ | 一八三〇 | 三八、九六五、〇五五 | 一、二〇六、九〇〇 |
| ブラウンシワイゲル | 一八四二 | 四、一〇三、九一六 | 二七八、七〇〇 |
| メクレンブルゲル | 一八五三 | 四六、八六八、二五〇 | 八、〇七〇、五三五 |
| イヅナ | 一八五四 | 七三、〇二九、四二七 | 五、二七五、四〇〇 |
| スツツトガート生命保險、貯蓄 | 一八五四 | 三三一、一五五、二三六 | 二五、四五三、二〇〇 |
| ダルムスタット年金 | 一八五五 | 九、〇一三、三四九 | 三九五、一〇〇 |
| スツツトガート一般年金 | 一八六一 | 四四、七九八、〇七二 | 四、五三九、〇〇〇 |
| ライプチヒ相互 | 一八六一 | 八、五七六、八四〇 | 一、七〇〇、二三九 |
| カルスルーヘ一般豫備 | 一八六四 | 二七五、三八三、九五六 | 二四、三九二、五三八 |
| ブレーメル | 一八六七 | 二七、二九八、八七九 | 三、九〇三、五三〇 |
| ポツツダーム、ドイツチエ | 一八六八 | 五九、七六〇、六五二 | 六、二一〇、二五七 |
| プロメトイス | 一八七一 | 二、九七六、九四七 | 一九六、〇〇〇 |
| 陸軍及海軍 | 一八七二 | 二〇、一八五、三〇〇 | 一、二五二、〇〇〇 |
| ヴエスタ | 一八七三 | 一三、三八一、九二一 | 二、二七一、六〇〇 |
| アトロポース | 一八七三 | ※一、一三九、八六五 | ※九四、九五〇 |
| パチツセ、ミリテール | 一八七五 | ※一、八一一、九五〇 | ※二九四、五二〇 |
| 普魯西官吏組合 | 一八七五 | 六七、一八二、七五〇 | 九、一四九、七〇〇 |
| ドイツランド（ベルリン） | 一八八九 | 五、八三八、四〇〇 | 四、二八一、八〇〇 |
| 小計 | | 一、九七四、一八五、〇六五 | 一六八、四三六、六五〇 |

表中※印ヲ付シタルモノハ千八百八十九年ノ調査ナリ

| 株式（混合）會社 | | | |
|---|---|---|---|
| リユベツク | 一八二八 | 一四七、九九四、五五九 | 八、八六三、六九九 |
| ベルリニツセ | 一八三六 | 一三三、八九四、三三五 | 一〇、〇四八、五〇〇 |
| ミユンヘン | 一八三六 | 五三、五五二、五〇二 | 六、八〇六、九三六 |
| フランクフルテル | 一八四四 | 五〇、二四八、八九三 | 五、四八一、七一七 |
| ヤヌス | 一八四七 | 七四、九〇八、七九〇 | 七、四〇四、八四〇 |
| トイトニア | 一八五二 | 一一一、一三三、三五一 | 一〇、九八九、二七四 |
| コンコルヂア | 一八五三 | 一八四、四九四、一八六 | 一三、五六八、七四三 |
| マグデブルゲル | 一八五六 | 一〇五、四三六、六七〇 | 九、五五三、八七一 |
| チユーリンギア | 一八五六 | 七七、三八四、九六七 | 五、三五八、〇五五 |
| ゼルマニア | 一八五七 | 三九四、〇九七、五〇七 | 三四、一六三、七九〇 |
| プロビデンチア | 一八五七 | 五〇、七九六、五一五 | 二、八二〇、九二八 |
| ヴヰクトリア | 一八六一 | 一七七、四七九、九三一 | 三一、五三五、八七二 |
| プロイシツセ | 一八六五 | 七五、〇九七、八二四 | 九、五四七、七〇〇 |
| ウヰルヘルム | 一八六六 | 四九、五四四、〇四一 | 四、五〇九、八六四 |
| ノルドステルン | 一八六七 | 八〇、六八〇、七〇六 | 一〇、〇九三、二〇一 |
| フアーテルレンヂツセ | 一八七二 | 四五、五八二、九一八 | 五、五二九、七四〇 |
| シレージツセ | 一八七二 | 三一、九一六、六六九 | 四、四八九、四九五 |
| マグデブルゲル、アルゲマイネ | 一八七三 | 六五、四八四、四〇〇 | 一三、一一八、〇八五 |
| ニユルンベルグ | 一八八四 | 八、三一九、八七四 | 一、九八三、七六五 |
| ウラニア | 一八九一 | 七九一、六七七 | 九二八、八六七 |
| 小計 | | 一、九一三、八四〇、二〇五 | 一九五、七六四、九四二 |
| 總計 | | 三、八八八、〇二五、二七〇 | 三六四、二〇一、五九二 |

即ち保險金額に於ては　相互會社　一、九七四、一八五、〇六五馬克
　株式會社　一、九一三、八四〇、二〇五馬克

新契約金額に於ては　相互會社　一六八、四三六、六五〇馬克
　株式會社　一九五、七六四、九四二馬克

にして其事業を比れば、伯仲の間に在りと謂はざるべからず、唯その株式會社にありては、非常に盛大なるもの少しと雖、亦非常に小なるもののなきは、

注目すべきことなり、蓋し射利的の會社と非射利的の會社は創立の精神に於て大に異る所あり、從て非射利的の會社にありては、往々營業を小區域に限り或は一種の資格を有する人に限る等のことあると、通常、來るものは拒まず去るものは追はずといふが如き主義を以て立つが故に、其事業甚だ盛大ならざるものあり、之に反して、射利主義の會社は、事業を擴張するに非んば、目的とする所の利益を得べからざるが故に、非常なる競爭をなし、非常なる勸誘を試みても、事業を擴張するを常とし、一たび會社を起したる以上は、決して相互會社の如く冷淡なる能はざるものなり、これ株式會社の非常に小なるもの少き所以なり、之を左表に見よ、同一なる事業を營むに、ひとり株式會社にありて、多額の費用を要するは、競爭の結果たるを知るに足る、ひとり株式會社にありて解約の多きは、勸誘の結果たるを知るに足る、左表は一昨年末に於て一億萬馬克以上の保險契約をなせる獨逸國十一生命保險會社の表なり

| 會社略名 | 組織 | 千八百九十一年末現在保險契約額（馬） | 同上、全獨逸ニ於ケル比例（%） | 一八九一年中費用ノ貫入ニ於ケル比例（%） | 一八九一年中解約額同年末現在契約ニ於ケル比例（%） |
|---|---|---|---|---|---|
| ゴーター | 相互 | △六〇七、七三七、八〇〇 | △一五・七三 | △五・二〇 | △〇・七八 |
| ゼルマニア | 混合 | 三九四、〇九七、五〇七 | 一〇・二〇 | 九・九四 | 二・〇六 |
| ライプチーゲル | 相互 | △三三五、九七八、五〇〇 | △八・七〇 | △七・一一 | △一・三八 |
| スツットガート保、貯 | 相互 | △三三一、一五五、二三六 | △八・五七 | △五・五〇 | △〇・九九 |
| カルスルーヘ | 相互 | △二七五、三六五、六二八 | △七・一三 | △六・五〇 | △一・三八 |
| コンコルヂア | 混合 | 一八四、四九四、一八六 | 四・七六 | 一〇・四三 | 二・〇九 |
| ヴヰクトリア | 混合 | 一七三、四一七、九三一 | 四・四九 | 一三・八七 | 二・五六 |
| リユベック | 混合 | 一四七、九九四、五五九 | 三・八三 | 一〇・九五 | 一・六七 |
| ベルリニッセ | 混合 | 一三二、八九四、三三五 | 三・四四 | 一〇・九八 | 二・二三 |
| トイトニア | 混合 | 一二一、一三三、二五一 | 二・八八 | 一三・五七 | 三・七三 |
| マグデブルゲル | 混合 | 一〇一、三〇九、九七〇 | 二・六二 | 一四・〇一 | 四・〇二 |

第三　相互會社は株式會社に比すれば安全なり

元來生命保險なるものは、毎年度の始めに於て、各被保人より豫め保險料を徵收し置き、其内より保險の實費を支拂ふものたるが故に、其運轉宜しきを失するか、保險料の算法誤謬を有するか、被保人の數少きに失するに非んば、通常の年に於ては必ず支出殘金を生ずべきものなり、然れども被保人の數未だ必しも減ぜざることを保すべからず、保險料の運轉未だ必ずしも宜しきを失はざるを保すべからず、特に流行病戰爭天災地變等の死數の割合を紊ること、又これなきを保すべからず、これ生命保險株式會社に於て、所謂株金なるものを置て、一時の不足に備ふる所以なり

相互會社には、通常此一時の不足を償ふ可き資金なきものなり其代り、被保人は幾何にても、之を償ふに足るまで保險料を追拂するものなり

彼は有限の資本（株金）を以て無限の不足を擔保するものにして、此は無限の責力（追拂）を以て無限の不足を擔保するものなり、破産が先づ何れの會社を襲ふ可きか、何れの會社が危險なるべきかは、喋々を待ずして明なるべし然り、株式會社に於ては破産の恐れなきに非るべし、然れども株式會社が破産するほどの大損害大不足を生ぜし時に當り、追拂をなさしめて之を塡めんとせば、被保人は其負擔に堪へざるべし、との反對論を唱ふるものなきにあらざるべしと雖、余は之に答て、單に、

第四　相互會社に於て保險料を追徵するが如きは實に絕無僅有のことにして偶之あるも決して多額に上るべきものにあらず

と曰はんのみ、如何となれば、生命保險學が高尙なる學理と深遠なる經驗とによりて守育せられ、獨立の科學に數へらるゝ迄進歩したる今日、少しも斯學の道理に通ぜざるものをして計畫せしめ遂行せしむれば不知、苟も幾近の學理に參して之を組織し、相當の知識あるものをして之を管理せしむるに於ては、生命保險會社の株金が役に立つといふこと既に稀なり、若し然らずして頻りに株金を以て不足を補ふが如きことあるものならば、保險會社株主は頻りに無配當に甘ぜざるべからず、內外の實例は果して如此ことを示すか、ヨシ數歩を讓りて之ありとするも、數年平均の上に於ては收支相償ふだけの、否マダ其上に餘裕（利益）を生ずるだけの保險料を徵收するに非んば株主となる人のあるべき筈なし、然るに、相互會社に於ては、利益ありし年に於て生ぜし餘裕は、其年直ちに被保人に返戻せずして（通常利益積立金と名け）三年乃至五年間預り置き、萬一其年の收入を以て保險の實費を償ふに足らざる時、先づ此利益積立金を用ゆるが故に、所謂株式會社にありて株金の役に立つが如き年に於ても、大抵は追徵をなさずして濟むべきものなればなり



利益積立金を以て償ふべからざるほどの大不足を生ずることは、實に絕無僅有といはざるべからず、然れども百年に一度にせよ千年に一度にせよもし之あらば、被保人は如何ほどまでの負擔をなすべきかといふことは研究し置かざるべからず、今一例に就て說明せんに、明治生命保險會社が、十萬圓の株金を有し毎年凡二十萬圓の保險料を徵收するとすれば、此十萬圓の擔保に代るには、利益積立金を外にしても被保人が萬一の時半年分の保險料を追徵さるゝことを覺悟せざるべからず、それ丈を覺悟すれば此株金なるものは全く除くことを得て、年々此株金の爲に壟斷せらるゝ所の利益は被保人に歸り來るべきものなればなり

明治、帝國、日本三會社の如く發達し來れば、相互會社の追徵は少額を超へずと雖、其極めて幼稚なる間に於ては、如此ならざるべしとの疑を抱く人あるべし、然れども毎年二十萬圓の保險料を徵收する事業にして、變動十萬圓を出でずとすれば、十萬圓の保險料を徵收する事業にては、五萬圓を出づるものにあらず、固より事業の縮小するだけ、平均を得難くなるが爲に、極々幼稚なる間は、時として方外の割戻を受くることもあるべければ、又多少不廉なる保險料を拂はざるべからざることなきにしも非るべしと雖、如此は僅々二三年間のことにして、之を、發達したる株式會社の破產して數十年間拂込みたる保險料を悉皆水泡に歸せしむるの慘害に比すれば、日を同ふして論ずべきに非るなり、特に保險契約後凡十年間は、體格檢査の力頗著明にして其死數少きを常とするが故に、相互會社の幼稚なる時に當りて保險料の追徵非常の額に上るの恐は殆之なきものなり參考としてゴーター會社の經驗を示す

獨逸ゴーター會社男子被保人死亡數

| 年齢 | 保險契約後 一年乃至五年間死數（%） | 保險契約後 一年乃至十年間死數（%） | 保險契約後 十一年以上死數（%） |
|---|---|---|---|
| 二六—三〇 | 〇・六〇 | 〇・六一 | — |
| 三一—三五 | 〇・六四 | 〇・六七 | 一・〇四 |
| 三六—四〇 | 〇・七四 | 〇・八〇 | 一・一二 |
| 四一—四五 | 〇・八六 | 〇・九五 | 一・二五 |
| 四六—五〇 | 一・一八 | 一・二五 | 一・四八 |
| 五一—五五 | 一・五九 | 一・七六 | 一・九三 |
| 五六—六〇 | 二・四六 | 二・六〇 | 二・八四 |
| 六一—六五 | 二・七七 | 三・五四 | 四・一八 |
| 六六—七〇 | 三・七九 | 四・七七 | 六・三八 |

第五　相互會社の保險料は低廉なり

「安くてヨイものがほしい」とは、千人が千人萬人が萬人希望する所なりと雖、惜哉世間如此事甚だ少し、其偶之あるはそれ相互生命保險なるか相互會社の安全確實なること、即所謂「よいもの」たることは既に上に論ぜり、今其「安いもの」たることを示さんが爲に、獨逸十一生命保險會社の保險料を揭げん

四相互會社假定保險料比較（尋常終身保險）

| 會社名 | ゴーター | ライプチーゲル | スツットガート | カルスルーヘ |
|---|---|---|---|---|
| 純保險料豫算根據 死亡表 | パツベージ氏表 | パツベージ氏表 | 二十三會社表 | ブルン、フキフセル氏表 |
| 純保險料豫算根據 利率 | 三銖 | 三銖 | 三銖半 | 三銖半 |
| 被保人年齢 二五 | 二・三六 | 二・三六 | 二・二三 | 一・七九 |
| 三〇 | 二・六三 | 二・六三 | 二・四六 | 二・一三 |
| 三五 | 二・九七 | 二・九七 | 二・七六 | 二・五五 |
| 四〇 | 三・三九 | 三・三九 | 三・一八 | 三・〇八 |
| 四五 | 三・九六 | 三・九六 | 三・七六 | 三・七七 |
| 五〇 | 四・七三 | 四・七三 | 四・五七 | 四・七〇 |
| 五五 | 五・七四 | 五・七四 | 五・六九 | 五・九七 |
| 六〇 | 七・一六 | 七・一六 | 七・〇八 | 七・七二 |
| 最近五年間平均割戻（一昨年調査） 保險料一〇〇・〇ニツキ | 三九・八 | 四二・二 | 三四・四 | 不明 |

表中カルスルーヘ會社の最近五年間平均割戻の率を詳にせずと雖、同社は一昨年中保險料として

九、〇三一、三四四馬克

を收入し、年末に至り被保人へ

二、一六二、〇一〇馬克

返戻し居るを以て、之を率とすれば保險料一〇〇・〇に對して

二三・九

を返戻することゝなれども、上の四會社は總て契約後五年を經過せざる被保人には分配をなさゞるが故に、其割戻率を

二五・〇%

と假定して次表割戻差引保險料を算出せり

## 十一 會社保險料比較（尋常終身保險）

| 會社名 | 純保險料算定根據 死亡表 | 純保險料算定根據 利率 | 被保人年齡 二五 | 三〇 | 三五 | 四〇 | 四五 | 五〇 | 五五 | 六〇 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **相互會社** | | | **割戻差引保險料** | | | | | | | |
| ゴーター | — | — | 一・四三 | 一・五八 | 一・七九 | 二・〇四 | 二・三八 | 二・八五 | 三・四六 | 四・三一 |
| ライプチーゲル | — | — | 一・三六 | 一・五三 | 一・七三 | 一・九三 | 二・二九 | 二・七三 | 三・三三 | 四・一四 |
| スツットガート | — | — | 一・四六 | 一・六一 | 一・八一 | 二・〇九 | 二・四七 | 三・〇〇 | 三・七三 | 四・六四 |
| カルスルーへ | — | — | 一・三四 | 一・六〇 | 一・九一 | 二・三一 | 二・八三 | 三・五三 | 四・四八 | 五・七九 |
| **株式會社** | | | **保險料（利益配當なし）** | | | | | | | |
| ゼルマニア | 英十七會社表 | 三銖半 | 一・八三 | 二・〇七 | 二・四一 | 二・八四 | 三・四一 | 四・一九 | 五・二二 | 六・五九 |
| コンコルデア | 英十七會社表 | 三銖半 | 一・七八 | 二・〇四 | 二・三八 | 二・八三 | 三・四三 | 四・二一 | 五・二七 | 六・六九 |
| ヴヰクトリア | 英十七會社表 | 三銖半 | 一・七八 | 二・〇五 | 二・四〇 | 二・八五 | 三・四三 | 四・一八 | 五・二〇 | 六・六二 |
| リュベック | 英十七會社表 | 三銖七五 | 一・七七 | 二・〇三 | 二・三八 | 二・八三 | 三・四六 | 四・二七 | 五・三七 | 六・九〇 |
| ベルリニッセ | ブルン氏表變形 | 三銖 | 一・七三 | 二・〇一 | 二・三七 | 二・八三 | 三・四三 | 四・二一 | 五・二七 | 六・八二 |
| トイトニア | 獨二十三會社表 | 三銖半 | 一・八一 | 二・一三 | 二・四三 | 二・八三 | 三・三七 | 四・〇九 | 四・九六 | 六・〇七 |
| マグデブルゲル | 英十七會社表 | 三銖半 | 一・八七 | 二・〇八 | 二・三六 | 二・七六 | 三・三三 | 四・四一 | 五・三三 | 六・三〇 |
| 純保險料 | 英十七會社表 | 三銖半 | 一・五六 | 一・八〇 | 二・一〇 | 二・四八 | 三・〇一 | 三・七〇 | 四・六三 | 五・八九 |

相互會社保險料の低廉なること頗る著明なり、然りと雖唯如此事實を示したるのみにては此事實を疑ふ所の人なきを期すべからざるが故に、少しく其低廉なるべき理由に就て述べんと欲す

因曰　相互會社の保險料が却て純保險料よりも廉なるは實際に於て金利が三銖半よりも大なると死數が英十七會社表よりも小なるとによる



### 參考本邦生命保險會社利益配當なし保險料

| 會社 | 死亡表 | 利率 | 二五 | 三〇 | 三五 | 四〇 | 四五 | 五〇 | 五五 | 六〇 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治 | 英十七會社表 | 四銖 | 二・〇〇 | 二・二九 | 二・六六 | 三・一五 | 三・八四 | 四・七六 | 五・九九 | 七・六六 |
| 帝國 | 不詳 | 不詳 | 一・九四 | 二・二一 | 二・五三 | 二・九四 | 三・四七 | 四・七一 | 五・七六 | 七・三七 |
| 日本 | 藤澤氏表 | 四銖 | 一・九八 | 二・二六 | 二・五六 | 三・一四 | 三・八〇 | 四・六七 | 五・八二 | 七・四〇 |
| 純保險料 | 藤澤氏表 | 四銖 | 一・七四 | 一・九九 | 二・二八 | 二・七〇 | 三・三三 | 三・九一 | 四・八四 | 六・一三 |
| 明治會社利益配當附保險料 | | | 二・二四 | 二・五五 | 二・九三 | 三・四三 | 四・一三 | 五・一三 | 六・四四 | 八・三三 |

總て生命保險會社每年の收入は左の如く支出さるべきものにして

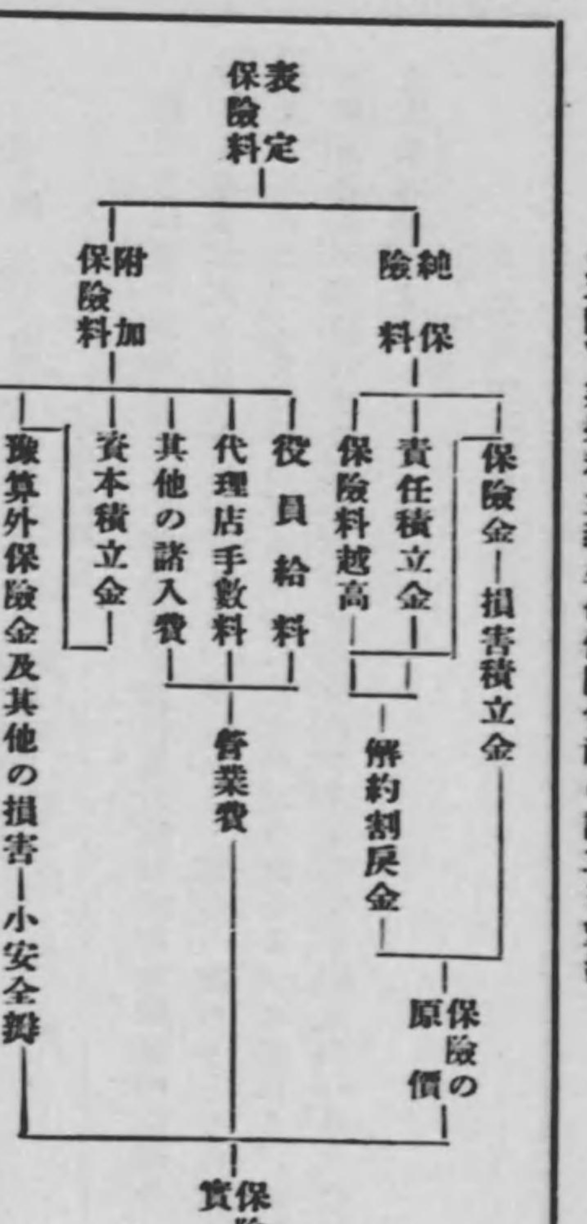
- 支出
  - 保險の實費
    - 保險金
    - 損害積立金（シャーデンレゼルベー）（支拂はるべき保險金の未だ支拂はれざるもの）
    - 責任積立金
    - 解約割戾金
    - 保險料越高
    - 營業費
      - 役員給料
      - 代理店手數料
      - 其他の諸入費
  - 純益
    - 配當
      - 株式會社なれば株主に配當され
      - 混合會社なれば株主と利益配當附被保人に配當され
      - 相互會社なれば一般被保人に配當さる
    - 資本積立金（會社を安全にする爲に積立つるもの）
    - 手許殘金

圖の中に於て射利會社と非射利會社の異る所は、唯その純益の一部分（配當）を株主が取ると被保人が取るの一事にあり、假令一厘たりとも代價を返戻するものは、之を返戻せざるものに比すれば低廉なるべき筈なり、これ余が相互會社の保險料は低廉なるべき道理ありと主張する所以の一なりなほ之を左表に考へよ

| 相互會社 | 千八百八十九年度 純益 | 一般被保人へ配當 | 株主へ配當 | 千八百九十一年度 純益 | 一般被保人へ配當 | 株主へ配當 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ゴーター | 七、〇九一、二七一馬 | 七、〇九一、二七一馬 | —馬 | 七、〇三四、一四九馬 | 七、〇三四、一四九馬 | —馬 |
| ライプチーゲル | 三、四六三、六〇七 | 三、四六三、六〇七 | — | 三、七六五、六四二 | 三、七六五、六四二 | — |
| スツットガート | 三、四五三、八六八 | 三、二五三、八六八 | — | 三、六六六、七一一 | 三、三一六、七一一 | — |
| カルスルーへ | 一、七五九、一四六 | 一、七〇九、一四六 | — | 二、三六三、〇一〇 | 二、二六三、〇一〇 | — |
| **混合會社** | | 利益配當附被保人へ配當 | | | 利益配當附被保人へ配當 | |
| ゼルマニア | 二、六二三、三二一 | 二、三二五、八一五 | 二七〇、〇〇〇 | 二、八〇八、四三二 | 二、四三六、二二九 | 二七〇、〇〇〇 |
| コンコルヂア | 一、二八五、八六七 | 七三〇、九七五 | 四五〇、〇〇〇 | 一、一一二、三四〇 | 六一九、四〇四 | 四五〇、〇〇〇 |
| ヴヰクトリア | 一、一五六、七五六 | 七五六、七三二 | 三三四、三三〇 | 一、九三〇、四三一 | 一、三〇一、九三一 | 三三〇、〇〇〇 |
| リュベック | 四〇二、八二八 | 三五五、〇〇〇 | 八五、〇〇〇 | 四四八、五七九 | 二六七、七五〇 | 八九、二五〇 |
| ベルリニッセ | 一、一一八、四五八 | 八四四、八八八 | 一八六、九六七 | 一、〇〇七、四五三 | 八三五、四九八 | 一八一、〇〇〇 |
| トイトニア | 二八五、八九四 | 一八八、〇〇〇 | 四九、五〇〇 | 三三九、三三三 | 二五七、〇〇〇 | 四九、五〇〇 |
| マグデブルゲル | 四六三、三七三 | 二六七、九九八 | 一〇〇、〇〇〇 | 四一七、六六四 | 三三七、六八九 | 一〇〇、〇〇〇 |

純粹の株式會社は如何に多額の純益を得るとも一厘も被保人に返戻せざるを常とす

總て生命保險會社の表定保險料（タリフプレミー）は二種の分子よりなるものにして、一を純（ネッ）保險料（トプレミー）といひ、一を附加保險料（ブーシラーグス・プレミー）（グロッスプレミアム）（ローヂング）といふ、二種のもの各其用あり、之を徴收するの目的全く特別にして、少しも混同すべからざるものとす




精細に論ずれば保險料越高は附加保險料をも含むべきものにして責任積立金も亦短期拂込に限り所謂營業費積立金として附加保險料の一部を含む圖の示す如く純保險料は、保險の實費中より營業費を引去りたるもの即保險の原價に充つるが爲に徵收せらるゝ者にして、是を算出するには、先づ一定の死亡表と一定の利率を擇び、人は必ず擇びたる死亡表の通りに死亡するものと假定し、金は必ず擇びたる利率に從ふて利殖するものと假定し、複雜なる算法を以て算出するものなり

附加保險料は、營業費と小安全鋪（株式會社の資本金及相互會社の追拂は大安全鋪と謂つ可し）と及び株式會社にありては利益を得ん爲に徵收せらるゝものにして、之を算出するには、純保險料を標準とし若くは純保險料と保險金とを標準とし、單に其二割乃至三割に當らしむるか或は幾何級數と名くる數の配置を以て年齡の長ずるに從ひ割掛の度合を高むるを通常とす

然れども、人は必しも死亡表の通りに死亡するものにあらず、生命保險を申込む所の人の中には世間一般の人の中に於けるよりも比較的多くの不健康なる人を含む、不健康なる人多ければ其死數豫算（死亡表）よりも多きに上るの恐あり、これ體格診査をなして被保人を選擇する所以なり

| 會社略名 | 組織 | 千八百八十九年度 保險申込 | 千八百八十九年度 謝絕及申込中止 | 申込一〇〇・〇ニツキ | 千八百九十一年度 保險申込 | 千八百九十一年度 謝絕及申込中止 | 申込一〇〇・〇ニツキ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 馬 | 馬 | % | 馬 | 馬 | % |
| ゴーター | 相互 | 三八、九六四、八〇〇 | 六、〇七九、一〇〇 | △一五・六 | 四五、〇〇八、三〇〇 | 五、九九〇、八〇〇 | △一三・三 |
| ゼルマニア | 混合 | 五〇、一九二、三〇三 | 一二、九六〇、一四四 | 二五・八 | 四五、三七二、八五八 | 一一、二一〇、〇六八 | 二四・七 |
| ライプチーゲル | 相互 | 三五、二三九、七五〇 | 七、五三一、〇〇〇 | △二一・四 | 三八、七六一、七〇〇 | 八、三〇八、五〇〇 | △二一・四 |
| スツットガート保、貯 | 相互 | 三三、四八三、一九七 | 六、九〇四、五五〇 | △二〇・六 | 三二、五四五、九〇〇 | 七、〇九二、七〇〇 | △二一・八 |
| カルスルーへ | 相互 | 二五、七一八、三〇六 | 五、一〇三、五〇〇 | △一九・八 | 三一、二二六、〇二八 | 六、八二三、五〇〇 | △二一・九 |
| コンコルデア | 混合 | 一五、三五八、七九三 | 三、五九〇、三〇〇 | 二三・四 | 一七、〇六五、三四三 | 四、五三六、六〇〇 | 二六・五 |
| ヴヰクトリア | 混合 | 三七、三五八、六五〇 | 九、五五三、三四〇 | 二五・六 | 四四、三三九、〇七九 | 一二、八〇三、二〇七 | 二八・九 |
| リユベック | 混合 | 一〇、七三九、六二五 | 二、五三三、八五〇 | 二三・六 | 一一、九〇六、〇三七 | 三、〇四二、三三八 | 二五・六 |
| ベルリニッセ | 混合 | 一三、六一四、八〇〇 | 三、六四〇、五〇〇 | 二六・七 | 一三、三三九、二〇〇 | 三、二八〇、七〇〇 | 二四・六 |
| トイトニア | 混合 | 一五、二九八、五一一 | 二、八七九、六七五 | 一八・八 | 一四、一二一、三六一 | 三、一三三、〇八六 | 二三・一 |
| マグデブルゲル | 混合 | 一五、一三一、七二一 | 三、八八〇、三〇〇 | 二五・六 | 一三、七三七、六三五 | 四、一八四、七六四 | 三〇・五 |

契約の成立せる中にも豫算よりも非常に高き保險料を拂はしめしものあり

申込中止は、大抵不健康なる人が豫算以上の保險料を拂ふことを承諾せざるによるものなるが故に、謝絕と同じく身體選擇の爲に破棄せしものと見て大なる誤なし

如此選擇したる結果は如何被保人の死數は却て死亡表よりも少きを常とす



千八百九十一年中死亡者へ保險金支拂

| 會社略名 | 組織 | 死亡表に據りて豫算すれば | 事實 | 差 | 差の豫算に於る比例 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 馬 | 馬 | 馬 | % |
| ゴーター | 相互 | 三、五九〇、八三四 | 二、〇七五、四〇〇 | 一、五一五、四三四 | △四二・〇四 |
| ゼルマニア | 混合 | 六、二四五、四五三 | 五、五五五、三五九 | 六九〇、〇九四 | 一一・〇五 |
| ライプチーゲル | 相互 | 五、五六二、七七三 | 四、二九六、四七六 | 一、二六六、二九七 | △二二・七六 |
| スツットガート保、貯 | 相互 | 五、四一八、七二九 | 四、三五八、二四五 | 一、〇六〇、四八四 | △一九・五七 |
| カルスルーへ | 相互 | 三、五一〇、九〇一 | 二、六六八、〇〇〇 | 八四二、九〇一 | △二四・〇一 |
| コンコルデア | 混合 | 三、五四七、三〇八 | 三、五一〇、四六七 | 三六、八四一 | 一・〇四 |
| ヴヰクトリア | 混合 | 一、九二一、一五三 | 一、二〇三、六四一 | 七〇七、五一二 | 三七・〇二 |
| リユベック | 混合 | 二、九二〇、三七二 | 二、六五四、七八六 | 二六五、五八六 | 八・七八 |
| ベルリニッセ | 混合 | ? | 二、三一五、一三一 | ? | ? |
| トイトニア | 混合 | 一、八四九、五九二 | 一、六一七、九九〇 | 二三一、六〇二 | 一二・五二 |
| マグデブルゲル | 混合 | 一、七三三、三三八 | 一、七一三、一二七 | 二〇、二一一 | 一・一六 |

金利も亦每年變動すべきものなれば、事實が豫定の利率に符合することは決して期すべからず、而して市上の金利は年々低落の模樣あるに、生命保險契約は往々五六十年以上にも亘ることあるが故に、豫定利率は概して當時の低利よりも尙一層低きものなり

千八百七十四年乃至千八百九十一年收入利息平均率

| 會社略名 | 豫定利率 | 一八七四 | 一八七五 | 一八七六 | 一八七七 | 一八七八 | 一八七九 | 一八八〇 | 一八八一 | 一八八二 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ゴーター | 三・〇〇 | 四・八三 | 四・八一 | 四・七八 | 四・七四 | 四・七四 | 四・七三 | 四・六六 | 四・六〇 | 四・五六 |
| ゼルマニア | 三・五〇 | 四・九八 | 五・〇四 | 五・〇五 | 五・〇五 | 五・〇六 | 五・〇四 | 四・九八 | 四・八五 | 四・七〇 |
| ライプチーゲル | 三・〇〇 | 四・九二 | 四・九四 | 四・九六 | 四・八九 | 四・八五 | 四・八五 | 四・八九 | 四・八〇 | 四・七三 |
| スツットガート保、貯 | 三・五〇 | 五・四九 | 五・四四 | 五・四〇 | 五・三八 | 五・三二 | 五・二四 | 四・九五 | 四・八〇 | 四・七〇 |
| カルスルーへ | 三・五〇 | ? | 五・一八 | 五・一一 | 五・二〇 | 五・一三 | 五・一一 | 五・〇〇 | 四・八七 | 四・七七 |
| コンコルデア | 三・五〇 | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? |
| ヴヰクトリア | 三・五〇 | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? |
| リユベック | 三・七五 | ? | ? | ? | ? | ? | ? | 四・八六 | 四・七三 | 四・六一 |
| ベルリニッセ | 三・〇〇 | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? |
| トイトニア | 三・五〇 | ? | ? | ? | ? | ? | ? | 四・九二 | 四・八一 | 四・八三 |
| マグデブルゲル | 三・五〇 | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? |

| 會社略名 | 一八八三 | 一八八四 | 一八八五 | 一八八六 | 一八八七 | 一八八八 | 一八八九 | 一八九〇 | 一八九一 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ゴーター | 四・五〇 | 四・四六 | 四・三八 | 四・二九 | 四・一八 | 四・一一 | 四・〇六 | 四・〇二 | 四・〇二 |
| ゼルマニア | 四・六七 | 四・六五 | 四・六二 | 四・六一 | 四・三八 | 四・二四 | 四・二三 | 四・一六 | 四・一八 |
| ライプチーゲル | 四・六七 | 四・五六 | 四・五六 | 四・五三 | 四・四五 | 四・三七 | 四・三一 | 四・二七 | 四・二五 |
| スツットガート保、貯 | 四・六三 | 四・五三 | 四・四九 | 四・四五 | 四・四一 | 四・二九 | 四・一九 | 四・〇九 | 四・一四 |
| カルスルーへ | 四・七〇 | 四・六八 | 四・六四 | 四・五三 | 四・四五 | 四・三九 | 四・二八 | 四・二六 | 四・三三 |
| コンコルデア | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? |
| ヴヰクトリア | ? | 四・四八 | 四・三七 | 四・四四 | 四・五四 | 四・四九 | 四・四八 | 四・四九 | 四・五〇 |
| リユベック | 四・六〇 | 四・〇〇 | 四・五八 | 四・五三 | 四・三九 | 四・三〇 | 四・二六 | ? | ? |
| ベルリニッセ | ? | 四・六三 | 四・五六 | 四・五五 | 四・五〇 | 四・四八 | 四・二一 | ? | ? |
| トイトニア | 四・八一 | 四・六五 | 四・五一 | 四・四八 | 四・一三 | 四・一五 | 四・一四 | ? | ? |
| マグデブルゲル | ? | 四・五六 | 四・三四 | 四・一〇 | 四・〇五 | 四・〇〇 | 四・〇〇 | ? | ? |

サテ如此、金利は豫算より多く、死亡は豫算より少しとすれば、保險の原價として徵收したる純保險料が、保險の原價を償ふて尙餘裕を生ずるに至る筈なり、コレ丈は實に豫算外の利益と謂はざるべからず、例へば今確實なる貸金の金利が六銖にマハルべき時に於て、四銖利を以て計算せる保險料を支拂ふ被保人は、每年二銖の損失をなせるものにして、如此被保人の損失が會社の豫算外利益となるものなり、然るに相互會社に於ては、此豫算外利益を將て其一部を役員賞與に充るの他は、他の殘金と共に悉く被保人に返戾するは勿論、假令當時の金利を以て保險料算定の根據に用ゆる所の豫定利率となし置くとも、保險料の追徵若くは變更等自由なるが故に、少しも危險なきものなれども、之に反して若し株式會社が保險契約當時の利率を以て、保險料算定の根據に用ゆる所の豫定利率となすときは數十年の後ち一般金利下落して忽ち保險料の不足を感ずるに至る恐れあり、之を要するに相互會社の被保人が拂込む所の保險料は、每年會社が收入せし所の利率によりて計算せられ、株式會社の被保人が拂込む所の保險料は、每年會社が收入する所の利率よりも低き利率によりて徵收せらるゝに外ならざるものなり、これ余が相互會社の保險料は低廉なるべき道理ありと主張する所以の二なり

第六　相互會社と株式會社の利害比較一覽（結論）

| 相互會社は被保人の會社なり | 株式會社は株主の會社なり |
|---|---|
| 非射利主義 | 射利主義 |
| 自治體 | 生命保險請負 |
| 相互會社は被保人の意志を率じて營業するものなり | 株式會社は株主の意志を率じて營業する者にして被保人の容喙を許さず |
| 相互會社は保險料に制限なきが故に破產の恐絶めて少し | 株式會社は保險料に制限あり資本に限りあるが故に破產の恐多し |
| 相互會社の被保人は毎年保險料として保險の原價（營業費）を負擔するのみ | 株式會社の被保人は毎年保險料として保險の原價（營業費）を負擔するの他に尙會社の利益を負擔せざる可らず |
| 相互會社は無謀の競爭を爲さざるが故に通常營業費少し | 株式會社は競爭をなし易きが故に營業費多きを常とす |
| 故に相互會社の保險料は株式會社よりも低廉なり | 故に株式會社の保險料は相互會社よりも不廉なり |
| 相互會社が利益を得し時は被保人の利益となるものなり | 株式會社が利益を得し時は株主の利益となるものなり |
| 相互會社が損失をなせし時は保險料を借り（追徵）て之を塡め置き平年に於て再び保險料より返却せらるべきものなり | 特に被保人の死亡豫算（死亡表）よりも少きか或は金利敎入豫定利率の上に出る爲に得る所の豫算外利益は被保人の損失とも謂つべきものなり<br>株式會社が損失をなせし時は一時株金を借りて塡め置き平年に於て再び保險料より返却せらるべきものなり<br>然れども株金にて補ふ能はざるほどの損害を蒙りし時は會社は破產して被保人は從來拂込來りたる保險料を水泡に歸せしむるものなり<br>株式會社の管理者は被保人と全く利害を異にする所の株主より公選せらるゝものなるが故に往々被保人の爲に不利益なる人を得ることあり |

相互會社の管理者は被保人の公選に出るが故に奸物の爲に欺瞞さるゝの恐少し

第七　生命保險相互會社は他の會員組織の團體の如く瓦解の恐あるものにあらず

余常に以上の道理を以て相互會社の被保人に利ありて株式會社の被保人に不利なることを說く、未だ曾て反對の說に接せず、唯往々左の如き挨拶を受ることあり、曰く

お蔭を以て幸に相互會社の株式會社に勝る所以を詳にするを得たり、又泰西先進諸國に於て株式會社が非常の勢強を以て事をとるにも關せず、往々冷淡なる相互會社の盛大に及ばざることをも詳にするを得たり、泰西には本邦に存在するが如き株式組織の生命保險會社は近來殆んど其跡を絕ちしことをも詳にするを得たり、加旃株式會社が毎年純益の十分の九までを被保人に返戻するが如き美風を生じたるは全く相互會社の力なることをも詳にするを得たり、然れども東西人情自ら相等しからず、之を從來我邦に存在せし會員組織の團體、種々の頓母子講、諸多の學會等に視るに、其始や非常の盛大を致さゞるもの少しと雖、終に瓦解せざるもの亦殆稀なり、今貴設の最道理に富めるにも拘らず小子の直ちに贊成する能はざる所以のものは、此「會員組織と瓦解」なる聯想が先入主となりて道理を閉黑ならしむる所の一種の感情に制止せらるればなりと、如此淺薄なる論題に就て讀者の眼を煩はさんは、餘りに讀者を思慮淺きものにしたらん樣にて失敬なりと思ひたれば、余は初め此章を草せざりき、然るに二三の長者より

常に意を其間に注ぎ居るものにありては、玉石の別を知る易きのみと雖突然之に臨む或は菽麥を辨じ難からん、假令蛇足の譏をひくとも、惟ふに未だ覺らざるものを覺すに利ありて已に知れるものを知らしむるに害なからん、世人は往々存外なる愚論に雷同するものなればなり



との忠告を受しを以て再び筆を取りて之を結論の後に加ふることゝなれり、讀者幸に其卑近を笑ふ莫れ、夫れ苟も物の性質事の利害を論ぜんとするものは、先づ精緻なる觀察を下さゞるべからず、深く利害の由て起る所以に考到らざるべからず、然らざれば木薬の風に動くを見て妖怪の己を招くとなし、馬車の通ぜざるを聞て卽ち人力車も自轉車も通ぜざるべしと斷定するが如き謬謬に陷り易きものなり、請ふ先づ頓母子講なるもの性質を觀察し、次で其瓦解の由て起る所以を究めん

蓋し頓母子講なるもの通性は、數人乃至數十人相集りて毎一定時に一定の掛金をなすことを前定し置き、毎會割引入札を以て其一回分の掛金總額を落札人へ渡すものにして、落札人は、落札してより滿講に至るまで掛金の割引に與らざるものなり、而して此入札人は、講員に限り、入札權は一株一箇に限り、落札後は入札權を失ひ、株は一人にて幾株を所持するも妨なき等は勿論のことなり

例へば玆に、講株十株、毎月開講、十箇月滿講、一株一回の掛金十圓の講あり、初回に於て、此講金百圓が九十圓にて甲某に落札したりとすれば、甲某は其月殘餘の九人より八十一圓を得て、其代り翌月より九箇月間毎月十四づゝを拂ふことゝなるものなり、而して第二箇月目に至り、此講金百圓が九十一圓にて乙某に落札したりとすれば、乙某は、先づ甲某より十四圓を得、殘餘の八人より七十二圓を得て、其代り翌月より滿講まで十四づゝ拂込むことゝなるなり

さて從來此頓母子講が何故によく瓦解せしやといふことを究むるに幷は常に前の例に引きたる甲某乙某の如き先づ金子を請取りたる人が、金子を請取りてより以後、自己の支拂ふべき金を支拂はざるによるものなり

試みに生命保險相互會社は頓母子講の如く先づ保險金を遽與して、而して後より保險料を支拂はしむるものか非かを考へよ

諸多の學會なるもの性質は讀者諸君の旣に知了せる所、偖して其瓦解の由て起る道路を究むれば二あり、一はその學會が一般會員に取りて何の利益をもなさず何の樂にもならぬことにして、一は會員の多數が會費を拂はず雜誌代を拂はぬにより會の會計が立行かざることなり

生命保險が一般被保人に取りて何の利益にもならず何の樂にもならぬものならば、生命保險會社は學會の如く瓦解し易かるべし、然れども此理由を以て推さば、瓦解は相互會社のみに來らずして株式會社をも襲ふべきなり、生命保險會社の被保人が學會員が會費を忘納する如く保險料を忘納し、生命保險會社が學會が會費不納の人に對して雜誌を送るが如く保險料不納の人に保險金を支拂ふものならば、生命保險會社は學會の如く瓦解し易かるべし、然れども此理由のみを以て推さば、相互會社のみが瓦解して株式會社のみが成立すべき筈なきなり

設て如此に至るも、無理に反對否妨害を加へんが爲に左の如き言を放つものありと聞く

相互會社を起した所で、役員を選むに當て競爭を起さんは必せり、競爭の極未だ必しも良役員を得ると謂ふべからず、且本邦從來の習、確實なる財產家有力なる實業家等概ね如此會の委員幹事等となることを忌む風あり、鉅萬の富を集めて而して終に書生政治家等の擾廻すに供せざれば幸なり

と、嗚呼何ぞ其言の巧にしてシカモ尤らしきや、然れども數百乃至數千數萬の人が相集りて小は百圓二百圓の少きより大は數千圓數萬圓の多きに至るまで金錢を注入し、其中より三四の人を選みて之を一任するもの、何ぞ生命保險相互會社に限らん、請ふ之を世間諸多の株式會社に見よ、會社といふ團體が會員（株主）以外の人の爲に需要に應ずればこそ、特に名けて株式會社といへ、其會員（株主）各自より出せる所の金を擧て、會員中より選擧せる人に一任するの一事に至ては、純然たる會員組織なり、故に其重役選擧に當ては、隱ガ劇烈なる競爭を見ることなきに非ず、然れども恬淡無欲ならざる會員一同は、よく自己の金を託するに安全なる人を擧て之に依頼することを知るに非ずや從來確實なる財產家及有力なる實業家申諸會の役員たるもの少きは事實なれども、コハ諸會なるものゝ事業が概ね如此人の腕を勞するに足らざると、一方には大抵其組織狹小にして如此人が一身を擧て從事すべきほどの報酬をなさゞればなり

學會の朝起暮倒すると、頓母子講に類せるものが忽顯忽隱するは、ひとり

本邦のみに非るなり、特に不完全なる生命保險株式會社の相踵で破產するが如き、斯業の先進諸國の往時に於て最珍しからぬことなり、然れども、古來生命保險相互會社の瓦解せしことは極めて稀なり、カループ氏の生命保險歷史を讀めるものは、誰も知らん（三十四頁第二十五行より）。

多クノ新シキ會社ガ適當ノ資本金、正シキ技術者、學理ニ明ニシテ且節儉ナル管理者ヲ缺キシ爲ニ斃レタリ、生命保險會社ノ破產及其事業ヲ他會社ニ賣ラル、コハ殆ンド虛日ナカリキ、千八百四十四年ヨリ千八百六十七年マデニ英國ニテ二百三十ノ生命保險會社ガ斃レタリ（破產及合併）ソシテソノ中ニハ（Unter diesen）二十四ノ相互會社サヘ（Sogar）アリタリ、此人命ヲ以テ誓マルル所ノ賣買ガドノ位行ハレタカト云フコトハ一二ノ例ガ之ヲ明ニスベシ、なしょなるあっしゅらんす・いんぺすとめんとハ千八百六十一年ニ其事業ヲ停止シ其被保人ヲわあとるろうニ賣リわハ千八百六十二年ニ停止シ其被保人ヲぶりちっし・ねぇしょんニ賣リぶハ千八百六十五年ニ停止シテ其被保人ヲいうろぴあんニ賣レリ、サレバ四年ノ間ニ同ジ保險證書ガ港ニ達セザルウチ三度ヨリ少カラザル破船ニ遇ヘリ

といへることを、倘余が言を解せざるものは請且外にありて余輩のなす所を見よ余は今如此人に敎ゆるの閑を有せず

## 計畫の一班

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第一 | 發起人 | 第十二 | 會社管理法（委員會） |
| 第二 | 開業 | 第十三 | 臨時委員會 |
| 第三 | 基本金及創業費 | 第十四 | 委員 |
| 第四 | 設計者 | 第十五 | 地方委員 |
| 第五 | 死亡表 | 第十六 | 總裁 |
| 第六 | 豫定利率 | 第十七 | 役員 |
| 第七 | 表定保險料 | 第十八 | 醫局組織 |
| 第八 | 保險の種類 | 第十九 | 本社、支社、代理店 |
| 第九 | 營業區域 | 第二十 | 收利法 |
| 第十 | 保險金額 | 第二十一 | 營業費 |
| 第十一 | 被保人の年齢 | 第二十二 | 役員給料及賞與金 |
| 第二十三 | 資本積立金 | 第二十五 | 利益配當の所置 |
| 第二十四 | 利益配當 | 第二十六 | 每年報告 |

## 計畫の一斑

### 第一 發起人

發起人會を開きたる後其姓名を公にすべし

### 第二 開業

同志五百名以上に達せば直ちに開業せんと欲す目下旣に贊成加入を約し居らるゝ諸君少からざるが故に遲くとも來春には開業の運びに至るべし

### 第三 基本金及創業費

相互會社の幼稚なる間に於て保險料の追徵多額に上らんことを恐るゝものを安心せしむるが爲に基本金なるものを具ふることあり而して之を具ふるに二途あり其一は慈善家の義捐に出るものにして數千金若くは數萬金の義捐をなせしものは其血統のあらん限り會社のあらん限り名譽役員の一に居り義捐金の利子に相當するほどの報酬を受くるを常とす其一は、發起人若くは社員中より株金樣のものを募り每年之に利子を拂ひ豫定の年限若くは會社の事業が豫定の大さに達するを度とし之を返却するものなり

若し相當の義捐をなす人あらば余は會社に勸めて喜んで之を受けしむべし追徵を恐るゝ人を安心せしむるは兎に角速に事業を擴張せんと欲せば先づ相當の費用を要すればなり而して速に事業を擴張することは會社を安全ならしむる所以にして又追徵を恐るゝ人を安心せしむる所以なればなり然れども所謂基本金なるものを株金の如くにして募るべきや否に至ては發起人諸君の意見を聞き余の意見をも述べて之を決せんと欲す

若し又會社基本金を置かずとすれば創業入費として入會金なるものを徵收せんと欲す全世界生命保險事業の嚆矢として生命保險學者間に公認せられし所の英のアミケーブル會社（相互）は一人につき三磅十五志の入會料を徵し（ダヴィッド・ジョーンズ氏のヴァリュー・ヲブ・アンニュイチースに載する所は金額少く異れり玆にはカループ氏に從ふ）獨逸生命保險會社の鼻祖といはるゝゴーター會社（相互）は始め入會金として一年分保險料の四分一を徵收せり今一百圓の保險に對して一圓の入會料を徵收すれば一人平均三百圓の



保險を申込むものと假定し五百人にて入會金千五百圓を得るが故に節約すれば之を以て創業費を支ふるに足るべし而して此入會金は會社に餘裕を生ずるに至らば相當の利子を附して返却し以後之を徵收することを止めたきものなりゴーター會社は七年目に至りて四銖の利を附して悉く之を返戾し之と同時に入會金の制を廢せり

### 第四 設計者

近來續々興起する所の生命保險會社は如何なる學者の設計になりて如何なる材料を根據とするや詳にせずと雖會社百年の長計を立つるに當ては深考熟計全力を玆に注がんことを要す苟も然らずして其設計にして誤謬あらん乎株式會社ならば破產の基となるべく相互會社ならば後日多額の追徵をなさゞるべからざるの不幸に陷るべし主唱者の胸中固より成案なきに非ずと雖之を確定するに當ては少くとも設計者なるものを置て之を批准せしめざるべからず

設計者は發起人中よりも得べしと雖發起人外の人にも囑託する積りなり而して此設計者の姓名は會社の名譽として管理者の姓名と共に公にせらるべきものなり

アルノルヂー氏が始めてゴーター會社を主唱するに當ては斯學の極めて幼稚なりしにも關せず如彼安全なる事業を爲すを得たるものは

同氏の熱心と

索遜王國公爵エルンスト公の保護

とに基くとは雖抑又其設計に當りて

樞密醫事議員（ゲハイメルメヂチナールラート） フォン・フロリープ氏
宮中顧問（ホーフラート） ドクトル・トロンムスドルフ氏
參政官（レギールングスラート） アー・スチーレル氏
參政官（レギールングスラート） カンツレル・フォン・ミュルレル氏
高等醫事議員（ヲーベルメヂチナールラート） ドクトル・ブッデウス氏
高等學校議員（ヲーベルシュールラート） ドクトル・ロスト氏

等の如き有力にして且意見に富みたる人の幇助を得しに原かずんばあらず余は設計者として左の種類の人を得んことを希望す

生命保險學者 保險醫學者 醫學者 經濟學者 數學者 法律學者 統計學者 實業家（特に銀行會社事業に經驗ある人） 簿記學者 及諸多の意見に富める人

### 第五 死亡表

余の知る所にては本邦の材料を料理して調製したる死亡表は日本生命保險株式會社の基礎に用ひられたる藤澤氏の表と本年三四月頃中外醫事新報を以て公にしたる余の表とあるのみなり然るに余の表は單に死亡表の調製法を示さんが爲に作りたる者なれば其材料も僅に明治二十三年（死亡數平年）の事實を應用せるのみにして計算も粗なる所あり未だ深く信ずるに足らずひとり藤澤氏の表は同氏の數學上の技倆を充分に應用して精細に算出せられたるものなれば余輩斯學に志すものゝ最信仰するものなり然れども惜哉同氏が此表を調製せられたるは明治二十二年なるが故に其材料

明治十四年乃至十八年の死數をハレー氏法によりて併列せる表　一
明治十九年（死亡非常に多かりし年）の事實を直接（改良）法（ヂレクテー（フェルベッセルテー）メトード）によりて併列せし表　一
明治二十年（平年）同上　一

に過ぎず余は藤澤氏の材料三表に加ふるに直接法によりて明治二十一年乃至明治二十五年の事實を併列せる五表を以てし新死亡表を作りて之を用ひんと欲す

### 第六 豫定利率

利率等のことは特に上に掲げたる設計者中實業家及經濟學者等の意見を聞き之を定めんと欲す然れども相互會社は多く保險料を徵收したりとて實際不用なる分には利子を附して返戾するものなれば豫定利率としては三銖半位を適當なりと信ず

### 第七 表定保險料

新死亡表と三銖半位の利率によりて保險の原價卽純保險料を算出せば之に二割の附加保險料（營業費及小安全瓣）を加へ之を每年度の始めに徵收し置く所の表定保險料とせんと欲す

### 第八 保險の種類

近來生命保險會社に於て疾病保險、癈疾保險、怪我保險等を營むこと流行

し甚しきは全く生命保險以外の保險をも併せ營むものあり然れども余は單に一死亡表と一定の利率の上に築かるべき所の保險卽所謂狹き意味の生命保險と年金保險以外のものを營むことを好まず加之年金保險の如きも當分之を營まずして唯保險金を支拂ふに當り年金として之を請取らんことを希望するものにのみ生命保險と同一の死亡表及利率を以て之を許さんことを希望す

現今泰西に行はるゝ所の生命保險の種類は實に數百の多きに上り今余が右手に筆を持ながら左手の指を屈して記憶に存するだけのものを數ふるも死後請取生命保險のみにて二十四種生前請取保險のみにて十八種の多きに及べり然れとも余は新會社に向ては余が經驗を根據として種類の繁多ならざることを希はざるべからず種類の繁多なるは徒に人の惑を惹くのみにして少しも加入者を增すものにあらず又さほど被保人に便なるものにあらざればなり

左表は昨年末日（明治會社のみは昨年七月九日）の調査なり本邦人最も多く如何なる保險を需要するやを知るに足る

本邦三大生命保險會社被保人數表（明治二十五年十二月三十一日）

| | 保險種類／會社名 | 明治 | 帝國 | 日本 | 合 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| イ | 終身保險　尋常 | 九、八八八 | 九、六三九 | 一〇、四九三 | 三〇、〇二〇 | 三九、四三三 |
| ロ | 終身保險　有限掛金 | 三、〇九三 | 三、〇四九 | 三、一七一 | 九、三一三 | |
| ハ | 終身保險　累加 | — | — | 九九 | 九九 | |
| ニ | 養老保險　尋常 | 八〇七 | 五、〇四三 | 四、二四四 | — | 一〇、九八七 |
| ホ | 養老保險　短期掛金 | — | | 八三〇 | — | |
| ヘ | 定期保險 | 五一 | 一一四 | 九三 | 二五八 | |
| ト | 修學資金保險 | 一、三九七 | — | 三 | — | 一、四〇八 |
| チ | 結婚資金保險 | | — | 八 | — | |
| リ | 年金保險　終身 | — | — | 四 | 四 | |
| ヌ | 年金保險　定期 | — | — | 八 | 八 | |

備考
明治（イ、ロ、ニ、）四種共明治十四年七月以來
帝國（イ、ロ、ニ、）廿一年三月以來（ホ）廿四年以來？
日本（イ、ロ、ニ、）廿二年九月以來（ハ、ホ）廿四年一月以來（ト、チ、リ、ヌ）廿五年七月以來

由是觀之本邦人の需要は

尋常終身保險／有限掛金終身保險｝遺族保護
養老保險／短期掛金養老保險｝遺族保護兼老後準備
修學資保險／結婚資保險｝兒孫學資結婚資準備

の六種に止るが如し余が經驗に徴するも其他の種類を希望するものは實に稀有にして而も其稀に之を申込む人も必ずしも之を申込むの必要あるに非ずして其八九分は好奇心に動かさるゝものゝ如しされば新會社の事業も亦上の六種に止め且之を縮めて

年後保險　被保人の生死に關せず保險契約の時より豫定の年數を經たる後始めて保險金を支拂ふものにして豫定の年に達せずして死去せるものには以後の保險料を免ずるものなり（之を修學資保險及結婚資保險に代ふ）

年限保險　保險契約後豫定の年數を經過せざるうちに被保人死亡せる時は直ちに保險金を支拂ひ若又被保人死亡せずして豫定の年數を經過せし時は其時を以て保險金を支拂ふもの（全く從來の養老保險及短期掛金養老保險に同じ）

死後保險　被保人の死亡せる時に保險金を支拂ふ者（全く從來の尋常終身保險及有限掛金終身保險に同じ）

の三種となさんとす之を以て左の如き保險料表を作れば申込人をして一目の下に其性質を理解せしめ易く且比較選擇せしめ易ければなり

保險料表模型

年齢　〇〇歳

| 保險金請取＼保險料拂込 | 一時 | 五年間 | 十年間 | 十五年間 | 二十年間 | 三十年間 | 終身 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 円　厘 | 円　厘 | 円　厘 | 円　厘 | 円　厘 | 円　厘 | 円　厘 |
| 十年後 | 〇〇・〇〇〇 | 〇〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | | | | |
| 十五年後 | 〇〇・〇〇〇 | 〇〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | | | |
| 二十年限 | 〇〇・〇〇〇 | 〇〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | | |
| 三十年限 | 〇〇・〇〇〇 | 〇〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | |
| 四十年限 | 〇〇・〇〇〇 | 〇〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | |
| 死後 | 〇〇・〇〇〇 | 〇〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 | 〇・〇〇〇 |
| …… | …… | …… | …… | | | | |


（文獻）非射利主義生命保險會社の設立を望む

第九　營業區域

或は曰く東京の人に限らん或は曰く佛教徒のみに限らん或は曰く教育家のみに限らん或は曰く海員のみに限らんと余はすべて此等の人に不同意なり如何となれば東京の人未だ必しも他府縣へ轉住せずと謂ふべからず佛教徒未だ必しも耶蘇教徒たらずんばあらず特に教育家の教育界以外の人となり海員の陸員となるが如き殆んど日常の事なればなり保險契約が一二年にして端を改むるものなるか然らずとも貯金の如く之を中止しても損害を見ざるものならば營業の區域を限る大害なかるべしと雖生命保險は如此ものにあらずして且大數の上に平均を得べきもの少しにても其區域を廣くするに利ありて狹くするに益なければなり之を泰西の經驗に見るに其區域狹くして善良の結果を得しもの未だ之あるを知らず其區域廣きに過ぎて結果不良なりしもの未だ之あるを知らざればなり余は新會社の事業が少しにても廣く膨脹せんことを希望す（但日本人以外に及ぼすべからず）

第十　保險金額

五十圓乃至五千圓に限らんとす

第十一　被保人の年齢

二十歳乃至六十五歳に限らんとす

第十二　會社管理法（委員會）

會員の互選を以て委員三十名を選び委員の互選を以て幹事五名を選び（內社長一名副社長一名を選擧せしむ）五人の內一二名日勤し時々幹事會議を開きて社務を處理せしめ別に委員の互選を以て監査役二三名を選び幹事の行爲を監査せしめ毎年三月委員會を開きて幹事及監査役より前年度營業の報告をなさしめ且保險料の割戾追徴等を議定し之を一般被保人に報告せしめんと欲す

第十三　臨時委員會

會社管理上幹事の權限若くは意見を以て處理し難き事に遭遇する時は幹事は何時にても臨時委員會を開くことを得せしめんと欲す
監査役も亦役務上必要と認むる時は之を開くことを得せしめんと欲す
委員も亦其十名以上が必要と認むる時は之を開くことを得せしめんと欲す

第十四　委員

被選擧資格　引續滿三年以上一千圓以上の被保人たりしもの
選擧資格　引續滿一年以上五百圓以上の被保人たりしもの
任期は三年として最初四年間は發起人を以て委員に充てんと欲す
委員は無給名譽職とす

第十五　地方委員

一千名以上の被保人を有する地方に限り地方委員一名を選擧し委員會に列席せしむることを得せしめんと欲す
委員會に列席せる地方委員の資格は一般の委員と同じ
地方委員にかゝる費用は之を選出せる地方被保人の負擔とす

第十六　總裁

委員會の上に總裁を置き、貴顯の人を推戴せんと欲す

第十七　役員

幹事五名（社長一名、副社長一名、幹事三名）
監査役　二名若くは三名、委員會書記（セクレタリー）一名、支配人（マネージャー）一名、數理主任（アクチュアリー）（主計）一名、醫務主任　一名、
事務員　事業の大小に從ひ增減す
內｛會計主任　一名　文書主任　一名
　｛契約主任　一名　庶務主任　一名

第十八　醫局組織

醫局に醫務主任一人を置かんと欲す其職務左の如くなるべし
一、會社全般の醫事に關する事務を統播すること
二、各診査醫より回送し來る所の診査報狀を校閲し保險契約上自己の意見を附し重役の裁決に供すること
三、被保人死亡證書を檢閲し之に意見を附して重役の裁決に供すること

四、會社の經驗を料理し醫事に關する統計表を作ること
五、會社の經驗と世間學問の進歩とにより益醫務の改良を圖ること

なり之なければ會社の醫務畫一を缺き公平を缺き且つ進歩を缺く

診査醫は事業の繁簡により其數を增減せざるを得ず然れども可成は一定數の人を置て長く會社に留らしむることを務むべし如何となれば保險醫なるものは別に大學者の資格を要せずと雖又決して凡庸治療醫のなし得べきものにあらず詐僞狡猾の間に立ちて健否を隱微に看破することを要するものなれば相當の學識ある上に機警なる判斷力銳敏なる觀察力及熟練せる眼と耳と手を要し所謂一と通り保險醫學上の知識を有することを要すればなり余は之を大學の新卒業生に求ずして却て人閒を有せざる熟練家即各病院の助手等の中に拔かんと欲す醫員選擇は非常に必要なることにして一ケ年一人にて一千人を診察すると假定し一人も誤診せぬことは決して望むべからずと雖其中五人を誤診するものと六人を誤診するものとは時として數千圓の利害を會社に及ぼせばなり

地方醫員として地方の病院長等に囑託して申込人を診査せしむることは內外共に見る所なり然れどもこれ誠に喜ぶべからざる事なり病院長未だ必しも保險醫として適當なる人にあらず余が經驗によるも診査のことは別に醫師をして責任を負はしむべきものにあらざれば其責なきを幸としこれを擧げて往々不熟練なる助手に一任して唯其報狀にのみ署名捺印せる地方醫員あり診査報狀中不都合ありて之を詰れば「助手に見せたから」と答へ再び「何故に自ら診察せざるや」と詰れば「余が信任する助手なるが故に」と答へ三たび「其會社委託の精神に背く」ことを詰れば「ソンナに六ケ敷ければ止める」と答ふるものあり偶如此人の診察せる被保人加入後間もなく死去すれば其病によりては人をして自ら「巡回醫員が診察せしものならば如此こともあるまじ」と謂はしめしこと鮮からず

經育の合衆國生命保險會社の社長エ・ウキフト氏も亦先年此事を痛論せることあり同氏は

一、囑託醫員は專屬醫員の如く保險診査に終始するの期なきが故に何時までも診査に下損なること

二、往々患者と結託して會社を欺瞞すること
三、假令會社を欺瞞するの意なきも自己が治療上の顧客に對しては其身體虛弱なるも往々之を不合格に陷るゝ能はざること
四、不熱心なること

等を以て囑託醫の弊となし各會社は悉く之を廢し各會社協同にて各地に一人づゝの保險醫を置き此醫には少しも治療のことを許さゞるべしと主張し獨逸の學者中にも大に同意を表せしものありしが惜哉各會社は之を決行するの勇なかりき彼を鑑み此を思ひ余は囑託醫なるものを置くことを欲せず地方の加入者を診せしむる爲には時々診査醫と事務員をして巡回せしめんことを欲す

第十九　本社、支社、代理店

本社を東京に置き事業の擴張につれて支社を樞要の地に代理店を全國各地方に置かんと欲す

代理店は被保人たると否とに關せず其地の名望家財產家若くは銀行會社等に依頼し地方社員の保險料及保險金を取次がしむるものにして之が報酬としては保險料取扱額の百分の三乃至五を與へんと欲す

第二十　敎、利　法

人の生命保險を託する所以のものは之によりて以て利を射んとするにあらずして危險を免れんとするものなりされば會社が其委託金を運轉するにも危險を犯して高利を得んよりは低利に甘じて安全なる道路を選ぶを可とす故に敎利法を

一、公債證書買入
二、公債證書抵當に對して時價十分の七以下貸付
三、不動產抵當に對して時價半額以下の貸付
四、委員會にて認許せる會社の株券及社債券の抵當に對して時價半額以下の貸付

に限り且其貸付期限を三ケ年に限らんと欲す此等の點に就ては特に證計者の意見もあるべし

第二十一　營　業　費



創立後數年間多額の營業費を要することは何れの會社に於ても免るべからざることにしてプロフェッソル・ド・モルガン氏の如きも創立の初年にありては其保險料の全部を用ゆるも差支なしとまでいへるが故に最初三四年間は恐く之を限るべからずと雖五年目より收入の一割五分以下十年目よりは一割以下に限りたきものなり

參　考

| 會社略名 | 組織 | 創立後年數 | 歲入一〇〇〇ニ付營業費（一昨年） |
|---|---|---|---|
| ゴーターゼルマニア | 相互 | 六五 | 五・二〇 |
| ライプチーゲル | 混合 | 三五 | 九・九四 |
| スツットガート保、證 | 相互 | ▲六三 | 七・一二 |
| カルスルーヘ | 相互 | 三一 | 五・五〇 |
| コンコルヂア | 混合 | 二八 | 六・五〇 |
| ヴキクトリヤ | 混合 | 三九 | 一〇・四三 |
| リュベック | 混合 | 三二 | 一三・八七 |
| ベルリニッセ | 混合 | 六四 | 一〇・九五 |
| トイトニア | 混合 | 五六 | 一〇・九八 |
| マグデアルゲル | 混合 | 四〇 | 一三・五七 |
| 明治帝國 | 株式 | 三六（以下略年）一二 | 一四・〇一（以下略年）一二・三四 |
| 日本 | 株式 | 五 | 二八・二〇 |
| | | 四 | 一九・〇三 |

第二十二　役員給料及賞與金

可及的營業費を減ぜざるべからざるは上に述ぶるが如し然れども役員の所得を餘りに薄うすることは役員をして不熱心ならしむる一大原因にして從來諸般の會が瓦解する所以も亦玆にあり故に余は新會社役員の所得をして少くとも他の生命保險會社役員に下らしめざることを希望す而して其人數の上に於て可成削減し有力ある小人數を精選して銳敏なる運動をなさしめんことを欲す

然れども會社純益の有無に關せず役員に厚ふするは不可なり故に給料として利所得の半ば位を給し置き賞與金として其半ばを給すべし就中賞與金は支出殘金の何分一と規定し置くを要すこれ一には役員の勉強を奬勵する方法ともなればなり

第二十三　資本積立金

支出殘金の十分一を以て毎年資本積立金に充てんと欲す保險料追徵を要するが如きことあらば委員會の決議を以て此資本積立金中より其全部若くは一部を償ふことを得せしめんと欲す

第二十四　利益配當

支出殘金中より役員賞與金と資本積立金を引去らば其餘は悉く之を一般被保人に割戻さんと欲す

其割戻の率を定むるには各被保人に屬する責任積立金の額と其年度保險料の額を以て標準とせんと欲す（算法は面倒なるもの故此に說かず）

此割戻を受くるものは滿三年以上被保人となりしものに限り

三年間は之を會社に預り置き其間に於て追徵をなすが如きことあらば先づ此中より取り如此事なきときは四年目に至りて被保人の希望に從ひ之を處置すべし

第二十五　利益配當の處置

現金を請取らんと欲するものには次回の保險料を以て之を差引くべし

後日の保險料を塡めんが爲に之を預け置かんと欲するものよりは預り置き相當の利子を與ふべし

割戻金を請取らずして其代りに保險金額を增さんことを請求するものには其希望に應ずべし

割戻金を請取らずして其代り保險料を低廉にせんことを請求するものには其希望に應ずべし

但し後の二ケ條に就ては割戻金額少くして殆んど計算に上す可らざる時は會社は一先之を預り置き兩三年間の分を纏めて後請求せしむる事あるべし

第二十六　毎　年　報　告

前年度營業の結果及各被保人への割戻金額は本支社代理店を經て報告せらるべし

# 保險の原理並に其政策に就て

（明治二十七年十一月發行
國家學會雜誌九三號所載）

法學士　粟　津　清　亮

## 第一章　保險の範圍

運命は常に人生を支配して、特に其經濟に影響すること多し。神通自在なる造化の眼中には、運命なるもの無かるべしと雖ども、庸智凡眼の人類は、屢其豫知すること能はざる事件に遭遇して、之を運命なりと云ひ、之を不慮の出來事なりと稱す。貧窶の家に生れて飢寒に號叫するも運命なれば、玉樓金殿に扶養せらるゝも運命なり、海上暴風に遭ひて千金の身を魚腹に葬るも不慮の出來事なれば、砂礫を穿ちて萬鎰の寶玉を得るも亦不慮の出來事なり。凡て吾人が其原因結果の關係を熟知して、豫め其發生を想見し得るものにあらざれば、其の吾人に對して利益なると損害なるとを問はず、皆之を運命なりと謂ふ。旱魃、水害、惡疫、戰爭、火災、死亡、經濟上の恐慌、鑛山の發見、道路の開鑿等よりして、之に類似せる百般の事件は、皆或人間に對して運命なりと謂ふことを得。

然り而して幸運を喜び不運を惡むは吾人の天性にして、人として利益を希はず、損害を免れんと欲せざる者未だ之れあらず。然れども人智の發達せざる時代に當りては、人意人力を以て自由に幸福を得又は損害を免るゝ方法を知らずして、偏に天然の勢力に影響せらるゝのみ。霖雨滾々洪水天下に汎濫する時は、五穀徒に腐れて生民塗炭に陷り、壯旺健全の者一旦二豎の襲ふ所となれば、妻子空しく飢餓に泣き、大廈高樓一朝祝融の災に罹れば、富豪忽ち貧困に化す、彼等は總て之を運命なりと思へるなり。然れども人智漸く進み、天然の勢力に逆うて自己を保護するの策を立つるに至りては、堤防を築きて洪水に備へ、醫藥を施して疫癘を防ぎ、巨艦を造りて波濤を凌ぎ、此の如くにして止む無くんば、終に天然を制御し了り、是に於てか運命なるもの跡を絕ち、人生森羅萬象の事件悉く人爲を以て左右することを得、人間は恰も造物主の如くなるやも計られずと雖ども、此の如き時代は地球の熱度が時々刻々低下し來りて、遂に全く冷灰と成り果てん時より更に幾何年の後なるべし、故に人間は尙ほ永く天然の影響を蒙りて、不慮の出來事の爲に其經濟的狀況活動を變化搖亂せしめらるゝの境界を脫することを能はざるべし。醫學の進歩は未だ人體の老衰死亡を救濟するを得ず、道德の發達も容易に盜賊詐欺等の奸惡を滅盡すべからず、況んや迅雷烈風天妖地變は到底人力の及ぶべからざるものなるをや。是に於て人間は此の如き不慮の危難に對する自護策として保險の方法を工夫發明し、豫め測知すること能はざるものに對して豫め備ふる所あり。而して此豫防の當るべき當らさるも亦吾人の前知することを得ざるものにして、之にも亦保險の方法を應用することを得るなり、故に保險の範圍は運命の範圍にして且不運の範圍なり。運命の範圍外に保險の行はるべからざることは、例へば二人あり局に對して黑白を鬪すに當り、傍人をして自己の敗るゝことを保險せしめんと欲するも、傍人豈能く之を肯せんや、何となれば鬪碁の勝負の如きは、碁客の意志を以て左右することを得るものにして、運命にあらず不慮の出來事に非ず、勝つことは意の如くならずとするも、負くることは任意なり、況んや勝つことの任意ならざるは天運に因て然るにあらず、技倆に於て初より劣れる者は千局萬秤を重ぬるも勝つこと能はざるをや、此種の事件には保險の方法を適用すべからず。通常保險契約に於て被保險人が故意に危險に遭遇したる場合には、該契約を無效ならしむると謂ふも蓋し此理よりす。或曰鬪碁の勝敗は大體其技倆の優劣に依りて定まると雖ども、所謂勝負は時の運と云へる諺の如く、意志に關せず技倆に拘はらず、勝敗の機微妙の點に存す、是れ卽ち運命とも不慮の出來事とも稱すべきものにして、之をしも尙保險に付すべからざるやと。然り然れども宇宙間の萬物一として絕對的に人意人力を以て支配し得べきものあらざることは意志自由說の破れたる今日に當りて普く世人の知る所にして、余輩は斯の如き微細なる點まで論及するの必要を認めず、只普通の智識を具有せる者の判斷を以て運命と否とを區別すれば足れりとす。而して保險の範圍の特に不幸なる運命の範圍なることは之を後章の說明に讓る。

## 第二章　保險は損害の賠償なり

保險の目的は惡運より生する不幸を除去せんとするに在り、然れども人力は此不幸を全然排除して消滅せしむることを得ず、只此不慮の危難より生じたる損害を排除するに過ぎず。而して損害を排除すと云ふも絕對的に之を皆無ならしむるにあらず、或特定の人に對してのみ之を爲すに在り。保險に付したる財産は不慮の出來事の爲に滅盡すと雖ども、所有者は賠償を得るが故に損害を免れ又は之を縮小す、故に保險は賠償の方法に依りて特定人の損害を排除又は輕減するものなり。

## 第三章　保險は損害の分擔なり

保險の損害賠償なることは前章に述ぶるが如し。而して此賠償は分擔の方法を以て之を爲すこと亦保險の一の特色なり。一人にして百圓の損害を賠償せんとすれば之に堪ゆること能はざる場合と雖ども、百人を以てすれば甚しき苦痛を感ぜざるべく、而して千人を以てすれば更に容易に之を負擔するを得べし。佛國保險學の大家 Eugène Reboul 曰、L'assurance, qui teore l'événement n'est autre chose que la division des risques a l'infini (保險は理論上より言へば危險を無窮に分割するの行爲に外ならざるなり) と。氏及 Edmund About 氏は共に其所論を强めんが爲に古代の運命說を持ち出して曰、凡ての人間は免るべからざる天運に支配せらるゝものにして早晩之に際會せざるを得ず、されば僅少なる犧牲を奉して神の赫怒を宥め (Cicéus 及 Polycrates の如く薄氷を履む心地して巨財を積むの愚を學ばざる者が眞に幸福なる人と謂ふべしと雖ども、今日の人類は最早神に依賴せずして互に危險を分配負擔するの契約を締結し、資本家に依りて成立せる會社が犧牲を收め、之が報酬として被保險財産の保證を供するに至れりと。

Reboul 氏は危險の分割と言へり、余輩は危險の分割に三種あるを知れり、或は危險其自身を分割することあり、例へば一町の土地に早稻中稻晩稻米麥粟菽等の異りたる穀果を植付け、一種の天災一時の地變等の爲全田の枯死する事を免れしめんとする方法の如きは、之れ危險其自身の分割なり。或は危險の目的物の分配あり、例へば海商人が貨物を一船に積込まずして數艘に分載し、政府が火藥を數多の倉庫に分ち納むるが如きは、之れ危險の目的物の分配なり、共に損害を減少するに有力なる手段にして、Emanuel Herrmann 氏の如きは是等も亦保險行爲なりと主張せり。余輩は別に此說を誤れりと言ふにあらずと雖ども、今日論ずる所の保險なる文字は、稍〻狹義なる危險の分割、卽ち第三の意義に於ける危險の分割に於てのみ用ひらるゝが如し、卽ち廣く危險の分割を指すに非ずして危險より生ずる損害を分配負擔するを云ひ、一人又は數人の頭上に墜落し來れる實際の損害高を、數人又は數百人の肩上に分擔轉荷せしむるものなり。而して此分擔は通常相互保險組織及會社保險組織の二つに依りて實行せられ、分配に與るもの〻夥多なると結合の範圍の廣大なるに從ひ、漸々完全良好の域に進むものなり。

次に諸學者の重要なる觀念を揭出せんと欲す。

1. Eugène Reboul, Assurances sur la vie, Paris 1865 Pag. V. X.XIV. 54.

保險は不慮の出來事の減殺にして、各人の不幸を輕減んが爲にする數人の結合なり。

保險は人類の歷史に於ける開化の著しき階段を畫出したるものにして、經濟上の協同主義と、千八百年以來破壞し來られたる平和と正義の法則を新に發揚したるものなり。產業社會の昏亂は人類の利益を互に背反分離せしめたれば、保險は再び之を結合一致せしめざるべからず、孤立主義は到底其地步を圍結主義に讓らざる可からざるなり。

保險は不幸の勢力を減殺す、何となれば一個人を脅かす所の危險は公衆の上に分配せらるゝが故なり。保險は彼等の生產力の利用及蓄積なり。

2. Edmund About, Les questions d'argent, L'assurance, Pag. 70.

今日の保險は已に自然にして確實不動なる基礎の上に建てられたり、各個人の貯蓄心と人類の結合是れなり。

3. Horace Say, Art. assurance, Dictionaire de l'economie Politique, Tom. I. Paris 1852, Pag. 80.

人類社會の技術進歩して天然の勢力を利用することを得るに從ひ、從不確定なる事故の襲來を避くることを得るに至る、吾人は此事故を皆無にすることを得ずと雖ども、之より生ずる所の不便を減少することを得るなり。不幸をして一人に懸る代りに同種の數人に懸らしむることは爲し得ることにして、一人にては堪ゆべからざる損害も、數人に依りて分擔せらるゝときは甚しく感ぜられざるなり。不確定と云ふことは一の害惡なり、而して人類は之に抵抗するの方法を發見して之を保險と謂ふ。

同種の危險を被るべき人間が一致協力して、其意志に反して來る所の損失に當らんとするに際し、各人僅少なる損失を忍んで大損失を免れんとす、此小損失を Beitrag oder Prämie と云ふ。之を要するに保險の基礎は相互組合の眞實なる約束に存す。今人が他人の保證を爲し、爲替手形の支拂を約し、又は賣買等によりて危險の移轉を爲すと雖ども之れ皆保險に非ず、何となれば双方が合同して相互に危險を負擔するに非ざればなり。

4. Emminghaus, Artikel Versicherung in Rentzsch, Handbuch der Volkswirthschafts lehre. Leipzig 1866, p. 95.

保險の經濟上に於ける効用は結社の力に職由することを忘るべからず、一個の保險人或は保險株式會社の保險を受けたる者は、證然一の組合を結べる者にして、保險金の支拂又は要求權等は皆各人の出金と一定の關係を有するものなり。

純粹の相互保險が最古き保險の組織なりと云ふべからず、是より先已に一個人の營業として現はれたり、之を Privatgeschäfte と云ふ。此場合に於ても賠償の方法は勿論分擔の主義にして、被保人は法律的にはあらざれども事實上一の組合を成立し、其保險料の集合を以て一の積立金を作り以て危險に對する擔保と爲すなり。

5. Max Wirth, Grundzüge der Nationalökonomie, Köln 1858, p. 526.

保險は結社組織と密着の關係ありて、其基く所は結合したる多くの力にあり、總體の力は弱きを助けて各個人の不幸を和ぐるに足ることを知て、吾人は吾人が恐れたる天然の勢力に逆うて保險なる手段を發明し、火災も今は驚くに足らず海上の危難に對しても安心することを得るに至れり。

此の如き物質的並に精神的の結合に依りて、人間は實に天然の危害を防ぐことを得るのみならず、進んで其影響を利用することを得るに至れり、故に保險は人間進化の大事輪に更に一輻を加へたるものと謂ふべし。

6. L. Stein, Lehrbuch der Volkswirthschaft. 1858. p. 290.

保險の基く所は不幸が生產の要素を破壞し、各個人の企業を妨害せんとするに際し、之を多數の人に分擔するが故に、各人は皆之に堪ゆることを得、已に成立せる資本を鞏固にし信用の働を完全ならしむるの邊に存す。

7. W.Roscher, National Oekonomik des Ackerbaues, Stuttgart, 1861. S. 458.

保險の經濟的効用は多數の人間間に分配せられ、從て各個人に堪え易き損害が、已に資本となりたる金額の中より賠償せらるゝにあらずして貯蓄金の中より支出せらるゝと云ふにあり。

8. A. C. F. Schäffle, Das Gesellschaftliche System der menschlichen Wirthschaft, Tübingen 1867, S. 118.

外界の出來事には吾人の如何ともする能はざるもの頗る多し、故に吾人は各人の經濟と企業に對する其影響を最小ならしめんが爲に、保險の方法に依りて之を多人數に分配す。

9. Dr. C. A. Masius, Systematische Darstellung des gesammten Versicherungswesens, Leipzig, 1857. S. 1.

保險とは二人が締結する所の契約にして、其一人が或目的物の上に落ち來るべき危險を保證し之に代るに相當の保險料を徵收するものなり。

（以上の諸說は Emanuel Herrmann, Theorie der Versicherung, Graz, 1869. より拔萃す）

是等の諸種の解說は保險の基礎を多人數の合同なりとするの觀念に於て相符合し、又善く余輩が爰に論ずる所の保險を說明したるものなり。然るに Emanuel Herrmann 氏は之に反對して自ら新說を出したりと稱し、保險は必しも人間の結合を要せず、一人を以て之を爲すことを得べしと論じ、危險其自身の分割と危險の目的物の分配を喋々せり。是れ因より氏の卓說なるべ



しと雖ども、余輩は今暫く爰に之を執らず、只損害の分擔のみを指して保險と言ひ、又廣く損害苦痛等の分配と雖ども、一人にして之を爲す所の貯蓄の如きは之を保險と謂はざるなり。

## 第四章　保險と富籤

富籤とは何ぞや、Edmund About は之に答へて確定のものを以て不確定のものを得んとするものなりと言へり、Emanuel Herrmann 氏は之に加ふるに小を與へて大を得んとするの目的を要すと言へり。然り財寶を拾得し金抗を發見し、小量の資本と勞力を以て大なる當物を獲取するが如きは、人生經濟上の幸運にして、富籤は此幸運を目的として行はるゝものなり。故に富籤の基本條件は不確定なる運命にして、吾人が意志腕力等を以て左右し得るものは富籤にあらざるなり。

保險の範圍は運命の範圍内にして運命が其基本條件なることは第一章に於て之を詳論せり。生命保險の被保險人が一朝死亡して多額の保險金を得ることは、全く運命に屬して吾人が意志腕力等を以て左右し得ざる者なり。されば保險と富籤とは其基く所即ち委運の行爲なりと云ふことに於て一致せりと言はざるべからず。或曰、保險の業務は運命に委したる業務の如く見ゆれども、現今の保險營業は此の如き偶成の行爲にあらず、斯かる時代は已に過ぎ去り今日は極めて確實なる行爲なり、即ち學理の發明統計學の發達に依り、火災死亡難船等の數は一定の期間に一定の數あるものなりとの理を豫見して爲すものなるが故に偶成に非るなりと。此說は屢保險契約は偶成契約にあらず委運の契約にあらずとの說明に用ひられんとするが故に頗る注意すべきことなり。此說たるや保險營業者は危險なる投機的業務に從事する者にあらずして安心なる營業なることを明にするに止り、各箇の保險契約が偶成契約に非ずと云ふことを說明するには足らざるなり、今統計の學完備して火災難船死亡等の一定期間に發生すべき數判然明瞭鏡に懸けて視るが如しとするも之れ單に保險營業者に安心を與ふるに過ぎずして、被保險人なる契約の一當事者には一も關係せざるなり。被保險人が天死し長生し火災に罹り難船に遭ふ等は、數學の力と雖ども統計の力と雖ども測り知る所に非ること、猶ほ富籤と雖ども全體より云へば數學の原理に基けること勿論なるも、之を引く者自ら當りを得るや空を取るやを測知するを得ず、骰子を振る者が自ら一を振るや六を出すやを豫期する能はざるに等しく、此點に於て保險と富籤は一も異る所を見ず、只富籤の籤は人の手を以て之を引き保險の籤は造化の手を以て之を抽くの差違あるのみ、人意の之に干涉する能はざるに至りては一なり。

故に保險營業者は富籤の講元にして、其組織は開明の進歩學術の發達と共に如何に完全に赴くも、其大目的は運命に基ける性質の事業を營業として潤澤なる配當を株主に得せしめんとするに在るなり。保險の事業たるや實に人生の不幸を除き去り幸福を增進するに有力必要なる喜ぶべく奬勵すべき活動なりと雖ども、眞の慈善家の結合力或は政府の力を以てするにあらざれば、非射利的保險を見ること能はざるなり。

然らば保險は全然富籤と同一なりやと云ふに、又大に異れる所あり、之を被保險人の方面より觀察すれば則ち明なるべし、等しく運命に基くと雖ども、保險に於ては被保險人は進んで善運に際會せんと欲する者にあらず、惡運に遭遇して苦痛を受けんことを虛りて豫め之が計を爲すものなり。之に反して富籤に在ては一擧に奇利を博せんと欲し、或金額を犧牲に供して勇進するものなり。富籤の株を有する者は之が當籤を希望すると雖ども、生命保險の被保人は早く死亡せんことを願ふものにあらず、其意志の相反せること此の如く、保險と富籤の差違實に此一點に存す。完全なる保險、良好なる保險、眞正なる保險は富籤に比照して常に此差違を保持せり。保險にして此區別を失する時は已に富籤の範圍に侵入せるものにして、眞正の保險に非ず、詐欺の保險害惡なる保險と成り了るものなり。人あり保險の方法に依りて富籤に於けるが如く積極的に利益を獲得せんと欲し其船舶を保險に付したりとせんに彼が目的を達する爲めには、船舶が難破の際受取るべき保險金をして船舶の價に保險料を加へたるものより多額ならしめざるべからず、是れ眞正の保險に於て行はるべからざることにして、詐欺不正の其間に存在する事疑なく、法律上賭博として禁ずる所の富籤の範圍に侵入せりと言はざるべからず、超過保險は即ち是なり。是に於てか余輩は又保險の範圍は惡運の範圍にして富籤の範圍は利運の範圍なりと云ふことを得るなり。

## 第五章　保險政策

保險に關する經濟政策は、相互組織を採るべきや、會社組織に由るべきや、將た混合組織に從ふべきや、射利主義の利害、放任主義と强迫主義の適否等は別に論ずることあるべし。本論に於ては現今我國に於けるが如き、會社組織射利放任主義の行はるゝ所に於て、急に採用すべき政策上の必要を述べんと欲するなり。

富籤は國民の道德心を紊亂し、經濟社會の激變を起すものなるが故に、多くの文明國に於ては之を禁止するの法律を設けたり。然るに保險は富籤と密接の關係を有し、其器械的組織に於て明に相一致し、當事者の意志に於て相反對する所あり。一致せる點は常に富籤に伴ふ所の危險を有し、反對せる點は屢富籤の範圍に侵入せんと欲す。立法者は保險の業務に對して一層道德上經濟上の觀察を鋭くして、之を拘束するの法律制度を設けざるべからざるなり。

從來我國に行はるゝ賴母子講なるものは、其組織に於て大に今日の生命保險に類似し、其人民及資本の結合は元來講元の利益の爲に起れること、猶保險會社が株主資本家の利益の爲に起るが如く、定期に抽籤を行ひて富籤するものは保險に於て保險金を受取る場合の如し。然れども此の如き一種の富籤が籠中空にして瓦解するは、必竟其組織の整頓せず、學問上の知識を缺き、積立金の運轉に當を失し、法律上の制限を受けざる等に起因するものにして、苟も是等の原因を知悉して一考せば、保險事業の前途は昭々として火を見るが如くなるべし。況んや保險の事業は富籤の如き淺薄單簡なる組織を以て行ひ得べきにあらずして、學問上の知識と運轉の技術を要すること啻に數等のみならず、若し是等の技術と學識とを缺く時は毫も其文明の利器たる効用を顯はさずして、徒に弊害なる賭母子講然たる危險極まれるものと化し去らんこと明白なり。而して賭母子講は大體閭巷の小區域に行はれて其金額も些少なれども、保險は概して其計畫廣大なるが故に之が失策よりして社會の經濟に及ぼす害毒の影響は實に少々にあらざるべし。立法者は須く保險の技術的觀察を以て之を拘束するの法律を設けざるべからざるなり。

保險の効用は我國に於ても稍一般に覺知せらるゝに至りたれば今別に設くるを要せずと雖ども、其文明的制度なると同時に正確なる學識と經驗を以てせざれば完全に之を行ふ可らざるは論を俟たず。今日歐米に於て保險事業の盛大と完備とを得たるは一朝一夕の業にあらずして、今少し其起源に溯れば、紀元千二百年の頃より歐洲に於て稍海上保險に類似したる事業發生し、爾後或は振ひ或は衰へ種々の變遷と改良とを經て、遂に一千七百〇五年英國に設立せられたるアミケーブル生命保險會社を以て初めて眞正なる保險と稱すべきものと爲すに至れり。是に於てか各國に於て此種の事業勃興し、流行となり競爭となり、破產となり、經濟界の大紛亂を起し、挫折となり、警戒となり、政府は保險に關する條例を發布し、保險局を置きて之を監視し、人民は學校を建てゝ之が技術を研究し、殊に英國には保險數理主任の講習所あり、以て保險の技術家を養成し、是等の技術家は學會を作り雜誌を發行して互に氣脈を通じ、其研究の結果を交換し、其熱心旺盛なること實に吾人の想像に余あり。我國幾近保險の事業漸く興り、會社已に數十に達し尙新に計畫の擧に在るもの之に譯ずと聞く、是等は必しも皆歐米の模倣にも非るべしと雖ども、要するに彼が如く着々たる順序と困難を履むで發達し來れるに非ず、人種の相違、氣候の差異、土地の廣狹、波濤の高低、市街の繁閑、山水の狀態を異にせる所の模型を取て直ちに我國に應用すること已に奇なり、況んや之に關する學識も無くして徒に此模型を取捨、折衷、斟酌し、加之、此般の場合に特に必要なる法律の制限と行政官の督視を缺くことあらば危險何を以てか之に加へんや。全國有數の保險會社中何れが安全にして何れが危險なるは、余輩の未だ詳知せざる所にして、之を暗々するは又本論の目的に非ず、假に彼等をして盡く安全良好なるものとするも尙今後創立せらるゝ會社にして、株主資本家に利益を配當して非射利主義なりと號し、無用なる多額の資本金を備へて得意然とし、他社の保險料より幾分を削減して安價なりと誇り、過當に保險料を毀敎して安全なりと辨解し、甚しきに至りては積立金の計算を瞞みずして利益配當多しと吹聽し、毒舌中傷的勸誘を以て他社の被保險人を奪ふが如き、嘲ふべく恐るべき運轉を爲すものあらば、數年の後保險事業に於ける一大恐慌と頓挫を見ること無くんば實に望外の僥倖なりと云はざるべからざるなり。我商法に於ては保險契約に關して多少の規定ありと雖



ども、勿論之を以て滿足すべきにあらず、況んや其實施は尙三年の後に在るをや、法律の制限と行政權の銳敏なる活動、例へば保險條例の發布、保險局の設置の如きは目下必須の急に迫れりと信ず。

保險は實に文明の制度にして其社會を裨益すると同時に其起るべき害毒亦僅少にあらず、之を利用し之を適當に運轉するは文明政府の責任にして又文明人民の義務なり、吾人は彼の頑冥なる支那人が、銳利なる巨砲を試射せんと欲して自ら殺傷せるを笑へるに非ずや、何ぞ豈背後の人をして更に吾人を哂はしむるの愚を學ぶに忍びんや。

# 生命保險會社の營業費割合論

（明治二十八年八月十七日發行東京經濟雜誌所載）

麻生義一郎

英國ウイリヤム、スクーリング氏は生命保險の營業割合計算の新法を考案し之を「パルマルガゼット」、「ペンカースマガヂーン」並に「ハンデーアツシュランスヂレクトリー」等に登載したり、左に揭ぐる所は聊か其大意を譯したるものなり。

生命保險會社に於ける營業費割合を計算するの方法は種々にして議論亦區々に分れたりと雖も、就中尤も廣く行はるゝは總掛金に對して割合を見るの法なり、然れども該法は新契約に於る營業費の割合を知る事能はざるの缺點ありと反對論者の往々唱ふる所にして吾人も亦其人なり。

何となれば新契約に於ける營業費の既契約に於ける營業費に比較して遙かに多きは明白なる事實にして、是等の割合を別々に見るは會社の營業方針を定るに就て最も必要とする所なればなり。

（新契約の營業費とは新に被保人を得るに付て要する費用、既契約の營業費とは既に契約せしものに對して要する費用と云へる意味なりと知らるべし）

一例を擧んに、玆に甲乙二人あり、何れも紙幣を以て金銀貨に引換へんと欲す、而して甲は二十八圓を出して壹圓金貨貳拾個、拾錢銀貨八拾個を得るとせば、金銀貨平均壹箇の價貳拾八錢なり、又乙は拾九圓を出して壹圓金貨拾箇、拾錢銀貨九拾個を得るとせば、同壹個の價拾九錢なり、故に此點より見るときは恰も甲は乙より壹個に付き九錢宛多くを出したるが如し、事實上同一物に向て甲乙の拂ふ所は同一なるに、斯る差違を生ずるに至るは心意漫に平均勘定を爲すの罪に外ならず、考察せざる可らざるなり。

今既契約の營業費を拾錢銀貨、新契約の營業費を壹圓金貨とせんに、總掛金に就て營業費割合を計算するの法は、恰も百個の硬貨を得るに當て其中金貨何個、銀貨何個なるやを問はざるが如し、愚極れりと云ふべし。

次に揭ぐる表は新契約既契約の營業費割合を種々に分ち以て總掛金に對する平均の營業費割合を示せるものなり。卽ち既契約の營業費割合を掛金の八分とし、新契約の營業費割合を同八割とせば、總掛金に對する平均の營業費割合は十一割六分となり（總掛金中新契約に屬する分を百分の廿五とし）、是恰も金銀兩貨を合せたる平均の價は其各貨の個數に從つて異ると同一理なり。

既契約の營業費を掛金の八分とし、新契約の營業費を同八割とするも、總掛金に對する平均の營業費割合は總掛金中新契約に屬する分の多少に從て異ること前に述ふるが如し、然らば則ち正當に營業費の割合を見んと欲せば新契約と既契約とを別々にして計算せざる可らざるは亦多言を須ひざるなり。

新契約と既契約とを別々にして營業費の割合を見るの方法亦種々なりと雖も、其廣く行はるゝは既契約の營業費を掛金の七分半と假定し、之を總體の營業費より引去り、以て新契約の營業費は掛金に對して何割に當るやを計算するものなり、然れども既契約の營業費を掛金の七分半とするの假定は、假令全體の平均上實際と大差なきにせよ、之を適用せんとして兩て適用す可らざる特別の場合往々あるのみならず、遂に妙なる結果を來すに至るべし、例せば或場合には新契約と雖も少しの營業費をも要せざる事あり、又或場合には掛金の一倍半或は二倍甚しきは五倍の營業費を要することありて、斯る極端の場合には兩の假定設は到底適用す可らず、亦以て其取るに足らざるを知るべし。

| 總掛金の中新契約に屬する割合 | 總掛金に對する營業費割合（但新契約并に既契約の營業費割合を以下の如くす） | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4% | 5% | 6% | 7% | 8% | 9% | 10% | 11% | 12% |
| | 40% | 50% | 60% | 70% | 80% | 90% | 100% | 110% | 120% |
| A | B | C | D | E | F | G | H | I | J |
| 5.0 | 5.800 | 7.250 | 8.700 | 10.150 | 11.600 | 13.050 | 14.500 | 15.950 | 17.400 |
| 7.5 | 6.700 | 8.375 | 10.050 | 11.725 | 13.400 | 15.075 | 16.750 | 18.425 | 20.100 |
| 10.0 | 7.600 | 9.500 | 11.400 | 13.300 | 15.200 | 17.100 | 19.000 | 20.900 | 22.800 |
| 12.5 | 8.500 | 10.625 | 12.750 | 14.875 | 17.000 | 19.125 | 21.250 | 23.375 | 25.500 |
| 15.0 | 9.400 | 11.750 | 14.100 | 16.450 | 18.800 | 21.150 | 23.500 | 25.850 | 28.200 |
| 17.5 | 10.300 | 12.875 | 15.450 | 18.025 | 20.600 | 23.175 | 25.750 | 28.325 | 30.900 |
| 20.0 | 11.200 | 14.000 | 16.800 | 19.600 | 22.400 | 25.200 | 28.000 | 30.800 | 33.600 |
| 22.5 | 12.100 | 15.125 | 18.150 | 21.175 | 24.200 | 27.225 | 30.250 | 33.275 | 36.300 |
| 25.0 | 13.000 | 16.250 | 19.500 | 22.750 | 26.000 | 29.250 | 32.500 | 35.750 | 39.000 |

Bの欄にあるは既契約新契約の營業費割合を各四分及四割とし、而て總掛金中新契約に屬する分を百分五として總掛金に對して平均の營業費割合を示したるものなり、他は推して知るべし

今新契約の營業費を掛金の十割とし、而て既契約の營業費を同七分半とするときは、双方の差違甚しきに過ぎて斯る事は蓋し實際に有り得べからざるべし、要するに實際に相遠かる所の營業費割合を計算するときは徒に異論の火の手をして益々强からしむるのみならず會社の營業方針をして誤らしむるに至るべし、注意せざる可らず。

玆に又新契約の營業費割合を見んが爲に既契約の營業費割合を假定するのみならず、既契約の營業費割合を見んが爲に新契約の營業費割合を假定するの法あり、其尤も廣く行はるゝは先づ新契約の營業費を掛金の何割とし（五割とするあり、八割とするあり、或は十割とするありて一樣ならず）、而して之を總掛金の中より引去り、以て既契約に對する營業費の割合を見るなり、然れども此法も又前に記したる七分半說と道理に於て異る所なきにより隨て同一の反對說を有するのみならず新契約に於ては既契約に於けるよりも種々の事情多きを以て此法を用るときは七分半說を用るよりも寧ろ奇異なる結果を生ずべし、反言すれば此法を用るときは既契約の營業費は掛金の五十二割となり或は二十八割となり或は全く皆無となるの結果を生ずるを如何せんや然らば則ち倘此上に喋々の言を費さずとも前記の二法は到底取るに足らざる事明白にして、若し他に之に優るの法なしとせば多少の價値を有するならんかなれども、苟も他の良法を考案したる者に向ては決して滿足を與ること能はざるなり、玆に前記二法に優るの良法あり即ち新契約既契約の營業費割合を別々に見るものにして、之を稱して比例法と云ふ、請ふ是より以下前記二法を假定法と稱して以て二者の區別を爲さん。

比例法とは新契約の營業費割合を既契約の營業費割合に比して十倍即ち一と十との比例を假定するものにして、此法に依て營業費の割合を見んと欲せば、先づ營業費に百を乘じ之を既契約掛金に新契約掛金の十倍を加へたるものを以て除するなり、今實例を擧んに、

總　掛　金＝240圓
新契約掛金＝ 40
既契約掛金＝200
營　業　費＝ 36



として既契約の營業費割合を見んとせば、營業費の百倍3600を既契約掛金に新契約掛金の十倍を加へし者即ち200＋400＝600にて除したるもの、即ち六分なり、而て新契約は之に十倍即ち六割なるを以て、既契約の營業費は十二圓、新契約の營業費は二十四圓、都合三十六圓となる、故に此法を用るときは如何なる場合と雖も新契約に於ても既契約に於ても營業費の皆無なる如き不都合なる結果を來すことなくして、要するに此法は新既契約何れの營業費割合をも假定することなく、只割合の比例を假定するのみ。

又一例を擧げんに

總　掛　金＝10000圓
營　業　費＝ 1200

とすれば平均の營業費割合は掛金の一割二分なり、而て右の掛金中

既契約掛金＝8889圓、新契約掛金＝1111圓とするときは $\frac{120000}{8889+1110}=6$

にして既契約の營業費は掛金の六分即ち總掛金に對する平均の營業費割合の二分一なり。

若し既契約新契約の營業費割合を一と八との如くし、即ち八倍比例法を用るときは十倍の比例法を用るよりも既契約の營業費割合は增加して新契約の營業費割合は減少し、而て平均の營業費割合は增加すべし、然れども二法中其何れか尤も應用上適當なりやと云ふに、寧ろ十倍法を取らざる可らず、何となれば新契約の營業費割合は既契約の營業費割合の八倍より少き事なく、又十二倍より多き事稀なるにより、其中間を取て十倍比例法を用るは理論上多くの誤謬を生ずるの憂なきのみならず、之を諸會社の經驗に徵するも左程の差異を見ざるなり、以て十倍比例法の他法に比して優れるを知るべし、十倍比例法を用るとも實際に相違せざるの割合を見出す能はざるべしとの非難を爲すものあれとも、實際に相違せざるの割合を見出す能はざるは獨り此法のみならずして、是れ如何なる法に依るとも決して免る可らず、加之營業費割合は只實際に甚き差異なきを要するのみにして、徒に顯微鏡的の觀察を爲すは無益なるのみならず、之を爲さんとして而して能はざるべし。

營業費合を見出さんとせば十倍比例法を用るを尤も適當なりとする所以は已に述ぶる所に依て明なり、請ふ終に臨で左に計算の式を示さん

P＝總　掛　金＝R＋N
N＝新契約掛金＝P－R
R＝既契約掛金＝P－N
E＝營　業　費
p＝總掛金に對する營業費割合＝$\frac{100E}{P}$
r＝既契約掛金に對する營業費割合＝$\frac{100E}{R+XN}=\frac{n}{x}$
n＝新契約掛金に對する營業費割合　$x\left(\frac{100E}{R+xN}\right)=xr$
v＝總掛金中新契約に屬する百分率　$\frac{100N}{P}$
x＝rに對するnの倍數

# 保險の刑罰法的觀察

（明治二十八年九月保險雜誌第一號所載）

大學院學生法學士　志田鉀太郎

近來我國に保險なる語は頗る流行し其本來の意義たる生命保險火災保險病災保險及ひ海上保險等の外に保險足袋あり保險金庫あり其他時計賣藥等の諸物に保險附なる新語を見るに至れり蓋し保險とは一定の損害に對し確固なる擔保の意義を示し世人の之を信する厚き遂に此新語の流行を見るに至りたるものならん保險の性質の一部は之に因ても了解することを得るものなり

此の如く世人の信用を繫くに足るへき保險なる語の本体たる生命火災病災其他海上等の保險は私法上より觀察すれは契約の關係にして其契約たるや雙務有償にして且射倖の性質を備ふるものなることは玆に喋々するを要せさるへし而して其契約の基礎とする所は實に結約者間の信用に存す此信用にして缺乏すれは社會を益する圓滿無量の保險組織は全然其跡を絕つに至るへし抑

も保險は多數の人民間に一定の災禍より生する損害を分擔するの制度なるを以て自己の損害は自己獨り之を負擔せざる代りに他人の損害も亦自己に於て負擔せさるへからす然るに其損害共擔を約するものにして互に信用するなくんは誰か安んして焦眉の必要を措て貴重の資産を出捐し或は以て未來萬一の虞に備へ或は以て老後の餘生を樂しむの資となし或は以て死後遺族の飢餓を免れしむるの計をなすものあらんや此の如く保險か信用に基つくの情態は會社か保險營業を行ふに當りても亦同一なり何となれは會社は信用の媒介をなし之を集めて之を分配するの職を有するものなれはなり

保險の基礎たる信用の必要なること此の如し而して此信用を維持するの方法の必要なること論を俟たさるなり其方法に數種あり道德上宗教上より信用を維持するは措て問はす各般の科學の與へたる原理原則に基きて安全なる設計をなすは保險者の信用を維持する所以なり背信の申込背信の所爲あれは保險金の拂渡を受くる能はさるは被保險者の信用を維持する所以なり而して國家は結約者の上に超然として一方には保險者の營業上の背信を防止し他方には被保險者の契約に基つける背信を禁止す是國家か公安上より信用を維持する所以なり是に於てか信用は愈確固となり保險事業は益隆盛なるへし

前述の如く保險者被保險者か互に其信用を維持するの情態を論すれは本論の主眼にあらす主眼とする所は國家か公安上より信用を維持するの方法にして就中刑罰なる制裁を附して強行を計る所以に在り

國家か刑罰を以て保險に關する信用を強行するの手段に二個の方面あり第一面は卽ち保險營業者卽ち保險者に對するものにして第二面は卽ち被保險者及ひ之と特定の關係を有する第三者に對するものなり但し相互保險に於ては保險者被保險者の區別なく各人保險者たると同時に被保險者なり從て特別の手段を以て其間の信用を強制するは當然なれとも組合間に存する深厚なる信用と利害必伴の關係より此信用維持の方法を要すること少し之に加ふるに我邦未た相互保險の流行を見されは其研究を他日に讓り單に保險營業者と被保險者との二方面を論究するに止むへし

## 第一　保險營業者卽ち保險者

保險營業を公行せんと欲するものは官許を要すとは我商法第六百八十九條に揭けたる所にして獨逸聯邦に行はるゝ法規に同し此營業公行の官許は國に由て多少法規の相違あり佛國に於ては生命保險會社に限り之を要し英國に於ては之を要せす其官許を要する國に於ては之を得すして營業を公行すれは刑罰の制裁を受くへし例へは獨逸刑法第三百六十條第九號の如し是信用の媒介者として巨額の金圓を受くへきものに對し國家の監督する第一着歩なり我國の刑法及ひ其他の關係法規に之を見出し能はす會社法第四節の罰則の規定も亦到底此目的を遂くること能はさるは我輩の大に遺憾とする處なり

又準備を設くるの義務準備金を安全に利用し其證券を裁判所に寄託するの義務業務の實況を公告し且被保人に報告するの義務等は商法第六百九十條以下に規定するところなれとも其制裁として揭けたるものは第六百九十四條に止まり之に違反するものに對して刑罰を科するか如きは立法者の夢想すらせさりし所なり況んや其解散合併若くは破產の如きに至ては尊嚴一般の會社法破產法を適用して可なることを確信せるは怪しむるに足らさるへし又た此等に關して元より刑法及ひ其他の關係法規に一の規定をも存せさるなり我輩は一千八百七十年制定の英國生命保險會社條例第十八條以下に於て此法律に列擧せる生命保險會社の義務違反に對し一日に付五十ポンド以內の罰金を命し三ケ月に亘る違背あれは商務省は之か解散を命す又此法律の規定により作成を要する文書申虛僞あるを知り之に署名せる者は科料及ひ禁錮に處し若くは五十ポンド以內の罰金に處すと定めたるを見て此點に關する好模範たることを謝し同時に我刑罰法の改良を切望するものなり

## 第二　被保險者及ひ第三者

歐米諸國に於て刑罰的制裁を附して被保險者及ひ之と利害關係を有する第三者の信用を維持することを勉むること比々皆然り或は詐欺罪中に被保險物の放火及ひ破壞を規定し其目的にして詐欺取財に在るものを罰するあり例へは獨逸刑法第二百六十五條匈牙利刑法第三百八十二條及ひ露西亞刑法第千六百十二條等の如し北米カリフォルニア州刑法の如きは其第十一章に於て詐欺の目的を以て被保險物を破壞するの罪と題して其被保險物か犯人に屬すると



否とを問はす又其犯人の占有に在ると否とを問はすと明言せり我刑法に此等の明文なく從つて普通の詐欺取財に問ふへきものは之に問せ普通の放火犯に問ふへきものは之に問ふに過きす先年議會に提出せられたる刑法改正案は第二百四十條第二百五十條及ひ第三百八十六條に之を規定せり歐米諸國は勿論我國に於てすら被保險物の放火及ひ破壞の類緊なるを見ても我輩は保險に關する信用を維持するに付此規定を設くるの必要を主張せさるを得さるなり又獨逸刑法第二百七十七條以下第二百〇八條に至る四ケ條に於て文書僞造の一として保險會社に對する虛僞の診査報狀の作成を罰すること細密なり曰く醫士の名義を僞稱して自己若くは他人の健康を證する爲めに診査報狀を作り若くは平常受けたる診査報狀を僞造して保險會社を欺罔したる者は一年以內の禁錮に處す曰く醫士にして他人の健康に關し保險會社に出すへき診査報狀を虛僞と知りなから認めたる者は二年以下一ケ月以上の禁錮に處す曰く自己若くは他人の健康に關し前二條に揭けたる診査報狀を用ひて保險會社を欺罔せるものは一年以下の禁錮に處す曰く前三條に依り禁錮に處せられたるものは公權の制奪を宣告すること得と此等の規定は以て國家か如何に保險に關すと信用を保護し強制するかを知るに餘ありと謂ふへし北米カリフォルニア州刑法は猶一層其規定を進めて曰く保險契約に關し虛僞の請求を證明する爲めに呈出し使用し若くは使用せしめんか爲めに各種の計算書檢查狀誓書損害證書若くは其他の文書を用意し作製し且署名したる者は三年以下の禁錮に處すと謂へり其規定の用意の周到なる感するに堪へたり我刑法に此等の規定の存することなし刑法改正案は特に保險に向つて規定せんと雖も第二百二十六條に於て他人を害し又は自己若くは他人を利するの意を以て公私の文書帳簿切符を僞し又は變して公私の害を生し得へからしめたる者は二月以上五年以下の有役禁錮及ひ五圓以上百圓以下の罰金に處すと定め同第二百三十條に於て屬籍身分氏名を詐稱し其他詐欺の所爲を以て官署公署の免狀鑑札證明書又は疾病其他の事項を證明する醫師の證明書を受けたるものは十一日以上六ケ月以下の有役禁錮及ひ五圓以上二十圓以下の罰金に處すとなし同條第二項に官吏公吏醫師情を知て免狀鑑札又は證明書を付與したる者は一等を加ふとなせり又同第二百三十一條には前數條に記載したる罪を犯し其僞造變造に係る文書帳簿切符を使用したる者は各本刑に一等を加ふ僞造變造に與せすして之を使用したる者は僞造變造したる者の刑に同しと謂へり未た以て完全と稱すへからさるも信用の維持に與りて力あること決して少からさるへし然るに改正案は消滅に歸したれは現今保險に關する信用の如何に薄弱なるかを知るに足らん之を要するに現今の刑罰法上保險の信用を維持するの例に乏しく保險營業者に對する刑罰と稱すへきもの無し唯被保險者に對しては被保險物に放火し若くは之を毀損するとき所有家屋放火罪決水罪船舶覆沒罪の外之に依て保險金を受取りたるときに詐欺取財の問題を生するに過きす而して其詐欺取財にあらさることは我輩の喋々を俟たさるなり故に被保險物にして動產なるとき之に放火するも何の刑罰もなく又不動產船舶若くは其他の動產とを論せすして他人の所有に屬するものに放火し或は之を毀損すると自己に屬するものに放火し或は之を毀損するとの間に非常なる刑の輕重ありて被保險物たると否とによりて更に其輕重を見す況んや自己に屬する器物の毀棄は罪とならさるに於てをや又被保險物及ひ危險の情態に關する文書上の詐欺は唯第二百十條以下に僅少の規定を見れとも僞造は行使に伴はされは罪をなさす且疾病證書は公務を免かる可き爲め若くは陸海軍の徵兵を免かるへき爲めのものに限り從つて其詐僞の證書を作りたる醫師云々の條文も全く保險に無關係なること明なり此の如く被保險者の背信に備ふる刑罰を缺くは實に目下の情態なり一方に於て保險會社の非望なきにあらす他方に於て被保險者及ひ其利害關係人の奸計少しとせす然るに刑罰法の之に臨む前述せるか如し是果して信用に因て起り信用を以て立つ保險の全組織を害せさる手段て一般の公安秩序を亂すことなき乎敢て當局者の一顧を煩はさんとす

# 戰爭保險一斑

（明治三十年十一月乃至三十一年一月發行保險雜誌第二十六號七號）

法學士　玉木爲三郎

## 戰爭保險の計算に付て

戰爭危險に對する保險料を平時より徵收せんとするには其割增の標準を定めんか爲め左の諸點に就て觀察せさるへからす

第一　戰爭の起る「プロバビリチー」如何

第二　戰列に加はるへき「プロバビリチー」如何

第三　戰時死亡の「プロバビリチー」如何

右の諸點に付き氏等は詳細なる說明を與へたり其材料とする所は大陸の戰爭にして直に取て我邦に應用するを得さるは勿論なり故に予は我邦の材料を以て之を說明せんと試みたれとも維新以來日尙淺きと及ひ統計材料の備はらさるよりして殆んと絕望せり止を得す兩氏の研究の結果丈を紹介し置き材料を得るに從て更に論述する所あるへし

### 第一　戰爭の起るへき「プロバビリテー」に就て

「ウインナ」府「ヤーヌス」保險會社支配人ルートルフ、クラング氏の研究に由れは千七百八十六年以降千八百十六年迄三十年間に墺國は九回の戰爭を經過し其期間合計十四ケ年と六ケ月にして一戰爭平均十九ケ月となす此期間は有名なるナポレオン戰爭の時代なれは戰爭の多く且其永きことは止を得さることにして之を以て常例とすること能はさるなり千八百十六年より千八百八十六年に至る七十ケ年間に墺太利匈牙利帝國は十四回の戰爭を經過し其期間合計五年十ケ月にして一戰爭平均五ケ月間となす然れとも此內には千八百三十八年に於ける「モンテネグリン」に對する戰爭千八百四十二年「シリヤ」戰爭千八百四十六年「カリシヤ」戰爭千八百五十四年「パルマ」戰爭は最も短かくして合計三十四日に過きされは此四戰爭を省く時は此七十年間十回の戰爭あり此期合計五年九月となり一戰爭平均七ケ月に亙るのと算定するを得

右の材料に依り戰爭の起るへき「プロバビリチー」を計算する時は

(一)　一七八六——一八一六の三十ケ年の經驗にては　$\frac{9}{30}=.3$

(二)　一八一六——一八八六の七十年の經驗にては　$\frac{10}{70}=.143$

(三)　一七八六——一八八六の百年の經驗にては　$\frac{19}{100}=.19$

右に依れは甲は每三年四ケ月に乙は七ケ年に丙は五ケ年三ケ月に一回の戰爭あるへきことを明にす

又カルーブ氏の研究に依れは瑞典には・一九五宇魯西には・一七〇丁抹には・一一五の結果を得たり卽ち五年、六年及ひ九年に一回つゝの戰爭を經へきことゝなるなり

以上の諸結果を合計するときは

$$\frac{.143+.195+.170+.115}{4}=.156$$

要するに戰爭の起るへき年々の危險は・一五六なり換言すれは戰爭は六年五分の一に一回起るへきものと云ふを得へきなり

右の土臺に依り兩氏は每年に一回の戰爭あるへく故に戰爭の起るへき危險の年は・一六七なりと結論せり

### 第二　戰列に加はるへき危險

是れは各國の兵制に依りて同しからす兩氏は大陸の戰爭危險を計算するを以て其目的となしたるか故に主として墺匈の兵制に依れり同國の徵兵法に依れは二十歲より三十二歲に至る壯丁は兵役の義務あり之を三級に分つ

第一現役は二十歲より二十四歲迄とし、第二豫備は二十四歲より三十歲迄のものを含み、第三後備は三十歲より三十二歲までのものを含む此三者は以上記する順序に從て戰列に加はるへきものとし右の三級に對する戰爭危險は同一なり又其後千八百八十六年の法律に依りて第四級の兵役義務者を作れり



卽ち第四、國民軍にして之を二に分ち第一國民軍は十九歲より三十八歲迄とし第二國民軍は三十八歲以上四十二歲までとなし此等のものは守備の任務に服せしむ其他受愚給者は四十二歲以上六十歲以下のものに限り國民軍に編入せらる、クラング氏の報告に依れは各壯丁は年齡に掏はらす三名に付二名は戰列に加はるへき割合なりと云へり然れとも年齡に於て差異を付せされは未た十分なりと云ふを得す故に兩氏は年齡の「フワンクション」として之を計算せり換言すれは戰列に加はるへき危險を「コンスタント」となさすして年と共に遞減することゝなせり其結果

第一　戰列に加はる危險は二十歲に於て最大にして年齡の進むに從て遞減し四十二歲を以て終る

第二　戰爭開始するや二十歲より二十四歲のものは先つ戰列に加はるへきものとす

第三　二十四歲以上三十二歲に至る豫後備兵役者は戰爭の範圍其期間に依り第二に戰列に編入せらる

第四　國民軍は戰に從ふことは最後にして尤も少き危險を有す

第五　戰闘に加はることを以て單位を示すときは

一　現役（二〇——二四）　・八〇

二　豫備（二四——三〇）　・七〇

三　後備（三〇——三二）　・六〇

四　國民軍第一（一九——三八）　・五〇

勿論職業として軍事に從ふへき人々は年齡の制限徵兵と異なるを以て同く右の年齡別標準に從ふ能はすと雖も全體に付ては大なる狂ひを生せさるへし

我邦の兵制は我國民の熟知する所にして今更余等の喋々を待たす而して其現役と豫後備と及ひ國民兵たるとに從て前來援用したる結論を直に爰に應用するも不都合なかるへしと信す故に此問題は筆を爰に擱き直に次の問題に移らん卽ち

## 戰爭中死亡の危險

クラング氏は前に述へたる所の研究に於て三十ケ年間戰爭の實驗に基き有從なる研究をなしたり其結果に依れは各戰爭に因る死亡は百分の一半より百分の十の間を昇降し十三戰爭を通して平均百分の四五分の四なることを知るを得へし卽ち左表の如し

| 戰爭及其年代 | 死亡者百分率 |
|---|---|
| 佛「クリミヤ」（一八五四——五五） | 一〇、三 |
| 佛（一八五九） | 五、六 |
| 伊（一八五九） | 五、五 |
| 澳（一八五九） | 四、七 |
| 北米（一八六一——一八六五） | 五、四 |
| 孛（一八六四） | 三、三 |
| 澳（一八六四） | 四、〇 |
| 伊（一八六六） | 四、〇 |
| 孛（一八六六） | 三、四 |
| バヽリヤ（一八六六） | 五、一 |
| 澳（一八六六） | 五、六 |
| 獨（一八七〇——七一） | 四、二 |
| 澳（一八七八） | 一、五 |
| 十三戰爭平均 | 四、八 |

ホツヂ氏は千八百五十八年に千七百九十三年以來千八百十五年に至る那翁戰爭及千八百五十四五年クリミヤ戰爭に於ける英軍の死亡に基き詳細なる研究をなしたり氏の報告に依れは千七百九十三年乃至千八百十五年の二十ケ年半に於ける年々の死亡率は千分の五十六、二一にして內千分の六、六は戰死にして千分の四十九、六一は疾病其他の原因に出つるものとせり「クリミヤ」戰爭に付ての報告はあれとも其研究の時の早かりし爲め信用すへき材料を有せさるものと云はさるへからす故に學者之を用ふるものなし

カルーブ氏は千八百六十九年に於て千八百十六年乃至千八百六十四年の戰爭危險を論する所を見るに一年に付き百分の一半より五十六に至る間を昇降す（千八百六十九年戰爭に於ける死亡保險論）其平均を見るに一ケ年に付き百分の十の死亡危險あることを證す然れとも此材料の內には非常の激戰を含むか故に死亡割合は偬り多きに過くるの嫌なき能はす故にクラング氏の如きは百分の五、三七を以て中數となすへきか如しと雖も尙ほ澳國戰爭の死亡多

きを以て恐らく百分の五以下に見積ることを以て適當とすへきに似たりと論せり

次に千八百七十年七十一年の孛佛戰爭の死亡統計は最も有用なる材料となす其報告を見れは總兵數八十八萬七千八百七十六人にして內四萬四千七百五十二人卽ち總兵數の百分の五、〇五は死亡し若くは行衞不明のものとなれり左に揭くる表を見るへし

| 總兵數 | 戰死 | 負傷の爲め死亡 | 怪我自殺 | 急性病 | 緩性病 | 頓死 | 原因不詳 | 合計 | 行衞不明 | 總計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 八八七、八七六 | 一七、五七〇 | 一〇、七〇七 | 三一九 | 一〇、三一九 | 七六七 | 九三 | 九六三 | 四〇、七四三 | 四、〇〇九 | 四四、七五二 |

之を千分率に換ふれは左表を得へし

| 戰死 | 負傷の爲 | 怪我自殺 | 急性病 | 緩性病 | 頓死 | 原因不詳 | 合計 | 行衞不明 | 總計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一九・八 | 一二・一 | 〇・四 | 一一・六 | 〇・九 | 〇・一 | 一・一 | 四六・〇 | 四・五 | 五〇・五 |

此統計表は無慮三百頁に亘る大部の書冊よりなり所載の諸表最も價値あるものなりと雖も從軍者及ひ其死亡者の年齡別說明を與ふることなし故に未た吾人に十分の材料を與ふる能はす予輩をして戰爭死亡を各年齡に於てコンスタントとして計算するの止を得さるに至らしむ

右の諸報告に依りスミー氏は結論を與へ既往百年間の戰爭に基きて戰爭危險を計算することゝなせり卽ち戰爭に因る死亡危險は每年百分の五となすを得然れとも此內には普通死亡率卽ち千分の七、五をも含むものなり乍併氏は尤も安全を計る爲めに戰爭危險卽ち百分の五に普通危險卽ち千分の七、五を附加するを正當なりと論せり

國民軍に付て戰爭に因る死亡危險は常備軍の如く大ならすと雖も又一方には之に從事する者は健康の度合に依り免役せられたるものあり又通常役務に慣れさるもの多きが故に未た俄に此者は彼者よりも少き危險を冒すものと斷言するを得さるものあるなり夫れ此の如し且又前に述へたる如く死亡者年齡別統計材料缺乏の爲めに戰爭死亡危險をコンスタントのものと見さるへからさるなり（**編者註**—本文は未完のまゝ終る）



# 生命（死亡生殘）表解題

**藤澤氏第一表**（一六六頁所揭）本表は明治二十二年時の帝國大學理科大學敎授理學士（後ち理學博士）藤澤利喜太郎氏が明治十四年乃至二十年迄七ケ年間の日本人口統計により作成せしものにして、本邦最初の死亡生殘表である。同表は同氏の著『生命保險論』（明治二十二年刊）に揭載。

**藤澤氏第二表**（一六六頁所揭）本表は明治二十二年藤澤博士が前記『生命保險論』發表後日本生命の創立に際し、その依囑を受け、第一表と略ぼ同一資料を以て作成せるものだが、調整方法の相違により第一表に比して小異あり。

**矢野氏第一表**（一六七頁所揭）本表は明治二十六年矢野恒太氏が舊共濟生命（今の安田生命）の創立に際し其の依囑を受けて作成せるもの。基礎材料は明治十九年から二十五年まで七ケ年の全國年齡別人口及死亡統計。

**矢野氏第二表**（一六七頁所揭）本表は明治三十五年矢野恒太氏が第一生命保險相互會社を創立するに當り、明治二十四年から三十一年まで八ケ年の本邦人口統計により作成せるもの。

**統計局第一表**（一六八頁所揭）本表は明治三十五年內閣統計局が明治二十四年から三十一年まで八ケ年の內地人總數につき作成せるもの。

**統計局第二表**（一六九頁所揭）本表は明治四十四年內閣統計局が明治三十二年から三十六年まで五ケ年の內地人總數につき作成せるもので、略して局二表（すべて內閣統計局生命表は略して局第何表といふ）といふ。而して局第一表も第二表も共に矢野恒太氏が內閣統計局の委囑により作製したもの。この第二表は明治四十五年『日本人ノ生命ニ關スル研究（一名日本國民新死亡表）』と題し菊倍判一四六頁（外附表多數）を以て統計局より出版。

**統計局第三表**（一七〇頁所揭）本表は大正七年內閣統計局が明治四十二年から大正二年まで五箇年の內地總人口につき作製したもの。

**統計局第四表**（一七一頁所揭）本表は昭和五年內閣統計局が大正十年から十四年まで五ケ年の內地現在內地人につき作成したものだから、第一表乃至第三表（總人口—海外渡航者を含む）とは全然面目を異にす。同表は正しくは第四回生命表だが、一名新生命表ともいひ、四六倍一七四頁、市販。

**楠氏表**（一七二頁所揭）本表は明治二十七年仁壽生命の創立に際し、同社のために楠秀太郎氏が帝國統計年鑑及び警保局民籍戶口表により明治二十二年から二十五年まで四ケ年の人口統計を材料として作製せるもの。

**森村氏表**（一七二頁）本表は明治三十一年森村金造氏が內務省統計報告により明治二十年乃至二十九年（十ケ年）の人口統計を材料として調成せるもの。三十二年刊行同氏の著『生命保險會社保險料改正の急を論ず』の中に詳述。

**日本三會社表**（一七三頁所揭）本表は明治四十三年海老原介太郎氏が明治、帝國、日本三社の依囑により四年の日子を費し完成したもので、材料は明治、帝國、日本の三社の統計（各社創立より明治三十九年まで）によつた日本最初の經驗表である。原表には男女別並に總合五年及び十年截斷表に全總合表、男女別並に總合選擇表、男女別並（全部十二種）を載す。明治四十四年四六倍型二冊約六〇〇頁を以て出版（非賣品）

**簡易生命表**（一七四頁所揭）本表は簡保創業に際し統計局第二表男子死亡率の二割增として簡保局にて作成せるもの。死亡を二割增とせる理由は簡易保險は無診査保險だからである。

**人見氏表**（一七四頁）本表は明治二十三年人見米次郎氏の作成にかゝるが材料未詳。

**郵便年金表**（一七五頁所揭）本表は郵便年金創業に際し、統計局第二表を基礎とし、男子の死亡率は二割減、女子の死亡率は三割減とし男女別に生命表を作成した。かく死亡率の二三割減としたことは年金加入者は大體長命であるべく逆選が行はれるからのことである。

**商工省日本經驗表**（一七六—一七七頁所揭）本表は商工省と生保協會合同作業にかゝるもので內國十九普通生命保險會社の大正元年乃至十五年及び明治四十五年乃至昭和二年の材料に基いて件數、金額、男女別に作成、それより計算された價格表は昭和七年發行（四六倍判二四〇頁）

**英國十七會社表**（一七八頁所揭）本表は一八四三年ジエキン・ジヨーンス氏の發表したもので、一名アクチユアリー表又は合成經驗表と呼ばる。

**英國六十會社表**（一七八頁所揭）本表は一九〇三年英國六十會社の材料により作成せるもの。

**米國實驗表**（一七九頁所揭）本表は一八六八年紐育相互生命の材料により作成せるもので、作成者の名により、ホーマン氏第二表ともいふ。

**佛國四會社表**（一七九頁所揭）本表は一八九五年ケルタンヂ氏の作成にかゝる經驗表。

**英國二十會社表**（一八〇頁所揭）本表は一八六九年作成の實驗表、アクチユアリ協會表ともいふ。

**獨逸二十三會社表**（一八〇頁所揭）本表は一八八三年チルメル氏の手による二十三社の實驗表。

**フアール氏表**（一八一頁所揭）本表は一八六四年ウイリアム・フアール氏の作成英國第三生命表。

## 藤澤氏第一表

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | 50 | 632 | 13 |
| 1 | ..... | ..... | 51 | 619 | 13 |
| 2 | ..... | ..... | 52 | 606 | 14 |
| 3 | ..... | ..... | 53 | 592 | 14 |
| 4 | ..... | ..... | 54 | 578 | 14 |
| 5 | ..... | ..... | 55 | 564 | 15 |
| 6 | ..... | ..... | 56 | 549 | 15 |
| 7 | ..... | ..... | 57 | 534 | 15 |
| 8 | ..... | ..... | 58 | 519 | 16 |
| 9 | ..... | ..... | 59 | 503 | 16 |
| 10 | 1,000 | 6 | 60 | 487 | 16 |
| 11 | 994 | 6 | 61 | 471 | 17 |
| 12 | 988 | 6 | 62 | 454 | 17 |
| 13 | 982 | 6 | 63 | 437 | 18 |
| 14 | 976 | 6 | 64 | 419 | 18 |
| 15 | 970 | 7 | 65 | 401 | 19 |
| 16 | 963 | 7 | 66 | 382 | 20 |
| 17 | 956 | 7 | 67 | 362 | 21 |
| 18 | 949 | 7 | 68 | 341 | 22 |
| 19 | 942 | 8 | 69 | 319 | 23 |
| 20 | 934 | 8 | 70 | 296 | 23 |
| 21 | 926 | 8 | 71 | 273 | 23 |
| 22 | 918 | 8 | 72 | 250 | 22 |
| 23 | 910 | 9 | 73 | 228 | 21 |
| 24 | 901 | 9 | 74 | 207 | 20 |
| 25 | 892 | 9 | 75 | 187 | 19 |
| 26 | 883 | 9 | 76 | 168 | 18 |
| 27 | 874 | 9 | 77 | 150 | 17 |
| 28 | 865 | 9 | 78 | 133 | 16 |
| 29 | 856 | 10 | 79 | 117 | 15 |
| 30 | 846 | 10 | 80 | 102 | 14 |
| 31 | 836 | 10 | 81 | 88 | 13 |
| 32 | 826 | 10 | 82 | 75 | 12 |
| 33 | 816 | 10 | 83 | 63 | 11 |
| 34 | 806 | 10 | 84 | 52 | 10 |
| 35 | 796 | 10 | 85 | 42 | 9 |
| 36 | 786 | 10 | 86 | 33 | 8 |
| 37 | 776 | 10 | 87 | 25 | 6 |
| 38 | 766 | 10 | 88 | 19 | 5 |
| 39 | 756 | 10 | 89 | 14 | 4 |
| 40 | 746 | 10 | 90 | 10 | 3 |
| 41 | 736 | 11 | 91 | 7 | 2 |
| 42 | 725 | 11 | 92 | 5 | 1 |
| 43 | 714 | 11 | 93 | 4 | 1 |
| 44 | 703 | 11 | 94 | 3 | 1 |
| 45 | 692 | 11 | 95 | 2 | 1 |
| 46 | 681 | 12 | 96 | 1 | 1 |
| 47 | 669 | 12 | | | |
| 48 | 657 | 12 | | | |
| 49 | 645 | 13 | | | |

## 藤澤氏第二表

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 1,416 | 283 | 50 | 647 | 13 |
| 1 | 1,133 | 44 | 51 | 634 | 14 |
| 2 | 1,089 | 27 | 52 | 620 | 14 |
| 3 | 1,062 | 19 | 53 | 606 | 14 |
| 4 | 1,043 | 12 | 54 | 592 | 14 |
| 5 | 1,031 | 9 | 55 | 578 | 14 |
| 6 | 1,022 | 7 | 56 | 564 | 15 |
| 7 | 1,015 | 6 | 57 | 549 | 16 |
| 8 | 1,009 | 4 | 58 | 533 | 16 |
| 9 | 1,005 | 5 | 59 | 517 | 17 |
| 10 | 1,000 | 4 | 60 | 500 | 18 |
| 11 | 996 | 5 | 61 | 482 | 19 |
| 12 | 991 | 5 | 62 | 463 | 19 |
| 13 | 986 | 6 | 63 | 444 | 19 |
| 14 | 980 | 6 | 64 | 425 | 19 |
| 15 | 974 | 7 | 65 | 406 | 20 |
| 16 | 967 | 7 | 66 | 386 | 20 |
| 17 | 960 | 7 | 67 | 366 | 21 |
| 18 | 953 | 8 | 68 | 345 | 21 |
| 19 | 945 | 8 | 69 | 324 | 21 |
| 20 | 937 | 8 | 70 | 303 | 21 |
| 21 | 929 | 8 | 71 | 282 | 22 |
| 22 | 921 | 8 | 72 | 260 | 22 |
| 23 | 913 | 8 | 73 | 238 | 22 |
| 24 | 905 | 9 | 74 | 216 | 21 |
| 25 | 896 | 9 | 75 | 195 | 20 |
| 26 | 887 | 9 | 76 | 175 | 19 |
| 27 | 878 | 9 | 77 | 156 | 18 |
| 28 | 869 | 9 | 78 | 138 | 18 |
| 29 | 860 | 9 | 79 | 120 | 17 |
| 30 | 851 | 9 | 80 | 103 | 14 |
| 31 | 842 | 9 | 81 | 89 | 13 |
| 32 | 833 | 9 | 82 | 76 | 12 |
| 33 | 824 | 9 | 83 | 64 | 12 |
| 34 | 815 | 9 | 84 | 52 | 11 |
| 35 | 806 | 10 | 85 | 41 | 9 |
| 36 | 796 | 10 | 86 | 32 | 7 |
| 37 | 786 | 10 | 87 | 25 | 6 |
| 38 | 776 | 10 | 88 | 19 | 5 |
| 39 | 766 | 10 | 89 | 14 | 4 |
| 40 | 756 | 10 | 90 | 10 | 3 |
| 41 | 746 | 10 | 91 | 7 | 3 |
| 42 | 736 | 10 | 92 | 4 | 2 |
| 43 | 726 | 10 | 93 | 2 | 1 |
| 44 | 716 | 11 | 94 | 1 | 1 |
| 45 | 705 | 11 | | | |
| 46 | 694 | 11 | | | |
| 47 | 683 | 11 | | | |
| 48 | 672 | 12 | | | |
| 49 | 660 | 13 | | | |





## 矢野氏第一表

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | 55 | 6,209 | 142 |
| 1 | ..... | ..... | 56 | 6,067 | 149 |
| 2 | ..... | ..... | 57 | 5,918 | 155 |
| 3 | ..... | ..... | 58 | 5,763 | 162 |
| 4 | ..... | ..... | 59 | 5,601 | 169 |
| 5 | ..... | ..... | 60 | 5,432 | 175 |
| 6 | ..... | ..... | 61 | 5,257 | 182 |
| 7 | ..... | ..... | 62 | 5,075 | 188 |
| 8 | ..... | ..... | 63 | 4,887 | 195 |
| 9 | ..... | ..... | 64 | 4,692 | 200 |
| 10 | ..... | ..... | 65 | 4,492 | 206 |
| 11 | ..... | ..... | 66 | 4,286 | 211 |
| 12 | ..... | ..... | 67 | 4,075 | 216 |
| 13 | ..... | ..... | 68 | 3,859 | 220 |
| 14 | ..... | ..... | 69 | 3,639 | 223 |
| 15 | 10,000 | 81 | 70 | 3,416 | 226 |
| 16 | 9,919 | 81 | 71 | 3,190 | 228 |
| 17 | 9,838 | 82 | 72 | 2,962 | 229 |
| 18 | 9,756 | 82 | 73 | 2,733 | 228 |
| 19 | 9,674 | 82 | 74 | 2,505 | 227 |
| 20 | 9,592 | 82 | 75 | 2,278 | 224 |
| 21 | 9,510 | 83 | 76 | 2,054 | 219 |
| 22 | 9,427 | 83 | 77 | 1,835 | 213 |
| 23 | 9,344 | 83 | 78 | 1,622 | 204 |
| 24 | 9,261 | 83 | 79 | 1,418 | 194 |
| 25 | 9,178 | 84 | 80 | 1,224 | 182 |
| 26 | 9,094 | 84 | 81 | 1,042 | 168 |
| 27 | 9,010 | 84 | 82 | 874 | 153 |
| 28 | 8,926 | 84 | 83 | 721 | 137 |
| 29 | 8,842 | 84 | 84 | 584 | 121 |
| 30 | 8,758 | 84 | 85 | 463 | 104 |
| 31 | 8,674 | 85 | 86 | 359 | 88 |
| 32 | 8,589 | 86 | 87 | 271 | 72 |
| 33 | 8,503 | 87 | 88 | 199 | 58 |
| 34 | 8,416 | 88 | 89 | 141 | 45 |
| 35 | 8,328 | 88 | 90 | 96 | 33 |
| 36 | 8,240 | 89 | 91 | 63 | 24 |
| 37 | 8,151 | 90 | 92 | 39 | 16 |
| 38 | 8,061 | 92 | 93 | 23 | 10 |
| 39 | 7,969 | 93 | 94 | 13 | 6 |
| 40 | 7,876 | 95 | 95 | 7 | 4 |
| 41 | 7,781 | 96 | 96 | 3 | 2 |
| 42 | 7,685 | 98 | 97 | 1 | 1 |
| 43 | 7,587 | 100 | | | |
| 44 | 7,487 | 102 | | | |
| 45 | 7,385 | 104 | | | |
| 46 | 7,281 | 106 | | | |
| 47 | 7,175 | 108 | | | |
| 48 | 7,067 | 111 | | | |
| 49 | 6,956 | 114 | | | |
| 50 | 6,842 | 118 | | | |
| 51 | 6,724 | 122 | | | |
| 52 | 6,602 | 126 | | | |
| 53 | 6,476 | 131 | | | |
| 54 | 6,345 | 136 | | | |

## 矢野氏第二表

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | 55 | 62,231 | 1,672 |
| 1 | ..... | ..... | 56 | 60,559 | 1,735 |
| 2 | ..... | ..... | 57 | 58,824 | 1,801 |
| 3 | ..... | ..... | 58 | 57,023 | 1,867 |
| 4 | ..... | ..... | 59 | 55,156 | 1,935 |
| 5 | ..... | ..... | 60 | 53,221 | 2,002 |
| 6 | ..... | ..... | 61 | 51,219 | 2,067 |
| 7 | ..... | ..... | 62 | 49,152 | 2,133 |
| 8 | ..... | ..... | 63 | 47,019 | 2,196 |
| 9 | ..... | ..... | 64 | 44,823 | 2,258 |
| 10 | ..... | ..... | 65 | 42,565 | 2,317 |
| 11 | ..... | ..... | 66 | 40,248 | 2,371 |
| 12 | ..... | ..... | 67 | 37,877 | 2,420 |
| 13 | ..... | ..... | 68 | 35,457 | 2,459 |
| 14 | ..... | ..... | 69 | 32,998 | 2,485 |
| 15 | 100,000 | 538 | 70 | 30,513 | 2,495 |
| 16 | 99,462 | 596 | 71 | 28,018 | 2,487 |
| 17 | 98,866 | 658 | 72 | 25,531 | 2,458 |
| 18 | 98,208 | 719 | 73 | 23,073 | 2,409 |
| 19 | 97,489 | 772 | 74 | 20,664 | 2,337 |
| 20 | 96,717 | 812 | 75 | 18,327 | 2,247 |
| 21 | 95,905 | 838 | 76 | 16,080 | 2,132 |
| 22 | 95,067 | 850 | 77 | 13,948 | 2,000 |
| 23 | 94,217 | 850 | 78 | 11,948 | 1,851 |
| 24 | 93,367 | 843 | 79 | 10,097 | 1,684 |
| 25 | 92,524 | 833 | 80 | 8,413 | 1,506 |
| 26 | 91,691 | 821 | 81 | 6,907 | 1,321 |
| 27 | 90,870 | 808 | 82 | 5,586 | 1,135 |
| 28 | 90,062 | 797 | 83 | 4,451 | 957 |
| 29 | 89,265 | 786 | 84 | 3,494 | 793 |
| 30 | 88,479 | 778 | 85 | 2,701 | 645 |
| 31 | 87,701 | 771 | 86 | 2,056 | 518 |
| 32 | 86,930 | 768 | 87 | 1,538 | 409 |
| 33 | 86,162 | 767 | 88 | 1,129 | 318 |
| 34 | 85,395 | 772 | 89 | 811 | 242 |
| 35 | 84,623 | 783 | 90 | 569 | 181 |
| 36 | 83,840 | 798 | 91 | 388 | 131 |
| 37 | 83,042 | 820 | 92 | 257 | 93 |
| 38 | 82,222 | 847 | 93 | 164 | 63 |
| 39 | 81,375 | 877 | 94 | 101 | 41 |
| 40 | 80,498 | 910 | 95 | 60 | 26 |
| 41 | 79,588 | 944 | 96 | 34 | 16 |
| 42 | 78,644 | 978 | 97 | 18 | 9 |
| 43 | 77,666 | 1,013 | 98 | 9 | 5 |
| 44 | 76,653 | 1,050 | 99 | 4 | 2 |
| 45 | 75,603 | 1,090 | 100 | 2 | 1 |
| 46 | 74,513 | 1,135 | 101 | 1 | 1 |
| 47 | 73,378 | 1,184 | | | |
| 48 | 72,194 | 1,240 | | | |
| 49 | 70,954 | 1,298 | | | |
| 50 | 69,656 | 1,360 | | | |
| 51 | 68,296 | 1,423 | | | |
| 52 | 66,873 | 1,485 | | | |
| 53 | 65,388 | 1,548 | | | |
| 54 | 63,840 | 1,609 | | | |

# 内閣統計局第一表

| 年齢 | 生残数 男 | 生残数 女 | 死亡数 男 | 死亡数 女 | 年齢 | 年齢 | 生残数 男 | 生残数 女 | 死亡数 男 | 死亡数 女 | 年齢 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 100,000 | 14,895 | 13,380 | 0 | 51 | 49,592 | 50,259 | 981 | 775 | 51 |
| 1 | 85,105 | 86,620 | 3,809 | 3,605 | 1 | 52 | 48,611 | 49,484 | 1,023 | 810 | 52 |
| 2 | 81,299 | 83,015 | 2,403 | 2,344 | 2 | 53 | 47,588 | 48,674 | 1,066 | 845 | 53 |
| 3 | 78,896 | 80,671 | 1,587 | 1,570 | 3 | 54 | 46,522 | 47,829 | 1,112 | 884 | 54 |
| 4 | 77,309 | 79,101 | 1,070 | 1,073 | 4 | 55 | 45,410 | 46,945 | 1,161 | 926 | 55 |
| 5 | 76,239 | 78,028 | 762 | 763 | 5 | 56 | 44,249 | 46,019 | 1,212 | 971 | 56 |
| 6 | 75,477 | 77,265 | 588 | 574 | 6 | 57 | 43,037 | 45,048 | 1,267 | 1,021 | 57 |
| 7 | 74,889 | 76,691 | 476 | 462 | 7 | 58 | 41,770 | 44,027 | 1,322 | 1,073 | 58 |
| 8 | 74,413 | 76,229 | 402 | 394 | 8 | 59 | 40,448 | 42,954 | 1,375 | 1,128 | 59 |
| 9 | 74,011 | 75,835 | 356 | 353 | 9 | 60 | 39,073 | 41,826 | 1,426 | 1,182 | 60 |
| 10 | 73,655 | 75,482 | 332 | 333 | 10 | 61 | 37,647 | 40,644 | 1,472 | 1,236 | 61 |
| 11 | 73,323 | 75,149 | 309 | 325 | 11 | 62 | 36,175 | 39,408 | 1,514 | 1,290 | 62 |
| 12 | 73,014 | 74,824 | 301 | 334 | 12 | 63 | 34,661 | 38,118 | 1,552 | 1,344 | 63 |
| 13 | 72,713 | 74,490 | 310 | 360 | 13 | 64 | 33,109 | 36,774 | 1,588 | 1,397 | 64 |
| 14 | 72,403 | 74,130 | 337 | 391 | 14 | 65 | 31,521 | 35,377 | 1,620 | 1,451 | 65 |
| 15 | 72,066 | 73,739 | 375 | 439 | 15 | 66 | 29,901 | 33,926 | 1,652 | 1,505 | 66 |
| 16 | 71,691 | 73,300 | 427 | 487 | 16 | 67 | 28,249 | 32,421 | 1,680 | 1,559 | 67 |
| 17 | 71,264 | 72,813 | 475 | 537 | 17 | 68 | 26,569 | 30,862 | 1,702 | 1,610 | 68 |
| 18 | 70,789 | 72,276 | 522 | 584 | 18 | 69 | 24,867 | 29,252 | 1,718 | 1,658 | 69 |
| 19 | 70,267 | 71,692 | 551 | 619 | 19 | 70 | 23,149 | 27,594 | 1,723 | 1,698 | 70 |
| 20 | 69,716 | 71,073 | 572 | 639 | 20 | 71 | 21,426 | 25,896 | 1,719 | 1,732 | 71 |
| 21 | 69,144 | 70,434 | 584 | 652 | 21 | 72 | 19,707 | 24,164 | 1,702 | 1,754 | 72 |
| 22 | 68,560 | 69,782 | 594 | 663 | 22 | 73 | 18,005 | 22,410 | 1,673 | 1,766 | 73 |
| 23 | 67,966 | 69,119 | 596 | 668 | 23 | 74 | 16,332 | 20,644 | 1,632 | 1,765 | 74 |
| 24 | 67,370 | 68,451 | 594 | 669 | 24 | 75 | 14,700 | 18,879 | 1,579 | 1,752 | 75 |
| 25 | 66,776 | 67,782 | 588 | 667 | 25 | 76 | 13,121 | 17,127 | 1,514 | 1,723 | 76 |
| 26 | 66,188 | 67,115 | 580 | 664 | 26 | 77 | 11,607 | 15,404 | 1,438 | 1,679 | 77 |
| 27 | 65,608 | 66,451 | 571 | 660 | 27 | 78 | 10,169 | 13,725 | 1,350 | 1,618 | 78 |
| 28 | 65,037 | 65,791 | 564 | 657 | 28 | 79 | 8,819 | 12,107 | 1,254 | 1,539 | 79 |
| 29 | 64,473 | 65,134 | 556 | 655 | 29 | 80 | 7,565 | 10,568 | 1,149 | 1,443 | 80 |
| 30 | 63,917 | 64,479 | 552 | 654 | 30 | 81 | 6,416 | 9,125 | 1,036 | 1,331 | 81 |
| 31 | 63,365 | 63,825 | 549 | 655 | 31 | 82 | 5,380 | 7,794 | 920 | 1,209 | 82 |
| 32 | 62,816 | 63,170 | 548 | 658 | 32 | 83 | 4,460 | 6,585 | 803 | 1,079 | 83 |
| 33 | 62,268 | 62,512 | 552 | 663 | 33 | 84 | 3,657 | 5,506 | 689 | 948 | 84 |
| 34 | 61,716 | 61,849 | 557 | 669 | 34 | 85 | 2,968 | 4,558 | 581 | 820 | 85 |
| 35 | 61,159 | 61,180 | 567 | 674 | 35 | 86 | 2,387 | 3,738 | 501 | 727 | 86 |
| 36 | 60,592 | 60,506 | 579 | 679 | 36 | 87 | 1,886 | 3,011 | 425 | 633 | 87 |
| 37 | 60,013 | 59,827 | 594 | 684 | 37 | 88 | 1,461 | 2,378 | 353 | 540 | 88 |
| 38 | 59,419 | 59,143 | 611 | 685 | 38 | 89 | 1,108 | 1,838 | 287 | 451 | 89 |
| 39 | 58,808 | 58,458 | 630 | 685 | 39 | 90 | 821 | 1,387 | 228 | 368 | 90 |
| 40 | 58,178 | 57,773 | 651 | 681 | 40 | 91 | 593 | 1,019 | 177 | 292 | 91 |
| 41 | 57,527 | 57,092 | 672 | 675 | 41 | 92 | 416 | 727 | 133 | 225 | 92 |
| 42 | 56,855 | 56,417 | 694 | 669 | 42 | 93 | 283 | 502 | 97 | 168 | 93 |
| 43 | 56,161 | 55,748 | 717 | 662 | 43 | 94 | 186 | 334 | 69 | 121 | 94 |
| 44 | 55,444 | 55,086 | 742 | 659 | 44 | 95 | 117 | 213 | 46 | 83 | 95 |
| 45 | 54,702 | 54,427 | 769 | 660 | 45 | 96 | 71 | 130 | 30 | 55 | 96 |
| 46 | 53,933 | 53,767 | 799 | 666 | 46 | 97 | 41 | 75 | 19 | 34 | 97 |
| 47 | 53,134 | 52,101 | 831 | 679 | 47 | 98 | 22 | 41 | 11 | 20 | 98 |
| 48 | 52,303 | 52,422 | 866 | 697 | 43 | 99 | 11 | 21 | 6 | 11 | 99 |
| 49 | 51,437 | 51,725 | 903 | 719 | 49 | 100 | 5 | 10 | 3 | 6 | 100 |
| 50 | 50,534 | 51,006 | 942 | 747 | 50 | 101 | 2 | 4 | 1 | 2 | 101 |
| | | | | | | 102 | 1 | 2 | 1 | 1 | 102 |
| | | | | | | 103 | | 1 | | 1 | 103 |





# 内閣統計局第二表

| 年齢 | 生残数 男 | 生残数 女 | 死亡数 男 | 死亡数 女 | 年齢 | 年齢 | 生残数 男 | 生残数 女 | 死亡数 男 | 死亡数 女 | 年齢 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 100,000 | 15,686 | 14,092 | 0 | 51 | 51,695 | 51,079 | 975 | 745 | 51 |
| 1 | 84,314 | 85,908 | 3,108 | 3,091 | 1 | 52 | 50,720 | 50,334 | 1,020 | 777 | 52 |
| 2 | 81,206 | 82,817 | 2,104 | 2,155 | 2 | 53 | 49,700 | 49,557 | 1,064 | 811 | 53 |
| 3 | 79,102 | 80,662 | 1,345 | 1,397 | 3 | 54 | 48,636 | 48,746 | 1,113 | 848 | 54 |
| 4 | 77,757 | 79,265 | 870 | 926 | 4 | 55 | 47,523 | 47,898 | 1,163 | 887 | 55 |
| 5 | 76,887 | 78,339 | 605 | 635 | 5 | 56 | 46,360 | 47,011 | 1,216 | 929 | 56 |
| 6 | 76,282 | 77,704 | 446 | 463 | 6 | 57 | 45,144 | 46,082 | 1,271 | 976 | 57 |
| 7 | 75,836 | 77,241 | 360 | 372 | 7 | 58 | 43,873 | 45,106 | 1,328 | 1,027 | 58 |
| 8 | 75,476 | 76,869 | 311 | 324 | 8 | 59 | 42,545 | 44,079 | 1,385 | 1,081 | 59 |
| 9 | 75,165 | 76,545 | 274 | 300 | 9 | 60 | 41,160 | 42,998 | 1,443 | 1,139 | 60 |
| 10 | 74,891 | 76,245 | 248 | 287 | 10 | 61 | 39,717 | 41,859 | 1,501 | 1,201 | 61 |
| 11 | 74,643 | 75,958 | 236 | 292 | 11 | 62 | 38,216 | 40,658 | 1,557 | 1,264 | 62 |
| 12 | 74,407 | 75,666 | 236 | 319 | 12 | 63 | 36,659 | 39,394 | 1,612 | 1,330 | 63 |
| 13 | 74,171 | 75,347 | 263 | 362 | 13 | 64 | 35,047 | 38,064 | 1,663 | 1,396 | 64 |
| 14 | 73,908 | 74,985 | 306 | 417 | 14 | 65 | 33,384 | 36,668 | 1,710 | 1,462 | 65 |
| 15 | 73,602 | 74,568 | 350 | 476 | 15 | 66 | 31,674 | 35,206 | 1,749 | 1,527 | 66 |
| 16 | 73,252 | 74,092 | 404 | 536 | 16 | 67 | 29,925 | 33,679 | 1,781 | 1,589 | 67 |
| 17 | 72,848 | 73,556 | 461 | 593 | 17 | 68 | 28,144 | 32,090 | 1,805 | 1,646 | 68 |
| 18 | 72,387 | 72,963 | 516 | 639 | 18 | 69 | 26,339 | 30,444 | 1,820 | 1,699 | 69 |
| 19 | 71,871 | 72,324 | 561 | 672 | 19 | 70 | 24,519 | 28,745 | 1,825 | 1,745 | 70 |
| 20 | 71,310 | 71,652 | 592 | 691 | 20 | 71 | 22,694 | 27,000 | 1,821 | 1,783 | 71 |
| 21 | 70,718 | 70,961 | 608 | 699 | 21 | 72 | 20,873 | 25,217 | 1,803 | 1,811 | 72 |
| 22 | 70,110 | 70,262 | 611 | 698 | 22 | 73 | 19,070 | 23,406 | 1,773 | 1,828 | 73 |
| 23 | 69,499 | 69,564 | 605 | 693 | 23 | 74 | 17,297 | 21,578 | 1,727 | 1,833 | 74 |
| 24 | 68,894 | 68,871 | 590 | 685 | 24 | 75 | 15,570 | 19,745 | 1,674 | 1,817 | 75 |
| 25 | 68,304 | 68,186 | 572 | 676 | 25 | 76 | 13,896 | 17,928 | 1,609 | 1,787 | 76 |
| 26 | 67,732 | 67,510 | 254 | 668 | 26 | 77 | 12,287 | 16,141 | 1,532 | 1,742 | 77 |
| 27 | 67,178 | 66,842 | 537 | 662 | 27 | 78 | 10,755 | 14,399 | 1,444 | 1,683 | 78 |
| 28 | 66,641 | 66,180 | 526 | 655 | 28 | 79 | 9,311 | 12,716 | 1,347 | 1,610 | 79 |
| 29 | 66,115 | 65,525 | 519 | 651 | 29 | 80 | 7,964 | 11,106 | 1,241 | 1,524 | 80 |
| 30 | 65,596 | 64,874 | 516 | 647 | 30 | 81 | 6,723 | 9,582 | 1,128 | 1,424 | 81 |
| 31 | 65,080 | 64,227 | 517 | 646 | 31 | 82 | 5,595 | 8,158 | 1,011 | 1,313 | 82 |
| 32 | 64,563 | 63,581 | 522 | 647 | 32 | 83 | 4,584 | 6,845 | 892 | 1,193 | 83 |
| 33 | 64,041 | 62,934 | 528 | 649 | 33 | 84 | 3,692 | 5,652 | 774 | 1,067 | 84 |
| 34 | 63,513 | 62,285 | 537 | 653 | 34 | 85 | 2,918 | 4,585 | 659 | 938 | 85 |
| 35 | 62,976 | 61,632 | 547 | 658 | 35 | 86 | 2,259 | 3,647 | 549 | 808 | 86 |
| 36 | 62,429 | 60,974 | 559 | 663 | 36 | 87 | 1,710 | 2,849 | 448 | 681 | 87 |
| 37 | 61,870 | 60,311 | 574 | 666 | 37 | 88 | 1,262 | 2,158 | 356 | 561 | 88 |
| 38 | 61,296 | 59,645 | 589 | 669 | 38 | 89 | 906 | 1,597 | 275 | 449 | 89 |
| 39 | 60,707 | 58,976 | 606 | 668 | 39 | 90 | 631 | 1,148 | 206 | 350 | 90 |
| 40 | 60,101 | 58,308 | 625 | 664 | 40 | 91 | 425 | 798 | 150 | 263 | 91 |
| 41 | 59,476 | 57,644 | 647 | 657 | 41 | 92 | 275 | 535 | 104 | 191 | 92 |
| 42 | 58,829 | 56,987 | 669 | 649 | 42 | 93 | 171 | 344 | 70 | 133 | 93 |
| 43 | 58,160 | 56,338 | 694 | 639 | 43 | 94 | 101 | 211 | 44 | 89 | 94 |
| 44 | 57,466 | 55,699 | 723 | 634 | 44 | 95 | 57 | 122 | 27 | 55 | 95 |
| 45 | 56,743 | 55,065 | 754 | 633 | 45 | 96 | 30 | 67 | 15 | 33 | 96 |
| 46 | 55,989 | 54,432 | 786 | 637 | 46 | 97 | 15 | 34 | 8 | 18 | 97 |
| 47 | 55,203 | 53,795 | 821 | 648 | 47 | 98 | 7 | 16 | 4 | 9 | 98 |
| 48 | 54,382 | 53,147 | 858 | 665 | 48 | 99 | 3 | 7 | 2 | 4 | 99 |
| 49 | 53,524 | 52,482 | 895 | 688 | 49 | 100 | 1 | 3 | 1 | 2 | 100 |
| 50 | 52,629 | 51,794 | 934 | 715 | 50 | 101 | | 1 | | 1 | 101 |

# 内閣統計局第三表

| 年齢 | 生殘數 男 | 生殘數 女 | 死亡數 男 | 死亡數 女 | 年齢 | 年齢 | 生殘數 男 | 生殘數 女 | 死亡數 男 | 死亡數 女 | 年齢 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 100,000 | 16,050 | 14,504 | 0 | 51 | 52,130 | 50,686 | 912 | 695 | 51 |
| 1 | 83,950 | 85,496 | 3,702 | 3,736 | 1 | 52 | 51,218 | 49,991 | 957 | 728 | 52 |
| 2 | 80,248 | 81,760 | 1,891 | 1,951 | 2 | 53 | 50,261 | 49,263 | 1,004 | 762 | 53 |
| 3 | 78,357 | 79,809 | 1,154 | 1,176 | 3 | 54 | 49,257 | 48,501 | 1,053 | 797 | 54 |
| 4 | 77,203 | 78,633 | 793 | 815 | 4 | 55 | 48,204 | 47,404 | 1,104 | 835 | 55 |
| 5 | 76,410 | 77,818 | 543 | 589 | 5 | 56 | 47,100 | 46,869 | 1,157 | 874 | 56 |
| 6 | 75,867 | 77,229 | 409 | 449 | 6 | 57 | 45,943 | 45,995 | 1,212 | 915 | 57 |
| 7 | 75,458 | 76,780 | 339 | 373 | 7 | 58 | 44,731 | 45,080 | 1,269 | 960 | 58 |
| 8 | 75,119 | 76,407 | 294 | 330 | 8 | 59 | 43,462 | 44,120 | 1,326 | 1,007 | 59 |
| 9 | 74,825 | 76,077 | 261 | 307 | 9 | 60 | 42,136 | 43,113 | 1,384 | 1,059 | 60 |
| 10 | 74,564 | 75,770 | 239 | 300 | 10 | 61 | 40,752 | 42,054 | 1,441 | 1,113 | 61 |
| 11 | 74,325 | 75,470 | 227 | 315 | 11 | 62 | 39,311 | 40,941 | 1,496 | 1,171 | 62 |
| 12 | 74,098 | 75,155 | 231 | 357 | 12 | 63 | 37,815 | 39,770 | 1,550 | 1,232 | 63 |
| 13 | 73,867 | 74,798 | 264 | 417 | 13 | 64 | 36,265 | 38,538 | 1,601 | 1,295 | 64 |
| 14 | 73,603 | 74,381 | 314 | 486 | 14 | 65 | 34,664 | 37,243 | 1,650 | 1,361 | 65 |
| 15 | 73,289 | 73,895 | 366 | 558 | 15 | 66 | 33,014 | 35,882 | 1,695 | 1,427 | 66 |
| 16 | 72,923 | 73,337 | 429 | 628 | 16 | 67 | 31,319 | 34,455 | 1,736 | 1,493 | 67 |
| 17 | 72,494 | 72,709 | 494 | 687 | 17 | 68 | 29,583 | 32,962 | 1,771 | 1,558 | 68 |
| 18 | 72,000 | 72,022 | 554 | 729 | 18 | 69 | 27,812 | 31,404 | 1,798 | 1,621 | 69 |
| 19 | 71,446 | 71,293 | 600 | 753 | 19 | 70 | 26,014 | 29,783 | 1,815 | 1,685 | 70 |
| 20 | 70,846 | 70,540 | 628 | 761 | 20 | 71 | 24,199 | 28,098 | 1,820 | 1,730 | 71 |
| 21 | 70,218 | 69,779 | 638 | 756 | 21 | 72 | 22,379 | 26,368 | 1,812 | 1,763 | 72 |
| 22 | 69,580 | 69,023 | 634 | 744 | 22 | 73 | 20,567 | 24,605 | 1,789 | 1,782 | 73 |
| 23 | 68,946 | 68,279 | 620 | 727 | 23 | 74 | 18,778 | 22,823 | 1,751 | 1,786 | 74 |
| 24 | 68,326 | 67,552 | 600 | 708 | 24 | 75 | 17,027 | 21,037 | 1,725 | 1,777 | 75 |
| 25 | 67,726 | 66,844 | 578 | 689 | 25 | 76 | 15,302 | 19,260 | 1,658 | 1,754 | 76 |
| 26 | 67,148 | 66,155 | 557 | 671 | 26 | 77 | 13,644 | 17,506 | 1,592 | 1,720 | 77 |
| 27 | 66,591 | 65,484 | 537 | 655 | 27 | 78 | 12,052 | 15,786 | 1,514 | 1,675 | 78 |
| 28 | 66,054 | 64,829 | 523 | 642 | 28 | 79 | 10,538 | 14,111 | 1,426 | 1,618 | 79 |
| 29 | 65,531 | 64,187 | 511 | 632 | 29 | 80 | 9,112 | 12,493 | 1,328 | 1,550 | 80 |
| 30 | 65,020 | 63,555 | 503 | 625 | 30 | 81 | 7,784 | 10,943 | 1,221 | 1,473 | 81 |
| 31 | 64,517 | 62,930 | 497 | 619 | 31 | 82 | 6,563 | 9,470 | 1,109 | 1,381 | 82 |
| 32 | 64,020 | 62,311 | 496 | 616 | 32 | 83 | 5,454 | 8,089 | 993 | 1,277 | 83 |
| 33 | 63,524 | 61,695 | 496 | 616 | 33 | 84 | 4,461 | 6,812 | 874 | 1,164 | 84 |
| 34 | 63,028 | 61,079 | 500 | 616 | 34 | 85 | 3,587 | 5,648 | 757 | 1,045 | 85 |
| 35 | 62,528 | 60,463 | 506 | 617 | 35 | 86 | 2,830 | 4,603 | 643 | 922 | 86 |
| 36 | 62,022 | 59,846 | 514 | 619 | 36 | 87 | 2,187 | 3,681 | 535 | 798 | 87 |
| 37 | 61,508 | 59,227 | 525 | 620 | 37 | 88 | 1,652 | 2,883 | 436 | 677 | 88 |
| 38 | 60,983 | 58,607 | 539 | 618 | 38 | 89 | 1,216 | 2,206 | 345 | 561 | 89 |
| 39 | 60,444 | 57,989 | 555 | 616 | 39 | 90 | 871 | 1,645 | 266 | 453 | 90 |
| 40 | 59,889 | 57,373 | 574 | 611 | 40 | 91 | 605 | 1,192 | 199 | 355 | 91 |
| 41 | 59,315 | 56,762 | 594 | 605 | 41 | 92 | 406 | 837 | 144 | 270 | 92 |
| 42 | 58,721 | 56,157 | 617 | 597 | 42 | 93 | 262 | 567 | 100 | 198 | 93 |
| 43 | 58,104 | 55,560 | 641 | 590 | 43 | 94 | 162 | 369 | 67 | 140 | 94 |
| 44 | 57,463 | 54,970 | 667 | 586 | 44 | 95 | 95 | 229 | 42 | 94 | 95 |
| 45 | 56,796 | 54,384 | 695 | 585 | 45 | 96 | 53 | 135 | 25 | 60 | 96 |
| 46 | 56,101 | 53,799 | 725 | 590 | 46 | 97 | 28 | 75 | 14 | 36 | 97 |
| 47 | 55,376 | 53,209 | 757 | 601 | 47 | 98 | 14 | 38 | 8 | 20 | 98 |
| 48 | 54,619 | 52,608 | 791 | 617 | 48 | 99 | 6 | 18 | 4 | 10 | 99 |
| 49 | 53,828 | 51,991 | 829 | 639 | 49 | 100 | 2 | 8 | 1 | 5 | 100 |
| 50 | 52,999 | 51,352 | 869 | 666 | 50 | 101 | 1 | 3 | 1 | 2 | 101 |
| | | | | | | 102 | 0 | 1 | | 1 | 102 |





# 内閣統計局第四表

| 年齢 | 生殘數 男 | 生殘數 女 | 死亡數 男 | 死亡數 女 | 年齢 | 年齢 | 生殘數 男 | 生殘數 女 | 死亡數 男 | 死亡數 女 | 年齢 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 100,000 | 16,204 | 14,400 | 0 | 51 | 49,331 | 48,728 | 975 | 709 | 51 |
| 1 | 83,796 | 85,600 | 4,060 | 4,072 | 1 | 52 | 48,356 | 48,019 | 1,016 | 733 | 52 |
| 2 | 79,736 | 81,528 | 2,082 | 2,142 | 2 | 53 | 47,340 | 47,286 | 1,074 | 757 | 53 |
| 3 | 77,654 | 79,386 | 1,285 | 1,382 | 3 | 54 | 46,266 | 46,529 | 1,127 | 795 | 54 |
| 4 | 76,369 | 78,004 | 802 | 894 | 4 | 55 | 45,139 | 45,734 | 1,186 | 841 | 55 |
| 5 | 75,567 | 77,110 | 532 | 598 | 5 | 56 | 43,953 | 44,893 | 1,254 | 886 | 56 |
| 6 | 75,035 | 76,512 | 401 | 440 | 6 | 57 | 42,699 | 44,007 | 1,325 | 937 | 57 |
| 7 | 74,634 | 76,072 | 342 | 373 | 7 | 58 | 41,374 | 43,070 | 1,395 | 985 | 58 |
| 8 | 74,292 | 75,699 | 291 | 314 | 8 | 59 | 39,979 | 42,085 | 1,462 | 1,030 | 59 |
| 9 | 74,001 | 75,385 | 252 | 283 | 9 | 60 | 38,517 | 41,055 | 1,508 | 1,084 | 60 |
| 10 | 73,749 | 75,102 | 234 | 280 | 10 | 61 | 37,009 | 39,971 | 1,553 | 1,136 | 61 |
| 11 | 73,515 | 74,822 | 226 | 289 | 11 | 62 | 35,456 | 38,835 | 1,593 | 1,203 | 62 |
| 12 | 73,289 | 74,533 | 230 | 324 | 12 | 63 | 33,863 | 37,632 | 1,647 | 1,272 | 63 |
| 13 | 73,059 | 74,209 | 261 | 417 | 13 | 64 | 32,216 | 36,360 | 1,700 | 1,337 | 64 |
| 14 | 72,798 | 73,792 | 329 | 536 | 14 | 65 | 30,516 | 35,023 | 1,741 | 1,393 | 65 |
| 15 | 72,469 | 73,256 | 433 | 660 | 15 | 66 | 28,775 | 33,630 | 1,764 | 1,447 | 66 |
| 16 | 72,036 | 72,596 | 552 | 745 | 16 | 67 | 27,011 | 32,183 | 1,781 | 1,505 | 67 |
| 17 | 71,484 | 71,851 | 658 | 801 | 17 | 68 | 25,230 | 30,678 | 1,808 | 1,575 | 68 |
| 18 | 70,826 | 71,050 | 731 | 829 | 18 | 69 | 23,422 | 29,103 | 1,831 | 1,638 | 69 |
| 19 | 70,095 | 70,221 | 759 | 842 | 19 | 70 | 21,591 | 27,465 | 1,831 | 1,691 | 70 |
| 20 | 69,336 | 69,379 | 749 | 838 | 20 | 71 | 19,760 | 25,774 | 1,802 | 1,728 | 71 |
| 21 | 68,587 | 68,541 | 727 | 832 | 21 | 72 | 17,958 | 24,046 | 1,769 | 1,760 | 72 |
| 22 | 67,860 | 67,709 | 705 | 816 | 22 | 73 | 16,189 | 22,286 | 1,724 | 1,784 | 73 |
| 23 | 67,155 | 66,893 | 685 | 790 | 23 | 74 | 14,465 | 20,502 | 1,666 | 1,796 | 74 |
| 24 | 66,470 | 66,103 | 659 | 758 | 24 | 75 | 12,799 | 18,706 | 1,593 | 1,793 | 75 |
| 25 | 65,811 | 65,345 | 626 | 730 | 25 | 76 | 11,206 | 16,913 | 1,507 | 1,773 | 76 |
| 26 | 65,185 | 64,615 | 594 | 705 | 26 | 77 | 9,699 | 15,140 | 1,409 | 1,738 | 77 |
| 27 | 64,591 | 63,910 | 568 | 691 | 27 | 78 | 8,290 | 13,402 | 1,301 | 1,683 | 78 |
| 28 | 64,023 | 63,219 | 545 | 675 | 28 | 79 | 6,989 | 11,719 | 1,183 | 1,610 | 79 |
| 29 | 63,478 | 62,544 | 528 | 659 | 29 | 80 | 5,806 | 10,109 | 1,061 | 1,519 | 80 |
| 30 | 62,950 | 61,885 | 518 | 647 | 30 | 81 | 4,745 | 8,590 | 935 | 1,411 | 81 |
| 31 | 62,432 | 61,238 | 514 | 639 | 31 | 82 | 3,810 | 7,179 | 809 | 1,288 | 82 |
| 32 | 61,918 | 60,599 | 509 | 632 | 32 | 83 | 3,001 | 5,891 | 686 | 1,155 | 83 |
| 33 | 61,409 | 59,967 | 511 | 629 | 33 | 84 | 2,315 | 4,736 | 569 | 1,013 | 84 |
| 34 | 60,898 | 59,338 | 513 | 628 | 34 | 85 | 1,746 | 3,723 | 462 | 868 | 85 |
| 35 | 60,385 | 58,710 | 526 | 630 | 35 | 86 | 1,284 | 2,855 | 365 | 725 | 86 |
| 36 | 59,859 | 58,080 | 537 | 634 | 36 | 87 | 919 | 2,130 | 280 | 589 | 87 |
| 37 | 59,322 | 57,446 | 552 | 636 | 37 | 88 | 639 | 1,541 | 209 | 462 | 88 |
| 38 | 58,770 | 56,810 | 566 | 638 | 38 | 89 | 430 | 1,079 | 151 | 352 | 89 |
| 39 | 58,204 | 56,172 | 586 | 636 | 39 | 90 | 279 | 727 | 104 | 257 | 90 |
| 40 | 57,618 | 55,536 | 607 | 630 | 40 | 91 | 175 | 470 | 70 | 179 | 91 |
| 41 | 57,011 | 54,906 | 626 | 620 | 41 | 92 | 105 | 291 | 44·8 | 120 | 92 |
| 42 | 56,385 | 54,286 | 650 | 608 | 42 | 93 | 60·2 | 171 | 27·3 | 75·9 | 93 |
| 43 | 55,735 | 53,678 | 682 | 597 | 43 | 94 | 32·9 | 95·1 | 15·9 | 45·4 | 94 |
| 44 | 55,053 | 53,081 | 714 | 594 | 44 | 95 | 17·0 | 49·7 | 8·68 | 25·4 | 95 |
| 45 | 54,339 | 52,487 | 745 | 593 | 45 | 96 | 8·32 | 24·3 | 4·50 | 13·3 | 96 |
| 46 | 53,594 | 51,894 | 773 | 601 | 46 | 97 | 3·82 | 11·0 | 2·19 | 6·42 | 97 |
| 47 | 52,821 | 51,293 | 807 | 607 | 47 | 98 | 1·63 | 4·58 | 0·982 | 2·84 | 98 |
| 48 | 52,014 | 50,686 | 849 | 622 | 48 | 99 | 0·648 | 1·74 | 0·411 | 1·142 | 99 |
| 49 | 51,165 | 50,064 | 898 | 653 | 49 | 100 | 0·237 | 0·598 | 0·1579 | 0·415 | 100 |
| 50 | 50,267 | 49,411 | 936 | 683 | 50 | 101 | 0·0791 | 0·183 | | 0·1333 | 101 |
| | | | | | | 102 | | 0·0497 | | | 102 |

## 楠氏表

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | 55 | 624 | 15 |
| 1 | ..... | ..... | 56 | 609 | 16 |
| 2 | ..... | ..... | 57 | 593 | 17 |
| 3 | ..... | ..... | 58 | 576 | 17 |
| 4 | ..... | ..... | 59 | 559 | 18 |
| 5 | ..... | ..... | 60 | 541 | 18 |
| 6 | ..... | ..... | 61 | 523 | 19 |
| 7 | ..... | ..... | 62 | 504 | 20 |
| 8 | ..... | ..... | 63 | 484 | 21 |
| 9 | ..... | ..... | 64 | 463 | 21 |
| 10 | ..... | ..... | 65 | 442 | 22 |
| 11 | ..... | ..... | 66 | 420 | 23 |
| 12 | ..... | ..... | 67 | 397 | 23 |
| 13 | ..... | ..... | 68 | 374 | 23 |
| 14 | ..... | ..... | 69 | 351 | 24 |
| 15 | 1,000 | 6 | 70 | 327 | 24 |
| 16 | 994 | 6 | 71 | 303 | 24 |
| 17 | 988 | 7 | 72 | 279 | 24 |
| 18 | 981 | 7 | 73 | 255 | 24 |
| 19 | 974 | 8 | 74 | 231 | 24 |
| 20 | 966 | 8 | 75 | 207 | 23 |
| 21 | 958 | 8 | 76 | 184 | 22 |
| 22 | 950 | 8 | 77 | 162 | 21 |
| 23 | 942 | 8 | 78 | 141 | 20 |
| 24 | 934 | 8 | 79 | 121 | 18 |
| 25 | 926 | 8 | 80 | 103 | 16 |
| 26 | 918 | 8 | 81 | 87 | 15 |
| 27 | 910 | 8 | 82 | 72 | 13 |
| 28 | 902 | 8 | 83 | 59 | 11 |
| 29 | 894 | 8 | 84 | 48 | 10 |
| 30 | 886 | 8 | 85 | 38 | 8 |
| 31 | 878 | 8 | 86 | 30 | 7 |
| 32 | 870 | 9 | 87 | 23 | 5 |
| 33 | 861 | 9 | 88 | 18 | 5 |
| 34 | 852 | 9 | 89 | 13 | 4 |
| 35 | 843 | 9 | 90 | 9 | 3 |
| 36 | 834 | 9 | 91 | 6 | 2 |
| 37 | 825 | 9 | 92 | 4 | 1 |
| 38 | 816 | 10 | 93 | 3 | 1 |
| 39 | 806 | 10 | 94 | 2 | 1 |
| 40 | 796 | 10 | 95 | 1 | 1 |
| 41 | 786 | 10 | | | |
| 42 | 776 | 10 | | | |
| 43 | 766 | 10 | | | |
| 44 | 756 | 11 | | | |
| 45 | 745 | 10 | | | |
| 46 | 735 | 11 | | | |
| 47 | 724 | 11 | | | |
| 48 | 713 | 11 | | | |
| 49 | 702 | 12 | | | |
| 50 | 690 | 12 | | | |
| 51 | 678 | 13 | | | |
| 52 | 665 | 13 | | | |
| 53 | 652 | 14 | | | |
| 54 | 638 | 14 | | | |

## 森村氏表

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 9,755 | 55 | 47,323 | 1,214 |
| 1 | 90,245 | 4,509 | 56 | 46,109 | 1,265 |
| 2 | 85,736 | 2,807 | 57 | 44,844 | 1,318 |
| 3 | 82,929 | 1,806 | 58 | 43,526 | 1,372 |
| 4 | 81,123 | 1,207 | 59 | 42,154 | 1,426 |
| 5 | 79,916 | 846 | 60 | 40,728 | 1,480 |
| 6 | 79,070 | 627 | 61 | 39,248 | 1,538 |
| 7 | 78,443 | 496 | 62 | 37,710 | 1,581 |
| 8 | 77,947 | 418 | 63 | 36,129 | 1,633 |
| 9 | 77,529 | 372 | 64 | 34,496 | 1,678 |
| 10 | 77,157 | 346 | 65 | 32,818 | 1,716 |
| 11 | 76,811 | 330 | 66 | 31,102 | 1,749 |
| 12 | 76,481 | 321 | 67 | 29,353 | 1,774 |
| 13 | 76,160 | 331 | 68 | 27,579 | 1,790 |
| 14 | 75,829 | 356 | 69 | 25,789 | 1,797 |
| 15 | 75,473 | 394 | 70 | 23,992 | 1,795 |
| 16 | 75,079 | 443 | 71 | 22,197 | 1,784 |
| 17 | 74,636 | 496 | 72 | 20,413 | 1,762 |
| 18 | 74,140 | 543 | 73 | 18,651 | 1,731 |
| 19 | 73,597 | 578 | 74 | 16,920 | 1,689 |
| 20 | 73,019 | 600 | 75 | 15,231 | 1,637 |
| 21 | 72,419 | 611 | 76 | 13,594 | 1,574 |
| 22 | 71,808 | 615 | 77 | 12,020 | 1,499 |
| 23 | 71,193 | 614 | 78 | 10,521 | 1,415 |
| 24 | 70,579 | 611 | 79 | 9,106 | 1,320 |
| 25 | 69,968 | 607 | 80 | 7,786 | 1,217 |
| 26 | 69,361 | 602 | 81 | 6,569 | 1,108 |
| 27 | 68,759 | 598 | 82 | 5,461 | 993 |
| 28 | 68,161 | 593 | 83 | 4,468 | 876 |
| 29 | 67,568 | 589 | 84 | 3,592 | 759 |
| 30 | 66,979 | 586 | 85 | 2,833 | 645 |
| 31 | 66,393 | 584 | 86 | 2,188 | 537 |
| 32 | 65,809 | 584 | 87 | 1,651 | 436 |
| 33 | 65,225 | 588 | 88 | 1,215 | 346 |
| 34 | 64,637 | 594 | 89 | 869 | 267 |
| 35 | 64,043 | 603 | 90 | 602 | 200 |
| 36 | 63,440 | 615 | 91 | 402 | 144 |
| 37 | 62,825 | 630 | 92 | 258 | 100 |
| 38 | 62,195 | 647 | 93 | 158 | 67 |
| 39 | 61,548 | 667 | 94 | 91 | 42 |
| 40 | 60,881 | 689 | 95 | 49 | 25 |
| 41 | 60,192 | 713 | 96 | 24 | 14 |
| 42 | 59,479 | 739 | 97 | 10 | 6 |
| 43 | 58,740 | 767 | 98 | 4 | 3 |
| 44 | 57,973 | 797 | 99 | 1 | 1 |
| 45 | 57,176 | 827 | | | |
| 46 | 56,349 | 859 | | | |
| 47 | 55,490 | 892 | | | |
| 48 | 54,598 | 926 | | | |
| 49 | 53,672 | 960 | | | |
| 50 | 52.712 | 996 | | | |
| 51 | 51,716 | 1,034 | | | |
| 52 | 50,682 | 1,075 | | | |
| 53 | 49,607 | 1,119 | | | |
| 54 | 48,488 | 1,165 | | | |





## 日本三會社男子五年齢階級別総合表

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | 55 | 62,642 | 1,882 |
| 1 | ..... | ..... | 56 | 60,760 | 1,966 |
| 2 | ..... | ..... | 57 | 58,794 | 2,062 |
| 3 | ..... | ..... | 58 | 56,732 | 2,161 |
| 4 | ..... | ..... | 59 | 54,571 | 2,259 |
| 5 | ..... | ..... | 60 | 52,312 | 2,349 |
| 6 | ..... | ..... | 61 | 49,963 | 2,425 |
| 7 | ..... | ..... | 62 | 47,538 | 2,476 |
| 8 | ..... | ..... | 63 | 45,062 | 2,493 |
| 9 | ..... | ..... | 64 | 42,569 | 2,480 |
| 10 | 108,537 | 765 | 65 | 40,089 | 2,439 |
| 11 | 107,772 | 771 | 66 | 37,650 | 2,388 |
| 12 | 107,001 | 787 | 67 | 35,262 | 2,341 |
| 13 | 106,214 | 811 | 68 | 32,921 | 2,316 |
| 14 | 105,403 | 849 | 69 | 30,605 | 2,319 |
| 15 | 104,554 | 901 | 70 | 28,286 | 2,343 |
| 16 | 103,653 | 966 | 71 | 25,943 | 2,373 |
| 17 | 102,687 | 1,038 | 72 | 23,570 | 2,388 |
| 18 | 101,649 | 1,107 | 73 | 21,182 | 2,369 |
| 19 | 100,542 | 1,162 | 74 | 18,813 | 2,307 |
| 20 | 99,380 | 1,192 | 75 | 16,506 | 2,201 |
| 21 | 98,188 | 1,193 | 76 | 14,305 | 2,059 |
| 22 | 96,995 | 1,162 | 77 | 12,246 | 1,891 |
| 23 | 95,833 | 1,106 | 78 | 10,355 | 1,713 |
| 24 | 94,727 | 1,034 | 79 | 8,642 | 1,532 |
| 25 | 93,693 | 959 | 80 | 7,110 | 1,354 |
| 26 | 92,734 | 887 | 81 | 5,756 | 1,181 |
| 27 | 91,847 | 829 | 82 | 4,575 | 1,011 |
| 28 | 91,018 | 783 | 83 | 3,564 | 849 |
| 29 | 90,235 | 754 | 84 | 2,715 | 695 |
| 30 | 89,481 | 734 | 85 | 2,020 | 557 |
| 31 | 88,747 | 721 | 86 | 1,463 | 433 |
| 32 | 88,026 | 713 | 87 | 1,030 | 327 |
| 33 | 87,313 | 707 | 88 | 703 | 239 |
| 34 | 86,606 | 705 | 89 | 464 | 169 |
| 35 | 85,901 | 703 | 90 | 295 | 115 |
| 36 | 85,198 | 708 | 91 | 180 | 75 |
| 37 | 84,490 | 721 | 92 | 105 | 47 |
| 38 | 83,769 | 742 | 93 | 58 | 27 |
| 39 | 83,027 | 774 | 94 | 31 | 16 |
| 40 | 82,253 | 816 | 95 | 15 | 8 |
| 41 | 81,437 | 869 | 96 | 7 | 4 |
| 42 | 80,568 | 931 | 97 | 3 | 2 |
| 43 | 79,637 | 1,000 | 98 | 1 | 1 |
| 44 | 78,637 | 1,074 | | | |
| 45 | 77,563 | 1,152 | | | |
| 46 | 76,411 | 1,230 | | | |
| 47 | 75,181 | 1,309 | | | |
| 48 | 73,872 | 1,388 | | | |
| 49 | 72,484 | 1,467 | | | |
| 50 | 71,017 | 1,542 | | | |
| 51 | 69,475 | 1,611 | | | |
| 52 | 67,864 | 1,676 | | | |
| 53 | 66,188 | 1,740 | | | |
| 54 | 64,448 | 1,806 | | | |

## 日本三會社男子全総合表

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | 55 | 61,961 | 1,770 |
| 1 | ..... | ..... | 56 | 60,191 | 1,859 |
| 2 | ..... | ..... | 57 | 58,332 | 1,957 |
| 3 | ..... | ..... | 58 | 56,375 | 2,064 |
| 4 | ..... | ..... | 59 | 54,311 | 2,173 |
| 5 | ..... | ..... | 60 | 52,138 | 2,280 |
| 6 | ..... | ..... | 61 | 49,858 | 2,374 |
| 7 | ..... | ..... | 62 | 47,484 | 2,443 |
| 8 | ..... | ..... | 63 | 45,041 | 2,477 |
| 9 | ..... | ..... | 64 | 42,564 | 2,475 |
| 10 | 100,000 | 499 | 65 | 40,089 | 2,439 |
| 11 | 99,501 | 507 | 66 | 37,650 | 2,388 |
| 12 | 98,994 | 524 | 67 | 35,262 | 2,341 |
| 13 | 98,470 | 550 | 68 | 32,921 | 2,316 |
| 14 | 97,920 | 585 | 69 | 30,605 | 2,319 |
| 15 | 97,335 | 631 | 70 | 28,286 | 2,343 |
| 16 | 96,704 | 683 | 71 | 25,943 | 2,373 |
| 17 | 96,021 | 734 | 72 | 23,570 | 2,388 |
| 18 | 95,287 | 782 | 73 | 21,182 | 2,369 |
| 19 | 94,505 | 815 | 74 | 18,813 | 2,307 |
| 20 | 99,690 | 834 | 75 | 16,506 | 2,201 |
| 21 | 92,856 | 834 | 76 | 14,305 | 2,059 |
| 22 | 92,022 | 815 | 77 | 12,246 | 1,891 |
| 23 | 91,207 | 785 | 78 | 10,355 | 1,713 |
| 24 | 90,422 | 748 | 79 | 8,642 | 1,532 |
| 25 | 89,674 | 710 | 80 | 7,110 | 1,354 |
| 26 | 88,964 | 677 | 81 | 5,756 | 1,181 |
| 27 | 88,287 | 652 | 82 | 4,545 | 1,011 |
| 28 | 87,635 | 634 | 83 | 3,564 | 849 |
| 29 | 87,001 | 624 | 84 | 2,715 | 695 |
| 30 | 86,377 | 620 | 85 | 2,020 | 557 |
| 31 | 85,757 | 617 | 86 | 1,463 | 433 |
| 32 | 85,140 | 618 | 87 | 1,030 | 327 |
| 33 | 84,522 | 621 | 88 | 703 | 239 |
| 34 | 83,901 | 627 | 89 | 464 | 169 |
| 35 | 83,274 | 636 | 90 | 295 | 115 |
| 36 | 82,638 | 650 | 91 | 180 | 75 |
| 37 | 81,988 | 666 | 92 | 105 | 47 |
| 38 | 81,322 | 688 | 93 | 58 | 27 |
| 39 | 80,634 | 715 | 94 | 31 | 16 |
| 40 | 79,919 | 747 | 95 | 15 | 8 |
| 41 | 79,172 | 789 | 96 | 7 | 4 |
| 42 | 78,383 | 838 | 97 | 3 | 2 |
| 43 | 77,545 | 899 | 98 | 1 | 1 |
| 44 | 76,646 | 966 | | | |
| 45 | 75,680 | 1,039 | | | |
| 46 | 74,641 | 1,115 | | | |
| 47 | 73,526 | 1,191 | | | |
| 48 | 72,335 | 1,268 | | | |
| 49 | 71,067 | 1,343 | | | |
| 50 | 69,724 | 1,414 | | | |
| 51 | 68,310 | 1,484 | | | |
| 52 | 66,826 | 1,552 | | | |
| 53 | 65,274 | 1,621 | | | |
| 54 | 63,653 | 1,692 | | | |

## 簡易生命保険表

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 18,823 | 55 | 40,758 | 1,197 |
| 1 | 81,177 | 3,591 | 56 | 39,561 | 1,246 |
| 2 | 77,586 | 2,412 | 57 | 38,315 | 1,295 |
| 3 | 75,174 | 1,534 | 58 | 37,020 | 1,345 |
| 4 | 73,640 | 989 | 59 | 35,675 | 1,394 |
| 5 | 72,651 | 686 | 60 | 34,281 | 1,442 |
| 6 | 71,965 | 505 | 61 | 32,839 | 1,489 |
| 7 | 71,460 | 407 | 62 | 31,350 | 1,533 |
| 8 | 71,053 | 351 | 63 | 29,817 | 1,573 |
| 9 | 70,702 | 309 | 64 | 28,244 | 1,609 |
| 10 | 70,393 | 280 | 65 | 26,635 | 1,637 |
| 11 | 70,113 | 266 | 66 | 24,998 | 1,656 |
| 12 | 69,847 | 266 | 67 | 23,342 | 1,667 |
| 13 | 69,581 | 296 | 68 | 21,675 | 1,668 |
| 14 | 69,285 | 344 | 69 | 20,007 | 1,659 |
| 15 | 68,941 | 393 | 70 | 18,348 | 1,639 |
| 16 | 68,548 | 453 | 71 | 16,709 | 1,608 |
| 17 | 68,095 | 517 | 72 | 15,101 | 1,566 |
| 18 | 67,578 | 578 | 73 | 13,535 | 1,510 |
| 19 | 67,000 | 628 | 74 | 12,025 | 1,441 |
| 20 | 66,372 | 661 | 75 | 10,584 | 1,365 |
| 21 | 65,711 | 678 | 76 | 9,219 | 1,281 |
| 22 | 65,033 | 681 | 77 | 7,938 | 1,188 |
| 23 | 64,352 | 672 | 78 | 6,750 | 1,088 |
| 24 | 63,680 | 654 | 79 | 5,662 | 983 |
| 25 | 63,026 | 634 | 80 | 4,679 | 875 |
| 26 | 62,392 | 612 | 81 | 3,804 | 766 |
| 27 | 61,780 | 593 | 82 | 3,038 | 659 |
| 28 | 61,187 | 579 | 83 | 2,379 | 556 |
| 29 | 60,608 | 571 | 84 | 1,823 | 459 |
| 30 | 60,037 | 567 | 85 | 1,364 | 370 |
| 31 | 59,470 | 567 | 86 | 994 | 290 |
| 32 | 58,903 | 571 | 87 | 704 | 221 |
| 33 | 58,332 | 577 | 88 | 483 | 164 |
| 34 | 57,755 | 586 | 89 | 319 | 116 |
| 35 | 57,169 | 596 | 90 | 203 | 80 |
| 36 | 56,573 | 608 | 91 | 123 | 52 |
| 37 | 55,965 | 623 | 92 | 71 | 32 |
| 38 | 55,342 | 638 | 93 | 39 | 19 |
| 39 | 54,704 | 656 | 94 | 20 | 11 |
| 40 | 54,048 | 675 | 95 | 9 | 5 |
| 41 | 53,373 | 696 | 96 | 4 | 2 |
| 42 | 52,677 | 719 | 97 | 2 | 1 |
| 43 | 51,958 | 744 | 98 | 1 | 1 |
| 44 | 51,214 | 773 | | | |
| 45 | 50,441 | 804 | | | |
| 46 | 49,637 | 836 | | | |
| 47 | 48,801 | 871 | | | |
| 48 | 47,930 | 907 | | | |
| 49 | 47,023 | 944 | | | |
| 50 | 46,079 | 981 | | | |
| 51 | 45,098 | 1,021 | | | |
| 52 | 44,077 | 1,063 | | | |
| 53 | 43,014 | 1,105 | | | |
| 54 | 41,909 | 1,151 | | | |

## 人見氏表

| 年齢 | 生残数 | 亡死数 | 年齢 | 生残数 | 亡死数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | 55 | 606 | 14 |
| 1 | ..... | ..... | 56 | 592 | 15 |
| 2 | ..... | ..... | 57 | 577 | 16 |
| 3 | ..... | ..... | 58 | 561 | 16 |
| 4 | ..... | ..... | 59 | 545 | 17 |
| 5 | ..... | ..... | 60 | 528 | 18 |
| 6 | ..... | ..... | 61 | 510 | 18 |
| 7 | ..... | ..... | 62 | 492 | 19 |
| 8 | ..... | ..... | 63 | 473 | 19 |
| 9 | ..... | ..... | 64 | 454 | 20 |
| 10 | 1,000 | 4 | 65 | 434 | 20 |
| 11 | 996 | 4 | 66 | 414 | 21 |
| 12 | 992 | 4 | 67 | 393 | 22 |
| 13 | 988 | 4 | 68 | 371 | 22 |
| 14 | 984 | 5 | 69 | 349 | 23 |
| 15 | 979 | 5 | 70 | 326 | 24 |
| 16 | 974 | 6 | 71 | 302 | 23 |
| 17 | 968 | 7 | 72 | 279 | 23 |
| 18 | 961 | 7 | 73 | 256 | 23 |
| 19 | 954 | 8 | 74 | 233 | 23 |
| 20 | 946 | 8 | 75 | 210 | 22 |
| 21 | 938 | 8 | 76 | 188 | 21 |
| 22 | 930 | 8 | 77 | 167 | 21 |
| 23 | 922 | 8 | 78 | 146 | 20 |
| 24 | 914 | 8 | 79 | 126 | 19 |
| 25 | 906 | 8 | 80 | 107 | 17 |
| 26 | 898 | 8 | 81 | 90 | 15 |
| 27 | 890 | 8 | 82 | 75 | 14 |
| 28 | 882 | 8 | 83 | 61 | 12 |
| 29 | 874 | 8 | 84 | 49 | 11 |
| 30 | 866 | 8 | 85 | 38 | 9 |
| 31 | 858 | 9 | 86 | 29 | 8 |
| 32 | 849 | 9 | 87 | 21 | 6 |
| 33 | 840 | 9 | 88 | 15 | 5 |
| 34 | 831 | 9 | 89 | 10 | 3 |
| 35 | 822 | 9 | 90 | 7 | 3 |
| 36 | 813 | 9 | 91 | 4 | 2 |
| 37 | 804 | 9 | 92 | 2 | 1 |
| 38 | 795 | 9 | 93 | 1 | 1 |
| 39 | 786 | 9 | | | |
| 40 | 777 | 10 | | | |
| 41 | 767 | 10 | | | |
| 42 | 757 | 10 | | | |
| 43 | 747 | 10 | | | |
| 44 | 737 | 10 | | | |
| 45 | 727 | 10 | | | |
| 46 | 717 | 11 | | | |
| 47 | 706 | 11 | | | |
| 48 | 695 | 11 | | | |
| 49 | 684 | 12 | | | |
| 50 | 672 | 13 | | | |
| 51 | 659 | 13 | | | |
| 52 | 646 | 13 | | | |
| 53 | 633 | 13 | | | |
| 54 | 620 | 14 | | | |





## 郵便年金表（男子）

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 12,549 | 55 | 55,318 | 1,083 |
| 1 | 87,451 | 2,579 | 56 | 54,235 | 1,138 |
| 2 | 84,872 | 1,759 | 57 | 53,097 | 1,196 |
| 3 | 83,113 | 1,130 | 58 | 51,901 | 1,257 |
| 4 | 81,983 | 734 | 59 | 50,644 | 1,319 |
| 5 | 81,249 | 512 | 60 | 49,325 | 1,383 |
| 6 | 80,737 | 378 | 61 | 47,942 | 1,449 |
| 7 | 80,359 | 305 | 62 | 46,493 | 1,515 |
| 8 | 80,054 | 264 | 63 | 44,978 | 1,582 |
| 9 | 79,790 | 232 | 64 | 43,396 | 1,648 |
| 10 | 79,558 | 211 | 65 | 41,748 | 1,710 |
| 11 | 79,347 | 201 | 66 | 40,038 | 1,769 |
| 12 | 79,146 | 201 | 67 | 38,269 | 1,822 |
| 13 | 78,945 | 224 | 68 | 36,447 | 1,870 |
| 14 | 78,721 | 261 | 69 | 34,577 | 1,911 |
| 15 | 78,460 | 298 | 70 | 32,666 | 1,946 |
| 16 | 78,162 | 345 | 71 | 30,720 | 1,971 |
| 17 | 77,817 | 394 | 72 | 28,749 | 1,987 |
| 18 | 77,423 | 442 | 73 | 26,762 | 1,990 |
| 19 | 76,981 | 481 | 74 | 24,772 | 1,979 |
| 20 | 76,500 | 508 | 75 | 22,793 | 1,960 |
| 21 | 75,992 | 523 | 76 | 20,833 | 1,930 |
| 22 | 75,469 | 526 | 77 | 18,903 | 1,886 |
| 23 | 74,943 | 522 | 78 | 17,017 | 1,828 |
| 24 | 74,421 | 510 | 79 | 15,189 | 1,758 |
| 25 | 73,911 | 495 | 80 | 13,431 | 1,674 |
| 26 | 73,416 | 480 | 81 | 11,757 | 1,578 |
| 27 | 72,936 | 467 | 82 | 10,179 | 1,471 |
| 28 | 72,469 | 457 | 83 | 8,708 | 1,356 |
| 29 | 72 012 | 452 | 84 | 7,352 | 1,233 |
| 30 | 71,560 | 451 | 85 | 6,119 | 1,105 |
| 31 | 71,109 | 452 | 86 | 5,014 | 976 |
| 32 | 70,657 | 457 | 87 | 4,038 | 846 |
| 33 | 70,200 | 463 | 88 | 3,192 | 720 |
| 34 | 69,737 | 471 | 89 | 2,472 | 601 |
| 35 | 69,266 | 482 | 90 | 1,871 | 490 |
| 36 | 68,784 | 493 | 91 | 1,381 | 389 |
| 37 | 68,291 | 506 | 92 | 992 | 301 |
| 38 | 67,785 | 521 | 93 | 691 | 226 |
| 39 | 67,264 | 538 | 94 | 465 | 164 |
| 40 | 66,726 | 555 | 95 | 301 | 114 |
| 41 | 66,171 | 575 | 96 | 187 | 76 |
| 42 | 65,596 | 597 | 97 | 111 | 49 |
| 43 | 64,999 | 621 | 98 | 62 | 29 |
| 44 | 64,378 | 648 | 99 | 33 | 17 |
| 45 | 63,730 | 677 | 100 | 16 | 9 |
| 46 | 63,053 | 708 | 101 | 7 | 4 |
| 47 | 62,345 | 742 | 102 | 3 | 2 |
| 48 | 61,603 | 777 | 103 | 1 | 1 |
| 49 | 60,826 | 814 | | | |
| 50 | 60,012 | 852 | | | |
| 51 | 59,160 | 893 | | | |
| 52 | 58,267 | 936 | | | |
| 53 | 57,331 | 982 | | | |
| 54 | 56,349 | 1,031 | | | |

## 郵便年金表（女子）

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 9,864 | 55 | 59,933 | 777 |
| 1 | 90,136 | 2,270 | 56 | 59,156 | 819 |
| 2 | 87,866 | 1,600 | 57 | 58,337 | 865 |
| 3 | 86,266 | 1,046 | 58 | 57,472 | 916 |
| 4 | 85,220 | 697 | 59 | 56,556 | 971 |
| 5 | 84,523 | 479 | 60 | 55,585 | 1,031 |
| 6 | 84,044 | 351 | 61 | 54,554 | 1,096 |
| 7 | 83,693 | 282 | 62 | 53,458 | 1,164 |
| 8 | 83,411 | 246 | 63 | 52,294 | 1,236 |
| 9 | 83,165 | 228 | 64 | 51,058 | 1,311 |
| 10 | 82,937 | 219 | 65 | 49,747 | 1,388 |
| 11 | 82,718 | 223 | 66 | 48,359 | 1,468 |
| 12 | 82,495 | 243 | 67 | 46,891 | 1,548 |
| 13 | 82,252 | 277 | 68 | 45,343 | 1,628 |
| 14 | 81,975 | 319 | 69 | 43,715 | 1,708 |
| 15 | 81,656 | 365 | 70 | 42,007 | 1,785 |
| 16 | 81,291 | 412 | 71 | 40,222 | 1,860 |
| 17 | 80,879 | 456 | 72 | 38,362 | 1,929 |
| 18 | 80,423 | 493 | 73 | 36,433 | 1,992 |
| 19 | 79,930 | 520 | 74 | 34,441 | 2,048 |
| 20 | 79,410 | 536 | 75 | 32,393 | 2,036 |
| 21 | 78,874 | 544 | 76 | 30,307 | 2,114 |
| 22 | 78,330 | 545 | 77 | 28,193 | 2,129 |
| 23 | 77,785 | 542 | 78 | 26,064 | 2,133 |
| 24 | 77,243 | 538 | 79 | 23,931 | 2,121 |
| 25 | 76,705 | 533 | 80 | 21,810 | 2,095 |
| 26 | 76,172 | 528 | 81 | 19,715 | 2,051 |
| 27 | 75,644 | 524 | 82 | 17,664 | 1,989 |
| 28 | 75,120 | 521 | 83 | 15,675 | 1,913 |
| 29 | 74,599 | 519 | 84 | 13,762 | 1,819 |
| 30 | 74,080 | 518 | 85 | 11,943 | 1,710 |
| 31 | 73,562 | 518 | 86 | 10,233 | 1,587 |
| 32 | 73,044 | 520 | 87 | 8,646 | 1,452 |
| 33 | 72,524 | 523 | 88 | 7,194 | 1,308 |
| 34 | 72,001 | 528 | 89 | 5,886 | 1,159 |
| 35 | 71,473 | 534 | 90 | 4,727 | 1,009 |
| 36 | 70,939 | 540 | 91 | 3,718 | 859 |
| 37 | 70,399 | 545 | 92 | 2,859 | 716 |
| 38 | 69,854 | 548 | 93 | 2,143 | 581 |
| 39 | 69,306 | 549 | 94 | 1,562 | 459 |
| 40 | 68,757 | 548 | 95 | 1,103 | 351 |
| 41 | 68,209 | 544 | 96 | 752 | 259 |
| 42 | 67,665 | 539 | 97 | 493 | 184 |
| 43 | 67,126 | 533 | 98 | 309 | 125 |
| 44 | 66,593 | 530 | 99 | 184 | 81 |
| 45 | 66,063 | 531 | 100 | 103 | 49 |
| 46 | 65,532 | 537 | 101 | 54 | 28 |
| 47 | 64,995 | 548 | 102 | 26 | 14 |
| 48 | 64,447 | 564 | 103 | 12 | 7 |
| 49 | 63,883 | 586 | 104 | 5 | 3 |
| 50 | 63,297 | 611 | 105 | 2 | 1 |
| 51 | 62,686 | 640 | 106 | 1 | 1 |
| 52 | 62,046 | 671 | | | |
| 53 | 61,375 | 703 | | | |
| 54 | 60,672 | 739 | | | |

# 商工省日本経験生命表

## 男子全総合表（件数）

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | …… | …… | 54 | 64,002 | 1,625 |
| 1 | …… | …… | 55 | 62,377 | 1,716 |
| 2 | …… | …… | 56 | 60,661 | 1,808 |
| 3 | …… | …… | 57 | 58,853 | 1,902 |
| 4 | …… | …… | 58 | 56,951 | 1,998 |
| 5 | …… | …… | 59 | 54,953 | 2,093 |
| 6 | …… | …… | 60 | 52,860 | 2,185 |
| 7 | …… | …… | 61 | 50,675 | 2,272 |
| 8 | …… | …… | 62 | 48,403 | 2,349 |
| 9 | …… | …… | 63 | 46,054 | 2,419 |
| 10 | 98,747 | 259 | 64 | 43,635 | 2,475 |
| 11 | 98,488 | 243 | 65 | 41,160 | 2,522 |
| 12 | 98,245 | 271 | 66 | 38,638 | 2,559 |
| 13 | 97,974 | 336 | 67 | 36,079 | 2,590 |
| 14 | 97,638 | 421 | 68 | 33,489 | 2,611 |
| 15 | 97,217 | 531 | 69 | 30,878 | 2,615 |
| 16 | 96,686 | 650 | 70 | 28,263 | 2,601 |
| 17 | 96,036 | 788 | 71 | 25,662 | 2,564 |
| 18 | 95,248 | 887 | 72 | 23,098 | 2,505 |
| 19 | 94,361 | 929 | 73 | 20,593 | 2,418 |
| 20 | 93,432 | 917 | 74 | 18,175 | 2,306 |
| 21 | 92,515 | 901 | 75 | 15,869 | 2,171 |
| 22 | 91,614 | 861 | 76 | 13,698 | 2,028 |
| 23 | 90,753 | 817 | 77 | 11,670 | 1,867.3 |
| 24 | 89,936 | 769 | 78 | 9,802.7 | 1,695.1 |
| 25 | 89,167 | 726 | 79 | 8,107.6 | 1,514.2 |
| 26 | 88,441 | 701 | 80 | 6,593.4 | 1,329.1 |
| 27 | 87,740 | 680 | 81 | 5,264.3 | 1,144.5 |
| 28 | 87,060 | 655 | 82 | 4,119.8 | 965.2 |
| 29 | 86,405 | 638 | 83 | 3,154.6 | 795.9 |
| 30 | 85,767 | 626 | 84 | 2,358.7 | 640.2 |
| 31 | 85,141 | 618 | 85 | 1,718.5 | 501.4 |
| 32 | 84,523 | 617 | 86 | 1,217.1 | 381.15 |
| 33 | 83,906 | 620 | 87 | 835.95 | 280.75 |
| 34 | 83,286 | 627 | 88 | 555.20 | 199.69 |
| 35 | 82,659 | 638 | 89 | 355.51 | 136.76 |
| 36 | 82,021 | 653 | 90 | 218.75 | 89.86 |
| 37 | 81,368 | 672 | 91 | 128.89 | 56.46 |
| 38 | 80,696 | 695 | 92 | 72.430 | 33.771 |
| 39 | 80,001 | 722 | 93 | 38.659 | 19.148 |
| 40 | 79,279 | 753 | 94 | 19.511 | 10.2481 |
| 41 | 78,526 | 788 | 95 | 9.2629 | 5.1491 |
| 42 | 77,738 | 828 | 96 | 4.1138 | 2.4149 |
| 43 | 76,910 | 872 | 97 | 1.6989 | 1.05069 |
| 44 | 76,038 | 921 | 98 | .64821 | .42134 |
| 45 | 75,117 | 973 | 99 | .22687 | .154594 |
| 46 | 74,144 | 1,029 | 100 | .072276 | |
| 47 | 73,115 | 1,089 | | | |
| 48 | 72,026 | 1,152 | | | |
| 49 | 70,874 | 1,221 | | | |
| 50 | 69,653 | 1,293 | | | |
| 51 | 68,360 | 1,370 | | | |
| 52 | 66,990 | 1,452 | | | |
| 53 | 65,538 | 1,536 | | | |

## 女子全総合表（件数）

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | …… | …… | 54 | 60,502 | 1,103 |
| 1 | …… | …… | 55 | 59,399 | 1,146 |
| 2 | …… | …… | 56 | 58,253 | 1,193 |
| 3 | …… | …… | 57 | 57,060 | 1,241 |
| 4 | …… | …… | 58 | 55,819 | 1,293 |
| 5 | …… | …… | 59 | 54,526 | 1,349 |
| 6 | …… | …… | 60 | 53,177 | 1,411 |
| 7 | …… | …… | 61 | 51,766 | 1,479 |
| 8 | …… | …… | 62 | 50,287 | 1,561 |
| 9 | …… | …… | 63 | 43,726 | 1,656 |
| 10 | 100,000 | 426 | 64 | 47,070 | 1,767 |
| 11 | 99,574 | 452 | 65 | 45,303 | 1,888 |
| 12 | 99,122 | 557 | 66 | 43,415 | 2,011 |
| 13 | 98,565 | 710 | 67 | 41,404 | 2,108 |
| 14 | 97,855 | 886 | 68 | 39,296 | 2,184 |
| 15 | 96,969 | 1,056 | 69 | 37,112 | 2,249 |
| 16 | 95,913 | 1,187 | 70 | 34,863 | 2,305 |
| 17 | 94,726 | 1,294 | 71 | 32,558 | 2,346 |
| 18 | 93,432 | 1,305 | 72 | 30,212 | 2,372 |
| 19 | 92,127 | 1,266 | 73 | 27,840 | 2,381 |
| 20 | 90,861 | 1,241 | 74 | 25,459 | 2,370 |
| 21 | 89,620 | 1,205 | 75 | 23,089 | 2,340 |
| 22 | 88,415 | 1,161 | 76 | 20,749 | 2,288 |
| 23 | 87,254 | 1,111 | 77 | 18,461 | 2,213 |
| 24 | 86,143 | 1,061 | 78 | 16,248 | 2,116 |
| 25 | 85,082 | 1,016 | 79 | 14,132 | 2,000 |
| 26 | 84,066 | 974 | 80 | 12,132 | 1,863 |
| 27 | 83,092 | 936 | 81 | 10,269 | 1,710.5 |
| 28 | 82,156 | 903 | 82 | 8,558.5 | 1,545.4 |
| 29 | 81,253 | 877 | 83 | 7,013.1 | 1,371.7 |
| 30 | 80,376 | 853 | 84 | 5,641.4 | 1,194.1 |
| 31 | 79,523 | 836 | 85 | 4,447.3 | 1,017.9 |
| 32 | 78,687 | 823 | 86 | 3,429.4 | 848.0 |
| 33 | 77,864 | 811 | 87 | 2,581.4 | 688.8 |
| 34 | 77,053 | 803 | 88 | 1,892.6 | 544.3 |
| 35 | 76,250 | 795 | 89 | 1,348.3 | 417.58 |
| 36 | 75,455 | 790 | 90 | 930.72 | 309.93 |
| 37 | 74,665 | 784 | 91 | 620.79 | 221.97 |
| 38 | 73,881 | 777 | 92 | 398.82 | 152.90 |
| 39 | 73,104 | 770 | 93 | 245.92 | 100.92 |
| 40 | 72,334 | 762 | 94 | 145.00 | 63.591 |
| 41 | 71,572 | 754 | 95 | 81.409 | 38.082 |
| 42 | 70,818 | 749 | 96 | 43.327 | 21.576 |
| 43 | 70,069 | 747 | 97 | 21.751 | 11.507 |
| 44 | 69,322 | 753 | 98 | 10.244 | 5.7441 |
| 45 | 68,569 | 764 | 99 | 4.4999 | 2.6682 |
| 46 | 67,805 | 785 | 100 | 1.8317 | 1.14567 |
| 47 | 67,020 | 812 | 101 | .68603 | .45142 |
| 48 | 66,208 | 846 | 102 | .23461 | .161961 |
| 49 | 65,362 | 886 | 103 | .072649 | |
| 50 | 64,476 | 928 | | | |
| 51 | 63,548 | 972 | | | |
| 52 | 62,576 | 1,015 | | | |
| 53 | 61,561 | 1,059 | | | |





# 商工省日本経験生命表

## 男子全総合表（金額）

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | …… | …… | 54 | 64,083 | 1,583 |
| 1 | …… | …… | 55 | 62,500 | 1,684 |
| 2 | …… | …… | 56 | 60,816 | 1,784 |
| 3 | …… | …… | 57 | 59,032 | 1,885 |
| 4 | …… | …… | 58 | 57,147 | 1,982 |
| 5 | …… | …… | 59 | 55,165 | 2,077 |
| 6 | …… | …… | 60 | 53,088 | 2,161 |
| 7 | …… | …… | 61 | 50,927 | 2,235 |
| 8 | …… | …… | 62 | 48,692 | 2,293 |
| 9 | …… | …… | 63 | 46,399 | 2,338 |
| 10 | 97,572 | 278 | 64 | 44,061 | 2,373 |
| 11 | 97,294 | 250 | 65 | 41,688 | 2,409 |
| 12 | 97,044 | 274 | 66 | 39,279 | 2,450 |
| 13 | 96,770 | 337 | 67 | 36,829 | 2,503 |
| 14 | 96,433 | 415 | 68 | 34,326 | 2,561 |
| 15 | 96,018 | 535 | 69 | 31,765 | 2,585 |
| 16 | 95,483 | 646 | 70 | 29,180 | 2,576 |
| 17 | 94,837 | 775 | 71 | 26,604 | 2,550 |
| 18 | 94,062 | 864 | 72 | 24,054 | 2,502 |
| 19 | 93,198 | 912 | 73 | 21,552 | 2,432 |
| 20 | 92,286 | 900 | 74 | 19,120 | 2,342 |
| 21 | 91,386 | 886 | 75 | 16,778 | 2,230 |
| 22 | 90,500 | 827 | 76 | 14,548 | 2,096 |
| 23 | 89,673 | 775 | 77 | 12,452 | 1,946 |
| 24 | 88,898 | 730 | 78 | 10,506 | 1,779.4 |
| 25 | 88,168 | 696 | 79 | 8,726.6 | 1,601.1 |
| 26 | 87,472 | 666 | 80 | 7,125.5 | 1,415.4 |
| 27 | 86,806 | 637 | 81 | 5,710.1 | 1,227.3 |
| 28 | 86,169 | 612 | 82 | 4,482.8 | 1,041.8 |
| 29 | 85,557 | 596 | 83 | 3,441.0 | 863.9 |
| 30 | 84,961 | 584 | 84 | 2,577.1 | 698.3 |
| 31 | 84,377 | 578 | 85 | 1,878.8 | 548.9 |
| 32 | 83,799 | 579 | 86 | 1,329.9 | 418.51 |
| 33 | 83,220 | 582 | 87 | 911.39 | 308.50 |
| 34 | 82,638 | 590 | 88 | 602.89 | 219.23 |
| 35 | 82,048 | 601 | 89 | 383.66 | 149.65 |
| 36 | 81,447 | 616 | 90 | 234.01 | 97.75 |
| 37 | 80,831 | 633 | 91 | 136.26 | 60.853 |
| 38 | 80,198 | 657 | 92 | 75.407 | 35.935 |
| 39 | 79,541 | 684 | 93 | 39.472 | 20.032 |
| 40 | 78,857 | 716 | 94 | 19.440 | 10.4839 |
| 41 | 78,141 | 756 | 95 | 8.9561 | 5.1206 |
| 42 | 77,385 | 799 | 96 | 3.8355 | 2.3192 |
| 43 | 76,586 | 847 | 97 | 1.5163 | .96714 |
| 44 | 75,739 | 900 | 98 | .54916 | .36845 |
| 45 | 74,839 | 953 | 99 | .18071 | .127171 |
| 46 | 73,886 | 1,008 | 100 | .053539 | |
| 47 | 72,878 | 1,063 | | | |
| 48 | 71,815 | 1,119 | | | |
| 49 | 70,696 | 1,177 | | | |
| 50 | 69,519 | 1,241 | | | |
| 51 | 68,278 | 1,314 | | | |
| 52 | 66,964 | 1,395 | | | |
| 53 | 65,569 | 1,486 | | | |

## 女子全総合表（金額）

| 年齢 | 生残数 | 死亡数 | 年齢 | 生残数 | 死亡数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | …… | …… | 54 | 60,772 | 1,107 |
| 1 | …… | …… | 55 | 59,665 | 1,138 |
| 2 | …… | …… | 56 | 58,527 | 1,168 |
| 3 | …… | …… | 57 | 57,359 | 1,207 |
| 4 | …… | …… | 58 | 56,152 | 1,254 |
| 5 | …… | …… | 59 | 54,898 | 1,317 |
| 6 | …… | …… | 60 | 53,581 | 1,397 |
| 7 | …… | …… | 61 | 52,184 | 1,494 |
| 8 | …… | …… | 62 | 50,690 | 1,606 |
| 9 | …… | …… | 63 | 49,084 | 1,725 |
| 10 | 100,000 | 362 | 64 | 47,359 | 1,848 |
| 11 | 99,638 | 415 | 65 | 45,511 | 1,965 |
| 12 | 99,223 | 532 | 66 | 43,546 | 2,073 |
| 13 | 98,691 | 687 | 67 | 41,473 | 2,153 |
| 14 | 98,004 | 861 | 68 | 39,320 | 2,218 |
| 15 | 97,143 | 1,030 | 69 | 37,102 | 2,274 |
| 16 | 96,113 | 1,158 | 70 | 34,828 | 2,315 |
| 17 | 94,955 | 1,289 | 71 | 32,513 | 2,340 |
| 18 | 93,666 | 1,314 | 72 | 30,173 | 2,351 |
| 19 | 92,352 | 1,286 | 73 | 27,822 | 2,343 |
| 20 | 91,066 | 1,254 | 74 | 25,479 | 2,318 |
| 21 | 89,812 | 1,217 | 75 | 23,161 | 2,273 |
| 22 | 88,595 | 1,169 | 76 | 20,888 | 2,210 |
| 23 | 87,426 | 1,115 | 77 | 18,678 | 2,129 |
| 24 | 86,311 | 1,061 | 78 | 16,549 | 2,030 |
| 25 | 85,250 | 1,010 | 79 | 14,519 | 1,915 |
| 26 | 84,240 | 965 | 80 | 12,604 | 1,786 |
| 27 | 83,275 | 926 | 81 | 10,818 | 1,646.4 |
| 28 | 82,349 | 893 | 82 | 9,171.6 | 1,497.1 |
| 29 | 81,456 | 864 | 83 | 7,674.5 | 1,342.9 |
| 30 | 80,592 | 840 | 84 | 6,331.6 | 1,186.6 |
| 31 | 79,752 | 821 | 85 | 5,145.0 | 1,031.9 |
| 32 | 78,931 | 803 | 86 | 4,113.1 | 882.1 |
| 33 | 78,128 | 792 | 87 | 3,231.0 | 740.4 |
| 34 | 77,336 | 781 | 88 | 2,490.6 | 609.2 |
| 35 | 76,555 | 775 | 89 | 1,881.4 | 490.8 |
| 36 | 75,780 | 771 | 90 | 1,390.6 | 386.5 |
| 37 | 75,009 | 768 | 91 | 1,004.1 | 297.14 |
| 38 | 74,241 | 763 | 92 | 706.96 | 222.47 |
| 39 | 73,478 | 759 | 93 | 484.49 | 161.97 |
| 40 | 72,719 | 753 | 94 | 322.52 | 114.43 |
| 41 | 71,966 | 747 | 95 | 208.09 | 78.25 |
| 42 | 71,219 | 745 | 96 | 129.84 | 51.703 |
| 43 | 70,474 | 745 | 97 | 78.137 | 32.901 |
| 44 | 69,729 | 753 | 98 | 45.236 | 20.116 |
| 45 | 68,976 | 769 | 99 | 25.120 | 11.781 |
| 46 | 68,207 | 792 | 100 | 13.339 | 6.5891 |
| 47 | 67,415 | 824 | 101 | 6.7499 | 3.5064 |
| 48 | 66,591 | 862 | 102 | 3.2435 | 1.7692 |
| 49 | 65,729 | 905 | 103 | 1.4743 | .84302 |
| 50 | 64,824 | 950 | 104 | .63128 | .37779 |
| 51 | 63,874 | 994 | 105 | .25349 | .158488 |
| 52 | 62,880 | 1,035 | 106 | .095002 | |
| 53 | 61,845 | 1,073 | | | |

## 英國十七會社表

| 年齢 | 生殘數 | 死亡數 | 年齢 | 生殘數 | 死亡數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | 55 | 63,469 | 1,375 |
| 1 | ..... | ..... | 56 | 62,094 | 1,436 |
| 2 | ..... | ..... | 57 | 60,658 | 1,497 |
| 3 | ..... | ..... | 58 | 59,161 | 1,561 |
| 4 | ..... | ..... | 59 | 57,600 | 1,627 |
| 5 | ..... | ..... | 60 | 55,973 | 1,698 |
| 6 | ..... | ..... | 61 | 54,275 | 1,770 |
| 7 | ..... | ..... | 62 | 52,505 | 1,844 |
| 8 | ..... | ..... | 63 | 50,661 | 1,917 |
| 9 | ..... | ..... | 64 | 48,744 | 1,990 |
| 10 | 100,000 | 676 | 65 | 46,754 | 2,061 |
| 11 | 99,324 | 674 | 66 | 44,693 | 2,128 |
| 12 | 98,650 | 672 | 67 | 42,565 | 2,191 |
| 13 | 97,978 | 671 | 68 | 40,374 | 2,246 |
| 14 | 97,307 | 671 | 69 | 38,128 | 2,291 |
| 15 | 96,636 | 671 | 70 | 35,837 | 2,327 |
| 16 | 95,965 | 672 | 71 | 33,510 | 2,351 |
| 17 | 95,293 | 673 | 72 | 31,159 | 2,362 |
| 18 | 94,620 | 675 | 73 | 28,797 | 2,358 |
| 19 | 93,945 | 677 | 74 | 26,439 | 2,339 |
| 20 | 93,268 | 680 | 75 | 24,100 | 2,303 |
| 21 | 92,588 | 683 | 76 | 21,797 | 2,249 |
| 22 | 91,905 | 686 | 77 | 19,548 | 2,179 |
| 23 | 91,219 | 690 | 78 | 17,369 | 2,092 |
| 24 | 90,529 | 694 | 79 | 15,277 | 1,987 |
| 25 | 89,835 | 698 | 80 | 13,290 | 1,866 |
| 26 | 89,137 | 703 | 81 | 11,424 | 1,730 |
| 27 | 88,434 | 708 | 82 | 9,694 | 1,582 |
| 28 | 87,726 | 714 | 83 | 8,112 | 1,427 |
| 29 | 87,012 | 720 | 84 | 6,685 | 1,268 |
| 30 | 86,292 | 727 | 85 | 5,417 | 1,111 |
| 31 | 85,565 | 734 | 86 | 4,306 | 958 |
| 32 | 84,831 | 742 | 87 | 3,348 | 811 |
| 33 | 84,089 | 750 | 88 | 2,537 | 673 |
| 34 | 83,339 | 758 | 89 | 1,864 | 545 |
| 35 | 82,581 | 767 | 90 | 1,319 | 427 |
| 36 | 81,814 | 776 | 91 | 892 | 322 |
| 37 | 81,038 | 785 | 92 | 570 | 231 |
| 38 | 80,253 | 795 | 93 | 339 | 155 |
| 39 | 79,458 | 805 | 94 | 184 | 95 |
| 40 | 78,653 | 815 | 95 | 89 | 52 |
| 41 | 77,838 | 826 | 96 | 37 | 24 |
| 42 | 77,012 | 839 | 97 | 13 | 9 |
| 43 | 76,173 | 857 | 98 | 4 | 3 |
| 44 | 75,316 | 881 | 99 | 1 | 1 |
| 45 | 74,435 | 909 | | | |
| 46 | 73,526 | 944 | | | |
| 47 | 72,582 | 981 | | | |
| 48 | 71,601 | 1,021 | | | |
| 49 | 70,580 | 1,063 | | | |
| 50 | 69,517 | 1,108 | | | |
| 51 | 68,409 | 1,156 | | | |
| 52 | 67,253 | 1,207 | | | |
| 53 | 66,046 | 1,261 | | | |
| 54 | 64,785 | 1,316 | | | |

## 英國六十會社表

| 年齢 | 生殘數 | 死亡數 | 年齢 | 生殘數 | 死亡數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | 55 | 69,919 | 1,430 |
| 1 | ..... | ..... | 56 | 68,489 | 1,496 |
| 2 | ..... | ..... | 57 | 66,993 | 1,566 |
| 3 | ..... | ..... | 58 | 65,427 | 1,639 |
| 4 | ..... | ..... | 59 | 63,788 | 1,715 |
| 5 | ..... | ..... | 60 | 62,073 | 1,792 |
| 6 | ..... | ..... | 61 | 60,281 | 1,872 |
| 7 | ..... | ..... | 62 | 58,409 | 1,953 |
| 8 | ..... | ..... | 63 | 56,456 | 2,034 |
| 9 | ..... | ..... | 64 | 54,422 | 2,115 |
| 10 | 100,000 | 338 | 65 | 52,307 | 2,195 |
| 11 | 99,662 | 340 | 66 | 50,112 | 2,271 |
| 12 | 99,322 | 343 | 67 | 47,841 | 2,344 |
| 13 | 98,979 | 346 | 68 | 45,497 | 2,411 |
| 14 | 98,633 | 349 | 69 | 43,086 | 2,471 |
| 15 | 98,284 | 354 | 70 | 40,615 | 2,521 |
| 16 | 97,930 | 359 | 71 | 38,094 | 2,561 |
| 17 | 97,571 | 366 | 72 | 35,533 | 2,857 |
| 18 | 97,205 | 372 | 73 | 32,946 | 2,600 |
| 19 | 96,833 | 380 | 74 | 30,346 | 2,594 |
| 20 | 96,453 | 390 | 75 | 27,752 | 2,571 |
| 21 | 96,063 | 400 | 76 | 25,181 | 2,529 |
| 22 | 95,663 | 412 | 77 | 22,652 | 2,465 |
| 23 | 95,251 | 425 | 78 | 20,187 | 2,381 |
| 24 | 94,826 | 439 | 79 | 17,806 | 2,276 |
| 25 | 94,387 | 454 | 80 | 15,530 | 2,150 |
| 26 | 93,933 | 470 | 81 | 13,380 | 2,007 |
| 27 | 93,463 | 489 | 82 | 11,373 | 1,847 |
| 28 | 92,974 | 506 | 83 | 9,526 | 1,674 |
| 29 | 92,468 | 526 | 84 | 7,852 | 1,493 |
| 30 | 91,942 | 547 | 85 | 6,359 | 1,308 |
| 31 | 91,395 | 567 | 86 | 5,051 | 1,122 |
| 32 | 90,828 | 589 | 87 | 3,929 | 944 |
| 33 | 90,239 | 611 | 88 | 2,986 | 772 |
| 34 | 89,628 | 633 | 89 | 2,213 | 617 |
| 35 | 88,995 | 657 | 90 | 1,596 | 480 |
| 36 | 88,338 | 681 | 91 | 1,116 | 360 |
| 37 | 87,657 | 705 | 92 | 756 | 263 |
| 38 | 86,952 | 729 | 93 | 493 | 183 |
| 39 | 86,223 | 756 | 94 | 310 | 134 |
| 40 | 85,467 | 782 | 95 | 186 | 79 |
| 41 | 84,685 | 810 | 96 | 107 | 49 |
| 42 | 83,875 | 840 | 97 | 58 | 28 |
| 43 | 83,035 | 870 | 98 | 30 | 15 |
| 44 | 82,165 | 903 | 99 | 15 | 8 |
| 45 | 81,262 | 937 | 100 | 7 | 4 |
| 46 | 80,325 | 974 | 101 | 3 | 2 |
| 47 | 79,351 | 1,013 | 102 | 1 | 1 |
| 48 | 78,338 | 1,054 | | | |
| 49 | 77,284 | 1,099 | | | |
| 50 | 76,185 | 1,146 | | | |
| 51 | 75,039 | 1,197 | | | |
| 52 | 73,842 | 1,250 | | | |
| 53 | 72,592 | 1,306 | | | |
| 54 | 71,286 | 1,367 | | | |





## 佛國四會社表

| 年齢 | 生殘數 | 死亡數 | 年齢 | 生殘數 | 死亡數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 1,000,000 | 36,015 | 55 | 572,246 | 12,924 |
| 1 | 963,985 | 26,497 | 56 | 559,322 | 13,525 |
| 2 | 937,488 | 19,549 | 57 | 545,797 | 14,148 |
| 3 | 917,939 | 14,453 | 58 | 531,649 | 14,788 |
| 4 | 903,486 | 10,721 | 59 | 516,861 | 15,444 |
| 5 | 892,765 | 8,011 | 60 | 501,417 | 16,110 |
| 6 | 884,754 | 6,078 | 61 | 485,307 | 16,782 |
| 7 | 878,676 | 4,744 | 62 | 468,525 | 17,450 |
| 8 | 873,932 | 3,876 | 63 | 451,075 | 18,111 |
| 9 | 870,056 | 3,372 | 64 | 432,964 | 18,750 |
| 10 | 866,684 | 3,155 | 65 | 414,214 | 19,363 |
| 11 | 863,529 | 3,158 | 66 | 394,851 | 19,933 |
| 12 | 860,371 | 3,328 | 67 | 374,918 | 20,450 |
| 13 | 857,043 | 3,617 | 68 | 354,468 | 20,901 |
| 14 | 853,426 | 3,980 | 69 | 336,567 | 21,268 |
| 15 | 849,446 | 4,377 | 70 | 312,299 | 21,540 |
| 16 | 845,069 | 4,771 | 71 | 290,759 | 21,697 |
| 17 | 840,298 | 5,125 | 72 | 269,062 | 21,729 |
| 18 | 835,173 | 5,411 | 73 | 247,333 | 21,619 |
| 19 | 829,762 | 5,603 | 74 | 225,714 | 21,355 |
| 20 | 824,159 | 5,688 | 75 | 204,359 | 20,929 |
| 21 | 818,471 | 5,662 | 76 | 183,430 | 20,334 |
| 22 | 812,809 | 5,538 | 77 | 163,096 | 19,566 |
| 23 | 807,271 | 5,345 | 78 | 143,530 | 18,634 |
| 24 | 801,926 | 5,140 | 79 | 124,896 | 17,542 |
| 25 | 796,786 | 5,006 | 80 | 107,354 | 16,307 |
| 26 | 791,780 | 5,067 | 81 | 91,047 | 14,953 |
| 27 | 786,713 | 5,135 | 82 | 76,094 | 13,506 |
| 28 | 781,578 | 5,210 | 83 | 62,588 | 12,000 |
| 29 | 776,368 | 5,293 | 84 | 50,588 | 10,470 |
| 30 | 771,075 | 5,385 | 85 | 40,118 | 8,959 |
| 31 | 765,690 | 5,487 | 86 | 51,159 | 7,501 |
| 32 | 760,203 | 5,597 | 87 | 23,658 | 6,135 |
| 33 | 754,606 | 5,719 | 88 | 17,523 | 4,891 |
| 34 | 748,887 | 5,851 | 89 | 12,632 | 3,791 |
| 35 | 743,036 | 5,997 | 90 | 8,841 | 2,849 |
| 36 | 737,039 | 6,155 | 91 | 5,992 | 2,072 |
| 37 | 730,884 | 6,328 | 92 | 3,920 | 1,452 |
| 38 | 724,556 | 6,514 | 93 | 2,468 | 978 |
| 39 | 418,042 | 6,718 | 94 | 1,490 | 631 |
| 40 | 711,324 | 6,938 | 95 | 859 | 388 |
| 41 | 704,386 | 7,176 | 96 | 471 | 226 |
| 42 | 697,210 | 7,433 | 97 | 245 | 125 |
| 43 | 689,777 | 7,710 | 98 | 120 | 65 |
| 44 | 682,067 | 8,009 | 99 | 55 | 32 |
| 45 | 674,058 | 8,329 | 100 | 23 | 14 |
| 46 | 665,729 | 8,673 | 101 | 9 | 6 |
| 47 | 657,056 | 9,041 | 102 | 3 | 2 |
| 48 | 648,015 | 9,434 | 103 | 1 | 1 |
| 49 | 638,581 | 9,854 | | | |
| 50 | 628,727 | 10,298 | | | |
| 51 | 618,429 | 10,770 | | | |
| 52 | 607,659 | 11,270 | | | |
| 53 | 596,389 | 11,795 | | | |
| 54 | 584,594 | 12,348 | | | |

## 亞米利加實驗表

| 年齢 | 生殘數 | 死亡數 | 年齢 | 生殘數 | 死亡數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | 55 | 64,563 | 1,199 |
| 1 | ..... | ..... | 56 | 63,364 | 1,260 |
| 2 | ..... | ..... | 57 | 62,104 | 1,325 |
| 3 | ..... | ..... | 58 | 60,779 | 1,394 |
| 4 | ..... | ..... | 59 | 59,385 | 1,468 |
| 5 | ..... | ..... | 60 | 57,917 | 1,546 |
| 6 | ..... | ..... | 61 | 56,371 | 1,628 |
| 7 | ..... | ..... | 62 | 64,743 | 1,713 |
| 8 | ..... | ..... | 63 | 53,030 | 1,800 |
| 9 | ..... | ..... | 64 | 51,230 | 1,889 |
| 10 | 100,000 | 749 | 65 | 49,341 | 1,980 |
| 11 | 99,251 | 746 | 66 | 47,361 | 2,070 |
| 12 | 98,505 | 743 | 67 | 45,291 | 2,158 |
| 13 | 97,762 | 740 | 68 | 43,133 | 2,243 |
| 14 | 97,022 | 737 | 69 | 40,890 | 2,321 |
| 15 | 96,285 | 735 | 70 | 38,569 | 2,391 |
| 16 | 95,550 | 732 | 71 | 36,178 | 2,448 |
| 17 | 94,818 | 729 | 72 | 33,730 | 2,487 |
| 18 | 94,089 | 727 | 73 | 31,243 | 2,505 |
| 19 | 93,362 | 725 | 74 | 28,738 | 2,501 |
| 20 | 92,637 | 723 | 75 | 26,237 | 2,476 |
| 21 | 91,914 | 722 | 76 | 23,761 | 2,431 |
| 22 | 91,192 | 721 | 77 | 21,330 | 2,369 |
| 23 | 90,471 | 720 | 78 | 18,961 | 2,291 |
| 24 | 89,751 | 719 | 79 | 16,670 | 2,196 |
| 25 | 89,032 | 718 | 80 | 14,474 | 2,091 |
| 26 | 88,314 | 718 | 81 | 12,383 | 1,964 |
| 27 | 87,596 | 718 | 82 | 10,419 | 1,816 |
| 28 | 86,878 | 718 | 83 | 8,603 | 1,648 |
| 29 | 86,160 | 719 | 84 | 6,955 | 1,470 |
| 30 | 85,441 | 720 | 85 | 5,485 | 1,292 |
| 31 | 84,721 | 721 | 86 | 4,193 | 1,114 |
| 32 | 84,000 | 723 | 87 | 3,079 | 933 |
| 33 | 83,277 | 726 | 88 | 2,146 | 744 |
| 34 | 82,551 | 729 | 89 | 1,402 | 555 |
| 35 | 81,822 | 732 | 90 | 847 | 385 |
| 36 | 81,090 | 737 | 91 | 462 | 246 |
| 37 | 80,353 | 742 | 92 | 216 | 137 |
| 38 | 79,611 | 749 | 93 | 79 | 58 |
| 39 | 78,862 | 756 | 94 | 21 | 18 |
| 40 | 78,106 | 765 | 95 | 3 | 3 |
| 41 | 77,341 | 774 | | | |
| 42 | 76,567 | 785 | | | |
| 43 | 75,782 | 797 | | | |
| 44 | 74,985 | 812 | | | |
| 45 | 74,173 | 828 | | | |
| 46 | 73,345 | 848 | | | |
| 47 | 72,497 | 870 | | | |
| 48 | 71,627 | 896 | | | |
| 49 | 70,731 | 927 | | | |
| 50 | 69,804 | 962 | | | |
| 51 | 68,842 | 1,001 | | | |
| 52 | 67,841 | 1,044 | | | |
| 53 | 66,797 | 1,091 | | | |
| 54 | 65 706 | 1,143 | | | |

## 英二十會社HM表

| 年齡 | 生殘數 | 死亡數 | 年齡 | 生殘數 | 死亡數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 127,283 | 14,358 | 55 | 66,566 | 1,414 |
| 1 | 112,925 | 3,962 | 56 | 65,152 | 1,475 |
| 2 | 108,963 | 2,375 | 57 | 63,677 | 1,541 |
| 3 | 106,588 | 1,646 | 58 | 62,136 | 1,612 |
| 4 | 104,942 | 1,325 | 59 | 60,524 | 1,682 |
| 5 | 103,617 | 1,061 | 60 | 58,842 | 1,755 |
| 6 | 102,556 | 852 | 61 | 57,087 | 1,830 |
| 7 | 101,704 | 683 | 62 | 55,257 | 1,906 |
| 8 | 101,021 | 557 | 63 | 53,351 | 1,983 |
| 9 | 100,464 | 464 | 64 | 51,368 | 2,059 |
| 10 | 100,000 | 408 | 65 | 49,309 | 2,133 |
| 11 | 99,592 | 369 | 66 | 47,176 | 2,204 |
| 12 | 99,223 | 346 | 67 | 44,972 | 2,273 |
| 13 | 98,877 | 337 | 68 | 42,699 | 2,334 |
| 14 | 98,540 | 337 | 69 | 40,365 | 2,388 |
| 15 | 98,203 | 360 | 70 | 37,977 | 2,434 |
| 16 | 97,843 | 384 | 71 | 35,543 | 2,468 |
| 17 | 97,459 | 425 | 72 | 33,075 | 2,490 |
| 18 | 97,034 | 465 | 73 | 30,585 | 2,496 |
| 19 | 96,569 | 508 | 74 | 28,089 | 2,487 |
| 20 | 96,061 | 548 | 75 | 25,602 | 2,459 |
| 21 | 95,513 | 582 | 76 | 23,143 | 2,412 |
| 22 | 94,931 | 609 | 77 | 20,731 | 2,343 |
| 23 | 94,322 | 631 | 78 | 18,388 | 2,255 |
| 24 | 93,691 | 647 | 79 | 16,133 | 2,146 |
| 25 | 93,044 | 658 | 80 | 13,987 | 2,018 |
| 26 | 92,386 | 664 | 81 | 11,969 | 1,873 |
| 27 | 91,722 | 673 | 82 | 10,096 | 1,712 |
| 28 | 91,049 | 678 | 83 | 8,384 | 1,540 |
| 29 | 90,371 | 686 | 84 | 6,844 | 1,361 |
| 30 | 89,685 | 691 | 85 | 5,483 | 1,180 |
| 31 | 88,994 | 700 | 86 | 4,303 | 1,002 |
| 32 | 88,294 | 709 | 87 | 3,301 | 830 |
| 33 | 87,585 | 719 | 88 | 2,471 | 671 |
| 34 | 86,866 | 729 | 89 | 1,800 | 527 |
| 35 | 86,137 | 742 | 90 | 1,273 | 402 |
| 36 | 85,395 | 756 | 91 | 871 | 296 |
| 37 | 84,639 | 770 | 92 | 575 | 209 |
| 38 | 83,869 | 786 | 93 | 366 | 144 |
| 39 | 83,083 | 806 | 94 | 222 | 93 |
| 40 | 82,277 | 823 | 95 | 129 | 58 |
| 41 | 81,454 | 846 | 96 | 71 | 34 |
| 42 | 80,608 | 871 | 97 | 37 | 18 |
| 43 | 79,737 | 895 | 98 | 19 | 10 |
| 44 | 78,842 | 924 | 99 | 9 | 5 |
| 45 | 77,918 | 954 | 100 | 4 | 3 |
| 46 | 76,964 | 986 | 101 | 1 | 1 |
| 47 | 75,978 | 1,021 | | | |
| 48 | 74,957 | 1,061 | | | |
| 49 | 73,896 | 1,101 | | | |
| 50 | 72,795 | 1,144 | | | |
| 51 | 71,651 | 1,193 | | | |
| 52 | 70,458 | 1,243 | | | |
| 53 | 69,215 | 1,296 | | | |
| 54 | 67,919 | 1,353 | | | |

## 獨逸二十三會社表

| 年齡 | 生殘數 | 死亡數 | 年齡 | 生殘數 | 死亡數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | …… | …… | 55 | 64,695 | 1,621 |
| 1 | …… | …… | 56 | 63,074 | 1,691 |
| 2 | …… | …… | 57 | 61,383 | 1,759 |
| 3 | …… | …… | 58 | 59,624 | 1,832 |
| 4 | …… | …… | 59 | 57,792 | 1,900 |
| 5 | …… | …… | 60 | 55,892 | 1,976 |
| 6 | …… | …… | 61 | 53,916 | 2,038 |
| 7 | …… | …… | 62 | 51,878 | 2,097 |
| 8 | …… | …… | 63 | 49,781 | 2,149 |
| 9 | …… | …… | 64 | 47,632 | 2,197 |
| 10 | …… | …… | 65 | 45,435 | 2,246 |
| 11 | …… | …… | 66 | 43,189 | 2,302 |
| 12 | …… | …… | 67 | 40,887 | 2,355 |
| 13 | …… | …… | 68 | 38,532 | 2,399 |
| 14 | …… | …… | 69 | 36,133 | 2,432 |
| 15 | …… | …… | 70 | 33,701 | 2,452 |
| 16 | …… | …… | 71 | 31,249 | 2,455 |
| 17 | 102,787 | 909 | 72 | 28,794 | 2,436 |
| 18 | 101,878 | 936 | 73 | 26,358 | 2,406 |
| 19 | 100,942 | 942 | 74 | 23,952 | 2,360 |
| 20 | 100,000 | 919 | 75 | 21,592 | 2,299 |
| 21 | 99,081 | 908 | 76 | 19,293 | 2,210 |
| 22 | 98,173 | 887 | 77 | 17,083 | 2,103 |
| 23 | 97,286 | 861 | 78 | 14,980 | 1,982 |
| 24 | 96,425 | 835 | 79 | 12,998 | 1,848 |
| 25 | 95,590 | 816 | 80 | 11,150 | 1,730 |
| 26 | 94,774 | 804 | 81 | 9,420 | 1,599 |
| 27 | 93,970 | 797 | 82 | 7,821 | 1,443 |
| 28 | 93,173 | 795 | 83 | 6,378 | 1,264 |
| 29 | 92,378 | 800 | 84 | 5,114 | 1,080 |
| 30 | 91,578 | 808 | 85 | 4,034 | 896 |
| 31 | 90,770 | 818 | 86 | 3,138 | 715 |
| 32 | 89,952 | 831 | 87 | 2,423 | 587 |
| 33 | 89,121 | 841 | 88 | 1,836 | 487 |
| 34 | 88,280 | 856 | 89 | 1,349 | 394 |
| 35 | 87,424 | 873 | 90 | 955 | 309 |
| 36 | 86,551 | 889 | 91 | 646 | 233 |
| 37 | 85,662 | 905 | 92 | 413 | 167 |
| 38 | 84,756 | 928 | 93 | 246 | 113 |
| 39 | 83,828 | 950 | 94 | 133 | 69 |
| 40 | 82,878 | 975 | 95 | 64 | 37 |
| 41 | 81,903 | 1,006 | 96 | 27 | 18 |
| 42 | 80,897 | 1,035 | 97 | 9 | 6 |
| 43 | 79,862 | 1,063 | 98 | 3 | 2 |
| 44 | 78,799 | 1,092 | 99 | 1 | 1 |
| 45 | 77,707 | 1,117 | | | |
| 46 | 76,590 | 1,140 | | | |
| 47 | 75,450 | 1,169 | | | |
| 48 | 74,281 | 1,204 | | | |
| 49 | 73,077 | 1,246 | | | |
| 50 | 71,831 | 1,303 | | | |
| 51 | 70,528 | 1,362 | | | |
| 52 | 69,166 | 1,425 | | | |
| 53 | 67,741 | 1,490 | | | |
| 54 | 66,251 | 1,556 | | | |





## 英國ファール氏男子表

| 年齡 | 生殘數 | 死亡數 | 年齡 | 生殘數 | 死亡數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 511,745 | 83,719 | 55 | 209,539 | 5,144 |
| 1 | 428,026 | 27,521 | 56 | 204,395 | 5,281 |
| 2 | 400,505 | 14,215 | 57 | 199,114 | 5,428 |
| 3 | 386,290 | 9,213 | 58 | 193,686 | 5,584 |
| 4 | 377,077 | 6,719 | 59 | 188,102 | 5,752 |
| 5 | 370,358 | 5,033 | 60 | 182,350 | 5,929 |
| 6 | 365,325 | 3,953 | 61 | 176,421 | 6,118 |
| 7 | 361,372 | 3,310 | 62 | 170,303 | 6,314 |
| 8 | 358,062 | 2,734 | 63 | 163,989 | 6,515 |
| 9 | 355,328 | 2,297 | 64 | 157,474 | 6,720 |
| 10 | 353,031 | 1,983 | 65 | 150,754 | 6,921 |
| 11 | 351,040 | 1,776 | 66 | 143,833 | 7,115 |
| 12 | 349,272 | 1,666 | 67 | 136,718 | 7,297 |
| 13 | 347,606 | 1,637 | 68 | 129,421 | 7,458 |
| 14 | 345,969 | 1,679 | 69 | 121,963 | 7,593 |
| 15 | 344,290 | 1,781 | 70 | 114,370 | 7,695 |
| 16 | 342,509 | 1,928 | 71 | 106,675 | 7,756 |
| 17 | 340,581 | 2,112 | 72 | 98,919 | 7,770 |
| 18 | 338,469 | 2,320 | 73 | 91,149 | 7,733 |
| 19 | 336,149 | 2,541 | 74 | 83,416 | 7,639 |
| 20 | 333,608 | 2,764 | 75 | 35,777 | 7,483 |
| 21 | 330,844 | 2,801 | 76 | 68,294 | 7,268 |
| 22 | 328,043 | 2,836 | 77 | 61,026 | 6,990 |
| 23 | 325,207 | 2,868 | 78 | 54,036 | 6,655 |
| 24 | 322,339 | 2,897 | 79 | 47,381 | 6,266 |
| 25 | 319,442 | 2,926 | 80 | 41,115 | 5,832 |
| 26 | 316,516 | 2,954 | 81 | 75,283 | 5,361 |
| 27 | 313,562 | 2,981 | 82 | 29,922 | 4,862 |
| 28 | 310,581 | 3,009 | 83 | 25,060 | 4,349 |
| 29 | 307,572 | 3,038 | 84 | 20,711 | 3,834 |
| 30 | 304,534 | 3,068 | 85 | 16,877 | 3,328 |
| 31 | 301,466 | 3,100 | 86 | 13,549 | 2,840 |
| 32 | 298,366 | 3,134 | 87 | 10,709 | 2,384 |
| 33 | 295,232 | 3,171 | 88 | 8,325 | 1,965 |
| 34 | 292,061 | 3,211 | 89 | 6,360 | 1,590 |
| 35 | 288,850 | 3,254 | 90 | 4,770 | 1,260 |
| 36 | 285,596 | 3,300 | 91 | 3,510 | 979 |
| 37 | 282,296 | 3,352 | 92 | 2,531 | 744 |
| 38 | 278,944 | 3,406 | 93 | 1,787 | 553 |
| 39 | 275,538 | 3,465 | 94 | 1,234 | 401 |
| 40 | 272,073 | 3,529 | 95 | 833 | 285 |
| 41 | 268,544 | 3,596 | 96 | 548 | 196 |
| 42 | 264,948 | 3,668 | 97 | 352 | 132 |
| 43 | 261,280 | 3,746 | 98 | 220 | 86 |
| 44 | 257,534 | 3,826 | 99 | 134 | 55 |
| 45 | 253,708 | 3,912 | 100 | 79 | 33 |
| 46 | 249,796 | 4,001 | 101 | 46 | 21 |
| 47 | 245,795 | 4,095 | 102 | 25 | 17 |
| 48 | 241,700 | 4,192 | 103 | 14 | 7 |
| 49 | 237,508 | 4,292 | 104 | 7 | 3 |
| 50 | 233,216 | 4,395 | 105 | 4 | 2 |
| 51 | 228,821 | 4,626 | 106 | 2 | 1 |
| 52 | 224,195 | 4,758 | 107 | 1 | 1 |
| 53 | 219,437 | 4,885 | | | |
| 54 | 214,552 | 5,013 | | | |

## 英國ファール氏女子表

| 年齡 | 生殘數 | 死亡數 | 年齡 | 生殘數 | 死亡數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 488,255 | 65,774 | 55 | 211,576 | 4,439 |
| 1 | 422,481 | 20,159 | 56 | 207,137 | 4,628 |
| 2 | 396,322 | 14,023 | 57 | 202,509 | 4,817 |
| 3 | 382,299 | 9,243 | 58 | 197,692 | 5,009 |
| 4 | 373,056 | 6,596 | 59 | 192,683 | 5,206 |
| 5 | 366,460 | 4,866 | 60 | 187,477 | 5,409 |
| 6 | 361,594 | 3,815 | 61 | 182,068 | 5,669 |
| 7 | 357,779 | 3,249 | 62 | 176,449 | 5,835 |
| 8 | 354,530 | 2,724 | 63 | 170,614 | 6,057 |
| 9 | 351,806 | 2,328 | 64 | 164,557 | 6,282 |
| 10 | 349,478 | 2,045 | 65 | 158,275 | 6,509 |
| 11 | 347,433 | 1,861 | 66 | 151,766 | 6,731 |
| 12 | 345,572 | 1,765 | 67 | 145,036 | 6,947 |
| 13 | 343,807 | 1,745 | 68 | 138,088 | 7,149 |
| 14 | 342,062 | 1,789 | 69 | 130,939 | 7,332 |
| 15 | 340,273 | 1,888 | 70 | 123,607 | 7,489 |
| 16 | 338,385 | 2,029 | 71 | 116,118 | 7,613 |
| 17 | 336,356 | 2,205 | 72 | 108,505 | 7,698 |
| 18 | 334,151 | 2,400 | 73 | 100,807 | 7,736 |
| 19 | 331,751 | 2,609 | 74 | 93,071 | 7,724 |
| 20 | 329,142 | 2,819 | 75 | 85,347 | 7,653 |
| 21 | 326,323 | 2,867 | 76 | 77,694 | 7,521 |
| 22 | 323,456 | 2,912 | 77 | 70,173 | 7,329 |
| 23 | 320,544 | 2,952 | 78 | 62,844 | 7,071 |
| 24 | 317,592 | 2,989 | 79 | 55,773 | 6,755 |
| 25 | 314,603 | 3,024 | 80 | 49,018 | 6,382 |
| 26 | 311,579 | 3,055 | 81 | 42,636 | 5,959 |
| 27 | 308,524 | 3,084 | 82 | 36,677 | 5,496 |
| 28 | 305,140 | 3,112 | 83 | 31,181 | 5,003 |
| 29 | 302,028 | 3,138 | 84 | 26,178 | 4,490 |
| 30 | 299,190 | 3,163 | 85 | 21,688 | 3,972 |
| 31 | 296,027 | 3,187 | 86 | 17,716 | 3,458 |
| 32 | 292,840 | 3,209 | 87 | 14,258 | 2,962 |
| 33 | 289,631 | 3,233 | 88 | 11,296 | 2,494 |
| 34 | 286,398 | 3,255 | 89 | 8,802 | 2,063 |
| 35 | 283,143 | 3,279 | 90 | 6,739 | 1,673 |
| 36 | 279,864 | 3,301 | 91 | 5,066 | 1,331 |
| 37 | 276,563 | 3,326 | 92 | 3,735 | 1,037 |
| 38 | 273,237 | 3,350 | 93 | 2,698 | 790 |
| 39 | 269,887 | 3,376 | 94 | 1,908 | 588 |
| 40 | 266,511 | 3,402 | 95 | 1,320 | 428 |
| 41 | 263,109 | 3,431 | 96 | 892 | 304 |
| 42 | 259,678 | 3,459 | 97 | 588 | 210 |
| 43 | 256,219 | 3,490 | 98 | 378 | 142 |
| 44 | 252,729 | 3,522 | 99 | 236 | 92 |
| 45 | 249,207 | 3,555 | 100 | 144 | 59 |
| 46 | 245,652 | 3,591 | 101 | 85 | 36 |
| 47 | 242,061 | 3,627 | 102 | 49 | 22 |
| 48 | 238,434 | 3,665 | 103 | 27 | 12 |
| 49 | 234,769 | 3,705 | 104 | 15 | 7 |
| 50 | 231,064 | 3,746 | 105 | 8 | 4 |
| 51 | 227,318 | 3,788 | 106 | 4 | 2 |
| 52 | 223,530 | 3,832 | 107 | 2 | 1 |
| 53 | 219,698 | 3,876 | 108 | 1 | 1 |
| 54 | 215,822 | 4,246 | | | |

## （計算基數表）日本三會社表（男子全總合表）利率四分

| 年齡 | Dx | Nx | Mx | 年齡 | 年齡 | Dx | Nx | Mx | 年齡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | ..... | 0 | 55 | 7166.2 | 76367.2 | 4228.99 | 55 |
| 1 | ..... | ..... | ..... | 1 | 56 | 6693.7 | 69201.0 | 4032 15 | 56 |
| 2 | ..... | ..... | ..... | 2 | 57 | 6237.5 | 62507.3 | 3833.37 | 57 |
| 3 | ..... | ..... | ..... | 3 | 58 | 5796.4 | 56269.8 | 3632.16 | 58 |
| 4 | ..... | ..... | ..... | 4 | 59 | 5369.4 | 50473.4 | 3428.11 | 59 |
| 5 | ..... | .... | ..... | 5 | 60 | 4956.3 | 45104.0 | 3221.54 | 60 |
| 6 | ..... | ..... | ..... | 6 | 61 | 4557.3 | 40147.7 | 3013.14 | 61 |
| 7 | ..... | ..... | ..... | 7 | 62 | 4173.3 | 35590.4 | 2804.49 | 62 |
| 8 | ..... | ..... | ..... | 8 | 63 | 3806.4 | 31417.1 | 2598.03 | 63 |
| 9 | ..... | ..... | ..... | 9 | 64 | 3458.7 | 27610.7 | 2396.75 | 64 |
| 10 | 67556. | 1376325. | 14620.92 | 10 | 65 | 3132.3 | 24152.0 | 2203.37 | 65 |
| 11 | 64634. | 1308769. | 14296.78 | 11 | 66 | 2828.6 | 21019.7 | 2020.13 | 66 |
| 12 | 61831. | 1244135. | 13980.11 | 12 | 67 | 2547.3 | 18191.1 | 1847.62 | 67 |
| 13 | 59139. | 1182304. | 13665.41 | 13 | 68 | 2286.7 | 15643.8 | 1685.01 | 68 |
| 14 | 56546. | 1123165. | 13347.80 | 14 | 69 | 2044.1 | 13357.1 | 1530.33 | 69 |
| 15 | 54047. | 1066619. | 13022.97 | 15 | 70 | 1816.5 | 11313.0 | 1381.40 | 70 |
| 16 | 51631. | 1012572. | 12686.07 | 16 | 71 | 1602.0 | 9496.5 | 1236.72 | 71 |
| 17 | 49295. | 960941. | 12335.44 | 17 | 72 | 1399.5 | 7894.5 | 1095.82 | 72 |
| 18 | 47036. | 911646. | 11973.12 | 18 | 73 | 1209.3 | 6495 0 | 959.49 | 73 |
| 19 | 44856. | 864610. | 11601.95 | 19 | 74 | 1032.7 | 5285.7 | 829.44 | 74 |
| 20 | 42759. | 819754. | 11229.99 | 20 | 75 | 871.25 | 4253.03 | 707.67 | 75 |
| 21 | 40748. | 776995. | 10864 00 | 21 | 76 | 726.03 | 3381.78 | 595.96 | 76 |
| 22 | 38829. | 736247. | 10512.09 | 22 | 77 | 597.63 | 2655.75 | 495.482 | 77 |
| 23 | 37005. | 697418. | 10181.42 | 23 | 78 | 485.91 | 2058.12 | 406.747 | 78 |
| 24 | 35276. | 660413. | 9875.17 | 24 | 79 | 389.93 | 1572.21 | 329.456 | 79 |
| 25 | 33638. | 625137. | 9594.58 | 25 | 80 | 308.46 | 1182.28 | 262.991 | 80 |
| 26 | 32088. | 591499. | 9338.49 | 26 | 81 | 240.12 | 873.82 | 206.508 | 81 |
| 27 | 30619. | 559411. | 9103 69 | 27 | 82 | 183.51 | 633.70 | 159.136 | 82 |
| 28 | 29224. | 528792. | 8886.26 | 28 | 83 | 137.46 | 450.19 | 120.143 | 83 |
| 29 | 27897. | 499568. | 8682 97 | 29 | 84 | 100.69 | 312.73 | 88.658 | 84 |
| 30 | 26632. | 471671. | 8490.58 | 30 | 85 | 72.031 | 212.045 | 63.875 | 85 |
| 31 | 25424. | 445039. | 8306.77 | 31 | 86 | 50.163 | 140.014 | 44.777 | 86 |
| 32 | 24270. | 419615. | 8130.89 | 32 | 87 | 33.958 | 89.851 | 30.502 | 87 |
| 33 | 23167. | 395345. | 7961.50 | 33 | 88 | 22.286 | 55.893 | 20.1357 | 88 |
| 34 | 22112. | 372178. | 7797.83 | 34 | 89 | 14.143 | 33.607 | 12.8506 | 89 |
| 35 | 21103. | 350066. | 7638.94 | 35 | 90 | 8.6462 | 19.4637 | 7.8974 | 90 |
| 36 | 20136. | 328963. | 7483.97 | 36 | 91 | 5.0727 | 10.8175 | 4.6565 | 91 |
| 37 | 19210. | 308827. | 7331.68 | 37 | 92 | 2.8453 | 5.7448 | 2.6242 | 92 |
| 38 | 18321. | 289617. | 7181.64 | 38 | 93 | 1.5112 | 2.8995 | 1.3996 | 93 |
| 39 | 17467. | 271296. | 7032.60 | 39 | 94 | .7767 | 1.3883 | .7232 | 94 |
| 40 | 16646. | 253829. | 6883.67 | 40 | 95 | .3613 | .6116 | .3378 | 95 |
| 41 | 15856. | 237183. | 6734.06 | 41 | 96 | .1621 | .2503 | .1525 | 96 |
| 42 | 15095. | 221327. | 6582.12 | 42 | 97 | .0668 | .0882 | .0634 | 97 |
| 43 | 14359. | 206232. | 6426.95 | 43 | 98 | .0214 | .0214 | .0206 | 98 |
| 44 | 13647. | 191873. | 6266.89 | 44 | | | | | |
| 45 | 1295.6 | 178226. | 6101.51 | 45 | | | | | |
| 46 | 12287. | 165270. | 5930.48 | 46 | | | | | |
| 47 | 11638. | 152983. | 5753.99 | 47 | | | | | |
| 48 | 11009. | 141345. | 5572.73 | 48 | | | | | |
| 49 | 10400. | 130336. | 5387.17 | 49 | | | | | |
| 50 | 9811.1 | 119936.3 | 5198.19 | 50 | | | | | |
| 51 | 9242.4 | 110125.2 | 5006.87 | 51 | | | | | |
| 52 | 8693.9 | 100882.8 | 4813.81 | 52 | | | | | |
| 53 | 8165.4 | 92188.9 | 4619.66 | 53 | | | | | |
| 54 | 7656.3 | 84023.5 | 4424.68 | 54 | | | | | |





## （計算基數表）日本三會社表（男子全總合表）利率三分五厘

| 年齡 | Dx | Nx | Mx | 年齡 | 年齡 | Dx | Nx | Mx | 年齡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | ..... | 0 | 55 | 9341.2 | 103234.4 | 5850.19 | 55 |
| 1 | ..... | ..... | ..... | 1 | 56 | 8767.5 | 93893.2 | 5592 37 | 56 |
| 2 | ..... | ..... | ..... | 2 | 57 | 8209.4 | 85125.7 | 5330.74 | 57 |
| 3 | ..... | ..... | ..... | 3 | 58 | 7665.7 | 76916.3 | 5064.63 | 58 |
| 4 | ..... | ..... | ..... | 4 | 59 | 7135.3 | 69250.6 | 4793.47 | 59 |
| 5 | ..... | ..... | ..... | 5 | 60 | 6618.1 | 62115.3 | 4517.64 | 60 |
| 6 | ..... | ..... | ..... | 6 | 61 | 6114 7 | 55497.2 | 4238 01 | 61 |
| 7 | ..... | ..... | ..... | 7 | 62 | 5626 6 | 49382.5 | 3956.70 | 62 |
| 8 | ..... | ..... | ..... | 8 | 63 | 5156.7 | 43755.9 | 3677.01 | 63 |
| 9 | ..... | ..... | ..... | 9 | 64 | 4708 3 | 38599.2 | 3403.01 | 64 |
| 10 | 70892. | 1568416. | 17853 80 | 10 | 65 | 4284 6 | 33890.9 | 3138.49 | 65 |
| 11 | 68153. | 1497524. | 17512.01 | 11 | 66 | 3887 8 | 29606.3 | 2886.63 | 66 |
| 12 | 65513. | 1429371. | 17176 49 | 12 | 67 | 3518.1 | 25718.5 | 2648.38 | 67 |
| 13 | 62962. | 1363858. | 16841 44 | 13 | 68 | 3173 5 | 22200.4 | 2422.72 | 68 |
| 14 | 60493. | 1300896. | 16501 66 | 14 | 69 | 2850.4 | 19026.9 | 2207.02 | 69 |
| 15 | 58098. | 1240403. | 16152.48 | 15 | 70 | 2545.4 | 16176.5 | 1998.34 | 70 |
| 16 | 55770. | 1182305. | 15788.58 | 16 | 71 | 2255.6 | 13631.1 | 1794.63 | 71 |
| 17 | 53503. | 1126535. | 15408.01 | 17 | 72 | 1980.0 | 11375.5 | 1595.29 | 72 |
| 18 | 51299. | 1073032. | 15012 85 | 18 | 73 | 1719.2 | 9395.5 | 1401.47 | 73 |
| 19 | 49157. | 1021733. | 14606.09 | 19 | 74 | 1475.3 | 7676.3 | 1215.70 | 74 |
| 20 | 47086. | 972576. | 14196.50 | 20 | 75 | 1250 6 | 6201.0 | 1040.91 | 75 |
| 21 | 45088. | 925490. | 13791.53 | 21 | 76 | 1047.2 | 4950.4 | 879.79 | 76 |
| 22 | 43172. | 880402. | 13400.26 | 22 | 77 | 866 15 | 3903.22 | 734.16 | 77 |
| 23 | 41343. | 837230. | 13030.83 | 23 | 78 | 707.63 | 3037.07 | 604 93 | 78 |
| 24 | 39601. | 795887. | 12687.03 | 24 | 79 | 570.60 | 2329.44 | 491.826 | 79 |
| 25 | 37945. | 756286. | 12370 52 | 25 | 80 | 453.57 | 1758.84 | 394.094 | 80 |
| 26 | 36372. | 718341. | 12080.24 | 26 | 81 | 354.78 | 1305.27 | 310.639 | 81 |
| 27 | 34875. | 681969. | 11812.82 | 27 | 82 | 272.45 | 950.49 | 240.308 | 82 |
| 28 | 33446. | 647094. | 11563.98 | 28 | 83 | 205.07 | 678.04 | 182 137 | 83 |
| 29 | 32082. | 613648. | 11330.19 | 29 | 84 | 150.93 | 472.97 | 134 939 | 84 |
| 30 | 30774. | 581566. | 11107.87 | 30 | 85 | 108.50 | 322.04 | 97.609 | 85 |
| 31 | 29520. | 550792. | 10894.45 | 31 | 86 | 75.924 | 213.541 | 68.703 | 86 |
| 32 | 28317. | 521272. | 10689.24 | 32 | 87 | 51.645 | 137.617 | 46.992 | 87 |
| 33 | 27161. | 492955. | 10490.65 | 33 | 88 | 34.057 | 85.972 | 31.150 | 88 |
| 34 | 26049. | 465794. | 10297.84 | 34 | 89 | 21.719 | 51.915 | 19.9629 | 89 |
| 35 | 24980. | 439745. | 10109.75 | 35 | 90 | 13 341 | 30.196 | 12.3200 | 90 |
| 36 | 23951. | 414765. | 9925 42 | 36 | 91 | 7.8651 | 16.855 | 7.2951 | 91 |
| 37 | 22959. | 390814. | 9743.40 | 37 | 92 | 4 4328 | 8.9899 | 4.1288 | 92 |
| 38 | 22003. | 367855. | 9563.20 | 38 | 93 | 2.3658 | 4.5571 | 2.2117 | 93 |
| 39 | 21079. | 345852. | 9383.35 | 39 | 94 | 1.2217 | 2.1913 | 1.1476 | 94 |
| 40 | 20185. | 324773. | 9202.76 | 40 | 95 | .5712 | .9626 | .5384 | 95 |
| 41 | 19321. | 304588. | 9020.47 | 41 | 96 | .2575 | .3984 | .2441 | 96 |
| 42 | 18481. | 285267. | 8834.44 | 42 | 97 | .1066 | .1409 | .1019 | 97 |
| 43 | 17665. | 266786. | 8643.54 | 43 | 98 | .0343 | .0343 | .0332 | 98 |
| 44 | 16870. | 249121. | 8445.67 | 44 | | | | | |
| 45 | 16094. | 232251. | 8240.24 | 45 | | | | | |
| 46 | 15336. | 216157. | 8026.76 | 46 | | | | | |
| 47 | 14596. | 200821. | 7805.41 | 47 | | | | | |
| 48 | 13874. | 186225. | 7576.97 | 48 | | | | | |
| 49 | 13170. | 172351. | 7341.98 | 49 | | | | | |
| 50 | 12484. | 159181. | 7101 51 | 50 | | | | | |
| 51 | 11818. | 146697. | 6856.89 | 51 | | | | | |
| 52 | 11170. | 134879. | 6608.84 | 52 | | | | | |
| 53 | 10542. | 123709. | 6358 20 | 53 | | | | | |
| 54 | 9932.1 | 113166.5 | 6105.27 | 54 | | | | | |

## （計算基数表）　内閣統計局第二表（男子表）　利率三分五厘

| 年齢 | Dx | Nx | M̄x | 年齢 | 年齢 | Dx | Nx | M̄x | 年齢 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 1,888,740 | 36,757 | 0 | 55 | 7,164.5 | 85,028.9 | 4,363.62 | 55 |
| 1 | 81,463 | 1,788,740 | 21,338.0 | 1 | 56 | 6,752.7 | 77,864.4 | 4,191.28 | 56 |
| 2 | 75,807 | 1,707,277 | 18,386.3 | 2 | 57 | 6,353.3 | 71,111.7 | 4,017.18 | 57 |
| 3 | 71,347 | 1,631,470 | 16,455.7 | 3 | 58 | 5,965.7 | 64,758.4 | 3,841.36 | 58 |
| 4 | 67,761 | 1,560,123 | 15,263.3 | 4 | 59 | 5,589.5 | 58,792.7 | 3,663.86 | 59 |
| 5 | 64,737 | 1,492,362 | 14,518.0 | 5 | 60 | 5,224.7 | 53,203.2 | 3,485.01 | 60 |
| 6 | 62,056 | 1,427,625 | 14,017.3 | 6 | 61 | 4,871.0 | 47,978.5 | 3,304.96 | 61 |
| 7 | 59,607 | 1,365,569 | 13,660.7 | 7 | 62 | 4,528.4 | 43,107.5 | 3,124.01 | 62 |
| 8 | 57,318 | 1,305,962 | 13,382.6 | 8 | 63 | 4,197.0 | 38,579.1 | 2,942.66 | 63 |
| 9 | 55,152 | 1,248,644 | 13,150.4 | 9 | 64 | 3,876.8 | 34,382.1 | 2,761.25 | 64 |
| 10 | 53,093 | 1,193,492 | 12,952.8 | 10 | 65 | 3,568.0 | 30,505.3 | 2,580.43 | 65 |
| 11 | 51,127 | 1,140,399 | 12,780.0 | 11 | 66 | 3,270.8 | 26,937.3 | 2,400.79 | 66 |
| 12 | 49,241 | 1,089,272 | 12,621.1 | 12 | 67 | 2,985.7 | 23,666.5 | 2,223.26 | 67 |
| 13 | 47,427 | 1,040,031 | 12,467.6 | 13 | 68 | 2,713.0 | 20,680.8 | 2,048.60 | 68 |
| 14 | 45,659 | 992,604 | 12,302.3 | 14 | 69 | 2,453.1 | 17,967.8 | 1,877.57 | 69 |
| 15 | 43,933 | 946,945 | 12,116.5 | 15 | 70 | 2,206.4 | 15,514.7 | 1,710.95 | 70 |
| 16 | 42,245 | 903,012 | 11,911.1 | 16 | 71 | 1,973.1 | 13,308.3 | 1,549.52 | 71 |
| 17 | 40,591 | 860,767 | 11,682.1 | 17 | 72 | 1,753.4 | 11,335.2 | 1,393.89 | 72 |
| 18 | 38,970 | 820,176 | 11,429.6 | 18 | 73 | 1,547.8 | 9,581.8 | 1,245.01 | 73 |
| 19 | 37,383 | 781,206 | 11,156.5 | 19 | 74 | 1,356.4 | 8,034 0 | 1,103.56 | 74 |
| 20 | 35,838 | 743,823 | 10,869.7 | 20 | 75 | 1,179.7 | 6,677.6 | 970.44 | 75 |
| 21 | 34,338 | 707,985 | 10,577.3 | 21 | 76 | 1,017.3 | 5,497.9 | 845.77 | 76 |
| 22 | 32,892 | 673,647 | 10,287.1 | 22 | 77 | 869.06 | 4,480.56 | 729.99 | 77 |
| 23 | 31,502 | 640,755 | 10,005.3 | 23 | 78 | 734.97 | 3,611.50 | 623.476 | 78 |
| 24 | 30,172 | 609,253 | 9,735.75 | 24 | 79 | 614 79 | 2,876.53 | 526.478 | 79 |
| 25 | 28,902 | 579,081 | 9,481.76 | 25 | 80 | 508.06 | 2,261.74 | 439.056 | 80 |
| 26 | 27,691 | 550,179 | 9,243.84 | 26 | 81 | 414.38 | 1,753.68 | 361.238 | 81 |
| 27 | 26,536 | 522,488 | 9,021.21 | 27 | 82 | 333.20 | 1,339.30 | 292.897 | 82 |
| 28 | 25,434 | 495,952 | 8,812.71 | 28 | 83 | 263.76 | 1,006.10 | 233.716 | 83 |
| 29 | 24,380 | 470,518 | 8,615.38 | 29 | 84 | 205.24 | 742.34 | 183.267 | 84 |
| 30 | 23,371 | 446,138 | 8,427.26 | 30 | 85 | 156.73 | 537.10 | 140.973 | 85 |
| 31 | 22,403 | 422,767 | 8,246.56 | 31 | 86 | 117.23 | 380.37 | 106.180 | 86 |
| 32 | 21,473 | 400,364 | 8,071.63 | 32 | 87 | 85.742 | 263.138 | 78.175 | 87 |
| 33 | 20,579 | 378,891 | 7,900.98 | 33 | 88 | 61.137 | 177.396 | 56.095 | 88 |
| 34 | 19,719 | 358,312 | 7,734.21 | 34 | 89 | 42.407 | 116.259 | 39.143 | 89 |
| 35 | 18,891 | 338,593 | 7,570.33 | 35 | 90 | 28.537 | 73.852 | 26.4908 | 90 |
| 36 | 18,094 | 319,702 | 7,409.04 | 36 | 91 | 18.570 | 45.315 | 17.3334 | 91 |
| 37 | 17,326 | 301,608 | 7.249.79 | 37 | 92 | 11.610 | 26.745 | 10.8910 | 92 |
| 38 | 16,584 | 284,282 | 7,091.79 | 38 | 93 | 6.975 | 15.135 | 6.5753 | 93 |
| 39 | 15,866 | 267,698 | 6,935.14 | 39 | 94 | 3.981 | 8.160 | 3.7687 | 94 |
| 40 | 15,180 | 251,832 | 6,779.43 | 40 | 95 | 2.170 | 4.179 | 2.0642 | 95 |
| 41 | 14,514 | 236,652 | 6,624.26 | 41 | 96 | 1.104 | 2.009 | 1.0536 | 96 |
| 42 | 13,871 | 222,138 | 6,469.06 | 42 | 97 | 0.5332 | 0.9052 | 0.5112 | 97 |
| 43 | 13,249 | 208,267 | 6,314.01 | 43 | 98 | 0.2404 | 0.3720 | 0.2317 | 98 |
| 44 | 12,649 | 195,018 | 6,158.61 | 44 | 99 | 0.09955 | 0.13161 | 0.09674 | 99 |
| 45 | 12,067 | 182,369 | 6,002.19 | 45 | 100 | 0.03206 | 0.03206 | 0.03151 | 100 |
| 46 | 11,504 | 170,302 | 5,844.58 | 46 | 101 | | | | 101 |
| 47 | 10,959 | 158,798 | 5,685.84 | 47 | | | | | |
| 48 | 10,431 | 147,839 | 5,525.63 | 48 | | | | | |
| 49 | 9,919.3 | 137,407.8 | 5,363.86 | 49 | | | | | |
| 50 | 9,423.4 | 127,488.5 | 5,200.83 | 50 | | | | | |
| 51 | 8,943.2 | 118,065.1 | 5,036.45 | 51 | | | | | |
| 52 | 8,477.8 | 109,121.9 | 4,870.65 | 52 | | | | | |
| 53 | 8,026.4 | 100,644.1 | 4,703.23 | 53 | | | | | |
| 54 | 7,588.8 | 92,617.7 | 4,534.33 | 54 | | | | | |





## （計算基数表）　内閣統計局第二表（男子表）　利率四分

| 年齢 | Dx | Nx | M̄x | 年齢 | 年齢 | Dx | Nx | M̄x | 年齢 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 1,728,200 | 34,195 | 0 | 55 | 5,496.4 | 62,730.2 | 3,144.72 | 55 |
| 1 | 81,072 | 1,628,200 | 18,813.5 | 1 | 56 | 5,155.6 | 57,233.8 | 3,012.82 | 56 |
| 2 | 75,080 | 1,547,128 | 15,883.1 | 2 | 57 | 4,827.2 | 52,078.2 | 2,880.22 | 57 |
| 3 | 70,322 | 1,472,048 | 13,975.1 | 3 | 58 | 4,511.0 | 47,251.0 | 2,746.95 | 58 |
| 4 | 66,467 | 1,401,726 | 12,803.1 | 4 | 59 | 4,206.2 | 42,740.0 | 2,613.06 | 59 |
| 5 | 63,194 | 1,335,259 | 12,073.9 | 5 | 60 | 3,912.7 | 38,533.8 | 2,478.79 | 60 |
| 6 | 60,286 | 1,272,065 | 11,586.2 | 6 | 61 | 3,630.3 | 34,621.1 | 2,344'28 | 61 |
| 7 | 57,630 | 1,211,779 | 11,240.6 | 7 | 62 | 3,358.8 | 30,990.8 | 2,209.75 | 62 |
| 8 | 55,150 | 1,154,149 | 10,972.4 | 8 | 63 | 3,098.0 | 27,632.0 | 2,075.56 | 63 |
| 9 | 52,810 | 1,098,999 | 10,74.95 | 9 | 64 | 2,847.9 | 24,534.0 | 1,941.98 | 64 |
| 10 | 50,594 | 1,046,189 | 10,560.8 | 10 | 65 | 2,608.4 | 21,686.1 | 1,809.47 | 65 |
| 11 | 48,487 | 995,595 | 10,396.5 | 11 | 66 | 2,379.6 | 19,077.7 | 1,678.45 | 66 |
| 12 | 46,474 | 947,108 | 10,246.1 | 12 | 67 | 2,161.8 | 16,698.1 | 1,549.60 | 67 |
| 13 | 44,546 | 900,634 | 10,101.6 | 13 | 68 | 1,954.9 | 14,536.3 | 1,423.44 | 68 |
| 14 | 42,680 | 856,088 | 9,946.71 | 14 | 69 | 1,759.1 | 12,581.4 | 1,300.50 | 69 |
| 15 | 40,869 | 813,408 | 9,773.43 | 15 | 70 | 1,574.6 | 10,822.3 | 1,181.31 | 70 |
| 16 | 39,110 | 772,539 | 9,582.86 | 16 | 71 | 1,401.4 | 9,247.7 | 1,066.39 | 71 |
| 17 | 37,398 | 733,429 | 9,371.35 | 17 | 72 | 1,239.3 | 7,846.3 | 956.13 | 72 |
| 18 | 35,733 | 696,031 | 9,139.28 | 18 | 73 | 1,088.7 | 6,607.0 | 851.148 | 73 |
| 19 | 34,113 | 660,298 | 8,889.52 | 19 | 74 | 949.54 | 5,518.27 | 751.890 | 74 |
| 20 | 32,545 | 626,185 | 8,628.42 | 20 | 75 | 821.84 | 4,568.73 | 658.927 | 75 |
| 21 | 31,034 | 593,640 | 8,363.48 | 21 | 76 | 705.28 | 3,746.89 | 572.281 | 76 |
| 22 | 29,584 | 562,606 | 8,101.85 | 22 | 77 | 599.64 | 3,041.61 | 492.203 | 77 |
| 23 | 28,197 | 533,022 | 7,849.04 | 23 | 78 | 504.68 | 2,441.97 | 418.890 | 78 |
| 24 | 26,877 | 504,825 | 7,608.34 | 24 | 79 | 420.12 | 1,937.29 | 352.445 | 79 |
| 25 | 25,622 | 477,948 | 7,382.64 | 25 | 80 | 345.52 | 1,517.17 | 292.849 | 80 |
| 26 | 24,430 | 452,326 | 7,172.24 | 26 | 81 | 280.45 | 1,171.65 | 240.054 | 81 |
| 27 | 23,298 | 427,896 | 6,976.30 | 27 | 82 | 224.43 | 891.20 | 193.912 | 82 |
| 28 | 22,224 | 404,598 | 6,793.68 | 28 | 83 | 176.80 | 666.77 | 154.147 | 83 |
| 29 | 21,200 | 382,374 | 6,621.68 | 29 | 84 | 136.92 | 489.97 | 120.412 | 84 |
| 30 | 20,225 | 361,174 | 6,458.49 | 30 | 85 | 104.05 | 353.05 | 92.265 | 85 |
| 31 | 19,294 | 340,949 | 6,302.49 | 31 | 86 | 77.457 | 248.999 | 69.222 | 86 |
| 32 | 18,404 | 321,655 | 9,152.20 | 32 | 87 | 56.376 | 171.542 | 50.764 | 87 |
| 33 | 17,553 | 303,251 | 6,006.29 | 33 | 88 | 40.006 | 115.166 | 36.281 | 88 |
| 34 | 16,739 | 285,698 | 5,864.38 | 34 | 89 | 27.617 | 75.160 | 25.2151 | 89 |
| 35 | 15,961 | 268,959 | 5,725.60 | 35 | 90 | 18.494 | 47.543 | 16.9955 | 90 |
| 36 | 15,212 | 252,998 | 5,589.67 | 36 | 91 | 11 977 | 29.049 | 11.0750 | 91 |
| 37 | 14,496 | 237,786 | 5,456.11 | 37 | 92 | 7.452 | 17 072 | 6.9298 | 92 |
| 38 | 13,809 | 223,290 | 5,324.23 | 38 | 93 | 4.456 | 9.620 | 4.1664 | 93 |
| 39 | 13,147 | 209,481 | 5,194.11 | 39 | 94 | 2.530 | 5.164 | 2.3779 | 94 |
| 40 | 12,519 | 196,334 | 5,065.39 | 40 | 95 | 1.373 | 2.634 | 1.2970 | 95 |
| 41 | 11,912 | 183,815 | 4,937.74 | 41 | 96 | 0.6949 | 1.2605 | 0.6592 | 96 |
| 42 | 11,329 | 171,903 | 4,810.68 | 42 | 97 | 0.3341 | 0.5656 | 0.3185 | 97 |
| 43 | 10,769 | 160,574 | 4,684.35 | 43 | 98 | 0.1499 | 0.2315 | 0.1438 | 98 |
| 44 | 10,231 | 149,805 | 4,558.34 | 44 | 99 | 0.06178 | 0.08158 | 0.05981 | 99 |
| 45 | 9,714.3 | 139,574.0 | 4,432.11 | 45 | 100 | 0.01980 | 0.01980 | 0.01942 | 100 |
| 46 | 9,216.6 | 129,859.7 | 4,305.53 | 46 | 101 | | | | 101 |
| 47 | 8,737.6 | 120,643.1 | 4,178.66 | 47 | | | | | |
| 48 | 8,276.8 | 111,905.5 | 4,051.23 | 48 | | | | | |
| 49 | 7,832.8 | 103,628.7 | 3,923.18 | 49 | | | | | |
| 50 | 7,405.6 | 95,795.9 | 3,794.75 | 50 | | | | | |
| 51 | 6,994.3 | 88,390.3 | 3,665.87 | 51 | | | | | |
| 52 | 6,598.6 | 81,396.0 | 3,536.51 | 52 | | | | | |
| 53 | 6,217.3 | 74,797.4 | 3,406.52 | 53 | | | | | |
| 54 | 5,849.9 | 68,580.1 | 3,276.00 | 54 | | | | | |

## （計算基數表）英國十七會社表（男子）利率四分

| 年齡 | Dx | Nx | Mx | 年齡 | 年齡 | Dx | Nx | Mx | 年齡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | ..... | ..... | ..... | 0 | 55 | 7,340.53974 | 87,924.18386 | 3,958.84036 | 55 |
| 1 | ..... | ..... | ..... | 1 | 56 | 6,905.30136 | 80,583.64411 | 3,805 93043 | 56 |
| 2 | ..... | ..... | ..... | 2 | 57 | 6,486.16133 | 73,678.34276 | 3,652.37892 | 57 |
| 3 | ..... | ..... | ..... | 3 | 58 | 6,082.77604 | 67,192.18143 | 3,498.46137 | 58 |
| 4 | ..... | ..... | ..... | 4 | 59 | 5,694.49826 | 61,109.40538 | 3,344.13652 | 59 |
| 5 | ..... | ..... | ..... | 5 | 60 | 5,320.81583 | 55,414.90712 | 3,189.47324 | 60 |
| 6 | ..... | ..... | ..... | 6 | 61 | 4,960.96468 | 50,094.09129 | 3,034.26886 | 61 |
| 7 | ..... | ..... | ..... | 7 | 62 | 4,614.59537 | 45,133.12661 | 2,878.70589 | 62 |
| 8 | ..... | ..... | ..... | 8 | 63 | 4,281.27754 | 40,518.53124 | 2,722.87249 | 63 |
| 9 | ..... | ..... | ..... | 9 | 64 | 3,960.84138 | 36,237.25370 | 2,567.10085 | 64 |
| 10 | 67,556.41688 | 1,381,771.33882 | 14,411.36539 | 10 | 65 | 3,653.01721 | 32,276.41233 | 2,411.61673 | 65 |
| 11 | 64,518.97645 | 1,314,214.92194 | 13,972.24868 | 11 | 66 | 3,357.67853 | 28,623.39512 | 2,256.77872 | 66 |
| 12 | 61,616.49894 | 1,249,695.94550 | 13,551.27027 | 12 | 67 | 3,074.81439 | 25,265.71659 | 2,103.05606 | 67 |
| 13 | 58,843.04781 | 1,188,079.44656 | 13,147.68448 | 13 | 68 | 2,804.36609 | 22,190.90220 | 1,950.86985 | 68 |
| 14 | 56,192.36788 | 1,129,236.39875 | 12,760.19870 | 14 | 69 | 2,546.49961 | 19,386.53611 | 1,800.86360 | 69 |
| 15 | 53,658.54048 | 1,073,044.03086 | 12,387.61622 | 15 | 70 | 2,301.43067 | 16,840.03651 | 1,653.73695 | 70 |
| 16 | 51,236.49808 | 1,019,385.49038 | 12,029.36383 | 16 | 71 | 2,069.22319 | 14,538.60584 | 1,510.04605 | 71 |
| 17 | 48,920.87672 | 968,148.99230 | 11,684.37701 | 17 | 72 | 1,850.04836 | 12,469.38265 | 1,370.45672 | 72 |
| 18 | 46,707.09281 | 919,228.11558 | 11,352.16529 | 18 | 73 | 1,644.04416 | 10,619.33428 | 1,235.60822 | 73 |
| 19 | 44,590.28253 | 872,521.02277 | 11,031.78165 | 19 | 74 | 1,451.36925 | 8,975.29013 | 1,106.16578 | 74 |
| 20 | 42,566.29770 | 827,930.74024 | 10,722.80769 | 20 | 75 | 1,272.08636 | 7,523.92088 | 982.70479 | 75 |
| 21 | 40,630.72555 | 785,364.44255 | 10,424 40084 | 21 | 76 | 1,106.27459 | 6,251.83452 | 865.81942 | 76 |
| 22 | 38,779.80981 | 744,733.71699 | 10,136.20531 | 22 | 77 | 953.97107 | 5,145.55993 | 756 06492 | 77 |
| 23 | 37,009.95040 | 705,953.90718 | 9,857.87705 | 23 | 78 | 815.03142 | 4,191.58886 | 653.81646 | 78 |
| 24 | 35,317.30695 | 668,943.95678 | 9,588.69323 | 24 | 79 | 689.29364 | 3,376.55745 | 559.42605 | 79 |
| 25 | 33,698.61793 | 633,626.64983 | 9,328.36217 | 25 | 80 | 576.57769 | 2,687.26380 | 473.22139 | 80 |
| 26 | 32,150.75616 | 599,928.03190 | 9,076.60108 | 26 | 81 | 876.56014 | 2,110.68611 | 395.37990 | 81 |
| 27 | 30,670.37656 | 567,777.27575 | 8,832.78903 | 27 | 82 | 388.83844 | 1,634.12597 | 325.98744 | 82 |
| 28 | 29,254.64465 | 537,106.89918 | 8,596.68698 | 28 | 83 | 312.86774 | 1,245.28753 | 264.97206 | 83 |
| 29 | 27,900.52090 | 507,852.25454 | 8,367.74187 | 29 | 84 | 247.91392 | 932.41979 | 212 05162 | 84 |
| 30 | 26,605.43450 | 479,951.73364 | 8,145.75243 | 30 | 85 | 193.16347 | 684.50587 | 166.83632 | 85 |
| 31 | 25,366.62195 | 453,346.29915 | 7,930.22583 | 31 | 86 | 147.64096 | 491.34241 | 128.74317 | 86 |
| 32 | 24,181.75011 | 427,979.67720 | 7,720.99330 | 32 | 87 | 110.37861 | 343.70145 | 97.15933 | 87 |
| 33 | 23,048.30493 | 403.797.92708 | 7,517.61542 | 33 | 88 | 80.42417 | 233.32284 | 71 45022 | 88 |
| 34 | 21,964.16759 | 380,749.62216 | 7,319.95135 | 34 | 89 | 56.81705 | 152.89866 | 50.93634 | 89 |
| 35 | 20,927.30299 | 358,785.45457 | 7,127.86243 | 35 | 90 | 38.65843 | 96.08161 | 34 96299 | 90 |
| 36 | 19,935.51281 | 337,858.15158 | 6,940.96852 | 36 | 91 | 25.13801 | 57.42318 | 22.92943 | 91 |
| 37 | 18,986.94796 | 317,922.63877 | 6,759.15416 | 37 | 92 | 15.44570 | 32.28516 | 14.20396 | 92 |
| 38 | 18,079.83167 | 298,935.69081 | 6,582.30510 | 38 | 93 | 8.83282 | 16.83946 | 8.18514 | 93 |
| 39 | 17,212.24015 | 280,855.85914 | 6,410.09172 | 39 | 94 | 4.60982 | 8.00665 | 4.30187 | 94 |
| 40 | 16,382.55823 | 263,643.61899 | 6,242.41904 | 40 | 95 | 2.14399 | 3.39683 | 2.01334 | 95 |
| 41 | 15,589.23333 | 247,261.06076 | 6,079.19253 | 41 | 96 | 0.85704 | 1.25284 | 0.80885 | 96 |
| 42 | 14,830.58054 | 231,671.82743 | 5,920.12563 | 42 | 97 | 0.28954 | 0.39580 | 0.27432 | 97 |
| 43 | 14,104.81747 | 261,841.24690 | 5,764.76951 | 43 | 98 | 0.08566 | 0.10625 | 0.08158 | 98 |
| 44 | 13,409.73877 | 202,736.42943 | 5,612.18379 | 44 | 99 | 0.02059 | 0.02059 | 0.01980 | 99 |
| 45 | 12,743.15379 | 189,326.69066 | 5,461.35799 | 45 | 100 | | 0.00000 | | 100 |
| 46 | 12,103.39849 | 176,583.53687 | 5,311.72400 | 46 | | | | | |
| 47 | 11,488.40443 | 164,480.13838 | 5,162.30526 | 47 | | | | | |
| 48 | 10,897.29735 | 152,991.67395 | 5,013.00220 | 48 | | | | | |
| 49 | 10,328.75625 | 142,094.37660 | 4,863.58792 | 49 | | | | | |
| 50 | 9,781.91888 | 131,765.62035 | 4,714.01040 | 50 | | | | | |
| 51 | 9,255.77818 | 121,983.70147 | 4,564.09735 | 51 | | | | | |
| 52 | 8,749.39490 | 112,727.92330 | 4,413.70554 | 52 | | | | | |
| 53 | 8,261.89245 | 103.978.52840 | 4,262.71828 | 53 | | | | | |
| 54 | 7,792.45209 | 95,716.63595 | 4,111.04302 | 54 | | | | | |





## （計算基數表）ファール氏第三表（男子）利率五分

| 年齡 | Dx | Nx | Mx | 年齡 | 年齡 | Dx | Nx | Mx | 年齡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 511,745 | 7,009,086 | 177,979.04 | 0 | 55 | 14.317 | 155,665 | 6,904.47 | 55 |
| 1 | 407,644 | 6,497,341 | 98,246.67 | 1 | 56 | 13,301 | 141.348 | 6,569.74 | 56 |
| 2 | 363,270 | 6,089,697 | 73,284.31 | 2 | 57 | 12,349 | 128,047 | 6,242.45 | 57 |
| 3 | 333,692 | 5,726,427 | 61,004.86 | 3 | 58 | 11,432 | 115,707 | 5,922.07 | 58 |
| 4 | 310,222 | 5,392,735 | 53,425.30 | 4 | 59 | 10,574 | 104,275 | 5,608.18 | 59 |
| 5 | 290,185 | 5,082,513 | 48,160.79 | 5 | 60 | 9,762.2 | 93,701.3 | 5,300.24 | 60 |
| 6 | 272,611 | 4,792,328 | 44,405.09 | 6 | 61 | 8,995.0 | 83,939.1 | 4,997.94 | 61 |
| 7 | 256,820 | 4,519,717 | 41,595.77 | 7 | 62 | 8,269.6 | 74,944.1 | 4,700.86 | 62 |
| 8 | 242,351 | 4,262,897 | 39,355.43 | 8 | 63 | 7,583.9 | 66,674.5 | 4,408.86 | 63 |
| 9 | 229,048 | 4,020,546 | 37,593.07 | 9 | 64 | 6,935.7 | 59,090.6 | 4,121.91 | 64 |
| 10 | 210,730 | 3,791,498 | 36,182.91 | 10 | 65 | 6,323.6 | 52,154.9 | 3,840.03 | 65 |
| 11 | 205,251 | 3,574,768 | 35,023.49 | 11 | 66 | 5,746.0 | 45,831.3 | 3,563.54 | 66 |
| 12 | 194,488 | 3,369,517 | 34,034.55 | 12 | 67 | 5,201.6 | 40,085.3 | 3,292.84 | 67 |
| 13 | 184,343 | 3,175,029 | 33,151.03 | 13 | 68 | 4,689.6 | 34,883.7 | 3,028.43 | 68 |
| 14 | 174,738 | 2,990,686 | 32,324.23 | 14 | 69 | 4,208.9 | 30,194.1 | 2,771.00 | 69 |
| 15 | 165,609 | 2,815,948 | 31,516.60 | 15 | 70 | 3,758.9 | 25,985.2 | 2,521.51 | 70 |
| 16 | 156,908 | 2,650,339 | 30,700.70 | 16 | 71 | 3,339.1 | 22,226.3 | 2,280.65 | 71 |
| 17 | 148,594 | 2,493,431 | 29,859.52 | 17 | 72 | 2,948.8 | 18,887.2 | 2,049.44 | 72 |
| 18 | 140,641 | 2,344,837 | 28,981.94 | 18 | 73 | 2,587.8 | 15,938.4 | 1,828.84 | 73 |
| 19 | 133,025 | 2,204,196 | 28,063.84 | 19 | 74 | 2,255.5 | 13,350.6 | 1,619.75 | 74 |
| 20 | 125,733 | 2,071,171 | 27,106.16 | 20 | 75 | 1,951.4 | 11,095.1 | 1,423.03 | 75 |
| 21 | 118,754 | 1,945,438 | 26,114.04 | 21 | 76 | 1,674.9 | 9,143.7 | 1,239.51 | 76 |
| 22 | 112,141 | 1,826,684 | 25,156.52 | 22 | 77 | 1,425.4 | 7,468.8 | 1,069.75 | 77 |
| 23 | 105,878 | 1,714,543 | 24,233.20 | 23 | 78 | 1,202.0 | 6,043.4 | 914.26 | 78 |
| 24 | 99,947 | 1,608,665 | 23,343.93 | 24 | 79 | 1,003.8 | 4,841.4 | 773.27 | 79 |
| 25 | 94,332 | 1,508,718 | 22,488.44 | 25 | 80 | 829.57 | 3,837.62 | 646.84 | 80 |
| 26 | 89,017 | 1,414,386 | 21,665.53 | 26 | 81 | 678.00 | 3,008.05 | 534.77 | 81 |
| 27 | 83,987 | 1,325,369 | 20,874.31 | 27 | 82 | 547.61 | 2,330.05 | 436.66 | 82 |
| 28 | 79.227 | 1,241,382 | 20,113.88 | 28 | 83 | 436.79 | 1,782.44 | 351.92 | 83 |
| 29 | 74,723 | 1,162,155 | 19,382.85 | 29 | 84 | 343.79 | 1,345.65 | 279.73 | 84 |
| 30 | 70,462 | 1,087,432 | 18,679.93 | 30 | 85 | 266.81 | 1,001.86 | 219.12 | 85 |
| 31 | 66,431 | 1,016,970 | 18,003.87 | 31 | 86 | 204.01 | 735.05 | 169.01 | 86 |
| 32 | 62,617 | 950,539 | 17,353.28 | 32 | 87 | 153.56 | 531.04 | 128.29 | 87 |
| 33 | 59,009 | 887,922 | 16,726.88 | 33 | 88 | 113.69 | 377.48 | 95.73 | 88 |
| 34 | 55,595 | 828,913 | 16,123.26 | 34 | 89 | 82.715 | 263.793 | 70.17 | 89 |
| 35 | 52,366 | 773,318 | 15,541.14 | 35 | 90 | 59.089 | 181.078 | 50.47 | 90 |
| 36 | 49,310 | 720,952 | 14,979.31 | 36 | 91 | 41.407 | 121.989 | 35.61 | 91 |
| 37 | 46,419 | 671,642 | 14,436.67 | 37 | 92 | 28.437 | 80.582 | 24.61 | 92 |
| 38 | 43,634 | 625,223 | 13,911.73 | 38 | 93 | 19.121 | 52.145 | 16.65 | 93 |
| 39 | 41,096 | 581,539 | 13,403.73 | 39 | 94 | 12.575 | 33.024 | 11.01 | 94 |
| 40 | 38,647 | 540,443 | 12,911.54 | 40 | 95 | 8.0812 | 20.4485 | 7.12 | 95 |
| 41 | 36,329 | 501,796 | 12,434.13 | 41 | 96 | 5.0691 | 12.3673 | 4.49 | 96 |
| 42 | 34,136 | 465,467 | 11,970.82 | 42 | 97 | 3.1004 | 7.2982 | 2.76 | 97 |
| 43 | 32,060 | 431,331 | 11,520.74 | 43 | 98 | 1.8470 | 4.1978 | 1.65 | 98 |
| 44 | 30,096 | 399,271 | 11,082.98 | 44 | 99 | 1.0706 | 2.3508 | 0.96 | 99 |
| 45 | 28,237 | 369,175 | 10,657.16 | 45 | 100 | 0.6030 | 1.2802 | 0.54 | 100 |
| 46 | 26,478 | 340,938 | 10,242.50 | 46 | 101 | 0.3297 | 0.6772 | 0.30 | 101 |
| 47 | 24,813 | 314,460 | 9,838.60 | 47 | 102 | 0.1748 | 0.3475 | 0.16 | 102 |
| 48 | 23,238 | 289,647 | 9,444.90 | 48 | 103 | 0.0897 | 0.1727 | 0.09 | 103 |
| 49 | 21,747 | 266,409 | 9,061.06 | 49 | 104 | 0.0446 | 0.0830 | 0.05 | 104 |
| 50 | 20,337 | 244,662 | 8.682.78 | 50 | 105 | 0.0214 | 0.0384 | 0.03 | 105 |
| 51 | 19,004 | 224.325 | 8,321.77 | 51 | 106 | 0.0099 | 0.0170 | 0.02 | 106 |
| 52 | 17,733 | 205,321 | 7,955.87 | 52 | 107 | 0.0044 | 0.0071 | 0.01 | 107 |
| 53 | 16.530 | 187,588 | 7,597.45 | 53 | 108 | 0.0019 | 0.0027 | | 108 |
| 54 | 15,393 | 171,058 | 7,246.99 | 54 | 109 | 0.0008 | 0.0008 | | 109 |
| | | | | | 110 | | | | 110 |

## （計算基数表）　簡易生命保険表　利率三分五厘

| 年齢 | Dx | $\frac{D_x+D_{x+1}}{2}$ | Nx | Cx | Mx | 年齢 | Dx | $\frac{D_x+D_{x+1}}{2}$ | Nx | Cx | Mx |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 89,216 | 1,703,036 | 18,499 | 41,413 | 55 | 6,144.6 | 5,953.6 | 64,746.9 | 177.3 | 3,917.2 |
| 1 | 78,432 | 75,430 | 1,613,820 | 3,410 | 22,914 | 56 | 5,762.5 | 5,577.3 | 58,793.3 | 178.4 | 3,739.9 |
| 2 | 72,427 | 70,115 | 1,538,390 | 2,212 | 19,504 | 57 | 5,392.2 | 5,213.0 | 53,216.0 | 179.1 | 3,561.5 |
| 3 | 67,803 | 65,988 | 1,468,275 | 1,360 | 17,292 | 58 | 5,033.8 | 4,860.4 | 48,003.0 | 179.7 | 3,382.4 |
| 4 | 64,173 | 62,671 | 1,402,287 | 847 | 15,932 | 59 | 4,686.9 | 4,519.1 | 43,142.6 | 180.0 | 3,202.7 |
| 5 | 61,170 | 59,857 | 1,339,616 | 567 | 15,085 | 60 | 4,351.4 | 4.189.4 | 38,623.5 | 179.9 | 3,022.7 |
| 6 | 58,544 | 57,356 | 1,279,759 | 403 | 14,518 | 61 | 4,027.4 | 3,871.1 | 34,434.1 | 179.4 | 2,842.8 |
| 7 | 56,167 | 55,063 | 1,222,403 | 314 | 14,115 | 62 | 3,714.8 | 3,564.3 | 30,563.0 | 178.5 | 2,663.4 |
| 8 | 53,959 | 52,917 | 1,167,340 | 263 | 13,801 | 63 | 3,413.7 | 3,268.9 | 26,998.7 | 177.0 | 2,484.9 |
| 9 | 51,876 | 50,890 | 1,114,423 | 222 | 13,538 | 64 | 3,124.2 | 2,985.4 | 23,729.8 | 179.9 | 2,307.9 |
| 10 | 49,903 | 48,963 | 1,063,533 | 195 | 13,316 | 65 | 2,846.6 | 2,714.0 | 20,744.4 | 174.9 | 2,133.0 |
| 11 | 48,024 | 47,124 | 1,014,570 | 178 | 13,121 | 66 | 2,581.3 | 2,455.9 | 18,030.4 | 168.0 | 1,961.0 |
| 12 | 46,224 | 45,357 | 967,446 | 174 | 12,943 | 67 | 2,328.8 | 2,209.1 | 15,575.4 | 100.4 | 1,793.0 |
| 13 | 44,490 | 43,647 | 922,089 | 186 | 12,769 | 68 | 2,089.4 | 1,976.4 | 13,366.3 | 220.6 | 1,629.6 |
| 14 | 42,803 | 41,976 | 878,442 | 209 | 12,583 | 69 | 1,863.4 | 1,757.3 | 11,389.9 | 152.3 | 1,472.0 |
| 15 | 41,150 | 40,341 | 836,466 | 230 | 12,374 | 70 | 1,651.1 | 1,551.9 | 9,632.6 | 145.0 | 1,319.7 |
| 16 | 39,532 | 38,738 | 796,125 | 256 | 12,144 | 71 | 1,452.7 | 1,360.6 | 8,080.7 | 137.4 | 1,174.7 |
| 17 | 37,943 | 37,162 | 757,387 | 284 | 11,888 | 72 | 1,268.5 | 1,183.5 | 6,720.1 | 129.3 | 1,037.3 |
| 18 | 36,381 | 35,615 | 720,225 | 305 | 11,604 | 73 | 1,098.5 | 1,020.7 | 5,536.6 | 120.37 | 908.0 |
| 19 | 34,850 | 34,103 | 684,610 | 321 | 11,299 | 74 | ,942.98 | 872.44 | 4,515.91 | 111.06 | 787.63 |
| 20 | 33,356 | 32,632 | 650,507 | 327 | 10,978 | 75 | 801.91 | 738.39 | 3,643.46 | 101.64 | 676 57 |
| 21 | 31,907 | 31,208 | 617,875 | 323 | 10,651 | 76 | 674.87 | 618.15 | 2,905.07 | 92.16 | 574.93 |
| 22 | 30,510 | 29,840 | 586,667 | 314 | 10,328 | 77 | 561.44 | 511.36 | 2,286.92 | 82.58 | 482.77 |
| 23 | 29,170 | 28,530 | 556,827 | 299 | 10,014 | 78 | 461.27 | 417.55 | 1,775.56 | 73.07 | 400.19 |
| 24 | 27,889 | 27,279 | 528,297 | 282 | 9,715 | 79 | 373.84 | 336.17 | 1,358.01 | 63.78 | 327.12 |
| 25 | 26,669 | 26,088 | 501,018 | 263 | 9,433 | 80 | 298.49 | 266.47 | 1,021.84 | 54.87 | 263.34 |
| 26 | 25,508 | 24,956 | 474,930 | 246 | 9,170 | 81 | 234.46 | 207.69 | 755.37 | 46.39 | 208.47 |
| 27 | 24,404 | 23,878 | 449,974 | 230 | 8,924 | 82 | 180.92 | 158.90 | 547.68 | 38.57 | 162.08 |
| 28 | 23,352 | 22,851 | 426,096 | 217 | 8,694 | 83 | 136.88 | 119.11 | 388.78 | 31.45 | 123.51 |
| 29 | 22,349 | 21,869 | 403,245 | 207 | 8,477 | 84 | 101.34 | 87.302 | 269.67 | 25.071 | 92.06 |
| 30 | 21,390 | 20,931 | 381,376 | 199 | 8,270 | 85 | 73.263 | 62.424 | 182.372 | 19.530 | 60.989 |
| 31 | 20,471 | 20,031 | 360,445 | 191 | 8,071 | 86 | 51.585 | 43.442 | 119.948 | 14.792 | 47.459 |
| 32 | 19,591 | 19,168 | 340,414 | 186 | 7,880 | 87 | 35.299 | 29.349 | 76.506 | 10.890 | 32.667 |
| 33 | 18,745 | 18,338 | 321,246 | 182 | 7,694 | 88 | 23.399 | 19.165 | 47.157 | 7.809 | 21,777 |
| 34 | 17,932 | 17,541 | 302,908 | 180 | 7,512 | 89 | 14.931 | 12.0558 | 27.992 | 5.3357 | 13.968 |
| 35 | 17,149 | 16,773 | 285,367 | 175 | 7,332 | 90 | 9.1805 | 7.2775 | 15.9364 | 3.5557 | 8.6323 |
| 36 | 16,397 | 16,034 | 268,594 | 173 | 7,157 | 91 | 5.3745 | 4.1859 | 8.6589 | 2.2331 | 5.0766 |
| 37 | 15,672 | 15,323 | 252,560 | 172 | 6,984 | 92 | 2.9974 | 2.2941 | 4.4730 | 1.3277 | 2.8435 |
| 38 | 14,973 | 14,636 | 237,237 | 170 | 6,812 | 93 | 1.5908 | 1.1895 | 2.1789 | .7616 | 1.5158 |
| 39 | 14,300 | 13,976 | 222,601 | 168 | 6,642 | 94 | .7882 | .5655 | .9894 | .4261 | .7542 |
| 40 | 13,651 | 13,338 | 208,625 | 167 | 6,474 | 95 | .3427 | .2449 | .4239 | .1871 | .3281 |
| 41 | 13,025 | 12,722 | 195,287 | 167 | 6,307 | 96 | .1472 | .1091 | .1790 | .0723 | .1410 |
| 42 | 12,420 | 12,128 | 182,565 | 167 | 6,140 | 97 | .0711 | .0527 | .0699 | .0344 | .0687 |
| 43 | 11,836 | 11,554 | 170,437 | 167 | 5,973 | 98 | .0343 | .0172 | .0172 | .0343 | .0343 |
| 44 | 11,272 | 11,000 | 158,883 | 166 | 5,806 | | | | | | |
| 45 | 10,727 | 10,463 | 147,883 | 168 | 5,640 | | | | | | |
| 46 | 10,199 | 9,943.5 | 137,420 | 169.4 | 5,472 | | | | | | |
| 47 | 9,688 | 9,440.7 | 127,476.6 | 169.9 | 5,302.6 | | | | | | |
| 48 | 9,193.3 | 8,953.8 | 118,035.9 | 171.0 | 5,132.7 | | | | | | |
| 49 | 8,714.3 | 8,482.4 | 109,082.1 | 171.9 | 4,961.7 | | | | | | |
| 50 | 8,250.6 | 8,026.3 | 100,599.7 | 172.6 | 4,789.8 | | | | | | |
| 51 | 7,801.9 | 7,584.6 | 92,573.4 | 173.5 | 4,617.2 | | | | | | |
| 52 | 7,367.4 | 7,157.0 | 84,988.8 | 174.6 | 4,443.7 | | | | | | |
| 53 | 6,946.6 | 6,743.0 | 77,831.8 | 175.4 | 4,269.1 | | | | | | |
| 54 | 6,539.3 | 6,341.9 | 71,088.8 | 176.5 | 4,093.7 | | | | | | |





## （計算基数表）　郵便年金表（男子）　利率五分

| 年齢 | Dx | Cx | Nx | Mx | Rx | 年齢 | Dx | Cx | Nx | Mx | Rx |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 12,250 | 1,575,374 | 25,606.6 | 303,387.1 | 52 | 4,608.7 | 72.271 | 56,028.2 | 1,989.229 | 30,536.239 |
| 1 | 83,287 | 2,397.7 | 1,475,374 | 13,356.6 | 277,780.5 | 53 | 4,318.7 | 72.213 | 51,419.5 | 1,916.958 | 28,547.010 |
| 2 | 76,981 | 1,557.5 | 1,392,087 | 10,958.9 | 264,423.9 | 54 | 4,042.6 | 72.206 | 47,100.8 | 1,844.745 | 26,630.052 |
| 3 | 71,796 | 952.9 | 1,315,106 | 9,401.37 | 253,465.02 | 55 | 3,779.7 | 72.236 | 43,058.2 | 1,772.539 | 24,785.307 |
| 4 | 67,448 | 589.49 | 1,243,310 | 8,448.47 | 244,063.65 | 56 | 3,529.2 | 72.290 | 39,278.5 | 1,700.303 | 23,012.768 |
| 5 | 63,661 | 391.61 | 1,175,862 | 7,858.98 | 235,615.18 | 57 | 3,290.6 | 72.357 | 35,749.3 | 1,628.013 | 21,312.465 |
| 6 | 60,247 | 275.35 | 1,112,201 | 7,467.37 | 227,756.20 | 58 | 3,063.4 | 72.426 | 32,458.7 | 1,555.656 | 19,684.452 |
| 7 | 57,110 | 211.60 | 1,051,954 | 7,192.02 | 220,288.83 | 59 | 2,846.8 | 72.379 | 29,395.3 | 1,483.230 | 18,128.796 |
| 8 | 54,184 | 174.43 | 994,844 | 6,980.42 | 213,096.81 | 60 | 2,640.7 | 72.277 | 26,548.5 | 1,410.851 | 16,645.566 |
| 9 | 51,433 | 145.99 | 940,660 | 6,805.99 | 206,116.39 | 61 | 2,444.4 | 72.120 | 23,907.8 | 1,338.574 | 15,234.715 |
| 10 | 48,842 | 126.45 | 889,227 | 6,660.00 | 199,310.40 | 62 | 2,257.6 | 71.814 | 21,463.4 | 1,266.454 | 13,896.141 |
| 11 | 46,393 | 114.72 | 840,385 | 6,533.55 | 192,650.40 | 63 | 2.080.1 | 71.419 | 19,205.8 | 1,194.640 | 12,629.687 |
| 12 | 44,071 | 109.26 | 793,992 | 6,418.83 | 186,116.85 | 64 | 1,911.3 | 70.856 | 17,125.7 | 1,123.221 | 11,435.047 |
| 13 | 41,866 | 115.96 | 749,921 | 6,309.57 | 179,698.02 | 65 | 1,751.2 | 70.021 | 15,214.4 | 1,052.365 | 10,311.826 |
| 14 | 39,759 | 128.68 | 708,055 | 6,193.61 | 173,388.45 | 66 | 1,599.5 | 68.987 | 13,463.2 | 982.344 | 9,259.461 |
| 15 | 37,741 | 139.93 | 668,296 | 6,064.93 | 167,194.84 | 67 | 1,456.0 | 67.671 | 11,863.7 | 913.357 | 8,277.117 |
| 16 | 35,807 | 154.29 | 630,555 | 5,925.00 | 161,129.91 | 68 | 1,320.7 | 66.146 | 10,407.7 | 845.686 | 7,363.760 |
| 17 | 33,951 | 167.81 | 594,748 | 5,770.71 | 155,204.91 | 69 | 1,193.2 | 64.378 | 9,087.0 | 779.540 | 6,518.074 |
| 18 | 32,171 | 179.29 | 560,797 | 5,602.90 | 149,434.20 | 70 | 1,073.6 | 62.435 | 7,893.8 | 715.162 | 5,738.534 |
| 19 | 30,464 | 185.82 | 528,626 | 5,423.61 | 143,831.30 | 71 | 961.57 | 60.226 | 6,820.23 | 652.727 | 5,023.372 |
| 20 | 28,832 | 186.90 | 498,162 | 5,237.79 | 138,407.69 | 72 | 857.04 | 57.824 | 5,858.66 | 592.501 | 4,370.645 |
| 21 | 27,277 | 183.26 | 469,330 | 5,050.89 | 133,169.90 | 73 | 759.80 | 55.153 | 5,001.62 | 534.677 | 3,778.144 |
| 22 | 25,799 | 175.53 | 442,053 | 4,867.63 | 128,119.01 | 74 | 669.81 | 52.238 | 4,241.82 | 479.524 | 3,243.467 |
| 23 | 24,399 | 165.90 | 416,254 | 4,692.10 | 123,251.38 | 75 | 586.97 | 49.272 | 3,572.01 | 427.286 | 2,763.943 |
| 24 | 23,076 | 154.37 | 391,855 | 4,526.20 | 118,559.28 | 76 | 510.93 | 46.206 | 2,985.04 | 378.014 | 2,336.657 |
| 25 | 21,826 | 142.69 | 368,779 | 4,371.83 | 114,033.08 | 77 | 441.52 | 43.003 | 2,474.11 | 331.808 | 1,958.643 |
| 26 | 20,648 | 131.78 | 346,953 | 4,229.14 | 109,661.25 | 78 | 378.54 | 39.697 | 2,032.59 | 288.805 | 1,626.835 |
| 27 | 19,536 | 122.11 | 326,305 | 4,097.36 | 105,432.11 | 79 | 321.79 | 36.359 | 1,654.05 | 249.108 | 1,338.030 |
| 28 | 18,486 | 113.80 | 306,769 | 3,975.25 | 101,334.75 | 80 | 271.00 | 32.973 | 1,332.26 | 212.749 | 1,088.922 |
| 29 | 17,495 | 107.20 | 288,283 | 3,861.45 | 97,359.50 | 81 | 225.92 | 29.602 | 1,061.26 | 179.776 | 876.173 |
| 30 | 16,557 | 101.87 | 270,788 | 3,754.25 | 93,498.05 | 82 | 186.29 | 26.281 | 835.34 | 150.174 | 696.397 |
| 31 | 15,670 | 97.231 | 254,231 | 3,652.379 | 89,743.802 | 83 | 151.78 | 23.072 | 649.05 | 123.893 | 546.223 |
| 32 | 14,829 | 93.626 | 238,561 | 3,555.148 | 86,091.423 | 84 | 122.04 | 19.981 | 497.27 | 100.821 | 422.330 |
| 33 | 14,031 | 90.338 | 223,732 | 3,461.522 | 82,536.275 | 85 | 96.735 | 17.053 | 375.226 | 80.840 | 321.509 |
| 34 | 13,275 | 87.523 | 209,701 | 3,371.184 | 79,074.753 | 86 | 75 491 | 14.345 | 278.491 | 63.787 | 240.669 |
| 35 | 12,557 | 85.301 | 196,426 | 3,283.661 | 75,703.569 | 87 | 57.901 | 11.842 | 203.000 | 49.442 | 176.882 |
| 36 | 11,876 | 83.094 | 183,869 | 3,198.360 | 72,419.908 | 88 | 43.593 | 9.5990 | 145.099 | 37.6001 | 127.440 |
| 37 | 11,229 | 81.224 | 171,993 | 3,115.266 | 69,221.548 | 89 | 32.151 | 7.6309 | 101.566 | 28.0011 | 89.8402 |
| 38 | 10,615 | 79.649 | 160,764 | 3,034.042 | 66,106.282 | 90 | 23.176 | 5.9251 | 69.355 | 20.3702 | 61.8391 |
| 39 | 10,032 | 78.331 | 150,149 | 2,954.393 | 63,072.240 | 91 | 16.292 | 4.4797 | 46.179 | 14.4451 | 41.4689 |
| 40 | 9,478.2 | 76.959 | 140,117.2 | 2,876.062 | 60,117.847 | 92 | 11.145 | 3.3014 | 29.887 | 9.9654 | 27.0238 |
| 41 | 8,951.7 | 75.935 | 130,639.0 | 2,799.103 | 57,241.785 | 93 | 7.3937 | 2.3608 | 18.7422 | 6.6640 | 17.0584 |
| 42 | 8,451.4 | 75.086 | 121,687.3 | 2,723.168 | 54,442.682 | 94 | 4.7388 | 1.6315 | 11.3485 | 4.3032 | 10.3944 |
| 43 | 7,975.6 | 74.385 | 113,235.9 | 2,648.082 | 51,719.514 | 95 | 2.9212 | 1.0800 | 6.6097 | 2.6717 | 6.0912 |
| 44 | 7,523.3 | 73.923 | 105,260.3 | 2,573.697 | 49,071.432 | 96 | 1.7284 | .68575 | 3.6885 | 1.59172 | 3.4195 |
| 45 | 7,093.0 | 73.554 | 97,737.0 | 2,499.774 | 46,497.735 | 97 | .97713 | .42111 | 1.9601 | .90597 | 1.82774 |
| 46 | 6,683.4 | 73.259 | 90,644.0 | 2,426.220 | 43,997.961 | 98 | .51981 | .23737 | .98293 | .48486 | .92177 |
| 47 | 6,293.7 | 73.121 | 83,960.6 | 2,352.961 | 41,571.741 | 99 | .26351 | .13252 | .46312 | .24749 | .43691 |
| 48 | 5,922.6 | 72.924 | 77,666.9 | 2,279.840 | 39,218.780 | 100 | .12166 | .06681 | .19961 | .11497 | .18942 |
| 49 | 5,569.5 | 72.759 | 71,744.3 | 2,206.916 | 36,938.940 | 101 | .050694 | .02828 | .077954 | .04816 | .07445 |
| 50 | 5,233.3 | 72.529 | 66,174.8 | 2,134.157 | 34,732.024 | 102 | .020691 | .01347 | .027260 | .01988 | .02629 |
| 51 | 4,913.3 | 72.399 | 60,941.5 | 2,061.628 | 32,597.867 | 103 | .006569 | .00641 | .006569 | .00641 | .00641 |

## （計算基數表）　商工省日本經驗表　（男子件數）　利率三分五厘

| 年齢 | Dx | Nx | M̄x | 年齢 | 年齢 | Dx | Nx | M̄x | 年齢 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | …… | …… | …… | 0 | 55 | 9,403.8 | 103,950.0 | 5,990.79 | 55 |
| 1 | …… | …… | …… | 1 | 56 | 8,835.9 | 94,546.2 | 5,736.50 | 56 |
| 2 | …… | …… | …… | 2 | 57 | 8,282.6 | 85,710.3 | 5,477.64 | 57 |
| 3 | …… | …… | …… | 3 | 58 | 7,743.9 | 77,427.7 | 5,214.53 | 58 |
| 4 | …… | …… | …… | 4 | 59 | 7,219.6 | 69,683.8 | 4,947.48 | 59 |
| 5 | …… | …… | …… | 5 | 60 | 6,709.7 | 62,464.2 | 4,677.20 | 60 |
| 6 | …… | …… | …… | 6 | 61 | 6,214.9 | 55,754.5 | 4,404.58 | 61 |
| 7 | …… | …… | …… | 7 | 62 | 5,735.5 | 49,539.6 | 4,130.69 | 62 |
| 8 | …… | …… | …… | 8 | 63 | 5,272.6 | 43,804.1 | 3,857.09 | 63 |
| 9 | …… | …… | …… | 9 | 64 | 4,826.7 | 38,531.5 | 3,584.87 | 64 |
| 10 | 70,004 | 1,561,481 | 17,498.33 | 10 | 65 | 4,399.0 | 33,704.8 | 3,315.76 | 65 |
| 11 | 67,459 | 1,491,477 | 17,317.85 | 11 | 66 | 3,989.8 | 28,305.8 | 3,050.82 | 66 |
| 12 | 65,017 | 1,424,018 | 17,154.25 | 12 | 67 | 3,599.6 | 25,316.0 | 2,791.08 | 67 |
| 13 | 62,645 | 1,359,001 | 16,977.97 | 13 | 68 | 3,228.2 | 21,716.4 | 2,537.08 | 68 |
| 14 | 60,319 | 1,296,356 | 16,766.79 | 14 | 69 | 2,875.8 | 18,488.2 | 2,289.68 | 69 |
| 15 | 58,028 | 1,236,037 | 16,511.14 | 15 | 70 | 2,543.3 | 15,612.4 | 2,050.28 | 70 |
| 16 | 55,759 | 1,178,009 | 16,199.60 | 16 | 71 | 2,231.1 | 13,069.1 | 1,820.22 | 71 |
| 17 | 53,512 | 1,122,250 | 15,831.13 | 17 | 72 | 1,940.3 | 10,838.0 | 1,601.10 | 72 |
| 18 | 51,278 | 1,068,738 | 15,399.54 | 18 | 73 | 1,671.4 | 8,897.7 | 1,394.26 | 73 |
| 19 | 49,082 | 1,017,460 | 14,930.16 | 19 | 74 | 1,425.2 | 7,226.3 | 1,201.36 | 74 |
| 20 | 46,956 | 968,378 | 14,455.18 | 20 | 75 | 1,202.3 | 5,801.1 | 1,023.61 | 75 |
| 21 | 44,923 | 921,422 | 14,002.19 | 21 | 76 | 1,002.7 | 4,598.8 | 861.93 | 76 |
| 22 | 42,981 | 876,499 | 13,572.15 | 22 | 77 | 825.40 | 3,596.08 | 716.00 | 77 |
| 23 | 41,137 | 833,518 | 13,175.10 | 23 | 78 | 669.88 | 2,770.68 | 586.18 | 78 |
| 24 | 39,388 | 792,381 | 12,811.08 | 24 | 79 | 535.31 | 2,100.80 | 472.321 | 79 |
| 25 | 37,731 | 752,993 | 12,480.03 | 25 | 80 | 420.61 | 1,565.49 | 374.050 | 80 |
| 26 | 36,158 | 715,262 | 12,178.06 | 26 | 81 | 324.47 | 1,144.88 | 290.709 | 81 |
| 27 | 34,658 | 679,104 | 11,896.35 | 27 | 82 | 245.34 | 820.41 | 221.370 | 82 |
| 28 | 33,227 | 644,446 | 11,632.32 | 28 | 83 | 181.51 | 575.07 | 164.871 | 83 |
| 29 | 31,862 | 611,219 | 11,386.60 | 29 | 84 | 131.12 | 393.56 | 119.858 | 84 |
| 30 | 30,557 | 579,357 | 11,155.35 | 30 | 85 | 92.304 | 262.443 | 84.875 | 85 |
| 31 | 29,308 | 548,800 | 10,936.12 | 31 | 86 | 63.162 | 170.139 | 58.403 | 86 |
| 32 | 28,111 | 519,492 | 10,727.01 | 32 | 87 | 41.915 | 106.977 | 38.960 | 87 |
| 33 | 26,963 | 491,381 | 10,525.30 | 33 | 88 | 26.897 | 65.062 | 25.1226 | 88 |
| 34 | 25,858 | 464,418 | 10,329.47 | 34 | 89 | 16.640 | 38.165 | 15.6136 | 89 |
| 35 | 24,796 | 438,560 | 10,138.12 | 35 | 90 | 9.8927 | 21.5247 | 9.3215 | 90 |
| 36 | 23,772 | 413,764 | 9,950.00 | 36 | 91 | 5.6318 | 11.6320 | 5.3270 | 91 |
| 37 | 22,786 | 389,992 | 6,763.97 | 37 | 92 | 3.0578 | 6.0002 | 2.9021 | 92 |
| 38 | 21,833 | 367,206 | 9,579.00 | 38 | 93 | 1.5769 | 2.9424 | 1.50074 | 93 |
| 39 | 20,913 | 345,373 | 9,394.17 | 39 | 94 | .76893 | 1.36549 | .73302 | 94 |
| 40 | 20,024 | 324,460 | 9,208.65 | 40 | 95 | .35271 | .59656 | .33603 | 95 |
| 41 | 19,163 | 304,436 | 9,021.71 | 41 | 96 | .15135 | .24385 | .143305 | 96 |
| 42 | 18,329 | 285,273 | 8,832.69 | 42 | 97 | .060388 | .092495 | .055977 | 97 |
| 43 | 17,521 | 266,944 | 8,640.79 | 43 | 98 | .022262 | .032107 | .019266 | 98 |
| 44 | 16,736 | 249,423 | 8,445.53 | 44 | 99 | .0075280 | .0098452 | .0050423 | 99 |
| 45 | 15,974 | 232,687 | 8,246.27 | 45 | 100 | .0023172 | .0023172 | | 100 |
| 46 | 15,234 | 216,713 | 8,042.88 | 46 | | | | | |
| 47 | 14,515 | 201,479 | 7,835.06 | 47 | | | | | |
| 48 | 13,815 | 186,964 | 7,622.56 | 48 | | | | | |
| 49 | 13,134 | 173,149 | 7,405.37 | 49 | | | | | |
| 50 | 12,472 | 160,015 | 7,182.95 | 50 | | | | | |
| 51 | 11,826 | 147,543 | 6,955.38 | 51 | | | | | |
| 52 | 11,197 | 135,717 | 6,722.41 | 52 | | | | | |
| 53 | 10,584 | 124,520 | 6,483.85 | 53 | | | | | |
| 54 | 9,986.5 | 113,936.5 | 6,240.02 | 54 | | | | | |





## （計算基數表）　郵便年金表（女子）　利率五分

| 年齢 | Dx | C̄x | Nx | M̄x | R̄x | 年齢 | Dx | C̄x | Nx | M̄x | R̄x |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 100,000 | 9,629.1 | 1,639,511 | 22,476.2 | 294,267.2 | 54 | 4,352.8 | 51.756 | 56,016.6 | 1,727.472 | 29,233.098 |
| 1 | 85,844 | 2,110.4 | 1,539,511 | 12,847.1 | 271,791.0 | 55 | 4,095.0 | 51.826 | 51,663.8 | 1,675.716 | 27,505.626 |
| 2 | 79,697 | 1,416.7 | 1,453,667 | 10,736.7 | 258,943.9 | 56 | 3,849.5 | 52.026 | 47,568.8 | 1,623.890 | 25,829.910 |
| 3 | 74,520 | 882.06 | 1,373,970 | 9,320.00 | 248,207.23 | 57 | 3,615.4 | 52.332 | 43,719.3 | 1,571.864 | 24,206.020 |
| 4 | 70,111 | 559.77 | 1,299,450 | 8,437.94 | 238,887.23 | 58 | 3,392.2 | 52.778 | 40,103.9 | 1,519.532 | 22,634.156 |
| 5 | 66,226 | 366.37 | 1,229,339 | 7,878.17 | 230,449.29 | 59 | 3,179.1 | 53.283 | 36,711.7 | 1,466.754 | 21,114.624 |
| 6 | 62,715 | 255.69 | 1,163,113 | 7,511.80 | 222,571.12 | 60 | 2,975.8 | 53.881 | 33,532.6 | 1,413.471 | 19,647.870 |
| 7 | 59,479 | 195.64 | 1,100,398 | 7,256.11 | 215,059.32 | 61 | 2,781.5 | 54.550 | 30,556.8 | 1,359.590 | 18,234.399 |
| 8 | 56,456 | 162.54 | 1,040,919 | 7,060.47 | 207,803.21 | 62 | 2,595.8 | 55.176 | 27,775.3 | 1,305.040 | 16,874.809 |
| 9 | 53,609 | 143.47 | 984,463 | 6,897.93 | 200,742.74 | 63 | 2,418.4 | 55.799 | 25,179.5 | 1,249.864 | 15,569.769 |
| 10 | 50,916 | 131.25 | 930,854 | 6,754.46 | 193,844.81 | 64 | 2,248.8 | 56.366 | 22,761.1 | 1,194.065 | 14,319.905 |
| 11 | 48,363 | 127.28 | 879,938 | 6,623.21 | 187,090.35 | 65 | 2,086.7 | 56.836 | 20,512.3 | 1,137.699 | 13,125.840 |
| 12 | 45,936 | 132.09 | 831,575 | 6,495.93 | 180,467.14 | 66 | 1,931.9 | 57.249 | 18,425.6 | 1,080.863 | 11,988.141 |
| 13 | 43,620 | 143.40 | 785,639 | 6,363.84 | 173,971.21 | 67 | 1,784.1 | 57.494 | 16,493.7 | 1,023.614 | 10,907.278 |
| 14 | 41,403 | 157.28 | 742,019 | 6,220.44 | 167,607.37 | 68 | 1,643.0 | 57.586 | 14,709.6 | 966.120 | 9,883.664 |
| 15 | 39,278 | 171.39 | 700,616 | 6,063.16 | 161,386.93 | 69 | 1,508.6 | 57.539 | 13,066.6 | 908.534 | 8,917.544 |
| 16 | 37,240 | 184.25 | 661,338 | 5,891.77 | 155,323.77 | 70 | 1,380.6 | 57.270 | 11,558.0 | 850.995 | 8,009.010 |
| 17 | 35,287 | 194.21 | 624,098 | 5,707.52 | 149,432.00 | 71 | 1,259.0 | 56.834 | 10,177.4 | 793.725 | 7,158.015 |
| 18 | 33,417 | 199.97 | 588,811 | 5,513.31 | 143,724.48 | 72 | 1,143.6 | 56.136 | 8,918.4 | 736.891 | 6,364.290 |
| 19 | 31,631 | 200.88 | 555,394 | 5,313.34 | 138,211.17 | 73 | 1,034.4 | 55.208 | 7,774.8 | 680.755 | 5,627.399 |
| 20 | 29,929 | 197.20 | 523,763 | 5,112.46 | 132,897.83 | 74 | 931.25 | 54.059 | 6,740.41 | 625.547 | 4,946.644 |
| 21 | 28,311 | 190.62 | 493,834 | 4,915.26 | 127,785.37 | 75 | 834.18 | 52.440 | 5,809.16 | 571.488 | 4,321.097 |
| 22 | 26,777 | 181.87 | 465,523 | 4,724.64 | 122,870.11 | 76 | 743.28 | 50.611 | 4,974.98 | 519.048 | 3,749.609 |
| 23 | 25,325 | 172.26 | 438,746 | 4,542.77 | 118,145.47 | 77 | 658.50 | 48.543 | 4,231.70 | 468.437 | 3,230.561 |
| 24 | 23,951 | 162.85 | 413,421 | 4,370.51 | 113,602.70 | 78 | 579.79 | 46.320 | 3,573.20 | 419.894 | 2,762.124 |
| 25 | 22,651 | 153.65 | 389,470 | 4,207.66 | 109,232.19 | 79 | 507.00 | 43.867 | 2,993.41 | 373.574 | 2,342.230 |
| 26 | 21,423 | 144.96 | 366,819 | 4,054.01 | 105,024.53 | 80 | 440.06 | 41.265 | 2,486.41 | 329.707 | 1,968.656 |
| 27 | 20,261 | 137.01 | 345,396 | 3,909.05 | 100,970.52 | 81 | 378.84 | 38.475 | 2,046.35 | 288.442 | 1,638.949 |
| 28 | 19,163 | 129.74 | 325,135 | 3,772.04 | 97,061.47 | 82 | 323.27 | 35.535 | 1,667.51 | 249.967 | 1,350.507 |
| 29 | 18,124 | 123.09 | 305,972 | 3,642.30 | 93,289.43 | 83 | 273.22 | 32.550 | 1,344.24 | 214.432 | 1,100.540 |
| 30 | 17,140 | 117.00 | 287,848 | 3,519.21 | 89,647.13 | 84 | 228.45 | 29.477 | 1,071.02 | 181.882 | 886.108 |
| 31 | 16,210 | 111.43 | 270,708 | 3,402.21 | 86,127.92 | 85 | 188.81 | 26.390 | 842.57 | 152.405 | 704.226 |
| 32 | 15,329 | 106.53 | 254,498 | 3,290.78 | 82,725.71 | 86 | 154.07 | 23.326 | 653.76 | 126.015 | 551.821 |
| 33 | 14,496 | 102.04 | 239,169 | 3,184.25 | 79,434.93 | 87 | 123.97 | 20.325 | 499.69 | 102.689 | 425.806 |
| 34 | 13,706 | 98.115 | 224,673 | 3,082.205 | 76,250.677 | 88 | 98.248 | 17.438 | 375.721 | 82.364 | 323.117 |
| 35 | 12,957 | 94.504 | 210,967 | 2,984.090 | 73,168.472 | 89 | 76.553 | 14.716 | 277.473 | 64.926 | 240.753 |
| 36 | 12,248 | 91.015 | 198,010 | 2,889.586 | 70,184.382 | 90 | 58.553 | 12.201 | 200.920 | 50.210 | 175.827 |
| 37 | 11,576 | 87.484 | 185,762 | 2,798.571 | 67,294.796 | 91 | 43.861 | 9.8922 | 142.367 | 38.0092 | 125.6174 |
| 38 | 10,939 | 83.777 | 174,186 | 2,711.087 | 64,496.225 | 92 | 32.121 | 7.8531 | 98.506 | 28.1170 | 87.6082 |
| 39 | 10,337 | 79.933 | 163,247 | 2,627.310 | 61,785.138 | 93 | 22.930 | 6.0691 | 66.385 | 20.2639 | 59.4912 |
| 40 | 9,766.7 | 75.988 | 152,909.8 | 2,547.377 | 59,157.828 | 94 | 15.918 | 4.5661 | 43.455 | 14.1948 | 39.2273 |
| 41 | 9,227.4 | 71.841 | 143,143.1 | 2,471.389 | 56,610.451 | 95 | 10.705 | 3.3254 | 27.537 | 9.6287 | 25.0325 |
| 42 | 8,718.0 | 67.791 | 133,915.7 | 2,399.548 | 54,139.062 | 96 | 6.9507 | 2.3370 | 16.8318 | 6.3033 | 15.4038 |
| 43 | 8,236.6 | 63.844 | 125,197.7 | 2,331.757 | 51,739.514 | 97 | 4.3399 | 1.5813 | 9.8811 | 3.9663 | 9.1005 |
| 44 | 7,782.1 | 60.462 | 116,961.1 | 2,267.913 | 49,407.757 | 98 | 2.5907 | 1.0231 | 5.5412 | 2.3850 | 5.1342 |
| 45 | 7,352.6 | 57.692 | 109,179.0 | 2,207.451 | 47,139.844 | 99 | 1.4692 | .63140 | 2.9505 | 1.36192 | 2.74920 |
| 46 | 6,946.2 | 55.565 | 101,826.4 | 2,149.759 | 44,932.393 | 100 | .78321 | .36373 | 1.48130 | .73052 | 1.38728 |
| 47 | 6,561.2 | 54.003 | 94,880.2 | 2,094.194 | 42,782.634 | 101 | .39107 | .19796 | .69809 | .36679 | .65676 |
| 48 | 6,196.1 | 52.933 | 88,319.0 | 2,040.191 | 40,688.440 | 102 | .17932 | .094262 | .30702 | .168829 | .289966 |
| 49 | 5,849.4 | 52.379 | 82,122.9 | 1,987.258 | 38,648.249 | 103 | .078828 | .044891 | .127698 | .074567 | .121137 |
| 50 | 5,519.8 | 52.013 | 76,273.5 | 1,934.879 | 36,660.991 | 104 | .031280 | .018321 | .048870 | .029676 | .046570 |
| 51 | 5,206.1 | 51.887 | 70,753.7 | 1,882.866 | 34,726.112 | 105 | .011916 | .005816 | .017590 | .011355 | .016894 |
| 52 | 4,907.6 | 51.810 | 65,547.6 | 1,830.979 | 32,843.246 | 106 | .005674 | .005539 | .005674 | .005539 | .005539 |
| 53 | 4,623.4 | 51.697 | 60,640.0 | 1,779.169 | 31,012.267 | | | | | | |

## （計算基數表）商工省日本經驗表（男子金額）利率三分五厘

| 年齡 | Dx | Nx | M̄x | 年齡 | 年齡 | Dx | Nx | M̄x | 年齡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | …… | …… | …… | 0 | 55 | 9,422.4 | 105,419.1 | 5,959.12 | 55 |
| 1 | …… | …… | …… | 1 | 56 | 8,858.5 | 95,996.7 | 5,709.57 | 56 |
| 2 | …… | …… | …… | 2 | 57 | 8,307.8 | 87,138.2 | 5,454.14 | 57 |
| 3 | …… | …… | …… | 3 | 58 | 7,770.6 | 78,830.4 | 5,193.38 | 58 |
| 4 | …… | …… | …… | 4 | 59 | 7,247.4 | 71,059.8 | 4,928.47 | 59 |
| 5 | …… | …… | …… | 5 | 60 | 6,738.7 | 63,812.4 | 4,660.25 | 60 |
| 6 | …… | …… | …… | 6 | 61 | 6,245.8 | 57,073.7 | 4,390.62 | 61 |
| 7 | …… | …… | …… | 7 | 62 | 5,769.7 | 50,827.9 | 4,121.19 | 62 |
| 8 | …… | …… | …… | 8 | 63 | 5,312.1 | 45,058.2 | 3,854.12 | 63 |
| 9 | …… | …… | …… | 9 | 64 | 4,873.8 | 39,746.1 | 3,591.01 | 64 |
| 10 | 69,171 | 1,548,590 | 17,094.44 | 10 | 65 | 4,455.4 | 34,872.3 | 3,332.99 | 65 |
| 11 | 66,641 | 1,479,419 | 16,900.72 | 11 | 66 | 4,056.0 | 30,416.9 | 3,079.92 | 66 |
| 12 | 64,222 | 1,412,778 | 16,732.40 | 12 | 67 | 3,674.4 | 26,360.9 | 2,831.24 | 67 |
| 13 | 61,875 | 1,348,556 | 16,554.16 | 13 | 68 | 3,308.9 | 22,686.5 | 2,585.78 | 68 |
| 14 | 59,575 | 1,286,681 | 16,342.36 | 14 | 69 | 2,958.5 | 19,377.6 | 2,343.12 | 69 |
| 15 | 57,312 | 1,227,106 | 16,090.35 | 15 | 70 | 2,625.8 | 16,419.1 | 2,106.47 | 70 |
| 16 | 55,066 | 1,169,794 | 15,776.46 | 16 | 71 | 2,313.0 | 13,793.3 | 1,878.62 | 71 |
| 17 | 52,844 | 1,114,728 | 15,410.26 | 17 | 72 | 2,020.6 | 11,480.3 | 1,660.70 | 72 |
| 18 | 50,639 | 1,061,884 | 14,985.79 | 18 | 73 | 1,749.2 | 9,459.7 | 1,454.11 | 73 |
| 19 | 48,477 | 1,011,245 | 14,528.58 | 19 | 74 | 1,499.3 | 7,710.5 | 1,260.09 | 74 |
| 20 | 46,380 | 962,768 | 14,062.29 | 20 | 75 | 1,271.2 | 6,211.2 | 1,079.57 | 75 |
| 21 | 44,374 | 916,388 | 13,617.69 | 21 | 76 | 1,065.0 | 4,940.0 | 913.49 | 76 |
| 22 | 42,458 | 872,014 | 13,194.81 | 22 | 77 | 880.71 | 3,875.01 | 762.67 | 77 |
| 23 | 40,647 | 829,556 | 12.813.44 | 23 | 78 | 717.94 | 2,994.30 | 627.38 | 78 |
| 24 | 38,934 | 788,909 | 12,468.13 | 24 | 79 | 576.18 | 2,276.36 | 507.86 | 79 |
| 25 | 37,308 | 749,975 | 12,153.87 | 25 | 80 | 454.56 | 1,700.18 | 403.950 | 80 |
| 26 | 35,762 | 712,667 | 11,864.38 | 26 | 81 | 351.95 | 1,245.62 | 315 197 | 81 |
| 27 | 34,289 | 676,905 | 11,596.74 | 27 | 82 | 266.96 | 893.67 | 240.842 | 82 |
| 28 | 32,887 | 642,616 | 11,349.41 | 28 | 83 | 197.99 | 626.71 | 179.859 | 83 |
| 29 | 31,549 | 609,729 | 11,119.82 | 29 | 84 | 143.27 | 428.72 | 131.000 | 84 |
| 30 | 30,270 | 578,180 | 10,903.79 | 30 | 85 | 100.91 | 285.45 | 92.842 | 85 |
| 31 | 29,045 | 547,910 | 10,699.27 | 31 | 86 | 69.016 | 184.538 | 63.862 | 86 |
| 32 | 27,871 | 518,865 | 10,503.70 | 32 | 87 | 45.698 | 115.522 | 42.514 | 87 |
| 33 | 26,742 | 490,994 | 10,314.41 | 33 | 88 | 29.207 | 69.824 | 27.309 | 88 |
| 34 | 25,657 | 464,252 | 10,130,58 | 34 | 89 | 17.958 | 40.617 | 16.8705 | 89 |
| 35 | 24,613 | 438,595 | 9,950.52 | 35 | 90 | 10.583 | 22.659 | 9.9853 | 90 |
| 36 | 23,606 | 413,982 | 9,773.31 | 36 | 91 | 5.9538 | 12.0760 | 5.6400 | 91 |
| 37 | 22,635 | 390,376 | 9,597.82 | 37 | 92 | 3.1835 | 6.1222 | 3.0264 | 92 |
| 38 | 21,699 | 367,741 | 9,423.58 | 38 | 93 | 1.6100 | 2.9387 | 1.53518 | 93 |
| 39 | 20,793 | 346,042 | 9,248.85 | 39 | 94 | .76613 | 1.32873 | .73202 | 94 |
| 40 | 19,917 | 325,249 | 9,073.09 | 40 | 95 | .34102 | .56260 | .32589 | 95 |
| 41 | 19,069 | 305,332 | 8,895.33 | 41 | 96 | .14111 | .22158 | .134245 | 96 |
| 42 | 18,246 | 286,263 | 8,713.99 | 42 | 97 | .053898 | .080471 | .050377 | 97 |
| 43 | 17,447 | 268,017 | 8,528.82 | 43 | 98 | .018860 | .026573 | .016586 | 98 |
| 44 | 16,670 | 250,570 | 8,339.16 | 44 | 99 | .0059964 | .0077129 | .0041479 | 99 |
| 45 | 15,915 | 233,900 | 8,144.45 | 45 | 100 | .0017165 | .0017165 | | 100 |
| 46 | 15,181 | 217,985 | 7,945.24 | 46 | | | | | |
| 47 | 14,468 | 202,804 | 7,741.66 | 47 | | | | | |
| 48 | 13,775 | 188,336 | 7,534.23 | 48 | | | | | |
| 49 | 13,101 | 174,561 | 7,323.26 | 49 | | | | | |
| 50 | 12,448 | 161,460 | 7,108.86 | 50 | | | | | |
| 51 | 11,812 | 149,012 | 6,890.44 | 51 | | | | | |
| 52 | 11,193 | 137,200 | 6,667.00 | 52 | | | | | |
| 53 | 10,589 | 126,007 | 6,437.80 | 53 | | | | | |
| 54 | 9,999.2 | 115,418.3 | 6,201.91 | 54 | | | | | |





## （計算基數表）商工省日本經驗表（男子件數）利率四分

| 年齡 | Dx | Nx | M̄x | 年齡 | 年齡 | Dx | Nx | M̄x | 年齡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | …… | …… | …… | 0 | 55 | 7,214 2 | 76,929.0 | 4,339.69 | 55 |
| 1 | …… | …… | …… | 1 | 56 | 6,745.9 | 69,714.8 | 4,145.08 | 56 |
| 2 | …… | …… | …… | 2 | 57 | 6,293.2 | 62,968.9 | 3,947.92 | 57 |
| 3 | …… | …… | …… | 3 | 58 | 5,855.5 | 56,675.7 | 3,748.49 | 58 |
| 4 | …… | …… | …… | 4 | 59 | 5,432.8 | 50,820.2 | 3,547.05 | 59 |
| 5 | …… | …… | …… | 5 | 60 | 5,024.9 | 45,387.4 | 3,344.15 | 60 |
| 6 | …… | …… | …… | 6 | 61 | 4,631.6 | 40,362.5 | 3,140.46 | 61 |
| 7 | …… | …… | …… | 7 | 62 | 4,254.1 | 35,730.6 | 2,936.84 | 62 |
| 8 | …… | …… | …… | 8 | 63 | 3,891.9 | 31,476.5 | 2,734.40 | 63 |
| 9 | …… | …… | …… | 9 | 64 | 3,545.7 | 27,584.6 | 2,533.94 | 64 |
| 10 | 66,710 | 1,370,091 | 14,291.72 | 10 | 65 | 3,215.9 | 24,038.9 | 2,336.73 | 65 |
| 11 | 63,976 | 1,303,381 | 14,120.15 | 11 | 66 | 2,902.8 | 20,823.0 | 2,143.51 | 66 |
| 12 | 61,364 | 1,239,405 | 13,965.37 | 12 | 67 | 2,606.3 | 17,920.2 | 1,954.99 | 67 |
| 13 | 58,841 | 1,178,041 | 13,799.39 | 13 | 68 | 2,326.1 | 15,313.9 | 1,771.53 | 68 |
| 14 | 56,384 | 1,119,200 | 13,601.52 | 14 | 69 | 2,062.3 | 12,987.8 | 1,593.69 | 69 |
| 15 | 53,981 | 1,062,816 | 13,363.12 | 15 | 70 | 1,815.0 | 10,925.5 | 1,422.43 | 70 |
| 16 | 51,621 | 1,008,835 | 13,074.00 | 16 | 71 | 1,584.6 | 9,110.5 | 1,258.64 | 71 |
| 17 | 49,302 | 957,214 | 12,733.70 | 17 | 72 | 1,371.4 | 7,525.9 | 1,103.39 | 72 |
| 18 | 47,017 | 907,912 | 12,337.02 | 18 | 73 | 1,175.7 | 6,154.5 | 957.55 | 73 |
| 19 | 44,788 | 860,895 | 11,907.67 | 19 | 74 | 997.72 | 4,978.80 | 822.19 | 74 |
| 20 | 42,641 | 816,107 | 11,475.29 | 20 | 75 | 837.62 | 3,981.08 | 698.06 | 75 |
| 21 | 40,599 | 773,466 | 11,064.91 | 21 | 76 | 695.22 | 3,143.46 | 585.69 | 76 |
| 22 | 38,657 | 732,867 | 10,677.20 | 22 | 77 | 569.51 | 2,448.24 | 484.763 | 77 |
| 23 | 36,821 | 694,210 | 10,320.95 | 23 | 78 | 459 99 | 1,878.73 | 395.406 | 78 |
| 24 | 35,086 | 657,389 | 9,995.91 | 24 | 79 | 365.81 | 1,418.74 | 317.409 | 79 |
| 25 | 33,448 | 622,303 | 9,701.73 | 25 | 80 | 286.05 | 1,052.93 | 250.415 | 80 |
| 26 | 31,900 | 588,855 | 9,434.68 | 26 | 81 | 219.60 | 766.88 | 193.873 | 81 |
| 27 | 30,430 | 556,955 | 9,186.75 | 27 | 82 | 165.25 | 547.28 | 147.057 | 82 |
| 28 | 29,033 | 526,525 | 8,955.49 | 28 | 83 | 121.67 | 382.03 | 109.093 | 83 |
| 29 | 27,706 | 497,492 | 8,741.30 | 29 | 84 | 87.473 | 260.359 | 78.992 | 84 |
| 30 | 26,444 | 469,786 | 8,540.70 | 30 | 85 | 61.280 | 172.886 | 55.711 | 85 |
| 31 | 25,241 | 443,342 | 8,351.44 | 31 | 86 | 41.731 | 111.606 | 38.179 | 86 |
| 32 | 24,094 | 418,101 | 8,171.79 | 32 | 87 | 27.560 | 69.875 | 25.3637 | 87 |
| 33 | 22,998 | 394,007 | 7,999.32 | 33 | 88 | 17.600 | 42.315 | 16.2875 | 88 |
| 34 | 21,950 | 371,009 | 7,832.68 | 34 | 89 | 10.836 | 24.715 | 10.0802 | 89 |
| 35 | 20,947 | 349,059 | 7,670.64 | 35 | 90 | 6.4113 | 13.8787 | 5.9925 | 90 |
| 36 | 19,986 | 328,112 | 7,512.10 | 36 | 91 | 3.6323 | 7.4674 | 3.4099 | 91 |
| 37 | 19,064 | 308,126 | 7,356.07 | 37 | 92 | 1.9627 | 3.8351 | 1.84973 | 92 |
| 38 | 18.180 | 289,062 | 7,201.68 | 38 | 93 | 1.0073 | 1.8724 | .95238 | 93 |
| 39 | 17,330 | 270,882 | 7,048.15 | 39 | 94 | .48882 | .86507 | .46316 | 94 |
| 40 | 16,513 | 253,552 | 6,894.79 | 40 | 95 | .22314 | .37625 | .21140 | 95 |
| 41 | 15,727 | 237,039 | 6,740.99 | 41 | 96 | .095289 | .153112 | .089768 | 96 |
| 42 | 14,970 | 221,312 | 6,586.24 | 42 | 97 | .037838 | .057823 | .034917 | 97 |
| 43 | 14,241 | 206,342 | 6,429.88 | 43 | 98 | .013882 | .019985 | .0119697 | 98 |
| 44 | 13,538 | 192,101 | 6,271.55 | 44 | 99 | .0046717 | .0061028 | .0031216 | 99 |
| 45 | 12,860 | 178,563 | 6,110.75 | 45 | 100 | .0014311 | .0014311 | | 100 |
| 46 | 12,205 | 165,703 | 5,947.41 | 46 | | | | | |
| 47 | 11,573 | 153,498 | 5,781.31 | 47 | | | | | |
| 48 | 10,962 | 141,925 | 5,612.29 | 48 | | | | | |
| 49 | 10,372 | 130,963 | 5,440.37 | 49 | | | | | |
| 50 | 9,801.1 | 120,591.0 | 5,265.16 | 50 | | | | | |
| 51 | 9,249.1 | 110,789.9 | 5,086.75 | 51 | | | | | |
| 52 | 8,715.2 | 101,540.8 | 4,904.99 | 52 | | | | | |
| 53 | 8,198.3 | 92,825.6 | 4,719.76 | 53 | | | | | |
| 54 | 7,698.3 | 84,627.3 | 4,531.35 | 54 | | | | | |

附錄

（一）文獻目錄
（二）年表
（三）索引

# 文獻目錄に就て

㊀ 單行本は生命保險を主題とするものに限つて採つた。併し初期の刊行物においては、さうでない著書でも、そのうちに相當な紙面を貰し且つ相當な重要さを以て生命保險に關し記述せるものを採つた。明治十年の『百工儉約訓』同十三年の『理財雜錄』がそれの例である。

けれども、保險史の初期に重要な地位を占めるところの泰西保險制度の紹介、たとへば從來の學者が我國最初の保險文獻として擧げるところの、慶應三年福澤諭吉著『西洋旅案內』の如きは全て除いた。從つて我々の研究によつて『本紀』に遡べた福澤の著書以前の『海國圖志』の飜刻本其の他をも採らなかつた。その譯は、斷片的で、保險の全貌を傳へるものではないからである。

だが『西洋旅案內』や『海國圖志』其他保險に就て一二行或は數行しか書いてないものでも、初期の保險史文獻上見逃がしてならぬものは、すべて此の書の本紀の前史のうちに擧げておいた。

次に十七年の『ロエスレル商法草案』や、二十五年の『東京商業會議所調商法及商法施行條例修正案』や、また三十一年の『商法修正案理由書』（これは飜刻名で原名は商法修正案參考書）を揭げたのは、そのうちに保險法に關するものがあり、而もそれが極めて重要な文獻だからである。

なほ文獻目錄の作製に就ていへば、著名な各圖書館、文庫の圖書目錄を主臺とし、それに當編纂所のコレクション（時報社及び編纂同人のコレクションを加へ、且つ我々の讀書によつて、保險文獻として取扱ふべきものを加へたのである。『百工儉約訓』の如き、また『理財雜錄』の如きがそれで、これらは標題だけで分類しては保險文獻に入らぬものである。實際是等の書はその標題に鉤いされて、從來保險書から取除かれてゐたものである。この文獻目錄も全く現在まで手のつかない仕事であつたから、なほ多少の遺漏あるにせよ、滿足してよからう。

但し官廳其他の非賣品『以印刷換謄寫』などいふ文獻は相當數量拔けてゐやう。特にその關東大震災以前のものに於て然りであらう。

それから生命保險關係のもので本目錄から拔いた文書は、各保險會社の規則書、保險案內、營業報告の類である。

㊁ 雜誌新聞論題は、天野敬太郎編『法政・經濟・社會・論文總覽』、神戸商科大學研究室編『經濟法律文獻目錄』及び生命保險會社協會編『文獻目錄』並に保險銀行時報の『索引』を土臺とし、それに我々編纂同人の調査によつたものを附加へた、そのため、天野著『論文總覽』では明治十八年の文獻までしか遡れないのだが、我々の目錄に於ては明治二年まで遡り得た。我々は主要新聞はいづれもその初號から檢出し、雜誌もまたさうした。

爰にも脫漏はあらうが、初期の文獻にあつてはこれ以上は不可能に近からうと思ふ。また脫漏と思はれるものでも、本書の『本紀』を見れば、脫漏でないと肯かれるものもある筈である。

なほ保險醫學に關する專門雜誌の論文は全く最初から手をつけなかつたが、本書『補論』に寄稿された渡邊博士の『保險醫學の史的研究』の最後にある同氏編二頁の文獻目錄は、恐らく我々の缺を補ふてあまりあるものであらう。も一つ本邦發行の初期の外字新聞雜誌をも檢出したが、それは『本紀』の史料としてであるのと、紙面の節約のために爰には省いた。





## 商工省日本經驗表（計算基數表）（男子金額）利率四分

| 年齡 | Dx | Nx | Mx | 年齡 | 年齡 | Dx | Nx | Mx | 年齡 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | …… | …… | …… | 0 | 55 | 7,228.5 | 77,977.1 | 4,313.11 | 55 |
| 1 | …… | …… | …… | 1 | 56 | 6,763.2 | 70,748.6 | 4,122.13 | 56 |
| 2 | …… | …… | …… | 2 | 57 | 6,312.3 | 63,985.4 | 3,927.59 | 57 |
| 3 | …… | …… | …… | 3 | 58 | 5,875.7 | 57,673.1 | 3,729.94 | 58 |
| 4 | …… | …… | …… | 4 | 59 | 5,453.8 | 51,797.4 | 3,530.11 | 59 |
| 5 | …… | …… | …… | 5 | 60 | 5,046.6 | 46,343.6 | 3,328.76 | 60 |
| 6 | …… | …… | …… | 6 | 61 | 4,654.9 | 41,297.0 | 3,127.32 | 61 |
| 7 | …… | …… | …… | 7 | 62 | 4,279.5 | 36,642.1 | 2,927.00 | 62 |
| 8 | …… | …… | …… | 8 | 63 | 3,921.1 | 32,362.6 | 2,729.38 | 63 |
| 9 | …… | …… | …… | 9 | 64 | 3,580.3 | 28,441.5 | 2,535.64 | 64 |
| 10 | 65,916 | 1,358,161 | 13,949.96 | 10 | 65 | 3,257.2 | 24,861.2 | 2,346.56 | 65 |
| 11 | 63,200 | 1,292,245 | 13,765.80 | 11 | 66 | 2,950.9 | 21,604.0 | 2,161.99 | 66 |
| 12 | 60,613 | 1,229,045 | 13,606.56 | 12 | 67 | 2,660.5 | 18,653.1 | 1,981.50 | 67 |
| 13 | 58,118 | 1,168,432 | 13,438.74 | 13 | 68 | 2,384.3 | 15,992.6 | 1,804.20 | 68 |
| 14 | 55,688 | 1,110,314 | 13,240.28 | 14 | 69 | 2,121.5 | 13,608.3 | 1,629.77 | 69 |
| 15 | 53,315 | 1,054,626 | 13,005.28 | 15 | 70 | 1,873.9 | 11,486.8 | 1,460.48 | 70 |
| 16 | 50,979 | 1,001,311 | 12,713.98 | 16 | 71 | 1,642.8 | 9,612.9 | 1,298.26 | 71 |
| 17 | 48,687 | 950,332 | 12,375.77 | 17 | 72 | 1,428.2 | 7,970.1 | 1,143.86 | 72 |
| 18 | 46,432 | 901,645 | 11,985.63 | 18 | 73 | 1,230.4 | 6,541.9 | 998.19 | 73 |
| 19 | 44,236 | 855,213 | 11,537.42 | 19 | 74 | 1,049.6 | 5,311.5 | 862.04 | 74 |
| 20 | 42,118 | 810,977 | 11,142.95 | 20 | 75 | 885.60 | 4,261.86 | 735.97 | 75 |
| 21 | 40,103 | 768,859 | 10,740.18 | 21 | 76 | 738.36 | 3,376.26 | 620.55 | 76 |
| 22 | 38,187 | 728,756 | 10,358.92 | 22 | 77 | 607.68 | 2,637.90 | 516.241 | 77 |
| 23 | 36,383 | 690,569 | 10,016.74 | 23 | 78 | 492.99 | 2,030.22 | 423.118 | 78 |
| 24 | 34,681 | 654,186 | 9,708.41 | 24 | 79 | 393.74 | 1,537.23 | 341.242 | 79 |
| 25 | 33,073 | 619,505 | 9,429.15 | 25 | 80 | 309.14 | 1,143.49 | 270.404 | 80 |
| 26 | 31,550 | 586,432 | 9,173.14 | 26 | 81 | 238.20 | 834.35 | 210.190 | 81 |
| 27 | 30,106 | 554,882 | 8,937.59 | 27 | 82 | 179.81 | 596.15 | 159.987 | 82 |
| 28 | 28,735 | 524,776 | 8,720.96 | 28 | 83 | 132.71 | 416.34 | 119.011 | 83 |
| 29 | 27,434 | 496,041 | 8,520.84 | 29 | 84 | 95.572 | 283.632 | 86.339 | 84 |
| 30 | 26,195 | 468,607 | 8,333.44 | 30 | 85 | 66.996 | 188.060 | 60.945 | 85 |
| 31 | 25,014 | 442,412 | 8,156.88 | 31 | 86 | 45.599 | 121.064 | 41.752 | 86 |
| 32 | 23,888 | 417,398 | 7,988.85 | 32 | 87 | 30.047 | 75.465 | 27.6811 | 87 |
| 33 | 22,810 | 393,510 | 7,827.01 | 33 | 88 | 19.112 | 45.418 | 17.7078 | 88 |
| 34 | 21,779 | 370,700 | 7,670.59 | 34 | 89 | 11.694 | 26.306 | 10.8931 | 89 |
| 35 | 20,792 | 348,921 | 7,518.11 | 35 | 90 | 6.8586 | 14.6124 | 6.4202 | 90 |
| 36 | 19,846 | 328,129 | 7,368.76 | 36 | 91 | 3.8400 | 7.7538 | 3.6109 | 91 |
| 37 | 18,938 | 308,283 | 7,221.57 | 37 | 92 | 2.0434 | 3.9138 | 1.92928 | 92 |
| 38 | 18,067 | 289,345 | 7,076.14 | 38 | 93 | 1.0285 | 1.8704 | .97443 | 93 |
| 39 | 17,230 | 271,278 | 6,931.00 | 39 | 94 | .48704 | .84195 | .46262 | 94 |
| 40 | 16,425 | 254,048 | 6,785.71 | 40 | 95 | .21575 | .35491 | .20506 | 95 |
| 41 | 15,650 | 237,623 | 6,639.47 | 41 | 96 | .088843 | .139157 | .084104 | 96 |
| 42 | 14,902 | 221,973 | 6,491.00 | 42 | 97 | .033772 | .050314 | .031427 | 97 |
| 43 | 14,181 | 207,071 | 6,340.12 | 43 | 98 | .011761 | .016542 | .0103052 | 98 |
| 44 | 13,485 | 192,890 | 6,186.33 | 44 | 99 | .0037212 | .0047813 | .0025679 | 99 |
| 45 | 12,812 | 179,405 | 6,029.20 | 45 | 100 | .0010601 | .0010601 | | 100 |
| 46 | 12,163 | 166,593 | 5,869.22 | 46 | | | | | |
| 47 | 11,535 | 154,430 | 5,706.51 | 47 | | | | | |
| 48 | 10,930 | 142,895 | 5,541.52 | 48 | | | | | |
| 49 | 10,346 | 131,965 | 5,374.52 | 49 | | | | | |
| 50 | 9,782.2 | 121,619.4 | 5,205.62 | 50 | | | | | |
| 51 | 9,238.1 | 111,837.2 | 5,034.39 | 51 | | | | | |
| 52 | 8,711.8 | 102,599.1 | 4,860.06 | 52 | | | | | |
| 53 | 8,202.2 | 93,887.3 | 4,682.10 | 53 | | | | | |
| 54 | 7,708.0 | 85,685.1 | 4,499.82 | 54 | | | | | |

# 生命保險文獻目錄

(本書の一節に初めて保險を紹介す)

## 其の一 單行本之部

**明治六年**
丸屋商社死亡請合規則 (丸屋商社)

**明治九年**
(百科全書) 百工倹約訓 (高橋達郎譯 文部省刊行)

**明治十年**
(百科全書) 人口救窮及保險 (永田健介譯 文部省刊行)

**明治十三年**
保險要書 (英國ペチット著 佐藤茂一譯)
理財雜錄 (森下岩楠編)

**明治十四年**
生命保險(いのちのうけあい) (明治生命編)

**明治十五年**
保險論 (米アモスデーン原著 松本遜、千田鈞合譯)

**明治十七年**
ロエスレル商法草案 (司法省編)

**明治二十二年**
生命保險論 (藤澤利喜太郎著)

**明治二十五年**
商法及商法施行條例修正案 (東京商業會議所調)

**明治二十六年**
非射利主義生命保險會社ノ設立ヲ望ム (矢野恒太著)
新案生命保險規則 (矢野恒太著)
獨逸帝國疾病保險 (後藤新平著)

**明治二十七年**
(明治生命保險株式會社) 被保人體格統計表 (同會社編)
同社女子體格表 (同社編)

**明治二十八年**
生命保險診查醫則 (富士川游著)
保險醫法略說 (富士川游著)

**明治三十年**
生命保險診查醫必携 (獨逸ヘルツフエルド著 百瀨達太郎譯)
理論實際生命保險論 (米國ネーザン・ウィレー著 菊地綾五郎譯)

**明治三十一年**
生命保險診斷學 (山口秀高著)
商法修正案理由書 (博文館鐫刻)
生命保險診查醫心得 (金親雄著)
通俗生命保險問答 (麻生義一郎著)

**明治三十二年**
生命保險會社保險料改正の急を論ず (森村金造著)
生命保險學萬國會議規則萬國共通生命保險學記號 (矢野恒太編)
保險論集 (粟津清亮著)
勞働者強制保險 (窪田靜太郎著)

**明治三十三年**
(參照法文挿入) 保險法規類纂(全) (中井嘉市著)
保險業法施行規則 (矢野恒太君講演)

**明治三十四年**
通俗生命保險論 (岸本玄之助著)
保險法 (和仁貞吉著)

**明治三十五年**
生命保險代理者 (粟津清亮著)
保險醫學 (金親雄著)
保險漫錄 (岩間六郎著)
應用保險計算表、英國十七會社實驗死亡表 (丹勝吾譯)
應用生命保險計算表 (丹勝吾編)
日本商法論(卷三) (志田鉀太郎著)
商行爲論 (青木徹二著)

**明治三十六年**
保險法 (粟津清亮著)
生命保險募集員必携 (兒玉武著)
保險判例集 (志田鉀太郎 粟津清亮編)
日本保險業者大會報告 (田代循編)
保險通論(帝國百科全書第九十九編) (奧村英夫著)
保險の栞 (末廣榮二著)
安心生命保險の栞(附保險業者名鑑)
年金會社設立私義 (渡邊義方稿)

**明治三十七年**
日本生命保險業史 (設樂久著)
商法保險法 (和仁貞吉著)

**明治三十八年**
生死論(一名生命保險の過去及現在) (和蘭スケヴイハーヴエン著 粟津清亮譯)
保險銀行時報第一回統計號 (同社編)

**明治三十九年**
生命保險提要 (惣崎貞夫著)
勞働保險論 (上村耕作著)
保險のすゝめ (清水金陋著)



保險會社一覽(明治卅九年度) (農商務省)
同書拔萃簡略版「撮要保險年鑑」
保險 (石川文吾述)

**明治四十年**
保險銀行時報第二回統計號 (同社編)
同 第三回統計號 (同社編)
重複生命保險の保險料計算に就て (森村金造著)
第二回全國保險業者大會報告 (阿部泰藏編)

**明治四十一年**
簡便生命保險論 (粟津清亮著)
保險官營反對號 (保險銀行時報社編)
簡易生命保險事業論 (村上隆吉著)
獨逸國勞働者保險に關する調查報告 (松本烝治編)
第二十四議會に於ける保險官營顚末號 (保險銀行時報社編)
最近保險法論 (村上隆吉著)
保險銀行時報第四回統計號 (同社編)
保險銀行時報十周年記念號 (同社編)
保險年鑑(明治四十年度) (農商務省保險課編)
保險法令附屬關係法規 (農商務省商工局編)

**明治四十二年**
保險銀行時報第五回統計號 (同社編)
工場法ト勞働保險 (桑田熊藏著)
保險學綱要 (粟津清亮著)
保險法 (佐竹三吾講述)

**明治四十三年**
獨逸社會的保險法綱要 (戸塚巻藏編)
勞働者保險法論 (關一著)
(最近經濟問題第五卷)
日本保險法論 (粟津清亮著)
保險年鑑(明治四十一年度) (農商務省保險課編)
全國保險業者名古屋大會報告 (田代循編)
保險銀行時報第六回統計號 (同社編)
國立保險論 (粟津清亮著)
保險號(實業叢書第一輯) (秋月孫四郎編)
保險年鑑(明治四十二年度) (農商務省保險課編)
生命保險分布圖 (生命保險會社協會編)
保險年報(第一回) (保險新聞社編)

**明治四十四年**
簡易保險資料(二冊) (村上隆吉編)
各國保險法 (郵便貯金局編)
保險總說 (中島好太郎著)
日本三會社生命表(二冊) (海老原介太郎編)
生命保險通解 (ウイリアム、スクーリング著 惣崎貞夫譯)
英國保險會社法 西班牙國保險會社法 瑞西國保險會社法 (農商務省調)
勞働保險論 (森弘元著)
獨逸保險私營法 (農商務省調)
墺太利保險業令 (農商務省調)
保險銀行時報第七回統計號 (同社編)
日本人ノ生命ニ關スル研究 一名日本國民新死亡表(統計局第二表) (矢野恒太調查報告)
佛國保險業法並附屬命令 (農商務省調)
紐育州保險法 (農商務省調)
保險とは何ぞや (小山哲四郎著)
保險年報 (保險新聞社編)

**明治四十五年―大正元年**
保險年鑑(明治四十三年度) (農商務省保險課編)
マサチユウセッツ州保險法 (農商務省調)
獨米國民保險事業論 (オスカル・メーリス著、ホフマン述 郵便貯金局譯)
年金者死亡率ノ研究 (郵便貯金局編)
各國生命保險年金會社約款類纂(第一輯) (郵便貯金局)
改正約款に就て (窪田隆次郎著)
コンネチカット州保險法 (農商務省調)
丁抹保險法 (農商務省調)
瑞典保險業法 (農商務省調)
香港生命保險會社令 (農商務省編)
布哇保險法 (農商務省調)
生命保險數理汎論 (吉澤嘉壽之丞著)
新舊對照改正保險業法 (農商務省編)
勞働保險(社會政策論叢第五冊) (社會政策學會編)
生命保險數學 (關伊右衛門著)
保險事業論 (三浦義道著)
保險講話 (粟津清亮著)
保險銀行時報第八回統計號 (同社編)
保險領域並ニ特別危險割增論 (郵便貯金局編)
生命保險事務取扱順序圖解 (郵便貯金局編)
生命保險會社資產狀態圖 (生命保險會社協會編)
生命保險分布圖 (生命保險會社協會編)
生命保險募集手ほどき (頑洟居士著)

**大正二年**
(參照法文挿入) 改正保險法規類纂(全) (保險銀行時報社編)
保險年鑑(明治四十四年度) (農商務省保險課編)
維新以後帝國統計材料彙纂 (內閣統計局編)
第四輯(明治五年―卅一年)人口動態ニ關スル統計材料

保險總設（再版）（中島好太郎著）
女子保險ノ研究（岩間六郎著）
保險通論（粟津清亮著）
實用生命保險論（惣崎貞夫著）
保險銀行時報第九回統計號（同社編）
生命保險ト火災保險（關伊右衛門・松本高共著）
生命保險論（原島茂著）
保險法（青山衆司著）

## 大正三年

所得數理一名利息算（森村金造著）
生命保險募集虎之卷（岡村又吉著）
第三回全國保險業者大會號（保險銀行時報社編）
保險年鑑（明治四十五年度）（農商務省保險課編）
保險銀行時報第十回統計號（同社編）
歐洲諸國勞働保險一覽表（岡田甲子之助譯）
第三回全國保險業者大會報告（玉木爲三郎編）
生命傷害保險約款集（保險通信社編輯局編）
ポケット生命保險（保險界社編）
保險總覽（ダイヤモンド）（太田雅市編）
保險要錄（大正元・二年度 大正三年度）（二册）（保險と銀行社編）
保險論（宮島綱男著）

## 大正四年

處世ト人世（粟津清亮著）
生命保險代理店の務（黒川壽雄著）
內國保險會社信用錄（第一回）（協立社編）
保險銀行時報第十一回統計號（同社編）
保險法論（水口吉藏著）
保險法論第一卷（村上隆吉著）
保險法（松本烝治著）
保險年鑑（大正二年度）（農商務省保險課編）
矢野恒太君保險關係廿五年記念會報告書（玉木爲三郎編）
通俗生命保險數理（岩間六郎著）
簡易保險官營問題（小山哲四郎著）
保險年鑑（大正三年度內國會社）（農商務省保險課編）
簡易保險獨占官營反對論（簡易保險研究同志會編）
保險約款集（保險通信社編）
簡易保險官營是非論（簡易保險局編）

## 大正五年

本邦ニ於ケル保險ノ起源及其發達ニ就テ（一橋雜誌第一一六號臨時增刊 創立四十周年記念講演集中）（村瀨春雄稿）
官營簡易保險研究號（四册）（保險銀行時報社編）
保險年鑑（大正三年度外國會社）（農商務省保險課編）
保險法論（粟津清亮著）
社會保險論（堀川美哉著）
本邦人の生死に關する統計的批判の概要（內務省衞生局編）
第三十七帝國議會 簡易生命保險法案通過顚末（玉木爲三郎編）
簡易生命保險施行規程號（保險銀行時報社編）
保險銀行時報第十二回統計號（同社編）
死亡生殘表之研究（納賀雅友・大石武共著）
生命保險數理一斑（中村喜代治編）
現行保險法令集（伊東秀壽編）
保險要錄（大正四年度）（保險と銀行社編）
簡易生命保險通解（小野塵一著）
簡易生命保險講演集共三・保險法（松本烝治述）
保險年鑑（大正四年度內國會社）（農商務省保險課編）
獨逸社會的保險の由來（最近社會政策の內）（粟津清亮稿）
官營か民營か 被保險者としての研究（汗鴎生著）
官營民營生命保險撰擇の栞（志田鉀太郎著）
募集員必携被保人撰擇の栞（保險通信社編）
簡易保險獨占官營反對論（簡易保險研究同志會編）
簡易生命保險法令號（保險評論社編）
保險の利益と其研究（山口高商第十周年記念講演集ノ內）（片野實之助稿）
松崎故一郎君遺稿（河原崎萬吉著）
官營保險のうらおもて（水上熊吉）

## 大正六年

簡易生命保險講演集共四・保險學（粟津清亮述）
保險年鑑（大正四年度外國會社）（農商務保險課編）
販賣心理學（米國リンドセー原著 中村西國譯）
保險法（大森洪太著）
獨逸帝國保險法（岡田甲子之助譯）
簡易生命保險事業概況（爲替貯金局編）
保險銀行時報第十三回統計號（同社編）
自明治三十二年至大正二年 結核死亡統計表（保險衞生調査會編）
保險契約論（上卷）（青山衆司著）
生命保險私法（生命保險叢書、第四輯）（久保山武雄著）
獨逸保險法要義（鐵道院總裁官房保健課編）
保險要錄（大正五年度）（保險と銀行社編）
保險年鑑（大正五年度內國會社）（農商務省保險課編）

## 大正七年

爲替貯金局統計年報（大正五年度）（爲替貯金局編）



創業一ケ年間簡易生命保險事業概況（爲替貯金局編）
保險年鑑（大正五年度外國會社）（農商務省保險課編）
生命保險約款釋義（生命保險叢書第二輯）（磯野正登著）
獨逸職員保險法（工場資料第六輯）（農商務省商務局編）
獨逸に於ける海員保險（爲替貯金局編）
保險銀行時報第十四回統計號（同社編）
獨逸勤人保險法（鐵道院總裁官房保險課 岡田甲子之助譯）
生命保險醫學（高田他家雄著）
保險ト經濟（小島昌太郎著）
獨逸簡易生命保險論（獨逸ホルニッヒ原著 三浦義道譯）
生命保險會社協會小史（生命保險會社協會編）
保險年鑑（大正六年度內國會社）（農商務省保險課）
爲替貯金局統計年報（大正六年度）（爲替貯金局編）
强制健康保險の眞相と謬見（爲替貯金局編）
保險申込書ニ現ハレタル醫學的現象（爲替貯金局編）

## 大正八年

「マーネス」教授勞働保險（青木節一・小島精一共譯）
英國國民保險法論（爲替貯金局編）
保險年鑑（大正六年度外國會社）（農商務省編）
全國生命保險業者九州大會々報（九州生命保險協會編）
企業組織と勞働保險（岡本利吉著）
保險研究（第一卷）（瀧谷善一著）
獨逸國勞働保險事業成績（內務省衞生局編）
社會保險辭彙（總論之部）（爲替貯金局編）
全國保險業者北海道大會報告（伊藤毅一編）
職工負傷死亡及工場災害事故狀況（工場資料第十一輯）（農商務省商務局編）
英米國民健康保險法（勞働保險調査資料第三輯）（農商務省商務局編）
短期勞働保險案（並河榮次郎・草野馨共著）
高等利息算（原口亮平著）
保險銀行時報第十五回統計號（同社編）
流行性感冒ノ醫學的並ニ統計的研究（篠原昌治著）
保險契約者の福音（石角春洋著）
社會保險辭彙（各論之部）（爲替貯金局編）
爲替貯金局統計年報（大正七年度）（爲替貯金局編）
簡易生命保險に就て（內田寛一著）
英國養老年金條例（農商務省商務局編）
死亡統計報告（自明治四十一年至大正六年）（和英獨文）（明治生命保險株式會社編）

## 大正九年

保險年鑑（大正七年度內國會社）（農商務省保險課編）
生命保險改造の急を論ず（小笠原專明著）
短期死亡ニ就テ醫學的統計的觀察（爲替貯金局編）
保險年鑑（大正七年度外國會社）（農商務省保險課編）
佛國及外國に於ける社會保險論（內務省衞生局編）
佛國及外國に於ける社會保險談（衞生叢書第九輯）（飯島博著）
改訂保險學綱要（第一册）（粟津清亮著）
瑞西の疾病及災害保險（協調會編）
公營主張私營擁護 生命保險の土台更へ（小笠原專明著）
保險銀行時報第十六回統計號（同社編）
生命保險外務員敎範（木田峰三編）
簡易保險局統計年報（大正八年度）（簡易保險局編）
簡易保險遞信叢書（遞信協會編輯部編）
產業上の年金制度に關する研究（勞働問題研究資料第四十一輯）（鐵道大臣官房保險課編）
爲替貯金恩給國庫金簡易保險（遞信省編）

## 大正十年

保險年鑑（大正八年度內國會社）（農商務省保險課編）
獨逸疾病金庫年鑑（簡易保險局譯）
獨國保險法ニ於ケル災害保險ト疾病保險トノ關係（簡易保險局調査資料三十七輯）（ゼルマン著 簡易保險局譯）
保險年鑑（大正八年度外國會社）（農商務省保險課編）
大正七年日本帝國死因統計記述編（國勢院編）
農事勞働保險事例（農商務省商務局編）
墺國社會保險法要覽（調査資料第三十八輯）（簡易保險局編）
保險銀行時報第十七回統計號（同社編）
勞働保險研究（森莊三郎著）
保險ハ致富ノ道ニ非ズヲ論ズ（岡野先生在職二十五年祝賀商法論文選第一輯別刷）（青山衆司著）
オハイオ州勞働保險法（農商務省編）
和蘭業務災害保險法（農商務省編）
英國國民健康保險法（農商務省編）
マサチユセッツ州勞働者損害賠償法（農商務省編）
紐育州勞働者損害賠償法（農商務省編）
災害醫學（高田義一郎著）
解約價格表（帝國生命保險株式會社編）
簡易保險五周年記念（簡易保險局編）

## 大正十一年

簡易保險局統計年報（大正九年度）（簡易保險局編）

ソビエト露西亞の社會保險（戸川末三譯）
明治生命四十周年記念（明治生命保險株式會社編）
保險年鑑（大正九年度内國外國會社）（農商務省保險課編）
改訂保險學綱要（第二册）（粟津清亮著）
保險法汎論（岩瀬茂夫著）
明治生命の過去と現在（明治生命保險株式會社編）
第四回生命保險業者大會特別號（保險銀行時報社編）
再保險論（近藤榮郎・瀬上弓之輔共著）
老年保護計算法（内田眞著）
大正八年日本帝國人口動態統計記述編（國勢院編纂）
伊太利に於ける國營保險（簡易保險局編）
勸誘精神と保險誘者（細谷進二著）
保險銀行時報第十八回統計號（同社編）
簡易生命保險法規大正十一年九月現行（簡易保險局編）
生命と火災保險の智識（室岡四郎著）
第四回全國保險業者大會報告（伊藤毅一編）
保險年鑑（大正十年度内國會社）（農商務省保險課編）
保險法論（三浦義道著）
健康保險法（農商務省工務局勞働課編）
疾病保險（黒川小六編）

**大正十二年**

簡易保險局統計年報（大正十年度）（簡易保險局編）
保險政策論（野津務著）
新しい生命保險利用法（樋口鐵平著）
生命保險論（原島茂著）
玉木・粟津・志田三氏記念祝賀保險論文集（三浦義道編）
保險調査書（宮城縣警察部衛生課編）
勞働保險論（杉琢磨著）
健康保險法解說（森莊三郎著）
保險年鑑（大正十年度外國會社）（農商務省編）
日本帝國人口動態統計記述編（大正九年度大正十年度）二册（内閣統計局編）
硝子張りの中の人（南雄二著）
改訂保險學綱要（第三册）（粟津清亮著）
商務局長六博士講演速記錄（福徳生命保險株式會社編）
一般保險原理（都築直三著）
健康保險法に就て（三菱合資會社平譯幹編）
簡易生命保險法規（簡易保險局編）
震災と保險（林貞夫著）
保險法講義案（西本辰之助講述）
健康保險法と醫療問題（工場衛生資料第十輯ノ内）（石原修著）

**大正十三年**

保險法輯覽（嚴松堂編輯部編）
簡易保險局統計局年報（大正十一年度）（簡易保險局編）
日本帝國人口動態統計記述編（大正十一年度）（内閣統計局編）
血壓並に血壓に影響を及ぼすものに就て（大同生命保險株式會社編）
生命保險震災實話（織田和勝編）
勞農露國の社會保險（勞農露國調査資料第一編）（イー、エルバエフスキ著 滿鐵調査課露西亞係編）
保險論（末高信著）
生命保險の再保險（寺田喜三郎・本城文吉共譯）
保險學研究（第一號）（森莊三郎著）
保險銀行時報第十九回統計號（同社編）
大日本生命保險大觀（保險講論編輯部編）
保險國營論纂（簡易保險局編）
簡易保險局統計年報（大正十二年度）（簡易保險局編）
保險關係者須知（小山哲四郎著）
保險學（三浦義道著）
保險の社會化（野津務著）
國民對被保險者の結核死亡に就て（保險醫學雜誌第一〇四號拔刷）（石岡繁太郎著）
生命保險會社の代理店（朝義夫著）
保險通論（岩瀬茂夫著）
生命保險會社代理店の功績と其任務（關東日報社編）
告知義務論（三浦義道著）

**大正十四年**

生命保險の話（生命保險會社協會編）
生命保險號（都市公論社編）
保險の見方（長永義正著）
失業保險論（通俗財政經濟大系第十八編）（森田良雄著）
生命保險業者京都大會報告（田中安七編）
日本帝國人口動態統計記述編（大正十二年度）（内閣統計局編）
全國生命保險業者九州大會報（九州生命保險協會編）
生命保險宣傳展覽會記念寫眞帳（日本生命保險株式會社編）
保險銀行時報第二十回統計號（同社編）
保險本質論（小島昌太郎著）
波蘭失業保險法（失業問題調査資料第一五號）（社會局第二部譯）
墺太利失業保險法（失業問題調査資料第一四號）（社會局第二部譯）
英蘭失業保險法（失業問題調査資料第一五號）（社會局第二部譯）
生命保險（石川文吾著）



保險年鑑（大正十一、十二年度内國會社）（農商務省保險課編）
保險經濟概論（末高信著）
安田王國を中心とする共濟生命の歴史と其内容（ポケット保險叢書）
保險銀行時報第二十一回統計號（同社編）
全國保險號（事業之日本社編）
簡易保險局統計年報（大正十三年度）（簡易保險局編）
勞働保險の研究（中島泰著）
素人診斷學（小島憲一郎著）
生命保險募集の實際（附錄募集の體驗）（東敏著）
保險事業より見たる滿洲の現勢（山中岩次郎著）
簡易生命保險創始十周年記念講演集（簡易生命保險周知資料第一輯）（簡易保險局編）
保險寶典（共榮時報社編）
保險國營に關する諸論稿（一）及（二）（寺田四郎編）
生命保險數理教程（中村喜代治著）
保險金の支拂と調査（奥村安基著）
生命保險を附する前に是丈は考へよ（素秋生著）
解約價格表（帝國生命保險株式會社編）
簡易保險の經營に就て（前編無配當保險、後編利益配當付保險）（猪熊貞治編）
簡易生命保險事業概況（爲替貯金局編）
保險號（經濟之日本社編）

**大正十五年―（昭和元年）**

各國保險國營問題の經過と其實例、概況及論稿（井口正一著）
保險料積立金に關する調査報告書（臨時調査會編）
外務教材 第一册 生命保險總論（第一生命保險相互會社編）
社會保險一夕話（産業福利協會編）
村瀬保險全集（村瀬春雄著）
外務教材 第六册 生命保險の種類と其利用（第一生命保險相互會社編）
現代保險問題（森莊三郎著）
外務教材 第七册 新種生命保險（第一生命保險相互會社編）
本邦生命保險事業の現勢（市成乙重著）
遞信法典、簡易保險、郵便年金（通信文庫編纂）
外務教材 第八册 普通生命保險約款（第一生命保險相互會社編）
生命保險時事常識（矢野恒太著）
明治生命の過去と現在 附本邦生命保險略史（明治生命保險株式會社編）
外務教材 第二册 生命保險の學術的基礎（第一生命保險相互會社編）
官民合同生命保險北海道大會報告（土田保之助編）
保險はどこへ（稻見泰治著）
外務教材 第三册 保險料算出の原理（第一生命保險相互會社編）
實務家必携、健康保險手續早わかり（健康保險事務研究會編）
國光生命保險史（國光生命保險相互會社編）
各府縣生命保險契約の現況（太田雅市編）
社會保險概論（森莊三郎著）
健康保險法詳解（熊谷憲一著）
生命保險十七講（粟津清亮著）
通俗生命保險數理の話（中村喜代治著）
生命保險醫學（篠原昌治著）
健康保險講習會速記錄（産業福利協會編）
健康保險法及附屬法註釋（杉山龍著）
國光生命昔がたり（蒲軒岩間六郎著）
保險年鑑（大正十三年度内國會社）（農商務省保險課編）
生命保險觀査の話（川澄誠明著）
生命保險批判號（經濟タイムス社編）
健康保險の話（廣瀬武郎著）
簡易生命保險創始十周年記念講演集（簡易生命保險周知資料第二輯）（簡易保險局編）
保險講論十三年記念特別號（保險講論發行局編）
保險業法要論（南正樹著）
内國三十八生命保險會社事業成績概要（中央生命保險相互會社編）
社會保險研究（森莊三郎著）
大衆普遍と簡易保險（簡易保險局編）
千代田生命内容批判錄（村本信南著）
保險要鑑（各社事業統計）（保險毎日新報社編）
生命保險事業の現勢（保險之日本社編）
創立二十五年記念講演文集（日本アクチュアリー會編）
帝國生命保險會社内容一班（帝國生命保險株式會社編）
大正十四年度各府縣生命保險契約の現況（保險毎日新報社編）
安樂椅子（藤井林造著）
健康保險法と健康保險組合（工業教育會編）
健康保險法講話（中川義次著）
相互保險と相互銀行（矢野恒太稿）
（全國經濟調査機關聯合彙報第廿一號）

**昭和二年**

簡易生命保險論（保田信三郎著）
内國生命保險會社保險料（中外保險新報社編）
簡易保險局統計年報（大正十四年度）（簡易保險局編）
生命保險教材（共濟生命保險株式會社編）
第一册 生命保險の効用
第二册 生命保險の種類

外務教材 第四册 保險料算出の實際 （第一生命保險相互會社編）
藤本保險論叢 （藤本幸太郎著）
保險と人生 （簡易保險局編）
健康保險法規提要 （淺田敬藏著）
生命保險教材 （共濟生命保險株式會社編）
（第三册生命保險の沿革
第四册生命保險の事業主體）
外務教材 （第一生命保險相互會社編）
（第九册簡易生命保險、健康保險、郵便年金）
簡易生命保險積立金運用概說 （簡易保險局編）
愛國生命三十周年記念號 （愛國生命保險株式會社編）
健康保險實務要鑑 （協調會編）
保險學講義案 （志田鉀太郎著）
健康保險關係法規集 （社會局保險部編）
保險年鑑（大正十四年度內國會社） （農商務省保險課編）
生命保險事業の經營 （岩間六郎著）
生命保險教材 （共濟生命保險株式會社編）
（第五册生命保險の保險料）
大日本保險名鑑 （保險每日新報社編）
各府縣生命保險契約の現況 （太田雅市編）
保險年鑑（大正十一年度、十二年度、大正十三年度、十四年度外國會社） （農商務省保險課編）
生命保險展覽會記念寫眞帳附錄 （日本生命保險株式會社 大倉裕純編）
外務教材 （第一生命保險相互會社編）
（第五册責任準備金利益配當）
粟津博士論集（十二册中） （粟津博士論集刊行會編）
(1) 保險論集（卷一）

生命保險教材 （共濟生命保險株式會社編）
（第六册生命保險に於ける諸準備金並に解約價格）
粟津博士論集（十二册中） （粟津博士論集刊行會編）
(6) 生死論
國光叢書第一編 （岩間六郎編）
保險銀行時報第二十三回統計號 （同社編）
生命保險會社の批判（昭和二年版） （東洋經濟新報社編）
生命保險經營論 （森凱雄著）
生命保險讀本 （島田信三著）
粟津博士論集（十二册中） （粟津博士論集刊行會編）
(2) 保險論集（卷二）
(7) {簡易生命保險論
生命保險總論}
歐米保險大觀 （佐久間勝著）
生命保險懸賞論文集 （大同生命保險株式會社編）
簡易保險被保險者福祉施設要覽 （簡易保險局編）
保險數理郵便年金數理 （簡易保險局編）
保險數理 （龜田豊治朗講述）
郵便年金數理通解 （成田弘毅講述）
被保險者福祉施設論（保險パンフレット） （生田武夫著）
生命保險辭典 （簡易保險局編）
財政經濟生命保險講演集 （國崎祐著）
生命保險教材 （共濟生命保險株式會社編）
第七册生命保險に於ける契約の獲得被保險者の選擇
健康保險法規疑義事項解釋 （社會局保險部編）
生命保險（社會政策大系） （矢野恒太稿）
エムデン氏提案弱體保險問題 （生命保險會社協會編）

健康保險組合執務提要 （內務省社會局編）
福德生命十五年史 （前田榮一編）
藤本保險論叢 （藤本幸太郎著）
各府縣生命保險契約の現況（大正十五年度） （保險每日新報社編）
保險論 （共濟生命保險株式會社編 森莊三郎稿）
吾輩の生命保險觀
生命保險思想（保險パンフレット） （淸浦奎吾 志田鉀太郎講演）
保險の法律 （久保山武雄著）
保險論（社會經濟體系第十卷） （日本評論社編）
大正十四年三十八生命保險會社事業成績概要 （中央生命保險相互會社 統計課編）
簡易生命保險創始十周年記念講演集 （簡易保險局編）
（簡易生命保險周知資料第三輯
簡易生命保險周知資料第四輯）
英國國民健康保險醫療給付規則 （內務省社會局保險部編）
（社會保險調査資料）
疾病保險の醫療に就て （社會局保險部編）
（社會保險調査資料）
簡易保險に關する法律勅令及規則草案 （保險評論社編）
生命保險被保險者福祉問題資料 （簡易保險局編）
生命保險懸賞論文集 （日本生命保險株式會社編）
生命保險約款論
廢疾條項通論 （石川文吾、和田一郎、長尾春雄共著）
保險診査醫要覽 （市成乙重著）
生命保險事業に於ける募集者の研究 附改革私案 （神谷吉次著）
民衆保險の智識 （福田秀雄著）
健康保險法詳解 （熊谷憲一著）
附錄 第一健康保險組合規約例說明
第二健康保險法施行令第十一條の書面の例
第三健康保險法



健康保險改正意見並に參考資料 （東京商業會議所編）
ブルガリア社會保險條例 （社會局保險部編）

昭和三年

募集新武器保險信託 （石川忠治著）
生命保險外勤事務個人能率增進法 （林範二著）
國光叢書第二編 （岩間六郎編）
新保險問題號 （財政經濟時報社編）
米國メトロポリタン生命保險會社 （簡易保險局譯）
名古屋保險に於ける二大講演集
淸浦奎吾、志田鉀太郎演 （保險評論社編）
生命保險會社協會二十年史 （生命保險會社協會編）
保險年鑑（昭和元年度內國會社外國會社） （商工省保險部編）
改訂簡易生命保險法要論 （千葉淸七著）
保險銀行時報第二十四回統計號 （同社編）
小兒保險論 （簡易保險局編）
生命保險醫學提要 （大山稻三郎述）
當選映畫筋書 （生命保險會社協會編）
簡易生命保險創始十周年記念講演集 （簡易保險局編）
（簡易生命保險周知資料第五輯）
社會保險論 （石丸優三著）
神戶勞働保險組合事業年報（昭和二年度） （神戶勞働保險組合編）
社會保險論集 （森莊三郎編）
ソヴエート聯邦の單一農業稅及社會保險 （日露協會編）
旅客强制保險論 （松波仁一郎著）
簡易保險被保險者福祉施設要覽 （簡易保險局編）
昭和二年度本邦生命保險會社事業成績概要 （中央生命保險相互會社編）

生命保險代理店讀本 （岩瀨茂夫著）
生命保險教材 （共濟生命保險株式會社編）
第八册生命保險に於ける契約の維持（其の一）
第九册生命保險に於ける契約の維持（其の二）
第十册生命保險に於ける資產運用と利益の配當
日本保險年鑑（昭和三年版） （三浦義道編）
外交界の鬼才渡幸吉 （安藤政治郎著）
最新生命保險勸誘法 （林範二著）
どの會社が安全か生命保險會社興信錄 （二六興信所編）
ソヴエート・ロシアの社會保險 （梅浦健吉著）
簡易保險事業要覽（昭和二年度） （簡易保險局編）
保險申込者診査方法一班 （篠原昌治著）
使はれる人の嘆き （關伊右衛門著）
團體生命保險に就て （藤川博著）
官民合同生命保險北陸大會報告 （生命保險北陸大會編）
泰西生命保險論集（英文） （鈴木太郎編）
昭和二年度生命保險統計年鑑 （村本岱南編）
生命保險實務に就て （松方義雄著）
健康保險法 （小野金藏著）
保險業法（現代法學全集第廿三卷內） （南正樹著）
生命保險の發達と其合理化（保險パンフレット） （矢野恒太講）
死亡表問答 （磯野正登著）
日本保險醫學協會史 （保險醫學協會編）
商行爲及保險法 （岡野敬次郎著）
船員保險法案に對する意見書及參考資料 （日本工業俱樂部調査課編）
保險法論 （三浦義道著）
保險法論 （岩瀨茂夫著）
弱體保險の話 （高田他家雄著）
生命保險の大意 （千代田生命刊行 磯野敬三著）

募集の栞 （千代田生命 磯野敬三著）
外務要覽 （千代田生命 磯野敬三著）
簡易保險局統計年報度（大正十五年 昭和元年） （簡易保險局編）
私經濟保險概論 （末高信著）
外務教材 （第一生命保險相互會社編）
第八册別册附錄改正普通保險約款
第十册被保險者の醫的選擇
保險諮問機關の設置に就て （野口正造著）
生命保險研究（日本生命の卷） （實業時代社編）
創業以來內國生命保險會社決算統計集 （中外保險新報社調査部編）
（第一卷・明治、帝國、日本）
生命保險會社の保險料と利益配當に就て （本城俊明著）
生命保險會社の保險料と利益配當の見方 （本城俊明著）
生命保險經濟學 （ソロモン、エス・ヒブナー著 下村重美譯）
生命保險選擇總覽 （豊國通信社編）
粟津博士論集（十二册中） （粟津博士論集刊行會編）
(3) 保險論集（卷三）
(4) 保險論集（卷四）
(5) 保險論集（卷五）
(8) {日本保險法論
最近保險法}
(9) {國立保險論
獨逸海員寄災保險法}
(10) 保險夢話
(11) 保險通論、保險史、保險學體系
(12) 論集、總索引、刊行委員論文集
健康保險法規類纂 （八木淸一著）

## 昭和四年

第一生命の研究 （實業時代社編）
簡易保險局統計年報（昭和二年度） （簡易保險局編）
保險學要論（現代經濟學全集十九卷） （小島昌太郎著）
生命保險會社の批判（昭和四年版） （東洋經濟新報社編）
保險宵話 （脇坂虎雄著）
生命保險と金融（金融研究會調書第三編） （金融研究會編）
改正増補健康保險法疑義事項解釋 （社會局保險部編）
生命保險統計圖表 （帝國生命保險株式會社編）
簡易生命保險の死亡率に關する調査 （簡易保險局編）
日本保險年鑑（昭和四年版） （三浦義道編）
金融・保險編（現代產業叢書第二卷）（生命保險・矢野恒太） （日本評論社）
現代保險問題 （三浦義道著）
外務教育論（卷一）紳士の典型として外務員
健康保險組合事務取扱規集 （社會局保險部編）
第一生命保險相互會社廿五年史 （第一生命、鈴木敏一、佐久間勝編）
生命保險十七講（增補版） （粟津清亮著）
定期生命保險の一考察（文化講科學論叢の内） （石川文吾稿）
保險經濟の研究 （米谷隆三著）
社會保險（大思想エンサイクロペヂア第十八卷の内） （石丸優三稿）
社會保險概論（社會事業大系第一卷の内） （森荘三郎稿）
保險年鑑（昭和二年度内國會社編） （商工省保險部編）
保險年鑑（昭和三年度内國會社編） （商工省保險部編）
外務能率增進法（附錄）人心觀破の祕訣
府縣別保險契約現況（昭和三年度） （保險每日新報社編）
弱體保險に就て （三浦義道著）

昭和二年度簡易生命保險被保險者福祉施設要覽 （簡易保險局編）
昭和三年度神戸勞働保險組合事業年報 （神戸勞働保險組合編）
血壓測定法に就て （帝國生命保險株式會社醫務課編）
生命保險外務讀本 （清水長久著）
生命保險會社の各府縣別契約狀勢 （中外保險新報社編）
郵便年金の實際 附年金關係法規 （福田秀雄著）
疾病保險論 （熊谷憲一著）
簡易保險最近の發達 （簡易保險局編）
健康保險法 （清水玄著）
昭和三年度本邦生命保險事業成績概要 （中央生命保險相互會社編）
生命保險と佛教（保險パンフレツト） （小林一郎述）
生命保險の再保險（保險パンフレツト） （野坂竹太郎述）
生命保險の高度化（保險パンフレツト） （下村重美述）
世界に於ける禁酒運動と米國生命保險界に於ける酒精中毒死亡率（保險パンフレツト） （寺田四郎述）
利益配當付保險に就て （保險講習會編）
新日本建設と生命保險の大使命 （野口萬三甫著）
生命保險經營概論 （三上勝著）
保險業界重役業者論 （保險興信社編）
改訂生命保險約款集 （中外保險新報社）
保險銀行時報秋季特輯朝鮮號 （同社編）
創業四十年間の吾社の發展 （日本生命保險株式會社編）
生命保險統計圖表 （帝國生命保險株式會社編）
募集理論 （明治生命保險株式會社編）
生命保險詐僞論 （安藤政治郎著）
海外保險事情（保險パンフレツト） （生田武夫述）
歐米諸國の保險政策（保險パンフレツト） （石井讓述）

生命保險外務要訣 （中村喜代治著）
生命保險の話（保險會社の選み方） （東京パンフレツト通信社編）
廢疾生命保險に就て （藤川博著）
簡易生命保險の死亡率に關する調査 （簡易保險局編）
生命保險數學 （中村彌藏、中椿一郎共著）
我が國に於ける生命保險料率の新傾向に就て （角尾猛治郎著）
官民合同中京生命保險大會報告 （丹治太治郎編）
新築記念「仁壽生命紀念」 （仁壽生命保險株式會社編）
生保外勤生活安定論 （安藤頑滞著）
生命保險の必要を痛感した實話（八冊） （帝國生命保險株式會社編）
保險勸誘極意の祕訣 （安藤政治郎著）
國光叢書（第一編） （岩間六郎著）
内外保險會社職員錄 （保險經濟社編）
保險國人記 （安藤頑滞著）
保險業界操觚業者論 （安藤頑滞著）
生命保險（訂正三版） （石川文吾著）
保險銀行時報第廿五回統計號 （同社編）
生命保險外務入門 （柴原庄太著）
生命保險外交術 （島田東陽著）
生命保險契約に於ける廢疾給付 （簡易保險局編）
健康保險法批判 （田中康夫著）
簡易生命保險審査請求事件裁決集 （簡易生命保險審査會編）
簡易生命保險の死亡率に關する調査 （簡易保險局編）
工場法並に健康保險法規 （工業教育會編）
保險の理論と我國に於ける史的觀察（經濟學論集、理論政策の内） （粟津清亮稿）

## 昭和五年

生命保險會社代理店實際經營法 （河上久男著）



昭和四年度神戸勞働保險組合事業年報 （神戸勞働保險組合編）
生命保險各社配當表 （本城俊明著）
日本保險年鑑（昭和五、六年版） （三浦義道編）
小兒保險官營案に對する相互の主張 （第一徴兵保險株式會社編）
新經營具體策 （池山藤四郎著）
生命保險の裏表（保險宣傳叢書） （井上四郎著）
保險の合理性と合理化の原則（保險パンフレツト） （米谷隆三述）
保險數理 （伊藤萬太郎著）
保險約款から觀た生保各社の保險料並に利益配當 （三瀨雄二郎著）
全國生命保險會社の資金運用に關する調査（積立金運用資料第廿三輯） （簡易保險局編）
日本アクチユアリー會大會講演集 （日本アクチユアリー會編）
健康保險事業年報（昭和元、二、三年度） （社會局保險部編）
簡易生命保險要覽（昭和四年度） （簡易保險局編）
簡易生命保險創始十周年記念講演集（三卷） （簡易保險局編）
增補健康保險法規 （社會局保險部編）
第四回生命表 （内閣統計局編）
最新生命保險勸誘法 （ダイヤグラム社編）
生命保險の解約價格及拂濟價格の研究 （藤川博著）
契約者に對する生命保險會社配當表 （本城俊明著）
生命保險教材 （安田生命保險株式會社編）
全保險事業成績批判錄 （保險每日新報社編）
生命保險會社研究號 （經濟公報社編）
生命保險會社の保險料と約款内容集 （保險の友社編）
生命保險外務教範（第一卷） （柴原庄太著）

現代保險問題外務教育論（卷二）告知義務法の根據並に解釋 （三浦義道著）
英佛獨和保險用語新辭典 （下村重美著）
簡易保險局統計年報（昭和三年度） （簡易保險局編）
生命保險會社の批判（昭和五年版） （東洋經濟新報社編）
獨逸及其他諸國失業保險及失業救濟 （岡田甲子之助著）
保險銀行時報第廿六回統計號 （同社編）
保險年鑑（昭和三年度外國會社編） （商工省保險部編）
保險興信 （安藤政治郎編）
獨國保險法 （鐵道省編）
通貨下落の生命保險契約に及ぼす影響 （簡易保險局編）
弱體保險に就て （三浦義道著）
保險會社の株式投資 （三上勝著）
生命保險經營の實務及其合理化 （弘世助太郎著）
豫定利率に就て （米谷隆三著）
長命の統計的研究 （鈴木敏一著）
マーネス博士の米國保險觀（保險パンフレツト） （寺田四郎述）
保險學説と人間生命價値（保險パンフレツト） （寺田四郎述）
世界各國に於ける官營保險 （保險及事業社編）
再訂保險法論 （三浦義道著）
健康保險法提要 （清水玄著）
生命保險勸誘材料集 （黑川諄雄編）
全國生命保險府縣別現況（昭和四年度末生命保險簡易保險其他） （太田雅市編）
再保險に於ける「危險保險料」式（第八回國際アクチユアリー會議報告書） （簡易保險局編）
弱體保險（第八回國際アクチユアリー會議報告書） （簡易保險局編）
昭和四年度全國生命保險府縣別現況 （保險每日新報社編）

最近十ケ年間の各地方に於ける生命保險加入者調べ（附 生命保險創始以來の事業成績） （保險朝日新聞社編）
保險ナンセンス （白石貞太郎、吉峯覺也著）
現代生命保險學（保險數理の部）上卷 （佐藤峯太郎著）
獨逸保險經營論 （共保生命保險株式會社編）
保險年鑑（昭和二年度内國會社編） （商工省保險部編）
我が社の約款と五社の比較（保險數理・死亡表・保險料計算・利益配當） （帝國生命保險會社編）
保險會社の株式投資（保險パンフレツト） （三上勝述）
昭和四年度本邦生命保險事業成績概表 （中央生命保險相互會社編）
昭和四年度生命保險統計年鑑 （保險朝日新聞社編）
生命保險の大勢（全國府縣別契約統計表） （保險朝日新聞社編）
團體保險 （簡易保險局編）
我社の募集要覽 （國光生命岩間六郎編）
全保險會社事業成績批判錄 （太田雅市編）
醫師と健康保險法 （會田俊一著）
生命保險判例要旨 （佐藤英治編）
簡易保險被保險者福祉施設要覽第三回 （簡易保險局編）
社會保險（社會保險體系第六卷） （河田嗣郎著）
健康增進施設の實績第一回報告 （帝國生命保險株式會社編）
最近三ケ年間に於ける生保各社の府縣別契約狀勢（昭和二・三・四年度） （中外保險新報社編）
海員に對する疾病保險 （對米船舶提供記念財團編）
生命保險勸誘の鍵 （安藤頑滞編）
新種保險（生命保險教材別冊） （安田生命保險株式會社編）

國民保險政策（被保險者福祉問題資料第三輯）（簡易保險局編）
保險の發達階級（大阪商科大學五十年記念論文中）（近藤文二稿）
健康保險組合事務取扱例規集（社會局保險部編）
結核療養所設計の根本原則其具體策（被保險者福祉問題資料第七輯）（簡易保險局編）

**昭和六年**

生命保險の解說（仁壽生命保險株式會社編）
保險約款集（附簡易生命保險令）（生命保險會社協會編）
名古屋高等商業學校創立十周年記念論文集
英國保險會社投資概觀（山崎英雄稿）
保險形態論（酒井正三郎稿）
改訂簡易生命保險法要論（千葉清七著）
加奈陀政府年金事業に關する調査（簡易保險局編）
簡易保險局統計年報（昭和四年度）（簡易保險局編）
生命保險會社の批判（昭和六年版）（東洋經濟新報社編）
生命保險亡國論（川越頼孝著）
生命保險物語（津田侃二著）
第一回生命保險外務講習會講義錄（保險演習學友會編）
保險募集取締規則解說（保險評論社編）
保險數學（杉浦德太郎著）
社會保險の本質（末高信著）
社會保險論叢（兒玉政介著）
保險學概論（柴官六著）
商工省日本經驗生命表（商工省保險部編）
保險國營に關する參考資料（生命保險會社協會編）
保險年鑑（昭和四年度內國外國會社）（商工省保險部編）
保險銀行時報第廿七回統計號（同社編）
生命保險圖書目錄（帝國生命保險株式會社）
弱體保險に就て（E・ダグリース・ハーパー述 鈴木敏一譯）
簡易保險健康相談所利用實話（簡易保險局編）
朝鮮簡易生命保險統計年報昭和四年度（朝鮮總督府）
健康保險事業年報（昭和四年度）（社會局保險部編）
粟津博士論集・補遺・雜集（粟津博士論集刊行會編）
生命保險の效用（保險パンフレツト）（下村重美譯）
保險會社職員錄（渡邊六尺編）
保險要覽（自昭和元年度至昭和五年度）（保險毎日新報社編）
健康保險の研究（兒玉政介著）
保險募集取締規則義解（岩瀨茂夫著）
社會保險論叢（兒玉政介著）
保險料の集め方（黑川壽雄編）
全保險會社事業成績批判錄（昭和六年版）（太田雅市著）
本邦生命保險事業成績概要（昭和五年度）（中央生命統計課）
生命保險の必要と會社の選び方（廣瀨隆基編）
新時代の保險人必携（前田渡編）
保險募集取締規則講演速記（生命保險會社協會編）
改訂增補健康保險組合事務取扱例規集（社會局保險部編）
保險の研究（關聯生命保險の實行を望みて）（米谷隆三編）
職業としての生命保險募集（保險パンフレツト）（宮本宜一譯）
國際アクチユアリー會議の經過と收獲並にBegaultの功績（保險學雜誌第二百三十號拔萃）（三浦義道稿）
產業上の年金制度に關する研究（鐵道大臣官房編）
現代保險問題 外務教育論（卷三契約成立に導く三段階）（三浦義道著）
生命保險事業總覽 二册（長谷川久太郎編）
簡易生命保險法規（昭和六年十月現行）（簡易保險局編）
生命保險會社の研究（會社研究二十八册）（本城俊明著）
生命保險會社讀本（本城俊明著）
過去三年の生命保險統計表（本城俊明著）
獨逸社會保險の淵源（生保協會々報二〇卷ヶ號）（加唐謙吉稿）
昭和六年版生命保險年報（保險土曜社編輯）
小兒保險に關する論議（簡易保險局編）
生命保險年鑑（昭和六年版）（保險研究所編）
生命保險募集從事員名簿（昭和六年四月一日現在）（生命保險會社協會編）
保險銀行時報特輯北海道號（同社編）
保險約款集附簡易生命保險法令（玉木爲三郎編）
加奈陀に於ける生命保險會計（藤川博著）
佛國保險契約法（生命保險會社協會編）
社會保險論叢（兒玉政介著）
健康保險審查會決定例集（第一輯）（工業教育會編）
健康保險法規と其疑義解釋（工業教育會編）

**昭和七年**

原始保險の史的研究（田中靜夫著）
人の貨幣價値（ルイス・ダブリン・アルフレツド・ロトカ共著 井關孝雄譯）
生命價値と必要生命保險額測定の問題（森克彥著）
十大生命保險會社誌の研究及批判（森克彥著）
貨幣價値變動と生命保險（富永義孝著）
契約者に對する生命保險配當表（本城俊明著）
簡易保險局統計年報（昭和五年度）（簡易保險局編）
生命保險會社の批判（昭和七年版）（東洋經濟新報社編）
社會保險（當面の社會政策の內）（清水玄稿）
保險經營主義に就て（保險パンフレツト）（印南傳吉述）



保險銀行時報第廿八回統計號（同社編）
保險年鑑（昭和五年度內國外國會社）（商工省保險部編）
日本保險關係法規全集（玉木爲三郎編）
國家保險獨占？（井口正一譯）
生命保險福祉施設論（星登三久著）
私經濟保險學（末高信著）
相互保險の相互性に就て（野津務著）
昭和五年度朝鮮簡易生命保險統計年報（朝鮮總督府）
昭和六年度本邦生命保險事業成績概要（中央生命保險相互會社編）
外國保險法規（簡易保險局編）
昭和五年度健康保險事業年報（社會局保險部編）
昭和六年度末全國生命保險府縣別現況生命、徵兵、簡易保險（太田雅市編）
生命保險の庶民金融化（野口豊著）
生命保險利廻り精覽（保險月報社）
支那に於ける生命保險の現情（公平萬述）
生命保險年鑑（昭和七年版）（保險研究所編）
保險銀行時報三十五週年記念特輯號（現存生命保險會社各社創業以來の事業成績全覽）（保險銀行時報社編）
保險外交實話集（安蒜頑沸生著）
保險部の移管問題（保險パンフレツト）（公平庵主人著）
生命保險契約者の心得置く可き事（本城俊明著）
生命保險外交の生涯（エフウアド・エー・ウツフ著 宮本宜一譯）
保險研究（第二卷）（瀧谷善一著）
保險人を語る（天の卷 地の卷）（二册）（保險特報社編）
全國保險會社事業成績批判錄（昭和七年版）（保險毎日新報社編）
簡易保險被保險者福祉施設要覽（第四回）（簡易保險局編）
日本帝國人口動態統計（昭和六年度）（內閣統計局編）
中華民國保險法（附譯文）（生命保險會社協會編）
優良生命保險會社の展望（常磐生命の卷）（長谷川久太郎著）
保險國營に關する參考資料（六）（生命保險會社協會編）
生命保險經營批判比率（西尾淸一著）
健康保險と詐病及外傷性神經症（渡邊房吉著）
健康保險產婆要覽（青木秀虎編）
傷病手當金支給表（昭和五年度）（製鐵所共濟組合編）
商工省日本經驗生命表（生命保險會社協會發行）
英獨失業保險法と其實施狀態（東京商工會議所編）
生命保險信託の經營（明治大學創立滿五十年記念論文集、商學編中）（細矢祐治稿）

**昭和八年六月マデ**

簡易保險局統計年報（昭和六年度）（簡易保險局編）
社會保險要論（清水玄著）
生命保險年鑑（普及版昭和八年版）（保險研究所編）
保險銀行時報第廿九回統計號（同社編）
保險年鑑（昭和六年度外國會社）（商工省保險部編）
生命保險事業年報（昭和八年版）（保險事業社編）
最近十五年間生命保險判例要旨集（附商法、商行爲、保險業法）（廬原常一編）
保險要覽（昭和八年版）（保險毎日新報社）
生命保險會社良否鑑別基準（長谷川久太郎著）
保險會社かゞみ（保險時事新報社）
生命保險事業の實際（第一卷）（長谷川久太郎著）
第二回目保險料の集金に就て（保險の友社編）
弱體保險資料調查報告書（生命保險會社協會編）
通俗保險會社解說（林精治郎著）
日本生命館（日本生命編）
健康保險事業年報（昭和六年版）（社會局保險部編）
生命保險會社の批判（昭和八年版）（東洋經濟新報社）
生命保險會社の解剖（昭和八年版）（經濟情報社編）
日本帝國死因統計（昭和六年）（內閣統計局編）
保險數學（龜田豊治朗著）
保險總論（ウヲルネル 志田鉀太郎等譯）
實用生命保險數學（忍田又男著）

**年代不詳ノ分**

## 一・講義錄合本其他

**明治二十六年以前**

○講義錄
保險法（英吉利法律學校講義錄）（馬場愿治講）
保險法（東京法學院講義錄）（馬場愿治講）
保險法（東京專門學校講義錄）（馬場愿治講）

**明治三十年以前**

保險法（東京專門學校講義錄）（粟津清亮講）
保險法（和佛法律學校講義錄）（玉木爲三郎講）
保險法（日本法律學校講義錄）（松波仁一郎講）
保險法（日本法律學校講義錄）（和仁貞吉講）
保險制度（東京商業學校講義錄）（內田嘉吉講）
保險に就て（和佛法律學校講義錄）（志田鉀太郎述）

**明治四十五年以前**

保險法（東京法學院講義錄）（青山衆司講）
保險法（東京法學院講義錄）（志田鉀太郎講）
保險法（京都法政學校講義錄）（成田惟治講）
保險法（東京法學院講義錄）（加納友之助 青山衆司講）
保險事業に就て（東京法學院三十三年度講義錄別錄）（岡野敬次郎講）

保險學（大日本實業學會商業科講義錄）（粟津清亮講）

明治時代

日耳曼勞力者の強制保險（東京專門學校講義錄）（英エルス著 芳賀恒輔譯）
日耳曼に於ける勞働者の保險（東京專門學校講義錄）（獨タシック著 山木利喜雄譯）
保險論（經濟叢書の內）（粟津清亮著）

大正時代

生命保險論（東京高等商業學會講義錄）（石川文吾講）
保險論（慶大經濟學會講義用）（高橋武美著）
○生命保險講義錄
保險總論（志田鉀太郎）
生命保險約款論（石川文吾）
保險業法（野津務）
生命保險計算の新法（興石丑太郎）
生命保險數理（鈴木敏一）
生命保險統計論（龜田豊治朗）
生命保險實務（玉木爲三郎）
生命保險事業經營論（清水文之輔）
生命保險簿記及會計法（村上是助）
生命保險總論（粟津清亮）
生命保險醫事（高田他家雄）
簡易生命保險論（桑山鐵男）
○保險講習錄
保險業通論（下村重美）
生命保險約款要論（和田一郎）
生命保險募集論（有村丈次郎）

二・パンフレット其他

英國國民保險法英國養老年金條例
チエコスロヴアキヤ新社會保險法の立法事情（森莊三郎）
歐洲諸國勞働保險一覽表（岡田甲子之助譯）
獨逸帝國勞働保險の發達（岡田甲子之助譯）
保險思想普及に關する諺句集（長野郵便局編）
保險還付金額早見表追加（簡易保險局編）
諸外國に於ける相互保險組合の制度と本邦に於ける實施方法（小平權一調）
船員保險法案要綱
保險料控除計算書（産業福利協會編）
簡易生命保險法案議事錄拔萃
被保險者資格取得屆
被保險者資格喪失屆
被保險者日額算定基礎屆（一冊）（産業福利協會編）
日本に於ける外國生命保險會社の保險證券及普通保險約款（ ）
保險金融經濟論（總論）（米谷隆三述）

# 其の二 雜誌新聞論題

## 雜誌、新聞略號表

（括弧を附せる太文字は略語）

| 略號 | 誌名 | 略號 | 誌名 |
|---|---|---|---|
| 【時報】 | 保險銀行時報（舊）保險海事及保險時報 | 【インシュ】 | インシュアランス |
| 【保雜】 | 保險（學）雜誌 | | |
| 【保金】 | 保險及金融 | 【保評】 | 保險評論 |
| 【保經】 | 保險經濟 | 【通信】 | 保險銀行通信 |
| 【保時】 | 保險時事新報 | 【資料】 | 保險資料日報 |
| 【保月】 | 保險月報 | 【保情】 | 保險情報 |
| 【保新】 | 保險新聞 | 【興信】 | 保險興信 |
| 【保毎】 | 保險毎日新聞 | 【春秋】 | 保險春秋 |
| 【保時】 | 保險時代 | 【保日】 | 保險日日通信 |
| 【保融】 | 保險金融新聞 | 【事業】 | 保險事業 |
| 【日本】 | 保險之日本 | 【家庭】 | 保險と家庭 |
| 【旬刊】 | 保險旬刊 | 【經學】 | 經濟學論集 |
| 【生經】 | 生命保險經營 | 【經論】 | 經濟論叢 |
| 【生研】 | 生命保險研究時報 | 【商研】 | 商業及經濟研究 |
| 【協會】 | 生命保險協會々報 | 【商事】 | 商事研究 |
| 【數學】 | 生命保險數學雜誌 | 【時經】 | 時事經濟問題 |
| 【健康】 | 健康保險時報 | 【日新】 | 日本經濟新誌 |
| 【統雜】 | 統計學雜誌 | 【商學】 | 商學研究 |
| 【統時】 | 統計時報 | 【東經】 | 東京經濟雜誌 |
| 【統集】 | 統計集誌 | 【洋經】 | 東洋經濟新報 |
| 【經商】 | 經濟及商業 | 【東海】 | 東海經濟新報 |
| 【國經】 | 國民經濟雜誌 | 【日經】 | 日本經濟雜誌 |
| 【時代】 | 經濟時代 | 【ダイヤ】 | ダイヤモンド |
| 【經經】 | 經營經濟研究 | 【エコ】 | エコノミスト |
| 【經營】 | 經營學論集 | 【商經】 | 商業と經濟 |
| 【商討】 | 商學討究 | 【經報】 | 經濟時報 |
| 【企社】 | 企業と社會 | 【經公】 | 經濟公報 |
| 【金融】 | 金融研究 | 【時論】 | 政治經濟時論 |
| 【三層】 | 金融三層 | 【集志】 | 經濟集志 |
| 【信協】 | 信託協會々報 | 【統制】 | 經濟統制の研究 |
| 【海員】 | 海員協會々報 | 【經イ】 | 經濟タイムス |
| 【社政】 | 社會政策時報 | 【司協】 | 司法協會雜誌 |
| 【遞協】 | 遞信協會雜誌 | 【産時】 | 産業時報 |
| 【朝總】 | 朝鮮總督府月報 | 【産論】 | 産業公論 |
| 【臺灣】 | 臺灣時報 | 【銀研】 | 銀行研究 |
| 【朝鮮】 | 朝鮮經濟雜誌 | 【法協】 | 法學協會雜誌 |
| 【滿蒙】 | 滿蒙實業彙報 | 【法論】 | 法學論叢 |
| 【南洋】 | 南洋協會雜誌 | 【法新】 | 法學新報 |
| 【大阪】 | 大阪銀行通信錄 | 【法律】 | 法律新聞 |
| 【中央】 | 中央銀行通信錄 | 【國家】 | 國家學會雜誌 |
| 【銀叢】 | 銀行論叢 | 【法政】 | （日本）法政新誌 |
| 【産業】 | 産業組合 | 【法記】 | 法曹記事 |
| 【國際】 | 國際法外交雜誌 | 【法治】 | 法律政治 |
| 【國國】 | 國家及國家學 | 【工場】 | 工場研究 |
| 【法報】 | 法律時報 | 【貿易】 | 貿易 |
| 【三田】 | 三田學會雜誌 | 【會計】 | 會計 |
| 【明學】 | 明治學報 | 【會社】 | 會社公論 |
| 【明大】 | 明大商學論叢 | 【長彙】 | 長崎高商研究館彙報 |
| 【早商】 | 早稻田商學 | 【證券】 | 證券評論 |
| 【社國】 | 社會及國家 | 【內研】 | 內外研究 |
| 【志林】 | 法學志林 | 【內外】 | 內外論叢 |
| 【辯協】 | 日本辯護士協會錄事 | 【社雜】 | 社會學雜誌 |
| 【外時】 | 外交時報 | 【報知】 | 報知新聞（舊）郵便報知 |
| 【東朝】 | 東京朝日新聞 | 【大朝】 | 大阪朝日新聞 |
| 【大毎】 | 大阪毎日新聞 | 【毎日】 | 毎日新聞 |
| 【朝野】 | 朝野新聞 | 【學藝】 | 東洋學藝雜誌 |
| 【京法】 | 京都法學會雜誌 | | |



## （A）一般論其他

明治二年　卷・號
海上請合證書の譯　新塾月誌　二
明治十年
海商法大意　講學餘談　自一
明治十二年
危險請負　社説（東經）　二月二日
明治十五年
共濟主義の結社を論ず　社説（朝野）　八月自十五日
明治十八年
保險の要旨を論ず　植郁俊平（法協）　三・三
明治二十二年
保險業と商業との關係　坪谷善四郎（日本之商人）　自二
保險は賭博に非ざる乎　岡野敬次郎（法協）　七・六七
明治二十七年
保險の效用を論ず　粟津清亮（法協）　一三・一三
保險の原理並に其政策に就て　粟津清亮（國家）　八・自九〇
明治二十八年
保險の刑罰法的觀察　志田鉀太郎（保雜）　一
國家と委運行爲の關係を論じ保險會社の存立時期に及ぶ　粟津清亮（法協）　卷・號 一三・二
保險の純正經濟學に於ける地位を論ず　粟津清亮（國家）　九・九六
保險料の法律的並に經濟的性質を論ず　粟津清亮（國家）　九・九九
明治二十九年
保險解約割戻金の規定（法典批評）　玉木爲三郎（法協）　一四・二
「確らしさ」に就いての解釋　野口良之助（保雜）　自六
保險事業の監督　矢野恒太（保雜）　三
保險に關する國家の監督　志田鉀太郎（保雜）　一六
明治三十年
保險論　飯沼舒雄（保雜）　自一七
保險取締法の制定に對する警告　粟津清亮（保雜）　三
保險料拂込猶豫期間に就て　大道和一（保雜）　三
詐僞會社インデイペンデント・エンド・ウエストミドルセキス會社　玉木爲三郎（保雜）　二六
明治三十一年　卷・號
保險事業に就て　岡野敬次郎（國家）　一二・自一四一
戰爭保險一斑　玉木爲三郎（保雜）　二六・自二六
國家的保險事業　玉木爲三郎（保雜）　三・自二七
被保人募集　端藤生（保雜）　三・三三
保險事業と道德　粟津清亮（保雜）　三・三三
責任準備金の計算方法に就て　粟津清亮（保雜）　三・自三四
各社保險規則大同の議　齊藤政治（保雜）　三・三六
責任準備金　社説（時報）　二
保險制度確立の急務　社説（時報）　四
保險學會へ入會を勸む　粟津清亮（保雜）　三・二八
保險學會に臨みて　矢野恒太（保雜）　三・三一
萬國保險協會第二回會合　玉木爲三郎（保雜）　三・三七
開陳責任に就て　志田鉀太郎（保雜）　三・二五
明治三十二年
保險會社に就て　志田鉀太郎（保雜）　四・三七
保險政策の學問上の地位に就て　中村敬三（保雜）　四・三八

| | | 巻・號 |
|---|---|---|
| 商法修正案中保險に關する規定に就て二三の疑點を述ぶ | 粟津 清亮（保雜） | 四・四〇 |
| 保險的思想に就て | 中村 敬三（保雜） | 四・自三〇 |
| 所感を述て保險當事者に諮す | 杞 憂 生（保雜） | 四・三五 |
| 保險の性質を論ず | 太田 資時（法政） | 四・二六 |
| 保險會社の併合を望む | 藤尾 木藏（時報） | 一〇 |
| 內地雜居後の保險界の問題 | 藤尾 木藏（時報） | 一三 |
| 保險の營業に就て | 藤尾 木藏（時報） | 一四 |
| 保險金受取人に就て粟津法學士に答ふ | 中村 敬三（保雜） | 四・四四 |
| 保險の解約手續に就て | 芳賀 八彌（保雜） | 四・四〇 |
| 責任準備金の拂戻に就て | 芳賀 八彌（保雜） | 四・自三五 |
| 誤を擇つて馬稷を斬る、信宗眞徒生命保險會社に與ふ | 社 說（時報） | 一三 |
| 藤尾氏の「前年度の營業成績を見ての感あり」を讀みて聊か所思を述ふ | 岡田 筍菴（時報） | 二〇 |
| 近世經濟學主義と保險事業 | 藤尾 木藏（時報） | 一五 |
| 募集難を論じて嘱託診査醫に及ぶ | 芳賀 八彌（時報） | 一五 |
| 教育保險に就て | 藤尾 木藏（時報） | 一六 |
| 前年度の營業成績を見て感あり | 藤尾 木藏（時報） | 自一八 |
| 聯合經費を設くるの議 | 中川 安藏（時報） | 自二三 |
| 保險數理研究會を設くべし | 中村 精一郎（時報） | 二三 |
| 再び募集難を論じ其募集費用に及ぶ | 芳賀 八彌（時報） | 二四 |
| 保險會社は宜しく日本流の宴會を全廢すべし | 芳賀 八彌（時報） | 二六 |
| 保險監督權の應用を論ず | 藤尾 木藏（時報） | 自二七 |
| 保險會社の資本運轉を論ず | 藤尾 木藏（時報） | 二九 |
| 資力と營業力當業者の一讀を乞ふ | 藤尾 木藏（時報） | 三一 |
| 現行商法及修正商法に於ける開陳責任 | 芳賀 八彌（保雜） | 四・四三 |
| 再び開陳責任に就て | 芳賀 八彌（保雜） | 四・自四三 |
| 保險金受取人に就いて | 粟津 清亮（保雜） | 四・四一 |
| 行政系統上に於ける保險事業の位地 | 藤尾 木藏（時報） | 一一 |
| 保險契約に於ける告知義務に就いて | 玉木爲三郎（辨協） | 三・一七 |
| 保險契約に於ける告知義務を論ずる | 玉木爲三郎（法政） | 三・一九 |
| **明治三十三年** | | |
| 保險の起源 | 粟津 清亮（志林） | 二・五 |
| 保險營業に就て | 岡野敬次郎（志林） | 二・七 |
| 相互保險に就て | 芳賀 八彌（保雜） | 五・五一 |
| 相互保險會社員の義務に就て | 芳賀 八彌（保雜） | 五・自五三 |
| 相互保險會社の基金並に醵出者に就て | 芳賀 八彌（保雜） | 五・五五 |
| 募集員の革新を斷行せよ | 北山 巖（保雜） | 五・五七 |
| 幼年者の据置保險 | D・N 生（保雜） | 五・五九 |
| ヘイロツイ「英國保險事業」譯 | 仙 代 生（保雜） | 五・五七 |
| 模範普通保險約款に就て | 玉木爲三郎（保雜） | 五・五九 |
| 保險申込書記載事項の效力に就ての判例 | 玉木爲三郎（保雜） | 五・五一 |
| 保險料延滯に就ての疑義 | 北山 巖（保雜） | 五・五五 |
| 第三者に對する求償權に就て | 芳賀 八彌（保雜） | 五・五〇 |
| 保險業法に付て | 岡野敬次郎（法新） | 一〇・一〇八 |
| 保險業法に就て | 玉木爲三郎（辨協） | 四・三一 |
| 責任積立金算出法 | 藤井金之助（時報） | 三五 |
| 保險會社の團結力を恢張すべし | 芳賀 八彌（時報） | 三三 |
| 保險統計論 | 岩間 六郎（時報） | 自三四 |
| 保險醫協會に望む | 岳水書窩主人（時報） | 三四 |
| 相互保險 | 岡野敬次郎（時報） | 自三四 |
| 人忙我閑錄 | 岡田 筍菴（時報） | 三五 |
| 保險契約の性質に就て | 中井 嘉市（時報） | 五一 |
| 國家經濟と保險事業（譯） | 社 說（時報） | 三七 |
| 被保險利益を論ず | 在原 義誠（時報） | 三八 |
| 非割引論（募集員の弊害に就いて） | 藤尾 木藏（時報） | 四〇 |
| 標準保險證書に就いて | 森 島 城（時報） | 四一 |
| 約款の神聖を論ず | 藤尾 木藏（時報） | 四三 |
| 保險業法は事實上に於て相互保險を禁止せり | 藤尾 木藏（時報） | 四六 |
| 女醫採用論 | 藤尾 木藏（時報） | 四六 |
| 保險醫事に就て | 粟津 清亮（時報） | 自四八 |
| 現時の各生命保險會社及募集員諸君に告ぐ | 愚 痴 生（時報） | 四九 |
| 保險業法施行細則發布の遲きを疑ふ | 馬場 武義（時報） | 四九 |
| 相互會社と共濟組合 コーイシユーランス、コンペニー、アッシヤルメント（論じて類似保險の取締に及ぶ） | 藤尾 木藏（時報） | 五〇 |
| 代理店歷史 | 岩間 六郎（時報） | 五一 |



| | | 巻・號 |
|---|---|---|
| 戰時保險 | 藤尾 木藏（時報） | 五二 |
| 戰時保險に就て共濟生命保險株式會社の改正規則に及ぶ | 藤尾 木藏（時報） | 五二 |
| ゼー・エー・チ・リチヤード・ソン氏「戰時に於ける生命保險」（譯） | （時報） | 五三 |
| 解約の豫防方法に重大なる先決問題あり | 藤尾 木藏（時報） | 五三 |
| 責任積立金に就て | 岩間 六郎（時報） | 五三 |
| 集權主義と分權主義 | 藤尾 木藏（時報） | 五四 |
| 保險業法施行規則の說明 | 矢野 恒太（時報） | 自五四 |
| 募集員制度 | 藤尾 木藏（時報） | 五七 |
| 保險會議所設立の議 | 藤尾 木藏（時報） | 五八 |
| 解約價格と保險料累計の比較調査報告 | 丹 勝 吾（時報） | 五八 |
| 保險業者の自治制度を促す | 藤尾 木藏（時報） | 五九 |
| 普通約款の草案を讀む | 瑞 篠 生（時報） | 六〇 |
| 保險事業と資本金、會社と信用 | 天 城 生（時報） | 六三 |
| 陳示默祕を論じ保險約款の條項に及ぶ | 中井 嘉市（時報） | 六四 |
| 類似保險會社處分に關する一新問題 | 矢野恒太談（時報） | 六五 |
| 解約價格算出方法 | （時報） | 六七 |
| **明治三十四年** | | |
| 新契約締結の停止に付て | 玉木爲三郎（保雜） | 六・六一 |
| 產兒保險は保險に非ずとの事に就て矢野氏の意見 | （保雜） | 六・六一 |
| 保險會社の解散に就て | 玉木爲三郎（保雜） | 六・六三 |
| 新契約停止命令を受けたる會社の善後策 | 玉木爲三郎（保雜） | 六・六四 |
| 新契約停止處分に就て | 齋藤 政治（保雜） | 六・六四 |
| 米國に於ける生命保險事業の進步 | 中村 敬三（保雜） | 六・七〇 |
| 當局の監督權勵行に就て玉木法學士の所說に贊同す | 社 說（時報） | 七一 |
| 未收保險料に就て | 岩間 六郎（時報） | 七三 |
| 保險會社に於ける機關の設備に就て | 中井 嘉市（時報） | 七四 |
| 未經過保險料に就て | 岩間 六郎（時報） | 自八二 |
| 再び未收保險料に就て | 岩間 六郎（時報） | 八八 |
| 斯業界の緊急問題に就て | 森村 金造（時報） | 九二 |
| 新契約停止中の保險會社に就て | 森村 金造（時報） | 九三 |
| 不解約條件に就て | 粟津 清亮（時報） | 九四 |
| 保險獎勵合資會社の設立を見て | 寒 巖 生（時報） | 九六 |
| 代理店設立に就て | 岩間 六郎（時報） | 九六 |
| 監査役の責務を殺して株主總會に告ぐ | 社 說（時報） | 一〇二 |
| **明治三十五年** | | |
| 如何にせば保險思想の普及を得る乎 | 岩間 六郎（時報） | 一〇五 |
| 大に社員を教育すべし | 岩間 六郎（時報） | 一〇六 |
| 保險契約の解除に就て | K・N 生（時報） | 一〇七 |
| 信用保險に就て | 粟津 清亮（時報） | 一一一 |
| 責任準備金を以て不動產を所有し得るや否やを論ず | 旭 東（時報） | 一一三 |
| 合併會社の責任に就て | 岩間 六郎（時報） | 一一九 |
| 保險集會所を設置すべし | 社 說（時報） | 一二一 |
| 聯合事務所を設くるの議 | 北 外（時報） | 一二三 |
| 類似保險を撲滅せよ | 植田 蔦栗（時報） | 一二三 |
| 經濟社會に於ける保險從業者の地位 | 社 說（時報） | 一二五 |
| 監督官廳を論ず | 社 說（時報） | 一二八 |
| 保險界の近勢を論じて當業者に質す | 社 說（時報） | 一二九 |
| 日本青年アクチユアリー會設立不可論に就て | 岩間 六郎（時報） | 一三〇 |
| 保險金受取人に關する一問題 | 浮 萍 生（時報） | 一六七 |
| 保險料問題に就て | 吉田祥三郎（時報） | 一七五 |
| 國家的保險事業に就て | 粟津 清亮（志林） | 四・二九 |
| 再保險に就いて | 木村議次郎（法律） | 自七一 |
| 保險金受取人問題に就て | 粟津 清亮（保雜） | 七・自八三 |
| **明治三十六年** | | |
| 保險金受取人問題に就て高輪、藤原兩君に答ふ | 粟津 清亮（保雜） | 八・八五 |
| 保險金受取人問題に就て | 高輪 守幸（保雜） | 八・八六 |
| 不法の受取人問題に就て | 藤原 哲夫（保雜） | 八・八六 |
| 保險金受取人問題竝開陳責任に付て | 粟津 清亮（保雜） | 八・八八 |
| 保險金受取人が被保險者の親族にあらざりし場合に於ける生命保險契約の效力に就て | 藤原 哲夫（保雜） | 八・八五 |
| 假拂金の法律上の性質に就て（講演） | 志田鉀太郎（保雜） | 八・九三 |

| 題目 | 著者 | 掲載 | 卷・ | 號 |
|---|---|---|---|---|
| 外國保險會社に對する供託命令 | 志田鉀太郎 | (內外) | 二・ | 四 |
| 經濟界に於ける我保險事業の地位(講演) | 岩間 六郎 | (保雜) | 八・ | 九三 |
| 外國保險會社の供託と有價證券 | 岩間 六郎 | (保雜) | 八・ | 九四 |
| 戰事保險補遺 | 玉木爲三郎 | (保雜) | 八・ | 九六 |
| 再保險に就て | 志田鉀太郎 | (法律) | | 自一七四 |
| 數學的危險に就て | 那須理太郎 | (保雜) | 八・ | 八六 |
| 保險金受取人問題並開陳責任に就て | 粟津 清亮 | (保雜) | 八・ | 八八 |
| 保險契約無效となりたる場合に於て當事者が有する權利義務(講演) | 宮本幸五郎 | (保雜) | 八・ | 九三 |
| 保險業法改正私見 | 粟津 清亮 | (保雜) | 八・ | 八七 |
| デーベリッツ「亞米利加保險會社通觀」譯 | 有村 重義 粟津 清亮 | (保雜) | 八・ | 自四〇 |
| 保險と普通教育 | 社 | 說(時報) | | 一四六 |
| 內國保險會社の奮起を望む | 鵜 見 | 生(時報) | | 一五三 |
| 保險事業を滅すは國民なり | 社 | 說(時報) | | 一五四 |
| 保險會社は其本能を忘るべからず | 社 | 說(時報) | | 一五四 |
| 保險事業と社會の同情 | 社 | 說(時報) | | 一五五 |
| 外國保險會社の供託金に就て | 社 | 說(時報) | | 一五五 |
| 重役は自から保險勸誘を試むべし | 社 | 說(時報) | | 一五六 |
| 外國保險會社供託金命令に就て | 社 | 說(時報) | | 一五八 |
| 再保險に就て | 志田鉀太郎 | (時報) | | 一五八 |
| 供託問題に就て | 社 | 說(時報) | | 一六三 |
| 外國保險會社に對する供託命令 | 志田鉀太郎 | (時報) | | 一六三 |

| 題目 | 著者 | 掲載 | 卷・ | 號 |
|---|---|---|---|---|
| 保險銀行設立の議 | 社 | 說(時報) | | 一六三 |
| 類似保險會社撲滅を論ず | 社 | 說(時報) | | 一六四 |
| 供託問題に對する我從業者の態度 | 社 | 說(時報) | | 一六五 |
| 保險監督機關の擴張を論ず | 社 | 說(時報) | | 一六七 |
| 外國保險會社の供託と有價證券 | 岩間 六郎 | (時報) | | 一六七 |
| 三たび保險集會所の設立に就て | 曾根 季作 | (時報) | | 一六七 |

**明治三十七年**

| 題目 | 著者 | 掲載 | 卷・ | 號 |
|---|---|---|---|---|
| 國民保險論 | 粟津 清亮 | (保雜) | | 自九九 |
| 日清戰爭危險率 | 志田鉀太郎 | (保雜) | | 九八 |
| 保險料積立金計算方法に就き | 奧村 英夫 | (保雜) | 九・ | 一〇二 |
| 統計くさ／＼ | 伊藤萬太郎 | (保雜) | 九・ | 自一〇二 |
| 相互保險會社に於ける基金醵出者の法律上の性質を論ず | 志田鉀太郎 | (保雜) | 九・ | 一〇〇 |
| 萬國アクチュアリー會に就て | 粟津 清亮 | (國家) | 八・ | 二〇五 |
| 英國十七會社死亡表の記 | 奧村 英夫 | (保雜) | 九・ | 一〇〇 |
| 英國の新死亡表 | 麻生義一郎 | (保雜) | 九・ | 自一〇三 |
| 獨逸保險契約法草案 | 高根 義人 | (保雜) | 九・ | 九七 |
| 獨逸帝國保險契約法 | ベーレント | (內外) | 三・ | 四 |
| 他人の爲めにする保險契約に就て | 和仁 貞吉 | (法記) | 一四 | 自一四七 |
| 重複保險を論ず | 岡野敬次郎 | (法新) | 三・ | 六 |
| 供託金に就て | 社 | 說(時報) | | 一七七 |
| 供託金問題と當局者 | 社 | 說(時報) | | 一七九 |
| 保險經濟論 | 地山 居士 | (時報) | | 一八六 |
| 不當なる未收保險料 | 笑 庵 | (時報) | | 一九〇 |
| 保險思想と個人制度 | 待勞逸人 | (時報) | | 一九二 |

| 題目 | 著者 | 掲載 | 卷・ | 號 |
|---|---|---|---|---|
| 第三者の利益の爲にする保險、相互保險 | 志田鉀太郎 | (時報) | | 二〇〇 |
| 保險官有論 | 蘆 助 | (時報) | | 二〇五 |
| 戰時に於ける保險思想の發展 | 蝸 牛 | 生(時報) | | 二〇八 |
| 貯蓄機關として保險制度 | T・O | 生(時報) | | 二一〇 |
| 保險料積立金群團計算の一法 | 松崎故一郎 | (時報) | | 二一〇 |
| 皇室と保險思想 | 禮 | 說(時報) | | 二一三 |
| 保險金と相續税法 | H・O | 生(時報) | | 二一三 |
| 保險料徵收に就て | 谿 翁 | 生(時報) | | 自二一三 |
| 保險界は須く其代表人物を社會に活動せしむべし | 粟津 清亮 | (時報) | | 二〇〇 |
| 卑見梗概(生命保險に關する意見) | 矢野 恒太 | (時報) | | 自二〇一 |
| 大學の保險講座設置に就て | 芝浦 釣徒 | (時報) | | 二〇七 |
| 保險講習會の設置並に各保險會社の出資に就て | 曾根 季作 | (時報) | | 二一三 |

**明治三十八年**

| 題目 | 著者 | 掲載 | 卷・ | 號 |
|---|---|---|---|---|
| 保險料積立金群團計算の一方式 | 鴻田 秀一 | (保雜) | | 一一四 |
| 責任準備金計算方式に於ける奇異なる推理法に就て | 松崎故一郎 | (保雜) | | 一一五 |
| オードアン「戰爭危險に對する保險契約中重要なる條款に就て」譯 | 藤波 元雄 | (法記) | 一五・ | 一六四 |
| 保險料の減額に就て | 高輪 守幸 | (保雜) | 一〇・ | 一二〇 |
| 眞正なる宗教と保險 | 川合芳次郎 | (時報) | | 二一五 |
| 戰爭の危險ある土地の範圍を論ず | 高勢 友吉 | (時報) | | 二一五 |
| 保險家及び銀行家の戰局に對する覺悟 | 社 | 說(時報) | | 二一八 |



| 題目 | 著者 | 掲載 | 卷・ | 號 |
|---|---|---|---|---|
| 第四回軍債と保險業者 | 社 | 說(時報) | | 二一九 |
| 保險募集員 | 社 | 說(時報) | | 二一七 |
| 保險證劵擔保の效力 | 劵 謙 | 生(時報) | | 二二一 |
| 主體を異にする被保險利益に就て | H・O | 生(時報) | | 二二三 |
| 募集難、婦人を募集員とせば如何 | T・C | 生(時報) | | 二二四 |
| 保險會社協會設立に就て | 誠 庵 | (時報) | | 二二六 |
| 朝鮮の保險業と戸籍法 | 社 | 說(時報) | | 二二七 |
| 保險會社が作製すべき財産目錄 | 社 | 說(時報) | | 二二七 |
| 社會主義と保險事業 | 平山軍次郎 | (時報) | | 二二八 |
| 保險思想の發達に保險業者の警戒 | 社 | 說(時報) | | 二四一 |
| 保險募集員の養成 | 社 | 說(時報) | | 二二五 |
| 相續税法と保險金 | H・O | 生(時報) | | 二三〇 |
| 水至り渠成る (生命財産の安固と保險業) | 社 | 說(時報) | | 二三九 |
| 大口保險と小口保險 | 社 | 說(時報) | | 二四七 |
| 滿韓地方と保險業 | 社 | 說(時報) | | 二三一 |
| 經濟上に於ける保險業の實力・國家經濟と保險の效力 | 社 | 說(時報) | | 二三三 |
| 戰勝國民保險の思想 | 平 山 | 生(時報) | | 二三五 |
| 保險協會に望む | 淡 水 | 生(時報) | | 二三六 |
| 保險業者の佚擧を督促す | 社 | 說(時報) | | 二四九 |
| 淸韓の保險業 | 社 | 說(時報) | | 二五〇 |
| 平和克復と保險業者 | 社 | 說(時報) | | 二五一 |
| 米作減收と保險業者の態度 | 社 | 說(時報) | | 二五三 |
| 眞宗信徒生命保險紛擾事件 | 社 | 說(時報) | | 二五四 |

| 題目 | 著者 | 掲載 | 卷・ | 號 |
|---|---|---|---|---|
| 保險募集の餘地 | 社 | 說(時報) | | 自二三〇 |
| 保險業上役諸員の一顧を煩はす | 玉 碎 | 生(時報) | | 二三〇 |
| 官業保險史年表 | 設樂瑞鑛 | (時報) | | 自二三〇 |
| 保險募集の餘地と歐米先進諸國 | 社 | 說(時報) | | 二三二 |
| 大阪生命の解散決定 | 社 | 說(時報) | | 二三三 |
| 阪生事件の影響 | 社 | 說(時報) | | 二三四 |
| 保險界近事 | 社 | 說(時報) | | 二三五 |
| 大阪生命保險會社解散の善後策 | 社 | 說(時報) | | 二五八 |
| 監督官廳と檢査勵行 | 社 | 說(時報) | | 二五九 |
| 保險料積立金群團計算に就て | 山内千代松 | (保雜) | | 一一三 |

**明治三十九年**

| 題目 | 著者 | 掲載 | 卷・ | 號 |
|---|---|---|---|---|
| 將來の金利と保險事業 | 社 | 說(時報) | | 自二六四 |
| 再保險行ふべからざる乎 | 社 | 說(時報) | | 二七四 |
| 大募集の利害に就て | 社 | 說(時報) | | 二七六 |
| 保險會社は犯罪行爲を誘導するや | 惣崎 貞夫 | (時報) | | 自二八六 |
| 保險監督廳の效用 | 社 | 說(時報) | | 二九一 |
| 奬來の公債時價をトし保險會社の警戒を望む | 社 | 說(時報) | | 二九三 |
| 解約防止策 | 社 | 說(時報) | | 二九七 |
| 英國に於ける保險郵便報知の話 | 玉木爲三郎 | (時報) | | 三〇〇 |
| 新保險會社の設立に就て | 樂天 居士 | (時報) | | 三〇〇 |
| 保險協會建議の結果如何 | 募集員 某 | (時報) | | 三〇〇 |
| 責任積立金の早わかり | 積 善 | 生(時報) | | 三〇〇 |
| 保險界の領土擴張 | 社 | 說(時報) | | 三〇〇 |

| 題目 | 著者 | 掲載 | 卷・ | 號 |
|---|---|---|---|---|
| 保險會社の財産運用 | 社 | 說(時報) | | 三〇一 |
| 募集員に勸む | △ △ | 生(時報) | | 三〇二 |
| 被保人の利用 | 社 | 說(時報) | | 三〇三 |
| 積立金放資と地方債 | 社 | 說(時報) | | 三〇三 |
| 利益配當附に就て | 芙 蓉 | 生(時報) | | 三〇三 |
| 保險營業上の新生面 | 社 | 說(時報) | | 三〇四 |
| 保險學者に求む | 笠井 吉夫 | (時報) | | 三〇四 |
| 連合保險の實行 | △ △ | 生(時報) | | 三〇四 |
| 被保險人の欲望 | △ △ | 生(時報) | | 三〇四 |
| 代理店主をして社員を兼任せしむるの議 | 社 | 說(時報) | | 三〇五 |
| 代理店兼營の利害 | △ △ | 生(時報) | | 三〇五 |
| 保險業者共同的意議 | 社 | 說(時報) | | 三〇六 |
| 募集員は酬ひむるや | 惣崎 貞夫 | (時報) | | 自一八三 |
| 各保險會社に告ぐ | 笠井 吉夫 | (時報) | | 自一八六 |
| 地方保險の普及方法に就て | 笠井 吉夫 | (時報) | | 二八八 |
| 京都生命の紛擾を評す | 社 | 說(時報) | | 二八九 |
| 保險官營設は眞乎 | 天野 爲之 | (時報) | | 二九〇 |
| 保險契約に於ける告知義務 | 岡野敬次郎 | (法新) | 一六・ | 自五 |
| 他人の爲にする保險契約 | 岡野敬次郎 | (法新) | 一六・ | 一〇 |
| 各保險會社の警戒を望む | 社 | 說(時報) | | 二六五 |
| 歐米諸大學に於ける保險講義 | 麻生義一郎 | (時報) | | 二七二 |
| 監査役の不能 | 社 | 說(時報) | | 二七三 |
| 第二回保險業者大會開催の議 | 社 | 說(時報) | | 二七四 |
| 會社重役の兼議 | 社 | 說(時報) | | 二七八 |
| 募集員監督者の資格及其責務 | 惣崎 貞夫 | (時報) | | 二七八 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 近時我國に於ける保險訴訟に對する判決の進步 | 粟津 清亮（保雜） | 一一・一二六 |
| 封建時代に於ける保險的制度の一例 | 植 影 生（保雜） | 一一・一三〇 |
| 解約價格算定の方式に就て | 鴻田 秀一（保雜） | 一一・一三三 |
| 相互保險契約の法律上の性質に就て | 粟津 清亮（明學） | 一〇三 |
| 保險契約の單一觀念を論ず | 佐竹 三吾（志林） | 八・一三 |
| 營業保險に於ける保險契約者 | 志田鉀太郎（法政） | 一〇・二 |
| 保險金受取人の保護 | 佐竹 三吾（志林） | 八・自二 |

**明治四十年**

| | | |
|---|---|---|
| 代理店單獨募集の必要 | 社 説（時報） | 三〇九 |
| 教育保險に就て | 笠井 吉夫（時報） | 三〇九 |
| 保險積立金の運用 | 矢野 恒太（時報） | 三〇九 |
| 保險業者の心理的解剖 | トンチン生（時報） | 三一〇 |
| 代理店に對する純益金の配當 | 社 説（時報） | 三一一 |
| 保險協會幹部諸君に謀る | 笠井 吉夫（時報） | 三一一 |
| 保險大會開會好機 | 本 領（時報） | 三一三 |
| 保險代理店の出張所に就て | 笠井 吉夫（時報） | 三一三 |
| 保險演習に於ける希望 | 春 浦 生（時報） | 三一三 |
| 我保險界の政治的活動 | 本 領（時報） | 三一五 |
| 中流保險會社の合同如何 | 松 堂（時報） | 三一五 |
| 保險金割增制 | 保險 道人（時報） | 三一五 |
| 保險會社の幹部員に地方巡視を勸む | 本 領（時報） | 三一七 |
| 勸業銀行法改正と保險法 | 水 上 生（時報） | 三一八 |
| 保險約款の改定を促す | 肅 軒 生（時報） | 三一八 |
| 保險法規改正の不能 | 本 領（時報） | 三一九 |
| 保險協會改革私見 | 露 の 子（時報） | 自三一九 |
| 代理店會議 | 肅 軒（時報） | 三一九 |
| 保險大會議題二三 | 本 領（時報） | 三二〇 |
| 保險事業は今尙試驗時代にあり | 蘆洲 漁人（時報） | 三二〇 |
| 代理店活動策 | 笠井 吉夫（時報） | 三二〇 |
| 第二回保險大會の價値 | 本 領（時報） | 三二一 |
| 保險業に對する一大謬見 | 蘆洲 漁人（時報） | 三二一 |
| 拂込濟證券の轉用 | 笠井 吉夫（時報） | 三二一 |
| 募集上の要事 | 石 荻 臺（時報） | 三二二 |
| 約款準則の立按を望む | 謙 堂（時報） | 三二二 |
| 保險料の割引 | 本 領（時報） | 三二三 |
| 銀行預金保險制 | 乘竹孝太郎（時報） | 三二三 |
| 保險會社の共同放資 | 阿部 泰藏（週報） | 三二三 |
| 鐵道共濟組合の問題 | 本 領（時報） | 三二四 |
| 全家保險契約に對する一大便法なきや | 松 堂（週報） | 三二四 |
| 保險料の繰上拂を奬勵すべし | 笠井 吉夫（時報） | 三二五 |
| 地方總代理店の設置 | 笠井 吉夫（時報） | 三二七 |
| 保險課の干渉癖 | 本 領（時報） | 三二八 |
| 保險會社の檢査 | 本 領（時報） | 三二九 |
| 日佛協約も我保險業 | 本 領（時報） | 三三〇 |
| 主務省の檢査に就て | 肅 軒 生（時報） | 三三〇 |
| 保險業者法律調査に就いて | 肅 軒 生（時報） | 三三〇 |
| 解散會社清算事務の監督 | 本 領（時報） | 三三一 |
| 滿韓方面に於ける我保險業 | 本 領（時報） | 三三二 |
| 保險會社の營業振に對する誤解 | 高勢 友吉（時報） | 三三二 |
| 保險界の二大患 | 本 領（時報） | 三三三 |
| 韓國事變と保險業 | 本 領（時報） | 三三四 |
| 我國に於ける保險思想の淵源に就て | 津村 靜堂（時報） | 三三六 |
| 保險當業者と在外日本人の員數調査 | 本 領（時報） | 三三七 |
| 商號論（徵兵保險株式會社の商號を論ず） | S 生（時報） | 三三七 |
| 保險業者の海外視察と補助費 | 水賓 漁長（時報） | 三三八 |
| 保險金支拂に就て | 本 領（時報） | 三四〇 |
| 水曜會發達小史 | 惣崎 貞夫（時報） | 自三四〇 |
| 危險なる保險會社 | 本 領（時報） | 三四三 |
| 銀行集會所と保險集會所 | 栗 水 生（時報） | 三四三 |
| 解約防止の攻究 | 本 領（時報） | 三五〇 |
| 保險倶樂部の設立を促す | 一從業者（時報） | 三五〇 |
| 祕密主義を廢せ | 本 領（時報） | 三五三 |
| 保險會社の衞生 | 本 領（時報） | 三五四 |
| 保險業と新聞記者 | 栗 水 生（時報） | 三五四 |
| 解約の原因と防止方法に就て | J・K 生（時報） | 三五四 |
| 不良募集員に對する制裁 | 萩臺 散士（時報） | 三五五 |
| 近世の保險問題 | マーネス 河田 烈（國家） | 二一・一 |
| 保險學理と救濟組合 | 粟津 清亮（志林） | 九・一一 |
| ビブキン氏の保險時論 | 粟津 清亮（保雜） | 自一四四 |



| | | |
|---|---|---|
| 保險契約の性質 | 佐竹 三吾（法新） | 一七・九 |
| 重複保險の場合に於ける保險者の責任に付て | 佐竹 三吾（法新） | 一七・自七 |
| 保險上重要なる事項を論ず | 野村 嘉六（法律） | 四二八 |
| 契約の消滅に際し保險料の未拂分を收納せざる方法に就いて | 松崎故一郎（保雜） | 一三六 |
| カピタン「第三者に對する保險者及被保險者の求償權」譯 | 竹山 三朗（明學） | 一一三 |
| 保險の銀行業に於ける關係 | 山室 宗文（國家） | 二一・一一 |

**明治四十一年**

| | | |
|---|---|---|
| 特別危險に對する保險料 | 玉木爲三郎（保雜） | 一三・一四八 |
| 保險料集金の慣習に就て | 粟津 清亮（時報） | 三五六 |
| 統計の應用 | 麻生義一郎（時報） | 三五八 |
| 保險會社資產運用機關の設立を促す | 本 領（時報） | 三五九 |
| 慣習の性質を論じ守屋事件に及ぶ | 猶存書屋主人（時報） | 三五九 |
| 保險官督の兆？ | 本 領（時報） | 三六〇 |
| 保險中央銀行設立に關する予が主張 | 曾根 季作（時報） | 自三六〇 |
| 保險業官督の提案 | 本 領（時報） | 三六一 |
| 保險官督建議案に對する意見 | 駒田龜太郎（時報） | 三六四 |
| 保險官督問題に關し一般被保險者並に代理店諸君に告ぐ | 曾根 季作（時報） | 自三六五 |
| 保險官督建議案否決に就き | 微 羇 公（時報） | 三六七 |
| 保險監督機關の獨立 | 本 領（時報） | 三六七 |
| 保險官督論の根本的意義 | 本 領（時報） | 三七一 |
| 保險協會の推薦せる候補者及保險業者 | 微 羇 公（時報） | 三七三 |
| 保險協會家屋新築問題如何 | 本 領（時報） | 三七九 |
| 保險業上の二大流派 | 本 領（時報） | 三八〇 |
| 保險整理の第一着手 | 本 領（時報） | 三八六 |
| 外務員の待遇を改良せよ | 高 蹈 子（時報） | 自三九〇 |
| 保險會社廓清すべし | 高 蹈 子（時報） | 自三九四 |
| 保險會社の貸附利子に就て | 小 膽 子（時報） | 三九七 |
| 清國の保險事情 | 坂本 豊彦（時報） | 自三九八 |
| 保險營業に就て | 城川 善藏（時報） | 四〇〇 |
| 保險敎育の機關に就て | 粟津 清亮（時報） | 四〇〇 |
| 本邦保險業官督の得失を論ず | 田內 幸治（時報） | 四〇〇 |
| 本邦保險業官督の得失を論ず | 小林 花鳥（時報） | 四〇〇 |
| 三連保險料受取證に就て | 惣崎 貞夫（時報） | 自四〇一 |
| 責任準備金運用の方針 | 本 領（時報） | 四〇三 |
| 戰爭の危險に對する官督保險並に國家補償の議に就て | 藤本幸太郎（國經） | 五・六 |
| 保險官督に就て | 駒田龜太郎（東經） | 自五七・一四三一 |
| ワグナー氏保險政策論を讀む | 粟津 清亮（保雜） | 自一三・一四四 |
| 支那に於ける保險思想に就て | 粟津 清亮（保雜） | 一三・一四八 |
| 米國に於ける生命保險の研究 | 石川 文吾（國經） | 五・四 |
| 米國生命保險會社の資產運用 | 鈴木 太郎（保雜） | 自一三・一四四 |
| 保險官督反對論 | 飛 島 生（時報） | 三七二 |
| 混合保險を論ず | 石川 文吾（國經） | 五・三 |
| 數學的危險に就て | 奥村 英夫（保雜） | 一三・一四九 |

**明治四十二年**

| | | |
|---|---|---|
| 保險課長の人選を論じて經世老人に答ふ | 本 領（時報） | 四〇七 |
| 外務員を慰め且つ贊む | 深谷高蹈子（時報） | 四〇八 |
| 非官督保險論 | 吉谷 伊平（時報） | 四一三 |
| 保險會社の特別準備金に就て | 伊藤萬太郎（時報） | 四一三 |
| 保險會社檢査の精神 | 本 領（時報） | 四一四 |
| 再び解約防止に就き | 楢橋 白岱（時報） | 四一四 |
| 保險契約による解約價格請求權の消滅時效を論ず | 美 龍 生（時報） | 四一四 |
| 保險學者マーネス氏の來遊を歡迎す | 本 領（時報） | 四一六 |
| 保險會社の檢査に對する誤解 | 本（望天生）領（時報） | 四一七 |
| 保險界の人物養成問題 | 本 領（時報） | 四一八 |
| 第六回萬國保險學會と阿部泰藏君 | 微 羇 公（時報） | 四一八 |
| 外勤員に要する外交術に就て | 本名 鶴吉（時報） | 四一八 |
| 保險業者に活動を勸む | 本 領（時報） | 四二一 |
| 保險會社銀行會社の檢査に就き | 微 羇 公（時報） | 四二三 |
| 保險會社外務員の聯務に就て | 世 民 生（時報） | 四二三 |
| 北陸三縣の保險業と經濟一斑 | 淡 水 生（時報） | 自四二三 |
| 地方保險從業者に課る | 本 領（時報） | 四二六 |

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險事業の性質を論じ當業者並に主務省に望む | 本　領(時報) | 自四二八 |
| 保險料の割引を排す | 本　領(時報) | 四三〇 |
| 保險代理者成功策 | 相良　常雄(時報) | 自四三〇 |
| 保險的領土擴張の必要を論ず | 本　領(時報) | 自四三五 |
| 責任準備金の保存運用に就て | ゾン子生(時報) | 四三九 |
| 保險業者と商略 | 本　領(時報) | 四四〇 |
| 保險法の改正に就て | 本　領(時報) | 四四三 |
| 相互組織と株式組織の優劣 | 粟津　清亮(時報) | 自四四八 |
| 大阪の保險團體と京都の保險團體 | 徵猶　公(時報) | 四四九 |
| 行政整理と保險會社の淘汰法 | 北　雷　生(時報) | 四五三 |
| 保險の範圍 | 粟津　清亮(時報) | 四五三 |
| 保險會社の投資 | 川村　直成(東經) | 五九・一四九六 |
| 學士社會は對する保險的救濟の必要と其方法 | 粟津　清亮(國家) | 二三・七 |
| 保險會社の資本金と供託金に就て | 石川　文吾(國經) | 六・五 |
| 本邦保險會社の營業成績 | (國經) | 六・五 |
| 定額保險法を論ず | X・R　生(保雜) | 一四・一五三 |
| 保險の萬國共通 | マーネス(保雜) | 一四・一五五 |
| 株式保險會社の組織變更に就て | 粟津　清亮(保雜) | 一四・一五六 |
| 募集員論 | 惣崎　貞夫(保評) | 二・一 |
| 現時の保險政策 | 粟津　清亮(保評) | 二・一 |
| 保險と銀行業との關係 | 山室　宗文(保評) | 二・二 |
| 保險會社の資産運用法を論ず | アラフアア ロヴッチ(保評) | 二・五 |
| 保險業と振替貯金 | 下村　宏(保評) | 二・七 |
| 獨逸保險契約法 | 毛戸　勝元(京法) | 四・自一 |
| 獨逸帝國保險法草案に就て | ロジーン(國家) | 二三・八 |
| 獨逸新保險契約法 | 青木　徹二(保雜) | 一四・一五六 |
| 獨瑞保險契約法 | 毛戸　勝元(京法) | 四・自一 |
| 再保險契約の法律上の性質 | 北田彥三郎(法新) | 一九・一〇 |

**明治四十三年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險會社新設熱と其計畫者の用意 | 本　領(時報) | 四五八 |
| 保險會社の財産運用方法如何 | 崑崙　山人(時報) | 四六二 |
| 保險會社と其財産投資 | 本　領(時報) | 四六三 |
| 保險會社の經營者に望む | 本　領(時報) | 四六五 |
| 保險會社の新設反對論 | 本　領(時報) | 四六六 |
| 保險會社の外勤者の人選に就て | 本　領(時報) | 四六七 |
| 外國保險會社の活躍 | 本　領(時報) | 四六八 |
| 保險從業者は保險思想の普及を忘るべからず | 愚　公(時報) | 四六八 |
| 保險會社經營者に望む | 本　領(時報) | 四六九 |
| 保險會社主腦者の反省を促す | 「社設」溫峰(時報) | 四七二 |
| 保險代理店に就て | 鳳　舟(時報) | 自四七二 |
| 保險會社の經營策 | 本　領(時報) | 四七五 |
| 所謂保險料率の引上に就て | 淡　水　生(時報) | 四七七 |
| 保險會社の相互監督 | 鳳尾軒主人(時報) | 四七九 |
| 保險會社と財政機關 | 本　領(時報) | 四八一 |
| 保險の契約繼續は人心をして倦まざらしむるに在り | 西　海　生(時報) | 四八六 |
| 保險金受取後の運用狀況 | 崑崙　生(時報) | 四八六 |
| 保險會社果して多きに失するか | 本　領(時報) | 四八七 |
| 新契約停止に就て | 本　領(時報) | 四八九 |
| 機關銀行を設立せよ | 本　領(時報) | 四九二 |
| 保險會社の保險 | 矢野　恒太(時報) | 自四九二 |
| 保險會社外勤者の猛省を促す | 本　領(時報) | 四九八 |
| 保險と立法政策 | 水口　吉藏(法新) | 自六一七 |
| 保險事業の組織に就て | 磐川　文吾(國經) | 九・三 |
| 海員の保護及保險を論ず | 堀　光龜(國經) | 八・四 |
| 保險の心理及び倫理 | 粟津　清亮(保雜) | 一五・一六八 |
| 保險會社財産利用方法の發達 | 伊藤萬太郎(保評) | 三・一 |
| フプカ「保險契約の觀念」譯 | 久須美平松(法協) | 二八・八 |

**明治四十四年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 海員の地位改善策としての保險 | 堀　光龜(時報) | 四九九 |
| 新設會社をして事業方法書に依らしめん事を主務省に望む | 村上　定(時報) | 四九九 |
| 殖民と保險 | 關屋祐之介(時報) | 四九九 |
| 興信所と保險 | 關屋祐之介(時報) | 四九九 |
| 保險會社の秘密主義を排す | 本　領(時報) | 四九九 |
| 收入保險料と營業費 | 白　眼　生(時報) | 四九九 |
| 朝鮮保險界の前途奈何 | 本　領(時報) | 四九九 |
| 相互と株式 | 崑　崙　子(時報) | 自四九九 |
| 保險界の群雄割據 | 本　領(時報) | 自四九九 |
| 保險業法改正に就て | 本　領(時報) | 四九九 |



| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險の範圍を擴張せよ | 本　領(時報) | 四九九 |
| 保險界の積極主義 | 本　領(時報) | 四九九 |
| 料率維持とプローカー | 本　領(時報) | 四九九 |
| 我保險界の人物一新策 | 本　領(時報) | 四九九 |
| 保險界の進取主義 | 本　領(時報) | 四九九 |
| 保險思想普及策 | 本　領(時報) | 四九九 |
| 再び被保險者の同志に就て | 野守　廣(保評) | 四・二 |
| 告知義務に關する法規の改正に就て | 松本　烝治(法協) | 二九・二 |
| 保險會社の商號 | 若鷄　生(協會) | 一・一 |
| 千九百十年加奈陀保險條例(資料) | (協會) | 一・二 |
| 告知義務の規定(商法改正案を評す) | 高野　金重(保評) | 四・二 |
| 告知義務に關する法規の改正に就て | 松本　烝治(法協) | 二九・二 |
| 強制保險存立の範圍を論ず | 松崎　壽(日經) | 一〇・三 |
| 保險の起源に就きて | 石川　文吾(國經) | 一一・二 |
| 保險種類論 | 三浦　義道(法協) | 二九・自六 |
| 保險會社の計算公示の責任に就て | 石川　文吾(國經) | 一〇・一 |
| 保險官營論を排す | 松崎　壽(國經) | 一一・一 |
| 歐洲に於ける保險監督 | 原島　茂(保雜) | 一六・自一七三 |
| 利差より生ずる剩餘金 | 惣崎　貞夫(保雜) | 一六・一七四 |
| 附加保險料より生ずる剩餘金 | 惣崎　貞夫(保雜) | 一六・一七三 |
| グリーン教授の保險詐欺論 | 原島　茂(保雜) | 一六・自一七四 |
| 解約より生ずる剩餘金 | 惣崎　貞夫(保雜) | 一六・一七五 |
| 最近に顯はれたる保險證券を論じて我國保險界の狀態に及ぶ | 三浦　義道(保雜) | 一六・一七六 |
| 保險の本質を論ず | 三浦　義道(保雜) | 一六・一七七 |
| 剩餘金の分配に就て | 惣崎　貞夫(保雜) | 一六・一七七 |
| トンチン保險に就て | 惣崎　貞夫(保雜) | 一六・一七九 |
| 救濟組合と死亡財團 | 三浦　義道(保雜) | 一六・一八〇 |
| 保險勸誘員に對する經費 | ホルコムブ(保評) | 四・自一 |
| 保險の定義を論ず | 關伊右衛門(保評) | 四・自八 |
| 保險事業の普及策(講演) | 島村他三郎(保評) | 四・九 |
| 我國危險事業の濫觴(講演) | 澁澤　榮一(保評) | 四・九 |
| 獨逸帝國保險業法 | (保評) | 四・自五 |
| 加奈陀の保險業法改正案 | 麻生義一郎(保雜) | 一六・一六九 |
| 歐洲に於ける保險教育 | 原島　茂(國經) | 一一・四 |
| 保險契約に因りて生じたる權利の移轉と保險の目的の移轉 | 岡野敬次郎(法協) | 二九・一 |
| 證書と權利 | 岡野敬次郎(保評) | 四・一 |
| 模範普通保險約款を讀む | 石　房吉(保評) | 四・三 |
| 保險金受取人變更問題 | 實成　亮平(保評) | 四・三 |
| 被保險者の同意問題補遺 | 野守　廣(保評) | 四・八 |
| 伊太利に於ける保險官營問題と其國論 | ルンド・シアウ(保評) | 四・八 |
| 英國の郵便局保險に就て | 伊藤萬太郎(保評) | 四・三 |
| 英國國民保險法案に就て | 瀧谷　善一(國經) | 一一・自三 |
| 英國新會社法 | 相良　常雄(保雜) | 一六・自一六九 |
| 英國プールンシァアル生命保險會社の狀態 | 三浦　義道(保雜) | 一六・一七九 |
| 獨逸に於ける國立勞働保險 | 三浦　義道(保評) | 四・一 |
| 獨逸私營保險業の集中を論ず | 關伊右衛門(國經) | 一一・自一 |

**明治四十五年—大正元年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 憂ふべき保險會社の增設 | 志田法學士(時報) | 四九九 |
| 非協會會社に勸む | 本　領(時報) | 四九九 |
| 保險業法改正案 | 本　領(時報) | 四九九 |
| 保險業關係の議員候補者 | 本　領(時報) | 四九九 |
| 獨逸小口傷害保險組織 | 資　料(時報) | 自四九九 |
| 新時代と保險 | 本　領(時報) | 自四九九 |
| 相互株式の長短に就て | 形　山　生(時報) | 自四九九 |
| 西濠洲に於ける保險業 | 資　料(時報) | 四九九 |
| 新會社の處置 | 本　領(時報) | 四九九 |
| 保險事業經營に對する苦言 | 一會社員(時報) | 四九九 |
| 米國保險年鑑發行 | 資　料(時報) | 自四九九 |
| 米國經驗表編成の議 | 資　料(時報) | 四九九 |
| 保險會社濫設 | 曾根　淡水(時報) | 自四九九 |
| 生命保險經營史論 | 資　料(時報) | 四九九 |
| 保險會社の廣告 | 本　領(時報) | 四九九 |
| 空中飛行と保險 | 資　料(時報) | 六〇〇 |
| 保險の本質を論じて勞働保險强制の必要を補說す | 石川　文吾(日經) | 一一・四 |
| 保險の本質を論ず | 三浦　義道(保雜) | 一七・一八二 |
| 政正商法と保險規定 | 粟津　清亮(保雜) | 一七・自一八三 |
| エゼント制度を論ず | 三浦　義道(保雜) | 一七・一八五 |

| 題目 | 著者（誌名） | 卷・號 |
|---|---|---|
| 石川教授の「保險本質論」を難ず | 小山哲四郎（保評） | 五・五 |
| 獨逸に於ける保險事業免許の條件 | 三浦 義道（保雜） | 一七・一八六 |
| 獨逸に於ける保險に關する立法 | 眞銅芳太郎（保雜） | 一七・自一八六 |
| 「ミュンヘン」市保險展覽會 | 眞銅芳太郎（保雜） | 一七・一九二 |
| 北米ウイスコンシン洲に於ける州立保險 | 小池幸太郎（保評） | 五・八 |
| 營業保險料算定の一案 | 龜田豊治朗（保評） | 五・四 |
| 特別危險に對する割增保險料 | ヘツクナー（保評） | 五・一一 |
| 保險金受取人の權利を論ず | 難波誠四郎（保評） | 五・自六 |
| 解約價格論 | 龜田豊治朗（保評） | 一七・一八七 |
| 保險業法中改正法律案要綱に就て | 島村他三郎（保評） | 五・二 |
| 改正保險業法解說 | 島村他三郎（保評） | 五・四 |
| 改正保險約款實施に就て | 伊藤萬太郎（協會） | 一・三 |
| 保險業法中改正法律逐條說明 | 島村他三郎（協會） | 一・四 |
| 經濟學上より見たる「保險」 | 大原 祥一（保評） | 五・一〇 |
| 最近保險數理叢論 | 龜田豊治朗（保雜） | 一七・自一八九 |
| 國際上より觀たる保險事業の國脅主義に就て | 原島 茂（保雜） | 一七・自一九一 |
| 保險約款の自殺規定に就て | 岩田 宙造（保評） | 五・八 |
| ゾーレルン「指數を以て各觀的に營業狀態を決定せんと欲するオツペンハイメル氏法に就て」譯 | T・K 生（保評） | 五・一〇 |

## 大正二年

| 題目 | 著者（誌名） | 卷・號 |
|---|---|---|
| 事業特に保險事業經營の根本要義 | 島村他三郎（時報） | 六〇二 |
| 獨逸と我國の保險事業の比較 | 粟津 清亮（時報） | 六一二 |
| 一種の保險料割引法 | 岩間 六郎（時報） | 六〇二 |
| 保險業者覺醒の時機 | 本 領（時報） | 自六〇四 |
| 保險事業の組織に就て | 匿 名 子（時報） | 自六二二 |
| 募集員と保險數理 | 天王 山人（時報） | 六二二 |
| 保險界に仍ほ秩序あり | 本 領（時報） | 六三〇 |
| 朝鮮供託金問題に就て | 曾根 淡水（時報） | 六三〇 |
| 新西蘭に於ける官營保險業と民營保險業の實驗 | モーリス・ベローム（時報） | 自六三〇 |
| 保險業大會開催の準備を促す | 本 領（時報） | 六三三 |
| 貯金銀行と類似保險 | 本 領（時報） | 自六三四 |
| 代理店改善の必要 | 本 領（時報） | 六三八 |
| 誤れる保險會社檢査の方針 | 本 領（時報） | 六三九 |
| 代理店改善策如何 | 本 領（時報） | 自六四〇 |
| 商業的保險に就て | 粟津 清亮（保雜） | 一八・二〇一 |
| 國家經濟と保險 | 粟津 清亮（法新） | 八五四 |
| 保險會社濫興の弊と保險濫高の害を論ず | 粟津 清亮（保雜） | 一八・自一九四 |
| 美術價値愛惜價値の保險に及ぼす關係に付きガイエル博士の所感 | 眞銅芳太郎（保雜） | 一八・自一九五 |
| 保險株の暴騰は果して合理的なるか | 粟津 清亮（保雜） | 一九八 |
| 特種保險數則 | 眞銅芳太郎（保雜） | 一八・自二〇五 |

| 題目 | 著者（誌名） | 卷・號 |
|---|---|---|
| 團體保險（Group insurance）に就て | 小池幸太郎（保評） | 六・一 |
| 保險會社に對する訴訟事件の裁判籍 | 太平 學人（保評） | 六・二 |
| 保險領域問題に關する實際的研究 | ブライヘル（保評） | 六・自七 |
| 保險の意義に關する新說（講演） | 志田鉀太郎（保評） | 六・一〇 |
| 保險に對する社會道德の低調（講演） | 粟津 清亮（保評） | 六・一〇 |
| 東京市の保險問題 | 阪谷 芳郎（保評） | 六・一〇 |
| 我商法に於ける危險告知義務者 | 水口 吉藏（保評） | 六・八 |
| 告知義務に付て | 松本 烝治（保評） | 六・九 |
| 我商法に於ける保險の危險告知義務者 | 水口 吉藏（評論） | 二・一一 |
| 告知義務に付て | 松本 烝治（評論） | 二・一三 |
| 再び告知義務に就き | 水口 吉藏（評論） | 二・一五 |
| 第三者の過失に因り保險の目的に生じたる損害賠償請求權の行使 | 加藤 正治（時報） | 自六四一 |
| 獨逸の保險教育 | 牧野 寶一（協會） | 二・三 |
| 保險業法の改正に就て | 松本 烝治（協會） | 二・四 |
| 再保險の研究 | 安東 德男（協會） | 自三・二 |

## 大正三年

| 題目 | 著者（誌名） | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險界に茶話會の習慣を作れ | 粟津 清亮（時報） | 六五一 |
| 斯界一變の期漸く近し | 岩間 六郎（時報） | 六五一 |
| 責任準備金積立に就て | 窪田隆次郎（時報） | 六五一 |
| 保險營業權の性質を明にせよ | 本 領（時報） | 六五一 |
| 憂ふべき保險界の新流行 | 本 領（時報） | 自六六六 |



| 題目 | 著者（誌名） | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險の經濟學上に於ける地位 | 松崎 壽（時報） | 自六七〇 |
| 保險契約の觀念 | ヨセフフプカ 小島昌太郎譯（時報） | 自六八五 |
| 保險料率の動搖 | 本 領（時報） | 六八七 |
| 英國國民保險稅の農業經濟に於ける轉嫁問題 | ダブリユービー・アシユ 小島昌太郎譯（時報） | 自六八七 |
| 戰爭と保險 | 本 領（時報） | 六九三 |
| 米國プールデンシヤル保險會社の組織改造に際し用ひられた評價法（譯） | 寺田 生譯（時報） | 自六九五 |
| 貧弱會社の越年難 | 本 領（時報） | 六九七 |
| 米價の低落と保險 | 本 領（時報） | 六九八 |
| 加奈陀に於ける下級使用人口に對する保險教育普及の方法 | 小池幸太郎（時報） | 六九九 |
| 米國マサチューセッツ州に於ける貯蓄銀行の小口保險 | 麻生義一郎（協會） | 四・一 |
| 伊太利の原始保險史と現代の立法例 | 高辻 亮一（協會） | 四・一 |
| 保險會社の破產に付て | 松本 烝治（協會） | 四・二 |
| 戰爭危險の保險に就て | 原島 茂（協會） | 四・二 |
| 責任準備金の計算方式に就て | 磯野 正登（保雜） | 一九・二一〇 |
| 保險契約の種類又は保險料拂込の期間を變更したる場合保險業者が受取るべき補收金の算出式 | 森村 金造（保雜） | 一九・二一五 |
| フプカの保險學說 | 小島昌太郎（京法） | 九・九 |
| 婦人と保險 | 粟津 清亮（國經） | 一七・自五 |
| 戰時保險官營論に就て | 藤本幸太郎（國經） | 一七・自四 |

| 題目 | 著者（誌名） | 卷・號 |
|---|---|---|
| 近世保險に於ける問題 | 三浦 義道（保雜） | 一九・二二一 |
| 歐洲戰亂の保險事業に及ぼす影響に就て | 粟津 清亮（保評） | 一九・二二六 |
| 保險募集の要訣 | 海老原介太郎（保評） | 七・一 |
| 教育保險の急務を論ず | 辻 新次（保評） | 七・一 |
| 保險の意義に關する新意義に就て | 關伊右衛門（保評） | 七・三 |
| 保險の本質を論じて會社の選擇に及ぶ | 泉 隆一（保評） | 七・四 |
| 保險業の發達に就て（講演） | 大隈 重信（保評） | 七・六 |
| 組合保險の意義と其特色 | 關伊右衛門（保評） | 七・八 |
| 保險事故の招致と保險者の責任 | 水口 吉藏（保評） | 七・自三 |
| 我商法に於ける被保險者の地位 | 水口 吉藏（法律） | 九二七 |
| 保險事故の招致と保險者の責任 | 水口 吉藏（法新） | 二四・自二三 |
| 保險約款の保險契約者に對する效力 | 水口 吉藏（評論） | 二・二四 |

## 大正四年

| 題目 | 著者（誌名） | 卷・號 |
|---|---|---|
| 本年は保險界整理時代 | 本 領（時報） | 七〇一 |
| 保險金額の增加と被保險人員の增加に付て | 粟津 清亮（時報） | 七〇一 |
| 豫定新契約高算出の基礎 | 岩間 六郎（時報） | 七〇一 |
| 募集費と支出と懸賞募集 | 宇井 孝三（時報） | 七〇一 |
| 英國に於ける保險事業の發展の趨勢 | 杉 村 生（時報） | 七〇三 |
| 外勤員假拂の性質及其運用に就て | 廣 田 生（時報） | 七〇四 |

| 題目 | 著者（誌名） | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險勸誘の惡傾向を感じて外交員諸子の紳士的態度を渴望す | 廣 田 生（時報） | 七〇八 |
| 財界の狀勢と保險界 | 本 領（時報） | 自七一〇 |
| 保險競爭の必要程度及監督方法を論ず | 吉村 鷹夫（時報） | 自七一三 |
| 被保險者選擇法の改良を促す | 天王 山人（時報） | 七一七 |
| 銀行保險業類似會社の取締に就て | 津村 靜堂（時報） | 七一八 |
| 保險使用人の制裁問題 | 本 領（保險） | 七二三 |
| 保險會社競爭の要弊 | 本 領（時報） | 七二五 |
| 外勤員自衛策 | 本 領（時報） | 自七四五 |
| 萬國保險大會と我保險業者 | 本 領（時報） | 七二六 |
| 保險會社の協同的精神 | 本 領（時報） | 七二七 |
| 保險思想普及の一策 | 本 領（時報） | 七二八 |
| 保險會社の資本金に就て | 本 領（時報） | 七三二 |
| 保險界不振と政府當局 | 本 領（時報） | 七三三 |
| 保險業と社會政策 | 本 領（時報） | 七三四 |
| 保險界の一疑獄 | 本 領（時報） | 七三五 |
| 未收保險料の計算 | 中 村 生（時報） | 七三五 |
| 保險會社檢査と當局 | 本 領（時報） | 一、七三六 |
| 國際的保險に就て | ロイス博士（時報） | 自七三七 |
| 世界の平和と保險 | 本 領（時報） | 七三九 |
| 保險業者の試金石 | 本 領（時報） | 七四七 |
| 保險取締法と當業者 | 本 領（時報） | 七四七 |
| 保險と罪惡 | 中濱東一郎（協會） | 四・三 |
| ルイ・シュモル氏の保險官營反對論 | 原島 茂（時報） | 四・三 |
| 保險會社の檢査 | 原島 茂（時報） | 四・四 |
| 責任準備金の實算 | 龜田豊治朗（時報） | 五・一 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 我商法上損害保險と生命保險とを綜合する保險契約の統一觀念を認むるや | 志田鉀太郎（評論） | 四・一七 |
| 再保險の意義 | 三浦義道（保雜） | 二〇・二三五 |
| 危險の更增加の效果に關する疑義 | 水口吉藏（法新） | 二五・一〇 |
| 危險增加の效果に對する保險立法の主義 | 青山衆司（法新） | 二五・一一 |
| 戰時保險料負擔者如何 | 田崎愼治（國經） | 一九・三 |
| 保險と其目的の上に存する擔保權 | 松本烝治（評論） | 四・一 |
| 再び保險官營に就きて | 矢野恒太（國經） | 一八・四 |
| 保險官營問題に對し矢野恒太君の社會政策學會に對する妄言を斥く | 福田德三（國經） | 一八・五 |
| 失言を謝し福田博士に答ふ | 矢野恒太（國經） | 一八・六 |
| 保險學說の發展 | 小島昌太郎（經論） | 自一・六 |
| 三浦法學士著保險事業論 | 嶧道文藝（京法） | 一〇・一〇 |
| 保險事業成績の觀察方法如何 | 龜田豐治朗（保雜） | 二〇・二三二 |
| プロバビリチーと云ふ字の譯字 | 森莊三郎（保雜） | 二〇・二三八 |
| 伊太利に於ける生命保險官營問題を論ず | 三浦義道（法協） | 三三・五 |
| 英國に於ける國營戰爭保險制度 | 瀧谷善一（國經） | 自一八・一 |
| 戰亂に伴ひて生じたる英國保險界の諸問題 | 三浦義道（保雜） | 二〇・二二九 |
| 附加保險料の算出方法 | 森村金造（保雜） | 二〇・二三一 |
| 保險料の可分性 | 金子喜代太（保雜） | 二〇・二三六 |
| 保險契約者の負擔せる通知義務に就て | 青山衆司（法新） | 二五・自一 |
| 英國に於ける國立保險と任意保險との經濟的關係 | 生産調査會（經新） | 一八・二 |
| **大正五年** | | |
| 戰後の經濟界と保險 | 小文生（時報） | 七五二 |
| 在米同胞社會と保險 | 永井元（時報） | 七六〇 |
| 實業道德を無視する保險會社 | 本領（時報） | 七六七 |
| 保險時代來らんとす | 本領（時報） | 七七九 |
| 保險とは何ぞ | 長谷川貞光（時報） | 自七七九 |
| 有效の保險勸誘法 | 本領（時報） | 七八一 |
| 安全第一主義と保險 | 本領（時報） | 七八三 |
| 外勤員の奮起を促す | 長谷川貞光（時報） | 七九二 |
| 外勤員大同盟を作れ | 澱江漁史（時報） | 七九三 |
| 保險本質論 | 小島昌太郎（經論） | 三・自一 |
| フュルゼーの保險新設を評す | 小島昌太郎（保雜） | 二三九 |
| 保險と偶發性 | 小島昌太郎（經論） | 二・四 |
| 保險信託事業と保險事業の關係を論ず | 粟津淸亮（國家） | 三〇・九 |
| 國民保險時代の到來を論ず | 社說（洋經） | 自七三五 |
| 保險經營上の「マキアベリズム」 | （保評） | 九・自六 |
| 再保險の企業組織及び事務組織に就きて | 三浦義道（保雜） | 二三五 |
| 投機、賭博、保險及放資の辨 | 粟山藤吉（商經） | 一 |
| 保險事故に因る損害と利益との相消 | 水口吉藏（法新） | 二六・六 |
| プロバビリチーと云ふ字の譯語に就て | 粟津淸亮（保雜） | 二三七 |
| 獨逸に於ける利益配當附保險 | 中松盛太郎（保評） | 六・自二 |
| 世界戰爭と獨逸の保險制度 | 寺田四郎（國家） | 三〇・自五 |
| 墺國海員保險法草案 | 武田藏之助（法協） | 三四・三 |
| 普通保險約款不知の判決に就て | 野守廣（保評） | 九・自八 |
| 再保險の話 | 三浦義道（保雜） | 自二三六 |
| 官營保險問題の七大奇蹟 | 志田鉀太郎（時報） | 七五〇 |
| 保險料の返還を論ず | 青山衆司（法新） | 二六・六 |
| 保險者の代位權 | 水口吉藏（法新） | 二六・一〇 |
| 倍額賠償條項 | 納賀雅友（保雜） | 二三九 |
| 告知義務違反と詐欺罪との關係 | 松本烝治（法協） | 三四・四 |
| 告知義務違反の場合に於ける解除の相手方 | 松本烝治（法協） | 三四・七 |
| 保險契約上の告知義務 | 松本烝治（法協） | 三四・一 |
| 保險醫の過失が保險者に及ぼす效果 | 松本烝治（法協） | 三四・四 |
| 普通保險約款の效力 | 松本烝治（法協） | 三四・六 |
| 保險法に於ける自殺の意義 | 松本烝治（法協） | 三四・八 |
| 普通保險約款に依る旨の申込書の記載 | 松本烝治（法協） | 三四・一一 |
| 代理店選擇の一標準 | 田中小太郎（時報） | 七五〇 |
| 世界經濟戰と保險業 | 本領（時報） | 七九七 |
| 告知義務に關する規定は强行規定か認容規定か | 水口吉藏（法律） | 一、一八二 |
| **大正六年** | | |
| 保險會社の財産利用を論ず | 宮島綱男（時報） | 自八〇四 |
| 代理店制度の障害 | 藤村義苗（時報） | 八〇四 |
| 保險業者取締案を撤廢せよ | 本領（時報） | 八一五 |
| 社會問題と保險業者 | 本領（時報） | 八一七 |
| 財界に於ける保險業の地位 | 本領（時報） | 八一八 |



| | | |
|---|---|---|
| 「保險第一」主義を宣傳せよ | 本領（時報） | 八二〇 |
| 海外發展と保險業者 | 本領（時報） | 八二七 |
| 株式市況と保險會社資産運用 | 本領（時報） | 八四七 |
| 我取引所擔保義務と保險事業との差異 | 小島昌太郎（經論） | 四・四 |
| 保險思想の普及と保險營業者 | 稻山始（東經） | 七六・一、八九〇 |
| 現代的保險の成立 | 小島昌太郎（經論） | 二・自一 |
| 保險心理論 | 小島昌太郎（商經） | 七 |
| 團體保險に就きて | 納賀雅友（保評） | 一〇・一 |
| 保險と經濟 | 小島昌太郎（保雜） | 自二四一 |
| アクチュアリーの職務と其最近の問題に就て | 粟津淸亮（保雜） | 二四一 |
| 責任準備金監査の一方法 | 龜田豐治朗（保雜） | 二四五 |
| Zx(m)表作成方法の補遺 | 森村金造（保雜） | 二四四 |
| 保險業者の貸事務所經營に就きて | 石川文吾（法新） | 二七・一〇 |
| 被保險者の債權者の地位を論じ被保險者遺族の保護に及ぶ | 水口吉藏（法新） | 二七・九 |
| 商法第四二九條の告知義務違反に關する大審院の判例に就て | 松本烝治（法律） | 一二三五 |
| 保險契約法の任意性 | 松本烝治（法協） | 三五・六 |
| 保險信託の事業と保險事業との關係を論ず | 粟津淸亮（協會） | 六・二 |
| 最近保險界の大勢 | 本領（時報） | 八四三 |
| 契約方法に由る再保險の分類 | 三浦義道（保雜） | 二四八 |
| 加奈陀保險法の綱領 | 武井俊次（保評） | 一〇・自六 |
| 契約方法に由る再保險の分類 | 三浦義道（保雜） | 二四八 |
| 保險と危險 | 小島昌太郎（經論） | 五・五 |
| 被保險者の保險料支拂義務を認むる規定と之に對する疑義 | 青山衆司（法新） | 二七・五 |
| 支拂保險金の實損害と保險料の理論的解剖 | 納賀雅友（保雜） | 二五二 |
| 保險料債務の法性を論ず | 青山衆司（法新） | 二七・九 |
| **大正七年** | | |
| 新種保險の創始を促す | 志田鉀太郎（時報） | 八五七 |
| 歐洲の再保險業 | 麻生義一郎（時報） | 八五七 |
| 有價證券投資と不動産抵當貸付 | 伊藤萬太郎（時報） | 八五七 |
| 保險外交員の養成に就て | 淺岡雄之助（時報） | 八五七 |
| 戰時利得稅と保險會社 | 社說（時報） | 八六〇 |
| 生活難と保險業 | 社說（時報） | 八六三 |
| 保險會社の資産運用 | 社說（時報） | 八七〇 |
| 保險擁護會社とは何ぞ | 社說（時報） | 八七一 |
| 經濟立國論と保險大會 | 社說（時報） | 八七三 |
| 生命保險業者大會の決議 | 社說（時報） | 八七四 |
| 保險プロパガンダ | 社說（時報） | 八七九 |
| 保險會社の榮枯盛衰 | 社說（時報） | 八七九 |
| 通貨問題と保險業 | 社說（時報） | 八八七 |
| 生活問題調査と保險業者 | 社說（時報） | 八九〇 |
| 戰爭と保險 | 伊藤萬太郎（時報） | 八九二 |
| 銀行家の保險業經營に就て | 社說（時報） | 八九三 |
| 戰爭の保險契約に及ぼす影響 | 穗積重遠（時報） | 自八九四 |
| 歐洲戰後の經濟戰と本邦保險業 | 社說（時報） | 九〇〇 |
| 平和策と今後の保險界 | 社說（時報） | 九〇二 |
| 獨逸の再保險業回復を防止せよ | 社說（時報） | 九〇三 |
| 戰爭と保險 | 森莊三郎（保評） | 一一・一 |
| 個々の契約より生ずる損害 | 龜田豐治朗（保評） | 一一・四 |
| 新設獸畜保險を論じて粟津博士の高教に對ふ | 青山衆司（法新） | 二八・一一 |
| 保險組合 | 財部靜治（法新） | 二八・自七 |
| 英國に於ける傭主責任保險事業の狀況 | 粟津淸亮（保雜） | 二五五 |
| 英國小口保險戰時死亡率 | 竹下淸松（保雜） | 二六三 |
| 英國に於ける生命保險契約 | 三浦義道（保雜） | 二六〇 |
| 合衆國軍人軍屬戰時保險法に就て | 加納久朗（國家） | 三二・自五 |
| 保險契約の要素 | 高野金重（辨協） | 二三・六 |
| 英法に於ける被保險利益の觀念 | 三浦義道（保雜） | 自二五六 |
| 徵兵危險率に就て | 玉野重次郎（保雜） | 二六四 |
| 保險者破産に對する立法主義を論じて被保險者の地位に及ぶ | 青山衆司（法新） | 二八・七 |
| 保險責任準備金及給付補塡備金は所得なりや | 小山强次（會計） | 三・六 |
| 告知義務違反の規定と詐欺錯誤の規定との關係 | 成道齊次郎（法記） | 二八・二 |
| 告知義務の目的たる事實の性質 | 松本烝治（法協） | 三六・四 |

（明治二十一年―大正九年）

生命保険文献目録・雑誌新聞論説其他・一般論

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保生世外」保険経営者と保険業者の内に「 | 政保を保険と落た財保し保損害意保ヨイア率チ計保保保を保要保の相使保 | | | | | | | | | | |
| 険人銭業者の内に「 | 府に於ける生活難（医）に | 険事会と業盟の社業の外国減米ふ | 険料作念決現務算及保む業 | 人險保険る界動で險害同業險と險理互命險 | | | | | | | |
| の脅威と國成保統の内 | 保険と險て容 | 大正十年 | | 人險保険る界動で險害同業險と險理互命險 | | | | | | | |
| 保険と險 | 志田鉀太郎（時報） | 藤渡（時報） | 栗津（時報） | 高松（時報） | 山本（時報） | 伊方（時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） |
| 保険と險 | 志田鉀太郎（時報） | 藤渡（時報） | 栗津（時報） | 高松（時報） | 山本（時報） | 伊方（時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） |

（明治二十一年―大正九年）

生命保険文献目録・雑誌新聞論説其他・一般論

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保生世外」保険経営者と保険業者の内に「 | 政保を保険と落た財保し保損害意保ヨイア率チ計保保保を保要保の相使保 | | | | | | | | | | |
| 険人銭業者の内に「 | 府に於ける生活難（医）に | 険事会と業盟の社業の外国減米ふ | 険料作念決現務算及保む業 | 人險保険る界動で險害同業險と險理互命險 | | | | | | | |
| の脅威と國成保統の内 | 保険と險て容 | 大正十年 | | 人險保険る界動で險害同業險と險理互命險 | | | | | | | |
| 保険と險 | 志田鉀太郎（時報） | 藤渡（時報） | 栗津（時報） | 高松（時報） | 山本（時報） | 伊方（時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） |
| 保険と險 | 志田鉀太郎（時報） | 藤渡（時報） | 栗津（時報） | 高松（時報） | 山本（時報） | 伊方（時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） |

（明治二十一年―大正九年）

生命保険文献目録・雑誌新聞論説其他・一般論

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保険と險の脅威と國成保統の内に「保険経営者と保険業者の内に「 | 保険と險て容 | 大正十年 | | 人險保険る界動で險害同業險と險理互命險 | | | | | | | |
| 保険と險 | 志田鉀太郎（時報） | 藤渡（時報） | 栗津（時報） | 高松（時報） | 山本（時報） | 伊方（時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） |
| 保険と險 | 志田鉀太郎（時報） | 藤渡（時報） | 栗津（時報） | 高松（時報） | 山本（時報） | 伊方（時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） |

（明治二十一年―大正九年）

生命保険文献目録・雑誌新聞論説其他・一般論

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保険と險の脅威と國成保統の内に「保険経営者と保険業者の内に「 | 保険と險て容 | 大正十年 | | 人險保険る界動で險害同業險と險理互命險 | | | | | | | |
| 保険と險 | 志田鉀太郎（時報） | 藤渡（時報） | 栗津（時報） | 高松（時報） | 山本（時報） | 伊方（時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） |
| 保険と險 | 志田鉀太郎（時報） | 藤渡（時報） | 栗津（時報） | 高松（時報） | 山本（時報） | 伊方（時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） |

（明治二十一年―大正九年）

生命保険文献目録・雑誌新聞論説其他・一般論

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保険と險の脅威と國成保統の内に「保険経営者と保険業者の内に「 | 保険と險て容 | 大正十年 | | 人險保険る界動で險害同業險と險理互命險 | | | | | | | |
| 保険と險 | 志田鉀太郎（時報） | 藤渡（時報） | 栗津（時報） | 高松（時報） | 山本（時報） | 伊方（時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） |
| 保険と險 | 志田鉀太郎（時報） | 藤渡（時報） | 栗津（時報） | 高松（時報） | 山本（時報） | 伊方（時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） | 時報） |

| 題目 | 著者 | 誌名 | 卷・號 |
|---|---|---|---|
| 現下の問題一つ二つ | 甲能　順 | 時報 | 一、〇五一 |
| 保險の貯蓄性に就て | 志田鉀太郎 | 時報 | 一、〇五九 |
| 英米保險事業の起源 | 桑原冊次郎 | 時報 | 一、〇五九 |
| 今議會の保險問題 | 社　説 | 時報 | 一、〇六一 |
| 保險募集の秘訣とは | 川船　摸 | 時報 | 一、〇六一 |
| 保險業者と銀行業者の提携 | 社　説 | 時報 | 一、〇六二 |
| 保險思想宣傳用の映畫に就て | 川船　摸 | 時報 | 一、〇六五 |
| 保險教育普及の急務 | 社　説 | 時報 | 一、〇七〇 |
| 平和博と保險宣傳 | 白　季生 | 時報 | 一、〇七〇 |
| 保險業者の社會奉仕を慫慂す | 社　説 | 時報 | 一、〇七二 |
| 保險界の新陳代謝を要望す | 社　説 | 時報 | 一、〇七三 |
| 保險契約即保健契約たらしむる新機軸 | 粗細亭主人 | 時報 | 一、〇七四 |
| ポスターと保險思想宣傳 | 川船　摸 | 時報 | 一、〇七七 |
| 査議と保險思想宣傳 | | 時報 | 一、〇七七 |
| 保險會社勤續者表彰方法 | 社　説 | 時報 | 一、〇七九 |
| 保險事業と實告法の體驗 | 川船　摸 | 時報 | 一、〇七九 |
| 後繼內閣と保險政策 | 社　説 | 時報 | 一、〇八一 |
| 財界の不況と保險界の近狀 | 社　説 | 時報 | 一、〇八三 |
| 新內閣の對保險施設如何 | 吉川洞二郎 | 時報 | 一、〇八四 |
| 保險宣傳絕好の時機 | 社　説 | 時報 | 一、〇八七 |
| 保險金不拂事故に就て | 案　堂 | 時報 | 一、〇八九 |
| 保險業者に海外視察を慫慂す | 社　説 | 時報 | 一、〇九三 |
| 戰後に於ける國際保險大會 | 吉川洞二郎 | 時報 | 一、〇九四 |

| 題目 | 著者 | 誌名 | 卷・號 |
|---|---|---|---|
| 保險調査機關充實の必要 | 社　説 | 時報 | 一、〇九五 |
| 戰時危險に就て | 久川武三 | 時報 | 自一、〇九五 |
| 保險思想と國民政策 | 社　説 | 時報 | 一、〇九六 |
| 大官の保險智識を見よ | 內山幸三 | 時報 | 一、〇九六 |
| 保險第一主義を鼓吹せよ | 社　説 | 時報 | 一、〇九七 |
| 國際保險聯盟の必要 | 社　説 | 時報 | 一、〇九八 |
| 相續稅を目的とする保險加入ありや | 山谷十三郎 | 時報 | 一、〇九九 |
| 文明國民と教育結婚兩保險 | 社　説 | 時報 | 一、一〇一 |
| 官民合同の保險宣傳に就きて | 社　説 | 時報 | 一、一〇三 |
| 商品としての保險證券 | 社　説 | 時報 | 一、一〇五 |
| 勸誘員の本領 | ウイリヤム、アレキサンダー、山谷十三郎譯 | 時報 | 自一、一〇五 |
| 保險經濟の特質 | 前田加一郎 | 商經 | 三五 |
| 保險學の勃興（保險研究の沿革的觀察） | 三浦義道 | 法新 | 三三・七 |
| 保險の可能範圍 | 森　莊三郎 | 國家 | 三六・二 |
| 保險及び銀行事業の相互化に就て | 栗津清亮 | 國經 | 三三・三 |
| 抵當權を目的としたる保險契約 | 前田加一郎 | 商經 | 二七 |
| 再保險を論じて增補額の算定に及ぶ | 原島　茂 | 商事 | 二・六 |
| 保險の哲學的研究 | 加藤越太郎 | 保評 | 一五・二 |
| 「保險は致富の道に非ず」を論ず | 青山衆司（商法論文選） | | 一 |
| 保險取締に就て | | 東經 | 二、一一〇 |
| 經濟的保險と營業的保險 | 小笠原專明 | 通信 | 二八四 |
| 使命を忘れんとする保險業者 | 難波誠四郎 | 通信 | 二八四 |

| 題目 | 著者 | 誌名 | 卷・號 |
|---|---|---|---|
| 保險經營の倫理的意義 | 山中岩次郎 | 通信 | 二九一 |
| 保險專門學校を設立せよ | 小笹正人 | 通信 | 二九二 |
| 智識階級の保險知識 | 小笹正人 | 通信 | 二九三 |
| 保險事業と朝鮮及滿洲 | 山中岩次郎 | 通信 | 二九四 |
| 保險業者大會に臨みて | 鶴見左右雄 | 通信 | 二九四 |
| 一蓮托生と保險の哲學 | 山中岩次郎 | 通信 | 二九五 |
| 政變と保險界 | 上條春樹 | 通信 | 二九五 |
| 保險事業の信用 | 社　説 | 通信 | 三〇三 |
| 契約者維持に務めよ | 小笹正人 | 通信 | 三〇五 |
| 保險醫診斷上の過失が保險業者に及ぼす影響 | 田中誠二 | 法協 | 四〇・一 |
| 法人主務官廳の免許は相互保險會社の成立要件なりや | 平野義太郎 | 法協 | 四〇・二 |
| 大連に於ける外國保險會社 | | 滿蒙 | 八五 |
| 朝鮮に於ける保險事業概況（大正九年） | | 朝鮮 | 七六 |

## 大正十二年

| 題目 | 著者 | 誌名 | 卷・號 |
|---|---|---|---|
| 事業保險を提げて | 有村丈次郎 | 時報 | 一、一一〇 |
| 保險課長代理時代の回顧 | 志田鉀太郎 | 時報 | 一、一一〇 |
| 北米合衆國に於ける保險の現在及將來 | 寺田四郎 | 時報 | 一、一一〇 |
| 資產運用上の信條 | 堀　貞 | 時報 | 一、一一〇 |
| 公債社債償還の時代 | 神田鐳藏 | 時報 | 一、一一〇 |
| 保險會社と簡易病院 | 佐藤天風 | 時報 | 一、一一一 |
| 今議會の保險問題 | 社　説 | 時報 | 一、一一四 |
| 保險關係議員團結の必要 | 社　説 | 時報 | 一、一一五 |
| 保險整理の急務 | 社　説 | 時報 | 一、一一四 |



| 題目 | 著者 | 誌名 | 卷・號 |
|---|---|---|---|
| 保險業功勞者を表彰せよ | 社　説 | 時報 | 一、一二六 |
| 國民の生活意識と保險事業を觀察して八千代生命に與ふ | 中野案堂 | 時報 | 自一、一二六 |
| 保險の宣傳と日刊新聞 | 社　説 | 時報 | 一、一二七 |
| 合同主義の時代 | 佐藤天風 | 時報 | 一、一二七 |
| 獨逸記者相互保險協會規約 | 資　料 | 時報 | 自一、一二八 |
| 免稅案の通過を圖れ | 社　説 | 時報 | 一、一二九 |
| 業務單一主張論 | 佐藤天風 | 時報 | 一、一二九 |
| 保險會社の投資 | 佐藤天風 | 時報 | 一、一三一 |
| 議會と保險業者 | 社　説 | 時報 | 一、一三三 |
| 國民生活と保險 | 中松眞卿 | 時報 | 一、一三四 |
| 保險會社の使命と投資 | 畠山陽次郎 | 報時 | 一、一三五 |
| 熾んな新種保險熱 | 社　説 | 時報 | 一、一三六 |
| 銀行から保險へ | 社　説 | 時報 | 一、一三七 |
| 保險宣傳の形式と內容 | 社　説 | 時報 | 一、一三三 |
| 生命保險宣傳と募集方法 | 岡崎樂天 | 時報 | 一、一三五 |
| 活動寫眞宣傳の傾向 | 小笹正人 | 時報 | 一、一三一 |
| 保險機關紙の使命 | 社　説 | 時報 | 一、一三三 |
| 保險業と主務省の態度 | 磯野正登 | 時報 | 一、一三三 |
| 貯金、保險、及び投資に就て | 三木茂四郎 | 時報 | 一、一三三 |
| 投資調査機關の設置に就て | 志田鉀太郎 | 時報 | 一、一三三 |
| 外務員取締規則に就て | 社　説 | 時報 | 一、一三四 |
| 保險會社の社會運動 | 春日一二 | 時報 | 一、一三四 |
| 保險事業は新聞廣告を盛んにすべし | 岡崎樂天 | 時報 | 一、一三四 |

| 題目 | 著者 | 誌名 | 卷・號 |
|---|---|---|---|
| 協會の宣傳ポスター | 社　説 | 時報 | 一、一三六 |
| 保險宣傳と保險教育 | 寺田四郎 | 時報 | 自一、一三六 |
| 保險の使命と制度の改善 | 木村雄次 | 時報 | 一、一三六 |
| 保險會社の檢査 | 社　説 | 時報 | 一、一三七 |
| 加入者奉仕の精神 | 社　説 | 時報 | 一、一三九 |
| 保險會社の內容を公開せよ | | 時報 | 一、一三九 |
| 五里霧中の無診査保險 | 社　説 | 時報 | 一、一四一 |
| 保險業者の執るべき道 | 社　説 | 時報 | 一、一四四 |
| 政治よりも保險 | 社　説 | 時報 | 一、一四五 |
| 震災氣分の輿論 | 社　説 | 時報 | 一、一四七 |
| 汗一滴の價値 | 社　説 | 時報 | 一、一四八 |
| 保險の廣告は電車內にすべし | 岡崎樂天 | 時報 | 一、一五〇 |
| 預金保險制度に就て | 春日井薰 | 銀研 | 四・一 |
| 銀行と保險の聯絡 | 荒木秀一 | 銀研 | 四・七 |
| 告知義務に關する諸問題 | 岡　五朗 | 法政 | 二〇・二 |
| 告知義務違反の要件を論ず | 三浦義道 | 法新 | 自三三・六 |
| 被保險者の告知すべき重要事實 | 田中誠二 | 法協 | 四一・六 |
| 商法第四二九條第一項但書の過失の意義 | 松本烝治 | 法協 | 四一・八 |
| 保險官營の急務 | 大室亮一 | 法律 | 二、一七三 |
| 生命保險に於ける新契約費の研究 | 伊藤梅吉 | 協會 | 三・三 |
| 富の分配と保險金 | 下村　宏 | 保評 | 一六・二 |
| 再保險を論じて增補額の算定に及ぶ | 原島　茂 | 商事 | 二・六 |
| 獨逸に於ける共同保險 | 坂本　毅 | 商事 | 四・五 |
| 保險國營不能 | 社　説 | 大每 | 一〇・二八 |

| 題目 | 著者 | 誌名 | 卷・號 |
|---|---|---|---|
| 保險の社會化 | 野津　務 | 法新 | 自三三・六 |
| 保險事業の將來 | 岡　實 | 保評 | 一六・三 |
| 產業と保險 | 鶴見左右雄 | 保評 | 一六・三 |
| 保險宣傳と保險教育の必要 | 寺田四郎 | 協會 | 三・四 |
| 保險の話 | | 協會 | 三・四 |

## 大正十三年

| 題目 | 著者 | 誌名 | 卷・號 |
|---|---|---|---|
| 外務員と宣傳小募集に就て | 粗細亭主人 | 時報 | 一、一五一 |
| 罹災會社の利益金配當案に就て | 鴻田秀一 | 時報 | 一、一五一 |
| 大震災後に於ける保險勸誘 | 岡崎樂天 | 時報 | 一、一五二 |
| 將來の保險監督 | 志田鉀太郎 | 時報 | 一、一五三 |
| 保險立國論 | 小笹正人 | 時報 | 一、一五三 |
| 保險國營是非 | 矢野恒太 | 時報 | 一、一五四 |
| 清浦內閣と保險政策 | 社　説 | 時報 | 一、一五五 |
| 監督官改善と保險局獨立 | KN生 | 時報 | 自一、一五五 |
| 社會政策と保險制度 | 桑山鐵男 | 時報 | 一、一五六 |
| 學者の保險業者 | 社　説 | 時報 | 一、一五七 |
| 募集制度に就て | 清水文之輔 | 時報 | 一、一五七 |
| 保險課昇格の意義 | 社　説 | 時報 | 一、一五八 |
| 帝都復興と保險會社の投資 | 鴻田秀一 | 時報 | 一、一五九 |
| 保險募集機關論 | 小笹正人 | 時報 | 一、一五九 |
| 契約增加及び解約增加に就て | 矢野恒太 | 時報 | 一、一六〇 |
| 保險教育の生產的價値 | 寺田四郎 | 時報 | 一、一六一 |
| 保險業の社會化 | 中越正彰 | 時報 | 一、一六三 |
| 報酬制度の改廢に就て | 社　説 | 時報 | 一、一六三 |
| 財團法人の設立に就て | 弘世助太郎 | 時報 | 一、一六五 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 解約防禦と延滯防禦 | 岩間 六郎（時報） | 一、一六三 |
| 獨立投資に要なき手 | 石阪 泰三（時報） | 一、一六四 |
| 保險と宣傳に就て | 金平豐次郎（時報） | 一、一六四 |
| 保險料率引下げ問題 | S M 生（時報） | 一、一六六 |
| 募集員養成の必要 | 社 說（時報） | 一、一六七 |
| 募集員根性を除け | 小笹 正人（時報） | 一、一六七 |
| 保險大會の講演者に就て | N K 生（時報） | 一、一六七 |
| 保險證券に就て | 社 說（時報） | 一、一六八 |
| 保險課の改革に就て | N・S（時報） | 一、一六八 |
| 健康增進施設の急務 | 增田 需助（時報） | 一、一六九 |
| 對米關係と保險業者 | 社 說（時報） | 一、一七三 |
| 募集員の素質に就て | 金平豐次郎（時報） | 一、一七三 |
| 保險募集の一紀元 | 社 說（時報） | 一、一七四 |
| 保險制度調査會に就て | 中松 眞卿（時報） | 一、一七五 |
| 保險從業員教育に就て | 社 說（時報） | 一、一七七 |
| 保險界出の代議士 | 社 說（時報） | 一、一七八 |
| 外國出稼と保險契約 | 白田 重良（時報） | 自一、一七八 |
| 保險證券は果して商品か | S T 生（時報） | 一、一八〇 |
| 急進主義か漸進主義か | 和田 秀治（時報） | 一、一八〇 |
| 現狀を凝視せよ | 社 說（時報） | 一、一八一 |
| 中國保險大會に就て | 河野 九米（時報） | 一、一八一 |
| 航空保險に就て | 海保千代吉（時報） | 一、一七六 |
| 勸誘員の社會的地位 | 社 說（時報） | 一、一八二 |
| 保險業法改正に就ての | 金光 庸夫（時報） | 一、一八二 |
| 保險會社の計算に就て | 村川 初吉（時報） | 一、一八二 |
| 募集道德と民衆化 | 宮 間（時報） | 一、一八二 |
| 新聞記者と接觸せよ | 社 說（時報） | 一、一八三 |
| 勸誘道德と診査道德 | 富田 彥三（時報） | 一、一八三 |
| 勤儉貯蓄と保險 | 社 說（時報） | 一、一八四 |
| 映畫筋書の募集と審査 | （時報） | 一、一八四 |
| 健康診斷と人壽の延長 | ゼームス、トーべ（時報） | 自一、一八四 |
| 保險從業員は社會の進運に先んぜよ | 堀 貞（時報） | 一、一八五 |
| 新思想と保險事業 | 社 說（時報） | 一、一八六 |
| 保險會社の合同に就て | 河野 九峰（時報） | 一、一八六 |
| 保險會社の買收問題 | T K（時報） | 一、一八七 |
| 保險會社の投資 | 社 說（時報） | 一、一八九 |
| 保險界の覺醒運動 | 社 說（時報） | 一、一九二 |
| 保險の募集と力の關係に就て | 佐伯 叔作（時報） | 一、一九二 |
| 爲替低落と保險業 | 社 說（時報） | 一、一九三 |
| 保險外交制度の變遷 | 社 說（時報） | 一、一九四 |
| 保險は一擧三得なり（講演） | 池田 秀雄（時報） | 一、一九六 |
| 失效解約は保險收獲の害蟲 | 簡易保險局（時報） | 一、一九六 |
| 保險犯罪に就て | 前田 誠孝（時報） | 一、一九七 |
| 心理的に觀た廣告 | 上野 陽一（時報） | 一、一九七 |
| 貯蓄と保險の對比 | 社 說（時報） | 一、一九九 |
| ジー、アイ、シーに就て | 河野 九米（時報） | 一、一九九 |
| 保險と銀行對信託 | 社 說（時報） | 一、二〇〇 |
| 我が保險事業に就て | 鈴木 敏一（時報） | 一、二〇二 |
| 信託會社と保險の關係 | 細谷 祐治（商事） | 四・四 |
| 保險事業と統計の作用 | 横山 雅男（統雜） | 四五七 |
| 銀行と保險との彙營 | 神戶 正雄（時經） | 二〇 |
| 一社會主義者の保險國營論 | 森 莊三郎（經學） | 一一・五 |
| 告知義務に關する外國法の比較（講演） | 三浦 義道（保評） | 一七・一 |
| 告知義務法制の研究 | 三浦 義道（法新） | 自三四・四 |
| 告知義務の法律上の性質 | 三浦 義道（保雜） | 二八・三〇一 |
| 米國預金保險制度運用の近狀 | 春日井 薰（銀研） | 六・一 |
| 保險政策論 | 三浦 義道（法新） | 三四・二 |
| Policy loan に就て | 粟津 淸亮（保雜） | 二八・三〇〇 |
| アクチュアリ公認の問題 | 粟津 淸亮（保雜） | 二八・三〇〇 |
| 累加保險論 | 角尾猛治郎（保雜） | 二八・三〇三 |
| 利益保險（Profits insurance）に就て | 原島 茂（保評） | 一七・五 |
| 三浦博士の「保險統計の觀察」に就いて | 本城 次吉（保評） | 一七・四 |
| 保險雜致 | 三浦 義道（保評） | 一七・七 |
| ムツソリニーの政策と伊太利の官營保險（講演） | 矢野 恒太（保評） | 一七・一 |
| 伊太利商法の改定と保險契約法 | 青山 衆司（商學） | 四・二 |
| 我國最初の生保會社「日東保生」に就て | 池田 龍一（協會） | 一五・二 |
| 無診査保險に就て | 佐久間 勝（協會） | 一五・二 |
| 被保險利益の存在性私論 | 瀨戶彌三次（經商） | 三・一〇 |
| 保險組合 | 財部 靜治（保評） | 一七・八 |

### 大正十四年

| | | |
|---|---|---|
| 保險法上の戰爭の觀念 | 寺田 四郎（時報） | 一、二〇三 |
| 外交員の教養に就て | 石阪 泰三（時報） | 一、二〇三 |
| 保險と道德に就て | 堀 貞（時報） | 一、二〇四 |



| | | |
|---|---|---|
| 保險資金と信託預金 | 社 說（時報） | 一、二〇五 |
| 共同動作を提唱す | 社 說（時報） | 一、二〇六 |
| 經濟振興策としての保險事業 | 五島 駿吉（時報） | 一、二〇八 |
| 保險業の新方面 | 社 說（時報） | 一、二一〇 |
| ロシヤ普通保險組織 | 濱田 淸治（時報） | 一、二一一 |
| 新種保險に就て | 鈴木 敏一（時報） | 一、二一二 |
| 責任保險の體樣 | 龜田周一譯（時報） | 一、二一二 |
| 民間會社に勸む | 社 說（時報） | 一、二一四 |
| 保險國營 | 社 說（時報） | 一、二一四 |
| 國營論の擡頭 | 佐藤 天風（時報） | 自一、二一四 |
| 社會的罪惡と保險 | 龜田 周一（時報） | 一、二一七 |
| 本店と募集員の關係 | エーエス、ミチエル（時報） | 自一、二一六 |
| 當局の暴擧、無診査保險 | 社 說（時報） | 一、二一八 |
| 聯合投資 | 佐藤 天風（時報） | 一、二二二 |
| 保險の煉獄時代 | 佐藤 天風（時報） | 一、二二五 |
| 保險信託問題に就て | ナショナル、シチバンク（時報） | 自一、二二五 |
| 合併行惱と業法改正 | 社 說（時報） | 一、二二六 |
| 加奈陀に於ける保險事業の監督概況 | 中松 眞卿（時報） | 一、二二九 |
| 保險國營有害論 | 淸水文之輔（時報） | 自一、二四二 |
| 他山の石ならぬ亞米利加の保險事業 | 守田 常直（時報） | 一、二四四 |
| 保險事業と共同動作 | エバン、グレー（時報） | 自一、二四四 |
| 解約防止と外務員教養 | 社 說（時報） | 一、二四五 |
| 商工省と保險界 | 佐藤 忍（時報） | 一、二四五 |
| 保險證券を借金の擔保となし又は差押へる事が出來るかどうか | 多羅尾 節・釜井盛四郎（時報） | 自一、二四六 |
| 失效解約に就き外交員の爲に辯ず | 野間 健也（時報） | 自一、二四六 |
| 保險業者の奮起を望む | 社 說（時報） | 一、二四七 |
| 白耳義に於ける保險事業の一斑 | 中松 眞卿（時報） | 一、二四八 |
| 保險業の監督に就て | 社 說（時報） | 一、二五〇 |
| 保險徵收カードとカデックスの利用 | 野間 健也（時報） | 一、二五一 |
| 社會的事業に投資せよ | 社 說（時報） | 一、二五二 |
| 外務員教養 | 社 說（時報） | 一、二五二 |
| 保險に關する官制の不統一 | 佐藤 忍（時報） | 一、二五三 |
| 特別所得稅保險 | 龜田周一譯（時報） | 自一、二五三 |
| 保險監督改善の要諦 | 淸水文之輔（エコ） | 三・二 |
| 保險利用の新貯蓄預金 | 銀 光 生（銀叢） | 四・六 |
| 保險の本質に就て | 小島昌太郎（經論） | 四・一 |
| 滿洲保險事業と其政策 | 山中岩次郎（滿蒙） | 六・自九七 |
| 保險金受取人に對する保護 | 三浦 義濟（保評） | 一八・三 |
| 社會主義者の保險國營論 | 森 莊三郎（協會） | 一四・二 |
| 海外保險事業雜觀 | 中松 眞卿（保評） | 一八・六 |
| 臺灣に於ける保險業 | （臺灣） | 六五 |
| 英蘭土業組合中央保險事業 | （產業） | 二三三 |
| 世界大戰中に於ける獨逸國保險制度の發達及其經濟的效果 | 寺田 四郎（協會） | 一四・二 |
| 世界大戰中獨逸保險界の新問題 | 寺田 四郎（保評） | 一八・八 |
| 保險契約の包括移轉に就て | 南 正樹（保評） | 一八・一 |
| 保險契約の解釋に就て | 竹田 等（保評） | 一八・四 |
| 危險保險料と貯蓄保險料に就て | 龜田豐治朗（保雜） | 自三〇七 |
| 保險業法講義 | 南 正樹（保評） | 自一八・四 |
| 一醫師の保險獨占論 | 森 莊三郎（經學） | 四・一 |
| 最高保險金額に關する一檢討 | 原島 茂（會計） | 一七・三 |
| 保險事務の機械化 | 龜田豐治朗（保雜） | 三〇三 |
| 近時二三の保險問題 | 難波誠四郎（保評） | 一八・一 |
| 保險と國定教科書問題に就て | 粟津 淸亮（保評） | 一八・三 |
| 保險と思想問題 | 田島 錦治（保評） | 一八・四 |
| 海外保險事業雜觀 | 中松 眞卿（保評） | 一八・自八 |
| 保險官營の錯覺と其惡影響 | 淸水文之輔（保評） | 一八・九 |

### 大正十五年（昭和元年）

| | | |
|---|---|---|
| 保險業の健全なる發達を望む | 福田 庸雄（時報） | 一、二五四 |
| 保險學の研究方法に就き | 志田鉀太郎（時報） | 一、二五四 |
| 保險證券の形式に對する行政監理 | 寺田 四郎（時報） | 一、二五四 |
| 募集員の道義 | 星 孝治（時報） | 一、二五四 |
| 積立金問題に就て | 社 說（時報） | 一、二五六 |
| 保險政策の推移 | 佐藤 天風（時報） | 一、二五六 |
| 保險と中流階級 | 佐藤 天風（時報） | 一、二五八 |
| 保險界不統一の弊 | 佐藤 天風（時報） | 一、二五九 |
| 積立金問題の解決 | 社 說（時報） | 一、二六四 |
| 共同放資機關の改善 | 社 說（時報） | 一、二六六 |
| 保險業法改正と其難點 | 社 說（時報） | 一、二六七 |
| 掠奪募集取締の勵行 | 社 說（時報） | 一、二六九 |
| 貸付法より見たる官保と民保 | 佐藤 天風（時報） | 一、二六九 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 英米保險業者の保險業に對する態度 | 雜波誠四郎（時報） | 自一、二六九 |
| 掠奪契約を論じ大會社側の反省と後進會社に望む | 大村 地水（時報） | 一、二六九 |
| 保險の新天地 | 佐藤 天風（時報） | 一、二七〇 |
| 泥合戰にならんとする契約掠奪問題 | 大村 地水（時報） | 一、二七一 |
| 掠奪問題の批判と業界 | 社 說（時報） | 一、二七四 |
| 保險の海外飛躍 | 佐藤 天風（時報） | 一、二七四 |
| 米國に於ける投資媒介銀行 | 溝口 龍夫（時報） | 自一、二七四 |
| 掠奪問題の眞因を究めよ | 大村 地水（時報） | 一、二七五 |
| 人口問題と保險 | 佐藤 天風（時報） | 一、二七六 |
| 保險思想の二基調 | 佐藤 天風（時報） | 一、二七七 |
| 保險料割引問題に就て | 社 說（時報） | 一、二七八 |
| 所謂掠奪募集の法理觀 | 田村 幸策（時報） | 一、二七八 |
| 東京市と保險 | 社 說（時報） | 一、二八〇 |
| 保險課昇格の眞意義 | 社 說（時報） | 一、二八一 |
| 保險行政の統一に就て | 阿原 直太（時報） | 一、二八一 |
| 保險監督の法規に就て | 住野 良三（時報） | 一、二八三 |
| 殖民地の保險事業觀 | 宇井 孝三（時報） | 一、二八七 |
| 保險思想の普及 | 河野 九峰（時報） | 一、二八八 |
| 保險取締道德 | 天 風（時報） | 一、二八九 |
| 保險と投資 | 天 風（時報） | 一、二九〇 |
| 保險業法改正の難點 | 天 風（時報） | 一、二九一 |
| 殖民地と保險 | 佐藤 天風（時報） | 一、二九一 |
| 利下と保險 | 天 風（時報） | 一、二九三 |
| 廣告宣傳私見 | 溝口 龍夫（時報） | 自一、二九三 |
| 國富としての保險 | ヒュー・デーハート（時報） | 自一、二九四 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 會社投資の選擇 | 社 說（時報） | 一、二九六 |
| 保險の倫理化 | 河野 九峰（時報） | 一、二九六 |
| 保險と信託 | 社 說（時報） | 一、二九七 |
| 保險哲學 | 社 說（時報） | 一、二九八 |
| 民業生命保險の梗塞 | 一淸樓主人（時報） | 一、二九八 |
| 低保險料及高配當の宣傳禁止は不可 | 小倉惣一郎（時報） | 一、二九八 |
| 富豪と保險 | 社 說（時報） | 一、二九九 |
| 民保百弊の基 | 戸田 三郎（時報） | 一、三〇三 |
| 保險金融經濟論 | 米谷 隆三（協會） | 一四・三 |
| 保險價値安定に就て | 岡 實（遞協） | 二八 |
| 保險精神を論ず | 志田鉀太郎（明大） | 一・一 |
| 保險思想の變遷過程の一考察 | 水野 昇（保評） | 一九・五 |
| 保險基本精神の純理的批判 | 志田鉀太郎（保評） | 自一九・八 |
| 經濟學上に於ける保險の地位 | 松山 斌（保評） | 一九・二 |
| 心理學と保險 | 近藤 文二（商經） | 四三 |
| 數學的危險論 | 山本恭治郎（商經） | 七・二 |
| 死亡保險に於ける死亡の積立金に對する偏り | 山根 眞藏（保雜） | 三一〇 |
| 植民地に於ける保險業の監督 | 山中岩次郎（エコ） | 四・一六 |
| 長春の保險業界 | 調査彙報 | 六・ |
| 保險料積立金に關する學說概觀 | 磯野 正登（保評） | 一九・一 |
| 英米保險業者の態度 | 雜波誠四郎（保雜） | 三〇九 |
| 世界戰爭と獨逸の保險制度 | 寺田 四郎（國家） | 四〇・自五 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險改善と新保險創定 | 社 說（エコ） | 四・五 |
| 保險の合理化と自治的民主化 | 生田 信三（企社） | 六 |
| 保險會社の監督 | 神戸 正雄（時經） | 四三 |
| 保險信託と其の經營 | 細矢 祐治（國經） | 四〇・六 |
| 保險料積立の基因に就て | 村松 廣吉（保雜） | 三九〇 |
| 詐欺保險に就て（講演） | 寺田 四郎（保評） | 一九・一 |
| 新種保險と道德的危險 | 三浦 義道（保評） | 一九・一 |
| 我國に於ける保險學說の誤謬 | 高窪喜八郎（法新） | 三六・一 |
| 保險料積立金問題に關する疑惑 | 小山哲四郎（保評） | 一九・一 |
| 戰後獨逸の保險界に現はれたる同業集中の傾向 | 近藤 文二（商研） | 四四 |
| 保險業法講義 | 南 正樹（保評） | 一八・自四 |
| 保險證券に對する行政的監理 | 寺田 四郎（法新） | 三六・自九 |
| 各國保險國營問題の經過と其實例概況及論議 | 井口 正一（協會） | 一五・一 |
| 保險國營に關する諸論稿 | 寺田 四郎（協會） | 一五・一 |
| 保險國營論に就て | 野口 正造（協會） | 一五・二 |
| 佛國再保險官營案の顚末 | 森 莊三郎（協會） | 一四・四 |
| **昭和二年** | | |
| 現代世相と保險の必要 | 今井田淸德（時報） | 自一、三〇四 |
| 保險募集取締に就て | 住野 良三（時報） | 一、三〇四 |
| 教育界と保險會社との接近 | 佐久間 勝（時報） | 一、三〇四 |



| | | |
|---|---|---|
| 外國保險の侵入 | 社 說（時報） | 一、三〇六 |
| 保險分權の利害 | 社 說（時報） | 一、三〇八 |
| 外交免許制度に就て | 大村 地水（時報） | 一、三〇八 |
| 保險還元論是非 | 社 說（時報） | 一、三一一 |
| 失効率の減少に就て | 加藤哲太郎（時報） | 一、三一一 |
| 銀行の取付と保險業 | 大村 地水（時報） | 一、三一五 |
| 人口問題と保險 | 佐藤 天風（時報） | 一、三一七 |
| パニックに面して保險事業を憶ふ | 社 說（時報） | 一、三二〇 |
| 自由主義と保險 | 佐藤 天風（時報） | 一、三二〇 |
| 保險政策の基調 | 佐藤 天風（時報） | 一、三二一 |
| 金融界の回復と保險事業の整理 | 社 說（時報） | 一、三二三 |
| 保險部設置の意義 | 社 說（時報） | 一、三二五 |
| 日本的新種保險 | 佐藤 天風（時報） | 一、三二五 |
| 改正模範約款の概評 | 社 說（時報） | 一、三二七 |
| 保險と金融機關 | 佐藤 天風（時報） | 一、三二七 |
| 時代に逆潮せる模範約款 | 大村 地水（時報） | 一、三二八 |
| 保險經營主義に關する論爭 | 社 說（時報） | 一、三三〇 |
| 支那動亂と保險 | 佐藤 天風（時報） | 一、三三一 |
| 保險會社檢察と其影響 | （時報） | 一、三三三 |
| 國營論の側面觀 | 佐藤 天風（時報） | 一、三三三 |
| 我國に於ける保險教育 | 社 說（時報） | 一、三三四 |
| 新保險政策 | 佐藤 天風（時報） | 一、三三七 |
| 所謂掠奪募集は保險史上の一大汚點 | 原田駒之助（時報） | 一、三三八 |
| 保險政策のヂレンマ | 佐藤 天風（時報） | 一、三四二 |
| 景氣問題と保險 | 佐藤 天風（時報） | 一、三四四 |
| 經濟生活と信託保險 | 川崎貞明講演（時報） | 自一、三四六 |
| 學資保險に就て | （時報） | 自一、三四七 |

| | | |
|---|---|---|
| 米獨兩國保險經營の差異 | アルフレッド、マーネス（時報） | 一、三四八 |
| 保險業法改正實施さる | 社 說（時報） | 一、三五二 |
| 保險業法十一條の改正 | （時報） | 一、三四九 |
| 再び保險業法の改正に就て | （時報） | 一、三五〇 |
| 保險勸誘 | 池田藤四郎（ダイヤ） | 一五・一四 |
| 外務員は如何に教養すべきか | 溝口 龍夫（保評） | 二〇・七 |
| 旅客強制保險論 | 松波仁一郎（法協） | 四五・自一 |
| ヴェルナーの保險經營主義 | 井上 茂（企社） | 一四 |
| 米國に於ける保險教育及保險に關する主要なる傾向 | 末高信（譯）（協會） | 一六・二 |
| 米國に於ける樣々な保險相 | 藤川 博（保評） | 二〇・二 |
| 英國に於ける新保險案 | 寺田 四郎（保評） | 二〇・一 |
| 世界大戰後に於ける獨逸の保險業 | 野口 正造（保評） | 二〇・五 |
| 保險從事員の教養の急務 | 社 說（時報） | 一、三四九 |
| 掠奪問題批判 | 社 說（時報） | 一、三五一 |
| 進歩乎退歩乎—日本と米國の保險傾向 | 杉並高隱士（保評） | 二〇・二 |
| 保險の合理化と自治的民主化に就ての批評に答ふ | 米谷 陸三（企社） | 一八 |
| 保險經營主義に就て | 印南 博吉（企社） | 一八 |
| 保險業經營の科學的企畫 | 水野 昇（保評） | 二〇・五 |
| 保險事業の理想的經營法 | 岩間六郎 矢野恒太等（時報） | 自一、三二三 |
| 過れる保險監督間違つた保險經營 | 古屋美津留（保評） | 二〇・六 |

| | | |
|---|---|---|
| 保險加入者組合 | 生田 信三（企社） | 六一 |
| 瑞西保險監督法解說 | （法新） | 自三七・二 |
| 保險官營諸問題 | 粟津 淸亮（保評） | 自二〇・八 |
| 法律上より觀たる保險國營 | 暉道 文藝（保評） | 二〇・六 |
| 間違ひだらけな暉道博士の法律論から觀たる保險國營 | 小山哲四郎（保評） | 自二〇・七 |
| フランスに於ける保險官營獨占案の沿革 | 田邊發太郎（保雜） | 三一二 |
| 獨逸の保險事情 | 野口 正造（保雜） | 三一三 |
| 戰後獨逸保險界の諸問題 | 野口 正造（保評） | 二〇・八 |
| 新會社とミュンヘン會社との協約要領 | （協會） | 一六・一 |
| 伊太利保險事情 | 大橋 英郎（保雜） | 三一一 |
| 墺國新保險業法 | 三浦 義道（保雜） | 自三一四 |
| 改正保險業法 | （保評） | 二〇・三 |
| 保險業法中改正法律案通過顚末 | （協會） | 一六・一 |
| 保險と保險業 | 井上 茂（企社） | 一六 |
| **昭和三年** | | |
| 近代思潮と保險制度 | 川崎 貞明（時報） | 一、三五四 |
| 再保險と世界戰爭 | 寺田 四郎（時報） | 一、三五四 |
| 會社の合併について | 住野 良三（時報） | 一、三五四 |
| 絕えざる戰亂の街に立ち青島保險界の苦闘と意氣 | 渡邊 周藏（時報） | 一、三五四 |
| 經濟政策の基調と保險制度 | 石坂 泰三（時報） | 一、三五四 |
| 保險國營の沿革 | 小倉惣一郎（時報） | 一、三五五 |
| 保險事業改造論 | 一 記 者（時報） | 一、三五七 |
| 從業員と其待遇 | 熊野 耕人（時報） | 一、三五九 |
| 配當多きに過ぐ | 社 說（時報） | 一、三六二 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險高等專攻學校設立に就て | 社說（時報） | 一、三六三 |
| 保險學校の必要如何 | 新堀町人（時報） | 一、三六六 |
| 保險の地方的狀況 | 社說（時報） | 一、三七一 |
| 保險事業の合理化 | 社說（時報） | 一、三七二 |
| 共同投資の必要 | 社說（時報） | 一、三七四 |
| 保險信託よりも年金保險 | 社說（時報） | 一、三七七 |
| 保險外務員の使命 | 石川 一（時報） | 一、三七七 |
| 保險の恐慌時代 | 社說（時報） | 一、三八〇 |
| 各國の保險事情 | 簡易保險局（時報） | 自一、三八〇 |
| 保險金の必要程度 | 田村 夏行（時報） | 一、三八三 |
| 船員保險法案を許す | 社說（時報） | 一、三八七 |
| 新契約募集の難關 | 小林 豊（時報） | 自一、三九〇 |
| 保險業法の改正に就て | 社說（時報） | 一、三九三 |
| 募集能率向上に就て | 畑 孝二郎（時報） | 一、三九七 |
| 各國の保險事情 | 簡易保險局（時報） | 一、三九七 |
| 保險演習の沿革 | 森 荘三郎（協會） | 一七・一 |
| 保險界の新傾向 | 神戸 正雄（時經） | 七五 |
| 國際保險會議の復活 | 長尾 春雄（國經） | 四四・一 |
| 保險官營諸問題 | 粟津 濤亮（協會） | 一七・二 |
| 保險學の本質 | 小島昌太郎（經論） | 二六・四 |
| 保險學の方法に就て | 米谷 隆三（保雜） | 三一六 |
| 保險學並に其文獻 | 三浦 義道（保評） | 二一・一 |
| 保險の偶然 | 小島昌太郎（經論） | 二七・一 |
| 保險に於ける偶然の必然化 | 小島昌太郎（經論） | 二七・六 |
| 保險の分類に就て | 朝川 伸夫（保雜） | 三一八 |
| 危險の意義に就て | 朝川 伸夫（保雜） | 三一九 |
| 世界各國保險事業の大勢 | 佐藤辰郎譯（獨逸保險年鑑一九二七年版）（通信） | 自四八〇 |
| 北米合衆國に於ける人保險 | 溝口 龍夫（協會） | 一七・二 |
| 更生の獨逸國民經濟と保險事業 | 野口 正造（保雜） | 三一九 |
| 改正保險業法に就て | 立花 俊一（協會） | 一六・三 |
| 保險業法の改正に就て | （生研） | 自八六 |
| 保險業法の改正に就て | 社說（時報） | 一、三九三 |
| 保險評議委員會設置に就て | （生研） | 自三八 |
| 現下の保險政策 | 森 荘三郎（保評） | 二一・一 |
| 我國に於ける保險學說とその財產入用說の現情 | 志田鉀太郎（明大） | 三・五 |
| 再保險研究 | 酒井正三郎（商業經濟論叢 六上） | |
| 保險事業の經營の合理化 | 井口 正一（協會） | 一七・三 |
| 現代保險業の傾向 | 森 荘三郎（協會） | 一六・三 |
| 相互保險會社の株式化 | （生研） | 自六四 |
| 保險募集の要訣 | 藤川 博（保評） | 自七 |
| 金融機關としての保險會社 | 米谷 隆三（保評） | 二一・一 |
| 保險思想の發達と我國保險界の新傾向 | 野口 正造（千里山學報） | [illegible] |
| 保險と新聞 | 小島昌太郎（生研） | 自四九 |
| 保險による家族制度の確保 | 末高 信（保評） | 二一・七 |
| 我國保險界の恩人ザムワー博士の祝典に際して | （生研） | 六〇 |
| 保險事業の集中的傾向 | 難波誠四郎（保評） | 二一・六 |
| 時代の進化と保險の經營 | （通信） | 自四九二 |
| **昭和四年** | | |
| 保險會社の株 | 水上 靜（時報） | 一、四〇四 |
| 保險相互會社の株式會社化と株式會社の相互組織變更とに就て | 住野 良三（時報） | 一、四〇四 |
| 業法改正の希望 | 清水文之輔（時報） | 一、四〇四 |
| 保險事業に關する報告書の內容を改正すべし | 社說（時報） | 一、四〇六 |
| 相互保險の商法上の地位 | 青山 次郎（時報） | 一、四〇七 |
| 保險諮問機關の設置に就て（講演） | 野口 正造（時報） | 自一、四〇八 |
| 諮問機關設置に關する考察 | 社說（時報） | 一、四一四 |
| 保險に關する記事 | 社說（時報） | 一、四一六 |
| 保險監督の要諦 | 社說（時報） | 一、四一七 |
| 共同的な健康增進機關の必要 | 社說（時報） | 一、四二一 |
| 告知義務空文か | 社說（時報） | 一、四二二 |
| 外務取締法設に關聯して保險部當局に望む | 三冬 文史（時報） | 一、四二三 |
| 保險界の三問題 | 社說（時報） | 一、四二六 |
| 金解禁準備と保險界 | 社說（時報） | 一、四三〇 |
| 解約防止に就て | 社說（時報） | 一、四三一 |
| 產業の社會化と保險に就て | 本位田詳男（時報） | 自一、四三三 |
| 嗤ふべき保險國營論 | 社說（時報） | 一、四三四 |
| 愚劣の極、外交員免許制度 | 藤村 紫朗（時報） | 一、四三六 |
| 懸賞募集を排除せよ | 社說（時報） | 一、四三七 |
| 海外保險事情 | 生田 武夫（時報） | 自一、四三七 |
| 金解禁と保險界隨想 | 社說（時報） | 一、四四一 |
| 所謂募集期に際して | 社說（時報） | 一、四四九 |
| 埃及保險事情 | 中野 弘譯（時報） | 自一、四四九 |
| 保險界二大恩人の長逝を悼む | （生研） | 八五 |



| | | |
|---|---|---|
| 金解禁問題に際して保險業徒の思ひ | 中條 秀雄（通信） | 自五一五 |
| 金解禁と保險界 | 各務 鎌吉（通信） | 五一五 |
| 國際的に見たる我國の保險事業 | （通信） | 五一三 |
| 改造所載小汀利得氏の「保險會社の解剖」を讀んで | （通信） | 五三四 |
| 三大國際會議と萬國保險學會 | （生研） | 一〇五 |
| 露西亞の保險事情 | リブニュフ（通信） | 自五一九 |
| 團體保險に就て | 石川 文吾（協會） | 一七・四 |
| 保險諮問委員會の設置を提唱す | 野口 正造（保評） | 二二・一 |
| 保險諮問機關の設置に就て | 野口 正造（協會） | 一七・四 |
| 愚劣なる保險監督の新政策 | 小山哲四郎（保評） | 二二・三 |
| 保險と犯罪 | 佐藤辰郎譯（通信） | 自五四三 |
| 近世保險の起源 | 寺田 四郎（保雜） | 自三二一 |
| 保險經營の合理性と其合理化の原則 | 米谷 隆三（保評） | 二二・一 |
| 保險經營の方向轉換論 | 小山哲四郎（保評） | 二二・二 |
| 保險界に於ける集中及兼營の傾向 | 神戸 正雄（時經） | 八二 |
| 保險の專營と兼營とに就て | 生田 信三（產業） | 二八八 |
| 申込から證券發行迄の順路と其事務取扱 | 都 千秋（生經） | 一・一 |
| 外國外務員免許法に就て | 川瀨竹次郎（保雜） | 自三三三 |
| 世界各國保險事業の大勢 | 佐藤 辰郎（通信） | 自六八〇 |
| 保險事業の國際性支那業法制定 | （生研） | 一〇三 |
| アメリカに於ける保險教育の現狀 | 下村 重美（保評） | 二二・二 |
| 獨逸に於ける相互保險會社の創設 | 三浦 義道（保雜） | 三二三 |
| 獨逸保險記者の獨逸國民へ警告 | 寺田 四郎（保評） | 二二・一 |
| 獨逸保險業の改造 | 寺田 四郎（保評） | 二二・五 |
| 我國最古の保險書 | 米國巴爾私著 秋古譯（生研） | 七八 |
| 財產入用說に志田博士の教を乞ふ | 近藤 文二（商經） | 九三 |
| 保險業の起源 | 石井 良一（貿易） | 二九・五 |
| 內勤社員の教育に就て | 奥谷 格治（生經） | 一・三 |
| 保險金保護の問題 | 川崎 貞明（生經） | 一・四 |
| 外野監督制度に就て | 小堀 修次（生經） | 一・三 |
| 新外務員の募集戰術 | 宮坂 遜衛（生經） | 一・三 |
| 二三の卑近なる勸誘指針 | 管谷 秀德（生經） | 一・四 |
| 對抗募集に就て | 林 範二（生經） | 一・四 |
| **昭和五年** | | |
| 募集取締に關して | 福田 庸雄（時報） | 一、四五四 |
| 保險と政府 | 寺田 四郎（時報） | 一、四五四 |
| 各社事務能率を示す一事項 | 橋本 星（時報） | 一、四五四 |
| 自力相應たれ募集戰に就て | 社說（時報） | 一、四五六 |
| 世界各國の保險種類の紹介 | （時報） | 自一、四五六 |
| アメリカ人の保險習性と結果から見た七主要問題の研究 | E・Dチュッフキールド（時報） | 自一、四五七 |
| 募集規約を意義あらしめよ | 社說（時報） | 一、四六一 |
| 保險に於ける最近の傾向 | マルビン・デーピン（時報） | 一、四六一 |
| 保險事業と保全會社の發達に就て | R・W・シンサボー（時報） | 一、四六九 |
| 婦人に對する保險の販賣 | エマ・デイツラー女史（時報） | 一、四七一 |
| 英國人の觀たる日本の保險界 | W・ブッチラー（時報） | 一、四七一 |
| 地方代理業の發展の諸條件 | T・W・ツーン（時報） | 一、四七四 |
| 外務社員と品性向上 | 社說（時報） | 一、四七六 |
| 支那に於ける保險情勢 | ウォルター・バッチラー（時報） | 一、四七八 |
| 保險の廣告に就いて | W・クラウフォード（時報） | 一、四八二 |
| 業法改正に關聯して | 社說（時報） | 一、四八三 |
| 今議會と保險問題 | 社說（時報） | 一、四八五 |
| 諮問機關に就て | 社說（時報） | 一、四八六 |
| 我國に於ける生保業の首唱と其先驅 | 三浦 周行（協會） | 一八・三 |
| 保險制度は誤れるや | G・F・チオキス（時報） | 自一、四八七 |
| 日銀利下と保險界 | 石川忠治譯（時報） | 自一、四九〇 |
| 保險信託論 | 社說（時報） | 一、四九三 |
| 第九回國際保險會議の報告（講演） | 三浦 義道（時報） | 一、四九三 |
| 解約防止に努めよ | 霜山 輝（時報） | 一、四九八 |
| 經濟生活に於ける信用と保險 | N・S・ドスカー（時報） | 自一、五〇〇 |
| 今年の保險界を眺めて | 社說（時報） | 自一、五〇一 |
| 官營保險と民營保險との衝突 | （通信） | 五六九 |
| アドルフ・ワグナーの「保險論」 | 印南 博吉（國經） | 四八・三 |
| 米國の募集制度 | 森 荘三郎（生經） | 二・一 |
| 保險事業と競爭の合理化 | （生研） | 一三三 |
| 生命保險事業に於ける企業結合 | 西山 雄一（協會） | 一八・四 |
| 外務員教育 | 奥谷 格治（生經） | 二・四 |
| 外務員監督に關する懸賞當選論文 | 加唐 謙吉（生經） | 二・一 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 外務員の成績に關する一調査 | 橋本源次郎(生經) | 二・二 |
| 新外務員の監督 | 川瀬 秀夫(生經) | 二・三 |
| 知的外務員の進路 | 宮坂 遵衛(生經) | 二・三 |
| 雇人に勸めて保險を掛けしむる方法如何 | (協會) | 一八・四 |
| 募集責任額決定の科學的算定方法 | 水野 昇(生經) | 二・三 |
| 募集大衆化論 勤勞大衆と生命保險の社會性 | (生經) | 一三九 |
| 募集支給體系の完成と經營合理化 | 宮坂 遵衛(生經) | 二・一 |
| 勸誘資料としての圖表の研究 | 管谷 秀德(生經) | 二・自一 |
| 販賣戰線の統一と生保約款の寬大化 | (生研) | 一一四 |
| 英米獨の保險に直面して | 山口榮治郎(保評) | 二三・二 |
| 佛蘭西保險界の近況 | (通信) | 五六三 |
| 維納の再保險條款に就て | シューエス(時報) | 一、四七〇 |
| 保險行政 | 酒井 喜四(生經) | 二ノ附錄其の二 |
| 包括移轉殊に保險金削減に伴ふ包括移轉に關する諸問題 | 三浦 義道(通信) | 五五二 |
| 保險國營論の擡頭に就て | (生研) | 自一三〇 |
| 國營保險論批判 | 寺田 四郎(國家) | 四四・自四 |
| 保險公營の諸問題 | 末高 信(保評) | 二三・八 |
| 人的保險の將來 | ソムブソン(時報) | 一、四八三 |
| 國際保險問題の論點 | 三浦 義道(通信) | 五七三 |
| 保險と經營經濟學 | 寺田 四郎(保評) | 三二五 |
| 保險契約獲得機關に就て | S A 生(通信) | 五七一 |
| 朝鮮の保險事業 | (朝總) | 一・七 |
| マーネス博士の米國保險觀 | 寺田 四郎(保評) | 二三・一 |
| 責任準備金の話 主として未經過保險料に就て | (生研) | 自一三五 |
| 解約防止の要諦 | 難波誠四郎(通信) | 五五一 |

## 昭和六年

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險外交の秘訣 | 横田識三郎(時報) | 一、五〇四 |
| 今議會と保險問題 | 早柄 一鳴(時報) | 一、五〇五 |
| 被保險體格の統計的研究 | 磯野 正登(協會) | 一九・四 |
| 不當競爭の責 | 社 説(時報) | 一、五一〇 |
| 代理業者は會社に頼る可きや | ウヰリアム M・ゴドウイン(時報) | 一、五一〇 |
| 月掛保險に就て | 社 説(時報) | 一、五一三 |
| 今議會と保險問題の運命 | 社 説(時報) | 一、五一五 |
| 月極收入保險の功績 | フランク エルリングトン(時報) | 一、五一五 |
| 利下げと保險界 | 社 説(時報) | 一、五一六 |
| 奇怪な保險國營論の擡頭 | 社 説(時報) | 一、五二一 |
| 販賣戰線の勝利者 | E・S バンクス(時報) | 一、五二一 |
| 減俸と保險界 | 社 説(時報) | 一、五二三 |
| 米國保險信託界の動向 | 石川 忠治(時報) | 自一、五二三 |
| 保險界の合同機運 | 社 説(時報) | 一、五二四 |
| 加奈陀に於ける生命保險會計 | 藤川 博(協會) | 一九・四 |
| 募集取締規則の實施に當りて | 社 説(時報) | 一、五三四 |
| 約款改正の傾向 | 社 説(時報) | 一、五三六 |
| 外野組織の再吟味 | 石川 忠治(時報) | 自一、五三九 |
| 保險部の移管に反對すべし | 社 説(時報) | 一、五四二 |
| 保險料月掛の研究 | 東 邦夫(時報) | 自一、五四二 |
| 保險會社サービスの新展望 | ヂョージ・E・ターナー 一記者譯(時報) | 自一、五四四 |
| 獨逸保險監督制度に就て | 一 記 者(時報) | 一、五四七 |
| 本年の保險界を顧る | 社 説(時報) | 自一、五五三 |
| 保險會社と工業會社との結合 | 西山 雄一(協會) | 一九・四 |
| 契約者利益配當論(特にContribution Planについて) | 西山 雄一(協會) | 一九・四 |
| 保險會社と銀行との結合 | 西山 雄一(協會) | 二〇・一 |
| カピタリザシオンに就て | 牛島 松彦(協會) | 二〇・二 |
| 獨逸アリアンツ・ウント・スツットガルター保險會社普通約款危險論 | 磯野 正登(協會) | 二〇・二 |
| 佛蘭西保險契約概法 | 米谷 隆三(保評) | 二四・五 |
| 英國保險諸團體 | (協會) | 二〇・一 |
| 智利共和國強制保險 | (協會) | 二〇・一 |
| ウルガイ國の保險業 | (協會) | 二〇・四 |
| 英國保險業基礎確實に就いて | (協會) | 二〇・四 |
| 保險代理業の諸問題に就て | H・G ローヤー(時報) | 一、五五八 |
| 佛蘭西新保險業法 | 西島彌太郎(内研) | 四・二 |
| 船員保險制度に就て | 熊谷 憲一(法報) | 三・二 |
| 保險會社貸付金檢討 | (三層) | 二・七 |
| 代理店の未整理問題 | 中村喜代治(通信) | 五八七 |
| 外務社員並に代理店の會社及被保人に對する法律關係 | 蓮沼 大三(保險) | 五・一〇 |
| 宣傳廣告に就て | 井關十二郎(生經) | 三・附錄其二 |
| 會社合併合理化歟 | 社 説(通信) | 六一三 |



| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 募集取締規則と保險經營者 | 社 説(通信) | 六〇三 |
| 募集取締事項綱要を讀みて | 社 説(通信) | 自五九一 |
| 保險會社の經營に就て | 波多野深造(通信) | 五八七 |
| 保險經營合理化時代か | 伊賀 歡吉(保評) | 二四・一 |
| 保險銀行業の經營合理化と計理士制度 | 中瀬勝太郎(保融) | 一三〇 |
| 保險の經營に關する理想論の吟味 | 印南 博吉(經經) | 二・二 |
| 保險の共同經濟的經營形態 | 後藤 國吉(集志) | 四・二 |
| 保險と統計及統計學 | 小島昌太郎(經論) | 三二・一 |
| 保險證書受領證用紙改正私案 | 濱田寅次郎(遞協) | 二六九 |
| 保險募集取締規則の説明 | 北村保太郎(通信) | 六〇九 |
| 外務員取締規則を評す | (インシユ) | 四・一 |
| 保險募集取締法を排撃す | (ダイヤグラム) | 六・一〇 |
| 取締規則出現の歴史 | 玉木爲三郎(興信) | 三・八 |
| 保險募集規則の内容 | 藤井 鄉川(産論) | 二・二 |
| 保險募集取締規則を論ず | 石川 文吾(通信) | 六一三 |
| 保險募集取締規則を檢討す | Y・S・生(保情) | 一・一 |
| 保險取締規則の緊要性 | 宇井 孝三(保評) | 二四・三 |
| 取締規則制定の趣旨 | 大塚 健治(興信) | 三・八 |
| 米國に於ける保險會社の資金運用 | 楠見 一正(時代) | 二・九 |
| 加奈陀政府文官保險制度 | 千葉 清七(遞協) | 自二七〇 |
| アメリカに於ける保險販賣の實況 | 中島 松彦(保評) | 二四・一 |
| 紐育州保險局ラヂオ保險契約獲得を禁ず | (協會) | 一九・四 |
| 獨逸に於ける保險業法の改正 | 印南 博吉(内研) | 四・二 |
| 外務員登錄の是非 | 鈴木三郎右衛門(保月) | 四月 |
| 不正競爭防止を目的とする保險勸誘員登錄制度 | 矢野 恒太(實業之世界) | 二八・二 |
| 外務員取締綱要管觀 | 白 眼 生(保評) | 二四・一 |
| 外務員の取締問題 | 小松 正則(保評) | 二四・一 |
| 米國生保界の自己批判(米國生保協會大會報告) | 古田 江二(時報) | 一、五五三 |
| 保險前衛戰士の覺悟 | 下村 重美(保評) | 二四・五 |
| 保險外交讀本 | (生研) | 自一三九 |
| 「外務員聯盟尚早論」を難ず | 橋本 文麿(興信) | 三・六 |
| 募集大衆化論 | (生研) | 自一三八 |
| 保險募集の基礎原則 | 瀧川 庚三(保新) | 自九三八 |
| 募集の分野と其哲理 | 福田 文助(保經) | 一三五 |
| 募集の常道 | 安松 五男(保經) | 一三五 |
| 我國保險會社の資金運用 | 楠見 一正(經報) | 二・一〇 |
| 掠奪募集を根絶せよ | 岡田 空哉(保新) | 九三一 |
| 契約保全の指針二十八項 | 加唐 謙吉(保新) | 九三三 |
| 保險の募集には「言葉は平易明快であれ」 | E・S バンクス(通信) | 六〇五 |
| 相互會社の評議員制 | 安藤頑沸生(興信) | 三・六 |
| 再保險約款 | 鹿島守之助(國際) | 三〇・五 |
| Landreの生命保險數理 | 井上 定吉(數學) | 二・一 |
| 保險約款に現はれたる解約拂戻金 | 森 莊三郎(經學) | 一・二 |
| 解約に關する一考察 | 板倉 保(三層) | 二・六 |
| 低料主義勝利の必然 | 森岡 忠尙(保月) | 一・四 |
| 保險料に就て | (生研) | 一五八 |
| 保險料の組み立て | 管谷 秀德(生經) | 三・四 |
| 保險料並に復活に關する判例 | 川崎 貞明(生經) | 三・五 |
| 再び官營「小兒保險」の保險料に就て | D・H 生(數學) | 三・一 |
| 豫定利率並に死亡率を種々變更せる場合の純保險料の計算 | 越原 久明(數學) | 二・自一 |
| 保險料の算出 | 宮崎權七郎(數學) | 二・自一 |
| 責任準備金とは何か | 管谷 秀德(生經) | 三・五 |
| 大群團式保險料積立金の計算方法 | 那須理之助(數學) | 二・二 |
| チルメル式保險料積立金算式の初等的誘導 | D・H 生(數學) | 三・二 |
| 生命保險經營の專門化 | 東 邦夫(時報) | 一、五五〇 |
| 再び「外務員聯盟」尚早論 | 河田聰蛙郎(興信) | 三・七 |
| 保險種類の時代性 | 牧村 徹(興信) | 三・七 |
| 告知義務の研究 | (保融) | 自一三〇 |
| 保險金保全の方策 | 社 説(通信) | 六〇六 |
| 募集の心理學 | 宮坂 遵衛(生經) | 三・四 |
| 斷りとそれに對する答へ方の研究 | (生經) | 三・五 |
| 學校出の外交員 | 山田 生(新經營) | 三・一二 |
| 新外務員論 | 吉野 盛行(保險) | 五・一二 |
| 保險部の移管問題 | 社 説(通信) | 六一四 |
| 佛蘭西新保險契約法の制定 | 米谷 隆三(保評) | 二四・一 |
| 保險國營案主旨 | 頼母木桂吉(保評) | 二四・三 |
| 國營保險問題の擡頭に就て | 社 説(通信) | 六〇〇 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險國營私案 | 額母木桂吉（保經） | 一三三 |
| 保險國營上の二大難關 | 弘世助太郎（保經） | 一三三 |
| 民業の壓迫（保險國營論） | 田中義知（保經） | 一三三 |
| 保險國營問題の考察 | 福田六助（保經） | 一三四 |
| 保險國營論概觀 | 小山哲四郎（保評） | 二四・五 |
| 所謂保險國營の問題 | 安蒜頑沸生（興信） | 三・五 |
| 保險官營問題の擡頭 | 矢野恒太（保評） | 二四・三 |
| 國營と失業者 | 松野與（興信） | 一三三 |
| 國營には直ぐ出來る | 佐伯叔作（保經） | 一三三 |
| 國營より再保を觀む | 三宮酉平（保經） | 一三三 |
| 保險業者は純理として國營可 | 岩間六郎（ダイヤグラム） | 六・一〇 |
| 保險國營論の批判 | 名取夏司（[illegible]） | 三・八 |
| 保險は國營より民營 | 名取夏司（經情） | 六・七 |
| 北米合衆國々立保險概觀 | 三浦義道（保雜） | 三五・三二九 |
| 保險の國營と民營に關する一考察 | 吉川濟（保情） | 一・一 |
| 貨幣價値の暴落と保險 | 春日井薫（保險） | 一三七 |

**昭和七年**

| | | |
|---|---|---|
| 生命保險業の動向 | 矢野恒太（時報） | 一、五五四 |
| 事業年度の統一に就て | 佐野良三（時報） | 一、五五四 |
| 生命保險信託に就て | 石坂泰三（時報） | 一、五五四 |
| 債券、株券の評價方法に就て | 三木月州（時報） | 一、五五八 |
| 新春生保界の景氣展望 | 林京三（時報） | 一、五五四 |
| 兒童に映る保險思想 | H・L・ロウリン（時報） | 一、五六〇 |
| 米國保險界の展望 | 一記者（時報） | 一、五六一 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 滿蒙新國家と吾保險業 | 社説（時報） | 一、五六三 |
| 米國復興金融會社と保險界 | 平野不令（時報） | 一、五六三 |
| 日銀利下と保險への影響 | 社説（時報） | 一、五六四 |
| 本店社員俸給費の一研究 | 吉田江二（時報） | 自一、五六八 |
| フランクフルト保險會社破綻の眞相 | 獨逸フ大學カルベラム教授（時報） | 一、五六八 |
| 生保契約集中化の後に來るもの | 平野不令（時報） | 一、五六七 |
| 解約プロ退治に協力せよ | 橋田直也（時報） | 一、五六八 |
| 「解約」の根基を究めよ | 社説（時報） | 一、五六九 |
| 保險調査會設置の擡頭に就て | 社説（時報） | 一、五七〇 |
| 保險信託の進展策 | C・K・アントニー（時報） | 一、五七〇 |
| 新契約獲得と社員能力 | 江馬觀次（時報） | 一、五七一 |
| 保險機能の擴充には若き顧客層をつくれ | W・H・デングマン（時報） | 一、五七二 |
| モダン保險種類素描 | 一記者（時報） | 一、五七三 |
| 「資本逃避防止法案」と保險界 | 社説（時報） | 一、五七五 |
| 經濟恐慌下に苦難する最近獨逸保險界の展望 | アウグスト・ヤープ（時報） | 一、五七五 |
| 新外野風景 | 三島達雄（時報） | 自一、五七九 |
| 支店經費に就て | 石川忠治（時報） | 一、五八一 |
| 「保險國營」獨占化に脅さる、最近佛蘭西保險界の展望 | アウグスト・ヤープ（時報） | 一、五八一 |
| 最近墺太利保險界の展望 | アウグスト・ヤープ（時報） | 一、五七七 |
| 社會と保險（講演） | 森莊三郎（時報） | 一、五七七 |

| | | 卷・號 |
|---|---|---|
| 利益配當の將來 | 社説（時報） | 一、五八五 |
| 低金利時代 | 社説（時報） | 一、五八六 |
| 事業年度の統一に就て | 社説（時報） | 一、五八二 |
| 新契約制限設に就て | 社説（時報） | 一、五八九 |
| 解約返戻金に就て | 一記者（時報） | 一、五八九 |
| 募集組織の基礎單位に就て | 山田欣造（時報） | 自一、五九一 |
| 不良相互會社善後策 | 社説（時報） | 一、五九二 |
| 保險會社の記事差止は問題 | 社説（時報） | 一、五九三 |
| 定期保險と保險國營問題 | 伊吹貞治（時報） | 一、五九三 |
| 外務社員の訓練 | 山田欣造（時報） | 自一、五九四 |
| 僧侶よ保險に目覺よ | 柿崎隆興（時報） | 自一、五九四 |
| 經營要素としての外務員 | 山田欣造（時報） | 一、五九六 |
| 無理解な契約者編輯 | 社説（時報） | 一、五九七 |
| 保險問題は何處へ行く？ | 一記者（時報） | 一、五九七 |
| 簡易保險の合理的發展 | 竹森一則（時報） | 一、五九八 |
| 鑑興時代の生保界記錄 | 綠川迂狂（時報） | 一、五九八 |
| 保險部の昇格より機能發揮が急務 | 社説（時報） | 一、五九九 |
| 募集と圖表 | 古田江二（時報） | 自一、六〇一 |
| 配當抑制は寧ろ末節か | 社説（時報） | 一、六〇二 |
| 外務員の要嚮 | 蘆間篤一（時報） | 一、六〇三 |
| 再び有價證券評價問題に就て | 三浦義道（協會） | 二一・三 |
| 獨逸に於ける保險コンツェルン | 西山雄一（協會） | 二一・三 |
| ヘーディ氏一般式の擴張に就て | 磯野正登（協會） | 二一・三 |
| 時系列の分析 | 磯野正登（協會） | 二一・四 |



| | | |
|---|---|---|
| 數字的査定法の基礎に就て | 高田他家雄（協會） | 二一・四 |
| 資產評價準則案 | （協會） | 二一・四 |
| 保險の社會性と團體性—保險法に於ける社會學的方法の適用 | 田中耕太郎（法協） | 五〇・七 |
| 保險業法第九十六條の優先權者と一般債權者 | 田中誠二（法協） | 五〇・一一 |
| 責任準備金、解約返戻金に就て | 森莊三郎（ダイヤグラム） | 七・二 |
| 責任準備金の實算 | 中村喜代治（保雜） | 三三三 |
| 責任準備金の話 | （生研） | 二〇五 |
| Karup氏群團式保險料積立金計算方法の遞減保險料式養老保險への應用 | 小林寶一郎（數學） | 三・二 |
| 保險經營の統制と再保險 | 末高信（統制） | 八・三 |
| 國史に現はれたる保險の原始的形態に就て | 田中靜夫（保雜） | 三三二 |
| 保險制度の發生發展而して其の消滅の過程 | 小林北一郎（商討） | 六・下 |
| 保險發達史 | （春秋） | 一・自一 |
| 保險會社經營に關する諸問題 | 玉木一介（保險） | 六・七 |
| 保險關係諸團體沿革 | （事業） | 一・三 |
| 勸誘論 | 佐野森三（商討） | 六・下 |
| 勸誘新戰術 | 伊藤幾平（春秋） | 一・一 |
| 戰爭危險に就て | 池田章（協會） | 二一・二 |
| 外務員諸君に與ふる諸注意 | 大村痴水（通信） | 六三七 |
| 外務社員收入增加法 | W・E・ダルブット 松生譯（保經） | 一三三 |
| 外務員聯盟實現の可能性 | 安蒜頑沸（興信） | 四・二 |

| | | |
|---|---|---|
| 外務員の統制と募集體系 | 安蒜頑沸（興信） | 四・三 |
| 外務戰線の鬪士よ | 鈴木太郎（ダイヤグラム） | 七・一〇 |
| 外務員の人格考査 | O・P・Q（會社） | 二・一〇 |
| 昔のスローガンと今のスローガン | 數納清（保經） | 二三八 |
| 募集期と決算期 | 社説（通信） | 六五一 |
| 保險募集組織形態に就て | 高橋直服（遞協） | 二九三 |
| 知的外交員よ何處へ行く | 白川迪（保融） | 一五三 |
| 青年社員と外務教育 | 名取夏司（興信） | 四・五 |
| 外務職員の性能研究 | 高木金次（興信） | 四・五 |
| 新時代の外務員に呼びかける言葉 | 龜岡豐（保險） | 六月號 |
| 外務員待遇の合理化 | 五味廉祐（春秋） | 一・一 |
| 外務員待遇の比較研究 | （春秋） | 一・一 |
| 保險事業の革正と登錄制度の實效 | 檜原勉（經イタ） | 一六・六 |
| 保險の社會性と外務員の品性 | 中尾松平（興信） | 五・一 |
| 代理店と社員 | 鈴木太郎（保月） | 二・三 |
| 代理店の指導原理 | 丸内一郎（生經） | 四・五 |
| 合衆國に於ける生命保險の代理店制度 | 岸本卯只光（保金） | 九・八 |
| 保險行政三十五年采女町の今昔を語る | 住野良三（時報） | 一、五九八 |
| 保險年金事業周知宣傳費料 | 横井新一（遞協） | 二八七 |
| 保險會社の宣傳印刷物 | （生研） | 二〇五 |
| 小口保險會社の契約者に對する安寧幸福增進事業に就て | 石坂泰三（保雜） | 二五六 |

| | | |
|---|---|---|
| 吾國に於ける生命保險の保險料に就て | 角尾猛治郎（保雜） | 二五四 |
| 保險料の話その出し方 | （生研） | 自二〇三 |
| 保險料の話、自然保險料と平均保險料 | （生研） | 二〇三 |
| 年拂保險料の分析 | 村椿生（數學） | 一九九 |
| 低料主義か高配主義か | 清水文之輔（春秋） | 一・一 |
| 保險料の廉不廉 | （保月） | 二・一三 |
| 保險料の質性 | 福田了介（家庭） | 二・八 |
| 保險料なしの保險會社經營案 | S・A生（通信） | 六四一 |
| 遞減保險料式養老保險の計算に就て | 小林寶一郎（數學） | 三・一 |
| 保險會社の奉仕事業に就て | 社説（通信） | 六五六 |
| 相互保險の相互性に就て | 野津務（保評） | 三五・一 |
| 保險の起源と其の意義 | E・M・バロウス（事業） | 一・三 |
| 保險制度の發展 | モルデンハウエル著 根本平助譯（保金） | 九・一一 |
| ペイ・マイエットと明治初期の財政 | 八木澤善次（經學） | 二・九 |
| 我國保險事業の黎明期を繞る人々 | 田中靜夫（保評） | 三五・一 |
| 經濟恐慌と保險界 | 勝呂弘（長彙） | 一〇・自一 |
| 保險犯罪の種々相 | 本山茂（保險） | 六・九 |
| 保險詐欺事件 | 川崎貞明（生經） | 四・五 |
| 森博士の保險放送 | （生經） | 四・四 |
| 保險思想善導とポスター藝術考察 | T・H生（保新） | 九六二 |
| 保險は家庭の守護守 | 門垣雪山（家庭） | 二・八 |
| 保險金分割拂創設の動機 | 鈴木太郎（產論） | 三・九 |

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 國立保險問題 | 三浦 義道（保雜） | 三・三 |
| 解約仲介業者に對する考察 | 社 說（通信） | 六六八 |
| 掠奪と解約をどう考へたらよいか | 浪花芳夾郎（保新） | 一五七 |
| 保險協會の解約防止策 | （證券） | 一・八 |
| 解約は果して二重の損失か | 尾崎淸四郎（事業） | 一・三 |
| 失效解約論 | （春秋） | 一・一 |
| 保險業法の改正を必要とす | 森 莊三郎（保情） | 一月號 |
| 業法改正に對する要望點 | 世智福太郎（インシユ） | 三一 |
| 民國保險法に就て | 社 說（保險） | 六・六 |
| 保險募集取締規則制定に至る史料 | （協會） | 二・一 |
| 敢へて重役良心に問ふ募集取締規則の効果 | 岩尾 太平（保險） | 一六〇 |
| 解約者の心理 | 堀井卯之助（時論） | 七・二 |
| 保險金減額の法律的性質 | 福山 昇（保評） | 三五・七 |
| 保險國營案の二箇の動機檢討 | （獨逸事情） | 一・八 |
| 伊太利保險業の特色 | （協會） | 二・三 |
| 歐洲保險動向 | 三浦 義道（保雜） | 三三三 |
| デフレーション（Deflation）期に於ける獨逸の保險 | ドクトル、ハー、フォン、ワルドハイム 近藤 文二譯（保雜） | 三三四 |
| 獨逸保險學會とマーネス博士 | （生經） | 四・四 |
| 謬れる保險國營論 | 折戸太市郎（內外公論） | 一・一 |

**昭和八年**（六月迄）

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 外野を志ざす人々に | 伊多見二郎（時報） | 一、六〇五 |
| 證券貸付の動向を見る | 矢野 恒太（時報） | 一、六〇五 |

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險種類に映る國民性 | 高橋彌太郎（時報） | 一、六〇五 |
| 事業報告書は秘密なりや | 社 說（時報） | 一、六〇六 |
| 保險募集取締規則解說 | 前田 寬（時報） | 自一、六〇八 |
| 保險史開見 | 竹 森 生（時報） | 自一、六〇六 |
| 收支計算書の改善を要求す | 社 說（時報） | 一、六〇七 |
| 獎勵募集考 | 森田 留男（時報） | 一、六〇九 |
| 三度差止記事の解禁を要求す | 社 說（時報） | 一、六一五 |
| 代理店設置の努力と廢止の苦心 | 柿崎 隆興（時報） | 一、六二六 |
| 役員賞與を明示せよ | 社 說（時報） | 一、六二四 |
| 爲替安と保險界 | 嶺 高一郎（時論） | 七・二 |
| 新種保險の必要 | 浪花芳夾郎（保日） | 新年 |
| 株式相互區別論 | 粟津 淸亮（保日） | 新年 |
| 大再保險會社創立 | 社 說（通信） | 六六三 |
| 再保險論 | 五十嵐澄三（數學） | 三・一 |
| 相互保險會社の責任論に就て | 粟津 淸亮（インシユ） | 新年 |
| 現代生活と保險信託の役割 | 杉山 定親（保時） | 新年 |
| 保險思想の徹底を期せよ | 大 倉 生（保時） | 新春 |
| 保險契約者貸付事務の改良 | 藤田 進（遞協） | 二九三 |
| 新契約者に對する我國各社の挨拶狀—所謂ウェルカム・レターの調査 | 生命保險經營學會（生經） | 五・一 |
| 募集界は驅されたか | S・S・生（インシユ） | 新年 |
| 帝國有隣除名問題 | 社 說（通信） | 六五九 |
| 保險業法中改正法律及議事錄 | （協會） | 三・一 |
| 「保險獨立國日本」建設の急務を提唱す | 社 說（中外保險新聞） | 自三、二八三 |

## （B） 生命保險

**明治十二年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 人命請負社 | 社 說（報知） | 三月一七日 |
| 生命請合會社 | 社 說（東經） | 一〇月一五日 |

**明治十三年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 再び生命保險を論ず | 社 說（報知） | 七月二日 |

**明治十四年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 明治生命保險會社 | 社 說（報知） | 自六月一四日 |
| 明治生命保險會社規則 | （東海） | 自三〇 |

**明治二十一年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險論（殊に生命保險） | 和田垣謙三（國家） | 二・自一七 |
| 大學通俗講談 生命保險論 | 藤澤利喜太郎（毎日） | 自一二月六日 |

**明治二十四年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 生命保險論 | 山内國太郎（東京經濟雜誌） | 二・二四 |

**明治二十六年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 世界生命保險の發達 | 論 說（報知） | 自六、三二八 |
| 生命保險會社の責任積立金に就て | 矢野 恒太（東經） | 六六三 |

**明治二十七年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 明治生命保險會社 | 評 論（報知） | 自六、三六八 |
| 生命保險 | G・A 生（東經） | 七五三 |

**明治二十八年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 英國幼者生命保險法 | 玉木爲三郎（法協） | 一三・一〇 |



| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 生命保險會社の營業費割合論 | 麻生義一郎（東經） | 七八七 |

**明治二十九年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 本邦に於ける類似生命保險會社の沿革及景況 | 粟津 淸亮（保雜） | 一三 |
| 宗教と生命保險 | 矢野 恒太（保雜） | 一一 |
| 本邦各年齡平均壽命 | 西尾 順一（統集） | 一七五 |
| 生命保險規則 | 玉木爲三郎（保雜） | 自一 |
| 日本教育保險株式會社保險規則を讀む | 人見米夾郎（保雜） | 一四 |
| 生命保險會社等常終身掛金比較 | 鈴木 敬治（統集） | 一七四 |

**明治三十年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 保險料拂込猶豫期間を論じ日本生命保險會社營業規則の規定に及ぶ | 粟津 淸亮（保雜） | 自一七 |
| 年齡三十五歲保險金一萬弗 | 麻生義一郎（保雜） | 一九 |
| 保險會社及保險醫の現況に就て | 藪 園 生（保雜） | 二〇 |
| 生命保險會社の解散を論ず | 粟津 淸亮（保雜） | 二三 |
| 生命保險準備金に就て | 玉木爲三郎（保雜） | 二三 |
| 開陳責任に就て | 志田鉀太郎（保雜） | 二五 |
| 自千八百六十七年至同八十八年普魯士國生命保險會社の被保人員保險金額 | 相原 重政（統集） | 一八六 |
| 十年間死亡平均年齡 | 武市彌壽 足立公忠（統集） | 一九〇 |
| 本邦人平均壽命 | 足立 公忠（統集） | 二二一 |

**明治三十一年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 生命保險會社の新契約費用に就て | 粟津 淸亮（保雜） | 三・二九 |
| 生命保險と商法修正案 | 粟津 淸亮（保雜） | 自二一 |
| 西米戰爭と生命保險（譯） | 麻生義一郎（保雜） | 三・三一 |
| 生命保險會社代理店組織（譯） | 麻生義一郎（保雜） | 三・自二六 |
| 生命保險會社の當事者に警告す | 石關 寬之（保雜） | 三・三二 |
| 再び生命保險會社の當事者に警告す | 石關 寬之（保雜） | 三・三三 |
| 生命保險料の比較 | 石關 寬之（保雜） | 三・二八 |
| 生命保險料算出に就て | 中村淸一郎（保雜） | 三・三六 |
| 保險醫協會に臨みて | 粟津 淸亮（保雜） | 三・二七 |
| 診査報狀に就て一私見 | 岡田 筍菴（保雜） | 三・三六 |

**明治三十二年**

| 題目 | 著者 | 卷・號 |
|---|---|---|
| 平均命數論 | 中村精一郎（時報） | 三〇 |
| 藤澤氏の死亡生殘表に就て | 岩間 六郎（時報） | 三〇 |
| 顏色と死因との關係 | 尼子 四郎（時報） | 三一 |
| 英國生命保險會の改正試驗規則及受驗料規則（譯） | 麻生義一郎（保雜） | 四・四四 |
| 謂ゆる生命保險規則に就て | 北山 巖（保雜） | 四・四四 |
| 所謂年增に就て | 矢野 恒太（保雜） | 四・三九 |
| 年增論 | 中村精一郎（保雜） | 四・四〇 |
| 年齡相違に就て | 粟津 淸亮（保雜） | 四・四三 |
| 生命保險に於ける危險の變更增加を論ず | 粟津 淸亮（保雜） | 四・四七 |
| 生命保險解約價格に就て | 玉木爲三郎（保雜） | 四・自三八 |
| 生命保險の解約 | 麻生義一郎（保雜） | 四・四二 |
| 被保險者の自殺に就て | 芳賀 八彌（保雜） | 四・四六 |
| 失踪の死亡者に就て | 芳賀 八彌（保雜） | 四・自四七 |
| 保險醫協會に望む | 粟津 淸亮（保雜） | 四・三九 |
| 保險醫の本分 | 中濱東一郎（保雜） | 四・三九 |
| 保險醫の地位に就て | 岡本 武次（保雜） | 四・三九 |
| 肺活量器に就て | 齋藤 政治（保雜） | 四・四六 |
| 自殺は必らず發狂なりや | 芳川 浩（時報） | 自一五 |
| 生命保險の解釋 | 芳賀八彌譯（時報） | 三〇 |
| 生命保險事業の整理時代 | 粟津 淸亮（保雜） | 四・四八 |
| 自殺者の保險に就て | 藤尾 木藏（時報） | 六 |
| 行衛不明なる船難被保險者の保險に就て | 藤尾 木藏（時報） | 五 |
| 年齡錯誤に係る保險契約の効力を論ず | 藤尾 木藏（時報） | 八 |
| 生命保險料引上の急を論ず | 藤尾 木藏（時報） | 九 |
| 生命保險の社會に與ふ利益 | H・Y 生（時報） | 一三 |
| 生命保險史略（史料） | 淺野 朝益（時報） | 一三 |
| 生命保險會社の資本金額に就て | 櫻井 俊雄（時報） | 一六 |
| 年齡相違に係る保險契約の効力に就て | 高野 正幸（時報） | 一〇 |
| 右論に對し高野君に答ふ | 藤尾 木藏（時報） | 一〇 |
| 都府と田舍との生命保險料 | 芳川 浩（時報） | 一一 |
| 保險契約者の自殺に就て | 桒田 愿（時報） | 一一 |
| 藤尾氏の反問に答ふ | 高野 正幸（時報） | 一一 |
| 高野君の答に答ふ | 藤尾 木藏（時報） | 一一 |
| 生命保險の膨脹程度 | 山本 春水（時報） | 一七 |
| 犯罪の有無は契約上の一要項なる事（生保） | 芳川 浩（時報） | 一七 |